221

授業科目名	**経営学入門**				
担当教員名	児山俊行				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

まず「経営学」とは何かについて基本的な理解をする。その上で、現代の企業経営の様々な活動の特徴とその裏にある仕組みについての基礎知識を習得していく。その際、現代的事例を取り扱うが、あくまで今まで発展してきた経営学の流れに沿って行う（経営理念、経営組織、経営戦略、マーケティング、生産、労働、日本的経営、ベンチャー・中小企業、イノベーション、サステナビリティ経営、ソーシャルビジネス等）。現代における企業や社会が直面する諸課題をマネジメント的に解決していく可能性について理解を深める。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.現代社会におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	企業経営の具体的事例を通じての様々な動態の理解。	経営事象を考察する際に必要な基本的素養の習得。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		組織活動で生じる様々な矛盾とその解決。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業態度	10 %	： 授業への集中度や質疑応答などの積極性で評価する。
授業レポート	60 %	： 授業内容の基本的把握の度合いにより評価する。 授業外で参考文献を読んでのレポートも評価に加算する。
試験（筆記）	30 %	： 授業内容全体の理解度やそれを踏まえた考察度合いで評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

必要に応じて、その都度紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日以外の昼休み

場所： 担当教員の研究室

備考・注意事項： メールでの質問はこちらまで（用件がわかるように件名などに明記すること）。
koyama_t@g.osaka-seikei.ac.jp

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション一大阪成蹊大学で経営学を学ぶ意義について** 「大阪」「成蹊」「大学」「経営学」のそれぞれの意味を理解し、この大学で経営学/マネジメントを学ぶ意義について確認する。	日独米での「経営学」の始まりについて調べ整理する。	4時間
第2回	**経営哲学・経営理念** 何のための企業経営かを考える。	「経営」と「経済」の違いを調べ明確にできる。	4時間
第3回	**「矛盾」のマネジメント～価格と品質をめぐって** 企業・経営活動で起こってくる「矛盾」をいかにマネジメントしていくかについて、「価格と品質」間の矛盾克服を事例を通して学ぶ。	授業での事例以外の低価格・高品質の製品・サービスを調べて、その理由を探る。	4時間
第4回	**企業競争に勝つために～「差別化」** 企業競争で自社の製品・サービスを選んでもらうために必要な「差別化」について学ぶ。	様々な業界での有名企業が競争に勝つためにとっている「差別化」について調べる。	4時間
第5回	**起業家精神とイノベーション** 「起業家精神」について事例を通して学ぶ。	有名企業の創業について調べ、その発展の要因を考える。	4時間
第6回	**環境変化への適応** 環境変化に対する企業の適応活動について事例を通じて学ぶ。	有名企業の事業変化の歴史を調べ、環境適応の内容について考える。	4時間
第7回	**環境適応から経営戦略へ** 開発商品がスムーズに売れて顧客を満足させる仕組みづくりを事例を通じて学ぶ。	有名企業の経営戦略ついて調べ、それを採る理由を考える。	4時間
第8回	**マーケティング①～商品開発** 「マーケティング」の基本を理解し、中核の活動である商品開発を通じてそのプロセスを学ぶ。	有名企業の「商品開発」のプロセスについて調べ、その基本的特徴を考える。	4時間
第9回	**マーケティング②～顧客満足** 「マーケティング」の商品開発の基本プロセスを理解した上で、最終目的である顧客満足を実現するためのポイントについて学ぶ。	「リピーター」の多い製品やサービスを調べ、顧客満足をいかに実現しているかを考える。	4時間
第10回	**イノベーション①～メイド・イン・ジャパンの発展と課題** 家電を中心とするメイド・イン・ジャパンの発展と近年の苦境からイノベーションのあり方を考える。	グローバル市場で支持される家電企業とその代表的製品の特徴を調べて、日本企業の今後のあり方について考える。	4時間
第11回	**イノベーション②～アップルの登場と発展** アップルと創業者のスティーブ・ジョブズを通じて、イノベーションのあり方について再考し、日本企業の今後について考えていく。	アップル社の製品の歴史について調べ、そのイノベーションの特徴を考える。	4時間
第12回	**企業の社会的責任（CSR）** 企業の果たすべき社会的責任について企業不祥事の事例を通じて学ぶ。	最近の企業不祥事の事例を調べ、その原因を整理してみる。	4時間
第13回	**ソーシャルビジネスと社会起業家** 行政と一般企業の狭間に置き去りにされている社会課題をビジネス的手法でもって解決しようとする「ソーシャルビジネス」とそれを起こす社会起業家について学ぶ。	有名な社会起業家とその事業について調べ、課題解決の有効性について考える。	4時間
第14回	**新しい金融の仕組み～クラウドファンディング** 様々な企業や個人のプロジェクトに対する共感から支援をネット上で募るクラウドファンディングの基本的特徴を学び、様々な実例を通じてその効果に考える。	様々なクラウドファンディングについて調べ、主な成功事例を挙げて、その理由を考える。	4時間

221

授業科目名	**経営学入門**				
担当教員名	菅文彦・古川拓也				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

「マネジメント」とは何か,企業経営の全体像についての理解を行い,その上で,経営学とはどのような学問かについて考えます。次いで,経営学の基礎的な概念･知識として,企業･会社の種類や特徴･機能,企業と資本･労働の関わり,企業と製品・サービス市場の関わり,競争戦略,多角化,国際化,組織やリーダーシップなどの重要事項について,その基本を理解します。本講義の中で,現代において企業が果たしている役割と課題について考え,理解を深めます。講義の中では,具体的な企業の事例や最新の動向等を解説するとともに質問も行います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.現代社会におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	社会の様々な現象の中で、経営学に関わる現象を観察し、企業の役割や機能を理解する	社会を観察する際に、経営学の視点から物事を考えることができるようになる。
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	マネジメントや企業経営に関する基本的な知識・理論の理解	マネジメントや企業経営に関する基本的な事項や問題について、その主要なポイントや論点を理解し説明できる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		マネジメントや企業経営に関わる重要な問題を、自分なりの見方やアイディアで発見し、その解決案等を考えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
振り返りレポート	50 %	： 独自のルーブリックで評価します。
講義内課題の取り組み	10 %	： 講義内で課した課題への取り組み状況を評価します。
最終レポート	40 %	： 講義全体の内容を適切に理解し、自身の言葉で表現できているか等、独自のルーブリックで評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

藤田誠（2017）『経営学入門』中央経済社.ISBN：978-4-502-13391-6
榊原清則（2013）『経営学入門（上）』日本経済新聞出版社.ISBN：978-4-532-11282-0
榊原清則（2013）『経営学入門（下）』日本経済新聞出版社.ISBN：978-4-532-10854-0
加護野忠男,吉村典久（2021）『1からの経営学』碩学舎.ISBN：978-4-502-37521-7

その他は適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　火曜日1・2限（9：00～12：00）

場所：　授業教室の予定

備考・注意事項：　オフィスアワーに限らず、いつでも訪問可能です。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**経営学の全体像** 経営学とは何かについて、生活の中で身近な企業の例を交えながら経営学の全体像を理解します。	講義の内容や講義中の解説、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、経営学とはどんな学問かに関する理解を深めます。	4時間
第2回	**企業と会社** 会社とは何か、その歴史、会社の種類、株式会社の特徴や重要点などについて学びます。	興味関心のある企業の歴史や概要について調べまとめる	4時間
第3回	**企業と金融資本・労働市場との関わり** 企業にとっての金融資本との関わり（借金や株式の上場など）、労働市場との関わり（採用・雇用・労働条件など）、それらの日本的な特徴点などについて学びます。	具体的に企業がどの様に資金・人材を調達しているのか調べること	4時間
第4回	**企業と製品・サービス市場との関わり** 経営戦略とは何か、事業レベルの戦略と全社レベルの戦略の違い、経営戦略の実行とは何かについて学びます。	具体的に企業がどの様な戦略をもって事業を行っているのか調べまとめること	4時間
第5回	**競争戦略のマネジメント（基本的な考え方）** 競争戦略とは何か、他社との違いの意義、自社にとって有利な違いをどうやって作るかなどの事項を学びます。	歴史ある企業はどの様にして生き残ってきたのか、調べてくること。	4時間
第6回	**競争戦略のマネジメント（3つの基本戦略）** 競争戦略の代表的な3つである、コストリーダーシップ戦略、差別化戦略、集中戦略のそれぞれについての特徴や重要点を学びます。	ヒット商品がなぜ生まれるのか、そのメカニズムについて考察してくること。	4時間
第7回	**多角化戦略のマネジメント** 多角化とは何か、M&A（合併・買収）と戦略的提携の基本事項や重要点について学びます。	合併・買収に関するニュースを読み、企業がなぜ合併・買収するのかについて考えてくること。	4時間
第8回	**国際化のマネジメント** 企業活動の国際化とは何か、なぜ国際化するのか、国際経営の重要点・課題などについて、典型的な国際企業の事例も挙げつつ学びます。	国際化・グローバル展開している企業を調べ、その概要をまとめてくること。	4時間
第9回	**マクロ組織のマネジメント** 組織の構造の考え方と種類、特別な種類の組織（タスクフォース、戦略的ビジネスユニット（SBU）、社内ベンチャーなど）についてその特徴と重要点を学びます。	自身が所属する組織、これまで所属していた組織の特徴を振り返っておくこと。	4時間
第10回	**ミクロ組織のマネジメント** 組織のメンバーの欲求とインセンティブ（報酬）、リーダーシップやリーダーのあり方などについて学びます。	組織メンバーの動機づけを高めるために、リーダーは何をしなければならないのか。まとめてくること。	4時間
第11回	**キャリアデザイン** キャリアデザインとは何か、採用・就職・転職などについて重要点を学びます。	自身のキャリアデザインについて、予めイメージしてくること。	4時間
第12回	**ファミリービジネスのマネジメント** ファミリービジネスとは何か、その概況、特徴、長所や課題などについて学びます。	ファミリービジネス、同族経営をキーワードにその概要をまとめてくること。	4時間
第13回	**非営利組織のマネジメント** 企業とは異なる「非営利組織」とは何か、病院などを事例としてその組織の特徴や重要点などを学びます。	”非営利”組織についてまとめて理解してくること。	4時間
第14回	**本講義のまとめ（マネジメントに関する重要事項の復習）**	これまでの講義の振返りを行っておくこと。	4時間

本講義で取り上げた重要項目について、各講義を振り返りながら、特に重要な点を再度解説し学びます。		

221

授業科目名	ビジネス会計Ⅰ				
担当教員名	笠岡恵理子				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

簿記とは、企業が行う経済活動を貨幣額で認識、測定し、帳簿に記録した上で、財務諸表を作成するための技術のことを指す。簿記の目的は、企業の経済活動を記録することおよび企業の財政状態および経営成績を明らかにすることである。簿記システムから得られた情報は、企業経営者が経営管理を行う場合、債権者が企業への融資を判断する場合等、様々な場面で利用され、利害関係者が意思決定を行う際に非常に重要な役割を果たしている。従って、このように重要な情報がどのような仕組みを通して作成されているのかを本講義では学習していく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	財務諸表作成までの一連の簿記に関する手続きの理解	企業が行う経済活動を認識、測定し、帳簿に記録した上で、財務諸表を作成することができる。
汎用的な力		
1. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		与えられた課題をやり遂げることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

課題は主として問題集からページを指定して与えます。授業時間内に巡回し、個人の進度を確認します。また、授業中に確認テストも行います。

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
課題の期限内提出	30 %	： 課題の期限内の提出とその内容により評価を行う。
小テスト	30 %	： 授業中内に行う小テストにより、授業中に学んだことの理解に対する評価を行う。
期末テスト	40 %	： 企業が行う経済活動を認識、測定し、帳簿に記録した上で、財務諸表を作成することができるかどうかを評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
TAC株式会社（簿記検定講座）編著	・『よくわかる簿記シリーズ　合格テキスト　日商簿記3級　商業簿記Ver.15.0』	・TAC株式会社　出版事業部	・2025　年
TAC株式会社（簿記検定講座）編著	・『よくわかる簿記シリーズ　合格トレーニング　日商簿記3級　商業簿記Ver.15.0』	・TAC株式会社　出版事業部	・2025　年

参考文献等

滝澤ななみ『みんなが欲しかったシリーズ　みんなが欲しかった簿記の教科書　日商3級　商業簿記　第12版』TAC株式会社　出版事業部、2024年（ISBN：9784300110065）。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜2限目

場所： 個人研究室（西館２F）

備考・注意事項： 質問はメールでも受け付けます。
メールアドレスは第1回目の授業時に連絡します。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、簿記の意義** 会計の原理および簿記の仕組みについて理解する。	貸借対照表と損益計算書の役割、ひな形を覚える。勘定科目とグループを理解し、暗記する。テキストおよびトレーニングのテーマ01を読み、問題を解く。	4時間
第2回	**財務諸表と簿記の5要素、日常の手続き** 簿記上の取引を理解し、仕訳ができるようにする。総勘定元帳への転記と試算表、貸借対照表と損益計算書の作成までの簿記の一巡の手続きを理解する。	テキストおよびトレーニングにおけるテーマ02および03を読み、問題を解く。	4時間
第3回	**商品売買I（三分法）** 商品売買について、掛けによる売買、手付金、内金および商品券に関する仕訳について学習する。	テキストおよびトレーニングにおけるテーマ04を読み、問題を解く。	4時間
第4回	**商品売買II（返品、諸掛り、商品有高帳）、現金・預金** 商品売買取引における返品、商品の移動にかかる費用などの仕訳について学習する。また、売掛金元帳、買掛金元帳および商品有高帳の作成方法について理解する。当座取引については当座借越の処理を理解し、仕訳ができるようにする。預金の種類および複数銀行口座の所有の場合の処理について理解する。	テキストおよびトレーニングにおけるテーマ05および06を読み、問題を解く。	4時間
第5回	**小口現金、クレジット売掛金** 小口現金の帳簿のつけ方とタイミングを把握する。また、クレジット払いした場合の処理を理解する。	テキストおよびトレーニングにおけるテーマ07および08を読み、問題を解く。	4時間
第6回	**手形取引、電子記録債権・債務** 受取手形・支払手形の処理を理解する。また、電子記録債権・債務の処理について理解する。	テキストおよびトレーニングにおけるテーマ09および10を読み、問題を解く。	4時間
第7回	**その他の取引I（貸付金・借入金、利息等）** 金銭の貸付けと借入れ、利息について理解し、仕訳ができるようにする。	テキストおよびトレーニングにおけるテーマ11を読み、問題を解く。	4時間
第8回	**その他の取引II（有形固定資産の取得・売却・賃借）** 有形固定資産の種類、有形固定資産の取得・売却・賃借、および差入保証金に係る処理について理解する。	テキストおよびトレーニングにおけるテーマ12を読み、問題を解く。	4時間
第9回	**その他の取引III（仮払金・仮受金、給与）** 仮払金及び仮受金の処理について理解する。従業員に対する一時的な立替払いや預り金の処理について理解する。	テキストおよびトレーニングにおけるテーマ13を読み、問題を解く。	4時間
第10回	**さまざまな帳簿の関係** 当座預金出納帳、受取手形記入帳、支払手形記入帳、売掛金元帳などの様々な帳簿の記帳方法を学習する。	テキストおよびトレーニングにおけるテーマ14を読み、問題を解く。	4時間
第11回	**証ひょう** 取引の事実を証明する資料である証ひょうの種類およびその仕訳について学習する。	テキストおよびトレーニングにおけるテーマ31を読み、問題を解く。	4時間
第12回	**伝票** 伝票会計の理解と仕訳日計表ができるようにする。	テキストおよびトレーニングにおけるテーマ32を読み、問題を解く。	4時間
第13回	**試算表** 仕訳、総勘定元帳への転記、試算表の作成という一連の手続きについて学習する。	テキストにおけるテーマ15を読み、トレーニング問題を解く。	4時間
第14回	**主要な財務指標の種類と使い方**	配布資料より各指標の算定方法とこれらの指標により企業の財政状態や経営成績におけるどのようなことを知ることができるかを再度確認し、理解しておく。	4時間

財務諸表の基本と読み方、および流動比率、当座比率、自己資本比率等の主要な財務指標の種類と使い方について学習する。		

221

授業科目名	ビジネス会計Ⅰ				
担当教員名	中田彩				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	一般企業でのマーケティング業務、税理士事務所での各種申請書・事業計画書作成業務等				

授業概要

本科目では「お金の流れ」を理解し、社会の仕組みを知ることを目標とします。学習により、基本的な経理関連書類の読み取りが出来るようになり、企業の経営状況を数字から理解できるようになります。学習範囲は日本商工会議所主催簿記検定3級（日商簿記３級）の受検を視野に入れた期中処理であり、日商簿記3級は業種・職種にかかわらずビジネスパーソンが身に付けておくべき「必須の基本知識」として、多くの企業から評価される資格です。基本的な商業簿記を習得し、小規模な株式会社における企業活動や会計実務を踏まえ、経理関連書類の適切な処理を習得します。ビジネス会計Ⅰでは取引の基本から試算表作成までの期中処理を学習範囲とし、ビジネス会計Ⅱ（決算処理）と合わせて履修すれば日商簿記3級全範囲を学習することが可能です。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	簿記の基本用語や複式簿記の仕組みを理解し、「お金の流れ」を理解することで社会の仕組みを知り、業務に発揮する。	小規模企業をモデルとした会計処理を習得し、期中処理と試算表作成までを理解し、読み取る力を得る。
汎用的な力		
1. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		企業の経営の是非についての判断基準となる財務諸表を読み取る力を身に付け、課題を解決する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
課題	30 %	:	課題提出と自ら主体的に学んだ形跡によって評価
積極的な授業参加	30 %	:	発表、授業における積極的参加姿勢によって評価
期末試験	40 %	:	各単元における仕訳の理解度により評価

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
TAC簿記検定講座	・よくわかる簿記シリーズ「合格テキスト」日商簿記3級Ver.15 .0	・TAC出版	・2025 年
TAC簿記検定講座	・よくわかる簿記シリーズ「合格トレーニング」日商簿記3級Ver.15.0	・TAC出版	・2025 年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は後期ビジネス会計Ⅱと合わせて履修することで日商簿記検定3級を受検する知識を習得することができます。業種、職種を問わずに必要とされる知識の習得のため、演習のための自宅学習が必要になります。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　別途授業内で指示をします

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション・簿記の基礎・日常の手続きまで（テキストP2～33、トレーニングP2～11）** 簿記の資格と学習内容についてのオリエンテーションを通して学習の全体像を掴む。 「簿記の基礎」を学習し貸借対照表と損益計算書の位置関係と役割を覚え、「日常の手続き」を通して簿記一巡の手続きを理解する。	貸借対照表と損益計算書の役割、ひな形を覚える。トレーニング3-8まで行う。	4時間
第2回	**商品売買Ⅰ（1）商品売買取引（テキストP34～40、トレーニングP12～15）** 商品仕入れ、売上げ時の掛取引について学習する。売掛金の回収、買掛金の支払について理解する。仕訳から転記の流れをしっかり演習し、習得する。	テキストを読み、設例と基本例題を解く。トレーニング4-3まで解く。	4時間
第3回	**商品売買Ⅰ（2）手付金や内金の処理、商品券、商品売買Ⅱ（1）返品（テキストP41～50、トレーニングP16～18）** 手付金や内金を受け取り、支払いした際の処理、商品券の処理、返品時の処理を学習する。	テキストを読み、設例と基本例題を解く。トレーニングを5-1まで解く。	4時間
第4回	**商品売買Ⅱ（2）商品の移動にかかる支払い～掛元帳（テキストP51～57、トレーニングP19～22）** 商品の移動に費用が掛かった場合、その処理方法を負担者の違いに気を付けて学習する。掛元帳の記帳方法と役割について学習し、演習する。	テキストを読み、設例と基本例題を解く。トレーニングを5-5まで解く。	4時間
第5回	**商品売買Ⅱ（3）商品有高帳（テキストP58～63、トレーニングP23～25）** 商品有高帳の記帳方法、また、売上高と売上原価、売上総利益の関係を学習する。	テキストを読み、設例と基本例題を解く。トレーニングを5-8までを解く。	4時間
第6回	**現金・預金（テキストP64～75、トレーニングP26～31）** 簿記上の現金である通貨代用証券の処理、各種預金の処理を学習する。	テキストを読み、設例と基本例題を解く。トレーニングを6-6まで解く。	4時間
第7回	**小口現金、クレジット売掛金、手形取引（テキストP76～89、トレーニングP32～38）** 小口現金前渡制度（インプレスト・システム）、クレジット販売、手形取引について学習する。	テキストを読み、設例と基本例題を解く。トレーニングを9-3まで解く。	4時間
第8回	**電子記録債権・債務、その他の取引Ⅰ（テキストP90～105、トレーニングP39～43）** 電子記録債権・債務の内容を理解して会計処理を習得する。さまざまな帳簿の体系図を理解し、主要簿、補助簿の流れを理解する。その他の取引では貸付金と借入金、またそれぞれの利息に関して会計処理を整理して学習する。	テキストを読み、設例と基本例題を解く。トレーニングを11-5まで解く。	4時間
第9回	**その他の取引Ⅱ固定資産の取得・売却・賃貸・修繕、その他の取引Ⅲ仮払金・仮受金、給与、諸会費（テキストP106～127、トレーニングP44～54）** その他の取引Ⅱでは有形固定資産の取得・売却・賃貸、修繕と改良について内容を理解して会計処理を習得する。その他の取引Ⅲでは、仮払金と仮受金、給与について全体像を理解し各種の労務問題基礎についても確認しながら問題演習を行う。	テキストを読み、設例と基本例題を解く。トレーニングを13-8まで解く。	4時間
第10回	**さまざまな帳簿の関係、試算表の基礎（テキストP128～145、トレーニングP55～67）** さまざまな帳簿の関係について演習を中心に学習する。また、試算表の基本を学習し、完成させる。	テキストを読み、設例と基本例題を解く。トレーニング15-2まで解く。	4時間
第11回	**期中処理の仕訳（テキストP2～145）** 小規模株式会社で想定される様々な期中処理の仕訳の処理を学習する。	配布される期中処理仕訳プリントを演習する。	4時間
第12回	**株式の発行、剰余金の配当と処分（テキストP248～259, トレーニングP148～154）** 株式会社の株式発行と、繰越利益剰余金の処分について学習する。	テキストを読み、設例と基本例題を解く。トレーニングを28-1～29-4まで解く。	4時間
第13回	**税金、証ひょう（テキストP260～273、トレーニングP155～158, P166～174）** 法人税、住民税及び事業税と消費税の処理について学習する。証ひょうの種類と処理方法について理解し演習する。	テキストを読み、設例と基本例題を解く。トレーニング30-1～30-5、31-1～31-9まで解く。	4時間
第14回	**伝票と仕訳日計表（テキストP274～284、トレーニングP175～183）**	テキストを読み、設例と基本例題を解く。トレーニングを32-1～32-8まで解く。	4時間

伝票制度と処理方法、仕訳日計表について学習する。		

221

授業科目名	ビジネス会計Ⅱ				
担当教員名	中田彩				
学年・コース等	1年生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	税理士事務所において顧問先企業の収支計画書を含む事業計画書の作成と各種会計処理経験。				

授業概要

日商簿記検定3級レベルの簿記知識の期中処理を復習し、決算処理を習得する。中小企業の経理事務に役立つ基本的な商業簿記全般を学び、処理方法を身に付ける。簿記は原価意識の向上や経営戦略、経営上の意思決定や財務分析にも繋がるビジネスの必須知識であり、経理・財務担当以外でも職種に関わらず必要とされる。本講義では、これらを習得することができる上級へのステップアップを意識しながら基盤となる日商簿記3級の合格を目指す。経理関連書類の適切な処理を含めた初歩的な実務がある程度できるレベルに到達することを目標とする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	中小企業をモデルとした商業簿記期中処理復習から決算処理	日商簿記検定3級相当の簿記の全処理を習得する
汎用的な力		
1. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		経理関連書類について名称・目的を理解し、適切な処理を行う初歩的実務ができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

適宜復習テストを行い、コメントをつけて返却する。授業時間内の巡回によりトレーニング（問題集）の進捗について確認する。

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

ほとんどの課題は問題集（トレーニング）からページを指定して与えます。授業時間内の巡回により個人の進度を確認します。適宜配布プリントによる課題を与え、コメントをつけて返却します。

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
参加姿勢	40 %	： 授業内の演習や書き込み等の指示に対して的確に対応しているか、問いかけへの積極的発言があるか、知識習得への強い意欲があるかを基準に5段階で評価します。
課題の期限内提出	30 %	： 課題の期限内提出とその内容を5段階で評価します。
期末試験	30 %	： 50点以上を5段階に評価します。（10点刻みに100点までを5段階評価）

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年

ＴＡＣ株式会社	・よくわかる簿記シリーズ合格テキスト日商簿記3級商業簿記Ｖｅｒ.15.0	・ＴＡＣ株式会社　出版事業部	・2025　年
ＴＡＣ株式会社	・よくわかる簿記シリーズ合格トレーニング日商簿記3級商業簿記Ｖｅｒ.15.0	・ＴＡＣ株式会社　出版事業部	・2025　年

参考文献等

「前期　ビジネス会計Ｉを履修した学生はテキスト購入不要」

履修上の注意・備考・メッセージ

本クラスでは中小企業をモデルとした会社会計の期中処理を学んだ方を対象に、その決算処理を中心に学習します。日商簿記検定３級レベルの、ビジネスパーソンの必須知識を習得することを目的とします。授業時間でインプットし、課題でアウトプット、毎回の聞き取りでフィードバックします。専門知識習得のため、自宅学習が必須になります。一連の物語のように積み重ねて目的に向かうため、欠席は避けて課題を徹底して下さい。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　別途授業内で指示をします

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、期中処理の復習（１）商品売買Ｉ～手形取引** 授業全体の流れを理解し、目標を設定する。期中処理の復習を行い、全仕訳について完全理解する。	期中処理の復習資料の完成。	4時間
第2回	**期中処理の復習（２）電子記録債権・債務～訂正仕訳、決算整理前試算表** 期中処理仕訳の総復習を行い、決算整理前試算表を作成する。	期中仕訳資料完成、決算整理前資料の完成。	4時間
第3回	**決算（テキストP146から153）から決算整理Ｉ現金過不足（テキストP154から161）まで** 決算の流れと意義を理解する。決算整理前試算表と決算整理後試算表の違いと８桁精算表を理解する。現金過不足の期中処理と決算処理の違いに気を付けて学習し、演習する。	トレーニング16-1から17-7まで解く。	4時間
第4回	**決算整理Ⅱ売上原価（テキストP162から167）までの決算処理** 売上原価の定義と仕入勘定を用いて売上原価を算定する方法の決算整理仕訳を理解する。売上高、売上原価、売上総利益の関係性を理解する。「売上原価を仕入勘定で算定する方法」「売上原価を売上原価勘定で算定する方法」のどちらでも算定の仕訳ができるようにする。	トレーニング18-1から18-3までを解く。	4時間
第5回	**決算整理Ⅲ貸倒れ（テキストP168から175）** 貸倒れの概要と処理について学習し、様々な貸倒れの期中処理仕訳と決算整理仕訳ができるようにする。減価償却の定額法による決算整理を学び、仕訳ができるようにする。	トレーニング19-1から19-3までを解く。	4時間
第6回	**決算整理Ⅳ減価償却（テキストP176から180）** 減価償却の定額法による決算整理を学び、仕訳ができるようにする。月割計算を含めた減価償却の決算処理全般について演習する。固定資産台帳について理解する。	トレーニング20-1から20-7までを解く。	4時間
第7回	**決算整理Ⅳ減価償却、固定資産の売却（テキストP181から187）、決算整理Ⅴ貯蔵品～Ⅵ当座借越（テキストP188から193）** 減価償却している固定資産の売却について、期首売却から期中売却まで理解する。 貯蔵品と当座借越について、期中処理を完全に復習、理解してから決算整理仕訳とその意義を理解し、演習する。	トレーニング20-8から22-2までを解く。	4時間
第8回	**決算整理Ⅶ経過勘定項目（テキストP194から215）** 経過勘定項目について、決算整理仕訳を行う意義と目的を理解しながら演習する。精算表を用い全てのパターンについて迷いなく仕訳ができるよう理解する。	トレーニング23-1から23-12までを解く。	4時間
第9回	**決算整理後試算表（テキストP216から219）** 決算整理前試算表から決算整理仕訳、決算整理後試算表の流れを理解し問題演習を行う。意味を理解しながら試算表を解く。	トレーニング24-1から24-3までを解く。	4時間
第10回	**精算表（テキストP220から229）** 精算表の各種欄の意味を理解し、勘定科目の５要素を確認しながら確実に解答できるようにする。	トレーニング25-1から25-4まで解く。	4時間
第11回	**帳簿の締め切り、英米式決算（テキストP230から241）** 勘定の締め切りと損益振替、資本への振り替えを理解し仕訳ができるようにする。日商簿記３級試験に頻出する勘定記入の問題が解けるよう、内容を理解しながら問題演習を行う。	トレーニング26-1から26-7までを解く。	4時間
第12回	**損益計算書と貸借対照表（テキストP242から247）** 決算整理仕訳の総復習を行い、完全理解しながら基本的な財務諸表作成を行う。	トレーニング27-1から27-4を解く。	4時間
第13回	**様々な形式の決算整理後試算表、精算表の内容理解**	決算整理後試算表、精算表の資料を完成する。	4時間

	中小規模の株式会社の決算処理を行った後の試算表、精算表について様々な形式を学習、演習する。		
第14回	**様々な形式の損益計算書と貸借対照表の内容理解** 中小規模の株式会社の決算処理を行った後の損益計算書、貸借対照表について様々な形式を学習、演習する。日商簿記検定3級過去問題レベルの演習を行う。	貸借対照表、損益計算書の資料を完成する。	4時間

221

授業科目名	**会計学入門/会計学**				
担当教員名	笠岡恵理子				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

企業は、株主・債権者を含む利害関係者に対して、財務諸表を通し、自社の財政状態や経営成績の報告を行っている。また、利害関係者は、この財務諸表を用いて、投資や融資を含む企業に関する様々な意思決定を行っている。従って、財務諸表における情報を読み取り、その内容を理解することは、企業の状態を知る際に非常に重要とされる。本講義は、財務諸表を構成する貸借対照表、損益計算書およびキャッシュ・フロー計算書の意義および仕組みを理解し、これらの分析手法について学習および理解することを目的としている。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	会計学の基本知識	財務諸表の内容を理解し、分析することができる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		企業の財務諸表から財政状態や経営成績を読み取り、問題点を発見できる。
2. DP８.他者とのコミュニケーション		与えられた課題の内容を把握した上で、グループのメンバーとコミュニケーションを取りながら課題に取り組むことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
小テスト	30 %	： 授業内容の理解度を評価する。
課題の提出	30 %	： 学習内容を理解し、課題の発見ができているかを確認する。
期末テスト	40 %	： 授業で得た会計学の基本知識である財務諸表の内容とその分析方法の理解度を確認する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
大阪商工会議所編	・『ビジネス会計検定試験　公式テキスト3級（第5版）』	・ 中央経済社	・ 2023　年

参考文献等

谷武幸、桜井久勝、北川教央編著『１からの会計（第2版）』碩学舎、2021年（ISBN：978-4-502-37151-6）。

桜井久勝『財務諸表分析（第9版）』中央経済社、2024年（ISBN：978-4-502-48991-4）。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　月曜2限目

場所：　個人研究室（西館２F）

備考・注意事項：　質問はメールでも受け付けます。アドレスは第1回目の授業時に連絡します。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**財務諸表とは** 講義の進め方に関する説明 財務諸表の意義 財務諸表の役割と種類	テキスト第1章「「財務諸表」とは」の復習および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第2回	**貸借対照表（1）貸借対照表のしくみ** 貸借対照表とは 貸借対照表の様式および表示	テキスト第2章「貸借対照表」第1節の復習および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第3回	**貸借対照表（2）資産** 資産の概念と分類 資産の金額 流動資産、固定資産および繰延資産	テキスト第2章「貸借対照表」第2節の復習および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第4回	**貸借対照表（3）負債** 負債の概念と分類 流動負債および固定負債	テキスト第2章「貸借対照表」第3節の復習および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第5回	**貸借対照表（4）純資産** 純資産の概念と分類 株主資本、評価・換算差額等、株式引受権および新株予約権	テキスト第2章「貸借対照表」第4節の復習および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第6回	**損益計算書（1）損益計算書のしくみ** 損益計算書とは 損益計算書の5つの利益 損益計算書の様式 損益計算の3つのルール	テキスト第3章「損益計算書」第1節および第2節の復習および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第7回	**損益計算書（2）5つの利益** 売上総利益 営業利益 経常利益 税引前当期純利益 当期純利益	テキスト第3章「損益計算書」第3節～第7節の復習および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第8回	**キャッシュ・フロー計算書（1）キャッシュ・フロー計算書とは** キャッシュ・フロー計算書とは キャッシュ・フロー計算書と貸借対照表・損益計算書との関係	テキスト第4章「キャッシュ・フロー計算書」第1節および第2節の復習および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第9回	**キャッシュ・フロー計算書（2）キャッシュ・フロー計算書のしくみ** キャッシュ・フロー計算書のしくみおよび読み方	テキスト第4章「キャッシュ・フロー計算書」第3節および第4節の復習および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第10回	**財務諸表分析（1）財務諸表分析とは** 財務諸表分析の関係者と対象情報 財務諸表分析の基本体系 分析結果の判断のための基準	テキスト第5章「財務諸表分析」第1節～第4節の復習および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第11回	**財務諸表分析（2）百分比財務諸表分析・成長性分析** 百分比財務諸表分析 成長性および伸び率の分析	テキスト第5章「財務諸表分析」第5節～第7節の復習および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第12回	**財務諸表分析（3）安全性分析** 流動比率 正味運転資本 当座比率 自己資本比率	テキスト第5章「財務諸表分析」第8節の復習および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第13回	**財務諸表分析（4）収益性分析** 資本利益率 総資本経常利益率 自己資本利益率	テキスト第5章「財務諸表分析」第10節の復習および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第14回	**財務諸表分析（5）1株当たり分析および1人当たり分析**	テキスト第5章「財務諸表分析」第11節および第12節の復習	4時間

1株当たり当期純利益 株価収益率 1株当たり純資産 株価純資産倍率 1人当たり分析		

221

授業科目名	**会計学入門**				
担当教員名	吉良友人				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

企業は、株主・債権者を含む利害関係者に対して、財務諸表を通して自社の財政状態や経営成績の報告を行っている。また、利害関係者は、この財務諸表を用いて投資や融資を含む企業に関する様々な意思決定を行っている。したがって、財務諸表における情報を読み取り、その内容を理解することは、企業の状態を知る際に非常に重要とされる。本講義は、財務諸表を構成する貸借対照表、損益計算書およびキャッシュ・フロー計算書の意義および仕組みを理解し、これらの分析手法について学習および理解することを目的としている。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	会計学の基礎知識	財務諸表の内容を理解し、分析することができる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		企業の財務諸表から財政状態や経営成績を読み取り、問題点を発見できる。
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		財務諸表から発見した問題点について、どのような点を改善すべきか考えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
小テスト	30 %	： 授業内容の理解度を評価する。
課題の提出	30 %	： 学習内容を理解し、課題の発見ができているかを確認する。
期末テスト	40 %	： 授業で得た会計学の基本知識である財務諸表の内容とその分析方法の理解度を確認する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
大阪商工会議所編	・『ビジネス会計検定試験　公式テキスト3級（第5版）』	・ 中央経済社	・ 2023　年

参考文献等

大阪商工会議所編『ビジネス会計検定試験　公式過去問題集3級（第5版）』中央経済社、2021年。
桜井久勝『財務諸表分析（第8版）』中央経済社、2020年。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　質問はメールにて受け付けます。連絡先は初回の講義でお伝えします。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**財務諸表とは** 講義の進め方に関する説明 財務諸表の意義 財務諸表の役割と種類	テキスト第1章「「財務諸表」とは」の復習および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第2回	**貸借対照表（1）貸借対照表のしくみ** 貸借対照表とは 貸借対照表の様式および表示	テキスト第2章「貸借対照表」第1節の復習および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第3回	**貸借対照表（2）資産** 資産の概念と分類 資産の金額 流動資産、固定資産および繰延資産	テキスト第2章「貸借対照表」第2節の復習および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第4回	**貸借対照表（3）負債と純資産** 負債の概念と分類 流動負債および固定負債 純資産の概念と分類 株主資本、評価・換算差額等および新株予約権	テキスト第2章「貸借対照表」第3節、第4節の復習および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第5回	**損益計算書（1）損益計算書のしくみ** 損益計算書とは 損益計算書の5つの利益 損益計算書の様式 損益計算の3つのルール	テキスト第3章「損益計算書」第1節および第2節の復習および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第6回	**損益計算書（2）5つの利益** 売上総利益 営業利益 経常利益 税引前当期純利益 当期純利益	テキスト第3章「損益計算書」第3節～第7節の復習および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第7回	**キャッシュ・フロー計算書（1）キャッシュ・フロー計算書とは** キャッシュ・フロー計算書とは キャッシュ・フロー計算書と貸借対照表・損益計算書との関係	テキスト第4章「キャッシュ・フロー計算書」第1節および第2節の復習および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第8回	**キャッシュ・フロー計算書（2）キャッシュ・フロー計算書のしくみ** キャッシュ・フロー計算書のしくみおよび読み方	テキスト第4章「キャッシュ・フロー計算書」第3節および第4節の復習および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第9回	**財務諸表分析（1）財務諸表分析とは** 財務諸表分析の関係者と対象情報 財務諸表分析の基本体系 分析結果の判断のための基準	テキスト第5章「財務諸表分析」第1節～第4節の復習および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第10回	**財務諸表分析（2）百分比財務諸表分析・成長性分析** 百分比財務諸表分析 成長性および伸び率の分析	テキスト第5章「財務諸表分析」第5節および第6節の復習および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第11回	**財務諸表分析（3）安全性分析** 流動比率 正味運転資本 当座比率 自己資本比率	テキスト第5章「財務諸表分析」第7節の復習および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第12回	**財務諸表分析（4）収益性分析** 資本利益率 総資本経常利益率 自己資本利益率	テキスト第5章「財務諸表分析」第9節の復習および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第13回	**財務諸表分析（5）1株当たり分析および1人当たり分析** 1株当たり当期純利益 株価収益率 1株当たり純資産 株価純資産倍率 1人当たり分析	テキスト第5章「財務諸表分析」第10節および第11節の復習	4時間
第14回	**財務諸表分析（6）財務諸表分析の実践**	テキスト第5章「財務諸表分析」の総復習	4時間

これまで学んだ分析指標を用いた実際の財務諸表の分析		

221

授業科目名	マーケティング入門				
担当教員名	李美花				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本講義では、マーケティングの基礎概念を中心に、企業の諸活動を取り上げながら紹介していく。製品(Product)、価格(Price)、流通(Place)、プロモーション(Promotion)の４つのPに沿って、実際にビジネス現場で活用されている最近のトピックスを用いて講義を進める。
なお、学術的理論や専門用語、概念は覚えているだけでは意味がない。使いこなしてこそ知的意義をもつ。授業外時間に設定した予習と復習課題に取り組むことで高い学習効果が期待できる。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.現代社会におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	マーケティング概念や知識を学習する	４Psの応用能力を身に付ける
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	身の回りの事例を通じてマーケティング思考能力を身に付ける	マーケティング視点から論理的な思考力が養える
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		身近な物事の変化について論理的な理解ができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

マーケティング活動に関わる基礎知識と具体的な企業事例も交えながら講義による解説の進行にあわせ、ケーススタディーについて、受講者への問いかけやレポート課題を組み合わせて進めていく。

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
期末テスト	40 %	： 定期試験の期末筆記テスト（授業内容をきちんと理解できているかの程度を評価）
期末課題レポート	20 %	： 最後の期末レポート（自分の意見を論理的に述べているのか、簡潔に文章をまとめているのか、独自性があるのかより評価）
平常点	40 %	： 平常点（授業時の発言や発表・発言・グーグルクラスルームによる質問など積極的な授業参加を高く評価する

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

【参考書】講義中に適宜紹介する 。
池尾 恭一（共著）『マーケティング』有斐閣、2010年。
ISBN-10 ： 4641053731
ISBN-13 ： 978-4641053731

履修上の注意・備考・メッセージ

★本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、毎回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
★必ず、Saai-MASによる出席登録を行っているために、毎回の授業の出席状況を各自確認すること
★欠席者には、欠席日の授業内容を自習して手書き、A4サイズ、1枚以内でまとめて授業で提出すること
★授業のお知らせや課題などは、グーグルクラスルームを活用する予定である。詳細な事項は、第1回目の授業でも告知する。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日、4時限

場所： 研究室、西館2階

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス、自己紹介：マーケティングとは何か** 人が、「なぜ買うのか」また「なぜ買わないのか」、商品やサービスを選んだり、買ったりするのかはマーケティングの一つの大きな命である。授業では、実践的なマーケティング戦略について学習する	授業のまとめ、マーケティング・コンセプトについて調べる	4時間
第2回	**マーケティングの基礎概念:マーケティングの変遷・価値提言** マーケティング・コンセプトの変遷をはじめ、欲求、需要マーケティング・コンセプトの変遷をはじめ、欲求、需要、市場、製品について学習する、市場、製品について学習する	授業のまとめ、MZ世帯について調べる	4時間
第3回	**マーケティング演習：顧客ニーズを把握する。** 世帯別の消費者の嗜好の違いとその特徴について学習する。とりわけ、MZ世帯に焦点を当てて学習する。	授業のまとめ、マーケターの仕事について調べる	4時間
第4回	**セグメンテーション・ターゲティング・ポジショニング（STP）の事例** セグメンテーション・ターゲティング・ポジショニング。セグメンテーションの意義＆目的、同質化からの脱皮して差別化を図るためのセグメントを対象にターゲットを設定した事例を学習する	授業のまとめ、マーケターの仕事について調べる	4時間
第5回	**＃Case study：マーケターの仕事** USJを3年で復活 させた日本を代表とするスゴ腕マーケター「森岡毅」の事例を通じて、マーケティングの重要性について学習する マーケターとは、マーケティング理論や調査に専門的な知識を持つマーケティング戦略立案者	授業のまとめ、ブランドマーケティングとは何かについて調べる	4時間
第6回	**ブランドマーケティング戦略：ブランド連想・ブランドエクイティ** 製品開発とブランド構築の違い。ブランドマーケティングの概念の理解及びブランドエクイティ・ブランド連想について学習する #事例：ブランド戦略 ブランド基本戦略、ブランド・エクイティ（Brand Equity）について学習し、事例を取り上げながらブランド連想説明する。	授業のまとめ、五感マーケティングとは何かについて調べる	4時間
第7回	**顧客の心をつかむマーケティング「五感マーケティング」** 郷愁を誘うノスタルジア（nostalgia）消費について理解を深め、身近な小売店の五感マーケティング事例を取りあげながら五感マーケティングの有効性について学習する	授業のまとめ、五感マーケティング事例をまとめる	4時間
第8回	**Case study：五感に訴える戦略の事例「魅せて売る」** ＃事例「五感戦略：夏の集客」 ＃事例「魅せて売る！五感を刺激する売り場革命」 ＃受講生による「ノスタルジア消費」を刺激する事例まとめ→別途ファイルをご参照 ★特別授業開催：実践マーケティング（予定）	授業のまとめ、ストリーテリングとは何かについて調べる	4時間
第9回	**ストリーテリング(story telling)** ストーリーを活用した「レオパレス21」のケースを通じて、人の心を動かせる有効な最新マーケティング手法である「ストーリーテリング」について学ぶ 具体的には、どんなストーリーを用いて消費者に伝達し、結果的にはどんな効果をもたらすのかについて学習する	授業のまとめ、ペルソナについて調べる	4時間
第10回	**マーケティング演習：ペルソナを作ってみる** ペルソナ（英: persona）とは、カール・グスタフ・ユングの概念。ペルソナという言葉は、元来、古典劇において役者が用いた仮面のことであるが、ユングは人間の外的側面をペルソナと呼んだ	授業のまとめ、マーケティングミックスについて調べる	4時間
第11回	**マーケティング・ミックス４Ps：＃Case study製品**	授業のまとめ、４Psのうち、価格とは何かについて調べる	4時間

	製品ライフサイクル理論、「売れる仕組み」を作る事例として「俺のフレンチ」の事例を取りあげ製品の特長について学習する		
第12回	**マーケティング・ミックス４Ps：＃Case study価格** 消費者満足に関する仮設「期待・パフォーマンス仮設」をはじめ、価格戦略について学習する	授業のまとめ、４Psのうち、流通とは何かについて調べる	4時間
第13回	**マーケティング・ミックス４Ps：＃Case study流通** プレイスの概念、流通チャネルを自ら統率する流通経路の「系列化」について学習する	授業のまとめ、４Psのうち、販促とは何かについて調べる	4時間
第14回	**マーケティング・ミックス４Ps：＃Case study販促** ４Ps最後の「ツメ」であるプロモーションについて学習する	これまでの授業内容を振り返りとまとめ	4時間

221

授業科目名	マーケティング入門				
担当教員名	田村匡				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	広告会社にて25年間、企業や地域等のマーケティングにかかわり、調査、企画、提案等の作業を行ってきた。（全１４回）				

授業概要

経営学の一分野であるマーケティングについて、その初歩的な内容について学習する。教科書をもとに、マーケティングの基礎知識(マーケティングとは、顧客志向、3C分析、4Pと4C等)ならびに戦略立案の手法(SWOT分析、STP、PEST分析等)を授業の前半で実例をあげながら学ぶ。後半は4P(Product, Price, Place, Promotion)について、ブランド論やインターネットによる変化等を踏まえて一つずつ詳しく学ぶ。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.現代社会におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	マーケティングの基本的考え方「消費者志向」を学ぶ。	お客様の立場にたった考え方を身につける。
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	マーケティング調査や基本戦略、4Pについて学ぶ	商品・サービスの販売に欠かせないマーケティングの技術、戦略、手法・ツールを理解する。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		マーケティングの手法を使って企業・団体等の問題点や経営課題を発見することができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
小テスト	40 %	： 授業の内容を理解しているか。また自分で考えて論理的に説明できているか。
中間試験	30 %	： 授業の内容を理解しているか。また自分で考えて論理的に説明できているか。
期末試験	30 %	： 授業の内容を理解しているか。また自分で考えて論理的に説明できているか。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
阿久津聡	・ サクッとわかるビジネス教養マーケティング	・ 新星出版社	・ 2023 年

参考文献等

その都度、参考資料等を配布する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日2限

場所： 個人研究室

備考・注意事項： オフィスにこられる場合はメールにて調整・予約してください。tamura-t@g.osaka-seikei.ac.jp。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**マーケティング・イントロダクション** マーケティング入門の授業全体の構成や注意事項等を説明。またマーケティングの経営学全体の中での位置づけや一番重要な概念である「顧客志向」やドラッカーの企業の目的等について学ぶ。	教科書を読んで予習し、ネットや新聞等にて関係事項をチェックする	4時間
第2回	**マーケティングの基礎** マーケティングの基礎的な知識について学ぶ。マーケティングの定義、市場とは、マーケティング・コンセプトなど。	教科書を読んで予習し、ネットや新聞等にて関係事項をチェックする	4時間
第3回	**3C分析、4Pと4C** 市場の登場人物である、3Cの分析方法や、マーケティングのツールである4P、それを顧客側から見た4Cとその関係性等を学ぶ。	ネットや新聞・参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第4回	**SWOT分析について** マーケティング分析の重要手法「SWOT」について学習する。また、教員の指導に基づき、与えられた課題についてのSWOT分析を行う。まずは課題について全員で考え、次に個人個人で自分で深く考え分析し結果を提出する。	ネットや新聞・参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第5回	**STP** マーケティングの重要な手法であるSTPについて学習する。現実の企業やブランド等の実例を踏まえてSegmentationとTargetingについて学び、次に競合企業・ブランドとのPositioningについて学ぶ。さらに顧客満足度等について学ぶ	ネットや新聞・参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第6回	**市場シェア別事業戦略** 市場規模別に、リーダー、チャレンジャー、ニッチャー、フォロワー等の戦略を学ぶ。あわせて各規模別の事業目標の置き方、選択と集中の重要性等を実際の企業やブランドを実例として説明し、理解する。	ネットや新聞・参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第7回	**マーケティングの基礎を振り返る（中間まとめ）** これまでの授業について復習し、さらに追加した事項までを振り返り、マーケティングの基礎知識と基本的な分析、戦略等について中間時点でまとめ、学生の理解を深める。	これまでの授業内容について教科書等を振り返り、復習を行う	4時間
第8回	**AIDMAの法則、4Pについて** 購買行動の決定プロセスであるAIDMAの法則等と、マーケティングの具体的な手法である4Pについての概要、4Cとの対応関係等を学ぶ。これまでの基礎知識や戦略との関係についても理解する。	ネットや新聞・参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第9回	**Promotionについて** Promotionの重要な手法の「広告」「広報」について、そのメディアとなる新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、OOHについて、歴史やビジネスモデル等について実例を元に学習する。また広報・パブリシティについても学習する。	ネットや新聞・参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第10回	**Productについて** Productについての基本的な事項(製品と商品、製品の分類、製品ライフサイクル等)やブランドについて学ぶ。ブランドの2つの側面について学習し、具体例をもって深く理解する。	ネットや新聞・参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第11回	**Priceについて** 価格のつけ方や新製品の価格戦略、割引等の価格対応、価格決定権者の主導権争い等についてこれまでの実例等をもとに説明、さらに自分たちで実例を思い出して論理的に記述し、理解する。	ネットや新聞・参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第12回	**Placeについて** 製品がメーカー等から消費者の手にはいるまでの流通チャネルについての概要を学ぶ。卸売業者が存在する理由、商品別の流通戦略、フランチャイズチェーン等について理解する。	ネットや新聞・参考書等にて関係事項をチェックする	4時間

第13回	**デジタル・マーケティング** 近年、著しく発達したデジタル・マーケティングについて、実例をもとに学ぶ。Promotionを中心としながらも4Pと顧客分析等が融合し、複雑化したマーケティングの状況を理解する。	ネットや新聞・参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第14回	**総まとめ** これまでのマーケティングの授業を振り返る。マーケティングの基礎的な用語や分析手法、経営戦略等から、4P、デジタル・マーケティングまで一連の流れを理解する。	ネットや新聞・参考書等にて関係事項をチェックする	4時間

221

授業科目名	**経営統計入門**				
担当教員名	海野大・上阪彩香・關戸啓人・前田博美・岡本有加				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

今日では、企業の活動や意思決定はデータに基づいて行われることが当たり前になっている。合理的な企業経営や意思決定を行うためには、データを適切に選択・加工し、必要な情報を抽出し、分析と解釈をしなければならない。
本授業では、数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム（リテラシーレベル）のモデルカリキュラムに基づき、社会における統計学の役割を理解し、統計学を通じてデータサイエンスを行う基礎となる知識を獲得することを目指す。統計学的命題について、厳密な数学的証明は避け、あくまで統計・統計学のエンドユーザーとして必要とされる直感的な理解を目標とする。
前半では、データの要約や視覚化、相関と因果、回帰を取り上げる。後半では、統計的推定・検定の基礎となる具体的な方法論を学び、それらの意味と意義、特徴と限界を知り、データの分析結果を批判的に見る目を養う。本講義を通じて、社会での実例を含むいくつかの例を用いて理解を深めることで、統計学によって様々な現象を理解する一つの視点を獲得する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	統計的なものの見方，記述統計（クロス集計，ヒストグラム，平均・分散，相関関係），確率論，推測統計（区間推定，仮説検定）等の基本的な統計理論	データから情報や知見を得るための考え方や手法，データの可視化，代表値や相関係数の概念と計算方法，区間推定や仮説検定の概念，目的，計算方法について理解し，実際に計算できるようになる．
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		データから統計的な手法を用いて課題を発見し，分析することができる．

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・eラーニング、反転授業

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内課題	70 %	： 毎回授業の後に、小テストを実施します。
定期試験	30 %	： 指定した範囲を的確に理解しているかを評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

教養としてのデータサイエンス（内田 誠一 他著、ISBN：978-4-06-523809-7、講談社）2021年
確率・統計入門（小針 アキ宏著、ISBN：9784000051576、岩波書店）1973年
データサイエンスの基礎（浜田 悦生著、ISBN：978-4-06-517000-7、講談社）2019年

履修上の注意・備考・メッセージ

講義資料やその他の資料は適宜配布する。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　オフィスアワーを活用してください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**授業に関するガイダンスと社会における統計学・データサイエンスの意義** 記述統計と推測統計、社会における統計学及びデータサイエンスの重要性について講義する。	小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。	4時間
第2回	**データからの情報抽出（1）　尺度水準、量的データの要約** 統計データの分類及び量的データの整理・要約について講義する。	小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。	4時間
第3回	**データからの情報抽出（2）　質的データの要約** 質的データの整理・要約について、具体的な例を挙げて紹介する。	小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。	4時間
第4回	**データからの情報抽出（3）　データの可視化** データの可視化を取り上げ、適切なデータの見せ方について講義する。	小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。	4時間
第5回	**データからの情報抽出（4）　変数の変換** 標準化などの変数の変換及びその意義について講義する。	小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。	4時間
第6回	**データからの情報抽出（5）　相関と因果** 相関関係と因果関係の違いについて説明し、散布図及び相関係数について講義する。	小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。	4時間
第7回	**データからの情報抽出（6）　回帰** 回帰直線及び決定係数について講義する。	小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。	4時間
第8回	**データからの情報抽出（7）　まとめと補足** 第1回から7回目までのまとめ及び補足を行う。	第１回目から7回目までの復習を行う。	4時間
第9回	**統計的推測の考え方（1）　推測統計の基礎** 標本抽出及び推測統計の基礎的な事項・考え方について講義する。	小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。	4時間
第10回	**統計的推測の考え方（2）　標本分布と信頼区間** 標本分布及び信頼区間について講義する。	小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。	4時間
第11回	**統計的推測の考え方（3）　統計的検定の基礎** 統計的検定の基礎的な事項・手続きについて講義する。	小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。	4時間
第12回	**統計的推測の考え方（4）　t検定** 対応のないt検定及び対応のあるt検定について講義する。	小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。	4時間
第13回	**統計的推測の考え方（5）　カイ二乗検定** 適合度の検定及び独立性の検定について講義する。	小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。	4時間
第14回	**統計的推測の考え方（6）　まとめと補足** 第9回から13回目までのまとめ及び補足を行う。	第9回目から13回目までの復習を行う。	4時間

221

授業科目名	**経営情報入門**				
担当教員名	海野大				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大手通信事業者で新サービス開発，新規事業立ち上げ，マーケティング・リサーチ／顧客データ分析，情報システム企画・要件定義・プロジェクト管理に従事．（全14回）				

授業概要

企業をはじめとする組織にとって，いかにして情報を収集し，処理し，活用するかは重要な経営課題です．現代は情報通信技術（ICT）の発展により，ほとんどの企業に高度な経営情報システムが導入されています．しかし，どんなに優れたシステムであっても，ただ導入しただけでは情報を効率的・効果的に収集し活用することはできません．この授業では，経営情報システムとはなにか，企業経営にどのような効果をもたらすのか，意思決定のあり方はどうあるべきかについて学んでいきます．さらに，経営情報システムでもその利用が進んでいるAI（人工知能）について，その効果と課題について学びます．

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	経営情報システムの概念，情報システムを活用した意思決定，IT・AI等を活用したプラットフォームビジネス	経営情報システムやITを活用したビジネスの仕組み等に関する基礎的な知識を学ぶ．経営情報システムを活用した組織と知識マネジメント，IT・AIを活用したビジネスについて理解する．

汎用的な力	
1．DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用	授業課題レポートを通して，講義で得た知識を用いて，経営情報の活用に係る課題を検討できる
2．DP８.他者とのコミュニケーション	自分の意見を読み手が理解しやすい文章で作成できる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への取組みと理解度	70 %	： 授業中に行う課題の回答内容により評価します．
期末試験	30 %	： 講義内容に関する基礎知識とその分野の課題に関する自らの考えを問う課題を出題し，その回答内容により評価します．なお，期末試験は期末レポート試験に変わる場合があります．

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

遠山，村田，古賀『現代経営情報論』有斐閣，2021年，ISBN：978-4641221789
宮川，上田『経営情報システム　第4版』，中央経済社，2014年，ISBN：978-4502091704

履修上の注意・備考・メッセージ

教材の配布や課題の提出などにGoogle Classroom を使用します．
本科目は2単位の科目であるため，平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます．

「授業外学修課題」に取り組むことに加え，その回の授業の内容を丁寧に復習してください.

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 前期：火曜日３時限　後期：水曜日5時限

場所： 研究室（西館３階）

備考・注意事項： 事前にメールでアポイントメントをとるようにしてください.
メールアドレス：unno@g.osaka-seikei.ac.jp

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**経営情報の重要性** 現代は情報ネットワーク社会であり，企業を始めとした組織は情報通信技術（ICT）を高度に駆使して自らを成長させようとしています．企業の経営活動はとりもなおさず情報活動ということが出来ます．企業が置かれている社会特性と，企業がICTを活用するための課題について学びます.	企業がどのようにICTを活用しているのか復習し，課題に取り組む.	4時間
第2回	**経営情報システムの基礎** 企業が経営情報を活用する上で基礎となる理論が経営情報論です．経営情報論は経営組織論や経営戦略論，システム論やネットワーク理論など多くの分野と関連しています．これら経営情報論の基礎となる理論や概念について学びます.	授業で紹介された経営情報システムの基礎について復習し，課題に取り組む.	4時間
第3回	**経営情報システム発展の歴史** 経営情報を活用するためのシステムである経営情報システムは，初めは業務の自動化から始まり，意思決定支援，戦略的活用，ビジネス・プロセスの再構築，そしてICTを活用したビジネス・イノベーションを担ってきました．近年では，事業構造を根底から変化させることが期待されています．ここでは，経営情報システムがこれまで担ってきた役割や今後期待されている役割について学びます.	経営情報システムの歴史や期待役割について復習し，課題に取り組む.	4時間
第4回	**ICTの基礎** 経営情報システムを実現するための技術であるICTは，20世紀後半に発展し，さらに2000年代になってインターネットの普及とともに現代社会を支える基盤となっています．ここでは，ICTとは具体的にどのような技術か，どのように進化してきているのかについて学びます.	ICTの基礎について復習し，課題に取り組む.	4時間
第5回	**経営情報システムの開発（1）問題の構造と課題の発見** 多くの企業による経営情報システムの開発・導入を通じて，経営情報システム開発の方法論も発展しています．経営情報システム開発を成功に導くには，そもそもシステムによってどのような課題を解決するのか，といった，システム開発目標を明確にしておく必要があります．ここでは，情報システム開発の前提となる，問題の構造と課題の発見の方法論について学びます.	問題の構造と課題の発見の方法論について復習し，課題に取り組む.	4時間
第6回	**経営情報システムの開発（2）課題解決のための情報システム** 発見した課題を解決するための経営情報システム開発の考え方について学びます．情報システム設計においてしばしば利用されるデータ・フロー・ダイアグラム（DFD；データの流れを書くことでシステムの機能を洗い出したり，業務フローの分析に使います）やビジネスプロセスを可視化する方法について学びます.	ビジネス・プロセスとはなにか，ビジネス・プロセスを革新するとはどういうことかについて復習し，課題に取り組む.	4時間
第7回	**情報セキュリティと個人情報** いかに優れた経営情報システムを構築・導入しても，適切に運用管理されなければ期待される機能を発揮することはできません．ここでは，システムの健全な運用を妨げる脅威やリスクへの対応などの情報セキュリティ対策と，近年増々問題が深刻化している個人情報保護について学びます.	情報セキュリティ対策と個人情報保護について復習し，課題に取り組む.	4時間
第8回	**組織知とナレッジマネジメント** 組織のもう一つの重要な役割は，様々な活動を通して組織として学習し，組織としての知識と経験（組織知）を蓄積することで，競合他社に対して圧倒的に優位な組織能力（コンピタンス）を確立することです．ここでは，組織知の重要性と知識創造論における「暗黙知」と「形式知」の概念，知識創造プロセスとして名高いSECIモデルについて，演習を通して学びます.	組織知，および組織における意思決定の特徴と問題点について復習し，課題に取り組む.	4時間
第9回	**意思決定のプロセスと方法** 意思決定のプロセスと代表的な意思決定手法であるデシジョンツリーについて，演習を通じて学びます.	デシジョンツリーについて復習し，課題に取り組む.	4時間
第10回	**組織の意思決定** 組織としての意思決定の特徴や問題点について，限定合理性，ゴミ箱モデルの概念を使って学びます.	組織の意思決定の特徴について復習し，課題に取り組む.	4時間
第11回	**組織構造・組織間関係と経営情報システム**	組織構造が経営情報システムのあり方に影響を与えるだけでなく，経営情報システムの発展が組織構造にも影響を与えることについて復習し，課題に取り組む.	4時間

	経営環境の変化に対応するためには，組織の変革も重要です．組織の最も重要な役割の一つは，情報の効率的な収集・伝達・処理ですが，それを支えているのが経営情報システムです．ICTの進展により経営情報システムが高度化すると，経営情報システムの利用を前提にした組織構造も変わります．ここでは，経営情報システムと組織構造の関係について学びます．		
第12回	**インターネットの仕組みとインターネット・ビジネス** インターネットの普及は経営情報システムはもちろん，企業経営そのものを大きく変化させています．ここでは，インターネットが作られた経緯と発展の歴史，インターネットがなぜ繋がるのか，その仕組みと基礎となる技術の概要について学びます．さらに，インターネットの普及とともに成長したインターネット・ビジネスの特徴や類型，成功に導く基本原理（ネットワーク効果）などを学びます．	ネットワーク効果について復習し，課題に取り組む．	4時間
第13回	**DX（デジタル・トランスフォーメーション）と生成AI** DX（デジタル・トランスフォーメーション）は現在の企業経営にとってきわめて重要な課題ですが，近年，DX推進において生成AIの活用が盛んになっています．ここでは，生成AIの特徴や使い方についてChatGPTを使った演習を通じて学ぶとともに，そのリスクについて学びます．	生成AIの問題点について復習し，課題に取り組む．	4時間
第14回	**AI（人工知能）の光と影** AIの原理や機械（コンピュータ）が学習する仕組みについて概観し，AIが経営課題や社会課題にどのような貢献ができるかについて学ぶとともに，AIを活用することで新たに生じる問題（個人情報の不適切な使用，バイアスのある学習データが引き起こす問題，倫理上の問題等）について学びます．	AIの活用事例や社会実装における課題について調べる．	4時間

222

授業科目名	**経営管理論**				
担当教員名	稲村昌南				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

経営管理とは「組織がある目的を達成するために、資源を統合し、諸活動を調整する過程（プロセス）」と定義されます。つまり、組織が持つ資源・能力を環境との間で戦略的に適合させながら、目的達成に向けて効率的に人、モノ、カネ、情報を動かす行為が経営管理です。ですから、経営管理はすべての企業にとって不可欠なものであり、企業経営の本質といっても過言ではありません。本授業では、経営管理の進展過程で登場した主要な論者の理論を踏まえながら、企業における管理（マネジメント）の現実について理解することを目的とします。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	経営資源の管理と活用に関する基礎知識	経営管理の諸理論について理解し、マネジメントの現場への適用について概略的に説明できる。
汎用的な力		
1．DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		物事の因果関係をとらえ、背後にある課題や本質を見極めることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
毎回の課題	30 %	： 授業内容を踏まえた記述であれば1点とし、そこに「論理性」と「簡潔性」を備えていれば2点とする。授業内容に関係のない記述の場合は0点となる。
期末試験	70 %	： ビジネスにおける経営資源の管理とその利活用に関する問題を出題し「経営管理の基礎的内容を理解しているか」、「出題内容に関して論理的かつ簡潔に記述できているか」の2点を基準に評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

塩次喜代明・高橋伸夫・小林敏男著「経営管理 新版」（有斐閣アルマ、2009、ISBN978-4641123755）。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日3時間目

場所：　西館3階45研究室

備考・注意事項：　classroom上での連絡も可能

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**経営管理とは？－経営資源の管理と活用－** 日々変化するビジネス環境とそれに対処するための経営管理（マネジメント）のあり方について学びます。また、日本的経営と呼ばれる日本独自の経営管理の在り方について理解します。	グローバル化、情報化、地球環境問題など企業を取り巻く環境の変化が企業経営にどのような影響を与えているかについて整理します。	4時間
第2回	**経済的豊かさとマネジメントの役割** 今日の日本の経済的豊かさはどこからもたらされたのだろうか？企業におけるマネジメントとの関係から考えます。	企業の生産性向上や付加価値創造がなぜ社会の豊かさにとって必要なのか整理します。	4時間
第3回	**近代企業と専門経営者の登場** 会社の種類について考えるとともに、現代企業における経営の担い手である専門経営者がどのように誕生したのか、その背景について考察します。	企業の発展とともに、所有と経営が分離していくプロセスについて整理します。	4時間
第4回	**テーラーの科学的管理** 企業経営に初めて科学的要素を取り入れ、現代マネジメントの基礎を築いた科学的管理の考え方について学びます。	テーラーが企業経営に持ち込んだ科学的視点のポイントとその効果・課題について整理します。	4時間
第5回	**人間関係論ー人間的側面を重視する管理ー** 非合理的な人間的側面を重視する管理を主張する人間関係論について、その基本的考え方について学びます。	フォーマル組織とインフォーマル組織の違いとインフォーマル組織の重要性について整理します。	4時間
第6回	**バーナードの管理論** 組織の成立と存続に焦点を当てた管理論を展開するバーナードの考え方について学びます。	組織の成立と存続の要件とは何か整理します。	4時間
第7回	**モチベーション論の展開** 仕事の現場で人間の能力を最大限に活かそうとするマネジメントのあり方について学びます。	マグレガーやハーズバーグの理論に共通している動機づけに必要な要件について整理します。	4時間
第8回	**リーダーシップ** 組織（仕事）の成果を高めるためのリーダーのあり方について考えます。	様々な実験を通して明らかになったリーダーシップの一般理論について整理します。	4時間
第9回	**ミドルとトップのリーダーシップ** 管理職と呼ばれる人たちのリーダーとしての役割について考えます。	日本において特徴的なミドルマネジメントの役割とその育成方法について整理します。	4時間
第10回	**組織デザインー機能別組織と事業部制組織ー** 組織の基本形としての機能別組織の基本原理とその限界について考えるとともに、事業部制組織への移行の背景について学びます。	機能別組織の有効性と限界、そして事業部制組織の特徴について整理します。	4時間
第11回	**経営戦略（経営理念に基づく企業目標の達成）** 企業が他社との競争に対処し、安定的に成長するための指針となる経営戦略について学びます。	競争戦略と成長戦略の代表的な理論とその考え方について整理します。	4時間
第12回	**グローバル戦略** 日本企業の国際化プロセスを理解するとともに、グローバルに事業展開する際に重要となる課題について学びます。	ローカライゼーションとグローバライゼーションという2つの課題について整理します。	4時間
第13回	**見えざる秩序としての企業文化** 経営に独自性を生み出すといわれる企業文化の醸成とその役割について考えます。	企業文化の形成プロセスおよび文化と企業の強みとの関連について整理します。	4時間
第14回	**組織間関係のマネジメント** 企業が自社のビジネスを完結させるために他社との関係をどのようにマネジメントしているのか考えます。	取引コスト理論から導かれる企業間関係のあり方について整理する。	4時間

222

授業科目名	**経営管理論**				
担当教員名	澤田彩				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

経営管理とは「組織がある目的を達成するために、資源を統合し、諸活動を調整する過程（プロセス）」と定義されます。つまり、組織が持つ資源・能力を環境との間で戦略的に適合させながら、目的達成に向けて効率的に人、モノ、カネ、情報を動かす行為が経営管理です。ですから、経営管理はすべての企業にとって不可欠なものであり、企業経営の本質といっても過言ではありません。本授業では、経営管理の進展過程で登場した主要な論者の理論を踏まえながら、企業における管理（マネジメント）の現実について理解することを目的とします。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	経営管理の基礎知識	経営管理の諸理論について理解し、マネジメントの現場への適用について概略的に説明できる。
汎用的な力		
1．DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		物事の因果関係をとらえ、背後にある課題や本質を見極めることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内課題	30 %	： 授業内容をふまえた記述となっているかどうか、論理性、文章の体裁等の観点で評価する。
期末試験	70 %	： ビジネスにおける経営資源の管理とその利活用に関する問題を出題し「経営管理の基礎的内容を理解しているか」、「出題内容に関して論理的かつ簡潔に記述できているか」の2点を基準に評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

塩次喜代明・高橋伸夫・小林敏男著（2009）『経営管理 新版』有斐閣アルマ(ISBN978-4641123755)。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　木曜日２限

場所：　研究室

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**経済的豊かさと専門経営者の登場** 今日の日本の経済的豊かさはどこからもたらされたのだろうか？企業におけるマネジメントとの関係から考えます。	企業の生産性向上や付加価値創造がなぜ社会の豊かさにとって必要なのか整理します。	4時間
第2回	**近代企業と専門経営者の登場** 会社の種類について考えるとともに、現代企業における経営の担い手である専門経営者がどのように誕生したのか、その背景について考察します。	企業の発展とともに、所有と経営が分離していくプロセスについて整理します。	4時間
第3回	**テーラーの科学的管理** 企業経営に初めて科学的要素を取り入れ、現代マネジメントの基礎を築いた科学的管理の考え方について学びます。	テーラーが企業経営に持ち込んだ科学的視点のポイントとその効果・課題について整理します。	4時間
第4回	**人間関係論** 非合理的な人間的側面を重視する管理を主張する人間関係論について、その基本的考え方について学びます。	フォーマル組織とインフォーマル組織の違いとインフォーマル組織の重要性について整理します。	4時間
第5回	**バーナードの管理論** 組織の成立と存続に焦点を当てた管理論を展開するバーナードの考え方について学びます。	組織の成立と存続の要件とは何か整理します。	4時間
第6回	**モチベーション論** 仕事の現場で人間の能力を最大限に活かそうとするマネジメントのあり方について学びます。	マグレガーやハーズバーグの理論に共通している動機づけに必要な要件について整理します。	4時間
第7回	**リーダーシップ** 組織（仕事）の成果を高めるためのリーダーのあり方について考えます。	様々な実験を通して明らかになったリーダーシップの一般理論について整理します。	4時間
第8回	**ミドルとトップのリーダーシップ** 管理職と呼ばれる人たちのリーダーとしての役割について考えます。	日本において特徴的なミドルマネジメントの役割とその育成方法について整理します。	4時間
第9回	**組織デザイン** 組織の基本形としての機能別組織の基本原理とその限界について考えるとともに、事業部制組織への移行の背景について学びます。	機能別組織の有効性と限界、そして事業部制組織の特徴について整理します。	4時間
第10回	**経営戦略** 企業が他社との競争に対処し、安定的に成長するための指針となる経営戦略について学びます。	競争戦略と成長戦略の代表的な理論とその考え方について整理します。	4時間
第11回	**グローバル戦略** 日本企業の国際化プロセスを理解するとともに、グローバルに事業展開する際に重要となる課題について学びます。	ローカライゼーションとグローバライゼーションという2つの課題について整理します。	4時間
第12回	**見えざる秩序としての企業文化** 経営に独自性を生み出すといわれる企業文化の醸成とその役割について考えます。	企業文化の形成プロセスおよび文化と企業の強みとの関連について整理します。	4時間
第13回	**組織間関係のマネジメント** 企業が自社のビジネスを完結させるために他社との関係をどのようにマネジメントしているのか考えます。	取引コスト理論から導かれる企業間関係のあり方について整理する。	4時間
第14回	**まとめ：現代企業の経営管理のあり方** 現代企業が抱えるマネジメント課題について整理し、企業内外の問題をいかに解決して持続的な成長を図っていくかを理解します。	企業の内部環境、外部環境にはどのようなものがあるか、またそれらをマネジメントいく手法・考え方にはどのようなものがあるかを整理します。	4時間

222

授業科目名	**経営戦略論**				
担当教員名	稲村昌南				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

今日のような激しく変化するビジネス環境において、企業が生存していくことは容易なことではありません。そこで、１つのカギとなるのが経営戦略です。企業の戦略的行動は動植物が環境の変化に合わせて進化を繰り返しながら生存競争してきたことにたとえられます。本授業では、経営戦略の諸理論について学ぶとともに、さまざまな事例を通して経営戦略がビジネスの現場でどのように展開されているかを理解します。そして、それらの知識を基に現実の企業の行動の裏側にある戦略的意味について認識できるようになることを目的とします。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	企業の成長と競争の在り方に関する基礎知識	経営戦略の重要性について理解し、ビジネスとのかかわりにおいてその適応方法を概略的に説明できる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		物事の因果関係をとらえ、背後にある課題や本質を見極めることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
毎回の課題	30 %	： 授業内容を踏まえた記述であれば1点とし、そこに「論理性」と「簡潔性」を備えていれば2点とする。授業内容に関係のない記述の場合は0点となる。
期末試験	70 %	： ビジネスにおける経営戦略の役割や重要性を問う問題を出題し「経営戦略の基礎的内容を理解しているか」、「出題内容に関して論理的かつ簡潔に記述できているか」の2点を基準に評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

遠藤 功「経営戦略の教科書」（光文社新書、2011年、ISBN978-4334036300）。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日3時間目

場所：　西館3階45研究室

備考・注意事項：　classroom上での連絡も可能

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**経営戦略とは何か** 企業経営における経営戦略の意義と重要性について学びます。また、競争戦略と成長戦略の違いについても理解します。	経営戦略とは何か、その役割と重要性について整理します。	4時間
第2回	**「ゲームのルール」を理解する** 戦略の策定は業界の競争のあり方を理解することから始まります。今回は業界における「ゲームのルール」の理解の仕方を学びます。	経営戦略を立てる上で業界のゲームのルールをなぜ理解しなければいけないのか整理します。	4時間
第3回	**グローバル競争と経営戦略** グローバル規模でダイナミックに変化する「ゲームのルール」とそれに対処すべき企業の経営戦略のあり方について学びます。	鉄鋼業界のゲームのルールとそれに対する企業の戦略的適応について整理します。	4時間
第4回	**「選択と集中」という考え方** 戦略の基本は、他社と違う何かを実行することです。このために必要となる「選択と集中」という考え方について学びます。	「選択と集中」がなぜ必要なのか「差別化」と「傾斜配分」という観点から整理します。	4時間
第5回	**戦略代替案の考え方** 企業が採用できる３つの基本戦略のあり方について学びます。	マイケルポーターの競争戦略の理論であるコスト、差別化、集中について整理します。	4時間
第6回	**リーダーの戦略** 質、量ともに豊富な資源を持ち、大きなマーケットを対象にビジネスを展開するリーダー企業の戦略について学びます。	リーダー企業の典型的な戦略のあり方についてトヨタや花王を例に整理します。	4時間
第7回	**チャレンジャーの戦略** 業界のリーダーに果敢に勝負を挑み、新たなリーダーを目指すチャレンジャーの戦略について学びます。	リーダー企業を脅かすチャレンジャー企業の戦略についてアサヒビールを例に整理します。	4時間
第8回	**ニッチャーの戦略** リーダーが参入してこない「隙間市場（ニッチ）」を探し出し、その限られた「土俵」で圧倒的な存在になることを目指すニッチャーの戦略について学びます。	ニッチャーといわれる企業がなぜ高付加価値経営に基づく高収益を上げているのかその理由を整理します。	4時間
第9回	**成長と経営戦略①－アンゾフの成長マトリクス－** 企業にとってどのような成長が望ましいだろうか。また、どのような成長の方向性があるだろうか。今回は企業の成長戦略について学びます。	アンゾフの製品・市場マトリクスに基づく4つの成長の方向性について整理します。	4時間
第10回	**成長と経営戦略②－資源配分戦略－** 企業の成長を鈍化させないための複数の事業や製品に対する合理的な資金配分の仕方について学びます。	複数事業に対する効率的な資金配分を可能にするPPMの考え方について整理します。	4時間
第11回	**M&Aと経営戦略** 企業の成長戦略の1つとして、近年、世界規模で展開されているM&A（合併買収）について、その有効性と課題について学びます。	企業が成長するために用いる手法としてM&Aの合理性について整理します。	4時間
第12回	**現場起点の経営戦略** 経営戦略の芽は現場にあるといわれます。今回は、よい経営戦略の立案には現場起点の発想が不可欠であることを学びます。	経営戦略において現場主導の帰納的な発想がなぜ必要なのか整理します。	4時間
第13回	**起業と経営戦略** 綿密な経営戦略がなければ起業できないだろうか？今回は、起業の際の経営戦略の役割について学びます。	起業の際に最も必要となるものは何か、また経営戦略が重要となるのはどの段階か整理します。	4時間
第14回	**破壊と創造** 企業は時として「過去の成功体験を捨てる」ことが必要となる。今回は、企業が進化するための破壊と創造について学びます。	企業にとってリストラクチャリングとは何をすることをいうのか、IBMの再生物語を例に整理します。	4時間

222

授業科目名	**経営戦略論**				
担当教員名	澤田彩				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

今日のような激しく変化するビジネス環境において、企業が生存していくことは容易なことではありません。そこで、１つのカギとなるのが経営戦略です。企業の戦略的行動は動植物が環境の変化に合わせて進化を繰り返しながら生存競争してきたことにたとえられます。本授業では、経営戦略の諸理論について学ぶとともに、さまざまな事例を通して経営戦略がビジネスの現場でどのように展開されているかを理解します。そして、それらの知識を基に現実の企業の行動の裏側にある戦略的意味について認識できるようになることを目的とします。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	経営戦略の基礎知識	経営戦略の諸理論について理解し、ビジネスとのかかわりにおいてその適応方法を概略的に説明できる。

汎用的な力	
1．DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用	物事の因果関係をとらえ、背後にある課題や本質を見極めることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内課題	30 %	： 授業内容を踏まえた記述であるかどうか、論理性、文章の体裁等の観点で評価する。
期末試験	70 %	： ビジネスにおける経営戦略の役割や重要性を問う問題を出題し「経営戦略の基礎的内容を理解しているか」、「出題内容に関して論理的かつ簡潔に記述できているか」の2点を基準に評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

遠藤功（2011）『経営戦略の教科書』光文社新書（ISBN978-4334036300）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 木曜日2限

場所：　研究室

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**経営戦略の役割** 企業経営における経営戦略の意義と重要性について学びます。また、近年の日本企業が抱える戦略的課題についても理解します。	経営戦略とは何か、その役割と重要性について整理します。	4時間
第2回	**ゲームのルールを理解する** 戦略の策定は業界の競争のあり方を理解することから始まります。今回は業界における「ゲームのルール」の理解の仕方を学びます。	経営戦略を立てる上で業界のゲームのルールをなぜ理解しなければいけないのか整理します。	4時間
第3回	**グローバル競争と経営戦略** グローバル規模でダイナミックに変化する「ゲームのルール」とそれに対処すべき企業の経営戦略のあり方について学びます。	鉄鋼業界のゲームのルールとそれに対する企業の戦略的適応について整理します。	4時間
第4回	**「選択と集中」という考え方** 戦略の基本は、他社と違う何かを実行することです。このために必要となる「選択と集中」という考え方について学びます。	「選択と集中」がなぜ必要なのか「差別化」と「傾斜配分」という観点から整理します。	4時間
第5回	**戦略代替案の考え方** 企業が採用できる３つの基本戦略のあり方について学びます。	マイケルポーターの競争戦略の理論であるコスト、差別化、集中について整理します。	4時間
第6回	**リーダーの戦略** 質、量ともに豊富な資源を持ち、大きなマーケットを対象にビジネスを展開するリーダー企業の戦略について学びます。	リーダー企業の典型的な戦略のあり方についてトヨタや花王を例に整理します。	4時間
第7回	**チャレンジャーの戦略** 業界のリーダーに果敢に勝負を挑み、新たなリーダーを目指すチャレンジャーの戦略について学びます。	講義の内容を、教科書や、講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、資源ベースの戦略について理解を深める。	4時間
第8回	**ニッチャーの戦略** リーダーが参入してこない「隙間市場（ニッチ）」を探し出し、その限られた「土俵」で圧倒的な存在になることを目指すニッチャーの戦略について学びます。	ニッチャーといわれる企業がなぜ高付加価値経営に基づく高収益を上げているのかその理由を整理します。	4時間
第9回	**成長と経営戦略①―アンゾフの成長マトリクス―** 企業にとってどのような成長が望ましいだろうか。また、どのような成長の方向性があるだろうか。今回は企業の成長戦略について学びます。	アンゾフの製品・市場マトリクスに基づく4つの成長の方向性について整理します。	4時間
第10回	**成長と経営戦略②―プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント―** 企業の成長を鈍化させないための複数の事業や製品に対する合理 的な資金配分の仕方について学びます。	複数事業に対する効率的な資金配分を可能にするPPMの考え方について整理します。	4時間
第11回	**M&Aと経営戦略** 企業の成長戦略の1つとして、近年、世界規模で展開されているM&A（合併買収）について、その有効性と課題について学びます。	企業が成長するために用いる手法としてM&Aの合理性について整理します。	4時間
第12回	**現場起点の経営戦略** 経営戦略の芽は現場にあるといわれます。今回は、よい経営戦略の立案には現場起点の発想が不可欠であることを学びます。	経営戦略において現場主導の帰納的な発想がなぜ必要なのか整理します。	4時間
第13回	**起業と経営戦略** 綿密な経営戦略がなければ起業できないだろうか？今回は、起業の際の経営戦略の役割について学びます。	起業の際に最も必要となるものは何か、また経営戦略が重要となるのはどの段階か整理します。	4時間
第14回	**破壊と創造** 企業は時として「過去の成功体験を捨てる」ことが必要となる。今回は、企業が進化するための破壊と創造について学びます。	企業にとってリストラクチャリングとは何をすることをいうのか、IBMの再生物語を例に整理します。	4時間

222

授業科目名	**管理会計**				
担当教員名	平野明日香				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

【授業概要】
財務会計では、主として企業外部の利害関係者に財政状態および経営成績を伝達することが目的とされている。
これに対し、管理会計は、企業の経営管理者が意思決定を行う際、または業績管理を行う際等、主に企業内部で用いることが目的とされている。
本講義では、管理会計の基礎となる工業簿記（原価計算）の基礎について説明する。また、管理会計の基本的な知識であるCVP分析、直接原価計算を学び、原価管理方法、予算管理方法について理解することを目指す。

※なお「履修上の注意・備考・メッセージ」に記した【履修条件】をよく確認すること。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	管理会計の基礎となる工業簿記（原価計算）の基礎的な技能・知識を習得する。	日商簿記2級の工業簿記の範囲のうち、個別原価計算まで内容について理解し、検定試験レベルの問題を解けるようになる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		管理会計を通して提供される情報が経営意思決定を行う際に果たす役割を理解した上で、原価管理、予算管理手法を利用できるようになる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
課題提出	30 %	： 毎回の授業内課題、授業後課題については、授業の理解度の観点から評価する。
中間テスト	30 %	： 中間テストについては、授業内容の理解度の観点から評価する。
定期試験	40 %	： 14回授業終了後（定期試験期間）に実施します。評価の観点は、費目別計算、個別原価計算、直接原価計算を正確に計算できるか、CVP分析を理解できているかである。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
TAC簿記検定講座	・よくわかる簿記シリーズ　合格テキスト　日商簿記2級　工業簿記	・TAC出版	・2023　年
TAC簿記検定講座	・よくわかる簿記シリーズ　合格tト	・TAC出版	・2023　年

レーニング　日商簿記2級　工業簿記

参考文献等

金子智朗『「管理会計の基本」がすべてわかる本 第2版』秀和システム　2017年出版

履修上の注意・備考・メッセージ

【履修条件】
管理会計の学習は、財務会計についての一定水準以上の知識が必須となる。会計の学習には積み上げが必須であり、管理会計の前段階となる財務会計の基本が学習できていなくては、管理会計の学習は不可能である。
このため、以下の履修要件いずれかに該当する人が履修登録できることとし、該当しない人は履修登録しないように強く求める。
（履修要件）
・ビジネス会計Ⅰおよびビジネス会計Ⅱを履修し、単位取得していること。
・日商簿記3級以上もしくは同等の検定試験に合格していること、もしくは近日中に受験予定であり鋭意準備中であること。
以上の要件のいずれにも該当しない人は、授業内容を理解することは極めて困難であるため、履修登録しないように強く求める。

【授業に参加する姿勢】
本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学習が求められる。授業外学習課題に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習するように。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 初回講義でお知らせします

場所： 図書館棟5階研究室

備考・注意事項： 質問等はGoogle Classroomの限定公開コメントで随時受付。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**管理会計と原価計算・工業簿記との関係** ① 授業のガイダンス ② 工業簿記と原価計算 ③ 原価とは ④ 製造原価の分類 ⑤ 管理会計と財務会計の相違 ⑥ 管理会計と原価計算・工業簿記との関係	テキストp. 2-p. 11の復習、宿題として指定した問題を解いておくこと。	4時間
第2回	**簿記の基礎の復習・工業簿記の仕組み** ① 簿記の基礎 ② 工業簿記とは ③ 工業簿記の勘定科目 ④ 工業簿記における仕訳の基礎 ⑤ 勘定連絡図	テキストp. 12-p. 17の復習、宿題として指定した問題を解いておくこと。	4時間
第3回	**費目別原価計算①　材料費（分類、材料購入、材料の消費高を実際単価で計算）** ① 材料費の意義 ② 材料費の分類 ③ 材料費の購入 ④ 材料の消費高を実際単価で計算	テキストp. 18-p. 27の復習、宿題として指定した問題を解いておくこと。	4時間
第4回	**費目別原価計算②　材料費（材料消費高を予定単価で計算、棚卸減耗損）、労務費（分類）** ① 材料の消費高を予定単価で計算 ② 月末材料の管理（棚卸減耗損の計算） ③ 労務費の意義 ④ 労務費の分類	テキストp. 27-p. 38の復習、宿題として指定した問題を解いておくこと。	4時間
第5回	**費目別計算③　労務費（賃金の支払い、消費高の計算）** ① 賃金の支払い ② 賃金の消費（労務費の計算） ③ 予定賃率での労務費の計算	テキストp. 39-p. 49の復習、宿題として指定した問題を解いておくこと。	4時間
第6回	**費目別計算④　経費** ① 経費の意義 ② 経費の分類 ③ 経費の消費 ④ 費目別計算の複合問題演習	テキストp. 50-p. 61の復習、宿題として指定した問題を解いておくこと。	4時間
第7回	**個別原価計算①　製造間接費の実際配賦** ① 中間テスト ② 個別原価計算の意義 ③ 製造直接費の賦課 ④ 製造間接費の実際配賦	テキストp. 62-p. 69の復習、宿題として指定した問題を解いておくこと。	4時間
第8回	**個別原価計算②　製造間接費の予定配賦** ① 原価計算表と仕掛品勘定 ② 個別原価計算による仕損 ③ 製造間接費の予定配賦	テキストp. 70-p. 82の復習、宿題として指定した問題を解いておくこと。	4時間
第9回	**個別原価計算③　製造間接費配賦差異の分析** ① 基準操業度と製造間接費予算 ② 公式法変動予算による分析 ③ 固定予算による分析 ④ 個別原価計算の複合問題演習	テキストp. 83-p. 91の復習、宿題として指定した問題を解いておくこと。	4時間
第10回	**財務諸表、直接原価計算の意義と特徴**	テキストp. 194-p. 205およびp. 240-p. 245の復習、宿題として指定した問題を解いておくこと。	4時間

	① 勘定連絡図と財務諸表 ② 製造業の財務諸表 ③ 全部原価計算と直接原価計算		
第11回	**短期利益計画①　固変分解** ① 短期利益計画とは ② 原価の固変分解とは ③ 費目別精査法 ④ 高低点法	テキストp.248-p.250およびp.262-p.264の復習、宿題として指定した問題を解いておくこと。	4時間
第12回	**短期利益計画②　CVP分析** ① CVP分析とは ② CVP図表 ③ CVP分析の解法	テキストp.251-p.259の復習、宿題として指定した問題を解いておくこと。	4時間
第13回	**短期利益計画③　CVP感度分析** ① CVP感度分析 ② 経営レバレッジ係数 ③ 直接原価計算とCVP分析の複合問題演習	テキストp.260-p.269の復習、宿題として指定した問題を解いておくこと。	4時間
第14回	**授業全体の総括** 第1回から第13回の振り返りと要点の再解説	範囲全体の再復習をすること。	4時間

222

授業科目名	**流通論**				
担当教員名	宮﨑崇将				
学年・コース等	2-4年	開講期間	前期・後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

市場経済において私たちは日々必要な財やサービスを購入することで生活している。それは企業の立場からみれば財やサービスを販売することでその経済活動が成立しているということである。そのため、財やサービスの販売＝流通の仕組みや制度の知識は消費者としても、企業人としても必須である。そのため、本講義では私たちの生活を支える流通に関する基本的な知識や考え方を身につけることを目的とする。
本講義は、第１に流通の概要や役割、第２に日本における小売業態の発展、第３に現代の小売戦略について取り上げる。
今年度本講義は、オンライン授業（オンデマンド型）で実施する予定である。PPTファイルの授業資料と講義動画を配信する予定である。LMSを使って、講義内容の理解度を測る。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	流通の役割と日本の小売業態の発展を理解する。	最寄品，買回品，専門品などの商品分類ごとに最適な流通経路や流通チャネルを選択できる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		世のなかの出来事に関心を持ち、新聞記事などの文章から文脈を読み取ることができる。
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		授業で身につけた知識・技術・ノウハウを使って解決策を提示します。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・eラーニング、反転授業

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業の課題	30 %	： 毎回の授業でGoogle Classroomを通じ小テスト形式で回答して頂きます。授業の理解度を評価します。
期末試験	70 %	： 期末試験の課題に対して、授業で学んだ理論や知識を活用し、簡潔かつ論理的に記述しているかどうかを評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

石原武政・竹村正明・細井謙一（2018）『１からの流通論　第2版』碩学舎。ISBN：978-4502283611
原田英生・向山雅夫・渡辺達朗（2021）『ベーシック 流通と商業【第3版】』 有斐閣アルマ。ISBN：978-4641221710

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項： google classroom上で質問に対応する。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス** 授業概要や授業計画、成績評価基準、流通を学ぶことの重要性と意義について概説する。	事前にシラバスを読み、授業内容を確認する	2時間
第2回	**流通の役割** 市場経済における流通の役割について学ぶ。	石原武政・池尾恭一・佐藤善信『商業学〔新版〕』序章を読んでおく	2時間
第3回	**商業の内部編成（１）** 商業の垂直的・水平的な構造について学ぶ。	石原武政・池尾恭一・佐藤善信『商業学〔新版〕』第2章を読んでおく	2時間
第4回	**商業の内部編成（２）** 小売業態の枠組みを売買集中の原理から説明する。	崔相鐵・岸本徹也編『1からの流通システム』第1章を読んでおく	2時間
第5回	**総合スーパー** 小売業態の発展として総合スーパーの仕組みを学ぶ。	崔相鐵・岸本徹也編『1からの流通システム』第5章を読んでおく	2時間
第6回	**コンビニエンスストア(1)単品管理と多頻度小口配送** 小売業態の発展としてコンビニエンスストアの仕組みを学ぶ。特に単品管理と多頻度小口配送について説明する。	崔相鐵・岸本徹也編『1からの流通システム』第7章を読んでおく	2時間
第7回	**講義内容の中間総括と学修到達度の確認** 1回目～6回目までの学修到達度の確認を行う。	1回目～6回目までの内容を整理する	4時間
第8回	**第7回 学修到達度の確認のふりかえり** 第7回に実施する学修到達度の確認を目的としたテストの結果をふりかえる。	第7回の学修到達度の確認の成績を事前にふりかえっておく	2時間
第9回	**コンビニエンスストア(2) フランチャイズシステム** 小売業態の発展としてコンビニエンスストアの仕組みを学ぶ。特にフランチャイズシステムについて説明する。	崔相鐵・岸本徹也編『1からの流通システム』第7章を読んでおく	2時間
第10回	**家電量販店** 小売業態の発展として家電量販店の仕組みを学ぶ。	崔相鐵・岸本徹也編『1からの流通システム』第11章を読んでおく	2時間
第11回	**アパレル流通とSPA** 小売業態の発展としてSPAの仕組みを学ぶ。	崔相鐵・岸本徹也編『1からの流通システム』第14章を読んでおく	2時間
第12回	**商業集積とショッピングセンター** 小売業態の発展としてショッピングセンターの仕組みを学ぶ。	崔相鐵・岸本徹也編『1からの流通システム』第2章を読んでおく	2時間
第13回	**ネット通販** 小売業態の発展としてネット通販の仕組みを学ぶ。	崔相鐵・岸本徹也編『1からの流通システム』第15章を読んでおく	2時間
第14回	**講義内容の総括と学修到達度の確認** 1回目～13回目までの学修到達度の確認と解説を行う。	1回目～13回目までのノートを事前に整理しておく	2時間

222

授業科目名	**商品開発論**				
担当教員名	沼賢二				
学年・コース等	2・3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	総合化学メーカーに29年勤務し、プレハブ住宅、家庭用品、機能樹脂の営業・マーケティング業務を歴任。その間商品開発や事業開発のプロジェクトに携わる（全14回）				

授業概要

近年ヒット商品に恵まれないと言われています。その背景に日本の成熟社会、少子高齢化、市場の成熟化、製品技術の高度化と同質化が指摘されており、商品の差別化が益々難しくなっています。消費文化の多様化が進むに連れて、消費者は現状の商品に飽き足らず、常に新たな商品を求めています。そのためメーカーがヒット商品を生み出すためには、消費者の動機や背景を知り、消費者のニーズを満たし、感動を与え、共感を得ることが大切です。この授業では、新商品を成功に導くために必須の「商品企画」について学びます。商品企画は消費者のニーズを知り、アイデアを考えてコンセプト化し、売れる商品を世のなかに生み出す仕組み作りです。身近な事例を参考にしながら、「商品企画」に対する理解を深めましょう。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	商品企画プロセスを通じて、商品開発に必要な専門知識・技術・ノウハウを学びます。	新商品のアイデアとコンセプトを立案します。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		対象事例の問題は何かを考え、課題を発見します。
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		授業で身につけた知識・技術・ノウハウを使って解決策を提示します。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業後の課題（小テスト）	30 %	： 任意の授業で（全8回予定）Google Classroomを活用して課題を提示します（約30問を予定）。課題は全て選択式で、選択肢から解答を選んで頂きます。この課題（小テスト）ではオンライン動画の視聴の度合いをチェックし、授業の理解度をはかります。
期末試験（レポート）	70 %	： 設問に対して、授業で学んだ理論や知識を活用し、簡潔かつ論理的に記述しているかどうかを評価します。期末レポートで求める水準を満たすためには、継続的な学習が求められます。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
西川英彦・廣田章光[編]	・１からの商品企画	・ 碩学舎	・ 2012 年

参考文献等

石井淳蔵・廣田章光・坂田隆文[編]（2016）「１からのマーケティング・デザイン」碩学舎　ISBN13:978-4-502-20021-2
戸田覚（2013）「新 あのヒット商品のナマの企画書が見たい！」ダイヤモンド社　ISBN13:978-4-478-02423-2
末吉孝生（2014）「コレが欲しかった！と言われる『商品企画』のきほん」翔泳社　ISBN13:978-4-798-13531-1

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項： GoogleクラスルームまたはE-MAILで質問を受け付けます。質問の回答についても同様に、GoogleクラスルームまたはE-MAILにて回答します。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**商品企画プロセス** 商品開発における商品企画の目的と役割を理解し、事例を通して商品企画プロセスの全体的な流れを理解します。	事例の競合商品が何かを調査して下さい。教科書の第2章に目を通してください。	4時間
第2回	**探索的調査（1）インタビュー法** ターゲットとなる消費者が本当に欲しいものが何かを知るための調査方法である「インタビュー法」を学びます。	事例について詳しく分析して下さい。教科書の第3章に目を通してください。	4時間
第3回	**探索的調査（2）観察法** 自分以外の「誰か」が求めているものを見つけだすための調査方法である「観察法」を学びます。	事例の課題や改善点を自身の経験に基づいて考察して下さい。教科書の第4章に目を通してください。	4時間
第4回	**探索的調査（3）リード・ユーザー法** 自分に欲しいものが具体的にどのようなものなのかを、商品企画としてまとめる作業を消費者自身に担ってもらうことを目的とする「リード・ユーザー法」を理解します。	関心のあるものをアイデアにして、プランニングシートに書き出して下さい。教科書の第5章に目を通してください。	4時間
第5回	**コンセプトデザイン（1）アイデア創出** 商品企画において、アイデアをどのようにして創出しているのかを事例を使って学習し、「アイデア発想法」を学習します。	関心のあるものを任意の発想法を使って書き出して下さい。教科書の第6章に目を通してください。	4時間
第6回	**コンセプトデザイン（2）コンセプト開発** 市場の拡大を目的に、新たな顧客や競争の場を創り出す「コンセプト開発」の考え方とその手順を学びます。	類似の競争商品のコンセプト開発を調査して下さい。教科書の第7章に目を通してください。	4時間
第7回	**コンセプトデザイン（3）プロトタイピング** 顧客の悩みの解消や、願望達成のための新しいアイデアを実現するために作成する「試作品（プロトタイピング）」の進め方とその意義を学びます。	浮かんだアイデアを板紙や段ボールなどを使って試作して下さい。教科書の第8章に目を通してください。	4時間
第8回	**検証的調査（1）市場規模の確認** 新商品の販売予想をする際に、購入する人が誰で、その金額と数量がどの程度見込めるかを事前に調べる「市場規模の推定」の手法を学習します。	店頭やインターネットなどから競合商品を調べ、市場占有状況を推察して下さい。教科書の第9章に目を通してください。	4時間
第9回	**検証的調査（2）競合・技術の確認** 創り出したコンセプトが適切であるかどうかをチェックするために、競争相手の商品コンセプトとの違いや、新商品が優位であることを確認するプロセスについて学習します。	好きな商品を思い浮かべて、その競合商品が売れているかどうかを分析してください。教科書の第10章に目を通してください。	4時間
第10回	**探索的調査（3）顧客ニーズの確認** 商品企画において、アイデアやコンセプトが適切であるかどうかを確認する、探索的調査の1つである「顧客のニーズの確認」について学びます。	ネット通販等に広告に掲載されている商品に関するデータを読み、その信頼性を評価してください。教科書の第11章に目を通して下さい。	4時間
第11回	**企画書作成（1）販促提案** 大量に広告を打ち、営業が頻繁に店を周れば直ちに商品が売れるわけではありません。メーカーは、顧客が新商品のコンセプトを正しく理解し、「なるほど」と思ってもらえるような作りこみをすること大切で、そのために必要な「販売提案」の手法を学びます。	類似の業界で、販促提案でV字回復した事例を見つけて下さい。教科書の第12章に目を通して下さい。	4時間
第12回	**企画書作成（2）価格提案** 新しい商品を企画した場合に、価格をいくらに設定すべきか、どのように決定すべきかを体系的に学習します。	事例と類似の商品を見つけ、互いの違いや共通点を分析して下さい。教科書の第13章に目を通してください。	4時間
第13回	**企画書作成（3）チャネル提案**	事例の主力チャネルで販売されている類似商品を見つけて下さい。教科書の第14章に目を通して下さい。	4時間

	新しい商品を売り出す場合、その商品をどの「チャネル（小売店や業態）」で販売するのが適切であるのかについて体系的に学びます。		
第14回	**企画書作成（４）企画書作成** 企画書は、新商品の企画内容を経営陣に伝え、経営陣から了承を得るための大切なツールです。企画書に盛り込む内容はどのようなものか、注意すべき点は何かについて学習します。	任意の商品について簡単な企画書を作成して下さい。教科書の第15章に目を通して下さい。	4時間

232

授業科目名	商品開発論				
担当教員名	髙畑能久				
学年・コース等	2･3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大手総合食品メーカーの中央研究所で研究・商品開発および新規事業を経験。その後、グループ経営本部 経営企画部にて事業戦略の立案および投融資などを担当（全14回）。				

食ビジネス・公共政策コース優先

授業概要

この授業では、新商品の企画・開発から販売促進に至る商品開発の一連のプロセスについて、アイデアシートや商品企画書の作成および、食品・アパレル・医薬品業界におけるヒット商品の開発事例のケーススタディなどを通して学びます。また、商品開発に関する関連法令、知的財産権の遵守やイノベーションの重要性などについても解説します。商品開発に関する専門知識は、経営戦略やマーケティングと共に重要であり、将来、商品開発職を志望している方だけではなく、さまざまな業種や職種で応用することができます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	商品開発の一連のプロセスを通して、新商品の企画・開発に必要な専門知識を学びます。	ペアワークで商品企画書を作成しながら、商品開発に関する理解を深めます。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		市場調査やインタビュー調査などを行うことで、消費者ニーズを収集・分析します。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
授業での発言量・質	20 %	:	発問に対する回答の量と質やペアワークと発表等に積極的に参加しているかどうかを評価します。
レポート課題・提出物	30 %	:	課題に対し、授業で学んだ専門知識を活かして読み手に分かりやすく論述できているかどうかを評価します。
定期試験	50 %	:	専門知識を問われる設問では、授業で学んだ正しい知識に基づき解答できているかどうかを評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

末吉孝生『コレが欲しかった！と言われる「商品企画」のきほん』（翔泳社、2017年、ISBN978-4-7981-3531-1）。
岩田直樹『食品開発の進め方』（幸書房、2015年、ISBN978-4-7821-0211-4）

片岡榮子他『食品開発ガイドブック』（地人書館、2011年、ISBN978-4-8052-0744-4）
その他、必要に応じて紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外の学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習しておくこと。
日頃からテレビ、新聞、雑誌、Webサイト等を活用し、新商品に関するニュースや最新情報の把握に努めてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜２限

場所： 髙畑研究室（西館２階）

備考・注意事項： 授業の前後以外で質問したい場合は、メールにて受け付けます（takahata@osaka-seikei.ac.jp）。件名には必ず、所属・学籍番号・氏名を明記してください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンスと企業における商品開発の必要性** 授業の進め方や評価方法などの説明後、企業が成長していくためには消費者ニーズを先取りし、魅力的な新商品を開発する必要があること、企業における商品の役割と位置づけ、商品ライフサイクル等について学びます。	各自でお気に入りの商品とその理由を考えて来てください。	4時間
第2回	**商品開発プロセス** 商品開発における一連のプロセス（企画、商品設計、製造テスト、販売促進）と担当部門の業務内容を理解します。	各自で興味のある業界を考えて来てください。	4時間
第3回	**商品企画（環境分析、商品コンセプト）** 企業の内部環境と外部環境を分析し、さまざまなアイデアから商品コンセプトを構築していく手法を学びます。	各自で興味のある商品ジャンルを考えて来てください。	4時間
第4回	**市場調査（消費者ニーズ、競合分析）** 市場調査による競合分析、インタビュー調査による消費者ニーズの方法について学びます。	各自で開発したい商品を考えて来てください。	4時間
第5回	**商品アイデア（1）商品名・ターゲット** 商品アイデアシートを策定するため、商品名やターゲット（誰に向けた商品なのか）について考えます。	商品アイデアシートの商品名、ターゲットの欄を記入してください。	4時間
第6回	**商品アイデア（2）キャッチコピー・ベネフィット** 商品アイデアシートを策定するため、キャッチコピーや顧客ベネフィット（便益）について考えます。	商品アイデアトシートのキャッチコピー、ベネフィットの欄を記入してください。	4時間
第7回	**商品アイデア（3）アイデアスケッチ** 商品アイデアシートを策定するため、アイデアスケッチ（色付けも行う）を作成します。	商品アイデアシートのアイデアスケッチの欄を記入してください。	4時間
第8回	**商品企画書（1）作成** 前回までに作成した商品アイデアシートに想定原価、卸売価格、希望小売価格、販売チャネル、プロモーションの方法などを加え、商品企画書を作成します。	各自で商品企画書を作成してください。	4時間
第9回	**ヒット商品の成功事例（1）食品業界** 清涼飲料業界でヒット商品となったカルピス㈱『カルピスウオーター』の成功事例からその要因を学びます。	成功事例を参考にして、各自で商品企画書を作成してください。	4時間
第10回	**ヒット商品の成功事例（2）アパレル・医薬品業界** アパレル業界でヒット商品となった東洋紡績㈱『東洋紡ミラクルケア』と、医薬品業界でヒット商品となったの小林製薬㈱『熱さまシート』の成功事例からそれらの要因を学びます。	成功事例を参考にして、各自で商品企画書を作成してください。	4時間
第11回	**関連法令と知的財産権** 商品開発者にとって欠かせない関連法令（PL法、不当景品類及び不当表示防止法、薬事法など）と知的財産権（特許、実用新案、商標、意匠、著作権など）を学びます。	企業の法令違反や特許訴訟の事例を調べて理解を深めましょう。	4時間
第12回	**商品企画書（2）ブラッシュアップ** これまで学んだ成功事例や関連法令に基づき、第8回目に作成した商品企画書をブラッシュアップします。	各自で商品企画書を完成させてください。	4時間
第13回	**商品企画書（3）プレゼンテーション** 完成した商品企画書を発表し、ペアワークにより良い点、改善が必要な点を考えます。	完成した商品企画書を提出してください。	4時間
第14回	**商品開発とイノベーション** 商品開発の一連のプロセスを振り返ります。また、商品開発者に求められるイノベーション（技術経営、人材育成など）についても考察します。	定期試験は持込不可とし、試験期間中に行います。この授業で学んだことを振り返り、復習しておいてください。	4時間

222

授業科目名	**商品開発論**				
担当教員名	鳥山稔				
学年・コース等	2・3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義、グループワーク				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本講義では、スポーツ用品、eスポーツ用品の開発プロセスを中心に、製品の開発・販売プロセス（市場調査、デザイン・製品企画、ニーズ調査、販売促進、価格・チャネル）を学びます。また、プロダクトやマーケット、消費者行動、態度など、マーケティング理論を用いて理解を深めていきます。特に消費者行動についてはこれまで行われてきた研究を用いて説明をしていきます。

最後に、製品の企画書を作成してもらいます。企画書はグループで作成を行い、事前に企画作成の注意事項や前提条件について共有します。その後、作成した企画書を用いて、実際に製品の提案をグループで行ってもらいます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.現代社会におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	商品開発プロセスに関して理解を深める	商品開発に関する基礎的な知識を獲得し、他者に説明できるようになる
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		商品開発をする上で必要な情報を適切な手法で収集し、得られたデータを客観的な視点を持ち分析することが出来る。
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		客観的な事実に基づいた企画の立案が出来る。
3. DP８.他者とのコミュニケーション		他者に対して自らの意見を述べることができ、他者の意見にも耳を傾けることが出来る。
4. DP９.他者との協調・協働		他者と協調・協働しながら企画書を作成することが出来る。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
レポート課題	50 %	： 全2回のレポート（中間、期末）を行い、商品開発プロセスについての理解度を評価します。
企画書	40 %	： グループで作成した企画書の内容、発表態度についてルーブリックを用いて評価します。
授業態度	10 %	： 授業中の態度、小レポートの提出状況、講義の出席状況を総合的に評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

西川英彦・廣田章光（2012）『1からの商品企画』, 碩学舎

その他の文献については講義内で随時紹介していく。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 木曜日　3限

場所： 鳥山研究室

備考・注意事項： 講義の無い時間帯であればいつでも研究室への訪問は可能です

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**オリエンテーション/商品開発とはなにか** どのようなテーマに触れるかについて説明した後、成績評価の方法や第12～14回まで行う企画書作成について説明する。その後、商品開発プロセスの概要を学ぶ。	授業資料で「商品開発論」の流れを再度確認し、商品開発プロセスについて書籍等を用いて復習する	4時間
第２回	**プロダクトとは** 製品を開発する上で重要な「プロダクトの特性」を理解する。	身近にあるもの（プロダクト）がどのような特性を持つかを調べる	4時間
第３回	**スポーツ、eスポーツ製品の市場** スポーツ製品、eスポーツ製品の市場の発展過程と現在の市場について学ぶ。	自分の興味がある分野、製品の発展過程を調べ、今後どのように発展していくか予想を立てる	4時間
第4回	**製品の価値と価値創造** 製品の価値はどのようにして決まるか、また価値を高めるためにはどのような施策が必要かについて理解を深める。	製品が持つ価値について書籍やネットの情報を用いて復習する	4時間
第５回	**消費者の態度・行動** 製品を手に取る人は何に惹かれるのか、どのような特性を持つ人が購買するか等、消費者の行動や態度について理解を深める。	自身が現在使用している、身近にあるプロダクトについて、なぜ購入したか、なぜ使用しているのかを考え、言語化する	4時間
第６回	**市場調査** 商品を開発する前に行う市場調査の意義と手法（「インタビュー」、「観察法」）について理解する。	市場調査の方法について事前に調べ、メリット、デメリットを考えてくる	4時間
第７回	**市場規模の把握** 実際にどのような方法で市場調査が行われているかを、事例を中心に理解し、SNS、製品販売ページの口コミを用いて実際に消費者のニーズを把握する。	市場規模の把握の必要性を予め考え、結果をどのように理解すれば良いかを書籍等によって事前に学ぶ	4時間
第８回	**アイデア創出の手法と実践** 製品を開発する際に使われているアイデア創出の手法について解説する。その後、実際に手法を試し、製品開発手法について理解を深める。	アイデアの出し方にはどのような手法があり、企画書を作成する上ではどのような考え方が必要かを考える	4時間
第９回	**製品のプロモーション戦略（eスポーツ）** eスポーツ製品のプロモーション手法について理解する。具体的には、オンライン上で行われるプロモーションについて解説をする。	自身が身に着けているもののプロモーション方法について事前に調べておく	4時間
第10回	**価格設定と販売チャネルの設定** 製品の価格はどのように設定されているのかを学ぶ。また、製品が手元に届くまでの最適なチャネル設定について理解を深める。 ※最後に、第11回から実施する企画書の作成について、手順と評価方法について再度確認を行う。	価格がどのような過程を経て設定されているか、手元に届くまでにどのような過程を経ているのかを事前にまとめておく	4時間
第11回	**企画書の作成Ⅰ** 製品の企画作成の注意事項、前提条件を共有した後、グループを決める。その後、製品のアイデア出しと現時点で同様の製品は無いか（競合分析）、ニーズはあるか（ニーズ調査）を行い、用紙にまとめる。	製品のアイデアについて事前に考えておく。復習として、これまで学習した内容を振り返り、次回の企画書作成に活かす	4時間
第12回	**企画書の作成Ⅱ**	製品の販売促進方法について事前に考えておく。復習として、これまで学習した内容を振り返り、次回の企画書作成に活かす。	4時間

	前回作成した企画案を元に内容のブラッシュアップを行う。企画する製品のアイデアが固まった後、販売促進方法についてグループ内で検討する。		
第13回	**グループ発表** グループで作成した企画書を発表する（企画書は模造紙にまとめる予定）。その際に、他グループの良かった点、取り入れたい点等を学生が他者評価する。	どのようにアイデアを伝えるか、最適なプレゼン方法を事前に学ぶ	4時間
第14回	**商品開発論の総まとめ** 第13回で発表した企画書について評価、解説を行った後、本講義の要点を振り返る。	これまでの講義を振り返り、気になった点について書籍やネットを用いて深掘りをする	4時間

222

授業科目名	**ビジネスデータ分析**				
担当教員名	**海野大**				
学年・コース等	2～3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大手通信事業者で新サービス開発，新規事業立ち上げ，マーケティング・リサーチ／顧客データ分析，情報システム企画・要件定義・プロジェクト管理に従事．（全14回）				

授業概要

ビッグデータの時代と言われるように，今日では企業活動の様々な局面で，大量のデータを用いた経営環境等の分析とそれに基づく戦略策定，意思決定が行われるようになっています．この授業では，マーケティング分野のデータを用いて，データの整理や可視化，データの解釈と経営課題の抽出，課題に対する対策の検討と仮説の立案，対策の効果の予測といった，データ分析から戦略提案までの一連の流れを，演習を通じて修得することを目的とします．
演習は表計算ソフトのExcelを使って行います．
なお，この科目は基礎科目である「経営統計入門」を履修済みであることを前提とします．

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	データの分析や予測，およびそれによる経営課題の抽出と解決策の検討	データから情報や知見を得るための手法，データ分析によって経営課題の発見と対策の効果を予測・評価する手法を修得する．
汎用的な力		
1．DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		課題レポートを通して，講義で得た知識を用いて，実際の事例からマーケティングに係る課題を検討できる．
2．DP７.実践の完遂		総合演習課題への取り組みを通じて，データ分析プロセスを完遂する能力を養う．

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
演習課題	50 ％	： 第１回～第１１回までの演習課題の完成度で評価します．
総合演習課題	30 ％	： 総合演習課題（１）～（３）の完成度で評価します．
期末試験（課題レポート）	20 ％	： 総合演習の結果の分析と考察に関するレポートを提出，その完成度で評価します．

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
海野大	・ Excelで学ぶデータ分析の基礎	・ せせらぎ出版	・ 2024 年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

授業や演習では表計算ソフトExcelを使用します．レポート作成ではパワーポイントを使用します．
第1回～第11回の授業では，教科書を使用します．
課題の配布と提出にGoogle Classroom を使用します．
本科目は2単位の科目であるため，平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます．
「授業外学修課題」に取り組むことに加え，その回の授業の内容を丁寧に復習し，次回の授業に向けて予習をしてください．

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 前期：火曜日３時限　後期：水曜日5時限

場所： 研究室（西館３階）

備考・注意事項： 事前にメールでアポイントメントをとるようにしてください．
メールアドレス：unno@g.osaka-seikei.ac.jp

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**データ操作の基本** 授業全体のガイダンスを行います． ビッグデータとは何か，マーケティング分野をはじめとして企業経営でデータがどのように活用されているかについて概説します． Excelでデータベースを作成したり，データを操作するための基本を学びます．	データのフィルタリングや並べ替えなど，データ操作の基本を復習する．	4時間
第2回	**データ分析の基礎（１）データの可視化と分布** Excelを使って，データを集計したりグラフ化することにより，データ全体の特徴を捉える方法を学びます．	グラフ作成やクロス集計の方法について復習する．	4時間
第3回	**データ分析の基礎（２）平均と分散，相関** Excelを使って，分布の代表値である平均と分散，さらに２つのデータ間の相関関係を表す相関係数を求める方法を学びます．	分散の考え方と計算方法，相関関係の考え方と相関係数の計算方法を復習する．	4時間
第4回	**データ分析の基礎（３）推定** 母集団全体を調べることができないとき，母集団から抽出した標本データを使って，元の母集団の代表値を推測する方法を推測統計といいます． 推測統計のうち区間推定の方法をExcelを使って学びます．	母平均，母比率の区間推定の考え方と計算方法を復習する．	4時間
第5回	**データ分析の基礎（４）検定～対応のある２標本の検定** 母集団についての仮説（例えば，母平均がある値に一致している，等）が妥当であるかどうかを検証する方法である仮説検定を，Excelを使って学びます． 今回は，対応のある２標本の検定を行います．	仮説検定の考え方，対応のある2標本の検定方法について復習する．	4時間
第6回	**データ分析の基礎（５）検定～対応のない２標本の検定** 仮説検定の方法をExcelを使って学びます． 今回は，対応のない２標本の検定を行います．	対応のない2標本の検定方法について復習する．	4時間
第7回	**データ分析の基礎（６）分散分析** 標本が３つ以上あるときの検定には，分散分析という方法を使います． ここでは，Excelを使って分散分析の方法を学びます．	分散分析の考え方と計算方法について復習する．	4時間
第8回	**回帰分析（１）単回帰分析～量的データのケース** 統計データを用いて予測する手法である回帰分析の考え方と方法を学びます． ここでは，説明変数が１つだけで，かつ量的変数の場合の回帰分析の方法を，Excelを使って学びます． 説明変数が１つだけの場合を単回帰分析といいます．	回帰分析の考え方と単回帰分析の方法を復習する．	4時間
第9回	**回帰分析（２）単回帰分析～質的データのケース** 変数が質的変数の場合の単回帰分析の方法を学びます． 年齢や性別などの質的変数を用いて回帰分析をする場合は，ダミー変数を使います． Excelを使って質的変数の単回帰分析の方法を学びます．	ダミー変数への変換方法と回帰分析の方法を復習する．	4時間
第10回	**回帰分析（３）重回帰分析～量的データのケース** 説明変数が２つ以上ある回帰分析を重回帰分析といいます．重回帰分析は，単回帰分析と同様の方法で説明変数を２つ以上にすればできます．しかし，最適な説明変数の組み合わせを選択しなければ，よい予測はできません． ここでは，重回帰分析の方法や変数選択の方法などについて，Excelを使って学びます．	重回帰分析の方法，変数選択の考え方と注意点について復習する．	4時間
第11回	**回帰分析（４）重回帰分析～質的データのケース** 説明変数に質的データが含まれるときの重回帰分析を，Excelを使って学びます． 重回帰分析のまとめとして，コンビニの売上データを使った演習課題に取り組みます．	ダミー変数の含まれる重回帰分析の方法について復習する．	4時間
第12回	**総合演習（１）販売予測モデルの予備検討**	目的変数の特徴を理解し，与えられた説明変数で適切な予測が可能か検討する．	4時間

	マーケティングデータから商品の販売数を予測するモデルを，重回帰分析を使って作成します. 今回は，データの特徴を捉え，既存の説明変数を用いた重回帰分析によって，適切なモデルを作ることができるか検討します.		
第13回	**総合演習（２）販売予測モデルの構築** 予備検討を踏まえ，新たに追加すべき説明変数を考え，実際に追加してみます. そして，最適な変数の組み合わせを選択し，販売予測モデルの構築を進めていきます.	変数選択の考え方と方法について復習する.	4時間
第14回	**総合演習（３）結果の考察** 最終的に最適な変数の組み合わせを選択し，販売予測モデルを完成させます. 構築した予測モデルによる予測結果から何が言えるかを考察し，結論としてまとめます.	分析結果と考察をレポートにまとめる.	4時間

222

授業科目名	ビジネスデータ分析				
担当教員名	前田博美				
学年・コース等	2～3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	企業の商品在庫を軽減するための基礎的研究。（全14回）				

授業概要

ビッグデータの時代と言われるように，今日では企業活動の様々な局面で，大量のデータを用いた経営環境等の分析とそれに基づく戦略策定，意思決定が行われるようになっています.
この授業では，マーケティング分野のデータを用いて，データの整理や可視化，データの解釈と経営課題の抽出，課題
に対する対策の検討と仮説の立案，対策の効果の予測といった，データ分析から戦略提案までの一連の流れを，演習を通じて修得することを目的とします.
演習は表計算ソフトのExcelを使って行います.
なお，この科目は基礎科目である「経営統計入門」を履修済みであることを前提とします.

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	データの分析や予測，およびそれによる経営課題の抽出と解決策の検討	データから情報や知見を得るための手法，データ分析によって経営課題の発見と対策の効果を予測・評価する手法を修得する.
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		課題レポートを通して，講義で得た知識を用いて，実際の事例からマーケティングに係る課題を検討できる.
2. DP７.実践の完遂		総合演習課題への取り組みを通じて，データ分析プロセスを完遂する能力を養う.

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
演習課題	50 %	： 第１回～第１１回までの演習課題の完成度で評価します.
総合演習課題	30 %	： 総合演習課題（１）～（３）の完成度で評価します.
期末試験（課題レポート）	20 %	： 総合演習の結果の分析と考察に関するレポートを提出，その完成度で評価します.

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
海野大	・ Excelで学ぶデータ分析の基礎	・ せせらぎ出版	・ 2024 年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

授業や演習では表計算ソフトExcelを使用します．レポート作成ではパワーポイントを使用します．
第1回～第11回の授業では，教科書を使用します．
課題の配布と提出にGoogle Classroom を使用します．
本科目は2単位の科目であるため，平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます．
「授業外学修課題」に取り組むことに加え，その回の授業の内容を丁寧に復習し，次回の授業に向けて予習をしてください．

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後

場所：　教室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**データ操作の基本** 授業全体のガイダンスを行います． ビッグデータとは何か，マーケティング分野をはじめとして企業経営でデータがどのように活用されているかについて概説します． Excelでデータベースを作成したり，データを操作するための基本を学びます．	データのフィルタリングや並べ替えなど，データ操作の基本を復習する．	4時間
第2回	**データ分析の基礎（1）データの可視化と分布** Excelを使って，データを集計したりグラフ化することにより，データ全体の特徴を捉える方法を学びます．	グラフ作成やクロス集計の方法について復習する。	4時間
第3回	**データ分析の基礎（2）平均と分散，相関** Excelを使って，分布の代表値である平均と分散，さらに２つのデータ間の相関関係を表す相関係数を求める方法を学びます．	分散の考え方と計算方法，相関関係の考え方と相関係数の計算方法を復習する．	4時間
第4回	**データ分析の基礎（3）推定** 母集団全体を調べることができないとき，母集団から抽出した標本データを使って，元の母集団の代表値を推測する方法を推測統計といいます． 推測統計のうち区間推定の方法をExcelを使って学びます．	母平均，母比率の区間推定の考え方と計算方法を復習する．	4時間
第5回	**データ分析の基礎（4）検定～対応のある２標本の検定** 母集団についての仮説（例えば，母平均がある値に一致している，等）が妥当であるかどうかを検証する方法である仮説検定を，Excelを使って学びます． 今回は，対応のある２標本の検定を行います．	仮説検定の考え方，対応のある2標本の検定方法について復習する．	4時間
第6回	**データ分析の基礎（5）検定～対応のない２標本の検定** 仮説検定の方法をExcelを使って学びます． 今回は，対応のない２標本の検定を行います．	対応のない2標本の検定方法について復習する．	4時間
第7回	**データ分析の基礎（6）分散分析** 標本が３つ以上あるときの検定には，分散分析という方法を使います． ここでは，Excelを使って分散分析の方法を学びます．	分散分析の考え方と計算方法について復習する．	4時間
第8回	**回帰分析（1）単回帰分析～量的データのケース** 統計データを用いて予測する手法である回帰分析の考え方と方法を学びます． ここでは，説明変数が１つだけで，かつ量的変数の場合の回帰分析の方法を，Excelを使って学びます． 説明変数が１つだけの場合を単回帰分析といいます．	回帰分析の考え方と単回帰分析の方法を復習する。	4時間
第9回	**回帰分析（2）単回帰分析～質的データのケース** 変数が質的変数の場合の単回帰分析の方法を学びます． 年齢や性別などの質的変数を用いて回帰分析をする場合は，ダミー変数を使います． Excelを使って質的変数の単回帰分析の方法を学びます．	ダミー変数への変換方法と回帰分析の方法を復習する．	4時間
第10回	**回帰分析（3）重回帰分析～量的データのケース** 説明変数が２つ以上ある回帰分析を重回帰分析といいます． 重回帰分析は，単回帰分析と同様の方法で説明変数を２つ以上にすればできます． しかし，最適な説明変数の組み合わせを選択しなければ，よい予測はできません． ここでは，重回帰分析の方法や変数選択の方法などについて，Excelを使って学びます．	重回帰分析の方法，変数選択の考え方と注意点について復習する．	4時間
第11回	**回帰分析（4）重回帰分析～質的データのケース** 説明変数に質的データが含まれるときの重回帰分析を，Excelを使って学びます． 重回帰分析のまとめとして，コンビニの売上データを使った演習課題に取り組みます．	ダミー変数の含まれる重回帰分析の方法について復習する．	4時間
第12回	**総合演習（1）販売予測モデルの予備検討**	目的変数の特徴を理解し，与えられた説明変数で適切な予測が可能か検討する．	4時間

	マーケティングデータから商品の販売数を予測するモデルを，重回帰分析を使って作成します. 今回は，データの特徴を捉え，既存の説明変数を用いた重回帰分析によって，適切なモデルを作ることができるか検討します.		
第13回	**総合演習（２）販売予測モデルの構築** 予備検討を踏まえ，新たに追加すべき説明変数を考え，実際に追加してみます. そして，最適な変数の組み合わせを選択し，販売予測モデルの構築を進めていきます.	変数選択の考え方と方法について復習する.	4時間
第14回	**総合演習（３）結果の考察** 最終的に最適な変数の組み合わせを選択し，販売予測モデルを完成させます. 構築した予測モデルによる予測結果から何が言えるかを考察し，結論としてまとめます.	分析結果と考察をレポートにまとめる.	4時間

授業科目名	**ビジネスデータ分析**				
担当教員名	**本間哲也**				
学年・コース等	国際観光ビジネス学科	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大手通信事業者で新サービス開発，新規事業立ち上げ，マーケティング・リサーチ／顧客データ分析，情報システム企画・要件定義・プロジェクト管理に従事．（全14回）				

授業概要

ビッグデータの時代と言われるように，今日では企業活動の様々な局面で，大量のデータを用いた経営環境等の分析とそれに基づく戦略策定，意思決定が行われるようになっています．この授業では，マーケティング分野のデータを用いて，データの整理や可視化，データの解釈と経営課題の抽出，課題に対する対策の検討と仮説の立案，対策の効果の予測といった，データ分析から戦略提案までの一連の流れを，演習を通じて修得することを目的とします．
演習は表計算ソフトのExcelを使って行います．
なお，この科目は基礎科目である「経営統計入門」を履修済みであることを前提とします．

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	データの分析や予測，およびそれによる経営課題の抽出と解決策の検討	データから情報や知見を得るための手法，データ分析によって経営課題の発見と対策の効果を予測・評価する手法を修得する．
汎用的な力		
1．DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		課題レポートを通して，講義で得た知識を用いて，実際の事例からマーケティングに係る課題を検討できる．
2．DP７.実践の完遂		総合演習課題への取り組みを通じて，データ分析プロセスを完遂する能力を養う．

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
演習課題	50 ％	： 第１回～第１１回までの演習課題の完成度で評価します．
総合演習課題	30 ％	： 総合演習課題（１）～（３）の完成度で評価します．
期末試験（課題レポート）	20 ％	： 総合演習の結果の分析と考察に関するレポートを提出，その完成度で評価します．

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
海野大	・ Excelで学ぶデータ分析の基礎	・ せせらぎ出版	・ 2024 年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

授業や演習では表計算ソフトExcelを使用します．レポート作成ではパワーポイントを使用します．
第1回～第11回の授業では，教科書を使用します．
課題の配布と提出にGoogle Classroom を使用します．
本科目は2単位の科目であるため，平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます．
「授業外学修課題」に取り組むことに加え，その回の授業の内容を丁寧に復習し，次回の授業に向けて予習をしてください．

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 前期：火曜日３時限　後期：水曜日5時限

場所： 研究室（西館３階）

備考・注意事項： 事前にメールでアポイントメントをとるようにしてください．
メールアドレス：unno@g.osaka-seikei.ac.jp

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**データ操作の基本** 授業全体のガイダンスを行います． ビッグデータとは何か，マーケティング分野をはじめとして企業経営でデータがどのように活用されているかについて概説します． Excelでデータベースを作成したり，データを操作するための基本を学びます．	データのフィルタリングや並べ替えなど，データ操作の基本を復習する．	4時間
第2回	**データ分析の基礎（１）データの可視化と分布** Excelを使って，データを集計したりグラフ化することにより，データ全体の特徴を捉える方法を学びます．	グラフ作成やクロス集計の方法について復習する．	4時間
第3回	**データ分析の基礎（２）平均と分散，相関** Excelを使って，分布の代表値である平均と分散，さらに２つのデータ間の相関関係を表す相関係数を求める方法を学びます．	分散の考え方と計算方法，相関関係の考え方と相関係数の計算方法を復習する．	4時間
第4回	**データ分析の基礎（３）推定** 母集団全体を調べることができないとき，母集団から抽出した標本データを使って，元の母集団の代表値を推測する方法を推測統計といいます． 推測統計のうち区間推定の方法をExcelを使って学びます．	母平均，母比率の区間推定の考え方と計算方法を復習する．	4時間
第5回	**データ分析の基礎（４）検定～対応のある２標本の検定** 母集団についての仮説（例えば，母平均がある値に一致している，等）が妥当であるかどうかを検証する方法である仮説検定を，Excelを使って学びます． 今回は，対応のある２標本の検定を行います．	仮説検定の考え方，対応のある2標本の検定方法について復習する．	4時間
第6回	**データ分析の基礎（５）検定～対応のない２標本の検定** 仮説検定の方法をExcelを使って学びます． 今回は，対応のない２標本の検定を行います．	対応のない2標本の検定方法について復習する．	4時間
第7回	**データ分析の基礎（６）分散分析** 標本が３つ以上あるときの検定には，分散分析という方法を使います． ここでは，Excelを使って分散分析の方法を学びます．	分散分析の考え方と計算方法について復習する．	4時間
第8回	**回帰分析（１）単回帰分析～量的データのケース** 統計データを用いて予測する手法である回帰分析の考え方と方法を学びます． ここでは，説明変数が１つだけで，かつ量的変数の場合の回帰分析の方法を，Excelを使って学びます． 説明変数が１つだけの場合を単回帰分析といいます．	回帰分析の考え方と単回帰分析の方法を復習する．	4時間
第9回	**回帰分析（２）単回帰分析～質的データのケース** 変数が質的変数の場合の単回帰分析の方法を学びます． 年齢や性別などの質的変数を用いて回帰分析をする場合は，ダミー変数を使います． Excelを使って質的変数の単回帰分析の方法を学びます．	ダミー変数への変換方法と回帰分析の方法を復習する．	4時間
第10回	**回帰分析（３）重回帰分析～量的データのケース** 説明変数が２つ以上ある回帰分析を重回帰分析といいます．重回帰分析は，単回帰分析と同様の方法で説明変数を２つ以上にすればできます．しかし，最適な説明変数の組み合わせを選択しなければ，よい予測はできません． ここでは，重回帰分析の方法や変数選択の方法などについて，Excelを使って学びます．	重回帰分析の方法，変数選択の考え方と注意点について復習する．	4時間
第11回	**回帰分析（４）重回帰分析～質的データのケース** 説明変数に質的データが含まれるときの重回帰分析を，Excelを使って学びます． 重回帰分析のまとめとして，コンビニの売上データを使った演習課題に取り組みます．	ダミー変数の含まれる重回帰分析の方法について復習する．	4時間
第12回	**総合演習（１）販売予測モデルの予備検討**	目的変数の特徴を理解し，与えられた説明変数で適切な予測が可能か検討する．	4時間

	マーケティングデータから商品の販売数を予測するモデルを，重回帰分析を使って作成します. 今回は，データの特徴を捉え，既存の説明変数を用いた重回帰分析によって，適切なモデルを作ることができるか検討します.		
第13回	**総合演習（２）販売予測モデルの構築** 予備検討を踏まえ，新たに追加すべき説明変数を考え，実際に追加してみます. そして，最適な変数の組み合わせを選択し，販売予測モデルの構築を進めていきます.	変数選択の考え方と方法について復習する.	4時間
第14回	**総合演習（３）結果の考察** 最終的に最適な変数の組み合わせを選択し，販売予測モデルを完成させます. 構築した予測モデルによる予測結果から何が言えるかを考察し，結論としてまとめます.	分析結果と考察をレポートにまとめる.	4時間

222

授業科目名	**専門インターンシップ**				
担当教員名	青野桃子・大塚康央・鳥山稔・荒木俊之・丸朋子・古川拓也				
学年・コース等	2年・3年	開講期間	前期／後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本科目では、大学における専門科目の学修と社会での経験とを結びつけることで、大学における学修を深化させ新たな学習意欲を喚起すること、また、自己の職業適性や将来設計について考える機会を得て主体的な職業選択の意識を育むことを目的としています。事前学習では、実習先企業･団体の概要調査や業界研究、実社会で求められる基本的マナーの研修などを行うとともに、実習期間の達成目標を明確にするために｢インターンシップ･ポートフォリオ｣を作成します。就業体験先では、それぞれのプログラムに従って、実働5～10日間の実習に取り組みます。事後学習では、実習を振り返り履修生同士での意見交換を行うとともに、各自が研修結果をまとめ、成果と自己成長の視覚化と言語化のためにプレゼンテーションを行います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	専門分野に関連した企業の研究と事前学習	受け入れ企業の事業分野と業務に関する知識、必要とされるスキルについて十分に理解できる。
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	専門分野に関連した企業での実習と事後学習	受け入れ企業での業務実践を通じて、必要な知識・技能を習得しながら自らの課題を明らかにできる。

汎用的な力	
1. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み	業務を遂行しながら、業務特性と自己の能力・行動を分析し課題を整理できる。
2. DP７.実践の完遂	目標を具体的に設定し、その取り組みの成果を言語化し、自己成長を明確化できる。
3. DP８.他者とのコミュニケーション	自らの意思や役割、業務成果などを分かりやすく伝えることができる。
4. DP９.他者との協調・協働	グループや組織内で、自身の役割を理解して、その役割を遂行し、組織目的達成に向けてメンバーと協働することができる。
5. DP10.忠恕の心	実習の現場やグループでの課題への取り組みにおいて、常に誠実さと思いやりを絶やさず、周りから信用され、頼りにされる人になることを目指す。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
インターシップ・ポートフォリオ	50 %	： 事前･事後学修への取組み度。受入先での就業体験目的の把握レベル、及び受入先やその関連業界の事前調査の内容。就業体験内容の整理と習得した知識・技能並びに自らの課題の明確化、自己目標の達成度。
受入企業・団体による評価	30 %	： 受け入れ企業での就業態度や業務の理解と遂行、その際の自己の役割認識や協同・連携の度合い。
発表会でのプレゼンテーション		： 自身の学修内容と課題をインターンシップでの実習内容を結び付けた形で、分かりやすく伝えてい

るかどうか。

20　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

参考文献等は特に指定しないが、受け入れ先企業・団体の概要・業界知識などが掲載された専門誌や書籍、有価証券報告書等。インターネット検索による受け入れ企業や関連業界内容の整理、就職関連ウェブサイト。

履修上の注意・備考・メッセージ

１．本科目は2単位の科目であるため、全体で90時間の学修が求められます。
２．履修上限単位には含まれません。
３．実習参加にあたっては、学業成績（主にGPA）とアドバイザー教員の推薦を参考に、学内選考を通過する必要があります。場合によっては、受入先企業等の面接等が実施されることもあります。
４．事後学修集中講義は夏季休暇中や土曜日にも実施されます。あらかじめ日程を確認し、必ず出席してください。
５．マナー研修やインターンシップ報告会、及びそのリハーサルはスーツ着用です。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　担当によって異なる（初回授業で案内）

場所：　担当教員の研究室

備考・注意事項：　担当教員のオフィスアワーにおいて質問・相談などを受け付けます。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**インターンシップの意義（ガイダンス授業）** インターンシップの現状とそのメリットについて学びます。自身のインターンシップに参加する目的について考えてもらい、目標の大枠決定のサポートをします。実習先企業に提出するプロフィールシート、並びにインターンシップ・ポートフォリオのフォーマットを提示し、その作成方法を説明します。	「インターンシップ・ポートフォリオ」のフォーマットに従い、「自己目標」の初回入力をする。	4時間
第2回	**事前学修（１）業界･実習先企業の研究** 実習先企業の強み・弱みや企業を取り巻く環境について調べ、企業研究シートにまとめ理解を深めます。併せて、名刺作成アプリについて説明し、作成準備をします。	名刺を作成し、その扱い方のマナー研修に備える。	4時間
第3回	**事前学修（２）プロフィールシートの作成** 自己PRや実習の志望動機の書き方や基本マナーを学び、実習先に提出するプロフィールシートを作成します。	プロフィールシートを仕上げ、アドバイザーに提出し添削を受ける。	4時間
第4回	**事前学修（３）マナー研修（社会人マナーの意義と実践）** 社会人としての基本的マナーとその意義を考え、実践する際の心構えやポイントについて学びます。（スーツ着用） ※この授業は学外講師のスケジュールにより日程が変更されることがあります。	学んだマナーについて振り返るとともに、日常的に実践を繰り返す。	4時間
第5回	**事前学修（４）「インターンシップ・ポートフォリオ」の作成①（意義の確認と目標の明確化）** インターンシップ・ポートフォリオ作成の意義と作成要領を詳説します。第1回授業外課題で作成した「自己目標」の素案を、担当教員の指導を受け、各自の実習先企業が求める内容に沿った形で具体化します。	作成中の「インターンシップ･ポートフォリオ」の内容を再点検し、次回の授業に備える。	4時間
第6回	**事前学修（５）「インターンシップ・ポートフォリオ」の作成②（仮説に基づく試案の作成）** 実習結果について仮説を立て、担当教員の指導の下、具体的な成果と自己成長の記載を試みます。実習前後のマナーやお礼メールの基本を学んだ後、持参提出物の確認を含めて実習直前チェックを実施します。	実習前「インターンシップ･ポートフォリオ」を最終確認の上、期限内に提出する。	4時間
第7回	**就業体験（実習）：前半** 企業等での実習 ― 受入先企業に赴き、前半の実地研修。	就業体験日誌を記入し、受け入れ先の担当の方からコメントをいただく。	4時間
第8回	**就業体験（実習）：後半** 企業等での実習 ― 受入先企業に赴き、後半の実地研修。（合計で原則70時間）	就業体験日誌を記入し、受け入れ先の担当の方からコメントをいただく。お礼状は、担当教員の下書きチェックを受け、就業体験終了後速やかに送付する。	4時間
第9回	**事後学修(1)「インターンシップ･ポートフォリオ」の作成③（仕上げ）** 各自の就業体験について振り返り、整理をしながら、自身のインターンシップ･ポートフォリオを仕上げる。	完成した「インターンシップ･ポートフォリオ」について、目標設定から自己成長までの一連の流れを、筋道を立てて説明できるよう準備をする。	4時間
第10回	**事後学修(2)「インターンシップ・ポートフォリオ」の共有と修正** 同一就業体験先、あるいは混成のグループに分かれて発表をする。相互評価による気付きを通して改善点を明確にする。	明確になった改善点を反映させ、自身の「インターンシップ･ポートフォリオ」の最終仕上げをする。	4時間

第11回	**事後学修(3) プレゼン資料の作成** 担当教員のアドバイスを受けながら、就業体験先別にプレゼンテーション用のスライドを作成する。	第11回と12回は同日に実施するため、第12回目の授業外課題に集約する。	4時間
第12回	**事後学修(4) プレゼン資料のリハーサル** プレゼン資料案が完成したグループからリハーサルを実施する。学生相互並びに教員も入れてアドバイスを出し合う。	指摘された点をよく検討した上、修正するとともに、プレゼン資料の細部のチェックを行う。	4時間
第13回	**事後学修(5) プレゼンテーション①（前半グループの発表）** グループ毎にプレゼンテーションを実施する。チームメンバー全員がそれぞれの担当部分を発表し、リーダーが全体をまとめるという形式をとる。発表中の内容の相互評価にくわえて、発表後には指名した他チームに質問と感想をお願いし、全員にとって新しい気付きと学びの時間とする。	第１３回と１４回は続けて実施するため、第１４回目の授業外学修課題に集約する。	4時間
第14回	**事後学修(6) プレゼンテーション②（後半グループの発表）** 前半と同じ内容と進行で、残りの全チームのプレゼンテーションを実施する。その後、教員による本科目全体の振り返りと総括で締めくくる。	インターンシップ全体の振り返りを行い、就職活動における自己アピールのポイントの一つとして整理する。	4時間

222

授業科目名	**経営特論Ⅰ**				
担当教員名	國方太司・菅文彦・澤田彩・白濱孝之				
学年・コース等	2年・3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

日本や世界を取り巻く環境は大きな変革期にあります。経済発展や情報技術の進歩により人々の生活が豊かになり、便利になりました。一方、社会での格差増大や分断の危機が訪れたり、地域紛争、グローバルサウスの台頭など、私たちが生きる未来が抱える課題、一緒に解決にむけて取り組むべき課題がたくさんあります。地球規模で考え、自分たちが行動すべきことを考え、持続可能な社会を創り出すために、世界の動きを正しく見極めることが必要です。　各界を代表する著名な先生方による講演会「未来展望セミナー」において世界が直面する課題をについて掘り下げ、今後の日本のあるべき姿を考える予定です。本講義は、「未来展望セミナー」で扱う重要なテーマについて、グループワークや個人での分析・検討を通して、それぞれのテーマの課題、問題点を整理し、各自が主体的・積極的に自らの考えや解決策を形成することを目的にしています。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	世界、日本が直面している課題に関する知識	インターネット、書籍等の情報をもとに、課題に関する特徴的な動向を理解できる。
2. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	世界、日本が直面する課題に関する対応策を検討する	収集した情報をもとに、情報を解釈して、課題に対する対応策・判断をまとめることができる
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		収集した情報から、特徴的な課題を発見できる
2. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		自分の役割を理解し、指定された形式で資料を作成できる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
課題についての調査レポート	30 %	： 内容の妥当性と論理的構成（資料に基づいた意見構成）について、ルーブリックに基づき、4段階で評価します。
テーマに関する発表とまとめ	30 %	： 各テーマについて、グループ内での議論のまとめと各自の意見について、ルーブリックに基づき、4段階で評価します。
「未来展望セミナー」要約シート	30 %	： ４回実施の「未来展望セミナー」に関する要約内容の妥当性について、４段階で評価します。
「振り返り」レポート	10 %	： 「学びに向かう態度」について４つの観点（計画、振り返り、改善、関連付け）に基づき、４段階で評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

書籍
河合雅司『未来の年表 業界大変化 瀬戸際の日本で起きること』（講談社現代新書　2022年）ISBN:978-4065302507
河合雅司『縮んで勝つ: 人口減少日本の活路』（小学館新書　2024年）　ISBN:978-4098254774
小川進『QRコードの奇跡: モノづくり集団の発想転換が革新を生んだ』（東洋経済新聞社　2020年）
　ISBN: 978-4492534199)
Ｓジャイシャンカル『インド外交の流儀：先行き不透明な世界に向けた戦略』（白水社 2022年）
　ISBN: 978-4560094709
雑誌
出川展恒「ネタニヤフ政権と対ハマス戦争」『海外事情』拓殖大学海外事情研究所　2024年3.4月号
WEB
原昌宏『QRコードの開発と普及』（シンセシオロジー Vol.12　No.1 PP19-27（2019））
https://www.aist.go.jp/pdf/aist_j/synthesiology/vol12_01/
vol12_01_p19_p27.pdf

履修上の注意・備考・メッセージ

１．本講義の受講者は2025年度「未来展望セミナー」への出席を前提としています。
　　次の日程で開催される同セミナー（オンライン実施）に必ず出席すること。
　　開催日程：5月16日（金）、6月20日（金）、7月18日（金）、9月12日（木）（18時30分～20時）
２．本講義の受講者の選抜については通算GPAの値を参考にする。
３．受講者は各自の役割を認識し、グループワークに貢献することを責務とする。
４．協同作業でプレゼンテーション資料作成のためPC持参を求める。また、PCの基礎的な操作能力をを求める。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　火曜日　３時限

場所：　國方研究室（西館３階）等

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**オリエンテーション・データ・事実に基づく世界の理解** 気候変動、地域紛争、貿易のブロック化など生態系、政治、経済など不安定な状況が続いています。私たちの住む世界は悪い方向に向かっているのでしょうか。私たちの思い込みでなく、データや事実に基づいて考えることの大切さを考えます。	･日本の人口減少が社会や経済に与える影響について、以下の観点を調査しレポートを提出する。 ①　労働市場への影響 ②　地域社会への影響 （過疎化、地域格差） ③　経済全体への影響 （消費市場、年金制度、公共サービス）	4時間
第２回	**人口減少日本の活路＃１　導入と課題提示** 日本の人口減少に関するデータ(出生率、死亡率、高齢化率、地域別の人口動向)を参考に、社会構造の変化、経済への影響について次の観点から提案を考えます。 ①地方創生：若者の地方移住やリモートワーク拡大の可能性 ②テクノロジー：AIやロボットによる労働力補完、高齢者支援のデジタル化 ③移民政策：外国人労働者や移住者の受け入れ環境整備 ④家族支援：出生率向上のための子育て支援制度の強化 ⑤社会保障制度：高齢化社会に対応した年金や医療制度の見直し ⑥教育改革：若者のキャリア育成や人口減少に対応した新しい教育プログラム	グループで決めた観点に基づき、日本の人口減少に対する解決策のアイデアを考えます。（対象者、必要な政策支援、関与する人々、提案の期待される効果と新たな問題点を含む）	4時間
第３回	**人口減少日本の活路＃２　ディスカッション活動　（ＰＣ持参）** グループでテーマごとの解決策を考えます。 各自が検討した案を検討し、グループとして提案をまとめます	各グループでプレゼンテーション資料(5分から8分程度)を作成	4時間
第４回	**人口減少日本の活路＃３　発表とまとめ（PC持参）** 各グループの提案を発表します。他グループからの質問・コメントを参考に、提案の改善点を考えます。	他グループからの質問、コメントを参考に提案を修正し各自がレポートを作成します。	4時間
第5回	**社会を変えたQRコードの原点と成長＃１　導入と課題提示** QRコードの仕組みを説明します。 ＱＲコードの活用例を調べます。（決済、商品のトレーサビリティ、広告、観光案内、医療分野など）	ＱＲコードの具体的な活用例を3例調べ、それぞれの利点や課題を200字から300字でまとめます。また、QRコードを利用する可能性ある分野を提案します。	4時間
第６回	**社会を変えたQRコードの原点と成長＃２　ディスカッション活動(PC持参)** 現在のＱＲコードの活用例を参考に、新しい利用シーンを検討します。 ①利用目的：どんな問題を解決するか ②使用方法：ユーザーがどのように利用するか ③技術的要件：必要な技術やインフラ ④コストと収益：初期投資と維持費用	各グループで議論した内容をプレゼンテーション資料としてまとめる。（グループで分担作業）	4時間
第７回	**社会を変えたQRコードの原点と成長＃３　発表とまとめ（PC持参）**	各グループの発表を参考に、「ＱＲコードの新たな利用シーンの発掘」レポートを作成。	4時間

	各グループの提案を発表します。他グループからの質問・コメントを参考に、提案の改善点を考えます。		
第８回	**インド政治・経済・社会の過去・現在そして未来＃１　導入と課題** インドの概要（政治体制、経済規模、主要産業、人口構成、社会的多様性）を説明します。グループごとの以下のテーマで調査します。 ①政治：民主主義の運営、地域間格差、汚職問題 ②経済：成長産業（IT,製造業）、農業問題、貧富の差 ③社会：教育、ジェンダー格差、カースト制度の影響	インドの現状を各グループのテーマに従って調査します。	4時間
第９回	**インド政治・経済・社会の過去・現在そして未来＃２ ディスカション活動（PC持参）** 各自が調べたインドの現状を各グループで共有します。次の観点からインドの課題解決の提案を考えます。 ①インフラ整備：農村部のスマートシティ化計画 ②ＩＴ活用：教育分野のeラーニング拡大 ③環境問題：再生可能エネルギー普及策 ④観光業：インド文化のブランド化による観光政策 ⑤地域経済：地域産業をグローバル市場に結び付けるエコシステムの構築 ⑥女性支援：女性起業家支援プログラム ⑦貿易政策：新興市場との貿易促進政策	各グループで議論した内容をプレゼンテーション資料としてまとめる。（グループで分担作業）	4時間
第10回	**インド政治・経済・社会の過去・現在そして未来＃３　発表とまとめ(PC持参)** 各グループの発表を参考に、「インドの課題解決の私の提案」レポートを作成。	各グループの発表を参考に、「インドの課題解決の私の提案」レポートを作成。	4時間
第11回	**複雑化する中東・イスラム地域情勢を読む＃１　導入と課題** 中東地域の主要国（サウジアラビア、イラン、トルコなど）の政治、経済、社会について説明します。次の観点から課題解決の提案を考えます。 ①経済多様化：脱石油経済の促進 ②環境問題：砂漠化対策や再生可能エネルギーの活用 ③教育・社会：ジェンダー平等を進める教育支援プログラム ④貿易促進：中東地域と日本をつなぐ貿易ネットワーク構築 ⑤文化交流：イスラム文化の理解を促進する交際交流プログラム	中東やイスラム文化圏における特徴的な文化や制度について調査し500字程度で報告する。さらに日本と中東の連携の可能性のある分野を1つ考え、その理由を200字で報告する。	4時間
第12回	**複雑化する中東・イスラム地域情勢を読む＃２　ディスカション活動(PC持参)** 学生が提案した連携可能な分野をグループで共有し、日本と中東の具体的な連携（協力）の方法を提案する。（エネルギー関連の経済協力は除く）	各グループで議論した内容をプレゼンテーション資料としてまとめる。（グループで分担作業）	4時間
第13回	**複雑化する中東・イスラム地域情勢を読む＃３　発表とまとめ(PC持参)** 前回のディスカション活動をまとめて、各グループが議論した結果を発表する。	各グループの発表を参考に、「中東地域との関係構築」レポートを作成。	4時間
第14回	**「振り返り」活動** 個人活動と協同活動の繰り返しにより、各自振り返りを行う。 振り返りは4つの観点で実施する。 ①計画性：見通しを立てて、調査等を実施したか ②振り返り：他人の意見や、進め方を参考に自分の学び方を振り返ることが出来たか ③関連付け：自分の調査した内容と、他人が調査した内容を県連付け、自分の考えを発展させることが出来たか。 ④改善：議論を通して、自分の学び方などを改善できたか	振り返りシートを作成する。	4時間

222

授業科目名	**経営特論Ⅱ**				
担当教員名	國方太司・澤田彩・白濱孝之・林悠太				
学年・コース等	2年・3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

日本や世界を取り巻く環境は大きな変革期にあります。経済発展や情報技術の進歩により人々の生活が豊かになり、便利になりました。一方、人口移動で地方自治体の運営が難しくなる、地域紛争による安全保障、不安定な経済情勢など、私たちが生きる未来には解決すべき課題、一緒に解決にむけて取り組むべき課題がたくさんあります。地球規模で考え、自分たちが行動すべきことを考え、持続可能な社会を創り出すために、日本や世界の動きを正しく見極めることが必要です。　各界を代表する著名な先生方による講演会「未来展望セミナー」において世界が直面する課題をについて掘り下げ、今後の日本のあるべき姿を考える予定です。本講義は、「未来展望セミナー」で扱う重要なテーマについて、グループワークや個人での分析・検討を通して、それぞれのテーマの課題、問題点を整理し、各自が主体的・積極的に自らの考えや解決策を形成することを目的にしています。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	世界、日本が直面している課題に関する知識	インターネット、書籍等の情報をもとに、課題に関する特徴的な動向を理解できる。
2. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	世界、日本が直面する課題に関する対応策を検討する	収集した情報をもとに、それぞれの課題に対する対応策をまとめることができる
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		収集した情報から、特徴的な課題を発見できる
2. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		自分の役割を理解し、指定された形式で資料を作成できる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
課題についての調査レポート	30 %	： 内容の妥当性と論理的構成（資料に基づいた意見構成）について、ルーブリックに基づき、4段階で評価します。
テーマに関する発表とまとめ	30 %	： 各テーマについて、グループ内での議論のまとめと各自の意見について、ルーブリックに基づき、4段階で評価します。
「未来展望セミナー」要約シート	30 %	： ４回実施の「未来展望セミナー」に関する要約内容の妥当性について、４段階で評価します。
「振り返り」レポート	10 %	： 「学びに向かう態度」について４つの観点（計画、振り返り、改善、関連付け）に基づき、４段階で評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

書籍
牧野知弘『家が買えない: 高額化する住まい 商品化する暮らし』（ハヤカワ新書　2024年）
ISBN:978-4153400375
加谷珪一『日本はもはや後進国』（秀和システム　2019年）　ISBN: 978-4798060217
兼原信克、髙見澤　將林『国家の総力』（新潮社　2024年）　ISBN: 978-4106110474
兼原信克『日本人のための安全保障入門』（日経BP日本経済新聞社出版　2023年）　ISBN:『978-4296118205
兼原信克『歴史の教訓』（新潮新書　2020年）　ISBN: 978-4106108624
兼原信克『安全保障戦略』（日本経済新聞社　2021年）　ISBN: 978-4532176969
兼原信克『日本の対中国大戦略』（PHP新書　2021年）　ISBN: 978-4569850924）

雑誌
間々田孝夫(2011)「第三の消費文化」の概念とその意義」応用社会学研究 2011 No 53

WEB
廣瀬涼（2023)「WHOの健康の定義から「消費」を考えるー「必要不可欠ではない消費」に関する覚書」
https://www.nli-research.co.jp/report/detail/id=76096?site=nli
廣瀬涼(2022)「現代消費潮流概論ー消費文化論からみるモノ・記号・コト・トキ・ヒト消費ー」
https://www.nli-research.co.jp/report/detail/id=69930?site=nli

履修上の注意・備考・メッセージ

１．本講義の受講者は2025年度「未来展望セミナー」への出席を前提としています。
　　次の日程で開催される同セミナー（オンライン）に必ず出席すること、
　　開催日程：10月17日（金）、12月5日（金）、1月23日（金）、2月20日（金）（18時30分～20時）
２．本講義の受講者の選抜については通算GPAの値を参考にする。
３．受講者は各自の役割を認識し、グループワークに貢献することを責務とする。
４．協同作業のためPC持参が求められる。また、PCの基本操作能力が求められる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　火曜日　3時限

場所：　國方研究室（西館３階）等

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、協調学習を意識する。(十人十色ゲーム)** 協調学習を進めるうえで、コミュニケーション能力の育成は大切です。「人の意見をよく聞く」、「自分の意見をまとめて分かりやすく伝える」だけでなく、「他人の視座（考え方）」の理解もコミュニケーション能力の大切な要素です。ゲームを通して「他者の視座」を考えてみましょう。	不動産の資産価値に影響を与えると考える要因を3つ挙げ。それぞれについて200字程度で説明する。	4時間
第2回	**不動産の現状と未来＃１　導入と課題提示** 不動産の資産価値を決定する主な要因について検討する。世界および日本の不動産市場の現状・動向と課題を参考に、「不動産の価値は何に依存しているのか」を考える。	日本の不動産市場における注目すべき変化（過去10年間のトレンド）を調査し、300字程度でまとめる。	4時間
第3回	**不動産の現状と未来＃２　ディスカション活動（PC持参）** 不動産市場における変化の要因（技術革新、環境問題、働き方の多様化、都市政策など）について考えます。2つのテーマについて議論します。 ①「新たな技術が不動産価値に与える影響」 ②「都市部と地方の不動産の将来価値の違い」	各グループで議論した内容をプレゼンテーション資料としてまとめる。（グループで分担作業）	4時間
第4回	**不動産の現状と未来＃３　発表とまとめ（PC持参）** 前回のディスカション活動をまとめて、各グループが議論した結果を発表する。	各グループの発表を参考に、「不動産市場の未来について」レポートを作成。	4時間
第5回	**激動の国際情勢と日本＃１　導入と課題提示** グローバルな視点から国際情勢（米国の自国中心主義、台頭する中国、ロシアの動向など）を考え、日本の経済、安全保障、防衛政策の現状を共有し、課題整理します。次に「日本がこれまで依存してきた米国の政策にどのようなリスクがあるか？」を考えます。	国際情勢における日本の立場と課題を300字程度でまとめ、日本が米国以外で協力を強化すべき国や地域について提案し、その理由を述べる。	4時間
第6回	**激動の国際情勢と日本＃２　ディスカション活動（PC持参）** 日本と他国（アジア諸国、欧州諸国など）の政策事例を参考に、「日本が経済、防衛、安全保障の分野でどのようにバランスをとるべきかを」を考え、プレゼンテーション資料を作成します。	各グループで議論した内容をプレゼンテーション資料としてまとめる。（グループで分担作業）	4時間
第7回	**激動の国際情勢と日本＃３　発表とまとめ（PC持参）** 前回のディスカション活動をまとめて、各グループが議論した結果を発表する	各グループの発表を参考に、「国際情勢を踏まえて、日本の政策の優先順位を考える」レポートを作成。	4時間
第8回	**消費文化から読み解くZ世代論＃１　導入と課題**	各自が最近納入した商品やサービスについて、購入前に行った意思決定プロセスを振り返り、300字程度でまとめる	4時間

	Z世代の定義と特徴（ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾈｲﾃｨﾌﾞ、社会意識の高さ、即時性の重視など）を考え、「消費に失敗したくない」という心理を軸に、現代の消費行動（レビュー重視、サブスクリプション利用、比較サイト活動など）を考えます。次に「自分たちが最近行った消費行動で、意思決定に最も影響を与えた要因は何か」を議論します。		
第9回	**消費文化から読み解くZ世代論＃２　ディスカション活動（PC持参）** 消費行動に影響を与える社会的背景（SNSの普及、環境意識、経済的価値化の変化）を考え、消費行動における具体例（リセール市場、体験重視、ブランド選択の基準など）を考え、グループで「Z世代の消費行動を象徴する商品・サービス」についてプレゼン手テーション資料を作成します。	各グループで議論した内容をプレゼンテーション資料としてまとめる。（グループで分担作業）	4時間
第10回	**消費文化から読み解くZ世代論＃３　発表とまとめ（PC持参）** 前回のディスカション活動をまとめて、各グループが議論した結果を発表する。	各グループの発表を参考に、「Z世代の価値観と消費行動の特徴から考える今後の消費行動予測」レポートの作成。	4時間
第11回	**アニメーション業界を中心としたビジネスの仕組みとクリエイターの思考＃１　導入と課題** 日本のアニメーション業界の現状と未来について考えます。日本のアニメーション制作委員会の仕組み（資金調達、集積配分、権利管理）、配信サービス（Netflix,国内のプラットフォーム）の登場がもたらした変化について説明します。 次に「配信サービスの普及が制作委員会のﾋﾞｼﾞﾈｽモデルに与えた影響」を議論します。	制作委員会の仕組みを400字程度でまとめ、その利点と課題を整理します。	4時間
第12回	**アニメーション業界を中心としたビジネスの仕組みとクリエイターの思考＃２　ディスカション活動　（PC持参）** 配信サービスがアニメーション業界に与えた影響を説明します。次に生成AI（絵画生成AIやシナリオAI）がアニメーション作成にもたらす可能性と課題を考えます。 次に「生成AIがもたらす新しいﾋﾞｼﾞﾈｽスキーム（事業の目的を達成するための具体的な計画や仕組）」のプレゼンテーション資料を作成します。	各グループで議論した「生成AIがもたらす新しいビジネススキーム」をプレゼンテーション資料としてまとめる。（グループで分担作業）	4時間
第13回	**アニメーション業界を中心としたビジネスの仕組みとクリエイターの思考＃３　発表とまとめ（PC持参）** 前回のディスカション活動をまとめて、各グループが議論した結果を発表する。	各グループの発表を参考に、「生成AIがもたらす新しいﾋﾞｼﾞﾈｽスキーム」（提案内容、生成AI活用の具体例、業界に与える可能性）についてレポート作成します。	4時間
第14回	**「振り返り」活動** 個人活動と協同活動の繰り返しにより、各自振り返りを行う。 振り返りは4つの観点で実施する。 ①計画性：見通しを立てて、調査等を実施したか ②振り返り：他人の意見や、進め方を参考に自分の学び方を振り返ることが出来たか ③関連付け：自分の調査した内容と、他人が調査した内容を県連付け、自分の考えを発展させることが出来たか。 改善：議論を通して、自分の学び方などを改善できたか。	振り返りシートを作成する。	4時間

222

授業科目名	**人的資源管理論**				
担当教員名	山崎哲弘				
学年・コース等	3年	開講期間	前期／後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	地域総合経済団体にて10年間、人事労務管理全般に関するコンサルティング業務（人事制度改定、採用、育成等）を担当。				

授業概要

企業はヒト・モノ・カネ・情報の４つの経営資源から成り立つとされています。人事管理論や人的資源管理論では、この「ヒト」を研究の対象としています。そこで本講義では、「ヒト」のマネジメント重要性について、理論的な解説を行うとともに、昨今の企業組織において発生しているヒトのマネジメントに関する諸問題について、企業事例から運用の実情を解説します。また人事管理上のトピックスを授業内でディスカッションするとともに、レポート課題として取り上げます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	人事管理	人事管理の基礎知識を習得するとともに、企業組織における人事管理上の各種課題についての理解を深める。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		課題レポート作成を通して、講義で得られ た知識をベースに自らの考えをまとめる。
2. DP８.他者とのコミュニケーション		読み手に理解を促すわかりやすい文書を作成する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
ミニレポート	30 ％	： 原則、毎授業、講義内容に即したミニレポートを実施する。全てのミニレポートの結果を30点満点で評価する
振り返りテスト	30 ％	： 原則、毎授業、前回の講義内容に即した小テストを実施する。全ての小テストトの結果を30点満点で評価する
期末試験	40 ％	： 人的資源管理に関する基礎知識およびその課題について、自らの考えを問う小論文問題を出題し、以下の観点から評価する。１．基礎知識を正しく理解しているか　２．自分の独自の考えを提示できているか

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

奥林康司ほか『入門人的資源管理（第2版）』（中央経済社・2010年）ISBN：978-4-502-67360-3
上林憲雄ほか『人的資源管理』（中央経済社・2016年）ISBN-10 ： 4502169617

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日１限

場所： 西館２階14研究室

備考・注意事項： 月曜日１限をオフィースアワーとしているが、授業前後の質問も歓迎する。その他の連絡の取り方としてEメールで対応する。
（yamasaki-t@g.osaka-seikei.ac.jp）Eメール件名としては「人的資源管理について（氏名、学籍番号）」とすること。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス：ヒトの管理に関わる課題とは** 授業ガイダンスとして、「人事管理」が研究する「ヒト」に関わる問題とはどのような問題かを考える。	配布された参考資料等の復習（小テスト対策）と予習。人事管理の概要を調べる。水ミニレポートを作成する。	4時間
第2回	**採用管理** 組織は人をどのように雇い入れるのかについて、企業の実例を踏まえて解説します。	配布された参考資料等の復習（小テスト対策）と予習。興味のある企業の経営理念や人的資源管理の諸制度を調べ、どのような人間モデル前提としているかを調べる。ミニレポートを作成する。	4時間
第3回	**配置異動管理** 従業員の配置や異動について、企業の実例を踏まえて解説します。	配布された参考資料等の復習（小テスト対策）と予習。興味のある企業のホームページなどから組織構造から人事部門の役割について調べる。ミニレポートを作成する。	4時間
第4回	**能力開発管理** 組織は人をどのように育てるのかについて、日本企業における人材育成方法の特徴とキャリア概念について解説します。	配布された参考資料等の復習（小テスト対策）と予習。興味のある企業のホームページなどから求める人材像や採用基準を調べる。ミニレポートを作成する。	4時間
第5回	**人事評価・考課制度** 組織は人をどのように評価しているのかについて、企業の事例を踏まえて解説します。	配布された参考資料等の復習（小テスト対策）と予習。興味のある企業のホームページなどから、どのような人材育成を行っているか、そのためにどのような取り組みを行っているかを調べる。ミニレポートを作成する。	4時間
第6回	**昇進昇格** 組織は人をどのように処遇するのかについて、「昇進」と「昇格」との違いや昇進の機能について解説します。	配布された参考資料等の復習（小テスト対策）と予習。興味のある企業のホームページなどから、どのような制度となっているかを調べる。ミニレポートを作成する。	4時間
第7回	**報酬管理** 組織は人にどのような報酬を与えるのかについて、メリットとデメリットや金銭的報酬、非金銭的報酬について解説します。	配布された参考資料等の復習（小テスト対策）と予習。外国企業の昇進競争の特徴を調べる。ミニレポートを作成する。	4時間
第8回	**労働時間管理** 企業はどのように従業員の労働時間を管理しているのかについて、日本の法と制度および企業の事例からを解説する。	配布された参考資料等の復習（小テスト対策）と予習。東洋経済やダイヤモンドなどの人事系サイトから興味のある企業の賃金体系について調べる。課題レポートを作成する。	4時間
第9回	**安全衛生管理** 組織は人の安全と健康をどのように守っているのかについて、日本での法と制度および企業の事例からを解説する。	配布された参考資料等の復習（小テスト対策）と予習。東洋経済やダイヤモンドなどの人事系サイトから日本企業の労働時間の傾向と企業の対策を調べる。ミニレポートを作成する。	4時間
第10回	**ダイバーシティマネジメント** 多様化する働く人たちを組織はどう管理するのかについて、日本での法と制度および企業の事例からを解説する。	配布された参考資料等の復習（小テスト対策）と予習。東洋経済やダイヤモンドなどの人事系サイトから日本企業の近年のトピックスを調べる。ミニレポートを作成する。	4時間
第11回	**退職管理** 組織における退職について、リテンション（人材定着）対策を中心に解説する。	配布された参考資料等の復習（小テスト対策）と予習。ミニレポートを作成する。	4時間

第12回	**テレワーク・裁量労働** コロナ禍で取り組みが進んだテレワークなど、多様化する労働時間と場所を組織はどう管理するのかについて、企業の事例から解説する。	配布された参考資料等の復習（小テスト対策）と予習。興味のある企業のホームページなどから、女性活躍に対してどのような取り組みや制度となっているかを調べる。ミニレポートを作成する。	4時間
第13回	**ハラスメント対策** 組織におけるセクシュアルハラスメントやパワーハラスメント対策について、法整備を含めて解説する。	配布された参考資料等の復習（小テスト対策）と予習。『労政時報』や『人材教育』といった人事系の専門雑誌から興味のある企業の裁量労働やテレワークの実態を調べる。ミニレポートを作成する。	4時間
第14回	**まとめ** 人的資源管理論で学んだ内容について、振り返りを行う。	配布された参考資料等の復習（小テスト対策）と予習。東洋経済やダイヤモンドなどの人事系サイトから興味のある企業のワークライフバランス推進の取り組みを調べる。ミニレポートを作成する。	4時間

222

授業科目名	**企業倫理**				
担当教員名	千代原亮一				
学年・コース等	3年	開講期間	前期／後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

「コンプライアンス」「コーポレート・ガバナンス」という言葉が、ごく日常的な用語として日常生活に浸透する一方で、我が国を代表する企業の不正や、多くの人命が失われる痛ましい事故など、様々な不祥事が後を絶たない。株価の急落につながるもの、被害額や賠償額が巨額に上るものなど、企業経営に重大な影響を与えかねない事案も少なくない。

ただし、このような過去の不祥事は、企業倫理について学ぶ上では最良の教材であり、そのデータは、健全な企業社会の発展と安全・安心な市民社会の形成のために有効活用できる。また、それぞれのケースにおける事実関係・発生原因・再発防止策・法的責任・経営責任などを整理し公共財としての不祥事事案のエッセンスを理解することは、様々な組織における不祥事対応（不祥事の未然防止と早期発見、表面化後の危機対応）においても有用である。

そこで、この授業では、現代における社会と企業との関係を考察し、企業に必要不可欠な企業倫理について学ぶことを目的とする。その中で、近年、国際的にも大きな課題として取り上げられている「企業の社会的責任」（CSR）の具体的内容ならびに企業倫理との関係についても考察する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	現代企業の基本的性格を理解するとともに、ビジネス倫理の構築、実践が企業存続に必須であることを認識する。	経営倫理・企業統治に関する基礎概念およびコンプライアンスの意義について説明できる。

汎用的な力	
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用	将来の実社会において、企業の一員として参加する場合に、自らの企業のあり方を主体的に問う能力を醸成する。
2. DP８.他者とのコミュニケーション	素朴な生活実感からでも指摘可能な倫理的問題の発生原因を、社会科学的な構造要因からも摘出できるようになる。
3. DP10.忠恕の心	コンプライアンスの意味について理解し、常に誠をつくし、ひとの立場に立って考え行動することができるようになる。
4. DP７.実践の完遂	コンプライアンスの意味について理解し、それを実践するための手段を自分のものとすることを、諦めずに、最後までやり遂げることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業提出課題	:	毎回の授業課題の答案により問題発見力と実践力を評価する。講義内容を踏まえた上で、一定程度のレベルを超えた試験答案の内容を合格とする。単にテキストや講義資料の内容を丸写しした内容では、合格とはしない。
70 %		
期末レポート課題	:	レポート課題の内容により理解力を評価する。講義内容を踏まえた上で、一定程度のレベルを超えた課題答案の内容を合格とする。単にテキストや講義資料の内容を丸写しした内容では、合格とはしない。

20　%

授業貢献　：　討議などでの発言内容により授業貢献度を評価する。教員との質疑応答、他の受講生とのグループ討議及びディベートへの参加態度について、積極的に発言し、主体的に議論に参加する態度を示した場合に合格とする。

10　%

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
竹内朗・上谷佳宏・上村剛・笹本花生編著	・『企業不祥事インデックス〔第3版〕』	・商事法務	・2024　年

参考文献等

①國廣正『企業不祥事を防ぐ』（日本経済新聞出版・2019年、ISBN：978-4532323035）、②安岡孝司『企業不正の調査報告書を読む ESGの時代に生き残るガバナンスとリスクマネジメント』（日経BP・2020年、ISBN：978-4822289096）、③井上泉『企業不祥事とビジネス倫理―ESG、SDGsの基礎としてのビジネス倫理』（文眞堂・2021年、ISBN：978-4830951466）、④中原翔『社会問題化する組織不祥事: 構築主義と調査可能性の行方』（中央経済グループパブリッシング・2023年、ISBN：978-4502451416）。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
・やむを得ず授業を欠席する場合は、文書にて速やかに届け出ること。
・授業中は、ディスカッションや質疑にも積極的に参加すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　金曜5時限目

場所：　西館3階個人研究室

備考・注意事項：　メールアドレスは、chiyohara@osaka-seikei.ac.jp

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**不正・不祥事のメカニズム** ・不正・不祥事とは何か ・不正・不祥事の種類と実施主体 ・不正のトライアングル ・内部統制の限界と3線モデル	不正・不祥事が発生するメカニズムについて、講義資料を読んでまとめておく。	4時間
第2回	**製品事故・品質偽装・検査不正①（雪印乳業事件を中心に）** ・雪印乳業食中毒 ・六本木ヒルズ回転ドア事故 ・三菱自動車リコール隠し ・不二家消費期限切れ原料使用	テキストの1,3,4,7事件を読み、製品事故・品質偽装・検査不正についての特徴をまとめておく。	4時間
第3回	**製品事故・品質偽装・検査不正②（三菱自動車燃費不正を中心に）** ・東洋ゴム免震積層ゴム検査データ改ざん ・三菱自動車燃費不正 ・神戸製鋼所検査データ改ざん ・日産自動車無資格完成検査	テキストの10,12,13,14事件を読み、製品事故・品質偽装・検査不正についての特徴をまとめておく。	4時間
第4回	**偽装・不当表示** ・赤福表示偽装 ・阪急阪神ホテルズメニュー不実表示 ・雪印種苗種苗法違反 ・レオパレス21共同住宅施工不備	テキストの22,25,27,28事件を読み、偽装・不当表示についての特徴をまとめておく。	4時間
第5回	**やらせ・誤報** ・関西テレビ「発掘！あるある大事典」不実放送 ・朝日新聞吉田調書歪曲報道 ・日本テレビ「世界の果てまでイッテＱ！」企画「でっち上げ」疑惑	テキストの33,36,38事件を読み、メディアにおけるやらせ・誤報についての特徴をまとめておく。	4時間
第6回	**公正取引** ・ダイヤモンド電機カルテル ・東日本大震災高速道路舗装復旧工事談合 ・リニア中央新幹線談合	テキストの44,45,47事件を読み、公正取引に関する不祥事についての特徴をまとめておく。	4時間
第7回	**情報セキュリティに関する不正・不祥事** ・ヤフーBB個人情報流出 ・ベネッセ個人情報流出 ・日本年金機構不正アクセス情報流出 ・リクナビ内定辞退率提供サービス	テキストの48,50,51,52事件を読み、情報セキュリティに関する不祥事についての特徴をまとめておく。	4時間
第8回	**労働・ハラスメント** ・日本マクドナルド名ばかり管理職 ・ゼンショー（すき家）労働環境悪化 ・電通過重労働・過労自殺 ・ジャニーズ事務所性加害問題	テキストの58,62,65,65事件を読み、労働の現場での不祥事、ハラスメントについての特徴をまとめておく。	4時間

第9回	**不正会計・不実開示** ・西武鉄道株式保有割合虚偽記載 ・ライブドア有価証券報告書虚偽記載・偽計 ・メルシャン架空取引 ・オリンパス損失飛ばし・解消	テキストの66,70,75,77事件を読み、不正会計・不実開示についての特徴をまとめておく。	4時間
第10回	**インサイダー取引等** ・村上ファンドインサイダー取引 ・新日本監査法人インサイダー取引 ・カブドットコム証券インサイダー取引 ・SMBC日興證券相場操縦	テキストの90,92,93,97事件を読み、インサイダー取引についての特徴をまとめておく。	4時間
第11回	**反社会的勢力** ・蛇の目ミシン工業利益供与 ・スルガコーポレーションビル立退き業務委託 ・みずほ銀行反社会的勢力向け融資	テキストの98,99,102事件を読み、反社会的勢力に関する事例についての特徴をまとめておく。	4時間
第12回	**交通に関する重大事故** ・JR西日本福知山線列車脱線 ・笹子トンネル天井板落下 ・JR北海道レール検査データ改ざん ・知床遊覧船沈没	テキストの124,126,127,131事件を読み、交通関係の不祥事についての特徴をまとめておく。	4時間
第13回	**賄賂・腐敗** ・関西電力金品受領・不適切発注問題 ・日本大学前理事長ら不正 ・KADOKAWA東京五輪贈賄	テキストの145,149,150事件を読み、賄賂・腐敗事例についての特徴をまとめておく。	4時間
第14回	**まとめ（その他の不正・不祥事事例）** ・大王製紙特別背任 ・アクリフーズ農薬混入 ・王将フードサービス創業家ガバナンス問題 ・ビッグモーター保険金不正請求	テキストの157,160,161,166事件を読み、それぞれの事例についての特徴をまとめておく。	4時間

223

授業科目名	**消費者行動論**				
担当教員名	沼賢二				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	総合化学メーカーに29年勤務し、プレハブ住宅、家庭用品、機能樹脂の営業・マーケティング業務を歴任。その間商品開発や事業開発のプロジェクトに携わる（全14回）				

授業概要

世のなかには数えきれない数の商品が存在し、私たち消費者は日々必要な商品を選択し購入しています。皆さんは欲しいものや必要なものをどのようにして探し・選び・購入して使用していますか？私たち消費者が商品を探索し、購入・消費してから廃棄するまでの一連の行動を「消費者行動」と呼んでいます。この授業では、消費者行動の基本的な理論，知識とプロセスについて学びます。またメーカーはマーケティング戦略に必要な消費者行動をどのように捉え・活用し・実践しているかについての理解を深めます。一見難しい消費者行動の理論や概念をきっちりと理解できるように解りやすく解説します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	消費者行動の情報処理モデルを理解し、企業がどのように活用しているかを学習します	消費者行動のメカニズムを理解し、企業のマーケティング戦略を立案します。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		事象から課題は何であるかを見つけ出します。
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		企業のマーケティング戦略を計画し、立案します。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

日常の学習、授業後の課題（小テスト）、期末試験（レポート）の総合的な学習を求めます。単位の取得は元より、より上位の成績を収められるよう取り組んでください。意欲的な受講生を歓迎します。

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業後の課題（小テスト）	30 %	： 任意の授業で（全8回予定）Google Classroomを活用して課題を提示します（約30問を予定）。課題は全て選択式で、選択肢から解答を選らんで頂きます。この課題（小テスト）ではオンライン動画の視聴の度合いをチェックし、授業の理解度をはかります。
期末試験（レポート）	70 %	： 設問に対して、授業で学んだ理論や知識を活用し、簡潔かつ論理的に記述しているかどうかを評価します。期末レポートで求める水準を満たすためには、継続的な学習が求められます。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
松井剛・西川英彦[編]	・ １からの消費者行動　第2版	・ 碩学舎	・ 2020　年

参考文献等

青木幸弘・新倉貴士・佐々木壮太郎・松下光司（2012）「消費者行動論―マーケティングとブランド構築への応用」　有斐閣アルマ ISBN13:978-4-641-12463-9

池尾恭一・青木幸弘・南知恵子・井上哲浩（2010）「マーケティング」有斐閣　ISBN:978-4-641-05373-1

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項： Googleクラスルームまたは E-MAILで質問を受け付けます。質問の回答についても同様に、Googleクラスルームまたは E-MAILにて回答します。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**イントロダクションと知覚** 最初に消費者行動論の全体構成を説明します。第1回目は、私たちが消費者行動を起こす際に商品やこれに関連する情報を「知覚」する4つのプロセス（露出，注意，組織化，解釈）を学びます。	授業の内容を復習して、教科書の第3章に目を通して下さい。	4時間
第2回	**学習** 2回目は、消費者行動が変容する原因の1つである「学習」について学び、「学習」に関する3つの理論（レスポンデント条件付け，オペラント条件付け、観察学習）について理解します。	授業の内容を復習して、教科書の第4章に目を通して下さい。	4時間
第3回	**記憶** 消費者は商品を選択し購入する際に頭の中の「記憶」を頼りにします。「記憶」は短期記憶から長期記憶に送られるといったように複雑なメカニズムで構成されています。3回目は「記憶」のメカニズムと連想との関係について学びます。	授業の内容を復習して、教科書の第5章に目を通して下さい。	4時間
第4回	**態度** 消費者行動において、消費者の「好き・嫌い」や「良い・悪い」といった「態度」が、商品の選択や購買に影響を与えます。4回目は、「態度」の概念を理解し、消費者がどのような過程を通して「態度」を形成するのかについて学習します。	授業の内容を復習して、教科書の第6章に目を通して下さい。	4時間
第5回	**意思決定** 消費者行動と聞くと、お金を出して商品を購入することをイメージします。消費者の購買行動は買う段階だけでなく、その前後における様々な活動を含み、これら一連のプロセスを「購買意思決定プロセス」と呼んでいます。5回目は、「購買意思決定プロセス」やこれに関わる「製品関与」について学習します。	授業の内容を復習して、教科書の第7章に目を通して下さい。	4時間
第6回	**セグメンテーション** マーケティングでは、消費者の集合体である市場を何らかの基準で分けることがあり、これを「セグメンテーション」と言います。6回目は、基準となる代表的な特性について学んでいきます。	授業の内容を復習して、教科書の第8章に目を通して下さい。	4時間
第7回	**コミュニケーション** 企業は様々な方法を使ってメッセージを発信し、消費者の「態度」を変化させ、買って貰うように説得を試みます。消費者を説得するためのコミュニケーションを「説得的コミュニケーション」と言います。7回目は、「説得的コミュニケーション」が持つ発信源効果とメッセージ効果を理解し、企業がこれらを上手く利用するための「情報精緻化見込みモデル」を学びます。	授業の内容を復習して、教科書の第9章に目を通して下さい。	4時間
第8回	**店頭マーケティング** 8回目は、小売業者の小売店舗内のマーケティング活動に焦点を合わせて、消費者の買い物行動に対する効果的なマーケティング手法について学びます。	授業の内容を復習して、教科書の第10章に目を通して下さい。	4時間
第9回	**アイデンティティ** 「アイデンティティ」とは、ひと言で説明すると「自分とは何か」といった漠然とした概念です。9回目は、「アイデンティティ」と消費の関係性について学習し、「アイデンティティ」の視点から消費者のニーズや特性を理解します。	授業の内容を復習して、教科書の第11章に目を通して下さい。	4時間
第10回	**家族** これまでは個人の消費行動について学んできましたが、第10回目は、「家族」に焦点を合わせて、「家族」の購買意思決定のあり方、家族のライフサイクル、消費者としての子供の社会化について学習します。	授業の内容を復習して、教科書の第12章に目を通して下さい。	4時間
第11回	**集団**	授業の内容を復習して、教科書の第13章に目を通して下さい。	4時間

	友人同士で好きなモノや購入するモノが似ている風景を一度は見かけたことがあると思います。第11回は、友人などの周囲の人々が消費者の好みに及ぼす影響に焦点を合わせて、準拠集団、オピニオン・リーダー、ロコミなどの考え方について学習します。		
第12回	**ステイタス** 12回目は、消費者の自己表現の1つである「ステイタス」に焦点を合わせて、その人が所属する階級やその人の出自を示すシンボルなどについて整理します。特定の商品がどのような「ステータス」を持った消費者に支持されているのか、どのようにイメージ化しているかについて学びます。	授業の内容を復習して教科書の第14章に目を通して下さい。	4時間
第13回	**サブカルチャー** 「サブカルチャー」と聞いて皆さんは何を思い浮かべますか。「サブカルチャー」とは、世代、宗教、人種、民族、趣味といった軸で括られた集団が共有している文化のことを言います。13回目は、「サブカルチャー」における様々な特徴について理解し、「サブカルチャー」の視点から消費者行動や消費者の特性を学習します。	授業の内容を復習して、教科書の第15章に目を通して下さい。	4時間
第14回	**文化** 消費は単にモノを買うことに留まらず、「アイデンティティ」を表現するものでもあります。14回目は、文化と消費、聖なる消費と俗なる消費、儀式としての消費を理解し、消費の文化的側面について学習します。	授業の内容を十分に復習して下さい。	4時間

233

授業科目名	知財マネジメント/知的財産権と法				
担当教員名	千代原亮一				
学年・コース等	3年	開講期間	前期／後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

知財の戦略的活用について学ぶ。
「知財（知的財産）」と聞くと、「専門的すぎて自分には関係ない」「難しくてわからない」「特許なんて将来取らない」と思ってしまう人もいるでしょう。知財が難しく感じるのは「見えない資産」だからであり、実際は意外と身近なものです。
そこで、この授業では、具体的な知財ビジネスの例（なぜ、モーツァルトは名曲を多数生み出したのに貧乏で一生を終えたのか、なぜ、ピカソは7,500億円以上もの資産を遺すことができたのか、なぜ、くまモンは海外からも版権使用許可が殺到しているのか、なぜ、日本の苺の技術は盗まれ220億円の損害が出てしまったのか）を紹介し、知的財産権の最良行使・活用方法を解説します。そして、更に、特許、商標、意匠をはじめとする知財財産の権利化と保護、その運用の意味について理解することを目的とします。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	知的財産に関するビジネス知識の修得	具体的事例の分析を通じて、知財ビジネスに関する基礎知識および基本的な考え方や発想法を身につけることができる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		知的財産に関する素養を備え、公正・公平の観点から、当該分野において現代社会が直面している諸問題に対応できる。
2. DP８.他者とのコミュニケーション		他人の意見や主張を正確に把握し、他人との意見や主張の違いを理解した上で、自分の意見や主張を他人に対して正確に伝えることができる。
3. DP７.実践の完遂		知的財産のマネタイズの理論を理解し、それを実践するための方法論を自分のものとすることを、諦めずに、最後までやり遂げることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期レポート	20 %	： 定期レポート試験の内容により問題発見力と実践力を評価する。講義内容を踏まえた上で、一定程度のレベルを超えたレポート内容を合格とする。単にテキストや講義資料の内容を丸写しした内容では、合格とはしない。
授業中課題	70 %	： 授業中に配布する課題の内容により理解力を評価する。講義内容を踏まえた上で、一定程度のレベルを超えた課題答案の内容を合格とする。単にテキストや講義資料の内容を丸写しした内容では、合格とはしない。
授業貢献		： 討議などでの発言内容により授業貢献度を評価する。教員との質疑応答、他の受講生とのグループ討議及びディベートへの参加態度について、積極的に発言し、主体的に議論に参加する態度を示した場合に合格とする。

10　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

①稲穂健市『こうして知財は炎上する　ビジネスに役立つ13の基礎知識』（NHK出版・2018年、ISBN：978-4140885581）、②久慈直登『経営戦略としての知財』（CCCメディアハウス・2019年、ISBN：978-4484192123）、③正林真之『人生とビジネスを豊かに変える知財マネタイズ入門: 「貧乏モーツァルト」にならないための人生攻略術』（サンライズパブリッシング・2019年、ISBN：978-4434264825）、④山本飛翔『スタートアップの知財戦略：事業成長のための知財の活用と戦略法務』（勁草書房・2020年、ISBN：978-4326403752）。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
・やむを得ず授業を欠席する場合は、文書にて速やかに届け出ること。
・授業中は、ディスカッションや質疑にも積極的に参加すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　金曜5時限目

場所：　西館3階個人研究室

備考・注意事項：　メールアドレスは、chiyohara@osaka-seikei.ac.jp

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション：知財はいかにして価値を生むか** ・なぜモーツァルトが金持ちになれなかったのか ・ずば抜けた才能は無くても、優雅な一生を送ったプッチーニ	知財のマネタイズ（資金化）の意味について調べておこう。	4時間
第2回	**音楽に学ぶ金持ちと貧乏の才（モーツァルトとプッチーニの違い）** ・歴史に名を残すも、貧乏音楽家で生涯を終えたモーツァルト ・オペラこそ金持ちプッチーニの最大の収入源	なぜモーツァルトは金持ちになれず、なぜプッチーニは、ずば抜けた才能は無くても、優雅な一生を送れたのかについて、その理由を調べておこう。	4時間
第3回	**絵画に学ぶ金持ちと貧乏の才（ピカソとゴーギャンの違い）** ・画家としてもビジネスマンとしても天才だったピカソ ・才能では負けなくても収入で負けた貧乏ゴーギャン	「自らの才能を知り、ビジネスにつなげた者だけが生き残る」とは、どういう意味か調べておこう。	4時間
第4回	**印税と商標が生むお金の話** ・貧乏モーツァルト漫画家と金持ちプッチーニ漫画家の天国と地獄 ・人はブランドを愛し、商標にお金を払っている ・色を認めるなら音も認めろ：「お～いお茶」の音商標	「色の商標」「位置の商標」「音の商標」のそれぞれの意味について調べておこう。	4時間
第5回	**著作権が生むお金の話** ・著作物を守った商標権 ・蘇り続けたミッキーマウスの延命措置	アメリカの著1998年作権法延長法が、「ミッキーマウス延長法」と呼ばれる理由について調べておこう。	4時間
第6回	**ネーミング発想に挑戦する①（レジェンド・ネーミングを分析する）** 一度聞いたら忘れられない良いネーミングは、自分の商品のために考え権利化できるようになると、アイディア発想や発明・創作活動が、より豊かに楽しいものになります。ネーミング創作を実践で学びます。	ネーミング対象の分析調査を進めておこう。	4時間
第7回	**ネーミング発想に挑戦する②（ネーミング創作）** 試作の必要も無く、誰でも、どこでも考えられる最も簡便な発明であるネーミングの創作方法を学び、提案してもらいます。	「ネーミング登山マップ」に沿って、ネーミング・コンセプトを考えておこう。	4時間
第8回	**知財ビジネスモデルの勝ちパターン** ・ラーメン界のモーツァルトとプッチーニ ・ハンバーガーではなくポテトで稼ぐマクドナルド ・「インテル」モデルと「ジレット」モデル	「マクドナルドはハンバーガーを売る不動産会社」とは、どういう意味か調べておこう。	4時間
第9回	**特許のアイディアを商品化する①（アイディア出し）** 「課題（生活の中での困りごと）」→「アイディア（課題を解決するための発想）」→「発明（特許）」という、創造的思考の3ステップに沿って、知的財産の活用に挑戦する。	「困りごとマラソン」の手法により、課題を抽出しておこう。	4時間
第10回	**特許のアイディアを商品化する②（提案書作成）** 第9回目の授業で発想したアイディアを基に、商品化のための提案書を作成する	インターネットを使った市場調査のための文案を作成しよう。	4時間

第11回	**地域のアドバンテージをマネーに変える錬金術①（地域団体商標）** ・最下位というナンバーワンを活かす ・非公認貧乏「ゆるキャラ」と、愛されてお金も稼ぐ金持ち「くまモン」 ・農家のこだわりを守る「有田みかん」の商標	地域団体商標の制度について調べておこう。	4時間
第12回	**地域のアドバンテージをマネーに変える錬金術②（知財の海外流出）** ・「うなぎパイ」のひとり勝ちを守る商標登録 ・巨万の富を失った「餡入り生八つ橋」	知財の海外流出による被害事例について調べておこう。	4時間
第13回	**ご当地〇〇を考える①（茨城県はなぜ最下位なのか）** ・なぜ茨城県は都道府県魅力度ランキング47位なのか ・茨城県の魅力を棚卸してみる	地域ブランド最下位となった茨城県の魅力と要因を探ろう。	4時間
第14回	**ご当地〇〇を考える②（茨城県を救え?）** ・小がまとまることで権利を利権に変えられる	魅力度ランキング最下位となった茨城県の地域ブランディングの方策を考えよう。	4時間

223

授業科目名	**特別リレー講義（ザ・プロフェッショナルズ）**				
担当教員名	平賀富一				
学年・コース等	3年・4年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大手保険企業、外務省、シンクタンク2社、格付機関などで企業戦略、国際事業、日本の外交、日本のIT戦略、世界各国の政治経済分析、本邦及び海外の企業の分析等を担当（平賀：全14回）なお本講義に招聘する各講師は、担当する当該授業テーマに関する専門家です。				

授業概要

本授業は，外務省の大使経験者，SDG専門家のシンクタンク所長、大手航空会社の役員経験者の客員教授、大手観光企業の海外駐在および現地拠点経営の経験者および有力シンクタンクの研究員である派遣講師、と内外の重要事項に関する知見や経験の豊かな方々を講師に迎え、日本と世界の外交の現状、国際協力やグローバル展開する航空会社の取り組みやSDGs、航空事業や観光業の動向、異文化経営、少子化等の重要課題についての理解を深め視野を広げることを目標とします。世界情勢の動向を知り、国際政治や経済、グローバル企業等に関心を深め、広い視点から物事を考察する習慣を習得できるよう授業を展開します。さらに各回の講師となる一流の専門人材（ザ・プロフェッショナル）から、人生やキャリアにおける重要点、転換点、エピソード、メッセージなどを直接伺うことは受講者にとって得難い貴重な機会となります。受講者の理解を促進する観点から、本学教員の平賀が導入、解説や補足等を行います。参加メンバーには、単なる受け身の受講姿勢ではなく、積極的な発言・質問、グループ討議へ参画を求めますので、その意欲がある方の参加を求めます。したがって、授業への出席は当然として、授業に積極的に参加する意思・意欲がない方の履修はお勧めしません。本授業はハイブリッド授業（各講師「オンデマンド授業」と「教室での対面授業」の隔週実施）を予定します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	世界・日本における重要点・課題や対処方法等を理解する。	世界・日本における重要点・課題や対処方法等の知識・考え方をベースに各自の業務の実施や課題の対処に活用・応用できる。
汎用的な力		
1. DP８.他者とのコミュニケーション		世界・日本の重要事項・課題について、グループ討議や、意見・コメントの発信で、的確にコミュニケーションできる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・eラーニング、反転授業

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

参加メンバーには、単なる受け身の受講姿勢ではなく、積極的な発言・質問の姿勢と取り組みを求めます。

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

加えて、各講師独自の方針・方式によるフィードバックがあります（各講師から紹介予定）。

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業各回のレポート（リアクションペーパー）	70 %	： 各回の授業の理解度を示す内容、文章表現力を評価します。授業日から1週間の期限後の提出は原則として認めません。
期末レポート	30 %	： 講義の中で、特に関心をもった講師とそのテーマを一つ選択し、習得した知識や考え方等に関するレポートを作成します。その説明力・文章表現力を評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

各講師が、それぞれの講義開始の前までに十分な期間を確保しつつ、課題として読むべき資料、参考とすべき資料などを案内します。

履修上の注意・備考・メッセージ

予定講師

・吉川元偉 客員教授（国際基督教大学特別招聘教授、元国連大使・常駐代表）
・野田 仁 客員教授（元駐ルーマニア特命全権大使）
・川村雅彦 客員教授（（株）Sinc 統合思考研究所 所長・首席研究員、元ニッセイ基礎研究所ESG研究室長）
・岡田晃 客員教授（ANA総合研究所客員研究員、同研究所元社長）
・和泉宏明 講師（株式会社JTB シニアディレクター（前国連世界観光機関(UN Tourism)駐日事務所 企画部長））
・天野馨南子講師（ニッセイ基礎研究所 生活研究部 人口動態シニアリサーチャー）
・平賀富一（大阪成蹊大学 教授、ニッセイ基礎研究所 客員研究員）：本科目のファシリテーターを兼務する。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜日3限

場所：　西館3階44研究室

備考・注意事項：　客員教授等非常勤の講師にはメール等で質問可能とします（必要に応じて平賀がアシスト予定）。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**講義の進め方と受講に当たっての基礎的な情報に関するレクチャー** 外交交渉、外交における政府の役割、SDGｓ、国際航空運送と航空事業、異文化経営、少子化、アジア新興市場などについて、各講師による授業のベースとなる基礎的な情報や論点案、基本文献などを紹介する。履修生は、授業内容を踏まえて、基本的な情報などを各自が調べ、各講師の授業での質問事項を検討し・抽出する。	この時点における各講師への質問事項案などを検討し、その後、次回授業に関する指定資料を読む。	4時間
第2回	**日本の抱える領土問題（元国連大使によるレクチャーと課題の提示）** 下記の項目に関するレクチャーを予定。 1.日本のおかれた位置を知る。日本の地政学的な位置づけを学ぶ。 2.国家の領域とは？国際法の基礎知識を学ぶ。 3.日本の領土をめぐる問題（以下の４つの問題についての歴史と現状） その１：奄美群島、小笠原諸島、沖縄諸島（注:解決済み） その２：北方領土 その３：竹島 その４：尖閣諸島 4.日本の抱える領土問題の解決は可能かについて考える。 第3回で発表してもらう課題および予習事項を説明する。そのための参考文献を提示する。	講義の指定資料を読み、課題・予習事項を学習する。	4時間
第3回	**日本の抱える領土問題　（課題の発表・討議と質問への回答）** 前回の授業内容について、質問に答え、補足解説を行う。与えられた課題についてグループで討議し、クラスで発表・討議する。	日本の抱える領土問題について授業を復習し課題を検討・理解する。第4回の講義に関し、他国（又は地域）で行われるその国内（域内）での選挙の、国際社会や日本への影響等について、日々の公開情報（新聞、テレビ、その他一般的な報道等何でも。また、年間を通じて、たまたま目に入ったものや断片的なものなどで、可。）に関心を向け、また、そこから気のついたことの考察に努める。　（今後特定の参考文献等が与えられる場合には、それも参考とする。）	4時間
第4回	**トランプ大統領第二期政権発足後これまでの米国の主要な転換** 本年１月に発足したトランプ大統領の第二期政権の下で授業の時点までに見られる、アメリカ合衆国の国家運営の基本的な理念や具体的な政策の転換の主要なものを紹介する。特に、国際社会の秩序や各国との間で影響の大きな理念や政策の転換に焦点を当てる。 また、それを基に、翌週の教室での授業のための学修課題とする内容を、具体的に提示する。	日ごろから、トランプ第二期政権の下でのアメリカ合衆国の主要な理念や立場、動向について、それ以前の立場や動向から大きく変化、転換しているものを中心に、関心を持ち、一般に目に触れる情報（伝統的な報道や電子的なニュースサイト、刊行された書籍等）でよいので、把握、理解、考察などに努める。 また、可能であれば、それら変化の大きな背景として、トランプ大統領個人の成長や経歴、人格等について、把握に努めてみる。さらに、関心があれば、アメリカ大統領という職責についても、勉強してみることを勧める。	4時間
第5回	**米国トランプ第二期政権と世界**	上記の授業の内容について、一般に目に触れる情報でよいので、日ごろから広く把握、理解に努める。また、それに対して、国際社会や関係各国（日本を含む。）がとっている立場や措置、その効果等について、同様に広く把握、理解に努める。 さらに、国際社会や各国が今後とることがより望ましい立場や政策があるとすればどのようなものか、考察してみる。	4時間

	前週の授業等を通じて理解したトランプ第二期政権の下でのアメリカ合衆国の理念や政策の大きな転換が、国際社会や各国に及ぼしている影響について考察、理解し、それに対して国際社会や各国がとっている立場や措置について、その是非や効果、今後適切と考えられる方向性や努力などを、考察、議論する。なお、この中には、日本にとっての影響や、それに対して日本がとっている立場や政策、今後望まれる努力のあり方等についての、考察や議論を含める。		
第6回	**グローバル・イシューとしてみたＳＤＧｓと企業の役割（主要点のレクチャーと課題の提示）** 2030年までに持続可能な地球社会の実現をめざすＳＤＧｓについて、17の各ゴール（到達したい姿）と現状のギャップを理解する。そのうえで特定のゴールについて、CSR（自社ビジネスに伴う社会環境へのインパクトに対する責任）とCSV（自社の強みによる課題解決型のビジネス開発）を、企業の業種特性に応じた先進事例を紹介する。次回のグループ討議・発表の段取りを伝える。	SDGsの重要点について復習し、課題について資料を調べ検討する。	4時間
第7回	**グローバル・イシューとしてみたＳＤＧｓと企業の役割（課題の検討・討議と補足解説・質問への回答）** グループごとに指定した仮想の企業（製造業、サービス業、ICT業、金融業 ）について発表・質疑を行う。その後、講師よりコメントする。併せて、サステナビリティに関する企業の経営者や従業員の心構えも解説する。	SDGsの重要点について復習し、次回の講義の指定資料を読む。	4時間
第8回	**国際航空輸送のこれまでと今後の展望** 国際航空輸送の変遷、島国日本における航空輸送について、コロナ前後の訪日外国人の動向も踏まえ、その将来像を説明する。次回の授業でグループ討議、発表を行うための予習事項を提示する。	国際航空運送や航空会社の経営について復習し、課題について資料を調べ検討する。	4時間
第9回	**国際航空輸送のこれまでと今後の展望（課題の検討・討議と補足解説・質問への回答）** 課題についての討議・発表。その後、補足説明および質問への回答を行う。ビジネスパースンとしての心構えなどの講話も含める。	国際航空運送や航空会社の経営について復習し、次回の講義の指定資料を読む。	4時間
第10回	**異文化マネジメントの現場から学ぶ ～現地法人経営のリアル～** 海外四か国９年間の大手観光企業における海外駐在経験の概要を説明。各国の習慣や文化の違いを明示したうえで、次回の授業でグループ討議・発表を行うための予習事項を提示する。	外国と日本の違いについて復習し、課題について資料を調べ検討する。	4時間
	異文化マネジメントの実例から、大手観光企業の現地法人経営で直面する課題や成功の秘訣を解説。現場のリアルな体験を通じた実践的な知識を共有する。		
第12回	**日本の少子化問題に対する誤解の蔓延と科学的解決手法の検討** 社会問題に関してChatGPTなどを用いた「過去の議論のまとめ」検討は、そもそもその問題への「社会の致命的な誤解」がある場合、全く意味をなさなくなる。特に少子化問題に関しては現状、科学的にみて有効な解決手法が導き出される状況になっていない。統計的エビデンスに基づく日本の少子化問題の解決手法を学び、情動的解決に依存しない演繹的解決脳を身に着けることを目標とする。	出生減について、統計的なエビデンスに基づく政策策定（EBPM）について理解する。次回の講義の課題を行う。	4時間
第13回	**日本の少子化問題に対する誤解の蔓延と科学的解決手法の検討（関係地域別解決手法の検討）** 第１２回の授業をもとに、自らの出身地や居住地の少子化問題の解決手法を、グループディスカッションをもとに検討する。	少子化に関する重要事項について復習し、課題について資料を調べ検討する。	4時間
第14回	**本講義全体のまとめ** 本講義全般に関する振り返りとまとめを行う。加えて、その時点に相応しいアジア新興国関連などのトピックスの解説も行う予定。	本講義全体で学んだことや考えた重要事項の振り返りを行う。	4時間

223

授業科目名	**金融経済論**				
担当教員名	大島博文				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	銀行で融資、資産運用、外国為替等の業務を担当。政令市で地域経済・防災・交通・総合計画・統計等の新規施策立案・計画策定・経営業務を経験。公益財団法人であるシンクタンクで地域に関する経済・まちづくり・福祉・環境・防災・災害復興等の政策立案・コンサルティング業務、研修等の人材育成業務を担当。				

授業概要

本授業では、社会において現金や金融商品の流通や運用等に関する仕組みである金融を学ぶとともに、金融が社会全体の経済活動の中で、どのような役割を果たしているかを学ぶ。まず、金融の中で資金提供（出し手）を担う個人や法人の資産運用について学ぶ。具体的には、金融商品として、預貯金、株式、債券等の仕組みを学び、利息や配当などを多く得るための資産運用についての手法等についてケーススタディやシミュレーションを活用しながら学ぶ。またその際に、銀行、証券会社、保険会社など金融機関が果たす役割についても学ぶ。また金融の中で主な資金需要（受け手）の主なプレイヤーとなる企業の財務戦略（コーポレートファイナンス）について、借入金など主要な方法に加え、最近の新たな手法（デリバティブ）等について学ぶ。またその際に金融機関が果たす役割について学ぶ。これからのことにより、金融リテラシーや企業での資金調達業務等の理論的背景や実践手法を学び、一般企業、金融機関への進路に向けた専門性を高める。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	預貯金、株式、債券など金融商品の内容や資産運用手法の理解を深めるとともに、資金調達など企業の財務戦略等について学ぶことで、職務遂行に向けた専門知識や技能を学ぶ。	金融商品の内容や資産運用手法の理解を深めることで金融リテラシーを高めるとともに、企業の財務戦略等を学ぶことで一般企業、金融機関への進路に向けた専門性を高める。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		資産運用や企業の財務戦略における課題を発見するために必要なデータの収集・分析・活用方法等を修得する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
期末試験	40 %	： 金融（資産運用、コーポレートファイナンス等）に関する基本的な事項を問う問題を出題し、その理解度と的確に記述や説明ができているかを基準にして評価する。
授業内レポート（３回）	30 %	： 金融（資産運用、コーポレートファイナンス等）に関する授業内レポートを作成し、「内容理解」「論理性」「独創性」を基準に評価する。
授業への貢献	30 %	： 授業での発表内容、グループワークでの役割など授業への貢献度を評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

家森信善「金融論（第３版）」中央経済社(2023)　(ISBN：978-4502415913)
前田真一郎ほか「変わる時代の金融論」有斐閣(2023)　(ISBN：978-4641151147)

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加えその回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　火曜日５限

場所：　西館3階37研究室

備考・注意事項：　連絡を取りたい場合はメールでも可（oshima@osaka-seikei.ac.jp）

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス、金融とは何かを考える** 授業の進め方 金融とは何かを学ぶ。	参考図書やインターネット、講義中の参考資料等で復習し、金融に関する理解を深める。	4時間
第2回	**金融商品（預貯金・株式・債券等）を学ぶ** 資金の出し手が資産運用する金融商品（預貯金・株式・債券等）の制度や内容を学ぶ。	参考図書やインターネット、講義中の参考資料等で復習し、金融商品に関する理解を深める。	4時間
第3回	**預貯金の仕組みと最近の動向** 預貯金の仕組みと最近の動向について学ぶ。	参考図書やインターネット、講義中の参考資料等で復習し、預貯金に関する理解を深める。	4時間
第4回	**株式の仕組みと最近の動向** 株式の仕組みと最近の動向について学ぶ。	参考図書やインターネット、講義中の参考資料等で復習し、株式に関する理解を深める。	4時間
第5回	**債券の仕組みと最近の動向** 債券の仕組みと最近の動向について学ぶ。	参考図書やインターネット、講義中の参考資料等で復習し、債券に関する理解を深める。	4時間
第6回	**資産運用の理論と実践** 資産運用の理論・実践と最近の動向について学ぶ。	参考図書やインターネット、講義中の参考資料等で復習し、資産運用に関する理解を深める。	4時間
第7回	**【グループワーク】資産運用の実践ワーク** 修得した知識に基づいて、ライフプランニングを考慮しながら資産運用の提案内容を作成する。	参考図書やインターネット、講義中の参考資料等で復習し、資産運用の実践に関する理解を深める。	4時間
第8回	**【グループ発表】資産運用提案の発表** グループワークで作成した資産運用の提案について発表する。	参考図書やインターネット、講義中の参考資料等で復習し、資産運用の実践に関する理解を深める。	4時間
第9回	**コーポレートファイナンスを学ぶ** 資金の主要な受け手である企業のコーポレートファイナンスに関する理論や知識について学ぶ。	参考図書やインターネット、講義中の参考資料等で復習し、コーポレートファイナンスに関する理解を深める。	4時間
第10回	**直接金融と最近の動向** 直接金融の仕組みと最近の動向について学ぶ。	参考図書やインターネット、講義中の参考資料等で復習し、直接金融に関する理解を深める。	4時間
第11回	**間接金融と最近の動向** 間接金融の仕組みと最近の動向について学ぶ。	参考図書やインターネット、講義中の参考資料等で復習し、間接金融に関する理解を深める。	4時間
第12回	**企業の財務戦略と最近の動向** 企業の財務戦略と最近の動向について学ぶ	参考図書やインターネット、講義中の参考資料等で復習し、金融に関する理解を深める。	4時間
第13回	**金融機関の果たす役割** 銀行、証券会社、保険会社など金融機関が果たす役割について学ぶ。	参考図書やインターネット、講義中の参考資料等で復習し、金融機関に関する理解を深める。	4時間
第14回	**授業全体まとめ** 資産運用、コーポレートファイナンスなど授業全体のまとめを行い、知識や技能の定着を図る。	参考図書やインターネット、講義中の参考資料等で授業全体の復習をする。	4時間

223

授業科目名	ビジネスデータ分析応用				
担当教員名	海野大				
学年・コース等	3・4年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大手通信事業者で新サービス開発，新規事業立ち上げ，マーケティング・リサーチ／顧客データ分析，情報システム企画・要件定義・プロジェクト管理に従事．（全14回）				

授業概要

本科目は，経営，マーケティング，金融などの分野におけるさまざまなビジネスデータを分析するための主要な手法を，統計ソフトRを用いて修得することを目的とします．具体的には，データの加工編集や可視化，統計的仮説検定，重回帰分析等のデータ分析方法を学びます．さらに，企業において様々な施策の効果を検証するために用いられている因果探索の手法を学びます．講義は，分析手法について具体的なイメージを掴み，使いどころを理解できるよう，具体的な分析例を交えながら行います．また，授業中および授業外で演習課題に取り組み，手法の特徴や結果の解釈方法，どのようなデータにどの手法を適用すべきかについて理解し，データ分析力の向上を目指します．
本科目の受講にあたり，「経営統計入門」および「ビジネスデータ分析」を履修し単位取得済みであることを条件とします．
毎回の授業ではPCを使うので，必ず各自のPCを持参してください（充電は十分にしておくこと）．

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	データの分析や予測，およびそれによる経営課題の抽出と解決策の検討	データから情報や知見を得るための手法，データ分析によって経営課題の発見と対策の効果を予測・評価するためのより高度な手法を修得する．
汎用的な力		
1．DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		課題レポートを通して，講義で得た知識を用いて，実際の事例からマーケティングに係る課題を検討できる．
2．DP７.実践の完遂		総合演習課題への取り組みを通じて，データ分析プロセスを完遂する能力を養う．

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
演習課題	50 ％	： 第１回～第１１回までの演習課題の完成度で評価します．
総合演習課題	30 ％	： 総合演習課題（１）～（３）の完成度で評価します．
期末試験（課題レポート）	20 ％	： 総合演習の結果の分析と考察に関するレポートを提出，その完成度で評価します．

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

教科書は指定しません．授業に必要な資料やデータは，毎回Google Classroom を使って配布します．
授業や演習ではパソコンを使います．毎回必ず，自分のパソコンを持参してください（充電は十分にしておくこと）．
授業では統計ソフトRを使用します．初回授業で，各自のパソコンにインストールします．
ほかに，表計算ソフトExcelとパワーポイントを使用します．
本科目は2単位の科目であるため，平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます．
「授業外学修課題」に取り組むことに加え，その回の授業の内容を丁寧に復習し，次回の授業に向けて予習をしてください．

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 前期：火曜日３時限　後期：水曜日5時限

場所： 研究室（西館３階）

備考・注意事項： 事前にメールでアポイントメントをとるようにしてください．
メールアドレス：unno@g.osaka-seikei.ac.jp

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**イントロダクション・R/RStudio入門** 授業全体のガイダンスを行い，企業等のDX推進におけるデータ分析の重要性と有効性について概説します． 統計ソフトRの開発環境RStudioを各自のPCに構築し，Rによる基本的なプログラミングや，データ解析に有用なパッケージの活用方法を学びます．	Rの基本的なプログラミング方法を復習し，課題に取り組む．	4時間
第2回	**データの加工編集** 入手したデータは，必ずしも分析に適した形式になっているとは限りません．多くの場合，分析や可視化の目的に応じて，最初にデータを加工・編集する作業が必要となります．ここでは，Rを用いてデータの集計や整形をする方法を学びます．	データの集計・整形方法を復習し，課題に取り組む．	4時間
第3回	**データの要約と可視化** データ分析は，入手したデータを要約と可視化を行い，その特徴や傾向を掴むことから始まります．要約とは，平均値や分散などの代表値と呼ばれる数値によって，データの分布の特徴や傾向を表すことであり，可視化とは散布図や箱ひげ図などを描いてデータの特徴や全体像を直感的に把握することです．ここでは，Rを用いて，データの要約と可視化の方法を学びます．	データの要約，可視化の方法について復習し，課題に取り組む．	4時間
第4回	**統計的仮説検定（1）パラメトリック検定** マーケティング部門でしばしば行われるABテストなど，何らかの施策を実施したら，その有効性を検証する必要があります．その際に，しばしば仮説検定が用いられます．ここでは，ビジネスデータ分析の授業で学んだ仮説検定の基本的な考え方を復習し，Rを用いて代表的な仮説検定の手法を学びます．今回はパラメトリックな仮説検定を扱います．	仮説検定の方法を復習し，課題に取り組む．	4時間
第5回	**統計的仮説検定（2）ノンパラメトリック検定** 前回に引き続き，Rを用いた仮説検定の基本的な考え方と手法を学びます．今回は，ノンパラメトリックな仮説検定を扱います．	ノンパラメトリック検定の方法を復習し，課題に取り組む．	4時間
第6回	**重回帰分析（1）基礎** ある変数（目的変数）の変動を別の複数の変数（説明変数）の変動によって説明，予測する手法である回帰分析について学びます．ここでは，回帰分析の基本的考え方や最小二乗法の基本定理を理解するとともに，重回帰分析でしばしば遭遇する多重共線性や隠れた交絡因子について学びます．そして，Rを用いて回帰分析を行い，出力結果の見方や解釈の方法について学びます．	重回帰分析の方法，結果の見方について復習し，課題に取り組む．	4時間
第7回	**重回帰分析（2）演習** 前回の授業で学んだ重回帰分析の方法を使って，演習問題に取り組みます．	分散分析の考え方と計算方法について復習する．	4時間
第8回	**構造方程式モデリング** 回帰分析では目的変数は1つだけですが，構造方程式モデルを用いると，複数の目的変数を設定できるほか，説明変数相互間の関係についても仮定を置くことができます．さらに，直接観測できない（データを収集できない）要因（潜在変数という）を含めることもでき，多くの変数が互いに影響し合うような複雑な構造を分析できます．ここでは，マーケティング分野で頻繁に活用される構造方程式モデリングの基本的な考え方を学び，Rで実際に行います．	構造方程式モデリングの考え方と分析方法について復習し，課題に取り組む．	4時間
第9回	**因果推論と効果検証** 近年，マーケティング分野を中心，企業が行う販売促進などのプロモーション施策（介入という）などの効果検証に活用されるようになってきた因果推論の基本的考え方と，重回帰分析を用いた効果検証の方法を学びます．	効果検証の考え方，バイアスが生じる理由について復習し，課題に取り組む．	4時間
第10回	**固定効果モデル**	固定効果モデルの考え方を復習し，課題に取り組む．	4時間

	施策（介入）効果に影響を与えると考えられる要因（変数）のデータを観測できないときの効果検証に用いられる固定効果モデルの基本的な考え方と分析手法を学びます．実際の分析は重回帰分析の応用であり，Rで実際に行います．		
第11回	**差分の差分法** 差分の差分法（DID）は，施策（介入）実施群と非実施群について介入前後の差分を取り除くことで，時間変化その他の交絡因子の影響を排除する方法です．DIDの基本的考え方とこれを用いた分析手法を学び，Rで実際に行います．	DIDの考え方を復習し，課題に取り組む．	4時間
第12回	**コンジョイント分析** 意思決定の手法として，商品開発や行政における政策決定などでしばしば活用されるコンジョイント分析は，複数の要因の間にトレードオフの関係が存在するときに，最適な要因の組み合わせを選択するための方法で，重回帰分析を応用した手法です．ここでは，コンジョイント分析の基本的考え方とこれを用いた分析手法を学び，例を使って実際にコンジョイント分析を実施し，Rで分析します．	コンジョイント分析の考え方と手順を復習し，課題に取り組む．	4時間
第13回	**総合演習課題（1）予備検討** オープンデータ若しくは教員が提供するデータを用いて，本科目で学んだ2つ以上の手法を用いて分析し，結果の解釈と施策提案までを行うミニ・データ分析・プロジェクトに取り組みます．今回はプロジェクト・プランを立案し，データの予備的分析を行います．	予備検討を完了させ，プロジェクト・プランを策定する．	4時間
第14回	**総合演習課題（2）分析と考察** 前回の予備的分析結果に基づき，データの分析とその結果の考察を行い，プロジェクト・レポートとしてまとめます．	分析結果と考察をレポートにまとめる．	4時間

231

授業科目名	**現代産業論1**				
担当教員名	李美花				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

企業は生産力を実現する経営主体として、営利追求のために経済財及びサービス生産、配給、販売を遂行する。
本講義では、日本における産業別の特徴と現況、現代企業の仕組みを理解することを目標とする。特に、経営の入門的な授業として、現代産業・企業をめぐる諸問題を中心に経営に関わる基礎知識と具体的な企業事例も交えながら説明をする。適宜、最新の情報を元に講義を行う。
なお、学術的理論や専門用語、概念は覚えているだけでは意味がない。使いこなしてこそ知的意義をもつ。授業外時間に設定した予習と復習課題に取り組むことで高い学習効果が期待できる。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.現代社会におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	日本産業の成り立ちと現状	日本における産業別の特徴と現況、現代企業の仕組みを理解することを目標とする。
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	実務事例を通じて経営的な思考力を身に付ける	経営視点からビジネスの流れを理解する能力が養える
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		物事の因果関係をとらえ、背後にある課題や本質を見極めることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

産業論に関わる基礎知識と具体的な事例も交えながら講義による解説の進行にあわせ、ケーススタディーについて、受講者への問いかけやレポート課題を組み合わせて進めていく。

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
筆記テスト	45 %	： 授業内容をきちんと理解できているかの程度を評価
平常点	35 %	： 平常点（授業時の発言や発表・発言・グーグルクラスルームによる質問など積極的な授業参加を高く評価する
期末課題レポート	20 %	： 自分の意見を論理的に述べているのか、簡潔に文章をまとめているのか、独自性があるのかより評価

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

【参考書】
井原 久光（2008）『テキスト経営学―基礎から最新の理論まで』ミネルヴァ書房
ISBN-10 ： 4623051293
ISBN-13 ： 978-4623051298
小樽商科大学・高大連携チーム（2005）『わかる経営学（15歳からの大学入門）』日本経済評論社
ISBN-10 ： 4818817678
ISBN-13 ： 978-4818817678

履修上の注意・備考・メッセージ

★本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、毎回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
★必ず、毎回の授業の出席状況を各自確認すること
★授業のお知らせや課題などは、グーグルクラスルームを活用する。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日、4時限

場所： 研究室、西館2階

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス：授業スケジュール、成績評価、ビジネス(Business)とは何か？** ビジネス(Business)の概念。ビジネスから連想されること。ビジネスをやる前に準備することについて学習する	授業のまとめ、取引と貿易、需要と供給(経済学)について調べる	4時間
第2回	**産業論の基礎：①取引と貿易②需要と供給③ビジネスモデル** 貿易は、国内取引と違って商品の授受と代金の支払いを同時に行うことは困難であり、時間差が生じる。その概念を理解していただき、なぜ企業（会社）が存在するのかその意義と役割、形について学習する。 競争市場では、需要と供給が一致することにより市場価格と取引数量が決定される。 その需要と供給の基本概念を理解していただき、企業の特徴と役割について学習する。	授業のまとめ、ドラッカーのマネジメント論について調べる	4時間
第3回	**経営の理解（1）：ドラッカーのマネジメント論** マネジメントの目的、ドラッカーによるマネジメント理論の概要、マネジメントに必要なスキル、マネジメントの種類	授業のまとめ、もしドラのあらすじを調べる	4時間
第4回	**経営の理解（2）：#参考映像「もしドラ」** ドラッカーのマネジメントについてまとめ ドラッカー『マネジメント』を映画化した「もしドラ」を用いり、マネジメントの仕事について学習する。 #参考映像「もしドラ」 -#映像：もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら	授業のまとめ、企業と会社の違いについて調べる	4時間
第5回	**企業の特徴と役割** 企業とは、経済活動を主目的とした事業組織のことである。業を企てる事業の案を考えて実行する役割を担っている。	授業のまとめ、もしドラで取り上げられたキーワードをまとめる	4時間
第6回	**現代企業の形：株式会社・合同会社・合資会社・合名会社** 主な会社の形態４つは、株式会社・合同会社・合資会社・合名会社である。会社を出資者の責任観点から分類するとき、有限責任と無限責任の違いがある。企業の例を取り上げながら会社の形態によってことなら企業の文化について学習する。とりわけ、現代企業の形のうち、株式会社（分業の利益と組織としての企業）に焦点を当てて学習する。なお、所有と経営の分離の理解を深める。 課題発表：ドラッカーのマネジメントについてまとめて発表する	授業のまとめ、CSRについて調べる	4時間
第7回	**現代企業を取り巻く市場環境（1）：企業の社会的責CSR** CSRの理解を深めるために参考映像資料と企業のCSRレポートを用いて学習する。Corporate Social Responsibilityの和訳は「企業の社会的責任」で、ボランティアや寄付活動、また法令順守や環境保護活動といったもので解釈される傾向があるが、企業を取り巻く顧客や従業員といった、ステークホルダーからの期待やニーズに答えるために、企業戦略として対応していくものである。	授業のまとめ、後継者問題について調べる	4時間
第8回	**現代企業を取り巻く市場環境（2）：後継者問題** 企業を取り巻く経営環境の事例として「後継者問題」を取りあげる。日本における急激な少子高齢化・人口減少は、今後の日本経済の成長力に複線的な影響を及ぼし続ける。この主要な担い手となる生産年齢人口（15～64 歳人口）は、2005年からわずか 25年の間に、約 2 割（1,700 万人）も縮小する。 #参考映像：専門経営者 株式会社：なぜ企業は存在するのか？現代は圧倒的に株式会社が多い。	授業のまとめ、外食産業の現況について調べる	4時間
第9回	**産業別Case Study「外食業」日本外食ブランドの海外進出** 外食チェーンの海外進出状況を確認し、そのマーケティング戦略について学習する。	授業のまとめ、企業を取り巻く経営環境（M&A）について調べる	4時間
第10回	**現代企業を取り巻く市場環境（3）：少子高齢化・M&A**	授業のまとめ、企業を取り巻く経営環境（不祥事）について調べる	4時間

	M&A（エムアンドエー）：Mergers（合併）and Acquisitions（買収）の意義、メリットデメリットについて事例を取りあげながら学習する。 #参考映像		
第11回	**現代企業を取り巻く市場環境（4）：CG・企業の不祥事** 企業の不祥事、コーポレートガバナンス（企業の統治）について学習する。一連の企業不祥事と企業倫理などのコーポレート・ガバナンスが問われる時代になった	授業のまとめ、GMOとは何かについて調べる	4時間
第12回	**現代企業を取り巻く市場環境（5）：GMO遺伝子組み換え** GMOとは、遺伝子組み換え（genetically modified organism）のことである。 遺伝子暗号を解析し、ある特定の遺伝子の働きを、別の遺伝子に挿入して新しい性質をもった生物を作り出す化学技術である	授業のまとめ、日本におけるGMO作物の現況を調べる	4時間
第13回	**★特別授業開催（予定）** 実践的な事例を学べるようなゲストスピーカーによる特別授業を企画している。決まり次第に告知する	授業のまとめ、AI・IOT・ビックデータとは何かについて調べる	4時間
第14回	**成熟経済における産業＆第四次産業革命** 第四次産業革命（Fourth Industrial Revolution、4IR)は、18世紀の産業革命以降の4番目の主要な産業時代を指す	授業のまとめ、これまでの授業内容を振り返り、まとめる	4時間

231

授業科目名	現代産業論１				
担当教員名	白濵孝之				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本講義では産業とは何かに関する基本的な理解、および現代の産業における主要キーワードについて理解することを目的としています。
第二次世界大戦後から現代に至るまで日本においてどのように産業が形成されてきたのかを学ぶことで産業に関する基本的な理解を深めます。そして現代の産業を考えるうえでキーワードとなる情報技術と循環型経済のそれぞれについて、基本的な理解と産業にどのような変化をもたらしているかを学習します。そのうえで、今後日本の産業はどのように変化していく必要があるかについて検討を行います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.現代社会におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	現代産業に関する重要な知識の獲得および理論の理解	現代産業に関する重要な知識・理論について、その主要なポイントや論点を理解し説明できる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		現代産業について、その特徴や課題を発見・指摘できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
期末試験	50 %	： 現代産業について、講義で扱った内容の理解を問う問題を出題します。理解度と適切な回答ができているかを基準として評価します。
小レポート（毎回）	50 %	： 課題のテーマに沿った内容であるか、文章がきちんと書けているか、論理的であるか、などをもとに評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

大阪市立大学商学部編（2001）「ビジネス・エッセンシャルズ６　産業」有斐閣。（ISBN：4-641-05269-7）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間

第1回	**イントロダクション　産業とは** 産業論を学ぶ上で基本的な用語の確認を行ったうえで、現代における産業の重要なキーワードを理解する。	産業について、興味を持った点や疑問点などを整理して授業に参加してください。	4時間
第2回	**産業構造** 産業構造とは何かについて確認をしたうえで、産業の分類方法や産業構造の変化について理解する。	産業構造について、興味を持った点や疑問点などを整理して授業に参加してください。	4時間
第3回	**戦後復興期と日本の産業** 第二次世界大戦後、日本はどうやって復興したのかに関して学び、産業の土台がどのように形成されたのかを理解する。	戦後復興期の日本産業について、興味を持った点や疑問点などを整理して授業に参加してください。	4時間
第4回	**高度経済成長期と日本の産業** 1950年代後半から1970年頃までの日本の急速な経済成長において産業がどのような変化をしたか理解する。	高度経済期の日本産業について、興味を持った点や疑問点などを整理して授業に参加してください。	4時間
第5回	**バブル経済期と日本の産業** 1970年代から1990年頃までの日本が安定した経済成長を遂げ経済大国と呼ばれるようになるまでに、産業がどのような変化をしたか理解する。	バブル経済期の日本産業について、興味を持った点や疑問点などを整理して授業に参加してください。	4時間
第6回	**情報技術と産業①　情報技術とその影響** 最近、頻繁に耳にするようになったIT、ICT、IOTなどについて学び、自分たちの生活にどのような影響を与えているのかを考える。	身近な情報技術について、興味を持った点や疑問点などを整理して授業に参加してください。	4時間
第7回	**情報技術と産業②　情報技術発展の歴史** 情報技術が今日に至るまでどのように発展し、そして産業にどのような変化を与えたのかについて理解する。	情報技術発展の歴史について、興味を持った点や疑問点などを整理して授業に参加してください。	4時間
第8回	**情報技術と産業③　自動車産業とその変化** 日本を代表する産業である自動車産業の構造を学び、情報技術がどのような変化をもたらしているかを理解する。	自動車産業について、興味を持った点や疑問点などを整理して授業に参加してください。	4時間
第9回	**情報技術と産業④　次世代自動車産業の展望** 自動車産業の将来を考えるうえで重要な概念である「CASE」と「MaaS」について学び、自動車産業が変化しているかを理解する。	自動車産業における情報技術の活用について、興味を持った点や疑問点などを整理して授業に参加してください。	4時間
第10回	**循環型経済と産業①　循環型経済とは** 循環型経済に関して、その意味や登場した背景、基本的な用語についてを理解する。	循環型経済について、興味を持った点や疑問点などを整理して授業に参加してください。	4時間
第11回	**循環型経済と産業②　動脈産業と静脈産業** 循環型経済を実現するうえで欠かすことのできない静脈産業について学び、その現状と課題について理解する。	動脈産業と静脈産業について、興味を持った点や疑問点などを整理して授業に参加してください。	4時間
第12回	**循環型経済と産業③　循環型社会と化学産業** 循環型経済に関するケーススタディとして化学産業、特にPETなどのプラスチックのリサイクルの事例を学習し、その仕組みを理解する。	循環型社会と化学産業について、興味を持った点や疑問点などを整理して授業に参加してください。	4時間
第13回	**循環型経済と産業④　循環型経済と自動車産業** 循環型経済に関するケーススタディとして自動車産業の事例を学習し、その仕組みを理解する。	循環型経済と自動車産業について、興味を持った点や疑問点などを整理して授業に参加してください。	4時間
第14回	**まとめ　現代日本産業の課題と展望** これまでの講義内容の振り返りながら現代日本産業の現状と課題を改めて学び、今後どのような変化をしていくのか考える。	これまでの授業の内容を振り返り、興味を持った点や疑問点などを整理して授業に参加してください。	4時間

231

授業科目名	**法学概論**				
担当教員名	千代原亮一				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

「差別は許されない」ことには、大部分の人が賛同し、法律家の間でも、「差別は禁止されるべきもの」と理解されています。しかし一方で、「差別」の定義は難しく、法学の世界でも、「差別」の語が「区別」と同義に用いられることも、しばしばです。皆さんがこれから生きていく上で、差別なき平等な社会を構築するためには、「差別」を正しく理解することが重要です。この講義では、非嫡出子の相続や同性婚、夫婦別姓をめぐる法的諸問題について丁寧に考察していきます。「差別」という重いテーマを扱いますが、差別とはどのような現象なのかを定義するところから始め、裁判所の判決や研究者の議論を解説しながら、今日における「差別されない権利」の意義について検討します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	実学的な法律学の追求を通じて紛争解決の方法を探る。	具体的な事例の分析を通じて、バランスのとれたものの見方、法的なものの見方の基礎を身につけ、政治問題や社会問題についてより深く理解できる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		複雑な事象の中から解決すべき課題を抽出し、真の原因を見出し、その解決策を提示することができる。
2. DP８.他者とのコミュニケーション		他人の意見や主張を正確に把握し、他人との意見や主張の違いを理解した上で、自分の意見や主張を他人に対して正確に伝えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
期末試験（定期試験）	60 %	： 定期試験の答案により問題発見力と実践力を評価する。講義内容を踏まえた上で、一定程度のレベルを超えた試験答案の内容を合格とする。単にテキストや講義資料の内容を丸写しした内容では、合格とはしない。
課題解決型学習	30 %	： 課題解決型学習における発言内容などにより評価する。グループ討議及びディベートへの参加態度について、積極的に発言し、主体的に議論に参加する態度を示した場合に合格レベルとする。
平常点評価（授業貢献）	10 %	： 各回の授業におけるペアワークなどへの取組状況、教員との質疑応答における解答などを総合的に評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
木村草太	・「差別」のしくみ	・ 朝日新聞出版	・ 2023　年

参考文献等

①イブラム・X・ケンディ（著）・山田美明（翻訳）『人種差別主義者たちの思考法　黒人差別の正当化とアメリカの400年』（光文社・2023年・ISBN：978-4334101039）、②植木淳(著)『平等原則と差別禁止法理』（成文堂・2024年・ISBN：978-4792307264）、③神谷悠一(著)『差別は思いやりでは解決しないジェンダーやLGBTQから考える』
（集英社・2022年・ISBN：978-4087212266）、④貴堂嘉之(監修)・一橋大学社会学部貴堂ゼミ生&院ゼミ生有志(著)『大学生がレイシズムに向き合って考えてみた【改訂版】―― 差別の「いま」を読み解くための入門書』（明石書店・2025年・ISBN：978-4750358673）、⑤木村草太『平等なき平等条項論: equal protection条項と憲法14条1項』（東京大学出版会・2008年・ISBN：978-4130361330）、⑥高橋和之(著)『立憲主義と日本国憲法〔第6版〕』（有斐閣・2024年・ISBN：978-4641228702）、⑦松井茂記(著)『アメリカ憲法入門〔第9版〕』（有斐閣・2023年・ISBN：978-4641048331）、⑧南川文里(著)『アファーマティブ・アクション　平等への切り札か、逆差別か』（中公新書・2024年・ISBN：978-4121028112）。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
・やむを得ず授業を欠席する場合は、文書にて速やかに届け出ること。
・授業中は、ディスカッションや質疑にも積極的に参加すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　月曜5時限目

場所：　西館3階個人研究室

備考・注意事項：　また、メールも活用してください。アドレスは、chiyohara@osaka-seikei.ac.jpです。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**差別について考える：国際法との比較において** ・婚外子国籍訴訟	講義レジュメを読み、授業内容についてふりかえり、授業で取り上げた判決の意味について考えておこう。	4時間
第2回	**差別とは何か、差別をする人はどんな行動をするのか？** ・類型情報無断利用：差別とプライバシー権 ・主体性否定判断：確率の塊としての個人？ ・差別：価値観と感情 ・社会問題としての差別：差別の共有と差別利得	テキスト第1章および第3章を読み、「差別」について自分なりの定義を考えておこう。	4時間
第3回	**差別を捉える四つの規範** ・偏見の禁止 ・類型情報無断利用の禁止 ・主体性否定判断の禁止 ・差別の禁止	テキスト第2章を読み、4つの「差別禁止規範」の意味について押さえておこう。	4時間
第4回	**差別と憲法の歴史①（奴隷制度と「分離すれど平等」）** ・差別への対応①：人間の定義と身分の平等 ・差別への対応②：権利の列挙 ・差別への対応③：一般平等条項	テキスト第4章および第5章を読み、公民権法と第14修正の意味について押さえておこう。	4時間
第5回	**差別と憲法の歴史②（差別的意図の禁止）** ・分離すれど平等の克服 ・「洗練された」差別の登場 ・分離自体の悪性	テキスト第6章を読み、合衆国連邦最高裁のブラウン判決の意義について押さえておこう。	4時間
第6回	**なぜ差別者は「差別の意図はない」と言うのか？** ・「自覚なき」マイクロアグレッション ・差別をする者の内心 ・差別する人とのコミュニケーション	テキスト第9章を読み、マイクロアグレッションの意味について押さえておこう。	4時間
第7回	**差別と憲法の歴史③（日本法の場合―国際法との比較において―）** ・憲法14条の成り立ち ・平等・非差別条項の解釈 ・最高裁の憲法14条1項解釈 ・同性婚訴訟	テキスト第7章および第8章を読み、憲法14条1項の意味について押さえておこう。	4時間
第8回	**憲法24条と家制度** ・家制度とはどのような制度だったのか？ ・憲法24条の成立 ・新民法の制定	テキスト第10章から第13章までを読み、家制度の歴史について押さえておこう。	4時間
第9回	**憲法24条1項の同性婚禁止解釈と差別** ・憲法24条1項の趣旨と文言 ・同性婚禁止解釈の理論？ ・憲法が異性婚のみを取り上げた点	テキスト第15章を読み、憲法24条1項の立法趣旨について押さえておこう。	4時間
第10回	**夫婦同氏問題と合理的配慮** ・差別禁止と合理的配慮 ・夫婦同氏制	テキスト第14章を読み、合理的配慮の意味について押さえておこう。	4時間

第11回	**平等権と差別されない権利の違い** ・平等権とは何か？ ・非嫡出子の法定相続分問題とは？－平成７年決定 ・非嫡出子の法定相続分問題の解決―平成25年決定 ・差別されない権利の可能性	テキスト第21章を読み、非嫡出子法定相続分訴訟における最高裁平成７年決定および平成25年決定の判旨について押さえておこう。	4時間
第12回	**秘密の差別の害悪** ・ムスリム監視情報流出事件 ・秘密の差別に害は無い－裁判所の判断	テキスト第22章を読み、ムスリム監視情報流出事件における東京高裁判決の判旨について押さえておこう。	4時間
第13回	**分けるには理由がいる** ・「結婚の自由をすべての人に」訴訟の展開 ・分離すれど平等の是非	テキスト第23章を読み、婚姻法制と平等の関係性について押さえておこう。	4時間
第14回	**理由の説明からの逃避** ・区別自体の否定：第一次夫婦別姓訴訟 ・別姓希望カップルと婚姻効果：第二次夫婦別姓訴訟 ・異性と婚姻できるから平等？－同性婚訴訟	テキスト第24章を読み、夫婦別姓訴訟の意義について押さえておこう。	4時間

231

授業科目名	経済学概論				
担当教員名	藤森梓				
学年・コース等	1年～4年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

この講義では、「経済入門」を履修し終えた学生を対象に、初級レベルの経済学の内容について学びます。「経済入門」では、現実の経済における様々な話題やトピックを取り上げましたが、この講義では、経済の動きを、経済学の理論に従って体系的に理解することを目指します。講義は、経済学の基本理論である、「ミクロ経済学」および「マクロ経済学」のエッセンスについての解説が中心となります。経済学は非常に論理的な学問です。従って、受講生には、「自分自身で思考する能力」が求められます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.現代社会におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	ミクロ経済学、マクロ経済学の基本的な考え方の習得。	世の中の経済問題について、ミクロ的視点とマクロ的視点、両面からの見方ができるようになる。
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	経済学の理論を前提とした論理的な思考能力を身に付ける。	さまざまな経済事象について、論理的な分析ができるようになる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		世の中の経済問題の本質を論理的に理解することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
期末試験	80 %	： 経済学の基礎理論を理解し、それを踏まえて論理的な思考ができているかどうかを評価します。
小レポート	20 %	： 原則、毎回の授業で提出を求めます。授業内容を踏まえた上で、きちんと内容が記述されているかを評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
南波浩史・水ノ上智邦・藤森梓	・日本経済と公共部門のダイナミクス：データで読み解く現代社会 (ISBN:9784771035942)	・晃洋書房	・2022 年

参考文献等

参考文献：初回の授業でリーディングリストを配布します。また、講義内でも適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をして下さい。
本講義では、現実社会の問題を取り上げるために、時事問題に関する知識は必須です。そのために、新聞購読、ニュースを見る習慣を身に付けて下さい。なお、授業内での難解な数式の使用は極力避けますが、簡単な計算やグラフは理解できるようにしておいて下さい。
授業の資料等はGoogle Classroomで配布します。登録については初回の授業でガイダンスを行います。

※本授業を履修する場合は、必ず大学共通科目の「経済入門」もしくは「現代社会と経済」を履修して下さい。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日3限

場所： 研究室（西館4階）

備考・注意事項： 授業に関する質問は、授業の前後、または研究室でのオフィスアワーにて受け付けます。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス～本科目の学びについて～** 講義に関するガイダンス、経済入門の内容を復習しながら本授業への導入を図ります。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（経済学が誕生した背景について考える）	4時間
第2回	**経済理論への導入** 社会科学の中での経済学の位置づけ、またミクロ経済学とマクロ経済学の概念について学びます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（合成の誤謬という言葉について考える）	4時間
第3回	**消費者の理論** 市場における消費者の行動について学びます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（需要の価格弾力性について考える）	4時間
第4回	**生産者（企業）の理論** 市場における生産者（企業）の行動について学びます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（「豊作貧乏」のメカニズムを考える）	4時間
第5回	**市場原理の基礎** 需要・供給と市場均衡について学びます。また市場原理と価格調整メカニズムについて理解を深めます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（価格調整メカニズムについて論理的に理解する）	4時間
第6回	**市場原理と市場の失敗（１）～市場原理と独占～** 「独占」の問題点について理解を深めます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（独占がなぜ発生するのかを考える）	4時間
第7回	**市場原理と市場の失敗（２）～公共財・外部性～** 公共財および外部性の概念について理解を深めます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（どのような形で公共財が提供されるのが望ましいのかを考える）	4時間
第8回	**市場原理と市場の失敗（３）～市場原理と情報の非対称性～** 市場取引の中で、情報の非対称性が引き起こす問題について理解を深めます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（レモンの原理について論理的に考える）	4時間
第9回	**マクロ経済学への導入** GDPと国民経済計算の概念について学びます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（マクロ経済指標について理解を深める）	4時間
第10回	**マクロ経済とGDPの決定** 均衡国民所得の概念について学びます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（失業が発生するメカニズムについて考える）	4時間
第11回	**財市場の分析** 消費関数および投資関数の分析を通して市場の均衡について考えます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（IS曲線の経済学的意味について考える）	4時間
第12回	**貨幣市場の分析** 金融政策と貨幣市場の均衡について学びます。また、LM曲線の導出について説明します。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（LM曲線の経済学的意味について考える）	4時間
第13回	**IS－LM分析** IS-LM分析の基礎について学びます。またIS-LM分析を用いながら、マクロ経済政策の効果について理解を深めます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（IS-LM分析のフレームワークを理解する）	4時間
第14回	**まとめ** これまでの講義内容を振り返りながら、経済学の本質についてもう一度考えてみます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（講義内容を振り返りながら要点をまとめる）	4時間

231

授業科目名	地理学概論Ⅰ				
担当教員名	小島大輔				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業のテーマは、地理学の学問体系、基礎的知識および地図の取扱い方法を修得し、様々な課題発見にあたり必要な情報の収集・分析・活用に適用することができる地理学の分析・考察方法を身に付けることである。
まず、地理学の学問体系とその特徴を概観する。次に、地理学の歴史、資料、表現方法として最も重要な地図についての基礎的事項を学ぶ。続いて、系統地理学の自然地理学と人文地理学、および地理学の基礎的知識を修得し、分析・考察方法からみた地理学の特徴を確認する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	地理学の学問体系（地理学、系統地理学、地誌学などの関係）	地理学の学問体系を説明できる。
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	地理学の用いる基礎的な概念（地図、人文地理学、自然地理学、地誌学の専門用語）	地理学に関する基礎的な用語の使用法を区別できる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		地図の読図に関する基礎的な作業ができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業時に取り組む課題	40 %	： 読図作業については、作業への取り組み度合、記述の適切性・具体性・独自性などから評価する。
定期試験	60 %	： 地理学の学問体系については、地理学、系統地理学、地誌学などの関係を論理的に説明できるかを評価する。 地理学に関する基礎的な用語については、その使用法を区別できるかを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

地理学概論（上野和彦・椿真智子・中村康子編、朝倉書店(2015)、ISBN:9784254168198）
そのほか、適宜各テーマにあわせて参考書を提示したり、参考資料を配布する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日４限

場所： 西館４階研究室

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**イントロダクション：地理学の学問体系について** 地理学、系統地理学、地誌学の関係性について学びます。	予習：シラバスを通読しておいてください。復習：イントロダクションの配布資料からキーワードを抽出して記入してください。	4時間
第2回	**地理学と地図（１）世界観、世界地図、地球儀など世界を大観する方法の違いについて** メンタルマップ・地図・地球儀など地域構成を大観する方法の違いを学びます。	予習：大陸、海洋、主要な国・都市などの地表の構成を確認しておいてください。 復習：地理学と地図（１）の配布資料からキーワードを抽出して記入してください。	4時間
第3回	**地理学と地図（２）地図が創り上げた世界観とその歴史について** 地図が創り上げた世界観とその歴史を概観し、地域構成を大観する際の注意点について考えます。	予習：あなたが最も適切だと考える世界地図を用意し、その理由を考えてください。 復習：地理学と地図（２）の配布資料からキーワードを抽出して記入してください。	4時間
第4回	**地理学と地図（３）一般図と主題図の違いとその基礎的事項について** 様々な地図を用いて、一般図と主題図の違いとその基礎的事項を確認します。	予習：最近活用した地図を取得し、その活用方法を記録しておいてください。 復習：地理学と地図（３）の配布資料からキーワードを抽出して記入してください。	4時間
第5回	**地理学と地図（４）地形図の基礎的事項とその読図について** 地形図に関する基礎的事項の学び、地形図の読図作業を通じて、地形図から地域的特色を見出す視点を学びます。	予習：国土地理院のHPで地形図を閲覧し、自身の居住地を確認しておいてください。 復習：地理学と地図（４）の配布資料からキーワードを抽出して記入してください。	4時間
第6回	**地理学と地図（５）様々な主題図の表現方法とその作成時の留意点について** 主題図作成の作業を通して、主題図の表現方法とその作成時の留意点を確認します。	予習：（web）新聞記事に掲載されている地図を探しておいてください。 復習：地理学と地図（５）の配布資料からキーワードを抽出して記入してください。	4時間
第7回	**自然地理学の基礎（１）地球環境システムと環境問題について** 地球環境システム、生態系、環境論など、人間と自然環境との関わりを考える上で重要な基礎的概念について学びます。	予習：「環境問題」と聞き最初に思いついたものについて調べておいてください。 復習：自然地理学の基礎（１）の配布資料からキーワードを抽出して記入してください。	4時間
第8回	**自然地理学の基礎（２）気圏：大気大循環、メソ気象、微気象のしくみについて** 地球規模で循環する大気大循環、人間生活に密接に関連したメソ気象、およびさらに微細な微気象について学びます。	予習：日本の四季の特徴とその原因を調べておいてください。 復習：自然地理学の基礎（２）の配布資料からキーワードを抽出して記入してください。	4時間
第9回	**自然地理学の基礎（３）水圏：海洋や水蒸気の水循環システムについて** 地球の表層付近に最も豊富に存在する物質であり、地球上のあらゆる生命に欠かすことのできない物質である水の循環（システム・プロセス）について学びます。	予習：地表の水の分布について調べておいてください。 復習：自然地理学の基礎（３）の配布資料からキーワードを抽出して記入してください。	4時間
第10回	**自然地理学の基礎（４）地圏：地形変化のプロセス（風化・侵食・運搬・堆積）について** 地形の変化、土壌生成作用、土壌因子と土壌型、および地力について概観し、主要な成帯土壌・間帯土壌について学びます。	予習：地形図を活用して自身の居住地がどのような地形上に立地しているか調べておいてください。 復習：自然地理学の基礎（４）の配布資料からキーワードを抽出して記入してください。	4時間
第11回	**人文地理学の基礎（１）環境論：文化地理学からみた人間活動と環境の関係について** 文化地理学の環境論の視点から人間と環境の関わりについて考えます。	予習：世界にはなぜ「豊かな地域」と「貧しい地域」が存在するのか自身の考えをまとめておいてください。 復習：人文地理学の基礎（１）の配布資料からキーワードを抽出して記入してください。	4時間
第12回	**人文地理学の基礎（２）余暇活動・観光行動の空間的特徴について** 余暇活動・観光行動の空間的特性から、ツーリスト空間、集客圏について学びます。	予習：ここ数年で余暇活動・観光で訪れた場所をリストアップしておいてください。 復習：人文地理学の基礎（２）の配布資料からキーワードを抽出して記入してください。	4時間

第13回	**地誌学の基礎（1）静態地誌学と動態地誌学など代表的な方法論について** 静態地誌学と動態地誌学などを中心に、地誌学の代表的な方法論を学びます。	予習：自身の中学校社会科地理的分野・高校地理の授業を振り返り、その授業方法をまとめてください。 復習：地誌学の基礎（1）の配布資料からキーワードを抽出して記入してください。	4時間
第14回	**地誌学の基礎（2）様々な「地域」の概念とその使用法について・授業のまとめ** 地理学で使用される様々な「地域」の概念について学びます。 授業全体のまとめを行い、地理学の見方・考え方を用いる意義について考えます。	予習：シラバスと配布資料を通読し、これまでの授業資料からキーワードを抜き出し、整理しておいてください。 復習：地誌学の基礎（2）の配布資料からキーワードを抽出して記入してください。これまでの講義資料の整理、キーワードリストの作成など試験の準備学修をしてください。	4時間

231

授業科目名	地理学概論Ⅱ				
担当教員名	小島大輔				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業のテーマは、地理学の視点を活かした環境・地域・地球の見方・考え方を修得し、人間活動と環境に関する課題、地域・地球的課題の解決に向けた方策を考えることである。
まず、地理学概論Ⅰで学んだ基礎的知識を振り返りながら、地理学の見方・考え方を整理する。次に、地理的技能の中でも重要な地図の活用方法を学ぶ。続いて、自然地理学と人文地理学両者の知識を用いた系統地理的考察方法で環境に関する課題を考える。さらに、地誌的考察方法を用いて様々なスケールの地域的課題を検討する。まとめとして、地理学の活かし方を考える。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	系統地理的・地誌的考察方法に関する基礎的な用語	系統地理的考察方法および地誌的考察方法に関する基礎的な用語を類別できる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		系統地理的考察方法を用いて、人間活動と環境について考えを述べることができる。
2. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		地誌的考察方法を用いて、様々な地域・地球的課題について考えを述べることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業時に取り組む課題	40 %	： 系統地理的・地誌的考察方法の使用の有無および記述の具体性・独自性などから評価する。
定期試験	60 %	： 系統地理的・地誌的考察方法の基礎的な用語については、その使用法を類別できるかを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

地理学概論（上野和彦・椿真智子・中村康子編、朝倉書店(2015)、ISBN:9784254168198）
そのほか、適宜各テーマにあわせて参考書を提示したり、参考資料を配布する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　火曜日４限

場所：　西館４階研究室

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**イントロダクション：地理学の視点を活かした環境・地域・地球の見方・考え方** 地理的技能、系統地理的考察、地誌的考察を用いた課題の考察方法について概説します。	予習：シラバスを通読しておいてください。復習：イントロダクションの配布資料からキーワードを抽出して記入してください。	4時間
第2回	**地理的技能（1）場所のイメージ、空間認知、メンタルマップの成長について** 頭の中の地図、環境認知の理論から、人間による空間・地域の捉え方の特徴について学びます。	予習：自身の居住地から大学までを含む範囲の地図を描いておいてください。 復習：地理的技能（1）の配布資料からキーワードを抽出して記入してください。	4時間
第3回	**地理的技能（2）様々な地図投影法とその活用方法について** 様々な地図投影法とその特徴を学び、活用上の注意点について学びます。	予習：これまで学修した地図の投影法を調べておいてください。 復習：地理的技能（2）の配布資料からキーワードを抽出して記入してください。	4時間
第4回	**系統地理的考察（1）里山としてのマングローブ林の公共性と産業利用について** マングローブ林を例として、里山の産業利用、人間の環境利用について考えます。	予習：里山とは何か調べておいてください。 復習：系統地理的考察（1）の配布資料からキーワードを抽出して記入してください。	4時間
第5回	**系統地理的考察（2）環境保全型農業の成立システム・存立基盤について** 環境保全型稲作などの事例から、環境保全型農業成立のしくみについて考えます。	予習：環境保全を目指した農業の例を調べておいてください。 復習：系統地理的考察（2）の配布資料からキーワードを抽出して記入してください。	4時間
第6回	**系統地理的考察（3）ジオパークが目指す保護・保全、教育、地域振興について** ジオパークの事例を通して、人間と環境、地域資源について考えます。	予習：日本にはどのようなジオパークがあるか調べておいてください。 復習：系統地理的考察（3）の配布資料からキーワードを抽出して記入してください。	4時間
第7回	**系統地理的考察（4）ディズニー化を通した場所のパフォーマンスについて** ディズニー化という視点から、近年の観光の特徴を考えます。	予習：ディズニー・テーマパークが顧客を引き付ける理由を考えておいてください。 復習：系統地理的考察（4）の配布資料からキーワードを抽出して記入してください。	4時間
第8回	**地誌的考察（1）地域区分の意義とその留意点・問題点について** 地域区分の方法について学び、その問題点について考えます。	予習：「地理学概論Ｉ」で学修した「地域」の使用法をリストアップしておいてください。 復習：地誌的考察（1）の配布資料からキーワードを抽出して記入してください。	4時間
第9回	**地誌的考察（2）「地域構造」の概念・表現方法およびその変容について** 地域構造という視点から、地域の構造と変容の捉え方を学びます。	予習：「地理学概論Ｉ」で学んだ環境論について復習しておいてください。 復習：地誌的考察（2）の配布資料からキーワードを抽出して記入してください。	4時間
第10回	**地誌的考察（3）中心市街地の構造変容と歴史的背景について** 歴史的建造物保存および朝市の存立基盤などを事例に、中心市街地の構造変容について考えます。	予習：「重要伝統的建造物群保存地区」とは何か、どのような例があるか調べておいてください。 復習：地誌的考察（3）の配布資料からキーワードを抽出して記入してください。	4時間
第11回	**地誌的考察（4）地域文化の創出とまちづくりへの展開について** 地域文化はいかにして生まれるかまたそれを活用したまちづくりにはどのようなものがあるか学びます。	予習：自身の居住地のまちづくりについて調べておいてください。 復習：地誌的考察（4）の配布資料からキーワードを抽出して記入してください。	4時間
第12回	**地誌的考察（5）食文化の地域資源化とまちづくりについて** 近年の食文化の地域資源化の効果について考えます。	予習：「資源」と聞いて思いつくものをなるべく多くリストアップしておいてください。 復習：地誌的考察（6）の配布資料からキーワードを抽出して記入してください。	4時間
第13回	**地誌的考察（6）エコロジーの葛藤からみる地域固有の資源について**	予習：居住地周辺において「地域固有の資源」といえるものをなるべく多くリストアップしておいてください。 復習：地誌的考察（6）の配布資料からキーワードを抽出して記入してください。	4時間

	エコロジーの葛藤の事例から、「地域固有の資源」について考えます。		
第14回	**地誌的考察（7）地域イメージの創造と観光地域の形成について・授業のまとめ** 国際観光における地域イメージの役割について学びます。授業全体のまとめを行い、地理的技能の活用、系統地理的考察、地誌的考察を行う意義を振り返ります。	予習：これまでに旅行したことのない国・地域をあげ、それらにどのようなイメージを持っているかを整理しておいてください。シラバスと配布資料を通読し、これまでの授業資料からキーワードを抜き出し、整理しておいてください。　復習：地誌的考察（7）の配布資料からキーワードを抽出して記入してください。これまでの講義資料の整理、キーワードリストの作成など試験の準備学修をしてください。	4時間

231

授業科目名	**政治学**				
担当教員名	兒玉圭司				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本科目は、民主的な社会生活の維持・発展に果たす政治の役割を学び、理解することを目的とします。また、国際社会が置かれた現状についても知識を深めるとともに、そうした現状に対してどうあるべきか、皆さん自身に考えてもらうきっかけになればと思います。
政治には私たち自身が主人公として参加していますので、私たちの行動によって社会を変える道がひらかれています。「よりよい政治」を実現するためどうすればよいか、一緒に考えていきましょう。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	私たちの日々の暮らしの中で「政治」が果たしている機能、仕組みに関する基礎的知識を修得し、政治に参加する主体としての判断力を持つ。	日本政治・国際政治のあゆみと現在について理解できる。「政治」を多角的に考えることができる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		現代政治の特徴・課題や背景を理解することにより、現代社会そのものへの認識を深めることができる。
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		現在の日本や世界が直面する課題について、その内容や背景を理解するとともに、本科目で学んだ知識を生かして、課題を解決する道を自分なりに考え、説明することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験	40 %	： 「授業概要」や「養うべき力と到達目標」に記された各項目の内容を満たしているか否かを問います。
レポート・小課題	10 %	： 講義で扱った内容について、調べる・考える・説明する能力や理解度、理解の妥当性・論理性を確認します。
リアクションペーパー等	50 %	： 講義への質問や、興味深かった点などを記してもらうことで、主体的な参加度合いや理解の深さを確認します。また、講義内容の理解度について、簡単な到達度確認を行います。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年

甲斐信好　・プレステップ政治学〈第3版〉　・弘文堂　・2020　年

参考文献等

山崎広明編『もういちど読む山川政治経済［新版］』（山川出版社、2018年、ISBN：978-4-634-59107-3）
をはじめ、高校時代に利用した「公共」や「政治経済」・「現代社会」の教科書を予復習に利用してください。
そのほか、講義中に適宜、参考文献を示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をしてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　月曜日昼休み

場所：　非常勤講師室

備考・注意事項：　上記時間帯以外のご質問・ご相談は、メールでご連絡ください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス－現代政治の課題と、私たちの役割** 本講義の進め方について説明した上で、現在の政治課題と、その解決策について履修者の関心の所在をたずねます。また、「政治学」という学問の意義や目標についてお話します。	関心のある政治的トピックについて調べ、その問題をどのようにして解決すればよいか、考えてきてください。	4時間
第2回	**権力とは** ・「権力」とは ・正統性 ・資源の権威的配分 ・ホッブズとロック――社会契約説	教科書の第1章を読んで、各自で理解を深めておいてください。	4時間
第3回	**はじめての選挙** ・直接民主制と間接民主制 ・デモクラシーとは何か ・比例代表制と小選挙区制	教科書の第2章を読んで、各自で理解を深めておいてください。	4時間
第4回	**国会議員って何をしているの？** ・国会 ・政治とカネ ・なぜ政治家になるの？	教科書の第3章を読んで、各自で理解を深めておいてください。	4時間
第5回	**権力分立と政治システム** ・三権分立 ・議院内閣制と大統領制・ ・首相を選ぶ ・権力の集中を阻む方法	教科書の第4章を読んで、各自で理解を深めておいてください。	4時間
第6回	**地域から日本を変える** ・地方自治 ・地方分権	教科書の第5章を読んで、各自で理解を深めておいてください。	4時間
第7回	**政治過程・製作過程** ・政治過程・政策過程とは ・誰が政策を作っているのか ・外交政策の決定過程 ・マスコミ	教科書の第6章を読んで、各自で理解を深めておいてください。	4時間
第8回	**リアリズムとリベラリズム** ・リアリズムと安全保障のジレンマ ・リベラリズム ・政治思想について	教科書の第7章を読んで、各自で理解を深めておいてください。	4時間
第9回	**国際政治学の誕生** ・国家の3要素 ・主権国家の成立 ・「国際政治学」の誕生 ・なぜ戦いは止まないのか	教科書の第8章を読んで、各自で理解を深めておいてください。	4時間
第10回	**冷戦とは何か** ・冷戦の始まり ・朝鮮戦争 ・ベトナム戦争 ・中国と台湾 ・冷戦後の世界	教科書の第9章を読んで、各自で理解を深めておいてください。	4時間
第11回	**さまざまな国際問題** ・宗教と国際政治 ・民族と国際政治 ・開発と民主化	教科書の第10,11,12章を読んで、各自で理解を深めておいてください。	4時間
第12回	**国家の多様性・地域社会の課題**	教科書の第14章を読んで、各自で理解を深めておいてください。	4時間

	・国家の多様性 ・飢餓 ・持続可能な開発目標（SDGs）		
第13回	**世界の中の日本** ・明治から第2次世界大戦後までの日本は、世界からどのように見られていたか。 ・映像視聴を予定しています。	高校時代の「公共」または「日本史」の教科書中、戦前の日本政治・日本経済について記された部分を読んでおいてください。	4時間
第14回	**戦後日本の政治・経済** ・第2次世界大戦後の日本の政治・経済の歩みを概観します。 ・時間が残れば、現在の政治的課題についても示したうえで、皆さんに考えてもらいます。	高校時代の「公共」または「日本史」の教科書中、戦後の日本政治・日本経済について記された部分を読んでおいてください。	4時間

231

授業科目名	販売マネジメント論				
担当教員名	山崎哲弘				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

この講義は、 日本商工会議所主催の「リテールマーケティング（販売士検定）」の３級のテキストをベースに、小売業のマーケティングについて必要な知識を学びます。また、その中で小売業に関する最新の情報を提供していきます。リテールマーケティング（販売士）は流通業界唯一の公的資格であり流通業での評価は非常に高い資格です。この講座を受講することで、販売促進に向けた企画立案や在庫管理、マーケティングにいたる専門知識を身に着けることができます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	小売業に関する知識	小売業に従事するときに必要な知識をもち、流通業界に就職することができる。
汎用的な力		
1. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		資格取得を目指すことで、一つの目標に対して行動することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
期末試験	70 %	： 授業中に提示した課題を中心に期末テストを実施します。
各授業における課題の提出状況	30 %	： 各授業に提出された課題についての提出状況により授業の理解について評価を実施します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

日本商工会議所・全国商工会連合会編　販売士ハンドブック（基礎編）　～リテールマーケティング（販売士）検定試験３級対応～2019年版をベースに作成したオリジナルのテキストで授業を行います。参考文献としておきますが、販売士検定の受験を検討している受講生やより理解を深めたい受講生は、個別にカリアックで購入してください。具体的な購入方法は初回の授業時に説明します。
ISBN：9784906656035
出版年　2019年5月改訂

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習してください。
販売マネジメント論では、販売士のカテゴリーである小売業の類型・マーチャンダイジング・マーケティング・ストアオペレーションの中から、小売業に従事する際に知っておいてほしい基本的なテーマを選び授業を実施します。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　月曜日１限

場所：　西館２階14研究室

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**授業の進め方・試験ガイダンス、小売業の現状についての説明** 検定制度・学習意義・学習方法・全体の概要・参考テキスト入手方法について解説します。 百貨店等の小売業態を中心に小売業の現状について説明します。	小売業の現状について復習します。	4時間
第2回	**小売業の類型　1. 流通における小売業の基本的役割** 公式テキスト・キーワード解説・まとめ復習 流通業としての「小売業の役割」について説明します。 理解度の確認のために課題を提出します。	小売業の役割について復習します。	4時間
第3回	**小売業の類型　2. 形態別小売業の基本的役割** 公式テキスト・キーワード解説・まとめ復習 小売業の「業種・業態」についての説明を行います。 理解度の確認のために課題を提出します。	業種・業態について復習します。	4時間
第4回	**小売業の類型　3. 店舗形態別小売業の基本的役割** 公式テキスト・キーワード解説・まとめ復習 スーパー・コンビニエンスストア等の「店舗形態別小売業の役割」について説明します。 理解度の確認のために課題を提出します。	形態別小売業について復習します。	4時間
第5回	**小売業の類型　4. 商業集積の基本的役割としくみ** 公式テキスト・キーワード解説・まとめ復習 商店街・ショッピングモール等の「商業集積」について説明します。 理解度の確認のために課題を提出します。	商業集積の役割について復習します。	4時間
第6回	**マーチャンダイジング　1. 商品の基本知識** 公式テキスト・キーワード解説・まとめ復習 マーチャンダイジングにおける「商品の基本知識」について説明します。 理解度の確認のために課題を提出します。	商品の基本知識について復習します。	4時間
第7回	**マーチャンダイジング　2. マーチャンダイジングの基本、3. 商品計画の基本** 公式テキスト・キーワード解説・まとめ復習 マーチャンダイジングサイクルとその一部である「商品計画」について説明します。 理解度の確認のために課題を提出します。	マーチャンダイジングと商品計画について復習します。	4時間
第8回	**マーチャンダイジング　4. 販売計画および仕入計画の基本的　5. 在庫管理の基本的役割、6. 販売管理の基本的役割** 公式テキスト・キーワード解説・まとめ復習 マーチャンダイジングサイクルにおける「販売計画および仕入計画」・「在庫計画」・「販売管理の基本的役割」について説明します。 理解度の確認のために課題を提出します。	販売計画および仕入計画・在庫計画・販売管理の基本的役割について復習します。	4時間
第9回	**マーチャンダイジング　7. 価格設定の基本的考え方　8. 利益追求の基本知識** 公式テキスト・キーワード解説・まとめ復習 マーチャンダイジングの「価格設定の基本的考え方」と「利益追求の基本知識」について説明します。 理解度の確認のために課題を提出します。	価格設定の基本的考え方と利益追求の基本知識について復習します。	4時間
第10回	**ストアオペレーション　1.ストアオペレーションの基本的役割　2.ディスプレイの基本的役割** 公式テキスト・キーワード解説・まとめ復習 店舗運営の基本的な役割と「ディスプレイ」について説明します。 理解度の確認のために課題を提出します。	ストアオペレーションとディスプレイの基本知識について復習します。	4時間
第11回	**マーケティング　1.小売業のマーケティングの基本的考え方　2.顧客管理の基本的役割** 公式テキスト・キーワード解説・まとめ復習 小売業のマーケティングの基本的な考え方と、顧客管理の基本的役割について説明します。 理解度の確認のために課題を提出します。	小売業のマーケティングの基本的な考え方と、顧客管理の基本的役割について復習します。	4時間
第12回	**マーケティング　3.販売促進の基本的役割** 公式テキスト・キーワード解説・まとめ復習 マーケティングにおけるプロモーションの基本的役割について説明します。 理解度の確認のために課題を提出します。	販売促進について復習します。	4時間
第13回	**マーケティング　4.商圏の設定と出店の基本的な考え方** 公式テキスト・キーワード解説・まとめ復習 マーケティングにおける「商圏の設定と出店の基本的な考え方」について説明します。 理解度の確認のために課題を提出します。	商圏の設定と出店の基本的な考え方について復習します。	4時間
第14回	**まとめ** 今まで学んだ小売業の類型・マーチャンダイジング・ストアオペレーション・マーケティングについて、全般的な復習と小売業に必要な数値について解説を行います。	今までに学んだ小売業に対する知識をまとめてください。	4時間

231

授業科目名	グローバルビジネス入門				
担当教員名	藤森梓				
学年・コース等	1年～4年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

近年のグローバル化の流れの中で、企業活動は国を問わず、世界規模で展開されています。このような流れの中で、今後のビジネスを担う世代には、国際的なセンスを身に付けることが求められています。本講義では、初学者を対象にして、こうしたグローバルビジネスに関する基礎的な知識を身に付けることを目指します。講義では、「日本から海外へ」、すなわち企業の海外展開、および「海外から日本へ」すなわち外国人旅行者をめぐるビジネス事情＝インバウンドビジネスのケーススタディを通して、グローバルビジネスについて理解を深めます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.現代社会におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	身近な例を通してグローバル化について理解を深めるとともグローバルビジネスの実情を学びながら、グローバル企業の経営戦略について論理的に理解する。	経営学の知識を応用しながら、グローバルビジネスに関する様々な現象を分析することができる。
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	経営学的視点から、グローバルビジネス・国際経営の現状と課題を分析する。	国際経営に関する諸問題について理解し、その解決策を考えることができる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		グローバル経済における企業の試行錯誤や課題をきちんと把握することができる。
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		グローバル経済で企業が直面する問題についての解決策を考えることができる。
3. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		実際にグローバルビジネスに携わる上での必要なテクニックや専門知識を身に付ける。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
期末課題	70 %	： グローバルビジネスに関する実地調査を含めたレポートの提出およびその内容の授業内発表を求めます。講義内容を踏まえてグローバルビジネスについての知識が課題の中できちんとまとめられているかを評価します。
小レポート	20 %	： 原則、毎回の講義で提出を求めます。また、授業内容に関連したクイズを出題します。きちんと講義内容を踏まえた内容かどうかを評価します。

授業内でのディスカッション	:	特定のテーマについて、受講生同志でのディスカッションを求めることがあります。積極的に自らの意見を表明しているか、議論に貢献しているのか評価します。

10 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

初回の授業でリーディングリストを配布します。また、講義内でも適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をして下さい。
本講義の内容を深く理解する上で、特に国際社会の動きに注意を払うことが必要不可欠です。スポーツ・映画・音楽・グルメ・ファッション等、何でもいいので、取っ掛かりを見つけて海外に目を向けて下さい。
授業の資料等はGoogle Classroomで配布します。登録については初回の授業でガイダンスを行います。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日3限

場所： 個人研究室（西館4階）

備考・注意事項： 授業に関する質問は、授業の前後、または研究室でのオフィスアワー（水曜日3限）にて受け付けます。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス～本科目の学びについて～** 講義に関するガイダンス、大学でグローバルビジネスを学ぶ意味について考えます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（グローバルビジネスを学ぶ意義について考える）	4時間
第2回	**グローバルビジネスの概要** グローバル化という現象の本質をとらえ、企業活動の変化について学びます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（グローバル化という現象の本質について理解を深める）	4時間
第3回	**日本企業の海外進出について** 企業活動の海外展開についてその歴史や背景について学びます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（企業はなぜ海外に進出するのか、その要因について考える）	4時間
第4回	**日本企業の海外進出のケーススタディ～食品・外食産業の事例～** 食品産業の海外展開の事例を通して、企業のグローバル化戦略について学びます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（日本の大手食品・外食産業のグローバル戦略について調べる）	4時間
第5回	**日本企業の海外進出のケーススタディ～製造業の事例～** 製造業の海外展開の事例を通して、企業のグローバル化戦略について学びます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（日本の大手製造業メーカーのグローバル戦略について調べる）	4時間
第6回	**日本企業の海外進出のケーススタディ～コンテンツ産業の事例～** コンテンツ産業の海外展開の事例を通して、企業のグローバル化戦略について学びます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（日本のコンテンツ産業のグローバル戦略について調べる）	4時間
第7回	**日本企業の海外進出のケーススタディ～スポーツ産業の事例～** スポーツ産業の海外展開の事例を通して、企業のグローバル化戦略について学びます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（日本のスポーツ産業のグローバル戦略について調べる）	4時間
第8回	**インバウンド・ビジネスと日本** 世界の中の日本という観点から、日本という国の魅力や特殊性について、事例研究を通して学びます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（日本におけるインバウンドビジネスの変遷について理解を深める）	4時間
第9回	**インバウンドビジネスと日本の魅力について** 「外国人から見た日本」について、映画鑑賞を通して理解を深め、「日本の魅力」がどのようなビジネスにつながるのかを考えます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（日本人と外国人の「日本のイメージ」の相違点について考える）	4時間
第10回	**外国人旅行者の消費パターンと日本のインバウンド戦略** 外国人旅行者が日本でどのような行動をするのか、またどのようなビジネスに需要があるのかを学びます。それを踏まえて、政府が推進してきた「ビジットジャパン」等のインバウンド戦略について考えます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（日本において外国人が何を求めているのかを考える）	4時間

第11回	**インバウンドビジネスとCOVID19** COVID19によるインバウンド・ビジネスへの影響について考えます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。 （2010年代のインバウンドブームの背景について、産業政策の視点から考える）	4時間
第12回	**期末課題への取り組み（テーマの決定）** ワーキンググループを作り、期末課題の具体的なテーマを決定します。また、具体的な調査計画を作成します。	ワーキンググループで調査を行う	4時間
第13回	**期末課題への取り組み（調査・プレゼン資料の作成）** ワーキンググループ内で調査を行い、その結果をプレゼン資料にまとめます。	ワーキンググループで調査結果をまとめる	4時間
第14回	**期末課題の発表** 期末課題についてのプレゼンテーションを行います。またそれを基にしたディスカッションを通して、授業の振り返りをします。	期末課題の振り返りを行う	4時間

231

授業科目名	ビジネス実践入門				
担当教員名	山崎哲弘				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義・演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本講義は大きく理論と実践から構成する。前半はビジネスで求められる論理的思考について学習する。後半は見学や調査などからビジネスの現場について学ぶ。具体的な学びは以下の通りである。
1．経営というビジネスやマネジメントの世界では何が求められ、今何が問題となっているのかを考える。
2．多様な体験学習を通じて、企業経営と経営学の学びへの関心と動機づけを図る。
3．企業が経営資源（ヒト、モノ、カネ等）を活用して、生産・販売活動を行ない、顧客のニーズにどのように対応しているかの事例から「経営とは」を学ぶ。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	経営の基本的な知識を身につける	経営のプロセスやマーケティングプロセスにおけるフレームワーク分析を理解する
汎用的な力		
1．DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		経営に積極的な取り組みが実践できる

学外連携学修

有り(連携先：大阪起業家ミュージアムを予定)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・見学、フィールドワーク

・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
演習・レポート	75 %	： 提出された課題・レポートを授業の内容理解度で評価する
見学、調査への取り組み	10 %	： 見学のレポートと調査の発表で評価する
期末レポート	15 %	： 「何を学んだかわかるものになっているか」「学びの振り返りができているか」を評価の基準とする。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜、授業の中で紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日１限

場所： 西館２階研究室

備考・注意事項： 月曜日１限をオフィースアワーとしているが、授業前後の質問も歓迎する。その他の連絡の取り方としてEメールで対応する。（yamasaki-t@osaka-seikei.ac.jp）Eメール件名としては「ビジネス実践入門について（氏名、学籍番号、グループNO）」とすること。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション** 授業の進め方の解説 ビジネス実践入門とは何を学ぶか。 身近なビジネス・よく売れている製品やサービスを調べます。 自身の知っている企業はどのくらいあるか？を考えます。	身近なビジネスを課題で確認	4時間
第2回	**ロジカルシンキングとは** ロジカルシンキングにおける「帰納法」「演繹法」の考え方を解説します。 またMICEやロジックツリー、IPOといったロジカルシンキングのフレームワークを学びます。	配布された参考資料等の復習と予習。講義で学んだ以外のフレームワーク（ベン図やTOCなど）を調べる。	4時間
第3回	**ロジカルシンキングの活用** 第2回で学んだフレームワークを活用し、ケーススタディを行います。	配布された参考資料等の復習と予習。また身近な問題・課題についてロジカルシンキングの活用法を考える。	4時間
第4回	**ラテラルシンキングとは** ラテラルシンキングにおける「類推思考」「仮説思考」の考え方を解説します。 またブレーンストーミングやSCAMPER、シネクテクス法といったラテラルシンキングのフレームワークを学びます。	配布された参考資料等の復習と予習。講義で学んだ以外のフレームワーク（ブレインストーミングやミメーシス・ミミック等）を調べる。	4時間
第5回	**ラテラルシンキングの活用** 第4回で学んだフレームワークを活用し、ケーススタディを行います。	配布された参考資料等の復習と予習。また身近な問題・課題についてラテラルシンキングの活用法を考える。	4時間
第6回	**クリティカルシンキングとは** クリティカルシンキングにおける「弁証法」「背理法」の考え方を解説します。 またヒストグラムやフィットギャップ分析、PAC思考といったクリティカルシンキングのフレームワークを学びます。	配布された参考資料等の復習と予習。講義で学んだ以外のフレームワーク（フィットギャップ分析や認知バイアス等）を調べる。	4時間
第7回	**クリティカルシンキングの活用** 第6回で学んだフレームワークを活用し、ケーススタディを行います。	配布された参考資料等の復習と予習。また身近な問題・課題についてクリティカルシンキングの活用法を考える。	4時間
第8回	**起業家の思いと苦労を学ぶ** 大阪起業家ミュージアムを見学する。 大阪に所縁のある起業家の活動とその足跡を学ぶ。 【学外授業】	関心を持った企業について調べレポートにまとめる。	4時間
第9回	**企業の取り組みの学ぶ** ケーススタディを行うにあたり、事例企業の事業やサービス等を調べて纏めます。	事例企業の調査からの気づきをレポートにまとめる。	4時間
第10回	**５フォース分析を行う** 事例企業について、マーケティングプロセスに沿って、５フォース分析を行う。 またグループワークにて、各人の分析をもとに、グループとしての最適解を検討する。	個人ワーク・グループワークでの解答が事実であるかどうか、別の視点がないかどうかレポートにまとめる。	4時間
第11回	**SWOT分析を行う** 事例企業について、マーケティングプロセスに沿って、ＳＷＯＴ分析を行う。 またグループワークにて、各人の分析をもとに、グループとしての最適解を検討する。	個人ワーク・グループワークでの解答が事実であるかどうか、別の視点がないかどうかレポートにまとめる。	4時間
第12回	**ＳＴＰ分析を行う**	個人ワーク・グループワークでの解答が事実であるかどうか、別の視点がないかどうかレポートにまとめる。	4時間

	事例企業について、マーケティングプロセスに沿って、ＳＴＰ分析を行う。 またグループワークにて、各人の分析をもとに、グループとしての最適解を検討する。		
第13回	**クロスSWOT分析を行う** 事例企業について、マーケティングプロセスに沿って、クロスＳＷＯＴ分析を行う。 またグループワークにて、各人の分析をもとに、グループとしての最適解を検討する。	個人ワーク・グループワークでの解答が事実であるかどうか、別の視点がないかどうかレポートにまとめる。	4時間
第14回	**企画書をまとめる** 事例企業について行ってきたい、各分析をもとに、課題解決のための企画・提案書を作成する。 またグループワークにて、各人の企画書をもとに、グループとしての企画書をまとめる。	最終レポートのための全体的な復習と学習	4時間
			4時間

231

授業科目名	サスティナブル経営入門				
担当教員名	澤田彩・白濱孝之				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本講義では、SDGs経営とは何かについて基本的な理解をすることを目的としています。環境、社会、経済の3つの観点において、過去に企業経営が引き起こしてきた様々な問題（公害、地球環境問題、労災、働きにくい雇用環境、ハラスメント、人権侵害等）を踏まえ、企業が持続可能であるとはどういうことかを考えます。講義の中では、具体的な企業事例や最新の動向を解説するとともに、グループワークとして学生同士でのディスカッションも行います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.現代社会におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	SDGs経営に関する重要な知識・理論の理解	SDGs経営に関する重要な知識・理論について、その主要なポイントや論点を理解し説明できる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		SDGs経営について、その内容、特徴や課題を発見・指摘できる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
期末レポート	40 %	:	SDGs経営に関する基本事項を問うレポート課題を課し、授業の理解度を測ります。
小レポート（毎回）	30 %	:	出題時の課題テーマに沿った内容であるか、文章力、論理性などをもとに評価します。
グループプレゼンテーション	30 %	:	SDGs経営に関するグループワークの成果を発表していただきます。テーマ適合性、スライドの完成度、発表態度で評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

川上清市『サステナビリティ経営がよくわかる本』秀和システム（ISBN978-4798070032）。
坂野俊哉、磯貝友紀『SXの時代~究極の生き残り戦略としてのサステナビリティ経営』日経BP（ISBN978-4296000203）。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　木曜日

場所：　2限

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**イントロダクション　―サスティナブル経営とは何か―** サスティナブル経営とは何か、過去の企業経営が環境や社会に与えた負の影響について歴史を振り返り、サスティナブル経営が現代社会において必要とされているのはなぜかを理解します。	サスティナブル経営について、興味を持った点や疑問点などを整理して授業に参加してください。	4時間
第2回	**企業経営と環境問題①気候変動** 企業経営が引き起こした気候変動問題や、それらの解決に向けた取り組みの全体像について学んだうえで、その解決に向けた取り組みの全体像を理解する。	企業経営と気候変動問題との関係について、興味を持った点や疑問点などを整理して授業に参加してください。	4時間
第3回	**企業経営と環境問題②資源・廃棄物** 企業経営が引き起こした資源・廃棄物に関する問題や、それらの解決に向けた取り組みの全体像について学んだうえで、その解決に向けた取り組みの全体像を理解する。	企業経営と資源・廃棄物問題との関係について、興味を持った点や疑問点などを整理して授業に参加してください。	4時間
第4回	**企業経営と環境問題③水** 企業経営が引き起こした水資源の枯渇問題・水質汚染問題や、それらの解決に向けた取り組みの全体像について学んだうえで、その解決に向けた取り組みの全体像を理解する。	企業経営と水資源との関係について、興味を持った点や疑問点などを整理して授業に参加してください。	4時間
第5回	**企業経営と環境問題④生物多様性** 企業経営による生物多様性破壊の問題や、それらの解決に向けた取り組みの全体像について学んだうえで、その解決に向けた取り組みの全体像を理解する。	企業経営と生物多様性との関係について、興味を持った点や疑問点などを整理して授業に参加してください。	4時間
第6回	**企業経営と環境問題⑤** 企業経営と環境問題について、①～④の内容をまとめたうえで、これまでの授業内容をもとにディスカッションをすることで理解を深める。	企業経営と環境問題について、興味を持った点や疑問点などを整理して授業に参加してください。	4時間
第7回	**企業経営と社会問題①労働問題** 企業経営における長時間労働やハラスメントといった労働問題の現状について学んだうえで、その解決に向けた取り組みを理解する。	労働問題について、興味を持った点や疑問点などを整理して授業に参加してください。	4時間
第8回	**企業経営と社会問題②労働安全衛生** 企業経営における労働安全衛生の意味とその重要性について学んだうえで、実際の企業の取り組みの全体像を理解する。	労働安全衛生について、興味を持った点や疑問点などを整理して授業に参加してください。	4時間
第9回	**企業経営と社会問題③地域コミュニティ** 企業経営が地域コミュニティに対して果たすべき役割について学んだうえで、実際の取り組みの全体像を理解する。	企業経営と地域コミュニティについて、興味を持った点や疑問点などを整理して授業に参加してください。	4時間
第10回	**企業経営と社会問題④** 企業経営と社会問題について、①～③の内容をまとめたうえで、これまでの授業内容をもとにディスカッションをすることで理解を深める。	企業経営と社会問題①～③について、興味を持った点や疑問点などを整理して授業に参加してください。	4時間
第11回	**サスティナブル経営を支えるコーポレートガバナンス** サスティナブル経営を支えるコーポレートガバナンスについて、その内容と役割について理解する。	コーポレートガバナンスについて、興味を持った点や疑問点などを整理して授業に参加してください。	4時間
第12回	**企業経営と環境問題グループディスカッション** 第2～6回の授業内容について、企業事例調べとグループディスカッションを行い、環境の観点からサスティナブルな企業経営とはどういうものかについて理解を深める。	第2～6回の授業内容を復習してから授業に参加してください。	4時間
第13回	**企業経営と社会問題グループディスカッション** 第7～11回の授業内容について、企業事例調べとグループディスカッションを行い、社会的な観点からサスティナブルな企業経営とはどういうものかについて理解を深める。	第7～11回の授業内容を復習してから授業に参加してください。	4時間
第14回	**まとめ** これまでの授業を振り返り、履修者の興味関心や理解の程度を踏まえて補足説明を行います。	これまでの授業を振り返り、興味を持った点や疑問点などを整理して授業に参加してください。	4時間

231

授業科目名	**食ビジネス入門**				
担当教員名	髙畑能久				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大手総合食品メーカーの中央研究所で研究・商品開発および新規事業を経験。その後、グループ経営本部 経営企画部にて事業戦略の立案および投融資などを担当（全14回）。				

食ビジネスコース指定

授業概要

この授業では、食ビジネスを取巻く経営環境を正しく理解するため、前半は食品企業の株主総会での決算報告を疑似体験しながら経営戦略や企業が果たすCSR活動等について学びます。後半は企業連携PBLにより体験学修し、大阪農業をもっと元気にする企画提案に取り組みます。また、川上（食品製造業）から川下（食品流通業）に至る食の幅広いフィールド、即ちフードチェーンについて理解を深め、将来のキャリアをイメージしつつ食ビジネスによって人々の喜びと豊かさを実現する食のマネジメント力を養うための第一歩を踏み出します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	食品企業の経営戦略、CSR活動および大阪農業の現状と課題について学びます。	体験学修を通して、食ビジネスの幅広いフィールドについて理解を深めます。
汎用的な力		
1. DP８.他者とのコミュニケーション		グループワークでは自分の意見を上手に伝え、相手の意見を引き出します。
2. DP９.他者との協調・協働		グループで役割を分担し、チームワーム良く課題に取り組みます。

学外連携学修

有り(連携先：ヤンマーマルシェ株式会社（ヤンマーグループ）)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・見学、フィールドワーク

・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内のワーク	20 %	： グループ内で自分の役割を理解し、その役割を果たすことができたかどうか、途中であきらめずに最後までベストを尽くすことができたかどうかを評価します。
ポートフォリオ（学びの記録）	20 %	： 提出物が何を学んだか分かるものになっているか、学びの振り返りができているかを評価します。
グループ発表	40 %	： 提示された課題に対し、関連する情報を集め、論点を分かりやすく発表することができたかどうか、グループの成果をアピールできたかどうかを評価します。
期末レポート	20 %	： 指定された日時までに提出されたレポートを対象とし、授業を通じて学んだことを、今後どのように活かしていくのかを評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

日本大学食品ビジネス学科『人を幸せにする食品ビジネス学入門』（オーム社、2016年、ISBN978-4-274-21954-2）
朝倉敏夫他『食科学入門-食の総合的理解のために-』（昭和堂、2018年、ISBN978-4-8122-1705-4）
その他、必要に応じて紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外の学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習しておくこと。
日頃からテレビ、新聞、雑誌、Webサイト等を活用し、食ビジネスに関するニュースや最新情報の把握に努めてください。
※なお、連携先の都合に合わせて、授業の順番や内容を一部変更する場合がある。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜２限

場所： 髙畑研究室（西館２階）

備考・注意事項： 授業の前後以外で質問したい場合は、メールにて受け付けます（takahata@osaka-seikei.ac.jp）。件名には必ず、所属・学籍番号・氏名を明記してください。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンスとカリキュラムマップの解説他** 授業の進め方や評価方法、食ビジネスコースのカリキュラムマップから体系的な文理融合の学びや将来のキャリアへ向けた活用について解説します。また、グループワークの班分けと役割分担なども行います。	授業内容を参考に前期の学習計画と将来のキャリアについて考えてみてください。	4時間
第2回	**株主総会を疑似体験しよう①（課題の提示）** 課題を提示した後、連結売上高で上位にある食品企業の公式サイトを閲覧し、決算報告内容について理解します。	各自で担当した食品企業の公式サイトで決算報告などを調べてください。	4時間
第3回	**株主総会を疑似体験しよう②（情報収集）** グループで選んだ食品企業の売上高、利益、事業戦略、商品、CSR活動などについて詳しく調査します。	担当した項目（売上高、利益、事業戦略、商品、CSR活動など）について調べてください。	4時間
第4回	**株主総会を疑似体験しよう③（発表準備）** これまで調査した内容に基づき、グループで担当企業の決算報告を発表するため、発表用パワーポイントと発表原稿を作成し、発表練習を行います。	グループ毎に決算報告の準備と練習を行ってください。	4時間
第5回	**株主総会を疑似体験しよう④（第1回グループ発表）** 食品企業の経営者（社長、副社長、専務取締役など）になったつもりで株主に向けて決算報告を行います。また、他グループの発表を聴いて相互評価を行います。	グループ毎に発表の振り返りとブラッシュアップを行ってください。	4時間
第6回	**株主総会を疑似体験しよう⑤（第2回グループ発表）** 前回の反省点を改善し、再び株主に向けて決算報告を行います。また、他グループの発表を聴いて相互評価を行います。	グループ毎に発表の振り返りを行ってください。	4時間
第7回	**連携企業による特別授業（PBL課題の提示）** 連携先のゲストスピーカー（専門家）から、大阪農業の現状と課題、最先端のスマート農業、6次産業化などを学んだ後、PBL課題について提示を受けます。	特別授業のレポートを作成してください。	4時間
第8回	**連携企業による学外授業（農場体験）** 連携先の体験型農園を訪問し、農作業（耕うん、播種、移植、管理、収穫など）を体験します。	学外授業のレポートを作成してください。	4時間
第9回	**次世代農業の企画①（ブレインストーミング・KJ法など）** 特別授業および学外授業で学んだことを踏まえ、グループ毎にブレインストーミングやKJ法により大阪農業が抱える課題の解決策についてアイデアを出し合います。	グループ毎に次世代の大阪農業がどうあるべきかを話し合ってください。	4時間
第10回	**次世代農業の企画②（SWOT分析など）** 大阪農業が抱える課題を解決するメンバーのアイデアを組み合わせ、SWOT分析により大阪農業をもっと元気にするための斬新な企画を考えます。	グループ毎に大阪の農業を元気にするための斬新な企画を話し合ってください。	4時間
第11回	**PBL発表会の準備①（パワーポイント・発表原稿の作成）** 一連のPBL学修を通して得られた成果を発表するため、グループ毎に役割を分担して発表用パワーポイントと発表原稿を作成します。	グループ毎に発表用パワーポイントと発表原稿を作成してください。	4時間
第12回	**PBL発表会の準備②（予演会）** グループ毎に考えた斬新な企画を発表して質疑応答します。また、ルーブリックによる自己評価も行います。	グループ毎に予演会の振り返りとブラッシュアップを行ってください。	4時間

第13回	**PBL発表会（本番）** グループ毎に考えた斬新な企画を提案します。発表後、連携先から総評を頂きます。 発表後、プレゼンテーション資料を提出してください。	グループ毎にPBL発表会の振り返りを行ってください。	4時間
第14回	**PBL学修の振り返り・まとめ** PBL学修における自己評価とグループワークを通して学んだことを振り返りシートに記入します。また、グループで話し合い自己評価とクラスメイトの評価を擦り合わせます。 授業の最後に学びのポイントをまとめ、期末レポート課題を出題します。	期末レポートは指定された日時までに提出してください。	4時間

231

授業科目名	**食品開発論Ⅰ（食品）**				
担当教員名	伴みずほ				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

食ビジネスコース指定

授業概要

私たちが食品として利用している素材は、食塩を除いてすべて生物です。食品素材（水稲・野菜・果樹・園芸・畜産・水産物など）の構成成分の調理・加工時の変化、食品加工への利用のされ方、特用林産物の特性、生産の現状を中心に講義を行います。また、各自で流通現場のフィールド調査により、授業で学んだ食材の販売方法や、どのような加工品（食品の種類）が売られているか、またその加工食品を作っているメーカーごとの違いなど、実際に購入し試食等による比較検討を織り交ぜレポートを作成します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	食の商品開発力に役立つ専門知識	食品素材の種類や品種毎に含まれる成分の特性を理解し、食品素材個々の説明できる。また、知識を栄養学や調理学そしてメニュー開発・食品開発に役立てられる
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		多くの情報の中から必要な情報を選び出し、根拠資料を引用しながら論理的にまとめられるようになる
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		市場に出回っている食品の特性に見合った販売促進を計画することが出来る

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・見学、フィールドワーク

・その他(以下に概要を記述)

ゲストスピーカーとして企業人を招き、さまざまな現状や最新の情報について学び、加工食品の試食などの演習を行う。

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
課題レポート	50 %	： 課題の内容に見合ってまとめられているか、指示された形式に従っているか、独自のルーブリックに従い3段階で評価します。
定期試験	50 %	： 食品素材個々の特徴的な食品成分を説明できるか、人体に有害な成分がある場合、適切な処理の仕方が説明できるかを評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
日本フードコーディネーター協会編	・ フードコーディネーター3級教本『新・フードコーディネーター教本2025』	・ 柴田書店	・ 2025 年

実教出版編修部　・生活学Navi 資料＋成分表＋ICT　・実教出版　・2025 年 2025

参考文献等

【参考書】

喜多野宣子　他著　食べ物と健康１（第２版）食品成分を理解するための基礎
化学同人　ISBN　9784759818185

喜多野宣子　他著　食べ物と健康２（第２版）食品素材と加工の基礎
化学同人　ISBN　9784759818192

フードコーディネーター　3級教本『新・フードコーディネーター教本2024』柴田書店　ISBN　未定

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

・教科書（食品成分表）は毎時間持参すること。
・レポート提出は次回の講義日に持参すること。
・フィールド調査ではマナーを守ること。
・フードコーディネーター教本3級試験対応テキストの該当するページをよく読み理解しておくこと。
・学外見学やゲストスピーカーの都合で授業の順番や内容を変更する場合がある。
（2回/14回）

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜日5時間目

場所：　研究室（西館2階）

備考・注意事項：　質問はメールでも応じます。ban-m@osaka-seikei.ac.jp（タイトルには氏名、学籍番号を記入のこと）

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**食品素材の分類（食品の種類）** 私たちが日常食べている食品素材（水稲・野菜・果樹・園芸・畜産・水産物など）の構成成分の調理・加工時の変化、食品加工への利用のされ方、特用林産物の特性、生産の現状について概要する。 個々の生物体としての特徴とそれを構成している成分の特性を学び、食品素材の分類を理解する。	よく利用される食品を植物性食品と動物性食品とに分類する。	4時間
第2回	**穀類の特性とその加工食品** 穀類とは、植物の種子を食用とするイネ科とタデ科の植物の総称である。穀類の種類とその加工品について、またそれらに含まれる成分や特徴について学ぶ。	穀類の加工品を調べる。	4時間
第3回	**イモ類の特性とその加工品** イモ類は水分含量が高く、貯蔵性や輸送性に劣るが栽培が容易で収量が安定している特徴がある。イモ類の種類とその加工品について、またそれらに含まれる成分や特徴について学ぶ。	イモ類の加工品を調べる。	4時間
第4回	**種実類の特性とその加工品** 種実類は、いずれも水分が少なく、無機質、ビタミン、食物繊維を比較的多く含む。 種実類の種類と成分構成による分類について、またそれらに含まれる成分や特徴について学ぶ。	種実類の加工品を調べる。	4時間
第5回	**豆類の特性とその加工品** 豆類はマメ科に属する草本の種子である。成熟した乾燥種子(豆）を加工品に利用することが多く、未熟な種子をサヤごと食べる場合野菜類に分類される。豆類とその加工品、さらに成分について学ぶ。	豆類の加工品を調べる。	4時間
第6回	**野菜類の特性とその加工品** 野菜はさまざまな色彩と特有の食感を持ち、健康を維持していくためにも、また彩りを添える食材としても重要である。野菜類とその分類およびその加工品について、さらに成分や特徴について学ぶ。学外授業も行う。	野菜類の加工品を調べる。	4時間
第7回	**果実類の特性とその加工品** 果実類は生食する事が多い植物性食品であり、特有の芳香や色、味などを持つ。果実類とその加工品について、またこれらの成分や特徴について学ぶ。	果実類の加工品を調べる。	4時間
第8回	**キノコ類の特性とその加工品** キノコ類は大型の胞子組織を形成する菌類である。毒性を持つ種類もあり食用とされるのは約100種類である。キノコ類とその加工品について、またこれらの成分や特徴について学ぶ。	キノコ類の加工品を調べる。	4時間
第9回	**藻類の特性とその加工品** 藻類は、胞子が水中で繁殖し成長する植物をいう。生のまま利用されるとともにさまざまな食品に加工される。藻類とその加工品について、またこれらの成分や特徴について学ぶ。	藻類の加工品を調べる。	4時間
第10回	**魚介類の特性とその加工品** 魚介類とは、魚類、甲殻類、軟体動物、棘皮動物、棘胞動物、原索動物のうち食用とされるものの総称である。魚介類とその分類および特性について、またこれらの加工品その加工技術について学ぶ。	魚介類の加工品を調べる。	4時間
第11回	**食肉類の特性とその加工品**	食肉類の加工品を調べる。	4時間

	食肉とは食用に飼育されている家畜、家禽の食べられない部分を除いて処理した肉のことをいう。魚介類と並ぶ重要なタンパク質供給源である食肉類とその分類および特性、その加工品ついて学ぶ。		
第12回	**卵類の特性とその加工品** 卵類とは一般に鶏卵をさすが他にウズラ卵、アヒル卵などが利用される。調理が簡単で栄養価が高い。卵類の構成成分の特徴を知り、その加工品について学ぶ。	卵類の加工品を調べる。	4時間
第13回	**乳類の特性とその加工品** 乳は哺乳動物が子どもを哺育するために乳腺から分泌するもので、栄養価が高くさらにカルシウムの供給源である。牛乳とその多様な加工品について学ぶ。	乳類の加工品を調べる。	4時間
第14回	**食用油脂、調味料、香辛料、嗜好品、食品の保存と規格** さまざまな加工食品（食用油脂、調味料、香辛料、嗜好品-非アルコール・アルコール飲料、菓子類、微生物利用食品、バイオテクノロジー応用食品、新しい加工技術）について学ぶ。 食品の保存方法、食品の規格基準、保健機能食品と特別用途食品について学ぶ。この分野は時代の動きにつれて変化しやすく、オーガニック食品など新規名称の食品についても理解する。ゲストスピーカー（日本食品分析センター、食品メーカー）を招き、食の最新情報を学ぶ。	さまざまな加工食品の内１つの加工食品を選びその特徴等を調べる。保健機能食品について種類および機能について調べる。	4時間

231

授業科目名	**食品開発論Ⅱ（栄養）**				
担当教員名	伴みずほ				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

食ビジネスコース指定

授業概要

栄養学の基本となる五大栄養素、すなわち食べものとして摂取した、タンパク質、炭水化物（糖質・食物繊維）、脂質、ビタミン、ミネラルなどの消化吸収、および代謝とその調節、ならびに各栄養素との関連性や、エネルギー代謝について学びます。また、サプリメントとしてビタミンおよびミネラル等を摂取する場合に、特に問題となる過剰摂取の危険性について学び、多くの情報の中から必要な情報を選び出し、根拠資料を引用しながら論理的に、サプリメント等の利用のメリットについて考えます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	食の商品開発に役立つ専門知識	健康の保持増進・疾病の予防や治療における栄養の役割、摂取した食物の栄養成分がどのように代謝され、体の構成成分やエネルギーとしてどのように利用されるかが理解できる メニュー開発・食品開発の基礎となる

汎用的な力	
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用	多くの情報の中から必要な情報を選び出し、根拠資料を引用しながら論理的にまとめられるようになる
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案	健康の保持増進・疾病の予防のためにはどのような食べ方が良いか提案するすることができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・問答法・コメントを求める

・課題解決学習(PBL)

・その他(以下に概要を記述)

ゲストスピーカーとして企業人を招き、さまざまな現状や最新の情報について学び、加工食品の試食などの演習を行う。
演習ではPBL型で行う場合がありまとめの発表を求める場合グループで行う。

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
小テスト	20 %	： 学期中に複数回またはPBL型演習を1回行い、キーワードや各種反応の仕組みを理解できているかについて評価します。
定期試験	80 %	： バランスの良い食事の具体例（料理名）があげられ、適切な１人分の食事内容が説明できるか、食品に含まれる各成分の機能が説明できるかを評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
鈴木和春　他著	・ サクセス管理栄養士・栄養士養成講座 基礎栄養学	・ 第一出版	・ 2023　年

参考文献等

【参考書】生活学Navi 資料＋成分表＋ICT　2025　　未定

【参考書】フードコーディネーター　3級教本『新・フードコーディネーター教本2025』柴田書店　ISBN　未定

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

ゲストスピーカーの都合により授業の順番や内容を変更する場合がある。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　月曜日5時間目

場所：　研究室（西館2階）

備考・注意事項：　質問はメールでも応じます。ban-m@osaka-seikei.ac.jp（タイトルには氏名、学籍番号を記入のこと）

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**栄養とは** 栄養の本質を理解し、栄養素と呼ばれる物質と生物としてのヒトとのかかわりを科学的観点から学ぶ。また疾患と栄養とのかかわり、疾患がヒトにもたらす負の側面を社会的観点から理解する。また古代から現代までの間に栄養学という学問（栄養学史）が、どのように生まれ、発展し、体系化されてきたのかを学ぶ。	ヒトが生きていくために必要な栄養素と呼ばれる物質を身体の中で作られるのか作られないのかを調べる。	4時間
第2回	**栄養素とそのはたらき** 私達動物は食物（有機物）を摂取しなければ生きていく事はできない。摂取する食物にはいろいろな物質が含まれている。その中に生きるために必要な物質である栄養素の種類とそのはたらきを学ぶ。	ヒトが成長し、成人になってからは維持・増進していくために、身体の中で行われてほしいはたらきを具体的に箇条書きで列記し、それらを３つのカテゴリーにまとめる。	4時間
第3回	**糖質** エネルギー源となる糖質の種類とその構造を学ぶ。また糖質の体内利用について学び糖尿病の病態について理解する。	糖質と食物繊維との違いを調べる。	4時間
第4回	**脂質** エネルギー源となる脂質の種類とその構造を学び、脂質の体内利用について、また脂質異常症の病態について理解する。	脂質の構造と種類を調べる。	4時間
第5回	**タンパク質** エネルギー源および身体の構成成分となるタンパク質の種類とその構造を学ぶ。またタンパク質の体内利用とくに栄養価の評価について理解する。	タンパク質の構造と種類を調べる。	4時間
第6回	**ミネラル（無機質）** 身体の構成成分および生理作用を調節するミネラルの種類とその体内利用について学ぶ。また、それらの不足および過剰症の病態について理解する。	骨を作る、血液をつくるのに関係の深い栄養素を調べる。	4時間
第7回	**ビタミン** 生理作用を調節するビタミンの種類とその構造について学ぶ。また、ビタミンの体内利用について学び、それらの不足および過剰症の病態について理解する。	ビタミンの特徴による分類とその機能について調べる。	4時間
第8回	**水と食物繊維** 食べ物の中には栄養素以外にもさまざまな成分が含まれており、その中には有用なもの不用なものが含まれている。有用なものである機能性非栄養成分、特に食物繊維について学ぶ。	食物繊維の特徴による分類とその機能について調べる。	4時間
第9回	**栄養素の消化と吸収（消化のしくみ）** 摂取した食べ物が消化される過程では、多くの消化器系器官がかかわり、栄養素は各器官においてさまざまな消化酵素の作用を受ける。各栄養素の特徴別にどのような成分まで消化されるかを学ぶ。	三大栄養素を消化する主要な消化酵素の名称を調べ、各栄養素毎に分類する。	4時間
第10回	**栄養素の消化と吸収（吸収のしくみ）** 摂取した食べ物が消化された各栄養素の特徴別にどのように吸収されるかを学ぶ。また、吸収後の体内での輸送経路とその利用のされ方について理解する。	三大栄養素が消化された最終の成分はその特徴によりどちら側の輸送経路を通るのかを調べる。	4時間
第11回	**エネルギー代謝** ヒトが食事から得る摂取エネルギーと代内で消費される消費エネルギーとの出納をエネルギー代謝といい、エネルギーの定義および自身のエネルギー消費量あるいは必要量の算出方法について学ぶ。	三大栄養素で代表される各食品の１ｇあたりのエネルギー量を調べ、自身の１日の食事でどれくらい摂取しているのかを算出する（食育バイキング）。	4時間
第12回	**摂食行動**	空腹であるのに食べたく無くなる要因について考察する。	4時間

	ヒトはどのようにして空腹を感じると食事を開始し、ある程度満腹になると摂食が止まるのか、現在明らかになっている摂食調節について、また食物と味覚に関して栄養と関連させて学ぶ。		
第13回	**食事摂取基準** 健康な個人の健康の維持・増進および生活習慣病の予防を目的とした、エネルギーと栄養素の摂取量を理解し、現場で使用されている食事バランスガイドや食品群等の教材の考え方についても学ぶ。	食事摂取基準の概要の中に書かれている統計学的な考え方について説明する。	4時間
第14回	**食習慣と疾病** 食生活と健康が密接に関連していることは多くのヒトが認識しているところであるが、アジアと欧米では死亡原因となる疾病に大きな違いがある。考えられる食習慣の違いや遺伝的背景について学ぶ。ゲストスピーカーを招き、企業の取り組みを学ぶ。	アジアと欧米の食習慣を調べ、そこから良く食べられている食品/調理方法を見つけ出し、その食品/調理方法に多く含まれていると考えられる栄養素を箇条書きする。	4時間

231

授業科目名	食品開発論Ⅲ（調理）				
担当教員名	伴みずほ				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

食ビジネスコース指定

授業概要

調理とは食品材料を食べ物に変えることである。食品材料である動植物をそのまま食べるのではなく安全でおいしい食べ物に加工して食べる。食べやすい形（食べ物）に変えることが料理することであり、広い意味で食事を整える事全体をさして調理と言う。調理技術は昔から伝承されてきたものが多く、「技」として考えられがちであるが、この授業では実際の調理操作中に生じる諸現象を学び、おいしく調理する技術の裏にある理論を理解する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	食の商品開発に役立つ知識	食環境に対応した食品素材の活かし方が理解でき、多くの情報の中から必要な情報を選び出し、論理的にまとめられる
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		多くの情報の中から必要な情報を選び出し、根拠資料を引用しながら論理的にまとめられるようになる
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		調理実習の内容と関連付けて調理技術を理解し、メニュー開発・食品開発の基礎力を身に付ける

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・見学、フィールドワーク

・その他(以下に概要を記述)

大阪ガスハグミュージアムに訪問し最新の調理器具の説明と防災食の講義と実習を行います。
ゲストスピーカーとして企業人を招き、さまざまな現状や最新の情報について学びます。

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
レポート	30 %	： 内容の妥当性と論理的構成について、独自のルーブリックに基づいて評価します。
定期試験	70 %	： 個々の食品素材をおいしくいただくために行う、適切な調理操作とその意義が説明できるかを評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
杉山　文 著	・「見て納得　おいしい料理のサイエンス 」	・化学同人	・2020　年

参考文献等

【参考書】実教出版編修部　生活学Navi 資料＋成分表　2025　ISBN　未定

【参考書】フードコーディネーター　3級教本『新・フードコーディネーター教本2025』柴田書店　ISBN　未定

【参考書】渋川祥子　編著　「エスカベーシック 食べ物と健康―調理学」同文書院　2024

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

実習中に知り得た知識や疑問をその日の内に整理するようにしてください。
学外講師の都合で授業の順番や内容を変更する場合があります。

学外の見学に1回/14回あてます。
食育演習が2回/14回あります。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日5時間目

場所： 研究室（西館2階）

備考・注意事項： 質問はメールでも応じます。ban-m@osaka-seikei.ac.jp（タイトルには氏名、学籍番号を記入のこと）

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**調理の意義と食事計画** ヒトは食べ物を食べて生きているが、自然界の中でヒトが食べる事の位置づけを知り、食事の意義、調理の目的を理解し、調理学を学ぶ意味を理解する。 また、毎日の食事における一連の過程において調理が、地球温暖化、廃棄物、水質汚濁などの地球環境問題として捉える。	各国、各地方の食事の形式やその歴史を調べる。	4時間
第2回	**調理操作と調理機器①非加熱操作** 調理操作のうち非加熱操作は、下ごしらえや中間的な操作から仕上げまでの過程における複数の操作である。各技術の理論を学びその過程で生じる食品の形状・組織・物性・成分等の変化を理解する。	非加熱操作の中で、切砕という操作があるが、この目的のうち外観を整えるための各種切り方について調べる。	4時間
第3回	**調理操作と調理機器②湿式加熱** 食材を調理しておいしい食べ物にするには、適切な調理操作が求められる。加熱操作は調理の中心的役割を持つが、その中で湿式加熱の目的、特徴、方法、調理中の熱の伝わり方について学ぶ。	湿式加熱の種類とそれに相当する具体的な調理名を調べる。	4時間
第4回	**調理操作と調理機器③乾式加熱** 加熱操作の中で、乾式加熱の目的、特徴、方法、調理中の熱の伝わり方について学ぶ。	乾式加熱の種類とそれに相当する具体的な調理名を調べる。	4時間
第5回	**調理操作と調理機器④誘電・誘導加熱** 加熱操作の中で、誘電・誘導加熱の目的、特徴、方法について学ぶ。また、過熱水蒸気過熱および外食産業や大量調理を行う際の調理方法についても学ぶ。	誘電・誘導加熱の特徴を調べ、考えられる利点・欠点を考察する。	4時間
第6回	**調理操作と調理機器⑤器具・調理機器の理解** 非加熱・加熱調理操作に使用する器具・調理機器の機能や材質を理解し、料理にあった器具・加熱調理が選択できるよう学ぶ。	加熱器具として重要な鍋についてその材質と特徴について調べ適する料理名をあげる。	4時間
第7回	**調理操作と調理機器⑥調味操作の理解** 調味操作は、調理の目的により調味する時期や方法が異なり、これらが、料理や風味の強さ、食品のテクスチャーにも影響を与え、料理のおいしさを左右する。適切な調味する時期、濃度を学ぶ。	日常よく食べる料理（５品）に使用されている調味料の種類と使用量（%）を調べる。	4時間
第8回	**食べ物の嗜好性と生体における役割①おいしさと健康** ヒトは食べ物を食べる時おいしさを感じる。食べ物はまずおいしい事が大切で、おいしいと感じると消化吸収能力が高まったり、生活に喜びを与える。食べ物のおいしさを形成する要因を理解する。	５基本味についてまとめ栄養学的に何を意味するかを調べる。	4時間
第9回	**食べ物の嗜好性と生体における役割②５基本味を呈する物質** 化学物質である５基本味を呈する物質の種類、構造、濃度との関係を学ぶ。	閾値、相乗効果、対比効果のことばの意味を調べる。	4時間
第10回	**食べ物の嗜好性と生体における役割③おいしさを形成する要因** おいしさは味覚で主に感じるが、嗅覚、触角、視覚、聴覚によっても感じられ、さらに種々の因子がおいしさに関与している。ここではテクスチャー、温度、色、音、香りの関与について学ぶ。	朝食を食べたくなるために必要な要因を考察する。	4時間
第11回	**官能評価**	官能評価をしてみたいと思う事柄を一つ選び、官能評価の手法に見合った官能評価用紙を作成し、評価結果を推測する。	4時間

	官能評価とは、ヒトの感覚を用いて食品の品質特性や嗜好特性を評価し、結果を統計的手法により解析して、より客観的、普遍的な判断を得ようとするものである。この評価方法について学ぶ。		
第12回	**調理と安全** 調理学の意義はおいしさの追求と栄養学的なバランスがとれ、さらに衛生的で安全な食物を摂取することである。安全な食物を摂取するにはどんな手段をとればよいかを考える。学外授業を行う。	どのような食品にトレーサビリティが導入されているかを調べる。	4時間
第13回	**食事設計と栄養** ヒトは健康の保持増進および疾病予防のために食事を喫食しているが、それはＱＯＬを高めるものでなければならない。食文化や食習慣に配慮したバランスの良い日常の食事の献立作成について学ぶ。	自身の年齢、性別に見合った日常のある1日の献立を作成する。	4時間
第14回	**食品の調理性と生体利用性、調理による栄養効果** 食事の素材となる食品には、植物性食品、動物性食品、さらにこれらの食品から抽出された特殊成分がある。これらの調理性と代表的な調理について学ぶ。	日本人の食の原点とされる「米」と、現在消費量が増加中の「小麦」の調理性の違いについてまとめる。	4時間

231

授業科目名	食品流通論				
担当教員名	髙畑能久				
学年・コース等	1・2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

食ビジネスコース指定

授業概要

この授業では、経済産業省の商業統計調査、経済系の新聞記事、主要企業の公式サイト、実際に市場で売上を伸ばしている商品などの最新情報に基づき、また動画視聴を通して食品流通業の現状と今後の課題について学びます。
食品消費の変化、食品市場マーケティング、食品小売業の各業態（食品スーパーマーケット、総合スーパーマーケット、コンビニエンスストア、百貨店、生活協同組合、電子商取引など）および卸売業と卸売市場の特徴を学び、マクロ環境の変化に伴う今後の市場動向についても理解を深めます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	小売業・卸売業の市場動向を把握する手段や食品流通業の各業態の特徴と課題などを学びます。	小売業・卸売業の市場動向と食品流通業の各業態の特徴について理解を深めます。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		食品流通業の各業態が抱えている課題を発見します。
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		市場動向を踏まえ、食品流通業の各業態の課題を解決する方策を企画・立案します。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業での発言量・質	30 %	： 授業内のグループワークに積極的に参加しているかどうか、発表内容が適正で分かりやすいかどうかを評価します。
レポート課題	30 %	： 与えられた課題に対し、授業で学んだ正しい知識に基づき読み手に分かりやすく論述できているかどうかを評価します。
定期試験	40 %	： 専門知識を問われる問題に対して、授業で学んだ正しい知識に基づき解答できているかどうかを評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

時子山ひろみ他著『フードシステムの経済学　第５版』（医歯薬出版、2015年）
藤島廣二他著『新版　食料・農産物流通論』（筑波書房、2012年）
その他の参考文献等は授業中に随時紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外の学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
また、日頃からテレビ、新聞、雑誌、webサイト等を活用し、食ビジネスに関するニュースや最新情報の把握に努めてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜２限

場所： 研究室（西館２階）

備考・注意事項： 授業の前後以外で質問したい場合は、メールにて受け付けます（takahata@osaka-seikei.ac.jp）。タイトルには必ず、所属・学籍番号・氏名を明記してください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンスおよび食品流通のしくみ** シラバスに沿って授業の進め方や評価方法などを説明します。 「食品の物流」、「食品の商流」、「食品の情報流」などのしくみについて学びます。また、最近の食品流通業を取り巻く環境の変化をトピックスをあげて理解します。	食品流通に関わる新聞、雑誌、webサイト等の記事を読んできてください。	4時間
第2回	**消費者ニーズの変化（食の外部化）** 女性の社会進出や一人暮らしの世帯の増加など、食の外部化要因について考えます。	食品流通に関わる新聞、雑誌等の記事を読んできてください。	4時間
第3回	**日本の商業実態および業界再編の動向** 経済産業省の商業統計調査による卸売業・小売業の実態および、小売業界再編の動向を学びます。	経済産業省の公式サイトで商業統計調査を確認してください。	4時間
第4回	**食品小売業①（スーパーマーケット）** 食品スーパーマーケット（SM）、総合スーパーマーケット（GMS）業態の特徴と今後の課題を学びます。	イオン、セブン＆アイホールディングスの公式サイトで経営状況を確認してください。	4時間
第5回	**食品小売業②（コンビニエンスストア）** コンビニエンスストア（CVS）業態の特徴と今後の課題を学びます。	セブンイレブン、ファミリーマート、ローソンのホームページで経営状況を確認してください。	4時間
第6回	**食品小売業③（百貨店）** 百貨店業態の特徴と今後の課題を学びます。	三越伊勢丹ホールディングス、J.フロントリテイリング、髙島屋の公式サイトで経営状況を確認してください。	4時間
第7回	**食品小売業④（生活協同組合）** ゲストスピーカー（専門家）を招き、生活協同組合業態の特徴と今後の課題について学び、各自レポートを提出します。	日本生活協同組合連合会、コープこうべの公式サイトで経営状況を確認してください。	4時間
第8回	**食品小売業⑤（電子商取引）** 電子商取引（EC）、オムニチャネル業態の特徴と今後の課題を学びます。	アマゾン、楽天、オイシックス・ラ・大地の公式サイトで経営状況を確認してください。	4時間
第9回	**グループワーク①（成長するだろう／衰退するだろう業態）** 「30年後に成長するだろう／衰退するだろう食品小売業態とその理由」と題して、グループワークを行い、各自レポートを提出します。	次回の授業までにレポートを提出してください。	4時間
第10回	**卸売業と卸売市場** 経済産業省の商業統計調査による卸売業・卸売市場の実態と今後の課題を学びます。	大阪府中央卸売市場、三菱食品、日本アクセス、国分グループ本社の公式サイトで経営状況を確認してください。	4時間
第11回	**食の世界市場** 食の世界市場のトレンド、グローバル食品企業の成長戦略について学びます。	海外進出している日本の食品流通業の事例を調べておいてください。	4時間
第12回	**食品流通業の実態** ゲストスピーカー（専門家）を招き、食品小売業を中心に食品流通業の実態と今後の課題について学び、各自レポートを提出します。	次回の授業までに特別授業のレポートを提出してください。	4時間
第13回	**グループワーク②（食品流通業における課題と解決策）** 「食の安全・安心と企業倫理」「持続可能な食ビジネスの構築に向けて」などの課題と解決策について、グループワークを行い、各自レポートを提出します。	次回の授業までにレポートを提出してください。	4時間
第14回	**食品流通業の動向・課題まとめ**	この授業で学んだことを振り返り・復習してください。	4時間

食品流通業の業態別市場動向および業界再編の動向について学びます。これまでの授業で学んだことを振り返り、理解を深めます。		

231

授業科目名	フードコーディネート論				
担当教員名	山岡正弘				
学年・コース等	1・2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	新規ホテル開業業務、新規レストラン開業業務、レストランリニューアル業務、メニュー開発、社員教育、国家試験HRS認定試験委員、特定非営利活動法人日本フードコーディネーター委員等				

食ビジネスコース指定

授業概要

「食」の世界が大きく動き出している現代、細分化される食の専門化する中で、スペシャリストとしての専門分野を持ち、それぞれの分野を複合的にコーディネートするのが仕事。食の商品開発、レストランプロデュース、販売促進・メディアなど、フードビジネスの全てに関わります。授業では「文化」「科学」「デザイン・アート」「経済・経営」の4分野に区分して、進めていきます。授業目標としては、次のステップである「食ビジネス経営論」「食ビジネス経営実践」に繋げる。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	食に関わる基礎知識	フードコーディネーターの基礎知識を身につける。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		食に関わる基礎知識から課題を検討出来る。
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		専門知識を理解し、計画・立案力を発揮できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

・その他(以下に概要を記述)

授業終了時に毎回振り返り小テストを実施します。

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への参加度	20 %	： 教員との授業中のやりとり、授業への取り組みを評価します。
授業態度	20 %	： 授業への取り組み態度を評価します。
振り返り小テスト	10 %	： 毎回実施する振り返り小テストの提出及び採点を評価します。
定期試験（筆記）	50 %	： 試験の素点に基づいて到達度を評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
特定非営利活動法人日本フードコーディネーター協会	・新・フードコーディネーター教本2021年	・柴田書店	・2021　年

参考文献等

食に関する企業HP、書籍、メディア記事などを参考とする。
特定非営利活動法人日本フードコーディネーター協会HP、新・フードコーディネーター教本2級資格認定試験対応テキスト

履修上の注意・備考・メッセージ

シラバス計画に準じて教本及び参考文献に調べておく。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

備考・注意事項： 質問は従業の前後にも答えるが、メールでも対応する。
メールアドレス：ppp-yamaoka@ares.eonet.ne.jp
メールには必ず氏名と所属を書くこと。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**食の歴史と文化と風土** 概説（食と感性、おいしさと感覚）。日本料理（歴史、種類、暦と旬、行事食と郷土食）。中国料理（歴史、特色、食事様式）。西洋料理（歴史、菓子・デザート、パンの歴史）。その他の国の料理。	フードコーディネーター教本「食の歴史と文化と風土」を読んでおく	4時間
第2回	**食品・食材の知識（1）** 概説。肉（特徴、分類）。魚（特徴、分類）。豆・大豆・大豆製品（特徴、分類）。野菜・キノコ・海藻（特徴、分類）。	フードコーディネーター教本「食品・食材の知識」を読んでおく	4時間
第3回	**食品・食材の知識（2）** 乳・乳製品・卵（特徴、分類）。穀物（特徴、分類）。酒・ドリンク（特徴、分類）。調味料・香辛料。加工食品（特徴、分類）	フードコーディネーター教本「食品・食材の知識」を読んで、地産地消を理解する。	4時間
第4回	**料理方法と調理機器** 概説。調理器具の基本知識。調理の基本（肉・魚・野菜の下拵えの基礎知識、日本料理の調理の基本、西洋料理の調理の基本、中国料理の調理の基本）。菓子及びパン。	フードコーディネーター教本「食品・食材の知識」を読んでおく	4時間
第5回	**厨房の基礎知識** 概説（厨房計画の重要性、フードコーディネーターの役割、安全性・衛生面への配慮）。前提条件・基本方針の決定（業種・業態の確定、コンセプト・メニュー計画、客席数・客単価・販売数予測、要員計画、厨房のスタイル）。厨房の基本レイアウト。厨房の生産システム。厨房の設計。厨房機器の種類と特徴。厨房図面の作成（機器の配置・寸法、図面の見方）。建築・設備面における厨房計画。	フードコーディネーター教本「厨房の基礎知識」を読んでおく	4時間
第6回	**健康と栄養** 概説。栄養素のはたらき（タンパク質、脂質、炭水化物、ビタミン、ミネラル。6つの基礎食品群（第1群「魚・肉・卵・大豆」、第2群「牛乳・乳製品・骨ごと食べれる魚」、第3群「緑黄色野菜」、第4群「その他の野菜・果物」、第5群「コメ・パン・麺・イモ」、第6群「油脂」。食生活と健康づくり（食生活の変化と健康状態・望ましい食生活の実現に向けて。	フードコーディネーター教本「健康と栄養」を読んでおく	4時間
第7回	**食の安全** 概説。衛生微生物。経口伝染病とその他の病気。食中毒。寄生虫。食品異物。食品添加物。食品の腐敗。食品衛生対策。食品の品質表示制度。食物アレルギー。	フードコーディネーター教本「食の安全」を読んでおく	4時間
第8回	**食空間のあり方、食空間と内装デザイン（1）** 食空間とは（「おいしい」とは何か、食空間におけるホスピタリティとは）。食空間の分類。家庭の食空間。食空間の意義。外食産業の歴史に見える食空間の歴史。	フードコーディネーター教本「食空間のあり方」を読んでおく	4時間
第9回	**食空間のあり方、食空間と内装デザイン（2）** 今後の食空間のあり方。レストランの空間の設計実務（プランニングから開業までの作業の流れ、設計に掛かる前の確認事項、クライアントの要望確認、店舗コンセプトン作成、設計業務の内容、図面の見方、基本設計の作成、プランの提案、実施設計の作成、入金・金額決定・契約、工事着手の設計監理・施工管理、役所の検査、完成検査・引渡し）	フードコーディネーター教本「食空間と内装デザイン」を読んでおく	4時間
第10回	**食空間とテーブルコーディネート**	フードコーディネーター教本「食空間とテーブルコーディネート」を読んでおく	4時間

	テーブルコーディネートとは。テーブルコーディネートの基本的理論（全体の組立、デザインのもと、料理と器の関係、カラーコーディネート）。食空間の構成洋食（テーブルをセットするときの約束ごと、テーブルの構成、コーディネートアイテムを知る、コーディネート例、最後のチェックポイント）。食空間の構成和食（和食をコーディネートする時の約束ごと、和の食卓、膳の寸法）。食空間の構成中国料理（中国料理の食の約束ごと、テーブルセッティング）		
第11回	**テーブルマナーとサービス** 概説。テーブルマナー（基本的な食事のマナー、西洋料理のマナー、日本料理のマナー、中国料理のマナー、飲酒のマナー、茶や菓子のいただき方、茶のサービス）。サービスマナー（西洋料理のサービスマナー、日本料理のサービスマナー、中国料理のサービスマナー）。プロトコールとは。パーティ。席次。	フードコーディネーター教本「テーブルマナーとサービス」を読んでおく	4時間
第12回	**フードマネジメント** 概説。現代の食事形態と食市場（現代の食事の3形態、高まる「食の外部化率」、内食と内食市場の動向、外食と外食市場の動向、中食と中食市場の動向、食市場全体、飲食業の特性）。マーケティングの基礎知識。経営の基礎知識。経営の計数管理。財務諸表。	フードコーディネーター教本「フードマネジメント」を読んでおく	4時間
第13回	**メニュープランニング** 概説。メニュープランニングの流れ。トレンドの読み方。食品流通とメニュープランニング。メニュープランニングのチェックシート。メニューの原価と価格設定。メニュー競合店調査。メニュープランニングの事例。レストラン以外の商品開発。	フードコーディネーター教本「メニュープランニング」を読んでおく	4時間
第14回	**食の企画・構成・演習の流れ及びフードコーディネート論総合解説** 概説。食の企画の流れ。食の企画の例。企画提案に必要なスキル。企画書を立案するうえで必要な項目。オリエンテーションや依頼内容のチェック。ビジネス企画書の基本構成。 第1回食の歴史と文化と風土から第13回メニュープランニングのポイント解説。	1回～12回までの小テストを見直す	4時間

231

授業科目名	地域経営入門				
担当教員名	荒木俊之				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	民間企業に従事し、認定都市プランナーとして、地方自治体の都市計画やまちづくりなどに関する調査の実施や計画の策定などを支援した経験を有する。（全14回）				

授業概要

「地域経営」とは、人口減少・少子高齢化の進展、自然災害の増加、行政サービスの変化など地域の課題を解決するために、行政のみならず、地域、住民、事業者、各種団体等が、連携・調整等しながら解決する取組みを示している。本講義では、行政や事業者、各種団体の仕組みや役割を学ぶとともに、地域が抱える課題について学び理解を深める。そのうえで、各主体が連携・調整する手法を、事例とともに学び、グループワーク等を通して地域の課題の解決方法を考える。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	地域における行政や事業者等の役割、連携方法に関する基本的な理解	地域における行政や事業者等の役割、連携方法に関する基本的な事項や課題について、その主要な内容を理解し説明できる
汎用的な力		
1. DP10.忠恕の心		学びを通して、他者への思いやりを持ち、意見等に共感することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
期末試験	40 %	： 地域における行政や事業者等の役割、地域課題、課題に解決に関する基本的な事項を問う問題を出題し、的確に記述や説明ができているかを基準に評価する。
授業内レポート	30 %	： 第1～14回授業に関する授業後課題を実施し、内容の理解や論理性、オリジナリティを基準に評価する。
授業への貢献	30 %	： 授業での発表内容やグループワークでの役割など授業への貢献度を評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

海野進「地域を経営する」同友館／2009年（ISBN:9784496045356）
神谷浩夫ほか「地方行財政の地域的文脈」古今書院／2012年（ISBN:9784772231428）
河合雅司「未来の地図帳」講談社（講談社現代新書）／2019年（ISBN：9784065160893）
河合雅司「未来の年表　業界大変化」講談社（講談社現代新書）／2022年（ISBN：9784065302507）
曽我謙悟「日本の地方政府 1700自治体の実態と課題」中央公論新社（中公新書）／2018年（ISBN:9784121025371）
山田浩之他「地域経済学入門（第３版）」有斐閣／2018年（ISBN:9784641165229）
人口戦略会議編著「地方消滅2」中央公論新社／2024年（ISBN:9784121028303）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加えその回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜4限

場所： 西館3F 42研究室

備考・注意事項： 連絡を取りたい場合はメールでも可（araki-t@g.osaka-seikei.ac.jp）

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス：地域経営とは** 授業の進め方や地域経営とは何かを学ぶ。	地域や経営、地域経営のキーワードについて、事前にインターネットや参考図書をもとに調べる。授業後は、配布したレジュメや参考図書などをもとに復習し、理解を深める。	4時間
第2回	**地方自治体の仕組みと役割** 地域づくりの主要な担い手である地方自治体（都道府県・市区町村）の仕組みと役割を学ぶ。	自治体の仕組みや役割について、事前にインターネットや参考図書をもとに調べる。 授業後は、配布したレジュメや参考図書などをもとに復習し、理解を深める。	4時間
第3回	**警察・消防の仕組みと役割** 地域において安全・安心を確保する警察・消防の基本的な仕組みと役割を学ぶ。	警察や消防の仕組みや役割について、事前にインターネットや参考図書をもとに調べる。 授業後は、配布したレジュメや参考図書などをもとに復習し、理解を深める。	4時間
第4回	**事業者・各種団体の仕組みと役割** 地域の生活を支える事業者・各種団体の基本的な仕組みと役割を学ぶ。	事業者や各種団体の仕組みや役割について、事前にインターネットや参考図書をもとに調べる。 授業後は、配布したレジュメや参考図書などをもとに復習し、理解を深める。	4時間
第5回	**地域における多様な主体の役割** 第2～4回で学んできた地方自治体や警察・消防、事業者・各種団体の仕組みや役割について、それぞれの相違を整理し、レポートを作成したうえで発表する。	第2～4回で内容を中心としたまとめのレポートを作成できるように準備する。 授業後は、まとめたレポートをもとに、復習し、理解を深める。	4時間
第6回	**地域の課題(1)：人口減少・少子高齢化の現状と課題①** 地域づくりの課題として、人口減少・少子高齢化の現状を学ぶ。	人口減少・少子高齢化の現状について、事前にインターネットや参考図書をもとに調べる。 授業後は、配布したレジュメや参考図書などをもとに復習し、理解を深める。	4時間
第7回	**地域の課題(2)：人口減少・少子高齢化の現状と課題②** 第6回の人口減少・少子高齢化の現状を踏まえて、その影響や課題を学ぶ。	人口減少・少子高齢化の影響や課題について、事前にインターネットや参考図書をもとに調べる。授業後は、配布したレジュメや参考図書などをもとに復習し、理解を深める。	4時間
第8回	**地域の課題(3)：自然災害や犯罪等の生活安全に関する現状と課題** 地域づくりの課題として、自然災害や犯罪、事故等の生活安全に関する状況や課題を学ぶ。	自然災害や犯罪等の生活安全に関する現状と課題について、事前にインターネットや参考図書をもとに調べる。 授業後は、配布したレジュメや参考図書などをもとに復習し、理解を深める。	4時間
第9回	**地域の課題(4)：行政サービス（医療・福祉、環境衛生等）の現状と課題** 地域づくりの課題として、医療・福祉、環境衛生など行政サービスの状況や課題を学ぶ。	医療や福祉、環境衛生等の行政サービスの現状と課題について、事前にインターネットや参考図書をもとに調べる。 授業後は、配布したレジュメや参考図書などをもとに復習し、理解を深める。	4時間
第10回	**まちづくりの実践（特別講義）** 特別講義として、まちづくりに関係する主体（自治体・事業者等）の関係者を招き、地域の現状と課題、課題解決に向けた取り組みについて説明を受ける。	まちづくりに関係する主体について、事前にインターネットや参考図書をもとに調べる。授業後は、配布したレジュメや参考図書などをもとに復習し、理解を深める。	4時間

第11回	**地域の課題解決に向けた現状の理解** グループワークにて、対象となる地域の課題解決に向けた現状の理解を進める。	関心のある地域の課題について、その概要を事前に調べる。 授業後は、調査、検討した内容をもとに、復習し、理解を深める。	4時間
第12回	**地域の課題解決策の検討** 第11回にて把握した地域の課題をもとに、グループワークにて解決策を検討し、発表資料をまとめる。	第11回で理解した地域の課題をもとに、その解決策を事前に考える。 授業後は、まとめた発表内容をもとに、復習し、理解を深める。	4時間
第13回	**地域の課題解決策についての発表** グループごとに検討した地域の課題解決策を発表し、その効果や課題等について再検討する。	第12回で検討した解決策案について、発表の準備をする。 授業後は、他グループの発表内容などを復習し、理解を深める。	4時間
第14回	**講義のまとめ** これまで学んだ内容を復習し、今後の学びや進路選択に役立てるよう考える。	これまでの講義を振り返り、疑問点などを整理し、最終講義での質問に向けて準備する。 授業後は、これまで学んだ内容を復習し、今後の学びや進路選択に役立てる	4時間

231

授業科目名	**公共経営論/公共経営論Ⅰ**				
担当教員名	大島博文				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	政令市で都市計画・防災・交通・総合計画・統計等の新規施策立案・計画策定・経営業務を経験。公益財団法人であるシンクタンクで地域に関するまちづくり・福祉・環境・防災・災害復興等の政策立案・コンサルティング業務、研修等の人材育成業務を担当。（全14回）				

授業概要

「公共経営」とは、①公共を担う主体（行政、公益団体など）のマネジメント、②行政・企業・市民等による公民連携、③都市や地域のエリアとしてのマネジメントを考える概念である。本講義では、行政や公益団体を経営的側面から現状や課題を分析し、行政改革やＮＰＭなど経営改善のための取り組みの経緯を学ぶ。また、行政、企業、市民等が対等な関係で連携を行う公民連携の手法について学ぶ。また、持続可能なまちづくりを行うエリアマネジメントについて、実例を踏まえながら現状や課題を理解し、解決に向けた手法を学ぶ。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.現代社会におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	行政等のマネジメント、公民連携、エリアマネジメントに関する基本的な知識の理解	行政等のマネジメント、公民連携、エリアマネジメントについて、その主要な内容を理解し説明できる。
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	行政等のマネジメント、公民連携、エリアマネジメントに関する専門的な知識の理解	行政等のマネジメント、公民連携、エリアマネジメントの専門的な知識・技能等について、その主要な内容を理解し説明できる。
汎用的な力		
1. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		行政等の経営課題、公民連携、持続可能なまちづくりにおける重要な課題に関する課題解決について、自分なりの視点で方策の企画・立案ができる。
2. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		行政等の経営課題、公民連携、持続可能なまちづくりにおける重要な課題に関する課題解決について、主体的・積極的に自らも参画することを検討できる。

学外連携学修

有り(連携先：自治体、地域団体など)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
期末試験	40 ％	： 行政等の経営課題、解決方法、公民連携、エリアマネジメントに関する基本的な事項を問う問題を出題し、その理解度と的確に記述や説明ができているかを基準にして評価する。
授業内レポート（３回）	30 ％	： ①行政経営課題及び課題解決手法、②行政や企業、市民等の公民連携、③エリアマネジメントのあり方に関する授業内レポートを作成し、「内容理解」「論理性」「独創性」を基準に評価する。

授業への貢献　：　授業での発表内容、グループワークでの役割など授業への貢献度を評価する。

30　％

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

田尾雅夫「公共経営論」木鐸社／2010年（ISBN：978-4833224246）
外山公美他「日本の公共経営」北樹出版／2014年（ISBN：978-4779304231）
出井信夫編著「新しい公共経営の実践」公職研／2006年（ISBN：978-4779304233）
上山信一「行政経営の時代」ＮＴＴ出版／1999年（ISBN：978-4757120174）
山納洋著「歩いて読みとく地域デザイン」学芸出版社／2019年（ISBN：978-4761527075）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加えその回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　火曜日５時間目

場所：　西館3階37研究室

備考・注意事項：　連絡を取りたい場合はメールでも可（oshima@osaka-seikei.ac.jp）

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス、公共経営の意義を考える** 授業の進め方 公共経営とは何かを学ぶ。	公共経営とは何かを参考図書やインターネット等で調べておく。	4時間
第２回	**行政、公益団体のマネジメントの現状と課題** 行政のマネジメントについて、主として組織、財政、人事の視点から現状と課題を学ぶ。また、公共性の高い事業を行っている財団法人、社団法人、第三セクター法人、ＮＰＯ等のマネジメントについて現状と課題を学ぶ。	参考図書やインターネット、講義中の参考資料等で復習し、行政、公益団体のマネジメントに関する理解を深める。	4時間
第３回	**行政改革のこれまでの経緯と課題** 厳しい状況にある財政の現状を踏まえて、これまで行われてきた行政改革について振り返り、取り組みの内容と効果、残された課題等を学ぶ。	参考図書やインターネット、講義中の参考資料等で復習し、行政改革のこれまでの経緯と課題に関する理解を深める。	4時間
第４回	**ＮＰＭ（ニュー・パブリック・マネジメント）の意義と課題** ヨーロッパやオセアニアを中心に新たな行政経営を目指して取り組まれてきたＮＰＭ（ニュー・パブリック・マネジメント）について、取り組みの内容と効果、残された課題等を学ぶ。	参考図書やインターネット、講義中の参考資料等で復習し、ＮＰＭの意義と課題に関する理解を深める。また、これまでの学習内容をまとめるレポートを作成するため、総復習しておく。	4時間
第５回	**行政、公益団体のマネジメントと改革に関するまとめ、レポート作成、発表** これまで学んできた行政、公益団体のマネジメントと改革について、現状と課題、今後の改革のあり方等を考慮しながらまとめのレポートを作成し、発表する。	行政や公益団体のマネジメントや改革について、参考図書やインターネット等で調べておく。	4時間
第6回	**公民連携（ＰＰＰ）の現状と課題** 公民連携（ＰＰＰ：パブリック・プライベート・パートナーシップ）について、目的や内容、実施状況など現状についてを学ぶ。また実例も踏まえながら実施にあたっての課題についても学ぶ。	参考図書やインターネット、講義中の参考資料等で復習し、公民連携の現状と課題に関する理解を深める。	4時間
第7回	**行政・市民・事業者のパートナーシップ** 行政と市民・事業者のパートナーシップとして、市民自身が行政に代わって公共サービスを提供する「パートナーシップ協定」など行政と市民のパートナーシップに基づく取り組みの目的、内容、実施状況など現状について学ぶ。また、民間企業やＮＰＯ等も参画して実施されている「委託」「指定管理者制度」「ＰＦＩ」「市場化テスト」の目的、内容、実施状況など現状について学ぶ。さらに、実例も踏まえながら実施にあたっての課題についても学ぶ。	参考図書やインターネット、講義中の参考資料等で復習し、市民による地域活動や委託、指定管理者制度、ＰＦＩの現状と課題に関する理解を深める。	4時間
第8回	**公民連携に関するまとめ、レポート作成、発表** これまで学んできた公民連携について、各手法の概要と実施するにあたっての課題等についてまとめのレポートを作成し、発表する。	これまで学んできた公民連携について、講義中の参考資料等で復習するとともに、参考文献やインターネット等でも適宜調べて理解を深め、レポート作成のための準備をしておく。	4時間

第9回	**エリアマネジメントの現状と課題** 官民協働でまちづくりやまちの運営を行う「エリアマネジメント」の目的や内容、実施状況など現状について学ぶ。	エリアマネジメントについて、講義中の参考資料等で復習するとともに、参考文献やインターネット等でも適宜調べて理解を深める。	4時間
第10回	**エリアマネジメントの実践（特別講義）** 【特別講義】として、自治体職員から、地域再生を目指して、官民協働で新たなまちづくりを計画している地域についてまちの現状や課題、新たなまちづくりの方向性や進め方などについて説明を受け学ぶ。	特別講義の対象となる自治体について、予め配布する参考資料等で予習するとともに、官民協働のまちづくりについて参考文献やインターネット等でも適宜調べて理解を深めておく。	4時間
第11回	**地域課題の発見（グループワーク）** エリアマネジメントを実施している地域をケーススタディとして、グループワークにより地域課題の発見方法等を学ぶ。	参考図書やインターネット、講義中の参考資料等で復習し、課題発見方法等の理解を深める。	4時間
第12回	**地域課題解決に向けたエリアマネジメントのあり方検討（グループワーク）** 各自でまとめたレポートを元にグループワークを行い、グループとして新たなまちづくりに向けた提案の作成を行う。	グループでまとめた提案を効果的に発表できるよう準備を行う。	4時間
第13回	**グループ発表、エリアマネジメントに関するまとめ** グループごとにまとめた提案を発表し、その効果や残された課題等について、自治体関係者等も同席し、コメントをもらいながらディスカッションする。	グループ発表した内容について、ディスカッションで得られた知見を活かして修正、改善を行う。	4時間
第14回	**まとめとふり返り** これまでの学習内容を整理し理解を深めるとともに、今後学修すべき点等について考える。	今後の学修に結びつけられるよう、学んだこと全体についてしっかり復習する。	4時間

231

授業科目名	**公法Ⅰ**				
担当教員名	兒玉圭司				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本科目では、「法学」を学ぶ意義や“法”を扱う上で必要とされる基本的な知識・技術を学んだ上で、日本国憲法に記された人権を中心に、具体的な事例を示しながらその適用のあり方を学びます。
私たちの日常生活は、そのすべてが「法」によって規律されており、そしてその法の頂点に位置するのが日本国憲法です。つまり、―例えばある道具の使い方を知ることで生活が便利になるように―日本国憲法の理念や意味内容、そして法の使い方を知ることで、私たちは「よりよい暮らし」に向けた知恵を身につけることができるはずです。
本科目を通じて、「法」を扱う上での基本的な素養を身につけるとともに、「日本国憲法」が目指す理念や私たち自身のあり方について、考え、理解を深めるきっかけとしてもらえれば幸いです。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	法解釈など、法学を扱う上での基本的な知識・技術に加え、日本国憲法の理念や人権規定について学ぶ。	法を扱う上での基本的な考え方や技術を理解できる。日本国憲法の理念や、人権規定を中心にその内容について理解するとともに、具体的な場面での判断に知識を活用することができる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		憲法上の問題に関わるさまざまな事例について、自身で情報を収集するとともに、論点を見出し、さまざまな学説を自分なりに理解してまとめることができる。
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		具体的な事例に含まれる憲法上の問題点を発見し、学んだ知識にもとづいて考え、自分なりの答えを見つけ、説明を行うことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験	40 %	： 「授業概要」や「養うべき力と到達目標」に記された各項目の内容を満たしているか否かを問います。
レポート・小課題	10 %	： 講義で扱った内容について、調べる・考える・説明する能力や理解度、理解の妥当性・論理性を確認します。
リアクションペーパー等	50 %	： 講義への質問や、興味深かった点などを記してもらうことで、主体的な参加度合いや理解の深さを確認します。また、講義内容の理解度について、簡単な到達度確認を行います。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
駒村圭吾編	・ プレステップ憲法〈第4版〉	・ 弘文堂	・ 2024　年

参考文献等

本講義の「法学」部分については、
霞信彦編著『法学概論【第2版】』（慶應義塾大学出版会、2022年、ISBN：978-4-7664-2814-8）
が参考になります。
そのほか、講義中に適宜、参考文献を示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をしてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　木曜日昼休み

場所：　非常勤講師室

備考・注意事項：　上記時間帯以外のご質問・ご相談は、メールでご連絡ください。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス―法を学ぶ意義** 法学とはどんな学問か、法学を学ぶことにどのような意義があるのか、また、法の中で日本国憲法はどんな位置づけにあるのか、などを学びます。 ・実定法、基礎法、論理的思考。	「法学」という言葉からどんな仕事や出来事をイメージするか、各自で考えてみてください。また、それら（イメージ）について、インターネット等を利用して関心の赴くままに調べてもらえたらと思います。	4時間
第2回	**近代法の成立と発展** ・市場経済・資本主義 ・夜警国家・福祉国家 ・形式的平等・実質的平等 ・近代市民法原理 ・社会法	高校時代の「公共」や「政治・経済」・「現代社会」の教科書中、民主主義・資本主義ができあがる過程について触れた部分を読んでおいてください。また、教科書の第8章も読んでおけるとよいでしょう。	4時間
第3回	**法源―法の種類とその分類・効力** ・成文法／不文法 ・憲法、法律、命令、条例、国際法／慣習法、判例法 ・任意規定／強行規定 ・普通法／特別法、原則法／例外法	インターネット版の「官報」（https://kanpou.npb.go.jp/）を利用して特定の日付のもの（例えば自分の誕生日など）を閲覧し、どんな法令が掲載されているか確認して おきましょう。	4時間
第4回	**法の解釈と適用** ・有権解釈／学理解釈 ・文理解釈／論理解釈 ・法的安定性／具体的妥当性	講義中に挙げた事例について、自分であればどう判断するか、理由も合わせて考えてきてください。	4時間
第5回	**立憲主義とは** ・立憲主義 ・権力分立と法の支配 ・日本国憲法の制定と改正	教科書の第1章を読んで、各自で理解を深めておいてください。	4時間
第6回	**選挙に行こう！** ・国民主権 ・直接民主制／間接民主制 ・参政権 ・日本の選挙制度	教科書の第2章を読んで、各自で理解を深めておいてください。	4時間
第7回	**国会と内閣** ・立法権 ・立法過程 ・行政権 ・行政機関 ・議院内閣制	教科書の第3,4章を読んで、各自で理解を深めておいてください。	4時間
第8回	**裁判所と司法制度** ・司法権 ・裁判制度 ・裁判員制度 ・司法権の独立 ・違憲立法審査権	教科書の第5章を読んで、各自で理解を深めておいてください。	4時間
第9回	**人権ってどんな権利？** ・人権のあゆみ ・個人主義 ・公共の福祉 ・人権の射程 ・私人間効力	教科書の第8,9章を読んで、各自で理解を深めておいてください。	4時間

第10回	**精神的自由権** ・思想・良心の自由 ・信教の自由 ・表現の自由	教科書の第10,11章を読んで、各自で理解を深めておいてください。	4時間
第11回	**経済的自由権** ・職業選択の自由 ・居住・移転の自由 ・財産権とその限界	教科書の第12章を読んで、各自で理解を深めておいてください。	4時間
第12回	**人身の自由** ・適正手続きの保障 ・刑事手続きの流れと、被疑者・被告人の権利	教科書の第13章を読んで、各自で理解を深めておいてください。	4時間
第13回	**社会権** ・社会権とは ・生存権 ・労働基本権	教科書の第14章を読んで、各自で理解を深めておいてください。	4時間
第14回	**地方公共団体の役割とは？** ・地方自治の本旨 ・地方自治制度 ・自治立法権 ・直接請求	これまでに学んできた他の科目の内容から、自治体がどのような形で「法」と関わってきたかを思い起こしてみてください。	4時間

231

授業科目名	地域協働論				
担当教員名	大塚康央				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	自治体職員として長年にわたり、都市計画、住民参加、地域協働の取り組みを実践(全14回)				

授業概要

社会、地域の課題解決や、暮らしやすいまちづくりの推進に向け、行政だけでなく、地域住民、企業等の事業者、商業者、NPOなど、様々な主体が連携協力して取り組む協働について、協働が必要とされる背景、協働事業を進めるための制度などの基礎的な知識を獲得する。さらに、事例を研究し、地域協働のもつ意義、現在の課題、あるべき姿について調査、考察を行い、これからの社会システムの担い手のあり方や期待される役割について学ぶ。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.現代社会におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	地域社会を支える社会システムに関する知識	さまざま組織、人が、多くの分野で協力して社会を支えていることを理解することができる。
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	協働を推進するための制度や住民等の活動に対する公共からの支援や連携に関する知識	協働を進めるために設けられた制度の背景、内容を学ぶことで、社会制度と組織、住民等との連携、関係づくりを理解することができる。

汎用的な力	
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用	事例研究を行うことで、協働を進めるにあたって解決しなければならない課題を理解することができる。
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案	地域の課題に協働で取り組む必要性を明らかにした上で､適切な解決策の企画を立案出来る。
3. DP９.他者との協調・協働	グループワークを通して、自ら考えを表明すること、他の意見を促し尊重すること、まとめる能力をつけることができる。
4. DP８.他者とのコミュニケーション	協働を支えるコミュニケーションのあり方や重要性を事例等から理解することが出来る。

学外連携学修

有り(連携先：茨木市、NPOなど)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
期末レポート	50 %	： 協働のもつ意味、果たすべき機能、求められている役割、今後の展望と課題についてまとめたレポートについて、理解度、問題・課題の認識の妥当性を評価します。
毎回の振り返り	20 %	： 振り返りシートにより、授業の理解、課題認識について評価します
授業への参加度		： 授業での発言、グループ活動での主体性、協力姿勢、リーダーシップ及びグループでのまとめの内容、プレゼンテーション能力を評価します。

30　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

佐々木利廣編著、大阪NPOセンター編『地域協働のマネジメント』（中央経済社、2018年、ISBN978-4502268212）
清水美次ほか著『公民連携の教科書』（日経BP社、2019年、ISBN978-4822258887）
河村昌美、　中川悦宏 著『公民共創の教科書』（学校法人先端教育機構、2020年、ISBN978-4910255026）
中川幾郎編著『地域自治の仕組みづくり』（学芸出版社、2022、ISBN978-4761528232）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の授業であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、地方公共団体のホームページで照会されている協働の取り組みや方針、新聞、テレビ等で報道、紹介される協働の取り組みについて注意し、情報の収集、知識の獲得に努めること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 金曜4限

場所： 西館4階研究室

備考・注意事項： 上記時間外であっても、研究室に在室中は対応可能です。あらかじめ、メール（otsuka-y@osaka-seikei.ac.jp）予定を確認してください。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**「協働」とは何か（定義）** 地域協働論で考える「協働」の必要性、目的などについて理解します。 この科目の目的や、実際に行われていることを主題にした学びとなること、自らの生活や行動との関係を考察しながら進めていくことなどを示し、学修目的の共有を図ります。	自らの周りで行われている協働の事例について、どのようなものがあるか調べておくこと	4時間
第2回	**地方自治と協働** 国や地方自治体において、協働を実現、推進するために取り組まれてきた過程について学びます。特に、地方自治体において「協働」の取り組みが重視されていることについて、法の規定や自治体の姿勢などから学びます。	周辺事例、もしくはインターネットで把握した事例について、起こった経過、関係した主体、実施の役割について調べておくこと。	4時間
第3回	**公民連携の形** 協働を進めるために設けられているさまざまな制度を学修し、主として民間活力を活用した公民連携の状況や課題について学びます。	公共施設の建設、管理などにおいて、民間事業者が関係している事例を把握し、報告できるよう準備すること。	4時間
第4回	**住民との協働の形１(公共政策作成への参加)** 住民が公共政策に参加する方法として実施されている様々な取り組み（委員公募、WSの実施など）について、事例研究をおこない理解します。	自治体において行われているワークショップや市民が参加している委員会などについて、自治体のホームページなどで実態を把握し、市民の役割について考察しておくこと	4時間
第5回	**地域自治の現状と課題** 自治会を中心として地域自治組織の現状と、直面している課題について、行政のコミュニティ担当職員を招き、考えていきます。	暮らしている地域の自治会や地域自治組織の状況について調べておく	4時間
第6回	**地域自治組織の必要性と活性化の可能性検討** 地域自治組織の役割や活動内容を考えながら、大きな課題を抱えている地域自治組織のこれからについて、グループ学習により考えていきます。	暮らしている地域の実態から、自治会などが果たしている役割を調べ、必要性を考える。	4時間
第7回	**自治会活動の実際** 実際に進められている自治会活動の内容から、地域自治において果たすべき役割や代替機能の可能性など、地域自治組織のあり方について総括的に学んでいきます。	説明を受けた内容やこれまで調べてきたことを振り返り、公共課題の解決に向けた公共サイドの考えについて、評価し、課題はないかを考え、整理しておくこと。	4時間
第8回	**市民活動（NPOなど）の現状とこれから** 協働の取り組みを実行している住民団体（NPO含む）、中間支援組織から、取り組みに至った背景、事業の内容、課題など、住民団体等の視点からの話を聞きます。	住民団体と公共団体との関係、協働事業に対する住民サイドの課題について、他の事例も調べ、整理しておくこと。	4時間
第9回	**市民活動団体と地域自治組織の比較検討** 協働を進めている民間事業者から、民間からの発想により行政などを巻き込んだ取り組みの経緯、課題、内容にについて、民間事業者の視点からの話を聞きます。	市民活動と地域自治組織の活動との関係がどうかについて、これまでの学びや事例調査から考えておく。	4時間

第10回	**地域自治再考** 地域自治に関して、現在、取り組まれている内容（地域協議会、各種地域自治組織間の連携）について学びます。	地域協議会の活動内容は自治体の支援について調査する。	4時間
第11回	**市民活動への参加と発展** 市民活動に参加することで、住民団体の活動が成長するだけでなく、行政の姿勢の変化、参加者の成長など、さまざまなところに効果があり、地域の魅力を増す可能性があることを考えていきます。	グループでの話し合いの内容を論理的に体系化し、発表に向けた資料作成、説明内容の確認などをグループで協力して行うこと。	4時間
第12回	**エリアマネジメント（地域住民等による経営）** 地域住民等が地域を経営する「エリアマネジメント「について、進んできた経過、近年の制度の改正などを学びながら、事例を研究し、エリアマネジメントの意義と課題を考えます。	エリアマネジメントの事例研究をおこなう。	4時間
第13回	**条例に見る協働** 市町村が定めている「協働」に関する条例を分析し、市の基本理念として「協働」がどのように位置づけられているかを再確認し、協働の必要性、重要性を考えます。	暮らしているまちの協働条例や協働に関する取り組みについて調べておく。	4時間
第14回	**参加から協働へ** 参加から協働に至る過程を学び、住民として地域、社会をよくする活動に取り組むことについて、自分では何ができるか、何を学ぶ必要があるかを考えます。 授業全体を総括して、得た学びを振り返り、今後の大学での学びについて考えます。	協働の第一歩となる参加について、自分がどのようなことができるかを考えておくこと。	4時間

231

授業科目名	現代社会と公共哲学				
担当教員名	成瀬尚志				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

この授業では公共哲学における問題を考える上で基礎となる立場について概説します。さまざまな公共哲学の立場を学ぶことで、公共哲学の基礎的知識を習得するとともに、現代の公共哲学における問題について自分自身の意見を持つことができるようになることを目標とします。
またこの授業ではグループワークやプレゼンテーションを取り入れるので、積極的に取り組むことが求められます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	・公共哲学に関する基礎的知識 ・現代社会における問題の公共哲学的分析	・公共哲学に関する基礎的知識を自分自身の言葉で説明できる ・現代社会における問題を公共哲学的観点から分析し、自分自身の意見を持つことができる

汎用的な力	
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用	現代社会における諸問題に関して公共哲学的な観点から課題を発見し説明することができる
2. DP８.他者とのコミュニケーション	相手の意見を傾聴するとともに、自身の意見を的確に伝えることができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
毎回のコメントシート（2点×14回）	28 %	： 授業の理解度に関して独自のルーブリックに基づいて3段階で評価します。
グループワーク時の取組み	10 %	： グループワーク時の取組みについて評価します。
プレゼンテーション	25 %	： 授業内容を理解しているか、また、自身の意見を吟味できているかどうかに関して評価します。
グループプレゼン	12 %	： グループで協力したプレゼンテーションになっているかを評価します。
最終レポート	25 %	： 授業内容を理解しているか、また、自身の意見を吟味できているかどうかに関して評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

山岡龍一、齋藤純一『公共哲学』(放送大学大学院教材)、放送大学教育振興会、2017、ISBN4595140878

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日　3限

場所： 研究室（西館4F）

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**公共性とは何か？** 多様な人たちがいるこの社会で私たちはどのように生きていくべきでしょうか。たとえば、みんながみんな自由に振る舞ってよいのか、あるいはどのような場合に自由は制限されるべきなのかについて考える必要があります。この点について公共性をテーマに考えていきます。	今回の授業の要点をコメントシートにまとめるとともに、プレゼンテーションで取り上げる事例を調査してください。	4時間
第2回	**合意形成の実践** 多様な人々との合意形成を図ることはとても難しいです。実際に具体的な事例をとりあげ、どのような難しさがあるかを体験してもらいます。	今回の授業の要点をコメントシートにまとめるとともに、プレゼンテーションで取り上げる事例を調査してください。	4時間
第3回	**社会における自由①（自由の歴史）** 私たちは歴史的に見れば現在大いなる自由を手にしていると言えます。そこで歴史的に私たちはどのようにして自由を獲得してきたのかを見ていきます。	今回の授業の要点をコメントシートにまとめるとともに、プレゼンテーションで取り上げる事例を調査してください。	4時間
第4回	**社会における自由②（自由と法）** 私たちは社会の中でなんらかの形で制約を受けています。その代表的なものは法律です。法律を中心に私たちの自由がどのように制約を受けているかについて見ていきます。	今回の授業の要点をコメントシートにまとめるとともに、プレゼンテーションで取り上げる事例を調査してください。	4時間
第5回	**経済活動における自由①（価格設定は自由か）** 経済活動における自由について考えます。需要と供給がマッチすれば価格は自由に設定しても問題ないのでしょうか。転売の問題を中心にこの点について考えます。	今回の授業の要点をコメントシートにまとめるとともに、プレゼンテーションで取り上げる事例を調査してください。	4時間
第6回	**経済活動における自由②（賃金設定は自由か）** 経済活動における自由について考えるために、賃金の設定について考えます。児童労働や最低賃金の問題を通して、経済活動における制約について見ていきます。	今回の授業の要点をコメントシートにまとめるとともに、プレゼンテーションで取り上げる事例を調査してください。	4時間
第7回	**公共に対するアプローチ①（上からの公共）** 公共を誰が担うのかを考えるにあたって、国家が担う公共について検討し、その具体例や問題点について見ていきます。	今回の授業の要点をコメントシートにまとめるとともに、プレゼンテーションで取り上げる事例を調査してください。	4時間
第8回	**公共に対するアプローチ②（下からの公共）** 公共を誰が担うのかを考えるにあたって、新しい公共の担い手としてNPOなどの下からの公共について検討し、その具体例や問題点について見ていきます。	今回の授業の要点をコメントシートにまとめるとともに、プレゼンテーションで取り上げる事例を調査してください。	4時間
第9回	**グループ内プレゼンテーション準備①** これまでの授業を踏まえ「公共空間での自由はどうあるべきか」というテーマについてプレゼンテーションをするために、各自で調査したことをもとにグループ内で検討会を行ないます。	グループ内プレゼンテーションの準備をしてください。	4時間
第10回	**グループ内プレゼンテーション準備②** 次週のプレゼンテーションに向けて、各自でスライドを作成し、プレゼンテーションの練習を行ないます。	グループ内プレゼンテーションの準備をしてください。	4時間
第11回	**グループ内プレゼンテーション** グループ内でプレゼンテーションを行ないます。グループ内で投票し、グループの代表プレゼンを選出します。	クラス内プレゼンテーションの準備をしてください。	4時間

第12回	**クラス内プレゼンテーションの準備** 各グループで選抜したプレゼンテーションをベースに、グループプレゼンを次週に行ないますので、その準備のために、内容を再度検討し、追加の調査やプレゼンテーションの準備を行なってもらいます。	最終レポートの準備をしてください。	4時間
第13回	**クラス内プレゼンテーション** 各グループでプレゼンテーションを行なってもらいます。クラス内で投票し、最優秀プレゼンテーションを選出します。	最終レポートの準備をしてください。	4時間
第14回	**まとめ** 前回のクラス内プレゼンテーションを振り替えるとともに、これまでの授業を踏まえ「公共空間での自由はどうあるべきか」というテーマについて再度検討します。	最終レポートの準備をしてください。	4時間

232

授業科目名	**民法Ⅰ**				
担当教員名	千代原亮一				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

民法は我々の社会生活に最も関係の深い、極めて重要な法律ですが、そこには多様で難解な法制度が数多く存在します。この講義では、民法の法制度の基本構造（制度趣旨、要件と効果）を、具体的な事例に即して、分かりやすく解説します。民法については、近年、債権関係の改正、相続関係の改正、成年年齢の18歳への引き下げ、という重要な改正が行われました。授業内容は、これらの改正を前提にして進めていきます。この授業では、民法典のうち、民法の共通部分についての定めとしての「総則分野」、物に対する権利と責任を定めた「物権分野」、人に対する権利と責任を定めた「債権総論分野（責任財産の保全、債権担保）」、家族関係のルールを定めた「親族分野」、遺産の引継ぎについて定めた「相続分野」を扱います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	①契約の有効な成立のための要件、②契約によって成立する債権の内容、③債権の効力、④物権変動と対抗要件、⑤債権担保の手段、とりわけ抵当権と保証債務について十分な法的知識を修得する。	取引を中心とする生活関係についての基本的な法制度を十分に理解し、経営学部の専門的知識がより一層効果を発揮するような背景を築くことができる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		複雑な事象の中から解決すべき課題を抽出し、真の原因を見出し、その解決策を提示することができる。
2. DP８.他者とのコミュニケーション		他人の意見や主張を正確に把握し、他人との意見や主張の違いを理解した上で、自分の意見や主張を他人に対して正確に伝えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験	60 %	： 定期試験の答案により問題発見力と実践力を評価する。講義内容を踏まえた上で、一定程度のレベルを超えた試験答案の内容を合格とする。単にテキストや講義資料の内容を丸写しした内容では、合格とはしない。
授業中課題	30 %	： 授業中に配布する課題の内容により理解力を評価する。講義内容を踏まえた上で、一定程度のレベルを超えた課題答案の内容を合格とする。単にテキストや講義資料の内容を丸写しした内容では、合格とはしない。
授業貢献	10 %	： 討議などでの発言内容により授業貢献度を評価する。教員との質疑応答、他の受講生とのグループ討議及びディベートへの参加態度について、積極的に発言し、主体的に議論に参加する態度を示した場合に合格とする。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
松久三四彦・遠山純弘・林誠司	・ オリエンテーション民法〔第3版〕	・ 有斐閣	・ 2024　年

参考文献等

①潮見佳男『民法（全）（第3版）』（有斐閣・2022年、ISBN：978-4641138858）、②武川幸嗣『プラスアルファ基本民法』（日本評論社・2019年、ISBN：978-4535522930）、③道垣内弘人『リーガルベイシス民法入門（第5版）』（日本経済新聞出版社・2024年、ISBN：978-4296118397）、④野村豊弘『民事法入門（第8版補訂版）』（有斐閣・2022年、ISBN：978-4641221987）、⑤渡邊力編『民法入門ノート（第2版）』（法律文化社・2024年、ISBN：978-458904318-4）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 金曜5時限目

場所： 西館研究室

備考・注意事項： メールアドレスはchiyohara@g.osaka-seikei.ac.jp。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ようこそ民法の世界へ―広大な財産法の世界への旅―** 民法がどのような問題を扱う法領域であるのか、民法全体がどのように成り立っているのかを説明する。第2回以降の授業内容を理解するために必要となる基本的な概念を整理する。	私法上の法律関係がどのようにして決まるか」についてイメージを掴んでおこう。	4時間
第2回	**あなたが主人公です（権利・義務の主体）** 私権の主体である人（自然人及び法人）について、その能力（権利能力・意思能力・行為能力）を概観した後、私権の客体である物の要件・分類について解説する。	権利能力・意思能力・行為能力のそれぞれの意味について調べておこう。	4時間
第3回	**契約が有効に成立するには①（契約の成立、契約の客観的有効要件）** 契約の総論的な諸制度に関わる複数の事例を素材に、法的な議論の仕方、事例の解決の仕方を解説する。	教科書89～96頁を読み、契約の客観的有効要件について調べておこう。	4時間
第4回	**契約が有効に成立するには②（契約の主観的有効要件、代理制度）** 意思表示および法律行為の基本構造を確認した上で、心裡留保と虚偽表示、錯誤、詐欺及び強迫に関わる法的な問題を検討する。また、代理行為が代理権なくまたは代理権の範囲外で行われた場合（無権代理・表見代理）の諸問題について検討する。	契約の主観的有効要件について調べておこう。	4時間
第5回	**所有権を守るには①（物権的請求権、占有）** 物権の原基たる占有の内容を整理した後、物権に基づく各種の請求権及び物権が移転・成立・消滅等した場合に、その事態を示す法技術を考察する。	物権的請求権のそれぞれの内容、及び「占有」の意味について調べておこう。	4時間
第6回	**所有権を守るには②（物権変動）** 不動産物権変動、特に不動産登記と第三者保護に関する諸問題を扱う。	不動産物権変動、及び第177条の「対抗問題」の意味について調べておこう。	4時間
第7回	**所有権を守るには③（即時取得、取得時効）** 動産物権変動（引渡し及び即時取得）を扱った後、相続による権利承継の第三者に対する対抗力の諸問題について検討する。	即時取得と取得時効の制度について調べておこう。	4時間
第8回	**責任財産の保全（債権者代位権、詐害行為取消権）** 債権者代位権の意義、要件と効果に関する規律、そして債権者代位権の転用の問題を検討する。詐害行為取消権の意義、要件と効果に関する規律を検討する。	債権者代位権と詐害行為取消権の制度の意味について調べておこう。	4時間
第9回	**人的担保（保証、債権譲渡）** 保証の意義を確認した後、保証の基本構造を、要件と効果、対外的効力・影響関係・内部関係の区別に即して検討する。また、債権譲渡一般の規律について検討する。	保証債務及び連帯保証の性質について調べておこう。	4時間
第10回	**物的担保①（抵当権、根抵当権）** 担保物権の意義や担保物権に共通する事項を確認する。担保物権の中でも特に重要である抵当権について、その意義を確認した後、その設定から消滅に至るプロセスに沿って検討する。	抵当権の性質について調べておこう。	4時間
第11回	**物的担保②（質権、先取特権、留置権、非典型担保）**	非典型担保の種類にはどのようなものがあるか、調べておこう。	4時間

	留置権、先取特権、質権を取り上げる。各担保物権について、その意義を確認した後、その成立・ 設定から消滅に至るプロセスに沿って検討する。非典型担保のうち譲渡担保を取り上げ、その意義及び基本構造を確認した後、集合動産譲渡担保、集合債権譲渡担保について検討する。		
第12回	**法律からみた家族関係①（婚姻と離婚）** 婚姻の成立要件および婚姻の効果について解説する。不貞の相手方の不法行為責任などの事例を素材にして、夫婦間の義務について理解する。また、離婚の要件、更に離婚制度について解説する。有責配偶者からの離婚請求などの事例を題材にして、離婚法の目的や離婚制度の問題点について理解する。	有責配偶者からの離婚請求をめぐる裁判例と議論について調べておこう。	4時間
第13回	**法律からみた家族関係②（親子関係）** 法律上の実親子関係確定に関わる諸制度のうち、嫡出推定、嫡出否認について解説する。推定の及ばない子やと親子関係存在確認の訴えなどの事例を題材にして、実親子関係確定に関する基本的な知識を習得し、問題について理解する。	嫡出でない子をめぐる裁判例について調べておこう。	4時間
第14回	**家族間での財産の引継ぎ（相続法）** 相続法の意義、基本的な概念（被相続人など）、法定相続の基本原則を確認し、法定相続人の種類、相続分、代襲相続などについて解説する。	法定相続分、代襲相続などの相続に関する基本的な概念について調べておこう。	4時間

232

授業科目名	**民法Ⅱ**				
担当教員名	千代原亮一				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

われわれ人は社会集団の中で生活をしているのであり、社会および他人との間でトラブルの無いスムーズな関係を維持していくことが要求されます。また、取引関係を維持・発展させるために、市民の権利・義務を承認し、その経済生活の基本を構成する中心となる法律が民法です。この授業で扱う「契約」は経済活動の中心的役割を担う制度であり、契約の成立から消滅までの流れと、それに付随して生じる諸問題に加えて、各種の典型契約の内容・特徴を正確に把握するということに重点を置いて授業を進めます。また、「不法行為」は、共に社会生活を送る者が相互に負う一般的義務の違反を理由として損害賠償責任を課される制度であり、この分野については、事例分析を中心に授業を進めます。この講義では、民法典のうち、人に対する権利と責任を定めた「債権総論分野（債権の目的、効力、消滅）」、「契約分野」、「不法行為分野」を扱います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	基本的な知識を習得し具体的な事例について法的に理解する	基本的な知識を習得して、具体的な事例について法的に捉えられるようになる
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		複雑な事象の中から解決すべき課題を抽出し、真の原因を見出し、その解決策を提示することができる。
2. DP８.他者とのコミュニケーション		他人の意見や主張を正確に把握し、他人との意見や主張の違いを理解した上で、自分の意見や主張を他人に対して正確に伝えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験	60 %	： 定期試験の答案により問題発見力と実践力を評価する。講義内容を踏まえた上で、一定程度のレベルを超えた試験答案の内容を合格とする。単にテキストや講義資料の内容を丸写しした内容では、合格とはしない。
授業中課題	30 %	： 授業中に配布する課題の内容により理解力を評価する。講義内容を踏まえた上で、一定程度のレベルを超えた課題答案の内容を合格とする。単にテキストや講義資料の内容を丸写しした内容では、合格とはしない。
授業貢献	10 %	： 討議などでの発言内容により授業貢献度を評価する。教員との質疑応答、他の受講生とのグループ討議及びディベートへの参加態度について、積極的に発言し、主体的に議論に参加する態度を示した場合に合格とする。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
松久三四彦・遠山純弘・林誠司	・ オリエンテーション民法〔第3版〕	・ 有斐閣	・ 2024　年

参考文献等

①潮見佳男『民法（全）（第3版）』（有斐閣・2022年、ISBN：978-4641138858）、②武川幸嗣『プラスアルファ基本民法』（日本評論社・2019年、ISBN：978-4535522930）、③道垣内弘人『リーガルベイシス民法入門（第5版）』（日本経済新聞出版社・2024年、ISBN：978-4296118397）、④野村豊弘『民事法入門（第8版補訂版）』（有斐閣・2022年、ISBN：978-4641221987）、⑤渡邊力編『民法入門ノート（第2版）』（法律文化社・2019年、ISBN：978-4-589-04318-4）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　金曜日5時限目

場所：　西館3階個人研究室

備考・注意事項：　メールアドレスはchiyohara@g.osaka-seikei.ac.jp。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**市民生活と民法―契約社会を賢く生きるために―** 「契約」を主な素材として、民法の基本的な内容を概観します。	契約自由の原則の意味について調べておこう。	4時間
第2回	**債権の主たる発生原因としての契約** 債権の発生原因として、民法は、契約、事務管理、不当利得及び不法行為の4つを規定しています。このうち、ある法的な効果を発生させることを内容とした約束である「契約」について、その法的意味を解説します。	契約の拘束力について調べておこう。	4時間
第3回	**同時履行の抗弁権** 売買などの双務契約の当事者の一方が、履行の請求を受けた場合でも、相手方の履行の提供までは自己の履行を拒絶できる権利である「同時履行の抗弁権」について解説します。	不安の抗弁権の意味について調べておこう。	4時間
第4回	**債権の消滅①（弁済）** 債権が消滅するに至るプロセスについて検討します。弁済の提供、受領権者としての外観を有する者に対する弁済を特に取り上げます。	第三者弁済の意味について調べておこう。	4時間
第5回	**債権の消滅②（相殺、消滅時効と除斥期間）** 相殺の意義、要件と効果に関する規律について解説します。	消滅時効と除斥期間の違いについて調べておこう。	4時間
第6回	**契約トラブルと強制履行** 相手が契約を守らなかったときにとれる3つの法的手段（契約解除、損害賠償請求、強制履行）について解説します。このうち、特に強制履行（直接強制、代替執行、間接強制）について詳しく考察します。	直接強制と間接強制の違いについて調べておこう。	4時間
第7回	**債務不履行による損害賠償請求権** 債務不履行の概念と、債権を強制的に実現する方法について考察します。更に、債務不履行に基づく損害賠償の要件・効果に関する規律を考察します。	損害賠償の範囲に関する相当因果関係の意味について調べておこう。	4時間
第8回	**契約の解除** 契約を解除する方法について解説します。特に、契約解除の意味、解除ができる場合、解除の効果、解除の注意点について、それぞれ考察します。	原状回復義務の意味について調べておこう。	4時間
第9回	**契約不適合給付における買主の救済手段（受領遅滞、危険負担）** 約120年ぶりの改正によりビジネス実務に大きな影響を与える分野の一つである受領遅滞と危険負担について、改正点を中心に解説します。	危険負担の解釈変更のポイント、履行不能に関する新たな規定について調べておこう。	4時間
第10回	**消費者契約法** 消費者の利益を守るため、消費者契約について、不当な勧誘による契約の取消しと不当な契約条項の無効等を規定する消費者契約法について解説します。	消費者契約法の制定の背景と内容について調べておこう。	4時間
第11回	**不法行為①（不法行為の成立要件）** 契約以外の債権発生原因である不法行為の制度趣旨及び成立要件についての議論を中心に、他者に対する侵害行為によって損害を生じさせた者と、それによって損害を被った者との法律関係について考察する。	不法行為の成立要件について調べておこう。	4時間
第12回	**不法行為②（不法行為の効果）** 不法行為の成立要件が満たされたときに認められる法的効果である損害賠償請求権の性質、更に過失相殺と損益相殺の制度についても解説します。	損害賠償請求権の性質について調べておこう。	4時間
第13回	**特殊な不法行為①（監督者責任、使用者責任）**	求償関係」の意味について調べておこう。	4時間

	特殊な不法行為責任のうち、監督者責任と使用者責任について解説します。		
第14回	**特殊な不法行為②（工作物責任、共同不法行為）** 特殊な不法行為責任のうち、工作物責任と共同不法行為について解説します。	「関連共同性」の意味について調べておこう。	4時間

232

授業科目名	**公会計論**				
担当教員名	**大島博文**				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	銀行で融資、資産運用、外国為替等の業務を担当。政令市で地域経済・防災・交通・総合計画・統計等の新規施策立案・計画策定・経営業務を経験。公益財団法人であるシンクタンクで地域に関する経済・まちづくり・福祉・環境・防災・災害復興等の政策立案・コンサルティング業務、研修等の人材育成業務を担当。				

授業概要

公会計は企業会計とは異なる体系を有するが、本講義では、企業会計の基礎的な知識を前提として、企業会計と対比する形で公会計を総合的に理解することを目標とする。
具体的には、地方自治体における従来の会計制度を概観するとともに、近年導入が進められている新たな地方公会計の概要およびその意義等を考える。また、国の会計制度や、そのほかの非営利団体（公益法人、学校法人等）の会計制度も概観する。

※なお「履修上の注意・備考・メッセージ」に記した【履修条件】をよく確認すること。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	公会計に関わる考え方やその制度的な構造について講義内で解説する。	公会計の目的や意義、その機能や役割について包括的に理解する。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		地方自治体を中心に、従来の会計制度を学びその課題を発見する。
2. DP８.他者とのコミュニケーション		日常生活の中で馴染みのない公会計制度について、他者に説明できるようにする。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
講義課題	30 ％	： 2～3回ごとに課題（小テストまたはレポート）を実施し、その内容に応じて評価を行う。
期末試験	70 ％	： 講義内容の理解度に応じて評価を行う。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
馬場英明ほか	・ 公会計と公共マネジメント	・ 中央経済社	・ 2021 年

参考文献等

講義内で指示する。
また、必要に応じて講義内で資料を配布することがある。

履修上の注意・備考・メッセージ

【履修条件】
本授業では企業会計の細かな知識は問わないが、やはり企業会計の基本的知識を有していることが前提となる。また、地方自治体などの制度や実務に関心がなければ、授業に参加することは難しいと考えられる。このため、以下の要件を求める。
（受講要件）
・貸借対照表や損益計算書の基本的な意義など、企業会計の基本を理解していること。
・会計面に限らず、地方自治体や非営利団体の制度や実務に強い関心を有していること。

【授業に参加する姿勢】
本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日５限

場所： 西館3階37研究室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**授業のガイダンスおよび政府・自治体および非営利団体等の全体像** シラバスに基づき、授業の内容や受講にあたって望まれる姿勢を説明する。 公的な主体の全体像を説明するとともに、それらの主体においてなぜ会計が必要とされているか、その目的について学ぶ。	事前の情報収集・テキストや配布資料の読み込みおよび講義の振り返り	4時間
第2回	**国の財政・会計制度** わが国の財政状況を概観するとともに、財政の機能や予算の考え方、決算制度などについて学習する。	事前の情報収集・テキストや配布資料の読み込みおよび講義の振り返り	4時間
第3回	**地方自治体の財政・会計制度(1)** 地方自治体の予算制度および決算制度について、首長や議会の役割を交えて学習する。	事前の情報収集・テキストや配布資料の読み込みおよび講義の振り返り	4時間
第4回	**地方自治体の財政・会計制度(2)** 地方自治体の財政運営に用いられている「決算統計」や、健全化判断比率などの財政規律の維持のための制度を学習する。	事前の情報収集・テキストや配布資料の読み込みおよび講義の振り返り	4時間
第5回	**地方自治体の財政・会計制度(3)** 地方財政を支える地方交付税や地方債制度、特に臨時財政対策債などについてその課題も含めて学習する。	事前の情報収集・テキストや配布資料の読み込みおよび講義の振り返り	4時間
第6回	**地方自治体の財政・会計制度(4)** 財政破綻や財政危機の事例を通して、従来の会計制度の問題点を検討する。	事前の情報収集・テキストや配布資料の読み込みおよび講義の振り返り	4時間
第7回	**地方公営企業および独立行政法人等** 上下水道・病院など企業会計により運営される自治体の事業者、国・地方自治体の業務の一部を担う独立行政法人、第三セクターについて学習する。	事前の情報収集・テキストや配布資料の読み込みおよび講義の振り返り	4時間
第8回	**公益法人・社会福祉法人・学校法人・その他の非営利法人等の会計** 非営利法人である公益法人（社団・財団法人）や社会福祉法人、学校法人、NPO法人などの会計について学習する。	事前の情報収集・テキストや配布資料の読み込みおよび講義の振り返り	4時間
第9回	**地方公会計の動向** 2000年頃から進められている地方公会計の導入の経緯を学ぶとともに、現在主流となっている「統一的な基準による地方公会計」の概要を学習する。	事前の情報収集・テキストや配布資料の読み込みおよび講義の振り返り	4時間
第10回	**地方公会計の財務書類の読み方** 地方公会計の財務書類を構成する貸借対照表、行政コスト計算書、純資産変動計算書、資金収支計算書などの内容を学習するとともに、それらに示される情報の意味を理解する。	事前の情報収集・テキストや配布資料の読み込みおよび講義の振り返り	4時間
第11回	**地方公会計情報の活用** 公会計情報を用いた財務分析指標や、行政活動への活用事例、特に公共施設マネジメントへの活用について学習する	事前の情報収集・テキストや配布資料の読み込みおよび講義の振り返り	4時間
第12回	**地方公会計と行政評価** 行政評価導入の背景や目的、手法とともに、それに対する地方公会計の貢献を町田市の事例などを通じて学習する。	事前の情報収集・テキストや配布資料の読み込みおよび講義の振り返り	4時間
第13回	**政府・自治体の監査制度** 国の会計検査院による検査、自治体の監査委員による監査の概要やその意義などについて学ぶ。	事前の情報収集・テキストや配布資料の読み込みおよび講義の振り返り	4時間
第14回	**授業内容の総括**	事前の情報収集・テキストや配布資料の読み込みおよび講義の振り返り	4時間

これまでの授業全体の内容を再確認する。		

232

授業科目名	**企業マーケティング応用**				
担当教員名	李美花				
学年・コース等	2・3・4年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

企業の活動は購買活動、生産・販売・財務・人事など多面的にわたる。産業をとわず、企業のマーケティング活動は応用範囲が広い。
本講義ではマーケティングの基礎的な概念を学習したことを前提に、事例研究を通じて実際の企業活動を分析することで実践的なマーケティング戦略を応用する能力（知識とスキル）を鍛えることを目的にする。毎回の授業は、学生の自主的な学習スタイルを取りながらマーケティング知識を活かして事例調査を行い、発表してもらう。この授業を受けるには、マーケティング論またはマーケティング入門の受講が必要。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	実践的なマーケティング戦略事例を取り上げて学習する	応用能力（知識とスキル）を鍛えること
汎用的な力		
1. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		オリジナル課題レポートを作成して発表する

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

マーケティング活動に関わる基礎知識と具体的な企業事例も交えながら講義による解説の進行にあわせ、ケーススタディーについて、受講者への問いかけやレポート課題を組み合わせて進めていく。

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
課題レポート（期末および期中）の作成と発表	70 %	： グループまたは個人で、課題レポートを作成及び発表（メンバーとのコミュニケーション能力、自分の意見を論理的に述べているのか、簡潔に文章をまとめているのか、独自性があるのか、発表能力より評価）
平常点	30 %	： 平常点（授業時の発言や発表・発言・グーグルクラスルームによる質問など積極的な授業参加を高く評価する

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

【参考書】
講義中に適宜紹介する 。
★有馬賢治『マーケティング・オン・ビジネス』新世社、2015年
ISBN-10 ： 4883842347

ISBN-13 ： 978-4883842346

履修上の注意・備考・メッセージ

★本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、毎回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
★必ず、毎回の授業の出席状況を各自確認すること
★授業のお知らせや課題などは、グーグルクラスルームを活用する。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日、4時限

場所： 研究室、西館2階

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス、自己紹介、成績評価、グループ分け** 今後の授業内容の説明とグループ分けを行う。なぜ、マーケティング戦略の必要性について学習する 「レベルテスト」以下の5つの問に対して例を取り上げながら説明せよ。 (1) マーケティングとは何であり、なぜ重要なのか (2) Need, Wants, Demandの違い (3) 販売とマーケティングの違い (4) マーケティング戦略の４Psとは何か。４つそれぞれの意味 (5) ブランド要素とは何か。要素それぞれの意味、	授業のまとめ、マーケティング基本戦略（STP）について調べる	4時間
第2回	**基礎マーケティング理論：STP** 応用学習のために基礎マーケティング理論であるセグメント・ターゲティング・ポジショニングの概念整理を行う。 【演習】ある企業を選定してSTPと６W2Hに沿って作成する	授業のまとめ、STPと６W2Hの発表資料を作成する	4時間
第3回	**基礎マーケティング理論：マーケティング・ミックス** 応用学習のために基礎マーケティング理論であるマーケティング・ミックス「4つのP」の概念整理を行う。4Cの観点からマーケティング・ミックスをやり直す。 【発表】前回の授業で作成したSTPと６W2Hを発表する。なお、聴講者は評価シートを提出する。 【演習】ある企業を選定して４Psに沿ってマーケティング事例を作成する。	授業のまとめ、外部環境分析フレームワークについて学習する。	4時間
第4回	**「環境分析と競争戦略」：外部環境分析フレームワーク** 講義：外部環境分析フレームワーク「プラス要因（メリット）・マイナス要因（デメリット）、SWOT分析、マッキンゼーの７S、PEST分析」について学習する 宿題： 6W2Hを利用してあるブランドを分析する。次回の授業で提出←ワークシート配布 【発表】前回の授業で作成した４Psを発表する。なお、聴講者は評価シートを提出する。 【演習】ある企業を選定して外部環境分析フレームワークに沿って分析する。	授業のまとめ、コラボについて調べる	4時間
第5回	**理論＆応用「コラボ」＃Case Study** ＃DVD：意外なコラボがこれまでにない商品を作る。 コラボレーション（collaboration）とは、「共に働く」「協力する」の意味で、「共演」「合作」「共同作業」「利的協力」を指す語である。日本語ではコラボと略される。異なる分野の人や団体が協力して制作すること。「部門を越えてコラボレーションすることで新しい発想の商品を生み出す」 【発表】前回の授業で作成した外部環境分析フレームワークを発表する。なお、聴講者は評価シートを提出する。 【演習】ある企業のコラボ事例を作成する。	授業のまとめ、次回の課題(発表資料)を作成する	4時間
第6回	**理論＆応用「PLC」＃Case Study** 製品ライフサイクル理論：ビジネスの寿命を予測するための「マーケティングツール」（PLC：導入期、成長期、成熟期、衰退期）を学習する 【演習】ある企業の製品ライフサイクルを分析する。	授業のまとめ、次回の課題(発表資料)を作成する	4時間
第7回	**理論＆応用「コラボ」事例発表** 担当グループによるプレゼンテーションを行う。評価シートを配布し、プレゼンテーションに対する改善点や質問を記入してもらう。 【演習】ある企業のコラボ事例を発表する。	授業のまとめ、次回の課題(発表資料)を作成する	4時間
第8回	**理論＆応用「PLC」事例発表** 担当グループによるプレゼンテーションを行う。評価シートを配布し、プレゼンテーションに対する改善点や質問を記入してもらう。 【発表】ある企業の製品ライフサイクルを発表する。	授業のまとめ、経験価値マーケティングについて調べる	4時間
第9回	**経験価値マーケティング** 「経験価値」とは、製品やサービスを利用することで得られる感動や喜び、満足感といった心理的・感覚的価値を指します。?5つ（Sense、Feel、Think、ACT、Relate） ＃参考映像：経験価値マーケティング＃ 【演習】経験価値マーケティング事例を作成する。	授業のまとめ、外食産業について調べる	4時間
第10回	**実践企業マーケティング＃Case Study「外食産業」**	授業のまとめ、次回の発表授業のまとめ、次回の課題(発表資料)を仕上げる	4時間

	実践的にマーケティング戦略を行っている企業の事例を取りあげながら学習し、ディスカッションを行う。 ＃参考映像：外食産業 【演習】外食企業のうち、優れたマーケティング事例を分析する。		
第11回	**実践企業マーケティング＃Case Study「サービス業」** 実践的にマーケティング戦略を行っている企業の事例を取りあげながら学習し、ディスカッションを行う。 ＃参考映像：サービス業 【演習】サービス業のうち、優れたマーケティング事例を分析する。	授業のまとめ、製造業について調べる	4時間
第12回	**実践企業マーケティング＃Case Study「製造業」** 実践的にマーケティング戦略を行っている企業の事例を取りあげながら学習し、ディスカッションを行う。 ＃参考映像：製造業 【演習】製造業のうち、優れたマーケティング事例を分析する。	授業のまとめ、次回の課題(発表資料)を作成する	4時間
第13回	**実践企業マーケティング＃Case Study「学生発表」** 授業内容：(～500字) これまでの実践企業のマーケティング事例をまとめて発表する。 ★特別授業：応用マーケティング事例(予定)	授業のまとめ、次回の課題(発表資料)を仕上げる	4時間
第14回	**企業のマーケティングCase Study#「まとめ」** 【発表】最終課題の発表を行う。なお、フィードバックを行う	授業のまとめ、これまでの授業を振り返ってみる	4時間

232

授業科目名	**商品開発応用**				
担当教員名	海野大				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大手通信事業者で新サービス開発，新規事業立ち上げ，マーケティング・リサーチ／顧客データ分析，情報システム企画・要件定義・プロジェクト管理に従事．（全14回）				

授業概要

新商品の開発は企業の成長や存続に関わる重要な活動です．顧客のニーズや価値観は絶えず変化し，新たな競合他社，競合商品・サービスが登場します．その中で競争優位性を維持するためには，常に新たな商品を開発し続けなければなりません．商品開発には，単に優れた技術を有するだけでなく，その技術を顧客にとって価値ある商品に変換するための商品戦略やマーケティング，開発組織デザイン，そしてこれらを有効に機能させる開発マネジメントが必要とされます．この授業では，商品開発に関する重要なトピックを取り上げ，ケーススタディ（個人ワークとグループワーク）を通じて学んでいきます．

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	商品開発の戦略と組織デザインに関する知識の修得，並びにケーススタディを通じた問題分析と解決の実践能力向上	技術と市場を結び収益を上げるための商品開発マネジメントを理解するとともに，商品開発に係る具体的な問題の分析と解決策を立案できる．
汎用的な力		
1．DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		課題レポートを通して，講義で得た知識を用いて，実際の事例から商品開発に係る課題を検討できる．
2．DP８.他者とのコミュニケーション		自分の意見を読み手が理解しやすい文章で作成できる．

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・その他(以下に概要を記述)

授業ではケーススタディを行います．ケーススタディは個人ワーク，グループワークを行った後，クラス全体で討議します．クラス討議には積極的に参加してください．

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への取組みと理解度	70 %	： 授業中に実施するケーススタディへの回答内容，教員とのやり取りや発言内容，積極性，及び課題レポートにより評価します．
期末試験	30 %	： 商品開発のケース（事例）に関する設問への回答内容により評価します．

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

延岡『製品開発の知識』日本経済新聞社，2002年，ISBN：978-4532108625
近能，高井『イノベーション・マネジメント 新訂版』新世社，2010年，ISBN：978-4883843862

履修上の注意・備考・メッセージ

教材の配布や課題の提出などにGoogle Classroom を使用します.
本科目は２単位の科目であるため，平均すると毎回４時間の授業外学修が求められます.
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習してください.
ケーススタディは，個人ワークと小グループでのグループワークを行います．グループワークでは，積極的に議論とグループでの意見とりまとめに参加するようにしてください.

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　前期：火曜日３時限　後期：水曜日5時限

場所：　研究室（西館３階）

備考・注意事項：　事前にメールでアポイントメントをとるようにしてください.
メールアドレス：unno@g.osaka-seikei.ac.jp

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**商品開発とは** 企業にとっての新商品開発の意義と商品開発マネジメントの特徴について学びます.	商品開発マネジメントに関する課題に取り組む.	4時間
第2回	**イノベーションと商品開発** イノベーションのタイプとレベル，破壊的イノベーションがもたらす影響など，イノベーションの基本的理論と商品開発における重要性について学びます.	破壊的イノベーションに関する課題に取り組む.	4時間
第3回	**イノベーションによる新市場の創造** ケーススタディを通じて，イノベーションのコントロールの困難さと商品開発戦略に及ぼす影響や重要性について理解を深めます.	イノベーションのケーススタディを振り返り，課題に取り組む.	4時間
第4回	**商品開発戦略（１）技術戦略** 商品戦略の役割と目標，商品戦略を構成する技術戦略，特にコア技術戦略の重要性と目的について理解します.	コア技術戦略に関する課題に取り組む.	4時間
第5回	**特別授業：コア技術戦略のケーススタディ** 技術戦略の中核をなすコア技術戦略は，競争優位性を維持し，顧客価値の高い新商品を継続して開発・導入する戦略です．ケーススタディを通じて，コア技術戦略の重要性について理解を深めます.	コア技術戦略のケーススタディを振り返り，課題に取り組む.	4時間
第6回	**商品開発戦略（２）市場戦略と展開戦略** 技術・商品開発とマーケティングを統合的にデザインする市場戦略と，市場における中長期的な商品展開の戦略の目的と役割について学びます.	市場戦略を中心とした商品企画に関する課題に取り組む.	4時間
第7回	**商品開発戦略のケーススタディ** ケーススタディを通じて，商品戦略の重要性について理解を深めます.	商品戦略のケーススタディを振り返り，課題に取り組む.	4時間
第8回	**商品開発のプロセス** 商品開発の具体的なプロセスについて，ケーススタディを通じて学びます.	商品開発プロセスのケーススタディを振り返り，課題に取り組む.	4時間
第9回	**商品開発プロセスのマネジメント** 商品開発プロセスマネジメントの重要性と課題について，ケーススタディを通じて学びます.	商品開発プロセス・マネジメントのケーススタディを振り返り，課題に取り組む.	4時間
第10回	**開発組織のデザインとマネジメント** 商品開発における機能型組織とプロジェクト型組織の比較，組織デザインの重要性について，ケーススタディを通じて学びます.	商品開発組織のケーススタディを振り返り，課題に取り組む.	4時間
第11回	**知識創造と商品開発** 商品開発におけるインフォーマルな組織や知識創造の場の形成の重要性について，ケーススタディを通じて学びます.	知識創造と商品開発のケーススタディを振り返り，課題に取り組む.	4時間
第12回	**ビジネス・エコシステムとプラットフォーム戦略** 今日では自社のみで商品開発が完結することはほとんどなく，サプライヤーや補完商品企業との連携が必須です．こうした外部企業とのネットワーク構築において重要性を増しているビジネス・エコシステムとプラットフォーム戦略の概念と重要性について，ケーススタディを通じて学びます.	ビジネス・エコシステムのケーススタディを振り返り，課題に取り組む.	4時間
第13回	**市場を創る　～プラットフォーム戦略の展開**	市場創造のケーススタディを振り返り，課題に取り組む.	4時間

	ビジネス・エコシステムの概念を拡張し，市場そのものを創ることで自社の商品やサービスが売れる仕組みを構築する商品開発戦略と，「市場を創る」上で重要となる「取引費用」と「市場の失敗」の概念についてについて，ケーススタディを通じて学びます.		
第14回	**商品開発のまとめ** 講義全体のまとめとして，商品開発マネジメントの要点を復習します. ケーススタディを通じて，開発者個人の能力や熱意とともに，組織としての商品開発マネジメントの重要性を理解します.	授業で取り組んだケーススタディを復習し，商品開発マネジメントの理解を深める	4時間

221

授業科目名	経営情報論/マネジメントインフォメーション				
担当教員名	稲村昌南				
学年・コース等	2年以上	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

企業における情報化の進展は著しく、もはや情報や情報通信技術（ICT）なくしてはビジネスが成り立たない時代となっています。また、近年では様々なモノがインターネットとつながることで新たなサービスの可能性が広がっています。そうした背景を踏まえ、本授業では企業経営の中にどのように情報やICTが導入されていったかという歴史的経緯を振り返るとともに、ネット・ビジネスやイノベーション、ビッグデータなどの今日的なキーワードを取り上げることで、経営と情報の関係性について概略的に理解することを目的とします。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	情報によるマネジメントに関する基礎知識	企業がビジネスを効率的かつ効果的に遂行する上で、情報とICTがどような役割を果たしているか概略的に説明できる

汎用的な力	
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用	物事の因果関係をとらえ、背後にある課題や本質を見極めることができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
毎回の課題	30 %	： 授業内容を踏まえた記述であれば1点とし、そこに「論理性」と「簡潔性」を備えていれば2点とする。授業内容に関係のない記述の場合は0点となる。
期末試験	70 %	： ビジネスにおける情報やICTの利活用に関する問題を出題し、「経営情報の基礎的内容を理解しているか」、「出題内容に関して論理的かつ簡潔に記述できているか」の2点から評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

遠山 暁・村田 潔・古賀 広志著「現代経営情報論」（有斐閣アルマ、2021、ISBN978-4641221789）。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　火曜日3時間目

場所：　西館3階45研究室

備考・注意事項：　classroom上での連絡も可能

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**経営情報とは？** 経営情報の学問的特徴と、経営情報を学ぶ意義について考えます。	今日の社会で求められる情報化人材、イノベーション人材とはどのような人材か、いくつかのポイントを抽出します	4時間
第2回	**情報社会とは？** 社会の情報化を示すいくつかのデータや現象から「なぜいま情報社会というのか」という疑問を解決します。	産業構造の変化とソフト化率の向上が社会の情報化とどのようにかかわっているのか整理します	4時間
第3回	**情報の特質** モノと比較することで情報の特質を浮き彫りにするとともに、その特質が企業経営に与えるインパクトについて考えます。	無形資産や知的財産が現在の企業経営にとってどのような意味を持つのか整理します	4時間
第4回	**経営情報の基礎理論①－情報と意思決定－** 情報や情報システムが経営資源の1つとしてその重要性を高めた理由について、経営学の理論の１つである意思決定論との関わりから考えます。	組織の意思決定とは何か、意思決定における情報の役割とは何か整理します	4時間
第5回	**経営情報の基礎理論②－情報と企業進化－** 生物学の考え方を取り入れることで、企業が情報や情報システムを必要としているという根拠を探ります。	企業が進化するとはどういうことか、そこでの情報の役割とは何か整理します	4時間
第6回	**企業活動と情報** 企業の活動をシンプルにモデル化するとともに、情報の役割を関連付けることで、企業経営と情報の関係を概略的に理解します。	企業における情報の流れとそれぞれの情報の業務上の役割について整理します	4時間
第7回	**経営情報システムの変遷①－EDPSとMIS－** コンピュータが企業経営に導入されて半世紀が経過しようとしています。今回は、初期の情報システムに期待された役割について学びます。	組織（企業）の管理階層における情報ニーズの違いと経営情報システムに期待される役割について整理します	4時間
第8回	**経営情報システムの変遷②－DSS－** 管理者（マネジャー）に適切な情報を提供し、彼らの意思決定を支援するためのシステムとして開発された意思決定支援システムについて理解します。	組織における意思決定の類型とDSSが支援すべき意思決定について整理します	4時間
第9回	**経営情報システムの変遷③－オフィス情報システム－** オフィスにおける情報化が進展した背景について理解するとともに、実際に活用されているオフィスツールについて学びます。	オフィスにおける様々な支援ツールの役割と働き方の変化について整理します	4時間
第10回	**ネット・ビジネス** 今日の経済の１つの牽引役ともなっているネット・ビジネスについて、その経済的効果と課題について学びます。	ネット・ビジネス特有のビジネスモデルのあり方と今後のネット・ビジネスの課題について整理します	4時間
第11回	**ビッグ・データ** インターネット上に蓄積されている大量のデータを社会・経済の問題解決に役立てることを目的とする「ビッグ・データ」について理解します。	ビッグ・データの特徴とビジネス利用の可能性について整理します	4時間
第12回	**ICTとイノベーション戦略** 今日のインターネット環境が企業のイノベーション戦略に与える影響について学びます。また、IoT（Internet of Things）と呼ばれるモノ（製品）とインターネットがつながることによる新たなサービスの可能性についても理解します。	日本的な閉じた関係性の中で行われる製品開発と欧米を中心としたオープンや関係性の中で行われる製品開発の違いについて整理します	4時間
第13回	**オープンイノベーションとモジュール化** 製品の構造に起きているモジュール化という変化と前回学んだオープン・イノベーションとの関連について理解します。	企業間のオープンな関係性を構築するうえでキーワードとなっているモジュール化とはどのような考え方かを整理します	4時間
第14回	**モジュール化がもたらすビジネスへの影響** コンピュータ業界で起きた実際の出来事を基にモジュール化が与えるビジネスへのインパクトについて理解します。	家電業界を中心に進展しているモジュール化の波がビジネスにどのような影響を与えるのか、競争のあり方の変化を中心に整理します	4時間

232

授業科目名	ビジネス会計応用Ⅰ				
担当教員名	笠岡恵理子				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

簿記とは、「企業が行う経済活動を貨幣額で認識、測定し、帳簿に記録した上で、財務諸表を作成するための技術のこと」を指す。本講義では、仕訳、総勘定元帳への転記、試算表および財務諸表作成という簿記の一巡の手続きについて学んだ上で、簿記システムから得られる情報を読み解く力を養うことを目的としている。また、本講義は応用クラスであることから、ビジネス会計Ⅰおよびビジネス会計IIよりも深い理解度を必要とする演習を行っていく。
ビジネス会計応用Iでは、ビジネス会計IおよびIIにおいて学習した仕訳の内容を振り返るとともに、それらに関する様々な問題に取り組んでいく。また、決算整理仕訳を振り返り、精算表および財務諸表の作成問題を解いてく。そして、ビジネス会計応用IIにおいて取り組む精算表および財務諸表作成の応用問題へと繋げていく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	会計・簿記の知識	企業が行う経済活動を認識、測定し、帳簿に記録した上で、財務諸表を作成することができる。
汎用的な力		
1. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		与えられた課題をやり遂げる力を身に付けることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
小テスト	50 %	： 授業内容の理解度を評価する。
期末テスト	50 %	： 企業の経済活動を認識、測定し、帳簿に記録した上で、財務諸表を作成することができているかを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

TAC株式会社（簿記検定講座）編著『よくわかる簿記シリーズ　合格テキスト日商簿記3級　Ver.15.0』TAC株式会社　出版事業部、2025年。
TAC株式会社（簿記検定講座）編著『よくわかる簿記シリーズ　合格トレーニング日商簿記3級　Ver.15.0』TAC株式会社　出版事業部、2025年。
TAC株式会社（簿記検定講座）編著『2025年度版　日商簿記3級　まるっと完全予想問題集』TAC株式会社　出版事業部、2025年。

履修上の注意・備考・メッセージ

ビジネス会計ⅠおよびIIの単位を取得しているか、履修したことが履修条件である。
本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜2限目

場所： 個人研究室（西館２F）

備考・注意事項： 質問はメールでも受け付けます。
メールアドレスは第1回目の授業時に連絡します。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**簿記の意義としくみ** 簿記の意義、貸借対照表および損益計算書とは、貸借対照表と損益計算書の関係について理解する。	テキストおよびトレーニングのテーマ01～03の内容の振り返りと問題の解き直し、および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第2回	**商品売買I （三分法）** 商品売買とは、三分法による仕訳、仕入諸掛・売上諸掛について理解する。	テキストおよびトレーニングのテーマ04の内容の振り返りと問題の解き直し、および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第3回	**商品売買II （商品有高帳）** 商品有高帳、売掛金元帳、買掛金元帳の作成方法について理解する。	テキストおよびトレーニングのテーマ05の内容の振り返りと問題の解き直し、および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第4回	**現金・預金、小口現金** 現金・現金過不足勘定、当座預金・当座借越勘定、および小口現金勘定に関する仕訳、および小口現金出納帳の作成方法について理解する。	テキストおよびトレーニングのテーマ06および07の内容の振り返りと問題の解き直し、および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第5回	**クレジット売掛金、手形取引、電子記録債権・債務** クレジット売掛金の処理、手形、および電子記録債権・債務の仕訳について理解する。	テキストおよびトレーニングのテーマ08～10の内容の振り返りと問題の解き直し、および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第6回	**その他の取引** 貸付金・借入金、有形固定資産の取得・売却・賃借、未収入金・未払金、仮払金・仮受金、および給与に関する仕訳について理解する。	テキストおよびトレーニングのテーマ11～13の内容の振り返りと問題の解き直し、および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第7回	**試算表** 試算表の作成方法を理解する。	テキストおよびトレーニングのテーマ15の内容の振り返りと問題の解き直し、および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第8回	**決算** 決算整理とは、決算整理事項の仕訳の方法、精算表の内容、および財務諸表の作成方法について理解する。	テキストおよびトレーニングの16の内容の振り返りと問題の解き直し、および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第9回	**決算整理I（現金過不足、売上原価）** 現金過不足の処理（期中・決算）、売上原価および売上総利益の計算、および売上原価を算定に係る決算整理仕訳について理解する。	テキストおよびトレーニングのテーマ17および18の内容の振り返りと問題の解き直し、および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第10回	**決算整理II（貸倒れ、減価償却）** 貸倒引当金の見積り、および有形固定資産の減価償却について理解する。	テキストおよびトレーニングのテーマ19および20の内容の振り返りと問題の解き直し、および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第11回	**決算整理III（貯蔵品、当座借越、経過勘定）** 租税公課、貯蔵品、当座借越費用の前払い、収益の前受け、費用の未払い、および収益の未収に関する決算整理仕訳について理解する。	テキストおよびトレーニングのテーマ21～23の内容の振り返りと問題の解き直し、および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第12回	**決算整理後残高試算表** 決算整理後残高試算表の作成方法を理解する。	テキストおよびトレーニングのテーマ24の内容の振り返りと問題の解き直し、および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第13回	**精算表** 精算表の作成方法を理解する。	テキストおよびトレーニングのテーマ25の内容の振り返りと問題の解き直し、および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第14回	**総まとめ　第1～13回の復習** 第1回～第13回までの授業内容について復習を行う。	授業中に説明した各回の要点を復習し、問題を解き直す。	4時間

232

授業科目名	ビジネス会計応用Ⅱ				
担当教員名	笠岡恵理子				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

簿記とは、「企業が行う経済活動を貨幣額で認識、測定し、帳簿に記録した上で、財務諸表を作成するための技術のこと」を指す。本講義では、仕訳、総勘定元帳への転記、試算表および財務諸表作成という簿記の一巡の手続きについて学んだ上で、簿記システムから得られる情報を読み解く力を養うことを目的としている。授業内容としては、特に、日商簿記検定3級レベルの仕訳、およびビジネス会計応用Iで学習した決算整理仕訳および精算表・財務諸表の作成に関する内容を踏まえて、応用問題を中心に解いていく。また、本講義は応用クラスであることから、ビジネス会計IおよびビジネスIIよりも深い理解度を必要とする演習を行うこととする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	会計・簿記の知識	企業が行う経済活動を認識、測定し、帳簿に記録した上で、財務諸表を作成することができる。
汎用的な力		
1. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		与えられた課題をやり遂げる力を身に付けることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
小テスト	50 %	： 授業内容の理解度を評価する。
期末テスト	50 %	： 企業の経済活動を認識、測定し、帳簿に記録した上で、財務諸表を作成することができているかを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

TAC株式会社（簿記検定講座）編著『よくわかる簿記シリーズ　合格テキスト　日商簿記3級　商業簿記Ver.15.0』TAC株式会社　出版事業部、2025年。
TAC株式会社（簿記検定講座）編著『よくわかる簿記シリーズ　合格トレーニング　日商簿記3級　商業簿記Ver.15.0』TAC株式会社　出版事業部、2025年。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は応用クラスであるため、ビジネス会計ＩおよびIIの単位を取得しているか、ともに履修していることが履修条件である。
本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜2限目

場所： 個人研究室（西館２F）

備考・注意事項： 質問はメールでも受け付けます。アドレスは第1回目の授業時に連絡します。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ビジネス会計応用Ｉの復習** ビジネス会計応用Ｉで学んだ仕訳から財務諸表の作成までの簿記の一連の流れについての復習を行う。	配布資料の見直しおよび次回講義内容の予習	4時間
第2回	**決算（１）未処理事項等** 決算とは、未処理事項等の仕訳、および決算整理後残高試算表および精算表の記入方法について理解する。	テキストおよび問題集のテーマ16における内容の振り返りと問題の解き直し、および次回講義内容の予習	4時間
第3回	**決算（２）現金過不足・売上原価・貸倒れ** 現金過不足、繰越商品の整理と売上原価の計算、および貸倒損失・貸倒引当金の処理に関する決算整理仕訳について理解する。	テキストおよび問題集のテーマ17～19の内容の振り返りと問題の解き直し、および次回講義内容の予習	4時間
第4回	**決算（３）減価償却・貯蔵品・当座借越** 有形固定資産の減価償却とその記帳方法、減価償却費の月次計上、および減価償却している有形固定資産の売却（期中取引）に係る仕訳について理解する。また、貯蔵品および当座借越に関する仕訳について学習する。	テキストおよび問題集のテーマ20～22の内容の振り返りと問題の解き直し、および次回講義内容の予習	4時間
第5回	**決算（４）経過勘定項目** 前払費用・前受収益、未収収益・未払費用に関する取引の仕訳について理解する。	テキストおよび問題集のテーマ23の内容の振り返りと問題の解き直し、および次回講義内容の予習	4時間
第6回	**決算（５）訂正仕訳、仕訳の応用問題** 訂正仕訳の理解、および日商簿記3級レベルの仕訳の応用問題の取り組みを行っていく。	授業中に配布した訂正仕訳および仕訳の応用問題の内容の振り返りと問題の解き直し、および次回講義内容の予習	4時間
第7回	**決算整理後残高試算表** 決算整理後残高試算表に関する応用問題に取り組む。	テキストおよび問題集のテーマ24の内容の振り返りと問題の解き直し、および次回講義内容の予習	4時間
第8回	**精算表（１）基本** 決算整理事項等の処理と精算表の作成方法について学習する。	テキストおよび問題集のテーマ25の内容の振り返りと問題の解き直し	4時間
第9回	**精算表（２）応用** 精算表に関する応用問題に取り組む。	授業中に配布した問題の解き直しおよび次回講義内容の予習	4時間
第10回	**帳簿の締め切り** 収益・費用の勘定の締め切り、資産・負債・純資産の勘定の締め切り、および繰越試算表の作成方法について理解する。	テキストおよび問題集のテーマ26の内容の振り返りと問題の解き直し、および次回講義内容の予習	4時間
第11回	**財務諸表の作成（１）基本** 貸借対照表および損益計算書の仕組み、および貸借対照表および損益計算書の作成方法を理解する。	テキストおよび問題集のテーマ27の内容の振り返りと問題の解き直し	4時間
第12回	**財務諸表の作成（２）応用** 財務諸表の応用問題に取り組む。	授業中に配布した問題の解き直し、および次回講義内容の予習	4時間
第13回	**株式の発行、剰余金の配当と処分、税金に関する処理** 株式発行時（会社の設立、増資）における処理、利益剰余金の配当と処分における処理、税金の分類、法人税等の処理、および消費税の処理について理解する。	テキストおよび問題集のテーマ28～30の内容の振り返りと問題の解き直し、およびこれまでの授業の振り返り	4時間
第14回	**総まとめ** 第1回～第13回までの授業内容の復習	授業中に配布した問題の解き直し	4時間

232

授業科目名	経営組織論				
担当教員名	山崎哲弘				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	地域総合経済団体にて10年間、人事労務管理全般に関するコンサルティング業務（人事制度改定、採用、育成等）を担当（全14回）。				

授業概要

現代社会の中で「組織」はさまざまな形で存在しています。経営組織論では、これら組織の中でも私たちの生活と密接に関連している企業組織を主な研究の対象としています。そこで本講義では、組織目標を達成するため、組織構造や環境適応といった組織と環境の関わりの視点であるマクロ組織論と組織内部で働く個人や集団を対象にリーダーシップやモチベーションといった組織内のメンバーへの関わりの視点であるミクロ組織論を学びます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	経営組織	経営組織の基礎知識を習得するとともに、現代社会における経営組織の各種課題についての理解を深める。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		課題レポート作成を通して、講義で得られ た知識をベースに自らの考えをまとめる。
2. DP８.他者とのコミュニケーション		読み手に理解を促すわかりやすい文書を作成する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
ミニレポート	30 %	： 原則、毎回講義内容に即したミニレポートを実施し、全てのミニレポートの結果を30点満点で評価する
小テスト	30 %	： 原則、前回の講義内容に即した小テストを実施し、全ての小テストの結果を30点満点で評価する
期末試験	40 %	： 経営組織に関する基礎知識およびその課題について、自らの考えを問う小論文問題を出題し、 以下の観点から評価する。１．基礎知識を正しく理解しているか　２．自分の独自の考えを提示できているか

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

高橋正泰・山口善昭・磯山優・文智彦『経営組織論の基礎』（中央経済社・1998年）ISBN-10 ： 4502346853
その他の参考文献は、適宜、授業時に紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日１限

場所： 西館２階14研究室

備考・注意事項： 月曜日１限をオフィースアワーとしているが、授業前後の質問も歓迎する。その他の連絡の取り方としてEメールで対応する。
（yamasaki-t@g.osaka-seikei.ac.jp）Eメール件名としては「経営組織論について（氏名、学籍番号）」とすること。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス：経営組織論とは** 授業のガイダンスとして、企業経営における経営組織論の意義と重要性について解説します。	組織論の概要に関するミニレポートを作成する。	4時間
第2回	**組織の定義と組織論の展開** まず組織とは何か、そして組織論の成立と展開について解説します。 ・マクロ組織論の視点 ・ミクロ組織論の視点 ・前回の振り返り、各種質問への回答	配布された参考資料等の復習（小テスト対策）と予習。身近な組織についてのミニレポートを作成する。	4時間
第3回	**管理組織の基本構造** 管理組織の基本構造のである特徴と問題点を解説します。 ・分業の原理 ・調整の原理 ・前回の振り返り、各種質問への回答	配布された参考資料等の復習（小テスト対策）と予習。身近な組織の組織構造についてのミニレポートを作成する。	4時間
第4回	**管理組織の形態（１）静態的組織** 企業管理組織の具体的形態の1つである「静態的組織」の特徴と問題点を解説します。 ・ライン組織 ・ファンクショナル組織 ・ラインアンドスタッフ組織 ・職能別組織 ・前回の振り返り、各種質問への回答	配布された参考資料等の復習（小テスト対策）と予習。具体的な職能別組織の企業事例に関するミニレポートを作成する。	4時間
第5回	**管理組織の形態（２）動態的組織** 企業管理組織の具体的形態の1つである「動態的組織」の特徴と問題点を解説します。 ・事業部制組織 ・マトリックス組織 ・カンパニー制組織 ・前回の振り返り、各種質問への回答	配布された参考資料等の復習（小テスト対策）と予習。具体的な事業部制組織の企業事例についてのミニレポートを作成する。	4時間
第6回	**組織の環境適応（１）** 企業組織の環境適応の問題をクローズドシステムとオープンシステムの視点から考えます。 ・前回の振り返り、各種質問への回答	配布された参考資料等の復習（小テスト対策）と予習。具体的なマトリックス組織の企業事例に関するミニレポートを作成する。	4時間
第7回	**組織の環境適応（２）** 企業組織の環境適応の問題を「コンティンジェンシー理論」の考え方から考えます。 ・前回の振り返り、各種質問への回答	配布された参考資料等の復習（小テスト対策）と予習。組織環境適応に関するミニレポートを作成する。	4時間
第8回	**科学的管理法** テイラーの科学的管理法を解説します。 ・前回の振り返り、各種質問への回答	配布された参考資料等の復習（小テスト対策）と予習。組織文化に関するミニレポートを作成する。	4時間
第9回	**科学的管理法から人間関係論へ** テイラーの科学的管理法から人間関係論の登場に至るまでの理論的経緯を解説します。 ・前回の振り返り、各種質問への回答	配布された参考資料等の復習（小テスト対策）と予習。科学的管理法に関するミニレポートを作成する。	4時間
第10回	**人間関係論の成立** ホーソン実験の結果から成立した人間関係論について解説します。 ・前回の振り返り、各種質問への回答	配布された参考資料等の復習（小テスト対策）と予習。行動科学論に関するミニレポートを作成する。	4時間
第11回	**行動科学（マズロー・マグレガー）**	配布された参考資料等の復習（小テスト対策）と予習。リーダーシップ理論に関するミニレポートを作成する。課題レポート作成	4時間

	行動科学に関する諸理論を解説します。 ・マズローの「欲求階層理論」 ・マグレガーの「Ｘ理論・Ｙ理論」 ・前回の振り返り、各種質問への回答		
第12回	**行動科学（アージリス・ハーズバーグ）** 組織における行動変容を促すために必要な行動理論的アプローチについて解説する。 ・アージリスの「未成熟・成熟理論」 ・ハーズバーグの「動機づけ・衛生理論」 ・前回の振り返り、各種質問への回答	配布された参考資料等の復習（小テスト対策）と予習。組織行動変容に関するミニレポートを作成する。	4時間
第13回	**組織における意思決定** サイモンの意思決定論を中心「組織は戦略に従う」チャンドラーの戦略論をベースにした組織論を解説する。 ・集団における意思決定 ・集団凝集性 ・集団浅慮 ・前回の振り返り、各種質問への回答	配布された参考資料等の復習（小テスト対策）と予習。経営戦略に関するミニレポートを作成する。	4時間
第14回	**リーダーシップ理論** リーダーシップ理論について解説する。 ・リーダーシップ特性理論 ・リーダーシップ行動理論 ・リーダーシップのコンティンジェンシー理論 ・カリスマ的リーダーシップ理論 ・変革型リーダーシップ理論 ・多様なリーダーシップ論 ・前回の振り返り、各種質問への回答	定期試験準備のための全体的な復習と学習	4時間

232

授業科目名	ビジネス文化論				
担当教員名	児山俊行・李美花				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

ビジネスで重要になってきている企業側の経営理念や文化・風土、またユーザー側の生活上での文化の開発がどのように企業の業績やイノベーションと関わるかを理解する。担当教員の専門性に富む講義や受講生各自のワーク等を通じて、製品開発やサービスマネジメントの各分野の多様な事例を通じて、ビジネス上の現代的課題とその解決方法について学び、最終的にそれらを支える経営理念や文化・風土、ユーザー側の文化のあり方を見据えたイノベーションへの視野と理解を深めていく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.現代社会におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	各分野の基礎的素養を習得できる。	企業事例に対して、感覚的ではなく論理的に分析できる。
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	各分野の最先端の基本を理解できる。	企業事例の発展・停滞の要因を抽出できる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		プロジェクトの問題点を発見する力を養うことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
授業態度	10 %	：	授業への集中度や質疑応答などの積極性で評価する。
授業中の演習・レポート	55 %	：	授業内容の基本的把握の度合いにより評価する。
試験（筆記）	35 %	：	授業内容全体の理解度やそれを踏まえた考察度合いで評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

各担当教員の授業での参考文献は、その都度指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
★授業のお知らせや課題などは、グーグルクラスルームを活用する予定である。詳細な事項は、第1回目の授業でも告知する。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 児山：火２限

場所： 研究室（児山：西館３F）

備考・注意事項： オフィスアワーを設けていますので、質問のある受講生はその時間帯に研究室を訪ねてください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション①（李担当）** オリエンテーションでは、サービス商品としてのフードビジネス、授業の進め方についての説明をする。	授業のまとめ、フードテックについて調べる	4時間
第2回	**フードビジネスの仕組みとフードテック＃Case Study②（李担当）** 外食産業内でのフードテックの現況、事例、事例としてフードデリバリーサービスの仕組みについて学習する。 フードテック（FoodTech）の概念。外食産業におけるフードテックの位置づけ。注目すべきキーワード「カスタム化（フードパーソナライズ化）「自動化&AIロボット」「クラウドキッチン」	授業のまとめ、フードデリバリー市場について調べる	4時間
第3回	**急成長するフードデリバリー市場③（李担当）** フードデリバリー市場の現況・市場規模・参入と撤退 主なフードデリバリーサービス事例	授業のまとめ、シェフという仕事について調べる	4時間
第4回	**食の担い手・シェフ＃Case Study④（李担当）** 有名シェフの料理に対するポリシーと拘りについて「料理、仕入れ、独自性の演出、サービス（おもてなし）」に分けて分析する。 ＃Case Study：食の担い手「シェフ」 居酒屋店主「中村重男」 もてなしを究める日本料理人「石原仁司」 北陸の気鋭フレンチシェフ、富山、伝統の食文化を驚きの美味に「谷口英司」 「星のや東京」のフレンチ・レストランシェフ「浜田統之」	授業のまとめ、優秀な外食チェーンを調べる	4時間
第5回	**海外における日本食レストラン「北京」&外食チェーンの海外進出Case Study＃丸亀製麺⑤（李担当）** フードビジネスの位置づけと変遷について外食産業について理解を深めていく。とりわけ、外食チェーンのマーケティング事例を取りあげながら、海外進出先での経営理念と企業文化をいかに根を下ろせるのかについて考察する。 ＃参考映像	授業のまとめ、美食都市について調べる	4時間
第6回	**美食都市（Gastronomic?City）：食と文化⑥（李担当）** 美食都市を目指す関西、フードツーリズム事例を通じてビジネスとの関連性について理解を深めていく。食と文化：美食都市（Gastronomic City）の概念と事例について学習する。 ・世界最古のレストラン「ボティン」 ・2019年度「世界のベストレストラン50」 ・ミシュランガイド東京2020 ・「美食都市」（Gasronomic City）→ドノスティア―サン・セバスティアン	授業のまとめ、観光資源について調べる	4時間
第7回	**観光資源として食を考える⑦（李担当）** ＃Case Study①サン・セバスティアン ＃Case Study②「全州」・「鶴岡」 ・日本食と和食：ユネスコ文化遺産「和食」が意味すること ・ユネスコ創造都市ネットワーク（ＵＣＣＮ）：食文化(Gastronomy)部門?美食都市「全州」・「鶴岡」 ・観光資源としてのフードビジネスを活用しよう「食とインバウント」：関西の食ビジネスとその魅力	これまでの授業内容をキーワードでまとめてみる	4時間
第8回	**経営者論①～ソニー（特別授業）** メイド・イン・ジャパンを代表する企業の一つであるソニーについて、創業から成長、発展の軌跡とその原動力たる経営者のあり方、そして現代への示唆について学ぶ。	ソニーの企業としての歴史と革新的製品を調べる	4時間
第9回	**経営者論②～パナソニック（特別授業）** メイド・イン・ジャパンを代表する企業の一つであるパナソニックについて、創業から成長、発展の軌跡とその原動力たる経営者のあり方、そして現代への示唆について学ぶ。	パナソニックの企業としての歴史と経営哲学について調べる	4時間
第10回	**経営者論③～ホンダ（特別授業）** メイド・イン・ジャパンを代表する企業の一つであるホンダについて、創業から成長、発展の軌跡とその原動力たる経営者のあり方、そして現代への示唆について学ぶ。	ホンダの企業としての歴史と革新的製品を調べる	4時間
第11回	**グローバル化と日本製造業の競争力（児山担当）** 「メイド・イン・ジャパン」と賞賛された日本製造業の競争力が、グローバル競争がいっそう激しくなる21世紀に入ってから、どのように変化してきたのかを見ながらその要因について考える。	産業統計資料の確認	4時間

第12回	**日本型の製品開発の発展と限界（児山担当）** かつてのホンダや近年の韓国企業やアップル社、深センの成長企業を通じて、これからあるべき日本製造業での製品開発や企業のあり方を考える。	日本家電企業の苦戦と海外ライバル企業に関する資料の確認	4時間
第13回	**製品開発は「文化開発」か？（児山担当）** 最新技術なくとも、ユーザー側に新たな文化を開発することで革新的な製品を開発できる事例を通じて、現代では技術開発よりも文化開発が鍵になるケースがあることについて考察する。	文化開発の製品開発事例の確認	4時間
第14回	**新たなメイド・イン・ジャパン（児山担当）** 日本の若き起業家による「一人メーカー」や途上国でのソーシャルビジネスの展開から新たなモノづくり文化を学ぶ。	若手起業家たちの関係資料の確認	4時間

232

授業科目名	ビジネス心理学				
担当教員名	稲村昌南・千代原亮一				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

五感を統合的に活用し、ビジネスに活かす時代となっている。かつて「ブランド」とは、名称、ロゴタイプ、シンボルマーク、シンボルカラーなどの視覚的要素で表現されるものと考えられてきたが、今日、多くの企業が視覚情報に他の感覚要素（聴覚、嗅覚、触覚、味覚）を組み合わせることで、顧客の心にブランドの記憶を深く刻むきっかけを作り出している。本講義では、このように、視覚、聴覚、嗅覚、触覚、味覚を統合的に活用した「五感のマーケティング」について理論と実践を組み合わせて学ぶ。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	感覚マーケティング（sensory marketing）の有効性	消費者の感覚に訴えることによって、その知覚、判断、そして行動に影響を与えるマーケティングの意味について理解し、実践に役立てることができる。
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	感覚訴求の重要性	マーケティングの世界で感覚訴求の重要性、更に感覚刺激の意味について理解できる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		PBLにおいて、「何が問題になっているのか」を自分の頭で理解し、課題解決に取り組むことができる。
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		PBLにおいて、タイム・マネジメントを意識してプランニングを行い、課題解決に取り組むことができる。
3. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		PBLにおいて、積極的に行動し、主体的に課題解決に取り組むことができる。
4. DP８.他者とのコミュニケーション		PBLにおいて他のグループメンバーと意見交換し、協力しながら、主体的に課題解決に取り組むことができる。
5. DP９.他者との協調・協働		PBLにおいて、自己の役割を理解し、他のグループメンバーと連携を図りながら、課題解決に取り組むことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・課題解決学習(PBL)

通常の講義形式による説明と体験的な学習の組み合わせで行う。

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

①専門的な力
・マーケティングの知識：五感にうったえるマーケティングについて、人間の心理的側面から理解し説明できる
②課題発見力
・論理的思考力：因果関係をとらえ、物事の本質を見極めることができる

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、
シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題

に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
試験（各授業回における課題レポート）	30 %	・毎回0～3点で評価し、合計30点満点とする。 ・授業内容を踏まえた論述であれば2点とし、そこに「論理性」と「簡潔性」を備えていれば3点とする。授業内容に全く関係のない記述の場合は0点となる。
PBL（課題解決型学習）	40 %	・PBLを実施し、その活動を以下の基準で評価する。 ①課題について自主的に取り組み、解決に向けた活動を積極的に行ったか。②他の学生と協力して課題に取り組み、成果物を提出することができたか。
試験（期末レポート）	30 %	・所属グループの発表資料をもとに、適切に各自の改善案が提示されているかを評価する。改善の妥当性を評価の基準とする。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

教科書は使用せず、授業資料を配布します。

①パコ・アンダーヒル（著)＝鈴木主税・福井昌子（訳)『なぜこの店で買ってしまうのか ショッピングの科学』（早川書房・2014年）、②A.クリシュナ(著)＝平木 いくみ・石井裕明・外川拓（訳)『感覚マーケティング―顧客の五感が買い物に影響を与える』（有斐閣・2016年）、③中村和正(著)『[買わせる]の心理学 消費者の心を動かすデザインの技法61』（エムディエヌコーポレーション・2018年）。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜5時間目

場所：　西館3階の各担当教員の研究室

備考・注意事項：　通常の講義以外に、PBL形式でのグループ学習を実施するため、グループ活動に積極的に取り組み、遅刻・無断欠席をしないように。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス：五感のマーケティングとは** (1)五感ブランディングとは (2)五感マーケティングとは (3)江戸時代からあった五感マーケティング	五感を使ったビジネス手法には、どのようなものがあるかについて、身近な例を調べておこう。	4時間
第2回	**視覚によるマーケティング①（事例研究）** なぜ、あの商品は売れ続けるのか。スーパー・コンビニの定番商品から話題の商品まで、店頭勝負を制する「色」と「デザイン」の成功ポイントについて学ぶ。 ・パッケージの役割を知る ・パッケージ・デザインによるブランド戦略	「色とデザインの成功ポイント」に関する課題の作成（ミニレポート）	4時間
第3回	**視覚によるマーケティング②（理論編）** 売れる色とデザインの法則について学ぶ。色、形、パターン、配置に潜むロングセラーの秘密について知る。 ・色の使い方 ・イラストの使い方 ・文字の使い方	「視覚によるマーケティングを用いたロングセラー商品」に関する課題の作成（ミニレポート）	4時間
第4回	**視覚によるマーケティング③（実践編）** 成功事例を基にパッケージ・デザインに取り組む。 ・デザインのプロセスを知る ・ロングセラー・パッケージの秘密を探る ・世界で売れるパッケージ・デザインの秘密	「パッケージ・デザイン」に関する課題の作成（ミニレポート）	4時間
第5回	**触覚・味覚によるマーケティング** 触覚と味覚によるマーケティングについて、特にIT技術を用いた研究とその実用化の観点から分析する。 触覚：モバイル端末を通じて「触れる」ことができる仕組み 味覚：人間の舌を参考に開発した「味覚センサー」で味を測る仕組み	「IT技術を用いた触覚と味覚のマーケティング」に関する課題の作成（ミニレポート）	4時間
第6回	**嗅覚によるマーケティング①　（事例研究）** なぜ、この場所で商品を買ってしまうのか？ ・スーパーやショップ、商品など香りのマーケティングの成功事例を紹介。 ・また、そこで使われている香りを考える。	香りのマーケティングが使われている現場を見つける。	4時間
第7回	**嗅覚によるマーケティング②　（理論編）**	香りの文献を調べる宿題。	4時間

	香りが心理にどのように影響を与え、消費行動を変えるのか。 ・五感の中で、嗅覚だけが特別な感覚である理由。 ・香りがどのように、人の感情や行動に影響を与えるのか学ぶ。 ・実際に、香りを嗅いで心理状態の違いを体験する。		
第8回	**嗅覚によるマーケティング③　（応用編）** 香りのマーケティングの活用方法を考える。 ・香りを使った商品や空間を企画する。 ・簡単な企画書の作成	課題レポート作成	4時間
第9回	**経験価値マーケティングとは何か** わたしたちは無意識に音に影響されています。音の持つ力を戦略的に活用したマーケティングについて、これまでのマーケティングとどこが違うのか、経験価値というキーワードを使って学びます。	「経験価値とマーケティング」に関する課題の作成（ミニレポート）	4時間
第10回	**音のブランディング効果** いくつかの企業では、特定の音（音楽）と商品を関連付けています。今回は、この「音のブランディング」について学びます。	「音のブランディング」に関する課題の作成（ミニレポート）	4時間
第11回	**PBL（課題解決型学習）①** 五感を刺激し、使うことは、様々なビジネス・アイデア、インスピレーションにつながる。そこで、第1回目から第11回目までの授業内容を踏まえた課題設定を行い、その解決を目指すグループ学習を行う。	第2回目のグループ学習に向けた情報収集、グループ内での打ち合わせなど	4時間
第12回	**PBL（課題解決型学習）②** 課題解決に向けた議論、発表会に向けた資料作成を行う。	第3回目のグループ学習に向けた情報収集、グループ内での打ち合わせなど	4時間
第13回	**PBL（課題解決型学習）③** 課題解決に向けた議論、発表会に向けた資料作成、発表準備を行う。	グループごとに発表会に向けた準備	4時間
第14回	**PBL発表会、まとめ** グループ討議を基に、各グループから課題解決に向けた提案を行う。	ふりかえりのレポート作成	4時間

223

授業科目名	中小企業論				
担当教員名	児山俊行				
学年・コース等	2・3・4年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

授業では、①大量生産に基づく大企業の強さについて理解する②グローバル化ビジネスの基本を理解する。③日本の今までのモノづくりの強さと限界を知る（自動車産業の下請体制を中心として）。④停滞突破のため、米国シリコンバレーやイタリアのモノづくりについて考える。⑤諸事例から大企業と中小企業、中小企業間のコラボレーションの動態を知る。⑥諸事例から「オンリーワン」の中堅・中小企業知る。⑦新事業を生み出す地域の役割について考える。⑧最終的に「小が集まりネットワークを組んで事業個性を成す」可能性について考える

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	企業コラボレーションの現代的動態を分析できる。	企業間コラボレーションの基礎的知識を習得できる。
汎用的な力		
1．DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		プロジェクトのコラボレーションの可能性と課題を分析できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業態度	10 %	： 授業への集中度や質疑応答などの積極性で評価する。
授業レポート	60 %	： 授業内容の基本的把握の度合いにより評価する。 参考文献を読んでのレポートも随時受け付け内容に応じて加点する。
期末試験（筆記）	30 %	： 授業内容全体の理解度やそれを踏まえた考察度合いで評価する。。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

毎授業ごとに1冊以上紹介します（それらが自主レポートの対象図書となります）。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日２限

場所： 担当教員の研究室（西館３F西側）

備考・注意事項： 研究室前に掲示しますが、研究日以外の昼休みやオフィスアワーに設けます。

またメールでの質問はこちらまで（用件がわかるように件名などに明記すること）。
koyama_t@g.osaka-seikei.ac.jp

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**経済のグローバル化と日本産業** グローバル化に伴う日本大企業の海外生産の展開について学ぶ	グローバル化に伴う日本大企業の海外生産の現状について調べる。	4時間
第2回	**「大量生産」とは** 経済発展の基礎としての大量生産の特性について学ぶ	「規模の経済」「範囲の経済」について調べる。	4時間
第3回	**大企業を支える中小企業** 日本産業構造の「二重性」について学ぶ。	いわゆる「下請」とは何かについて調べる。	4時間
第4回	**大企業と中小企業の「下請ネットワーク」の形成** 「下請」の形成ついて学ぶ。	日本の高度経済成長時の「系列」形成について調べる。	4時間
第5回	**「メイド・イン・ジャパン」を支える中小企業** 「下請」の取引特性について学ぶ。	世界の有名ブランドに納入している日本の中小企業を調べる。	4時間
第6回	**「下請ネットワーク」の構造変化** グローバル化による「下請」構造の変動について学ぶ。	日本大企業による生産のアジアシフトの歴史を調べる。	4時間
第7回	**ニッチ市場で活躍する独立型中小企業** 「下請」以外の独立系の中小企業の事例から特性を学ぶ。	「ニッチ」の企業や市場についての基礎的理解をしておく。	4時間
第8回	**「脱・下請」への挑戦** 取引減少に見舞われた「下請」中小企業の新事業展開について学ぶ。	下請中小企業の新規事業への挑戦事例につい調べる。	4時間
第9回	**「シリコンバレー」の誕生と発展** 「シリコンバレー」誕生の歴史と発展の要因について学ぶ。	ヒューレット・パッカード社やインテル社、アップル社等の成り立ちについて調べる。	4時間
第10回	**中国の「ハイテクバレー」** 「東洋のシリコンバレー」と言われる中国・深圳でのメイカームーブメントからハイテク企業を次々と生みだすダイナミズムを学ぶ。	中国の深圳発の世界企業を調べる。	4時間
第11回	**「メイド・イン・イタリー」の強み** イタリアの地域産業の活力について学ぶ。	ブルネロクチネリとその地域貢献について調べる。	4時間
第12回	**地域での連携事業の可能性** 地域と企業がコラボレーションして生み出せる新事業を考えてみる。	地域発の連携事業の事例を調べる。	4時間
第13回	**日本の伝統工芸産地企業の挑戦** 日本各地の伝統工芸産地企業の海外市場への挑戦の可能性と課題について学ぶ。	伝統工芸の零細企業でありながら海外挑戦の草分けとなった京都・日吉屋について調べる。	4時間
第14回	**日本中小企業の今後の展開を考える** クラウドファンディングやＤＸの活用、環境問題への対応など日本中小企業の新たな展開可能性について学ぶ。	「マクアケ」とそれによって飛躍した中小企業を調べる。	4時間

232

授業科目名	サービスマネジメント				
担当教員名	李美花				
学年・コース等	2・3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

サービス（service）とは、人のために力を尽くす・奉仕という意味を持つ。これが商売では顧客のためになされる種々の奉仕など多様な意味を持ち、広く使われている。
本講義では、まずサービスの本質及び特徴を理解してもらい、サービスをマネジメントするためにはいかなる手法があるのか様々な事例を通じて学習する。
なお、学術的理論や専門用語、概念は覚えているだけでは意味がない。使いこなしてこそ知的意義をもつ。授業外時間に設定した予習と復習課題に取り組むことで高い学習効果が期待できる。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	サービスマネジメントに係る実践事例を取り上げながら学習する	事例を通じてサービスの本質を学び、理論的な学習も並行する
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		オリジナル課題レポートを作成して発表する

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

サービスマネジメント論に関わる基礎知識と具体的な事例も交えながら講義による解説の進行にあわせ、ケーススタディーについて、受講者への問いかけやレポート課題を組み合わせて進めていく。

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
期末筆記テスト	45 %	： 授業内容をきちんと理解できているかの程度を評価
平常点	35 %	： 発言、質問（グーグルクラスルームによる質問や意見などの発言も含む）など、積極的な授業への参加は高く評価する。
期末レポート	20 %	： 自分の意見を論理的に述べているのか、簡潔に文章をまとめているのか、独自性があるのかより評価

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

【参考書】
近藤 隆雄（2007）『サービスマネジメント入門ーものづくりから価値づくりの視点へ』生産性出版（第3版）。
ISBN-10 ： 4820118773
ISBN-13 ： 978-4820118770

★授業のお知らせや課題などは、グーグルクラスルームを活用する予定である。詳細な事項は、第1回目の授業でも告知する。

履修上の注意・備考・メッセージ

★本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、毎回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
★必ず、毎回の授業の出席状況を各自確認すること
★授業のお知らせや課題などは、グーグルクラスルームを活用する。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日、4時限

場所： 研究室、西館2階

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス：自己紹介、講義の目標、授業スケジュール、成績評価** サービスの語源、サービス派生語、サービス産業について学習する	授業のまとめ、サービスとホスピタリティの違いについて調べる	4時間
第2回	**サービスとホスピタリティ、おもてなし** サービスとは？顧客に便宜性や肉体的・心理的な満足感を与えること。 ホスピタリティとは、語源は、ラテン語のhospics。その起源は、共同体外からの来訪者を歓待し宿舎や食事・衣類を提供する異人歓待という風習に遡る。共飲共食、宿舎・食事の提供、家族と接するように、表裏の無い心で見返りを求めない自然発生的な対応	授業のまとめ、サービス構成要素についてまとめる	4時間
第3回	**サービスの特徴と構成要素** サービスの特徴（モノとサービスの融合）、サービス構成要素（コア・サービス、サブ・サービス、コンティンジェント・サービス）、サービスの本質、利用コストについて学習する	授業のまとめ、顧客価値とは何かについて調べる	4時間
第4回	**顧客価値とリスクCase study#「LCC」** お客と顧客の違い、顧客価値の創造、顧客ロイヤリティの重要性について学習する。 Case study#「LCC」 Case Study#感動のサービスが客を呼ぶ「TSUTAYA、カシタレストラン」	授業のまとめ、サービス企業1社を選び、サービスマネジメントシステム分析を行う	4時間
第5回	**「サービス・マネジメント・システム」の5つの要素** 最適なサービス生産システムを設計する上で、どんな要素に注目し、どのようにそれらを組み立てたらよいかを教えてくれるフレームワーク「サービスマネジメントシステム」について学習する。 5つの要素：サービス・コンセプト・セグメンテーション・サービス・デリバリー・システム・イメージ（又はブランド）・組織理念と文化	授業のまとめ、顧客ロイヤリティとは何かについて調べる	4時間
第6回	**Case study#＆中間課題「良い・悪いサービス事例」** Case Study#「不便を便利に商機あり ～暮らしを変える新サービス～」 ：不便を便利にするサービスを提供し、我々の暮らしを変える新サービス事例として①「地方の人気スーパー：平和堂」、②「タクシーの意外なサービス：ANZENタクシー」、③「高齢者向けの婦人服：マダムトモコ」について学習する。 演習課題として、記憶に残る最高のサービスまたは、最悪のサービス体験、いずれ1つを取り上げなさい。 例）テンプレート通りに4コマ漫画(イメージなど）のように絵を描いたり、箇条書きで説明する。 このワークシートに手書きまたは、MSワードで作成して、PDFに変換してGoogle class roomに提出。	授業のまとめ、旅館のサービスとは何かについて調べる	4時間
第7回	**Case study#加賀屋** 『プロが選ぶ日本のホテル・旅館１００選』（主催：旅行新聞新社）で３３年連続の日本一に輝く石川県和倉温泉にある「加賀屋」のサービスマネジメントについて学習する	授業のまとめ、従業員教育とは何かについて調べる	4時間
第8回	**従業員教育** 人的資源（human assets）の重要性を理解し、なぜ従業員教育は重要なのか、その目的について学習する。	授業のまとめ、CRMとは何かについて調べる	4時間
第9回	**顧客関係管理（CRM）** 顧客関係管理（CRM：Customer Relationship Management）：顧客満足度を向上させるための顧客との関係を構築する手法について学習する。顧客階層、サービス品質、顧客の生涯価値、顧客満足、顧客ロイヤルティ	授業のまとめ、CRMの事例を一社取り上げてまとめる	4時間
第10回	**Case study#CRM事例「ラッキーピエロ」**	授業のまとめ、サービス場面においてのMOTとは何かについて調べる	4時間

	熱狂的ファンに愛される異色ハンバーガーチェーン「ラッキーピエロ」のリピーター重視の戦略を通じて顧客を育てることとは何かについて考察する		
第11回	**真実の瞬間と人の役割Case study#「中央タクシー＆コメダ珈琲店」** 顧客接点で顧客の抱く印象「決定的瞬間（Moment of Truth）」について学習する。 サービス・エンカウンターの設計と新しいMoment of Truth?ZMOTについて学習する。 Case Study#「中央タクシー＆コメダ珈琲店」：長野市民から圧倒的な支持を得るタクシー会社「中央タクシー」の地域密着型サービス事例と居心地のよい喫茶店「コメダ珈琲店」が儲かる理由、人気の理由について学習する。	授業のまとめ、シェアリングエコノミーとは何かについて調べる	4時間
第12回	**成功するシェアリングエコノミーサービス** シェアリング・エコノミーの概念とその事例を取り上げながら学習する。	授業のまとめ、メートル・ドテルについて調べる	4時間
第13回	**Case study#世界一のサービスマン「宮崎辰」「ノードストローム」** ＃世界一のサービスマンメートル・ドテル「宮崎辰」のサービス精神と、顧客にNoといわないことで知られているアメリカの百貨店「ノードストローム」のサービス事例について学習する。	授業のまとめ、AI、ロボット、AR、VRについて調べる	4時間
第14回	**サービス業におけるAI活用＆まとめ** サービス業におけるAI活用をテーマに、サービス分野におけるロボットの活用事例を学習する。 スマートフォンの普及と位置情報を正確に捕捉(ほそく)する技術の進展により、AR・VRを企業のプロモーションやキャンペーン、課題解決に活用しようとする様々な取組み事例が見られている。さらにサービス業におけるAI、ロボット技術の導入が増加しつつある	これまでの授業内容を振り返ってみる	4時間

232

授業科目名	食品安全マネジメント				
担当教員名	伴みずほ				
学年・コース等	2･3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

食ビジネスコース指定

授業概要

食品安全マネジメントでは、ヒトが口にする食品の安全と安心を、農場から食卓までのあらゆる場面において、確保するための管理方法を学びます。安全と安心は必ずしも一致しません。絶対に安全な（ゼロリスク）食品というものはないといって過言ではありませんが、可能な限り安全を求める必要があります。安全性を確保するのと同時に、その科学的根拠を十分に示し、消費者が安心感を持てるようにすることを可能にするための方法を学びます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	リスクマネジメント能力	食品を安全に流通させるための知識を身に付ける
汎用的な力		
1. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		多くの情報の中から必要な情報を選び出し、根拠資料（過去の事件記事や文献）を引用しながら論理的にまとめられるようになる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・その他(以下に概要を記述)

ゲストスピーカーとして企業人を招き、さまざまな現状や最新の情報について学び、加工食品の試食などの演習を行う。

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
レポート	20 %	： 日本で過去に発生した事故事例を調べ、原因についての分析および自分の考えを述べる事ができているかを評価します。
小テスト	30 %	： 授業内容の理解度を確認します。
定期試験	50 %	： 安全性が高く安心しできる食事の提供のための食品衛生の技術とその意義が理解できているかを評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
植木幸英　他著	・ サクセス管理栄養士・栄養士養成講座　食品衛生学	・ 第一出版	・ 2023　年

参考文献等

【参考書】実教出版編修部　生活学Navi 資料＋成分表　2024　ISBN　978-4-407-35736-3

【参考書】フードコーディネーター　3級教本『新・フードコーディネーター教本2024』柴田書店
ISBN　978-4-388-15454-8

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

・小テスト（7回）を行うため配布プリントと教科書をよく読み復習しておいてください。
・衛生関連のニュース、特に食中毒について関心を持ち情報収集をこころがけてください。
・『参考書』の該当するページをよく読み理解しておいてください。
・企業の方をお招きし現状や最新情報について学びます。
・ゲストスピーカーの都合等で授業の順番や内容を変更する場合があります。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜日5時間目

場所：　研究室（西館２階）

備考・注意事項：　質問はメールでも応じます。ban-m@osaka-seikei.ac.jp（タイトルには氏名、学籍番号を記入のこと）

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**健康と食品衛生** 健康の維持増進のために日々さまざまな飲食物を摂っている。またその行為は食べる喜びや楽しみを伴うものであり、安全性が高く安心して食べられるものでなくてはならない。ここでは食品衛生の概念について学ぶ。 具体的には、食品の安全性問題の対象食品として、輸入食品、遺伝子組み換え食品、放射線照射食品について、また、トレーサビリティー・FCP（フード・コミュニケーション・プロジェクト）・食品ロスについても学ぶ。 半期の後半には、ゲストスピーカー（企業の品質保証部）を招き、現場の食品安全マネジメントについて学ぶ。	安全・安心なたべものとはどういうものかを調べる。	4時間
第2回	**食品衛生行政** 戦前は有害化学物質の食品への悪質な添加などを犯罪として取り締まるものであったが、戦後は取締りよりも科学的な根拠に基づく、指導と監視に重点を移した現在の食品衛生行政が始まった。ここでは現代の食品の安全性確保のための考え方や、リスク管理のシステムを学ぶ。	保健所の業務について理解する。	4時間
第3回	**食品衛生関連法規** 食品衛生に関連した法令のうち、食品安全基本法、農業取締法や食品衛生法（および関連条例）など主要なものについて、それらの概要を学ぶ。	関連法令が制定されるに至った事例について確認する。	4時間
第4回	**食品と微生物** 微生物とは、肉眼では見ることが出来ない微小な背物の呼び名で、さまざまな種類が存在する。微生物は、ヒトの生活に有益な働きをするものと、病原菌や腐敗菌などのような、ヒトの生活に有害な働きをするものがある。それらの種類の特徴を知った上で、食品と微生物との関係を学ぶ。	微生物の増殖と環境条件について調べる。	4時間
第5回	**食品の変質とその防止** 食品がその保存中に、劣化により食品本来の性質を消失し、”食品の外観、内容、さらに官能的にも食用に適さなくなる現象”のことを食品の変質という。そのような食品の変質の見極め方やその防止方法について学ぶ。	食品が変質する過程において、食品中に含まれる、糖質・脂質・たんぱく質の変化の過程を調べる。	4時間
第6回	**食中毒１（微生物）** 一般に中毒とは、生理的に有害な物質が体内に入り、その科学的作用によって生理的異常を起こす現象をさすが、このうち、有害な物質が飲食物とともに経口的に摂取されて起こる中毒を特に食中毒という。過去の食中毒発生状況より、予防方法を考える。	過去2－3年の間で起こった食中毒の事例より1件を選び、原因菌、原因物質、発症経路を調べ、予防方法（対策）についてまとめる。	4時間
第7回	**食中毒２（ウイルス）** 食中毒１と同じ（一般に中毒とは、生理的に有害な物質が体内に入り、その科学的作用によって生理的異常を起こす現象をさすが、このうち、有害な物質が飲食物とともに経口的に摂取されて起こる中毒を特に食中毒という。過去の食中毒発生状況より、予防方法を考える。）	過去2－3年の間で起こった食中毒の事例より1件を選び、原因菌、原因物質、発症経路を調べ、予防方法（対策）についてまとめる。	4時間
第8回	**食品の媒介による感染症** 感染症の病原体である微生物や寄生虫が飲食物、手指、器具、昆虫などを介して経口的に人体に入り、体内に侵入して感染し、病気になることを経口感染という。このような飲食物の媒介による経口感染症の病原体は食品衛生法では食中毒病因物質として取り扱われている。ここでは病原体別に増殖と環境条件について学ぶ。	過去2－3年の間で起こった経口感染症の事例より1件を選び、原因菌、原因物質、発症経路を調べ、予防方法（対策）についてまとめる。	4時間
第9回	**食品・飲料水から感染する寄生虫** 寄生虫は、他の生物の犠牲により自己に有利な生活を営む動物である。寄生虫は、ヒトに感染してさまざまな影響を与えて健康被害を引き起こす。寄生虫症の現状を知りその予防方法を学ぶ。	過去2－3年の間で起こった寄生虫症の事例より1件を選び、原因菌、原因物質、発症経路を調べ、予防方法（対策）についてまとめる。	4時間

第10回	**食品中の汚染物質** 食品を汚染する物質には、カビ毒、有害化学物質、重金属、食品成分の変化による有害生成物質、混入異物がある。これらの発生事例より、どのような対策が危険性を避けるのかを考える。	これらの汚染物質には使用禁止になったものもあるが、避けようのないものもある。過去に起こった事例より1件を選び、今後の対策方法についてまとめる。	4時間
第11回	**食品添加物** 消費者は食品添加物に対し不信感を抱いているが、我が国の食生活が大きく変貌し多様な生活スタイルの存在には食品添加物が大きく寄与している背景がある。ここでは食品添加物のメリット・デメリットを学ぶ。	加工食品の中からジャンル別に３つを選び、それぞれの食品に含まれる食品添加物の特徴を調べ、考えられるメリット・デメリットについてまとめる。	4時間
第12回	**食品用の器具と容器包装** 戦後、高分子化学の発達により、新しい原材料による容器や包装が、食品の流通、保存に大きな役割をはたしている。しかし、中身である食材によっては、容器に使用されている材質の溶出が起こることがある。各種材質の特徴を知り、過去に起こった中毒の事例を学ぶ。	加工食品の中からジャンル別に３つを選び、それぞれの食品に使われている容器や包装の材質を調べ、その妥当性や危険性をまとめる。	4時間
第13回	**食品衛生管理の事例** 食品衛生管理の最も重要な目的は食中毒発生の防止である。食中毒の大部分は細菌性食中毒であり、飲食店では細菌性食中毒予防の３原則が重要なポイントとなる。ここでは食中毒の防止について学ぶ。また食品衛生管理の事例を学ぶ。	自身の台所で行っている衛生管理について列記し自己評価を行い、さらに追加すべき予防方法について提案する。	4時間
第14回	**ＧＡＰ・ＨＡＣＣＰによる食品衛生管理のプラン例** ＧＡＰとは農業において食品安全、環境保全、労働安全等の持続可能性を確保するための、関連する生産工程管理の取組である。取引先や消費者が直接確認できない生産工程における安全管理、持続可能性の取組を、第三者が審査して、証明することが消費者にどのような影響を与えるのかを理解する。 ＨＡＣＣＰ（ハサップ）とは我が国では一般に「危害分析重要管理点方式」と呼ばれている。プラン例をもとにＨＡＣＣＰプラン表作成の様式を知ることで、加工食品が製造過程でどのようなポイントを抑えるべきかを理解する。特に小規模飲食店を例にＨＡＣＣＰの考えに基づいた衛生管理を理解する。	調理実習で実習したメニューの内、1品を選び、その製造におけるＨＡＣＣＰプラン表を作成する。	4時間

232

授業科目名	外食・中食産業論				
担当教員名	髙畑能久				
学年・コース等	2･3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

食ビジネスコース指定

授業概要

この授業では、業界地図、主要企業の有価証券報告書などの最新情報や実際の入店調査に基づき、外食・中食産業の現状と課題について学びます。消費動向をはじめ、外食・中食市場におけるマーケティング、各業態（ファストフード、ファミリーレストラン、回転寿司、居酒屋、百貨店惣菜、集団給食、テイクアウト、デリバリーなど）の特徴や主要企業の戦略などを調査しながら、今後の環境変化に対応していくためフードチェーンの諸問題と解決策についても理解を深めます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	フードチェーンの諸問題を見出し、解決策についてディスカッションする。	外食・中食産業の現状と課題について、独自の見解がもてるレベルまで理解を深めます。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		外食・中食産業の各業態が抱えている課題を発見します。
2. DP８.他者とのコミュニケーション		ペアワークでは自らの主張を上手に伝え、相手の意見を引き出します。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業での発言量・質	30 %	： 発問に対する回答の量と質やペアワークと発表等に積極的に参加しているかどうかを評価します。
レポート課題	20 %	： 課題に対し、独自の見解をもち、それを具体的な例を示して読み手に分かりやすく論述できているかどうかを評価します。
定期試験	50 %	： 授業で学んだ知識に基づき、独自の見解を盛り込み解答ができているかどうかを評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

藤島廣二他『フード・マーケティング論』（筑波書房、2016年、ISBN978-4-8119-0482-5）
東洋経済新報社『会社四季報 業界地図2024年版』（日経BP、2022年、ISBN978-4-492-97333-2）
その他、必要に応じて紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外の学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習しておくこと。
日頃からテレビ、新聞、雑誌、Webサイト等を活用し、食ビジネスに関するニュースや最新情報の把握に努めてください。
※なお、連携先の都合に合わせて、授業の順番や内容を一部変更する場合がある。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜２限

場所： 髙畑研究室（西館２階）

備考・注意事項： 授業の前後以外で質問したい場合は、メールにて受け付けます（takahata@osaka-seikei.ac.jp）。件名には必ず、所属・学籍番号・氏名を明記してください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンスと人口減少社会における食品消費** 授業の進め方や評価方法などを説明した後、人口減少社会における食品消費の特徴を学びます。	興味がある外食店（惣菜店含む）について調べてください。	4時間
第2回	**外食産業①（ハンバーガー）** ハンバーガー業態の特徴、主要企業の戦略を比較しながらハンバーガー市場の今後の動向と課題を考察します。	マクドナルド、モスバーガーの公式サイトで経営戦略を調べてください。	4時間
第3回	**外食産業②（ファミリーレストラン・焼肉）** ゲストスピーカー（専門家）を招いて特別授業を開講します。 ファミリーレストラン・焼肉業態の特徴、主要企業の戦略を比較しながらファミリーレストラン・焼肉市場の今後の動向と課題について学びます。	すかいらーく、サイゼリア、デニーズおよび物語コーポレーションの公式サイトで経営戦略を調べてください。	4時間
第4回	**外食産業③（牛丼）** 牛丼業態の特徴、主要企業の戦略を比較しながら牛丼市場の今後の動向と課題を考察します。	すき家、吉野家、松屋の公式サイトで経営戦略を調べてください。	4時間
第5回	**外食産業④（麺類）** 麺類（うどん、ラーメン）業態の特徴、主要企業の戦略を比較しながら麺類市場の今後の動向と課題を考察します。	丸亀製麺、餃子の王将、日高屋、リンガーハットの公式サイトで経営戦略を調べてください。	4時間
第6回	**外食産業⑤（フライドチキン・ドーナツ）** フライドチキン・ドーナツ業態の特徴、主要企業の戦略を比較しながらフライドチキン・ドーナツ市場の今後の動向と課題を考察します。	日本ケンタッキーフライドチキン、ミスタードーナツの公式サイトで経営戦略を調べてください。	4時間
第7回	**外食産業⑥（回転寿司）** 回転寿司業態の特徴、主要企業の戦略を比較しながら回転寿司市場の今後の動向と課題を考察します。	あきんどスシロー、無添加くら寿司、はま寿司、かっぱ寿司の公式サイトで経営戦略を調べてください。	4時間
第8回	**外食産業⑦（居酒屋）** 居酒屋業態の特徴、主要企業の戦略を比較しながら居酒屋市場の今後の動向を考察します。	モンテローザ、庄や、ワタミ、磯丸水産の公式サイトで経営戦略を調べてください。	4時間
第9回	**外食産業⑧（集団給食）** 集団給食業態の特徴、主要企業の戦略を比較しながら集団給食市場の今後の動向と課題を考察します。	日清医療食品、エームサービス、グリーンハウスの公式サイトで経営戦略を調べてください。	4時間
第10回	**中食産業①（コンビニエンスストアの弁当・惣菜）** コンビニエンスストアの弁当・惣菜の特徴、主要企業の戦略を比較しながら中食市場の今後の動向と課題を考察します。	セブン-イレブン、ファミリーマート、ローソンの公式サイトで経営戦略を調べてください。	4時間
第11回	**中食産業②（百貨店の地下惣菜）** 百貨店惣菜の特徴、主要企業の戦略を比較しながら高級中食市場の今後の動向と課題を考察します。	ロック・フィールド、柿安本店の公式サイトで経営戦略を調べてください。	4時間
第12回	**中食産業③（テイクアウト・デリバリー）** ゲストスピーカー（専門家）を招いて特別授業を開講します。 テイクアウト・デリバリー（代行含む）の特徴、主要企業の戦略を比較しながらテイクアウト・デリバリー市場の今後の動向と課題について学びます。	プレナス、ドミノ・ピザ、出前館、Uber Eatsの公式サイトで経営戦略を調べてください。	4時間
第13回	**グループワーク、レポート作成** 「30年後の外食・中食産業に消費者が求めるものとは？」と題して、フードチェーンの諸問題と解決策についてグループワークを行い、各自でレポートを作成します。	次回の授業までにレポートを作成してください。	4時間

第14回	**授業の振り返り・将来の展望** これまでの授業で学んだことを振り返り、理解を深めます。また、外食・中食産業の業態別動向と将来の展望についても考えます。	定期試験は持込不可とし、試験期間中に行います。この授業で学んだことを振り返り、復習しておいてください。	4時間

232

授業科目名	食ビジネス経営論				
担当教員名	山岡正弘				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	約30年ホテル料飲部門で開業業務勤務、退職後フードビジネスコンサルティングオフィス代表として実務を経験。（全14回）				

食ビジネスコース指定

授業概要

飲食店プロデューサーとしての専門知識を習得させる。食ビジネス経営の本質についてとフードサービス業の特性と市場動向、外食産業におけるマーケティング、飲食店の出店戦略、柱となる「顧客管理」「店舗運営」「従業員教育」「利益の管理」「人件費管理」「原価管理」「販売促進」「メニュー改定」「店舗リニューアル」を習得し、日本フードコーディネーター協会認定試験2級合格レベルを目指し、次の「食のビジネス経営実践」に繋げる。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	食ビジネス経営に関する知識を学び、理解を深める。	食ビジネス経営論を活用し、的確な創造力と判断力ができる。
2. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	損益計算書の作成やメニューの作成などに取り組むことで店舗経営を理解する。	習得した知識・技能を実践の中で応用することができる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		理論的に課題発見ができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
期末試験（筆記）	60 %	： 食ビジネス経営に関する専門学力の習熟度を筆記試験で実施します。
小テスト（授業内）	40 %	： 授業期間中に振り返りテストを実施し、理解度の評価をする。未提出者は減点とする。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

【参考文献】
新フードコーディネーター教本　3級資格認定試験対応テキスト2022年版
日本フードコーディネーター協、柴田書店
ISBN-10:4388154512、ISBN-13:978-4388154517
フードコーディネーター教本　2級資格認定試験対応テキスト
日本フードコーディネーター協会、株式会社三恵社

ISBN-10:4866936347、ISBN-13:978-4866936345

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 教室

備考・注意事項： 質問は授業の前後にも答えるが、メールでも対応する。
メールアドレス：ppp-yamaoka@ares.eonet.ne.jp
メールには必ず氏名と所属を書くこと。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**顧客満足～飲食店の顧客満足要素とは～　(1) 新規客と固定客** 経営の本質についてと新規客と固定客について解説。	新規客と固定客の特性について調べる	4時間
第2回	**顧客満足～飲食店の顧客満足要素とは～　(2) 分析手法** 飲食店の顧客満足要素、アンケート調査と活用法、来店動機と店舗コンセプトについて解説。	飲食店と小売店の満足要素の違いについて調べる	4時間
第3回	**店舗運営～飲食店のQSCとは～** QSC、店舗の快適性、QSCの評価方法について解説。	日本におけるQSCの歴史について調べる	4時間
第4回	**従業員教育～やる気を起こす教育とは～　(1) サービスの重要性** サービスの重要性、マニュアルの目的について解説。	マクドナルドの従業員教育につてHPで調べる	4時間
第5回	**従業員教育～やる気を起こす教育とは～　(2) 評価とモチベーション** 従業員教育の心得、評価とモチベーションについて解説。	リッツカールトン大阪のクレドについて調べる	4時間
第6回	**利益の管理～損益計算書の作成とは～　(1) 演習** 損益計算書の理解と損益計算書の演習。	勘定科目について調べる	4時間
第7回	**利益の管理～損益計算書の作成とは～　(2) 応用** 利益に影響する3大要素、損益分岐点、損益分岐点計算の応用問題。	2020年度外食産業における売上ランクベスト10について調べる	4時間
第8回	**人件費管理～利益を生む適正人件費率とは～　(1) 人件費の算出方法** 人件費の算出方法、適正人件費率とFL比率について解説。	ファミリーレストラン＆ファーストフードにおける人件費率を調べる	4時間
第9回	**人件費管理～利益を生む適正人件費率とは～　(2) 売上高予算と労働時間予算** 人時売上高、労働時間計画とシフト表、売上高予算と労働時間予算の作成	ファミリーレストラン＆ファーストフードにおける人時売上高を調べる	4時間
第10回	**原価管理～戦略的な原価設定とは～　(1) 適正原価率** 原価の算出方法、棚卸し、適正原価率について解説。	ファミリーレストラン＆ファーストフードにおける原価率について調べる	4時間
第11回	**原価管理～戦略的な原価設定とは～　(2) 異常値に対する対策** 異常値に対する対策、原価表の演習。	原価計算の仕組みを調べる	4時間
第12回	**販売促進～利用客の購買行動を知るとは～** 消費者の購買行動、販売促進の目的と計画立案、告知方法とツール、顧客管理の重要性について解説。	市場における販売促進のトレンドを調べる	4時間
第13回	**メニュー改定～売上アップを狙うには～** メニュー改定の目的、メニュー改定の検討項目、メニュー改定後のチェック項目、メニュー改定のシステムづくりについて解説。	HPなどで外食産業のメニューを調べる	4時間
第14回	**店舗リニューアル～改装計画の立て方とは～** リニューアルの目的、コンセプトの修正、改装場所と効果、リニューアルの優先度について解説。 第1回～第14回までの学修要素を用いて、経営及び経営分析の基礎を解説。	ファミリーレストラン＆ファーストフードの店舗リニュアルのサイクルを調べる	4時間

232

授業科目名	食ビジネス経営実践				
担当教員名	山岡正弘				
学年・コース等	2・3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	約30年ホテル料飲部門で開業業務勤務、退職後フードビジネスコンサルティングオフィス代表として実務を経験。（全14回）				

食ビジネスコース指定

授業概要

グループワーク又は個人による、繁盛店の分析調査から繁盛店のポイントを分析し新店舗開発に繋げます。次にグループワーク又は個人による店舗開業計画立案を実施します。業種・業態、基本コンセプト、顧客コンセプト、店舗コンセプト、主な利用動機、メニューコンセプト、サービスコンセプト、立地・商圏調査及び競合店調査、メニュー設計、原価表、厨房設計、サービスマニュアル、所要資金、収入計画、資金調達、返済計画、損益計算書等の企画立案書の作成を行い、プレゼンテーションによる発表を行います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	新店舗開発に必要な基礎専門知識の実践活用	新店舗の創業企画書を作成する

汎用的な力	
1. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案	習得した知識・技能を実践の中で応用することができる
2. DP８.他者とのコミュニケーション	グループワークでの問題解決

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
最終課題提出（個人・グループ）	70 %	：	新店舗開業計画書の提出での内容評価をする
テーマ別課題提出（個人・グループ）	30 %	：	テーマ毎で内容評価する

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年

日本フードコーディネーター協会	・新・フードコーディネーター教本（2級資 格認定試験対応テキスト）	・三恵社	・2022 年

参考文献等

フードコーディネーター教本3級資格認定試験対応テキスト　日本フードコーディネーター協会 柴田書店

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

備考・注意事項： 質問は授業の前後にも答えるが、メールでも対応する。
メールアドレス：ppp-yamaoka@ares.eonet.ne.jp
メールには必ず氏名と所属を書くこと。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**事業計画書の作成方法ガイド（1）～企画書の基本～** 飲食店事業計画書の作成方法ガイダンス 企画書の基本 （1）企画のテーマを明確にします。 （2）企画を立てる為に必要な社会や市場の調査 （3）課題の抽出 （4）問題解決の為の方策を考えます。 （5）企画の流れを組み立てます。 （6）シンプルに仕上げる。 グループ・個人でのワークとする。	2022年度の外食産業での営業利益、経常利益、経常利益率ベスト10会社を調べておく。	4時間
第2回	**事業計画書の作成方法ガイド（2）～企画書の書き方～** 企画書の書き方 （1）企画書の企画の目次を作成する。 （2）企画のテーマを決定する。 （3）課題の抽出 （4）課題解決する為の方法論の模索。 （5）企画のコンセプトを策定する。 （6）企画の内容を図表・チャートで解説する。 （7）企画の問題点と効果を展開する。 （8）企画に対する予算とそのスケジュールの明確化。 （9）企画に必要な基礎資料を作成する。 （10）プレゼンテーション方法を考える。 業種・業態と特徴と主な利用動機についての考え方の解説。繁盛店のリサーチについて解説。	個人・グループ課題「繁盛店リサーチ」	4時間
第3回	**飲食店プロデュース実践　コンセプトの立案～「業種・業態」～** グループ課題「繁盛店リサーチ」のプレゼンテーション。 個別課題は提出し、講師がフィードバックする。 「業種・業態についての基本的な考え方」の解説。 グループワークで「業種・業態の基本的な考え方」をまとめる。 課題「業種・業態の基本的な考え方」について個人でまとめる。	個人・グループ課題「業種・業態」を明確にしておく。	4時間
第4回	**飲食店プロデュース実践　コンセプトの立案～「基本コンセプト、店名」～** グループ課題「業種・業態についての基本的な考え方」のプレゼンテーション。 個別課題は提出し、講師がフィードバックする。 「基本コンセプトと店名についての基本的な考え方」の解説。 グループワークで「基本コンセプトと店名の基本的な考え方」をまとめる。 課題「基本コンセプトと店名の基本的な考え方」について個人でまとめる。	個人・グループ課題「基本コンセプト、店名」を明確にしておく。	4時間
第5回	**飲食店プロデュース実践　コンセプトの立案～「顧客コンセプト、利用動機」～** グループ課題「基本コンセプトと店名の基本的な考え方」のプレゼンテーション。 個別課題は提出し、講師がフィードバックする。 顧客コンセプト、利用動機についての考え方の解説。 グループワークで「顧客コンセプト、利用動機の基本的な考え方」をまとめる。 課題「顧客コンセプト、利用動機の基本的な考え方」について個人でまとめる。	個人・グループ課題「顧客コンセプト、利用動機」を明確にしておく。	4時間
第6回	**飲食店プロデュース実践　コンセプトの立案～「商品コンセプト」～** グループ課題「顧客コンセプト、利用動機の基本的な考え方」のプレゼンテーション。 個別課題は提出し、講師がフィードバックする。 「商品コンセプトについての基本的な考え方」の解説。 グループワークで「商品コンセプトについての基本的な考え方」をまとめる。 課題「商品コンセプトについての基本的な考え方」について個人でまとめる。	個人・グループ課題「商品コンセプト」を明確にしておく。	4時間
第7回	**グループによるプレゼンテーションの実施（業種・業態～顧客コンセプト、利用動機）（1）**	グループによるプレゼンテーション資料（パワーポイント）を作成しておく。	4時間

	グループ課題「業種・業態～顧客コンセプト・利用動機」までをパワーポイントを使ってのプレゼンテーション。他のグループにコメントを求める。 個別課題はパワーポイントデータで提出し、講師がフィードバックする。		
第8回	**グループによるプレゼンテーションの実施（業種・業態～顧客コンセプト、利用動機）（2）** グループ課題「業種・業態～顧客コンセプト・利用動機」までをパワーポイントを使ってのプレゼンテーション。他のグループにコメントを求める。 個別課題はパワーポイントデータで提出し、講師がフィードバックする。 グループ課題「商品コンセプトについての基本的な考え方」のプレゼンテーション。 個別課題は提出し、講師がフィードバックする。	グループによるプレゼンテーションの実施（業種・業態～顧客コンセプト、利用動機）	4時間
第9回	**飲食店プロデュース実践　コンセプトの立案～「サービスコンセプト」～** グループ課題「商品コンセプトについての基本的な考え方」のプレゼンテーション。 個別課題は提出し、講師がフィードバックする。 「サービスコンセプトについての基本的な考え方」の解説。 グループワークで「サービスコンセプトについての基本的な考え方」をまとめる。 課題「サービスコンセプトについての基本的な考え方」について個人でまとめる。	グループ・個人課題「サービスコンセプト」を明確にしておく。	4時間
第10回	**飲食店プロデュース実践　コンセプトの立案～「店舗コンセプト」～** グループ課題「サービスコンセプトについての基本的な考え方」のプレゼンテーション。 個別課題は提出し、講師がフィードバックする。 「店舗コンセプトについての基本的な考え方」の解説。 グループワークで「店舗コンセプトについての基本的な考え方」をまとめる。 課題「店舗コンセプトについての基本的な考え方」について個人でまとめる。	グループ・個人課題「店舗コンセプト」を明確にしておく。	4時間
第11回	**飲食店プロデュース実践　～「立地と出店の為の商圏調査」～** グループ課題「店舗コンセプトについての基本的な考え方」のプレゼンテーション。 個別課題は提出し、講師がフィードバックする。 「立地と出店の為の商圏調査についての基本的な考え方」の解説。 グループワークで「提案店舗の場所・物件」をまとめる。 課題「提案店舗の場所・物件」について個人でまとめる。	グループ・個人課題「提案店舗の場所・物件」を明確にしておく。	4時間
第12回	**飲食店プロデュース実践　～「商品コンセプトに沿った品揃えと価格設定」～** グループ課題「提案店舗の場所・物件」のプレゼンテーション。 個別課題は提出し、講師がフィードバックする。 「メニュー設計～コンセプトに沿った品揃えと価格設定」の解説。 グループワークで「メニュー設計～コンセプトに沿った品揃えと価格設定」をまとめる。 課題「メニュー設計～コンセプトに沿った品揃えと価格設定」について個人でまとめる。	グループ・個人課題「メニュー設計によるコンセプトに沿った品揃えと価格設定」を明確にしておく。	4時間
第13回	**飲食店プロデュース実践　事業計画書の作成演習「事業計画書を仕上げる」** グループ課題「メニュー設計～コンセプトに沿った品揃えと価格設定」までをパワーポイントを使ってのプレゼンテーション。他のグループにコメントを求める。個別課題はパワーポイントデータで提出し、講師がフィードバックする。 グループ課題「商品コンセプトについての基本的な考え方」のプレゼンテーション。 個別課題は提出し、講師がフィードバックする。 「収入計画についての基本的な考え方」の解説。 グループワークで「収入計画についての基本的な考え方」をまとめる。 課題「収入計画についての基本的な考え方」について個人でまとめる。	グループ・個人課題「収入計画」を明確にする。	4時間
第14回	**飲食店プロデュース実践　グループによる事業計画書のプレゼンテーション** グループ課題「メニュー設計～コンセプトに沿った品揃えと価格設定」までをパワーポイントを使ってのプレゼンテーション。他のグループにコメントを求める。個別課題はパワーポイントデータで提出し、講師がフィードバックする。 グループ課題「商品コンセプトについての基本的な考え方」のプレゼンテーション。 個別課題は提出し、講師がフィードバックする。 「収入計画についての基本的な考え方」の解説。 グループワークで「収入計画についての基本的な考え方」をまとめる。 課題「収入計画についての基本的な考え方」について個人でまとめる。 自浄計画書を指定期日までに仕上げて提出する。提出方法はデータまたは紙ベースとする。	個人課題を仕上げる	4時間

232

授業科目名	**調理学実習Ⅰ**				
担当教員名	吉田誠				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	シェフ（全14回）				

食ビジネスコース指定

授業概要

調理学実習Ⅰは料理の基本から知識および技術を学ぶ授業です。フードサービス店の企画・運営・経営に役立つ力を身に付けます。初めて包丁を持つ場合を想定し、現場で経験のあるシェフ（教員）が、全ての調理器具の安全で衛生的な扱い方を、丁寧に指導します。食品材料の下処理、切り方、基本加熱調理、味付け、盛り付けまで、一連の調理作業を行うことで、実践の場にに即した技術を身に付けます。料理に興味を持ち、作る喜び、作る楽しさを感じながらも調理工程全般をとおして衛生的な配慮を確実に行う方法も学びます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	基本の料理を一連の調理作業を通じて仕上げることで、商品開発（メニュープラン）を行う際の知識や技術、フードサービス店の運営や衛生管理が理解できる	学んだ知識・技術を正確に把握・実践しようとする力を身に付ける

汎用的な力	
1. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み	学んだ知識・技術を主体的に実行・実践できる
2. DP９.他者との協調・協働	チームワークを大切にし和を持って物事をやり遂げる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
実技テスト	40 %	：	課題メニューを時間内に作り上げ、5項目（衛生、下処理、加熱作業、盛り付け、味）について評価する。
毎回のレポート（調理実習ノート）	35 %	：	講義内容が理解出来ているか、調理手順が理解出来ているか、調理作業の効率化や調理理論が理解出来ているか、完成品のイラストがカラーで描けているか、の全てを評価する。
授業態度	25 %	：	積極的に取り組もうとする主体性や自分の役割を理解し協働しようとするする態度があったかを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

参考文献については開講時にそのテーマに沿って、都度紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回２時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 実習後30分間

場所： 346教室および準備室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**包丁の扱い方　切る　むく（切り揃える　むき揃える）（講習・実習）** ・包丁の種類とその用途について ・包丁の持ち方、握り方、その姿勢について ・玉ネギのみじん切り、キャベツの千切り、トマトのスライス⇒サラダに応用（試食あり） ・じゃがいものシャトーむき⇒フレンチフライポテトに応用（試食あり） 以上の内容を模範指導（教壇にて模範実技⇒試食） 授業のレポートを簡潔にまとめ、次回提出	授業のレポートを簡潔にまとめ、後日提出。	1時間
第2回	**火の扱い方（焼く・茹でる）** ・野菜の茹で方（ブロッコリー） ・ゆで卵の基本 ・目玉焼きの基本（付け合わせにベーコンも焼く） ・パン 以上の内容を模範指導（教壇にて模範実技⇒試食） 授業のレポートを簡潔にまとめ、次回提出	授業のレポートを簡潔にまとめ、後日提出。	1時間
第3回	**美味しい炊飯と美味しい出汁のとり方（講習）** ・一番出汁、二番出汁のとり方⇒「旬の食材を使った吸い物」へ応用（試食あり） ・他の出汁について ・炊飯（研ぎ方、浸水、水加減、炊飯、蒸らし）について ・ご飯のおかずとして「豚肉とこんにゃくの味噌炒め」 以上の内容を模範指導（教壇にて模範実技⇒試食） 授業のレポートを簡潔にまとめ、次回提出。	授業のレポートを簡潔にまとめ、後日提出。	1時間
第4回	**美味しい炊飯と美味しい出汁のとり方（実習）** 第3回の内容を学生が実習する。教員は実習巡回し実意・親切・丁寧に指導。 反省点、課題点を的確に指導。 授業のレポートを簡潔にまとめ、後日提出。	授業のレポートを簡潔にまとめ、後日提出。料理デッサンはカラーで描くこと。	1時間
第5回	**人気洋食の基本と応用（講習）** ・ハンバーグ ・コールスロー ・ボイルブロッコリー ・ブラウンソース ・パン 以上のメニューを模範指導（教壇にて模範実技⇒試食） 授業のレポートを簡潔にまとめ、次回提出。	授業のレポートを簡潔にまとめ、後日提出。	1時間
第6回	**人気洋食の基本と応用（実習）** 第5回のメニューを学生が実習する。教員は実習巡回し実意・親切・丁寧に指導。 反省点、課題点を的確に指導。 授業のレポート簡潔にまとめ、次回提出。	授業のレポートを簡潔にまとめ、後日提出。料理デッサンはカラーで描くこと。	1時間
第7回	**すぐ作りたい基本の和食（講習）** ・出し巻き卵 ・基本の肉じゃが ・あさりの味噌汁 ・どら焼き ・土鍋ご飯（土鍋の取り扱いと炊飯） 以上の献立を模範指導（教壇にて模範実技⇒試食） 授業のレポートを簡潔にまとめ、次回提出。	授業のレポートを簡潔にまとめ、後日提出。	1時間
第8回	**すぐ作りたい基本の和食（実習）** メニューを学生が実習する。教員は実習巡回し実意・親切・丁寧に指導。 反省点、課題点を的確に指導。 授業のレポート簡潔にまとめ、次回提出。	授業のレポートを簡潔にまとめ、後日提出。料理デッサンはカラーで描くこと。	1時間
第9回	**世界三大料理の中国料理に学ぶ（講習）** ・辣黄瓜（胡瓜のラー油漬け） ・蕃茄蛋花湯（トマト入りかき玉スープ） ・家常茄子（なすと挽肉の味噌炒め） ・ご飯 ・自家製辣油 以上のメニューを模範指導（模範実技⇒試食）	授業のレポートを簡潔にまとめ、後日提出。	1時間
第10回	**世界三大料理の中国料理に学ぶ（実習）**	授業のレポートを簡潔にまとめ、後日提出。料理デッサンはカラーで描くこと。	1時間

	メニューを学生が実習する。教員は実習巡回し実意・親切・丁寧に指導。 反省点、課題点を的確に指導。 授業のレポート簡潔にまとめ、次回提出。		
第11回	**覚えておきたい、基本のイタリア料理（講習）** ・コーンポタージュ ・ミートソーススパゲティ ・ティラミス ・パン 以上のメニューを模範指導（教壇にて模範実技⇒試食）	授業のレポートを簡潔にまとめ、後日提出。	1時間
第12回	**覚えておきたい、基本のイタリア料理（実習）** メニューを学生が実習する。教員は実習巡回し実意・親切・丁寧に指導。 反省点、課題点を的確に指導。 授業のレポート簡潔にまとめ、次回提出。	授業のレポートを簡潔にまとめ、後日提出。料理デッサンはカラーで描くこと。	1時間
第13回	**調理学実習Ｉの総括（講義）** 調理学実習Ｉの履修メニューの復習と応用編を講義として総括する。日本料理・西洋料理・中国料理の現状とこれからの方向性を解りやすく講義する。	授業のレポートを簡潔にまとめ、後日提出。	1時間
第14回	**調理学実習Ｉ総括料理制作試験（実技）** 調理学実習Ｉの履修メニューの復習と応用編を講義として総括する。日本料理・西洋料理・中国料理の現状とこれからの方向性を解りやすく講義する。 調理学実習Ｉの履修メニューの中から、日本料理、西洋料理、中国料理各１品ずつ、計３品の料理製作試験を実施する。班単位の試験とする。衛生面、下処理作業面、加熱作業面、盛り付け作業面、味を総合的に評価をする。	授業のレポートを簡潔にまとめ、後日提出。料理デッサンはカラーで描くこと。	1時間
	調理学実習Ｉの履修メニューの復習と応用編を講義として総括する。日本料理・西洋料理・中国料理の現状とこれからの方向性を解りやすく講義する。 調理学実習Ｉの履修メニューの中から、日本料理、西洋料理、中国料理各１品ずつ、計３品の料理製作試験を実施する。班単位の試験とする。衛生面、下処理作業面、加熱作業面、盛り付け作業面、味を総合的に評価をする。		

232

授業科目名	**調理学実習Ⅱ**				
担当教員名	吉田誠				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	シェフ（14回）				

食ビジネスコース指定

授業概要

前期”調理学実習１”で履修した基本編を、応用・活用した実践編が”調理学実習２”です。少し深く、広く、世界各国の料理を学ぶ内容となっています。料理に対する興味を広げ、作る喜びを、作る楽しさを感じながらも、調理工程全般をとおして衛生的な配慮を確実に行う方法を学ぶことで、オペレーション構築能力も高められます。美味しい料理を作る事を目標に、仕上げ作業まで積極的に取り組むことで、飲食店経営に役立つメニュー開発力が身に付きます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	基本の料理を一連の調理作業を通じて仕上げることで、商品開発（メニュープラン）を行う際の知識や技術、フードサービス店の運営や衛生管理が理解できる	学んだ知識・技術を正確に把握・実践しようとする力を身に付ける

汎用的な力	
1. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み	学んだ知識・技術を主体的に実行・実践できる
2. DP９.他者との協調・協働	チームワークを大切にし和を持って物事をやり遂げる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
実技テスト	40 %	： 課題メニューを時間内に作り上げ、5項目（衛生、下処理、加熱作業、盛り付け、味）について評価する。
毎回のレポート（調理実習ノート）	35 %	： 講義内容が理解出来ているか、調理手順が理解出来ているか、調理作業の効率化や調理理論が理解出来ているか、完成品のイラストがカラーで描けているか、の全てを評価する。
授業態度	25 %	： 積極的に取り組もうとする主体性や自分の役割を理解し協働しようとするする態度があったかを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

参考文献については開講時にそのテーマに沿って、都度紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回２時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 実習後30分間

場所： 346教室および準備室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**基本技術による秋の日本料理（講習）** ・秋刀魚のかば焼き ・南瓜の炊いたん ・焼き茄子の赤だし ・土鍋ご飯 以上の献立を模範指導（教壇にて模範実技⇒試食）	授業のレポートを簡潔にまとめ、後日提出。	1時間
第2回	**基本技術による秋の日本料理（実習）** ・秋刀魚のかば焼き ・南瓜の炊いたん ・焼き茄子の赤だし ・土鍋ご飯 教員は実習巡回し課題点を的確に指導。	授業のレポートを簡潔にまとめ、後日提出。料理デッサンはカラーで描くこと。	1時間
第3回	**これからも伝えて行きたい、温かい日本料理（講習）** ・のっぺい汁（汁物） ・豚肉と大根の煮物（煮物） ・揚げ出し豆腐（揚げ物） ・どら焼き ・土鍋ご飯 以上の献立を模範指導（教壇にて模範実技⇒試食）	授業のレポートを簡潔にまとめ、後日提出。	1時間
第4回	**これからも伝えて行きたい、温かい日本料理（実習）** ・のっぺい汁（汁物） ・豚肉と大根の煮物（煮物） ・揚げ出し豆腐（揚げ物） ・どら焼き ・土鍋ご飯 以上の献立を模範指導（教壇にて模範実技⇒試食）	授業のレポートを簡潔にまとめ、後日提出。料理デッサンはカラーで描くこと。	1時間
第5回	**基本技術による人気の中国料理(講習)** ・腰果肉丁（豚肉とカシューナッツの炒め物） ・乳汁白菜（貝柱と白菜のクリーム煮） ・酸辣湯（酸味・辛味のスープ） ・マンゴープリン 以上のメニューを模範指導（教壇にて模範実技⇒試食）	授業のレポートを簡潔にまとめ、後日提出。	1時間
第6回	**基本技術による人気の中国料理（実習）** ・腰果肉丁（豚肉とカシューナッツの炒め物） ・乳汁白菜（貝柱と白菜のクリーム煮） ・酸辣湯（酸味・辛味のスープ） ・マンゴープリン 教員は実習巡回し課題点を的確に指導。	授業のレポートを簡潔にまとめ、後日提出。料理デッサンはカラーで描くこと。	1時間
第7回	**いつまでも覚えておきたい、伝統の西洋料理（講習）** ・じゃがいももポタージュスープ ・豚ロースのコートレット ・サラダ・ニソワーズ ・パン 以上のメニューを模範指導（教壇にて模範実技⇒試食）	授業のレポートを簡潔にまとめ、後日提出。	1時間
第8回	**いつまでも覚えておきたい、伝統の西洋料理（実習）** ・じゃがいももポタージュスープ ・豚ロースのコートレット ・サラダ・ニソワーズ ・パン 教員は実習巡回し課題点を的確に指導。	授業のレポートを簡潔にまとめ、後日提出。料理デッサンはカラーで描くこと。	1時間
第9回	**旬の野菜もしっかり摂れる和食（講習）** ・鶏団子のスープ ・白身魚の酒蒸し ・キノコの生姜きんぴら ・牛乳羹 以上のメニューを模範指導（教壇にて模範実技⇒試食）	授業のレポートを簡潔にまとめ、後日提出。	1時間
第10回	**旬の野菜もしっかり摂れる和食（実習）** ・鶏団子のスープ ・白身魚の酒蒸し ・キノコの生姜きんぴら ・牛乳羹 教員は実習巡回し課題点を的確に指導。	授業のレポートを簡潔にまとめ、後日提出。料理デッサンはカラーで描くこと。	1時間
第11回	**魅惑のクリスマスメニュー（講習）**	授業のレポートを簡潔にまとめ、後日提出。	1時間

	・オニオングラタンスープ ・骨付きもも肉のカチャトゥーラ風 ・サンタスイーツプレート ・パン 以上のメニューを模範指導（教壇にて模範実技⇒試食）		
第12回	**魅惑のクリスマスメニュー（実習）** ・オニオングラタンスープ ・骨付きもも肉のカチャトゥーラ風 ・サンタスイーツプレート ・パン 教員は実習巡回し課題点を的確に指導。	授業のレポートを簡潔にまとめ、後日提出。料理デッサンはカラーで描くこと。	1時間
第13回	**調理学実習Ⅱの総括（講義）** 調理学実習Ⅱの総括をする。日本料理、西洋料理、中国料理、アジアン料理の概論。料理の大切さ、楽しさ、面白さを実例に基づいて講義。	授業のレポートを簡潔にまとめ、後日提出。	1時間
第14回	**調理学実習Ⅱ総括料理制作試験（実技）** 調理学実習Ⅱの総括をする。日本料理、西洋料理、中国料理、アジアン料理の概論。料理の大切さ、楽しさ、面白さを実例に基づいて講義。 調理学実習Ⅱの履修メニューの中から、料理製作試験を実施する。班単位の試験とする。衛生面、下処理作業面、加熱作業面、盛り付け作業面、味を総合的に評価をする。	授業のレポートを簡潔にまとめ、後日提出。料理デッサンはカラーで描くこと。	1時間
	調理学実習Ⅱの総括をする。日本料理、西洋料理、中国料理、アジアン料理の概論。料理の大切さ、楽しさ、面白さを実例に基づいて講義。 調理学実習Ⅱの履修メニューの中から、料理製作試験を実施する。班単位の試験とする。衛生面、下処理作業面、加熱作業面、盛り付け作業面、味を総合的に評価をする。		

232

授業科目名	テーブルコーディネート実習Ⅰ				
担当教員名	土田彩華				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	食空間コーディネート協会認定講師。大阪・東京にてコーディネーター養成講座を開催。企業研修、デパート催事の講師も行う。大手インテリアメーカー、百貨店、商業施設のディスプレイも手掛け、その他イベント企画やコンテストの開催も行っている。（全14回）				

食ビジネスコース指定

授業概要

コーディネートに必要な基礎知識の器・装飾アイテムの知識、セッティング、色彩学、ライティングテクニックなどを学び、快適な食空間演出方法を考えます。また海外の食文化と日本食文化の、行事・スタイル・マナーの違いも学び、それら行事に合わせたコーディネート実習を通し文化の違いの理解を深め、表現スキルを磨きます。食卓は、美しいテーブルを作ること以外に、皆で楽しく食事をする場であること、そして常に相手がいることを心に留め、いかに心豊かな時を過ごせるかを、演習１と２を通し考えていきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	食空間コーディネート企画・表現力	理論とコーディネートに必要な組み立て力をつける
2. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	カラーワークの作成、テーブルコーディネートの基礎から応用までの実施	実技を通し、コーディネートに必要な技術、スタイリングを身につける
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		自ら課題、テーマを発見する力をつける
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		コンセプトある企画力、コーディネートの組立て力をつける
3. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		企画表現能力を付ける。グループ課題ではコミュニケーション能力、協調性、積極性をつける

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
試験	50 %	： 食空間コーディネートに必要な知識と実習を理解できたか評価する。
提出物	40 %	： テーブルコーディネート企画実習に際し、所定のプリントでの企画力と内容分析力、情報収集力を評価する。
受講状況<積極的参加・マナー>	10 %	： グループワークへ積極的に取り組もうとする主体性や、自分の役割を理解し、協働しようとする態度があったかを評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
フードコーディネーター協会編	・ 新フードコーディネーター3級試験対応テキスト	・ 柴田書店	・ 2022　年

参考文献等

NPO法人食空間コーディネート協会：TALK食空間コーディネートテキスト3級、株式会社優しい食卓
ISBN-10:4901359479、ISBN-13:978-4901359474
（公社）日本フードスペシャリスト協会：三訂フードコーディネート論、株式会社建帛社
ISBN:978-4-7679-0440-5

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
毎回授業で学んだ内容のポイントを、プリントや教科書の指定されたページを読むことで復習し、「授業外学修課題」の実習企画プリントを丁寧に仕上げること。
常にショップやインテリアショールーム、レストランなどでの演出方法のテクニックを観察し分析をする。また雑誌・広告・ニュース情報にも注意を向けトレンド情報にも関心を持ち、コーディネートに反映させれるように分析をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業前後

場所： 実習室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**フードビジネス論と食空間コーディネート概論** フード業界でのコーディネーターの役割、仕事内容・範囲、業界の現状とビジネスに求められる資質を考える。 食空間コーディネート論：「おいしい」とは何か、おいしいを演出する「食空間コーディネート」について考える。食空間の基本、8つの要素を通し理解し、コーディネートの企画に必要な「三間・３K・三風」の意味と重要性を理解する。	教本P194～197,266～280を読み復習をする。「食空間コーディネーターの仕事について」レポート調べる	1時間
第2回	**食空間の構成～洋食・洋食器について～　基本セッティング実習** グループ実習にて、洋食の基本セッティングを作り、テーブルトップの構成を理解する。 食空間構成の基本的な考え「三間・3K・三風」でコーディネートコンセプトを考え、実習をした内容の企画シートを作成する。	配布プリントと教本P202～205, 218～224を読み食空間とコーディネート構成方法について復習する。	1時間
第3回	**コーディネートアイテム～洋食器～** ヨーロッパ・日本における「洋食と器の歴史」を学ぶ。 洋食器の種類と扱い方、基本アイテム、特徴を説明。実際に実物を見て、触り、実感し、それぞれの素材や種類、使う目的を理解する。	配布プリントと教本「西洋料理の歴史」P38～48、「食空間構成～洋食～」P226～234を読み復習をしておく。	1時間
第4回	**基本セッティングとテーブルコーディネート実習** 洋食のコース別セッティングとメニュー構成に必要な皿・グラス・カトラリーのセッティングを実習し、図面への落とし込みをすることで理解する。 テーブルコーディネートの実習を通しコーディネートの作り方を学ぶ。	教本空間構成P226～227を読み復習をしておくこと。実習の企画組立てシートを丁寧に仕上げること。（今後丁寧でない場合は再提出となります。）	1時間
第5回	**コーディネートアイテム～フィギュア・キャンドル・センターピース・リネン類～** テーブル装飾（フィギュア:キャンドル・センターピース・小物類）に関して学ぶ。 テーブルリネンについて学ぶ。ナプキンワークの実習。 第１～５回の復習チェックシート（ミニ復習テスト）の実施。	配布プリントと教本コーディネートアイテムP227～231を読み復習をしておくこと。教本「カラーコーディネート」P224~225を読み予習をしておくこと。	1時間
第6回	**カラーコーディネートの基本** カラーシステムを知る。色相やトーンを知り、配色テクニックを学ぶ。 食空間における色の心理的影響力について学ぶ。 カラー分析・配色テクニックの実習を行う。	配布プリントの復習。配色テクニックの課題を仕上げる。	1時間
第7回	**カーラーコーディネート　テーブルコーディネート実習** 出されたテーマを、カラーシステムを使い表現するテーブルコーディネート実習を行う。	実習の企画組立てシートを完成させる。	1時間
第8回	**欧米の行事食と文化①**	配布プリントの復習。第5～8回の復習。次回行う実習の行事を詳しく調べ、コーディネートに使えるものを考える	1時間

	欧米の行事と食文化について学ぶ。 海外の歳時記のメニュー構成・テーブルセッティングを考える。		
第9回	**テーブルマナーとサービス　～洋食～** 第5～8の復習チェックシート（ミニ復習テスト）の実施 西洋料理のサービス・マナー、席次について学ぶ。	教本P242～247，P256を復習しておく。	1時間
第10回	**欧米の行事食と文化②　実習** グループ実習にて、欧米の歳時記のコーディネートを作る。実習で作ったコーディネートと行事やメニューに関して発表することで、欧米の行事の理解を深める。 コーディネートの撮影も行う。	実習でのコーディネートを、提出用指定用紙に貼り、コンセプトを完成させる。	1時間
第11回	**テーブルマナーとサービス　～プロトコール～** プロトコールの基本理念について学ぶ。 アフタヌーンティーパーティーについて、紅茶文化と歴史について学ぶ。	配布プリントと教本P259～264を読み予習をすること	1時間
第12回	**ホームパーティーコーディネート実習** ホームパーティー、家でのおもてなしコーディネートについて学ぶ。 ホームパーティー・ティーパーティーのテーブルコーディネートを作る。発表と撮影を行う。	実習でのコーディネートを、提出用指定用紙に貼り、コンセプトを完成させる。	1時間
第13回	**パーティーの歴史** パーティーの種類・スタイル・パーティープラニングついて学ぶ。酒・ドリンク類について学ぶ。日本と西洋とのパーティーに対しての考え方の違いについて考える。 第９～13回の復習チェックシート（ミニ復習テスト）の実施。	P95～103を読み復習をする。	1時間
第14回	**総復習** 復習チェックシートの解説を行い、第1回~13回までのポイントの説明。食空間とテーブルコーディネートの理解を深める。	テストに向け総復習をする。	1時間

232

授業科目名	テーブルコーディネート実習Ⅱ				
担当教員名	土田彩華				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	食空間コーディネート協会認定講師。大阪にてコーディネーター養成講座を開催。企業研修、デパート催事の講師も行う。大手インテリアメーカー、百貨店、商業施設のディスプレイも手掛け、その他イベント企画やコンテストの開催も行っている。（全14回）				

食ビジネスコース指定

授業概要

コーディネートに必要な基礎知識の器・装飾アイテムの知識、セッティング、色彩学、ライティングテクニックなどを学び、快適な食空間演出方法を考えます。また海外の食文化と日本食文化の、行事・スタイル・マナーの違いも学び、それら行事に合わせたコーディネート実習を通し文化の違いの理解を深め、表現スキルを磨きます。食卓は、美しいテーブルを作ること以外に、皆で楽しく食事をする場であること、そして常に相手がいることを心に留め、いかに心豊かな時を過ごせるかを、演習１と２を通し考えてゆきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	食空間コーディネート力	理論とコーディネートに必要な組み立て力をつける
2. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	カラーワークの作成、テーブルコーディネートの基礎から応用までの実施	実技を通し、コーディネートに必要な技術、スタイリングを身につける
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		自ら課題、テーマを発見する力をつける
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		コンセプトある企画力、コーディネートの組立て力をつける
3. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		企画表現能力を付ける。グループ課題ではコミュニケーション能力、協調性、積極性をつける

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験	50 %	： 食空間コーディネートに必要な知識と技術を理解できたか評価する。
提出物	40 %	： テーブルコーディネートの企画に際し、所定のプリントでの企画力と内容分析力、情報収集力を評価する。
受講状況<積極的参加・マナー>	10 %	： グループワークへ積極的に取り組もうとする主体性や、自分の役割を理解し、協働しようとする態度があったかを評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
フードコーディネーター協会編	・ 新フードコーディネーター3級試験対応テキスト	・ 柴田書店	・ 2022　年

参考文献等

NPO法人食空間コーディネート協会：TALK食空間コーディネートテキスト3級、株式会社優しい食卓
ISBN-10:4901359479、ISBN-13:978-4901359474
（公社）日本フードスペシャリスト協会：三訂フードコーディネート論、株式会社建帛社
ISBN:978-4-7679-0440-5

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
毎回授業で学んだ内容のポイントを、プリントや教科書の指定されたページを読むことで復習し、「授業外学修課題」の実習企画プリントを丁寧に仕上げること。
季節の節目ごとに行われる身の回りの日本の伝統文化・行事内容を調べ、海外での歳時記との違いを確認理解すること。
常にショップやインテリアショールーム、レストランなどでの演出方法のテクニックを観察し分析をする。また雑誌・広告・ニュース情報にも注意を向けトレンド情報にも関心を持ち、コーディネートに反映させれるように分析をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業前後

場所： 実習室

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**イメージ感性分類法** 前期復習。テーブルコーディネートに必要な内容について説明。 カラーイメージスケールを通し、コーディネートイメージを大きく８つに分類し、スタイル別イメージの言語、カラー、テイストを理解する。 食とコーディネートのカラーバランスについて考える。	配布プリントでの8分類を復習し理解する。店舗・インテリア・食器・ファッションなど食空間に関わることを、分類別に分析し課題を作成する。丁寧に作成すること。（丁寧でない場合は再提出とする）	1時間
第2回	**インテリア様式によるテイストとスタイル、格付けについて** 西洋の食空間演出に必要な、欧米のインテリア様式を学ぶ。 様式に対してのクラシックからモダンスタイルまで、また格調を示すフォーマルからカジュアルまでをまとめたマトリックスでの、各スタイル分布を理解する。 8分類の各に合わせた食器を選びコーディネートをする。	配布プリントを用いて復習を行う。実習コーディネートを指定の用紙にまとめる。	1時間
第3回	**デザインから考える盛付けと食器の選び方** 盛付けの意図を考え、お皿のセレクト方法を学ぶ。テーブルコーディネートに必要なお皿の形、大きさ高さ、色をセレクトし、器を使ったコンセプトの表現方法を考える。	配布プリントを用いて復習を行う。雑誌やネットで、現代的なの盛り付け方、コーディネートを探しスタイル別にまとめる。	1時間
第4回	**和食器の基本①　アイテムについて** 和食器の基本アイテムについて、真行草について、季節感について学ぶ。 グループ実習にて、和食の基本セッティングを作り、テーブルトップの構成を理解する。セッティングをもとに、プラニングシートの作成を行う。	講義の内容を配布プリントを用いて復習を行う。 実習コーディネートを指定の用紙にまとめる。	1時間
第5回	**和食器の基本②　歴史と種類** 和食器の歴史、種類と扱い方、特徴を学び、洋食器の特徴との違いを考える。 陶器・炻器・磁器の違いを理解する。 その他、漆器、箸についても学ぶ。 和食の基本メニュ構成、「走り・旬・なごり」季節の移ろいを楽しむ和食文化を理解する。	復習を配布プリントと教科書を用いて行う。　特に歴史・基本アイテム、洋食器との違いはまとめ理解しておくこと。教本P234～239を読み予習をしておく。	1時間
第6回	**日本の行事食と文化①　歳時記1月～6月の文化と食について** 日本の歳時記、文化、しつらい、食について学ぶ。 第1～5回の復習チェックシート（ミニ復習テスト）の実施	教本P27～31を読み予習をする。	1時間
第7回	**日本の行事食と文化②　歳時記7～12月の文化と食について** 日本の歳時記、文化、しつらい、食について学ぶ。 日本料理の歴史、本膳料理・懐石料理・会席料理の違いについて学ぶ。	教本P15～26を読み予習をする。	1時間
第8回	**日本の歳時記のコーディネート企画・実習** グループ実習にて、日本の歳時記のテーブルコーディネートを作り、発表と撮影を行う。	実習内容を指定の企画コンセプト用紙に纏める。	1時間
第9回	**陰陽五行と日本文化について**	配布プリントを読み復習をする。	1時間

	身近にある陰陽五行の文化について学ぶ。 日本酒について、酒の種類と器について学ぶ。 第6～9回の復習チェックシート（ミニ復習テスト）の実施		
第10回	**クロスオーバーテーブルコーディネート①　和・洋食器の特徴について** 和食器と洋食器の違いを復習し理解する。クロスオーバーのコーディネートについて学ぶ。 和と洋の器を使い、コーディネートをする。 グループ実習にて、各グループごとにテーマを決め、コーディネート企画を考え、テーブルコーディネートを作る。 発表と撮影を行う。	実習内容を指定の企画コンセプト用紙に纏める。 和と洋の食器の違い・特徴を復習する。	1時間
第11回	**テーブルマナーとサービス　～和食～** 和食のサービスとマナーについて学ぶ。和食と洋食の基本セッティング（復習）も作り、西洋との違いを確認する。	配布プリントと教本P248～251を読み復習をする。	1時間
第12回	**クロスオーバーテーブルコーディネート②　和と洋のコーディネート実習** 和と洋の器を使い、コーディネートをする。 グループ実習にて、各グループごとにテーマを決め、コーディネート企画を考え、テーブルコーディネートを作る。 発表と撮影を行う。	実習内容を指定の企画コンセプト用紙に纏める。	1時間
第13回	**クロスオーバーテーブルコーディネート③　発表と撮影** 和と洋の器を使い、コーディネートをする。 グループ実習にて、各グループごとにテーマを決め、コーディネート企画を考え、テーブルコーディネートを作る。 発表と撮影を行う。	実習内容を指定の企画コンセプト用紙に纏める。 和と洋の食器の特徴を再復習し、クロスオーバーコーディネートについてまとめる。	1時間
第14回	**総復習** 配布プリント、教本、復習チェックシートを用い総復習を行う。	配布プリント、チェックシート、教本を用いテストに向け復習を行う	1時間

232

授業科目名	**食品開発実践**				
担当教員名	髙畑能久				
学年・コース等	2・3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大手総合食品メーカーの中央研究所で研究・商品開発および新規事業を経験。その後、グループ経営本部 経営企画部にて事業戦略の立案および投融資などを担当（全14回）。				

食ビジネスコース指定

授業概要

この授業では、企業との連携PBLによりヒット商品を開発するために必要とされる商品企画やマーケティングに関する専門知識を学びます。また、シミュレーション型学修として、食品企業のプロジェクトチームのメンバーとなり食品開発の一連のプロセスを体験します。個人ワークで市場調査、新商品のアイデア出しを行い、グループワークでは商品コンセプト、ターゲット、ベネフィット、ネーミング、パッケージデザイン、販促施策などを企画・提案します。最終回の新商品発表会では連携先からフィードバックを受けます。最近、注目されている食の6次産業化についても学びます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	食品開発の一連のプロセスをシミュレーション型学修により学びます。	個人ワークとグループワークにより食品開発を実践できるレベルまで理解を深めます。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		消費者の潜在ニーズを捉え、ターゲットがもつお困りごと（課題）を発見します。
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		新商品アイデアを考案し、商品企画や販促施策を立案します。
3. DP９.他者との協調・協働		グループで役割を分担し、チームワームで取り組み発表します。

学外連携学修

有り(連携先：株式会社ローソン)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
授業内のワーク	20 %	:	個人・グループワークにおいて授業で与えられた課題や自らの役割に対し、自主的な取り組み姿勢であったかどうかを評価します。
ポートフォリオ（学びの記録）	20 %	:	新商品のアイデア、企画、販促施策などに独自性があり、食品企業の経営の観点から魅力的であったかどうかを評価します。
新商品発表会	40 %	:	グループで企画した新商品の特長をアピールできているか、連携先からの支持を得られるものであったかどうかを評価します。
期末レポート	20 %	:	指定された日時までに提出されたレポートを対象とし、授業を通じて学んだことを、今後どのように活かしていくのかを評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

末吉孝生『コレが欲しかった！と言われる「商品企画」のきほん』（翔泳社、2017年、ISBN978-4-7981-3531-1）。
岩田直樹『食品開発の進め方』（幸書房、2015年、ISBN978-4-7821-0211-4）
片岡榮子他『食品開発ガイドブック』（地人書館、2011年、ISBN978-4-8052-0744-4）
その他、必要に応じて紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外の学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習しておくこと。
日頃からテレビ、新聞、雑誌、Webサイト等を活用し、食ビジネスに関するニュースや最新情報の把握に努めてください。
※なお、連携先の都合に合わせて、授業の順番や内容を一部変更する場合がある。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜２限

場所： 髙畑研究室（西館２階）

備考・注意事項： 授業の前後以外で質問したい場合は、メールにて受け付けます（takahata@osaka-seikei.ac.jp）。件名には必ず、所属・学籍番号・氏名を明記してください。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンスとマーケティング（基礎）** 授業の進め方や評価方法などを説明します。その後、マーケティング（基礎）として「顧客と消費者」、「マーケティングの定義・考え方」、「マーケティングプロセスの全体像」について学びます。	各自でどのような商品（加工食品）を開発したいのか考えてきてください。	4時間
第2回	**連携企業による特別授業（PBL課題の提示）** 連携先からゲストスピーカー（専門家）を招いて特別授業を開講します。 最新の市場動向に基づき、新商品に求められるものについて学ぶと共に、PBL課題について提示を受けます。	ローソンの公式サイトで商品情報を調べてきてください。	4時間
第3回	**個人ワーク①（内部・外部環境分析）** PBL課題を提示した連携企業の公式サイトを閲覧して事業概要、商品の強みや弱みなどを把握します。また、SWOT分析の手法を用いて内部・外部環境分析を行い、各自で商品アイデアを提案します。	各自で商品アイデアシートを作成してください。	4時間
第4回	**個人ワーク②（商品コンセプト・ベネフィット）** 連携先からのフィードバックを受けて、新商品のコンセプトやベネフィットなどをブラッシュアップして商品アイデアを再提案します。	各自で商品アイデアシートを作成してください。	4時間
第5回	**グループワーク①（顧客の絞込み・顧客ストーリー）** グループワークに取り組むプロジェクトチームを発足します。連携企業から選ばれた商品アイデアをベースに顧客セグメントや食シーンを具体化し、顧客ストーリーを考えます。	グループ毎に顧客ストーリーを話し合ってください。	4時間
第6回	**グループワーク②（競合商品・ポジショニング・販促施策）** 競合他社の類似商品など市場調査を行い、ブレーンストーミング、KJ法、SWOT分析によりグループで開発する新商品の優位性を検討します。	グループ毎に競合商品とのポジショニングと販促施策を話し合ってください。	4時間
第7回	**グループワーク③（商品企画書の作成）** これまでの一連の取り組み成果に基づき、グループ毎に商品企画書を作成します。	グループ毎に商品企画書を作成してください。	4時間
第8回	**中間発表会の準備** これまでの一連の取り組み成果を発表するため、発表用パワーポイントと発表原稿を作成します。グループ毎に発表練習を行ってください。	グループ毎に発表練習を行ってください。	4時間
第9回	**中間発表会** グループ毎に進捗状況を発表してディスカッションします。発表用パワーポイントは事前に提出してください。グループ毎に連携先からのフィードバックを受けます。	グループ毎に中間発表の振り返りを行ってください。	4時間
第10回	**食の6次産業化①（6次産業化の基礎・その関連法規）** 最近、注目されている6次産業化について「意味と目的」、「メカニズム」、「パターン」を学びます。6次産業化法、農商工連携法、それらを推進するための各種支援制度についても理解します。	食の6次産業化プロデューサー（食Pro.）について調べてきてください。	4時間
第11回	**食の6次産業化②（6次産業化の成功事例）** 食品開発のヒントとして、食の6次産業化の成功事例から6次産業化を行う際に重要なファクターについて解説します。	食の6次産業化の成功事例を調べてきてください。	4時間

第12回	**食の6次産業化③（農業・水産業および食品加工・流通関連法規）** 食品開発と係わりのある農地法、都市計画法、家畜伝染病予防法、漁業法、PL法および、食品衛生法、JAS法、健康増進法、景表法、食品表示法などについて学びます。	食品表示法と食品衛生法、JAS法、健康増進法の関係について調べてきてしてください。	4時間
第13回	**新商品発表会（グループ成果発表）予演会** 中間発表における連携先からのフィードバックを参考にして、発表用パワーポイントと発表原稿をブラッシュアップし、グループ毎に予演会を行います。	グループ毎に予演会の振り返りを行ってください。	4時間
第14回	**新商品発表会（グループ成果発表）本番** これまでグループワークで取り組んできた成果を発表し、プレゼンテーション資料を提出してください。グループ毎に連携先からフィードバックを受けます。授業の最後に期末レポートの課題を提示します。	グループ毎に新商品発表会の振り返りを行ってください。期末レポートは指定された日時までに提出してください。	4時間

232

授業科目名	食文化とビジネス				
担当教員名	岡村美里				
学年・コース等	2・3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	他校にて食文化についての講義授業を実施。自身で飲食店の開業を行い地域の食や文化についての業務を経験。（全14回）				

食ビジネスコース指定

授業概要

日本や世界の食文化について学びます。食をコーディネートするためには、食文化の知識が必要です。料理面（味の面）と食態度・食行動・食生活面の両面から食文化について学び、さらに他の地域の食文化と比較することにより、文化相対主義的な見方を養い、異なる食文化に対する寛容で受容的な態度を培うことを目指します。また、今日の国際化時代における食文化の共通化、世界化現象を認識するとともに、食文化を創造していくための資質を養います。伝統を生かした食づくりや食ビジネス化にどのような取り組みがあるのか今後の傾向などを学びます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	日本および世界の食文化の知識や、文化相対主義的な態度を習得する	日本や世界の食文化の文化的側面を理解することができる
2. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	日本および世界の食文化の知識や、文化相対主義的な態度を習得し、自らの食文化を創造していく	日本や世界の食文化の文化的側面を理解し、応用していく
汎用的な力		
1. DP８.他者とのコミュニケーション		文化相対主義的な態度を習得し、自らの食文化を創造していく中で、学び合った内容を、分かりやすい文書や発表資料が作成できる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験の得点	40 %	： 定期試験の得点60点以上：到達目標を優れて満たしている。 定期試験の得点40点以上：到達目標を十分に満たしている。
授業への積極的参加度（レポートなど提出物）	40 %	： 提出物の提出回数、文書表現の正確さなど内容について評価します。
課題得点	20 %	： クラスルームでの行う確認問題の獲得得点での評価

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
日本フードコーディネーター協会編	・新版フードコーディネーター教本	・柴田書店	・2022 年

参考文献等

石毛直道『食文化入門』講談社、ISBN978-4-06-139772-9
樋口清之『日本食物史』柴田書店、ISBN-10:4388250910、ISBN-13:978-4388250912
大塚滋『食の文化史』中公新書、ISBN-10:4121004175、ISBN-13:978-4121004178

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学習が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

高校で学習する家庭・日本地理・世界地理・日本史・世界史の知識を必要とする。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 教室

備考・注意事項： 質問は、授業時間内もしくは、前後に応える。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**食の歴史・文化・風土の概説** ・食文化の成り立ちについて学ぶ。 ・多様な食文化について知る。 ・食文化の共通化と国際化について理解する。 環境と主食となる穀物の違いなどを知る。	教科書１１～１３ページを読み復習する。	4時間
第2回	**日本料理の歴史１（原始・古代、中世）** ・縄文・弥生時代の食文化を学ぶ。 ・古墳・飛鳥・奈良時代の食文化を学ぶ。 ・平安時代～安土桃山時代の食文化を学ぶ。	教科書１３～１４ページを読み復習する。	4時間
第3回	**日本料理の歴史2（近世・近代・現代）** ・江戸時代の食文化を学ぶ。 ・明治・大正・昭和時代の食文化を学ぶ。 ・現代（第二次世界大戦以降）の食文化を学ぶ。	教科書１４～１５ページを読み復習する。	4時間
第4回	**日本の歴史と現代の食環境** ・食環境の変化の要因を知る。 ・広がる私たちの食生活、食物はどこから来るのかを理解する。 歴史を振り返り当時食していた食べ物を実際に体験。 現在どのように生かされているのかを学ぶ。 食環境について食品や調理器具などの変化を食卓を通じてみて行く。	教科書１５～１６ページを読み復習する。	4時間
第5回	**日本料理の種類** ・日本料理の特徴を理解する。 ・日本料理様式（本膳料理、袱紗料理、精進料理、普茶料理、卓袱料理等）について学ぶ。 ・日本料理の調理技術、食事作法を知る。	教科書１６～１８ページを読み復習する。	4時間
第6回	**日本料理の献立を立てる際の注意点・行事食** ・日本の食生活の特徴を理解する。 ・食文化の地域性を知る。 ・行事食・伝統料理を学ぶ。	教科書１８～２２ページを読み復習する。	4時間
第7回	**日本の郷土料理** ・全国各地の郷土料理を知る。 ・郷土料理を学ぶことにより日本各地の食材を知る。 ・郷土料理を学ぶことにより日本各地の調味料，調理法を知る。	教科書２２～２４ページを読み復習する。	4時間
第8回	**和菓子の歴史** ・和菓子の歴史、特徴を知る。 ・年中行事と和菓子を理解する。	教科書２４～２６ページを読み復習する。	4時間
第9回	**食文化と調味料** 地方によって使用する調味料の違い 調理の簡易化による配合調味料の傾向を見ていく。 調味料の歴史をまなぶ。	市場の調味料にどのようなものがあるのか調べる	4時間
第10回	**中国料理の歴史・種類・特徴・献立　その他の国の料理（欧米各国・エスニック各国）** ・中国料理の変遷、特徴を理解する。 ・四大料理（北京、上海、四川、広東）を学ぶ。 ・中国料理様式、調理技術、食事作法を学ぶ。	教科書２６～３１ページを読み復習する。教科書４５～４８ページを読み復習する。	4時間
第11回	**西洋料理の歴史・日本における西洋料理** ・古代・ギリシア、ローマ時代の西洋料理の食文化を学ぶ。 ・中世・ルネサンス期時代の西洋料理の食文化を学ぶ。 ・17～19世紀時代、現代の西洋料理の食文化を学ぶ。 ・西洋料理の特徴、西洋各国料理（欧米各国）を学ぶ。 ・西洋料理様式を知る。 ・西洋料理の調理技術、食事作法を学ぶ。	教科書３２～３９ページを読み復習する。	4時間
第12回	**その他の国の料理（欧米各国・エスニック各国** ・アジアの料理を知る。 ・中東の料理を知る。 ・中南米の料理を知る	教科書３９～４５ページを読み復習する。	4時間
第13回	**食文化と食のビジネス化①**	食生活の変化を調べる	4時間

	食の変化について 未来の食について、環境保全と食「昆虫食」「代替え肉」などについて考える。		
第14回	**食文化と食のビジネス化②** ・環境保全と食について ・食のコーディネートから食文化を総括し、食ビジネス化について考える。 ・試験にむけて総復習する。	食ブームや経済の傾向を調べる	4時間

232

授業科目名	アグリビジネス論				
担当教員名	高井雄一郎				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大阪府の農業関係部署にて、６次産業化等について農業者へ技術支援するとともに、行政計画の策定や施策の実行等を支援した。（全14回）				

授業概要

この授業では、大阪府における農業の経営について正しく理解するため、経営の実例を挙げながら、育て方から収益の計算まで学びます。具体的には、野菜や果樹について大阪府の特産品を例に標準の売り上げや経費、労働時間等について学びます。また、それらを材料とした６次産業や観光を含めた地域イノベーションの考え方も身に着けます。市場統計や農業センサスといった統計情報から必要なデータを入手する情報収集にも取組み、農業の基本的情報について理解を深め、食卓に農産物を届ける喜びと豊かさを実現するために基礎となる経営的な知見を身につけます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	野菜と果樹に関する栽培の基礎、収支計算に必要な考え方、６次産業化等の応用的知見、情報収集手法について講義します。	大阪府における農業経営の現状と課題について、野菜、果樹等の分野別に専門知識・情報収集技能を身に着け、アグリビジネスの実践に必要な基礎能力を養います。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		農林センサスや卸売市場の流通状況調査等の統計情報からの現状把握や大阪府内の農家の先進的な取組みを事例とした経営分析を通じて、経営の基礎となるデータの収集と活用に関する技能を習得します。
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		他の地域の農産物と大阪府内の農産物と、それぞれの経営データや統計データの比較を通じて課題を抽出し、解決策についてレポートを作成することで、課題解決に向けた方策の企画する力を身に着けます。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内のワーク	30 %	： 授業内の各課題を理解し、ワークを通じて身に着けたかどうかを評価します。
ポートフォリオ（学びの記録）	30 %	： 提出物が何を学んだか分かるものになっているか、学びの振り返りができているかを評価します。
中間レポート	20 %	： 提示された課題に対し、関連する情報を集め、概要を分かりやすくまとめることができたかどうかを評価します。
期末試験	20 %	： 授業の内容から重要な課題を抽出した期末試験を実施し、習熟度を評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

都市農業はみんなで支える時代へ: 東京・大阪の農業振興と都市農地新法への期待
著者　　石原　肇 著
出版社　古今書院
出版年月日 2019/03/16
ISBN/JAN　9784772253239
判型・ページ数　　A5・254ページ

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習しておくこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　メールで質問してください。takai-y@g.osaka-seikei.ac.jp

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンスおよび農業に関する情報収集** 国の統計等から農業に関する情報を収集する手段について学び、現在の農業の状況を振り返るとともに、第２回から第１４回までの概要と講義を通じた到達目標を共有します。GoogleClasroomを通じた課題の提出について確認します。	各自で市場の公式サイトから市況を調べてください。	4時間
第2回	**なにわ特産品（果樹）** なにわ特産品のうち、「果樹」について概要を学修します。北摂、中河内、南河内、泉州の４つの地域について特産品を調査し、特徴を把握します。	興味をもったなにわ特産品（果樹）について統計情報を調べてください。	4時間
第3回	**農家経営の実例（ぶどう）** ぶどう農家の経営の実例から、収穫までの流れや経費の計算、農産物の値段の付け方等の収益の仕組みを学びます。	各自でぶどう農家のホームページなどを調べて、授業の振り返りを行ってください。	4時間
第4回	**なにわ特産品（野菜）** なにわ特産品のうち、「野菜」について概要を学習します。北摂、中河内、南河内、泉州の４つの地域について特産品を調査し、特徴を把握します。	興味をもったなにわ特産品（野菜）について統計情報を調べてください。	4時間
第5回	**農家経営の実例（水なす）** トマトやキュウリ等、果実をつける「果菜類」の栽培は、大阪府内の一つの特徴となっています。特に全国的に有名である水なすを栽培する農家の経営の実例から、収穫までの流れや経費の計算、農産物の値段の付け方等の収益の仕組みを学びます。	各自で水なす農家のホームページなどを調べて、授業の振り返りを行ってください。	4時間
第6回	**農家経営の実例（軟弱野菜）** ホウレンソウやコマツナ等の葉野菜のうち、柔らかく成長の早いものを「軟弱野菜」と呼びます。大阪府内では果菜類と並んで農家の戸数が多い品目です。この授業では、全国トップクラスの生産量を誇る「しゅんぎく」について農家の経営の実例から、収穫までの流れや経費の計算、農産物の値段の付け方等の収益の仕組みを学びます。	各自でしゅんぎく農家のホームページなどを調べて、授業の振り返りを行ってください。	4時間
第7回	**農家経営の実例（裏作とは。枝豆と若ごぼう）** ひとつの作物を収穫し終わった後に、別の作物を栽培することを「裏作」と呼びます。大阪府内では稲作とキャベツなど、温暖な気候を活かした裏作が実践されています。具体例として八尾市における枝豆と若ごぼう農家の経営の実例から、収穫までの流れや経費の計算、農産物の値段の付け方等の収益の仕組みを学びます。	各自で枝豆および若ごぼうを生産する農家のホームページなどを調べて、授業の振り返りを 行ってください。	4時間
第8回	**農家経営の実例（観光農園とは。いちご）** 農業の中には、収穫したものを販売するだけでなく、収穫体験などを観光ビジネスとして収益を得るもあります。この授業では、いちご観光農園の経営の実例から、収穫までの流れや経費の計算、農産物の値段の付け方等の収益の仕組みを学びます。	各自でいちご観光農園のホームページなどを調べて、授業の振り返りを行ってください。	4時間
第9回	**中間レポートの準備（スマート農業）**	中間レポートを作成し、提出してください。	4時間

	ビッグデータを活用した効率よい栽培や、ドローンや自動運転機械等を活用した省力化栽培をとりまとめて、「スマート農業」と呼ばれています。働き手不足が加速する中、農業を維持するためには必須の技術と考えられています。大阪府内で研究されているスマート農業の最新情報を大阪府立環境農林水産総合研究所の研究成果を通じて紹介します。また、第2回から第8回の授業を振り返り、それぞれの作物の栽培上の課題を抽出し、スマート農業により解決することを考え、中間レポートの作成に必要な情報をまとめます。		
第10回	**６次産業および農山漁村発イノベーション** 収穫したものを販売するだけでなく、加工業やサービス業まで取り組むことは「６次産業化」と呼ばれていました。さらに、農業を核として、地域の産業振興につなげるイノベーションにも注目が集まっています。大阪府内で実施された６次産業化および農山漁村発イノベーションに関する支援事例の紹介を通じて、農業生産を核とした新しい産業の方向性について学びます。	各自で農林水産省のホームページなど他県での取組みを調べて、授業の振り返りを行ってくだ さい。	4時間
第11回	**農産物のブランド化戦略（なにわの伝統野菜、GI制度、地域登録商標）** 農産物のブランド化のひとつである地理的表示(GI)保護制度や地域登録商標の仕組みを実例から学びます。さらに、大阪府の認証制度である「なにわの伝統野菜」についても学習し、古くから伝わる希少な農産物に関する知識を深めます。	各自で農林水産省のホームページなどでGI認証の農産物または加工品を調べて、授業の振り返 りを行ってください。	4時間
第12回	**農産物のブランド化戦略（エコ農産物、GAP、有機など）** 農薬や肥料の使用量を削減することは、環境にやさしい農業として、付加価値を高める効果があります。世界的にはGood Agirculture Program (GAP) やオーガニック（有機）栽培の仕組みが整えられています。また、大阪府では、エコ農産物として認証する仕組みがあります。これらの制度を学修し、どうすれば付加価値が高まるかを考えます。	各自で大阪府のホームページなどからエコ農産物のPR状況を調べて、授業の振り返りを行って ください。	4時間
第13回	**農産物のブランド化戦略（品種改良、育種）** その自治体独自の品種を持つことは、他の産地と差別化できることからブランド戦略として大変有効です。大阪府では、近年、ぶどうの新品種「ポンタ」を登録し、「虹の雫」という登録商標でブランド化を進めています。この実例を学習するとともに、品種改良や育種の仕組みについて学びます。	JAのホームページなどから他県のオリジナル品種について調査し、授業の振り返りを行ってく ださい。	4時間
第14回	**農産物のブランド化戦略（輸出）と総括** 人口減少に伴う国内消費の縮小は避けられません。さらなる市場を開拓するためには、農業も輸出に目を向ける必要があります。国の統計情報をもとに、日本の農業の輸出の現状を確認するとともに、農産物の輸出に関する課題と対応事例について学びます。また第１０回から第１４回の内容を踏まえて、ブランド化戦略について総括します。	期末試験に向けて、全１４回の授業の内容を振り返ってください。	4時間

232

授業科目名	**公共経営論Ⅱ**				
担当教員名	**大塚康央**				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	茨木市において、企画、都市計画、まちづくり計画、住民参加などを経験したのち、副市長として政策立案、実施、評価全般を担当。（全14回）				

授業概要

地域のまちづくりを計画的に進めていくための仕組みを学ぶことを基本として、まちづくりの基本となるマスタープラン、住民が参加し進めていくまちづくりについて、事例研究などを通じて理解を進めるとともに、人口減少社会におけるまちづくりについて考えていく。進める際の基本的な枠組みとなる「都市計画」について、都市計画の理論、都市計画の歴史、都市計画制度などの基礎的な内容を学ぶ。そのうえで、都市計画制度の変遷を通じて、社会経済の動向や政策意図についても考え学んでいく。
また、公共空間の利用やエリアマネジメントなど近年のまちづくりを取り巻く状況についても理解する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	まちづくりを進める上で必要な専門的な知識の理解	都市計画等の考え方や内容、まちづくりへの展開について専門的な知識を理解し説明できる。
2. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	行政等の環境適応性を理解し、地域において適切に組織化することで地域課題を解決するスキルの理解	行政等の環境適応性を理解し、地域において適切に組織化することで地域課題を解決するスキルを実践で発揮できる力を修得する。
汎用的な力		
1. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		行政等のマネジメント、公民連携、持続可能なまちづくりにおける重要な課題を、自分なりの視点で発見し、その解決案等を計画・立案し、実践することができる。
2. DP９.他者との協調・協働		行政等のマネジメント、公民連携、持続可能なまちづくりにおける重要な課題について、グループワーク等で他者と協調・協働し、その解決案等を計画・立案することができる。

学外連携学修

有り(連携先：自治体)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
期末レポート	40 %	： 都市計画の視点から、地域課題の把握と解決策、住民や事業者との連携・協働の実現、計画的なまちづくりの重要性などについて、理解・認識が出来ているか
授業内理解度確認	30 %	： 授業のつど提出を求める

授業への貢献　：　授業での発表内容、グループワークでの役割など授業への貢献度を評価する。

30　％

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

饗庭伸・鈴木伸二編著『初めて学ぶ都市計画第2版』（市ケ谷出版社、2018、978-4870710092）
澤木昌典・嘉名光市編著『図説都市計画』（学芸出版社、2022、ISBN978-4761528324）
饗庭伸『都市の問診』（鹿島出版会、2022、ISBN978-4306073593）
近畿都市学会編『都市構造と都市政策』（古今書院、2014、978-4772252768）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加えその回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　月曜4限

場所：　西館4階

備考・注意事項：　連絡を取りたい場合はメールでも可（otsuka@osaka-seikei.ac.jp）

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**まちづくりの仕組み** 自治体が進めるまちづくりについて、その基本的な枠組みと大きな役割を果たすマスタープラン、都市計画について考える。	公共経営論Ｉで学んだ知識を復習しておく。	4時間
第2回	**現在のまちづくり課題** 人口減少社会の中でのまちづくりについて、国や地方自治体がどのように取り組んでいるのかを、総合戦略、人口ビジョンを通じて考える。	暮らしている自治体の人口ビジョンと、総合戦略に書かれている内容を調査し把握しておく。	4時間
第3回	**これまでのまちづくりと都市計画** 田園都市、近隣住区などの都市計画の理論を理解するとともに、良好な環境形成に果たしてきた都市計画について学ぶ。また、その限界についても考える	暮らしている自治体の都市計画の内容と、都市計画に関連して策定されている種々の計画を知る	4時間
第4回	**自治体におけるさまざまな計画** 総合計画、都市計画マスタープランなどの計画の存在と、それらが果たす役割、市民生活との関係を学ぶ。	各種計画の洗い出しと相互の関係を調べる。	4時間
第5回	**都市計画の制度・仕組み** まちづくりの基本となる都市計画について、目的、決定する事項と制限内容、都市計画の機能、経済政策との関連などを学ぶ。	参考資料などから、都市計画制度の基本的な内容を理解する。	4時間
第6回	**人口減少社会での都市計画・公共経営** 人口減少社会において、都市においてどのような問題が発生するか、そのなかで、都市計画をはじめとする都市づくりの諸制度が果たす役割、限界は何かをグループワークでまとめる。	次回以降の学びにつなげるため、これまで学んできたことを振り返り、制度内容や自治体の計画を復習する。	4時間
第7回	**都市の拡大・縮小と都市計画・まちづくり** 土地利用誘導などの都市計画の内容が、都市の縮小に効果を発揮するのかを考える。	暮らしている地域の状況を調査し、都市計画制度の役割を理解する。	4時間
第8回	**コンパクト・シティ政策、立地適正化計画** まちづくりの考え方であるコンパクトシティと、その実現につながるよう作成している「立地適正化計画」について、事例を紹介しながら学ぶ	自治体の立地適正化計画の内容を調査する。	4時間
第9回	**空家対策** 増加している空家の状況と法の規定、自治体の取り組みについて学ぶ。	空家対策計画や法の内容、また、集合住宅と空き室の問題について、自治体の取り組みを調査する。	4時間
第10回	**マンション問題** 空家問題と関連して、今後、大きな課題となるマンションの建て替えについても考察し、住み続けることができるまちづくりについて考える。特に、超高層マンションにに対する施策について考える。	マンションを巡る諸問題について、インターネット等で発生している事例と対策の情報を収集する。	4時間
第11回	**都市計画まちづくりにおける公民連携**	市街地開発事業における住民参加、エリアマネジメントにつなげる取り組みについて調査する。	4時間

	新たな市街地形成において、民間事業者と計画段階から連携するだけでなく、周辺地域住民との関係づくりや施設利用など、地域全体でエリアマネジメントを誘導する取り組みについて、自治体関係者から話を聴く。		
第12回	**既存施設の活用** つくることから、「使う」ことへの転換を考えることとし、道路空間の利用や広場の使い方事例を参考に、施設管理の視点も含めて考えていく。	公共空間の利用と課題について事例を収集する	4時間
第13回	**持続可能な都市とは** これまでの学びを踏まえ、グループで持続可能な都市づくりについて、自治体、住民それぞれの立場から、どのようなことが求められるかを考え発表する。	持続可能な都市について、自分の意見をまとめておく。	4時間
第14回	**振り返り** 授業で学んできたことを振り返り、これからの都市の姿を構想しながら住民がまちづくりにどのように関わっていくかをまとめる。	今後の学修に結びつけられるよう、学んだこと全体についてしっかり復習する。	4時間

232

授業科目名	都市計画まちづくり論				
担当教員名	大塚康央				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	茨木市において、企画、都市計画、まちづくり計画、住民参加などを経験したのち、副市長として政策立案、実施、評価全般を担当。（全14回）				

授業概要

地域のまちづくりを計画的に進めていくための仕組みを学ぶことを基本として、まちづくりの基本となるマスタープラン、住民が参加し進めていくまちづくりについて、事例研究などを通じて理解を進めるとともに、人口減少社会におけるまちづくりについて考えていく。進める際の基本的な枠組みとなる「都市計画」について、都市計画の理論、都市計画の歴史、都市計画制度などの基礎的な内容を学ぶ。そのうえで、都市計画制度の変遷を通じて、社会経済の動向や政策意図についても考え学んでいく。
また、公共空間の利用やエリアマネジメントなど近年のまちづくりを取り巻く状況についても理解する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	まちづくりを進める上で必要な専門的な知識の理解	都市計画等の考え方や内容、まちづくりへの展開について専門的な知識を理解し説明できる。
2. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	行政等の環境適応性を理解し、地域において適切に組織化することで地域課題を解決するスキルの理解	行政等の環境適応性を理解し、地域において適切に組織化することで地域課題を解決するスキルを実践で発揮できる力を修得する。
汎用的な力		
1. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		行政等のマネジメント、公民連携、持続可能なまちづくりにおける重要な課題を、自分なりの視点で発見し、その解決案等を計画・立案し、実践することができる。
2. DP９.他者との協調・協働		行政等のマネジメント、公民連携、持続可能なまちづくりにおける重要な課題について、グループワーク等で他者と協調・協働し、その解決案等を計画・立案することができる。

学外連携学修

有り(連携先：自治体)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
期末レポート	40 %	： 都市計画の視点から、地域課題の把握と解決策、住民や事業者との連携・協働の実現、計画的なまちづくりの重要性などについて、理解・認識が出来ているか
授業内理解度確認	30 %	： 授業のつど提出を求める

授業への貢献　：　授業での発表内容、グループワークでの役割など授業への貢献度を評価する。

30　％

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

饗庭伸・鈴木伸二編著『初めて学ぶ都市計画第2版』（市ケ谷出版社、2018、978-4870710092）
澤木昌典・嘉名光市編著『図説都市計画』（学芸出版社、2022、ISBN978-4761528324）
饗庭伸『都市の問診』（鹿島出版会、2022、ISBN978-4306073593）
近畿都市学会編『都市構造と都市政策』（古今書院、2014、978-4772252768）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加えその回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　月曜4限

場所：　西館4階

備考・注意事項：　連絡を取りたい場合はメールでも可（otsuka@osaka-seikei.ac.jp）

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**まちづくりの仕組み** 自治体が進めるまちづくりについて、その基本的な枠組みと大きな役割を果たすマスタープラン、都市計画について考える。	公共経営論Ｉで学んだ知識を復習しておく。	4時間
第2回	**現在のまちづくり課題** 人口減少社会の中でのまちづくりについて、国や地方自治体がどのように取り組んでいるのかを、総合戦略、人口ビジョンを通じて考える。	暮らしている自治体の人口ビジョンと、総合戦略に書かれている内容を調査し把握しておく。	4時間
第3回	**これまでのまちづくりと都市計画** 田園都市、近隣住区などの都市計画の理論を理解するとともに、良好な環境形成に果たしてきた都市計画について学ぶ。また、その限界についても考える	暮らしている自治体の都市計画の内容と、都市計画に関連して策定されている種々の計画を知る	4時間
第4回	**自治体におけるさまざまな計画** 総合計画、都市計画マスタープランなどの計画の存在と、それらが果たす役割、市民生活との関係を学ぶ。	各種計画の洗い出しと相互の関係を調べる。	4時間
第5回	**都市計画の制度・仕組み** まちづくりの基本となる都市計画について、目的、決定する事項と制限内容、都市計画の機能、経済政策との関連などを学ぶ。	参考資料などから、都市計画制度の基本的な内容を理解する。	4時間
第6回	**人口減少社会での都市計画・公共経営** 人口減少社会において、都市においてどのような問題が発生するか、そのなかで、都市計画をはじめとする都市づくりの諸制度が果たす役割、限界は何かをグループワークでまとめる。	次回以降の学びにつなげるため、これまで学んできたことを振り返り、制度内容や自治体の計画を復習する。	4時間
第7回	**都市の拡大・縮小と都市計画・まちづくり** 土地利用誘導などの都市計画の内容が、都市の縮小に効果を発揮するのかを考える。	暮らしている地域の状況を調査し、都市計画制度の役割を理解する。	4時間
第8回	**コンパクト・シティ政策、立地適正化計画** まちづくりの考え方であるコンパクトシティと、その実現につながるよう作成している「立地適正化計画」について、事例を紹介しながら学ぶ	自治体の立地適正化計画の内容を調査する。	4時間
第9回	**空家対策** 増加している空家の状況と法の規定、自治体の取り組みについて学ぶ。	空家対策計画や法の内容、また、集合住宅と空き室の問題について、自治体の取り組みを調査する。	4時間
第10回	**マンション問題** 空家問題と関連して、今後、大きな課題となるマンションの建て替えについても考察し、住み続けることができるまちづくりについて考える。特に、超高層マンションにに対する施策について考える。	マンションを巡る諸問題について、インターネット等で発生している事例と対策の情報を収集する。	4時間
第11回	**都市計画まちづくりにおける公民連携**	市街地開発事業における住民参加、エリアマネジメントにつなげる取り組みについて調査する。	4時間

	新たな市街地形成において、民間事業者と計画段階から連携するだけでなく、周辺地域住民との関係づくりや施設利用など、地域全体でエリアマネジメントを誘導する取り組みについて、自治体関係者から話を聴く。		
第12回	**既存施設の活用** つくることから、「使う」ことへの転換を考えることとし、道路空間の利用や広場の使い方事例を参考に、施設管理の視点も含めて考えていく。	公共空間の利用と課題について事例を収集する	4時間
第13回	**持続可能な都市とは** これまでの学びを踏まえ、グループで持続可能な都市づくりについて、自治体、住民それぞれの立場から、どのようなことが求められるかを考え発表する。	持続可能な都市について、自分の意見をまとめておく。	4時間
第14回	**振り返り** 授業で学んできたことを振り返り、これからの都市の姿を構想しながら住民がまちづくりにどのように関わっていくかをまとめる。	今後の学修に結びつけられるよう、学んだこと全体についてしっかり復習する。	4時間

232

授業科目名	**公共経済学**				
担当教員名	山岡淳				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

公共部門の経済活動とその根拠について理解することは、今日の経済が抱えるさまざま問題とその理由や方策について検討し評価するうえで、多くの重要なヒントを与えてくれる。本講義では、ミクロ経済学に基づく公共経済学の入門レベルの内容を平易に説明し、公共部門の経済活動について学ぶ。公共経済の主たる担い手である国や地方自治体（政府）が経済活動を行う根拠を理解し、公共部門と民間部門の役割分担について考え、効率的な資源配分と公平な所得分配を達成するための経済システムについて考える。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	公共部門の経済活動に関する知識	公共部門の経済活動の仕組みや実態について正しい知識と理解を得ること、そして、その活動が様々な経済問題や経済システムとどのように関係するのかについて、自分なりの言葉で説明ができる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		基本的なミクロ経済学や公共経済学のアイデアを応用して、さまざまな現代社会の問題や政策における課題を検討することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

時間の許す限り、講義中に解答の解説を行いたいと考えているが、時間の制約上、授業計画が著しく崩れることのないように、別途解答の配布や講義資料の補足などで対応する場合もある。

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験（実技）	50 %	： 授業内容に関する正しい知識と政策問題に関する応用的理解の到達度について、試験の素点に基づき評価する。
講義課題	50 %	： 回答内容（学習内容に関する基礎的理解の程度、論理的構成など）や提出状況について評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

講義ノートに従って進めるので教科書は指定しないが，参考文献を手元に用意おくと講義内容の理解に役立つ（詳細は講義初回時にも説明する）。ミクロ経済学の基礎も含む文献や、公共経済学で扱う内容を数学を用いずに丁寧に解説している文献を中心に挙げている（制度や数値については内容が古い場合もあるので注意）。
N.グレゴリー・マンキュー(足立英之ら訳)『マンキュー経済学Ｉミクロ編(第4版)』(ISBN：978-4492315194)

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

連絡先　yamaoka-a@g.osaka-seikei.ac.jp

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： オフィスアワーの実施方法は初回授業時に連絡します。

場所： オフィスアワーの実施方法は初回授業時に連絡します。

備考・注意事項： オフィスアワーの実施方法は初回授業時に連絡します。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**経済学ってなに？** 講義全体のアウトラインを紹介したうえで、経済学の学問としての目的や公共分野での活用方法の概要について解説をする。	授業の振り返りおよび小問題への取り組み	4時間
第2回	**人はどのように行動するか？** 個人の選択とその原理、その際に参照する機会費用や最適な選択を促すインセンティブについて学ぶ。	授業の振り返りおよび小問題への取り組み	4時間
第3回	**消費者の便益と生産者の利潤** 市場における消費者と生産者の行動と余剰(便益・利潤)について学ぶ。	授業の振り返りおよび小問題への取り組み	4時間
第4回	**市場の均衡を目指して** 競争市場における均衡と均衡を達成するための条件、また競争市場の均衡を達成するための政策的対応方法について学ぶ。	授業の振り返りおよび小問題への取り組み	4時間
第5回	**独占と寡占** 市場における独占と寡占の発生要因と、それらによって発生する経済的な損失や政策的な対応について学ぶ。	授業の振り返りおよび小問題への取り組み	4時間
第6回	**競争の帰結と結果の格差** 競争市場において発生する経済格差について取り扱い、個人の生活に政府が介入する正当性について学ぶ。	授業の振り返りおよび小問題への取り組み	4時間
第7回	**政府による社会保障の必要性** 社会保障政策を政府が実施する意義について解説し、日本における社会保障制度の制度的な枠組みについて学ぶ。	授業の振り返りおよび小問題への取り組み	4時間
第8回	**税について考える** 政府による課税の正当性や、消費者と生産者への課税の経済的影響の違いについて学ぶ。	授業の振り返りおよび小問題への取り組み	4時間
第9回	**公共財は最適に供給できるか** 正の外部性をもたらす公共財について取り扱い、その最適な配分基準について学ぶ。	授業の振り返りおよび小問題への取り組み	4時間
第10回	**負の外部性への政策的対応** 負の外部性を持つ財の社会的費用を踏まえた規制方法(税・総量規制・排出権取引)について学ぶ。	授業の振り返りおよび小問題への取り組み	4時間
第11回	**社会全体の幸せを考える** 社会全体の幸せを考えるための社会的厚生関数について取り扱い、その種類や実社会への適応方法について学ぶ。	授業の振り返りおよび小問題への取り組み	4時間
第12回	**経済成長ってなに？** GDP(国内総生産)と経済成長を主題に、経済成長を目指す理由やその要因について学ぶ。	授業の振り返りおよび小問題への取り組み	4時間
第13回	**民主主義は社会を良い方向に導くか** 政治的な社会的意思決定の方法としての民主主義について取り扱い、民主主義の可能性と限界について学ぶ。	授業の振り返りおよび小問題への取り組み	4時間
第14回	**社会の課題をいかに解決するか** 第13回までの議論を参考にしながら、社会的な課題を解決する際に経済学が貢献できる可能性について学ぶ。	授業の振り返りおよび小問題への取り組み	4時間

232

授業科目名	財政学				
担当教員名	三浦晴彦				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

昨今の日本を取り巻く諸問題として、巨額の財政赤字と行財政改革、高齢社会に伴う年金問題や世代間格差、将来の増税不安、などあげればきりがない。これらは全て財政学の範疇である。現在の日本において、財政赤字が大きな問題になるとともに、公共部門全体のあり方自体が問われ、様々な制度において抜本的な改革が求められている。
本講義では、政府の活動について歳出面と歳入面から学んでいく。財政の役割とは何かというテーマを中心にしながら、政府支出の効率化や税金の役割について取り上げていく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	財政の役割について学び、公共部門の活動を理解する。	公共サービスを実現できる人材として必要な知識を修得し、職業理解へと繋げる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		公共サービスに関わる問題点について理解し、実際に問題点を自ら発見できるようになる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験	80 %	： 講義内容についての理解度と論述解答文における論理的整合性
日常点	20 %	： 授業において出された課題についての理解度

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
林宜嗣･林亮輔･林勇貴	・ 基礎コース財政学・第4版	・ 新世社	・ 2019 年

参考文献等

特になし。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 講義終了後に質問を受け付ける。

場所： 講義教室

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**財政の範囲と規模** 財政の範囲と規模について以下の内容を取り上げる。それらを学ぶことで経済活動の中での財政の位置づけが理解できるようにする。 ・経済循環における財政の位置づけ ・SNA統計から見る財政の規模 ・公的部門の範囲と民間部門との関係	予習：教科書のpp. 2～pp. 7を事前に読んでくること復習：授業内容についてノートや配布レジュメを参考にまとめること	4時間
第2回	**資源配分機能** 財政の3機能のうちで資源配分機能を取り上げる。公共財・サービスの特性を学ぶことで、民間財との違いを明確にする。 ・資源配分機能とは ・公共財・サービスの2つの特性 ・公共財･サービスと外部性	予習：教科書のpp. 9～pp. 10を事前に読んでくること復習：授業内容についてノートや配布レジュメを参考にまとめること	4時間
第3回	**所得再分配機能** 財政の3機能のうちで所得再分配機能を取り上げる。 ･所得再分配機能とは ・所得再分配機能に資する歳出項目と歳入項目 ・所得再分配と社会的合意	予習：教科書のpp. 11～pp. 12を事前に読んでくること復習：授業内容についてノートや配布レジュメを参考にまとめること	4時間
第4回	**社会保障** 所得再分配機能に関連して、社会保障について詳しく取り上げる。 ・社会保障関係費の伸び ・年金・医療・介護と高齢化社会	予習：教科書のpp. 148～pp. 157を事前に読んでくること復習：授業内容についてノートや配布レジュメを参考にまとめること	4時間
第5回	**経済安定化機能** 財政の3機能のうちで経済安定化機能を取り上げる。 ・経済安定化機能とは ・ビルト・イン・スタビライザー（自動安定化装置） ・フィスカルポリシー（裁量的な安定政策）	予習：教科書のpp. 12～pp. 14を事前に読んでくること復習：授業内容についてノートや配布レジュメを参考にまとめること	4時間
第6回	**財政政策** 経済安定化機能に関連して、財政政策を詳しく取り上げる。 ・乗数効果 ・減税と政府支出増加の比較	予習：教科書のpp. 202～pp. 210を事前に読んでくること復習：授業内容についてノートや配布レジュメを参考にまとめること	4時間
第7回	**政府支出の効率化** 政府支出の効率化について、必要なファクターを考える。 ・生産の効率性 ・配分の効率性	予習：教科書のpp. 60～pp. 62を事前に読んでくること復習：授業内容についてノートや配布レジュメを参考にまとめること	4時間
第8回	**租税の基礎** 租税とは何故必要なのか、その根拠を考えていく。 ・義務説と利益説 ・応能原則と応益原則	予習：教科書のpp. 82～pp. 84を事前に読んでくること復習：授業内容についてノートや配布レジュメを参考にまとめること	4時間
第9回	**租税原則①公平性** 現代の租税3原則のうちで、公平性の原則を取り上げる。 ・垂直的公平と水平的公平 ・累進税の効果 ・公平性を満たす税金	予習：教科書のpp. 87～pp. 89を事前に読んでくること復習：授業内容についてノートや配布レジュメを参考にまとめること	4時間
第10回	**租税原則②中立性・簡素** 現代の租税3原則のうちで、中立性の原則と簡素の原則（最小徴税費）を取り上げる。 ・中立性とは ・中立性を満たす税金 ・徴税費と納税協力費	予習：教科書のpp. 84～pp. 85を事前に読んでくること復習：授業内容についてノートや配布レジュメを参考にまとめること	4時間
第11回	**所得課税** 所得課税として所得税の制度を詳しく説明し、問題点を明らかにする。 ・所得控除制度 ・超過累進税率構造 ・課税最低限	予習：教科書のpp. 114～pp. 124を事前に読んでくること復習：授業内容についてノートや配布レジュメを参考にまとめること	4時間

第12回	**消費課税** 消費課税として消費税の制度を詳しく説明し、問題点を明らかにする。 ・付加価値税の仕組み ・帳簿方式とインボイス方式 ・逆進性の問題	予習：教科書のpp. 124～pp. 134を事前に読んでくること復習：授業内容についてノートや配布レジュメを参考にまとめること	4時間
第13回	**公債** 公債について、その役割や問題点について考えていく。 ・均衡予算主義 ・建設公債と特例公債 ・社会資本整備と償還ルール	予習：教科書のpp. 40～pp. 51を事前に読んでくること復習：授業内容についてノートや配布レジュメを参考にまとめること	4時間
第14回	**財政赤字の問題点** 財政赤字の問題点として、4つの問題点を取り上げていく。 ・財政硬直化 ・経済活力の低下 ・世代間の不公平 ・財政の膨張	予習：教科書のpp. 51～pp. 56を事前に読んでくること復習：授業内容についてノートや配布レジュメを参考にまとめること	4時間

232

授業科目名	公共データ分析				
担当教員名	山岡淳				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本科目は公共データの分析手法を身につける事を目的とする実習形式の授業を実施する。
授業の内容として地域経済分析システムRESASを用いた簡易的な地域分析(第2-4回)の手法に加え、個別の特定領域または小地域のデータ分析を独自に行うためにエクセルによるデータの整理方法(第5-8回)とGISソフトMANDARAを用いた地域分析の手法(第9-10回)の習得を目指す。また統計データだけでは把握できないアンケートやインタビュー調査についても概説する(第11回)。これらの取得した技能を用いて、グループごとに独自の地域分析とその発表を行う(第12-14回)。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	RESAS・エクセル・MANDARAというデータ分析ツールを用いて地域分析を行う。	RESAS・エクセル・MANDARAの利用方法を習得する。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		地域分析を通じて地域の課題を発見する能力を身につける。
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		地域分析を通じて地域の課題を解決するための仮説を設定する能力を身につける。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
授業課題の評価	50 %	:	授業で出す課題の内容に応じて評価を行う。
試験	50 %	:	出された課題に対し、時間内に対応できるか試験を行う。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

講義内で指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： オフィスアワーの実施方法は初回授業時に連絡します。

場所： オフィスアワーの実施方法は初回授業時に連絡します。

備考・注意事項： オフィスアワーの実施方法は初回授業時に連絡します。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス：データで語る重要性** データを用いた政策の応用について解説する。	講義の振り返りとデータ応用方法に関する小問題	4時間
第2回	**RESASを用いた地域分析入門1～システムと分析方法** RESASの紹介とそれを用いた地域分析の方法を解説する。	講義の振り返りとRESASを用いる小問題	4時間
第3回	**RESASを用いた地域分析入門2～仮説を立て検証しよう** RESASを用いて地域の人口動態に仮説を立て検証する。	講義の振り返りとRESASを用いる小問題	4時間
第4回	**エクセルを用いた地域分析入門1～地域データ分析の基礎** エクセルを用いて四則演算による地域データの分析を行う。	講義の振り返りとエクセルを用いる小問題	4時間
第5回	**エクセルを用いた地域分析入門2～地域データの図表作成** エクセルを用いて地域データを図表で表現する。	講義の振り返りとエクセルを用いる小問題	4時間
第6回	**エクセルを用いた地域分析入門3～応用的な関数によるデータ加工** エクセルの応用的な関数(if/sumif/countif/xlookup)で地域データを加工する。	講義の振り返りとエクセルを用いる小問題	4時間
第7回	**データの取得1～国勢調査市区町村のデータを取得** 国勢調査の市区町村データを取得し、地域間、時系列で加工を行う。	講義の振り返りとエクセルを用いる小問題	4時間
第8回	**データの取得2～国勢調査小地域統計のデータを取得** 国勢調査の小地域統計を取得し、加工を行う。	講義の振り返りとエクセルを用いる小問題	4時間
第9回	**データの取得3～目的のデータの取得** 国勢調査から目的のデータを取得し、加工を行う。	講義の振り返りとMANDARAを用いる小問題	4時間
第10回	**MANDARAを用いた地域分析入門1～地図を描こう** MANDARAを使い、データを地図に落とし込み可視化する。	講義の振り返りとMANDARAを用いる小問題	4時間
第11回	**MANDARAを用いた地域分析入門2～独自にデータを用意して地図を作成しよう** 国勢調査から市区町村データを取得し、MANDARAで地図に落とし込む。	講義の振り返りとMANDARAを用いる小問題	4時間
第12回	**MANDARAを用いた地域分析入門3～小地域統計で地図を作成しよう** 国勢調査から小地域データを取得し、MANDARAで地図に落とし込む。	講義の振り返りとMANDARAを用いる小問題	6時間
第13回	**データを用いた地域分析1～テーマと仮説の設定とデータの取得** ここまでの学習内容から仮説に応じたデータを取得する。	講義の振り返りとデータの収集に関する小問題	6時間
第14回	**データを用いた地域分析2～仮説の検証と報告資料の作成** ここまでの内容から仮説を検証し、その内容をまとめる。	講義の振り返りと講義全般に関する小問題	4時間

232

授業科目名	**公共政策論Ⅰ**				
担当教員名	大塚康央				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	茨木市において、企画、都市計画、まちづくり計画、住民参加などを経験したのち、副市長として政策立案、実施、評価全般を担当。（全14回）				

授業概要

個人で解決することが難しく、社会で解決すべき問題（政策問題）の解決策が「公共政策」である。本科目では、この公共政策について、問題の発見、課題の設定、解決策の検討・立案、政策決定、公共政策の実施、政策（施策・事業）評価というプロセスに沿って、具体的な事例を題材に学ぶ。この学びを通じて、公共政策の内容や、問題に関係する様々な主体（アクター）の役割などを理解し、解決に向けた公共政策の基本的な事項を理解する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	社会で起きている問題の理解と、政策として解決策を立案し実施していくことの基本的な理解	公共政策とは何か、関係するアクターの役割について主要な内容を理解し説明でき、政策形成の過程や政策の目的を理解する。
2. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	問題発見、立案、決定、実施、評価という過程と手続きに関する基本的な理解	多くの人に関係する問題であることから、公平、公正な手続きや合意形成、効果測定などの公共政策が備えておく事項について理解する。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		社会における問題の把握と、問題解決のために対応しなければならない課題について設定し、解決策を考えることができる。
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		公共的問題を解決する公共政策について、合理的、論理的な検討を加え、効率性を考慮した計画案を提案できる。

学外連携学修

有り(連携先：地方自治体)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への貢献	25 %	： 授業の中で行うグループによる公共政策研究を行い、まとめの内容、グループワークでの役割など授業への貢献度を評価する。
最終レポート	50 %	： 公共政策過程について総括的に振りかえりながら、公共政策により解決が必要な公共的問題についてレポートを作成する。問題の把握、分析、多様な主体の関与等の公共政策の特徴の理解などの観点から評価する。
授業を通じての成長と理解度	25 %	： 授業で学んだ公共政策の意味や課題と、社会、住民との関係などを踏まえ、自分の活動と公共との関係をどのように把握、理解したかについて振り返りシートにより評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
秋吉貴雄	・ 入門　公共政策学	・ 中公新書	・ 2017　年

参考文献等

秋吉貴雄、伊藤修一郎、北山俊哉著『公共政策学の基礎（第3版）』(有斐閣ブックス、2020、ISBN978-4641184497)
西尾隆著『現代の行政と公共政策』（NHK出版、2016、ISBN978-4595316234)
新川達郎編『政策学入門－私たちの政策を考える』（法律文化社、2013、ISBN978-4589035288)
真山達志編著『政策実施の理論と実像』（ミネルヴァ書房、2016、ISBN978-4623077915)
新藤宗幸著『概説日本の公共政策（第2版）』（東京大学出版会、2020、ISBN978-4130322294)

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
授業外学修課題に取り組むとともに、授業内容の復習・予習を行うこと。
公共政策に常に関心を払うため、新聞、ニュース等で、政策に関する情報を収集すること。
なお、ゲストスピーカーの予定により授業計画を変更する場合がある。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日1限

場所： 西館4階研究室

備考・注意事項： 上記以外でも、研究室に在席中は対応可能です。この場合、あらかじめ連絡すること。（otsuka-y@osaka-seikei.ac.jp）

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**公共政策論の学びがめざすものについて** 本講義の目的、内容である公共政策とは、何を解決するのか、また、公共政策が立案され実施されていくプロセス、政策形成の主体等について概括的な事項を理解する。 この授業で得たい知識、成長させたい事項を予め設定し、学びの促進を図る。 また、最も身近な行政である地方自治体の事例を活用しながら、政策形成過程について学修していくという科目の目標を共有する。	教科書や参考資料、インターネット等で公共政策とは何かを調べておく。	4時間
第2回	**公共政策とは** 公共的問題の解決を図る公共政策の定義を確認し、政策、施策、事務事業という政策の体系や、政策を進める者等によって表明される場（政策の表出の場、機会、資料）について学ぶ。 また、政策が多様なアクターに関係することと、それによる難しさについて考察する。	政策が表明される施政方針を読み込み、当該自治体の政策、施策・事業の特徴を理解する。	4時間
第3回	**問題とは何か** 公共的問題の認識と、それが認識される要因について学ぶ。また、公共政策の階層化について、人口減少を例に、国が進めている政策を分析し考察する。 また、政策の窓モデルを用い、当該問題に対する政策が生まれる際の要因について考察する。	関心がある問題について、解決が必要な事項（課題）と、解決のために行われていることを調査する。	4時間
第4回	**行政計画** 公共政策実施のために策定、公表される行政計画について、市町村担当者から説明を受け、実際の計画内容や計画策定過程、計画において重点をおいたことや解決が難しい課題を知り、行政計画の目的や役割を学ぶ。	立地適正化計画を題材に、計画作成の必要と実効性、課題を調べる。	4時間
第5回	**政策過程１（解決策の設計）** 中心市街地活性化基本計画を題材に、中心市街地活性化という目標達成に向けた政策について、政策・施策・事業の検討や目標指標の設定、計画と実際の事業との関係を学ぶ。また、国と地方自治体との政策推進における関係について」考察する。	中心市街地活性化に関する政策の変化（法の改正など）を確認し、国と地方自治体との関係について調べる。また、実施する事業が網羅されている中心市街地活性化基本計画を調べ、解決策の内容を学ぶ。	4時間
第6回	**政策の立案、施策・事業の実施事例紹介** 実務経験を有する教員として、実際の政策、施策、事業の立案、実施に関する事例（経験）を紹介し、現場での問題解決の実際について知り、学ぶ。	身近な市町村での重点政策について調べておく。	4時間
第7回	**政策過程2（決定）** 公共施設の老朽化を題材に、議会での質疑、専門家等による委員会、自治体内での検討などを通じて、政策がまとまっていく過程を学ぶ。	議会会議録を調査し、質疑を通じてどのようなことが審議・議論されているのかを把握する。また、市町村におかれている審議会等の議事録についても調査する。	4時間
第8回	**政策過程3（実施その1－予算）** 予算の役割、予算編成過程、予算が示しているもの（政策～事業）など、予算化による施策・事業の決定と政策方針との関係を学ぶ。	予算編成方針などにより、自治体の政策や事業がどのようにすすめられているのかについて調べる。	4時間

第9回	**政策過程4（実施その2－事業の実施）** 政策実施の手段（直接供給・規制、誘引など）について知り、特に規制政策を中心に政策推進の仕組みと課題を考察する。	土地利用などの社会的規制や、営業許可などの経済的規制の内容や根拠、課題について調べる	4時間
第10回	**政策過程5（評価）** 政策評価、施策評価、事務事業評価について、中心市街地活性化基本計画フォローアップ報告を題材に、評価主体と結果などの実態、評価の課題について考察する。	各自治体で公表されている行政評価について、どのような方法で行われているか、評価内容や結果を調べる	4時間
第11回	**政策過程6（政策の改善、変更、廃止）** 事例を題材に、政策が変更、廃止される際の社会的な環境、背景を考えることで、廃止等の大きな変更の難しさ等について学ぶ。政策形成との共通点、異なるところについても考察する。	政策の変更、廃止の事例を調べて、政策の変更・廃止の状況を把握する。	4時間
第12回	**国民・住民と政策** 国民、住民が直接政策に関与する「レファレンダム」と「イニシアティブ」について、制度の状況と課題について学ぶ。レファレンダムについては、住民投票条例を、イニシアティブについては都市計画提案制度を基本に、現状、参加や実施における課題について学び、国民・住民とによる政策形成への参加について考える。 意見の対立が生まれるケースが多い「住民投票」について、その意義、課題・限界をディベート方式を活用しながら考える。	住民投票条例の事例を調べ、制度の内容、課題について考察すること。	4時間
第13回	**公共政策を支える人材** 公共政策を主として支える行政職員に求められる資質、果たすべき役割､住民との関係などについて考える。また、住民の一人として公共政策に関与することの必要性、重要性について考える。	これからの社会で求められ期待される職員の資質・能力について考え､将来の自分の姿を考える.	4時間
第14回	**授業全体の振り返り** 授業全体を通じて、気づいたこと、得たもの、これからの学修につなげていきたいことなどをまとめる。 公共政策に関係してきた実務経験のある教員として、学生からの質問､疑問に経験や事例から答え､本授業で学んできたことを振り返る。	今後の公共政策学修につなげていくため、学んだこと全体をしっかりと復習する。	4時間

232

授業科目名	公共政策フィールドワーク Ⅰ				
担当教員名	荒木俊之				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	民間企業に従事し、認定都市プランナーとして、地方自治体の都市計画やまちづくりなどに関する調査の実施や計画の策定などを支援した経験を有する。（全14回）				

授業概要

本授業は、地方自治体やNPO、地域など様々な主体との協力と協働により実施する。本授業では、統計データの分析やフィールドワークを通して地域の課題を理解するとともに、地域の課題に対して様々な主体へのインタビュー調査などからそれをより明確にし、そのうえで解決策を検討、提示する。フィールドワーク実習により、様々な統計データを分析する能力、グループワークの中でのファシリテーション能力、地域の課題の解決に向けた提案能力を身に付ける。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	現地調査やインタビュー調査などフィールドワークを実施する知識とスキル	現地調査やインタビュー調査などフィールドワークを通して、地域の現状や課題を理解し、政策課題解決に向けた取組みができる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		フィールドワークを通して、地域の課題を見つけることができる。
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		現地調査やインタビュー調査などフィールドワークを計画、立案し、実践することができる。
3. DP９.他者との協調・協働		グループワークを通した協調性を身につけ、協働して課題に取組むことができる。

学外連携学修

有り(連携先：吹田市役所、吹田市旭通商店街協同組合、NPO法人 JR吹田駅周辺まちづくり協議会などを想定)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業課題	20 %	： 授業で出す課題の内容が、妥当かつ的確であったかどうかなどで評価する。
授業への貢献	20 %	： 授業での発表内容やグループワークでの役割など授業への貢献度を評価する。
フィールドワーク	20 %	： フィールドワークの内容が、妥当かつ的確であったか、主体的な取組み姿勢であったかどうかなどで評価する。
中間報告・最終報告等		： 中間報告、最終報告および最終報告書の内容が、妥当かつ的確であったか、主体的な取組み市政であったかどかなどで評価する。

20　%

最終レポート　：　これまでの授業成果を振り返った最終レポートの構成や内容が、妥当かつ的確であったかどうかなどで評価する。

20　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

野間晴雄・香川貴志・土平 博・山田周二・河角龍典・小原丈明 編著「ジオ・パルNEO ［第2版］―地理学・地域調査便利帖―」海青社／2017年（第2刷2019年）（ISBN：9784860993153）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
なお、フィールドワークの実施状況などにより、授業内容や順序を変更する場合がある。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　火曜4限

場所：　西館3F 42研究室

備考・注意事項：　連絡を取りたい場合はメールでも可（araki-t@g.osaka-seikei.ac.jp）

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス：フィールドワークの目的** フィールドワークを通して地域を知ることの意義やその結果を地域の人々と共有することで、地域の課題を認識できることを理解する。	フィールドワークの目的や実施方法などについて、事前にインターネットや参考図書をもとに調べる。 授業後は、配布したレジュメや参考図書などをもとに復習し、理解を深める。	4時間
第2回	**対象地域の事前調査(1)** 対象地域にて実施中の具体的なイベントなどの取組みについて、現地にて確認する。	対象地域にて実施中の具体的なイベントなどの取組みについて、事前にインターネットや参考図書をもとに調べる。 授業（調査）後は、その際に捉えた問題や課題について復習し、理解を深める。	4時間
第3回	**対象地域の事前調査(2)** 国勢調査や経済センサス、自治体の統計結果などを用いて、地域のデータを取得し、そこから地域の現状などを読み取るスキルを習得する。	国勢調査や経済センサスの入手方法について、事前にインターネットや参考図書をもとに調べる。 授業後は、入手したデータを、図表などの整理し、地域の現状の理解を深める。	4時間
第4回	**フィールドワークの実施** 対象地域にて、具体的な地域の問題・課題の事象を捉える。	事前に、フィールドワークで必要な調査事項等を考える。 授業後は、フィールドワークで入手したデータや内容などを整理し、まとめる。	4時間
第5回	**フィールドワーク結果の共有** 個人ごとに整理したフィールドワークの成果をグループワークにて共有する。	事前に、第4回で実施したフィールドワークの内容などグループで共有しやすいように整理する。 授業後は、共有したフィールドワーク結果をもとに復習し、理解を深める。	4時間
第6回	**地域における問題・課題の把握(1)** NPOなどの主体による地域の現状等の理解や解説等により、地域の問題・課題を理解する。	第2回で整理した地域の現状などをもとに、事前に地域の問題や課題を考える。 授業後は、授業で示された問題や課題について復習し、理解を深める。	6時間
第7回	**地域における問題・課題の把握(2)** 事業者などの主体による地域の現状等の理解や解説等により、地域の問題・課題を理解する。	第2回で整理した地域の現状などをもとに、事前に問題や課題を考える。 授業後は、授業で示された問題や課題について復習し、理解を深める。	4時間
第8回	**地域における政策課題の把握** 行政が考える地域の現状等の理解や解説等により、地域の具体的な政策面の課題を理解する。	事前に、地域における政策面の課題をインターネットや参考図書をもとに調べ、考える。 授業後は、示された具体的な政策課題を復習し、その理解を深める。	4時間
第9回	**中間報告会に向けての提案内容の検討** NPOや事業者、行政など各主体からの解説やフィールドワーク結果をもとに、提案内容（たたき案）を検討し、作成する。	事前に、NPOや事業者、行政など各主体からの解説やフィールドワーク結果をもとに、提案内容（たたき案）を考える。 授業後は、まとめた企画内容を、グループでブラッシュアップする。	4時間

第10回	**中間報告会** グループごとに発表を行い（報告3分+質疑応答3分程度）、意見をもらう	事前に、中間調査報告会の発表準備を行う。 授業後は、出された意見などを整理し、企画内容に盛り込めるように、検討する。	4時間
第11回	**中間報告会を受けての提案内容の検討** 第10回の中間報告会での意見等をもとに、提案内容を見直し、再検討する。	事前に、出された意見をもとに、グループで共有すべき内容を整理する。 授業後は、検討した企画内容を復習し、理解を深める。	4時間
第12回	**最終報告会の資料作成** これまでの調査結果をもとに、最終報告会へ向けてのプレゼン資料を作成する。	事前に、最終報告会に向けて発表の構成や内容を考える。 授業後は、最終報告会に向けて整理した発表内容の理解を深める。	4時間
第13回	**最終報告会** グループごとに発表を行う（報告8分+質疑応答7分程度）。	事前に、最終調査報告会の発表準備を行う。 授業後は、出された意見などを整理し、その理解を深める。	4時間
第14回	**調査報告書の作成** 最終成果として調査報告書を作成する。	事前に、調査報告書の構成や記述内容などを考え、作成の準備を行う。 授業後は、これまで学んだ内容を復習し、今後の学びや進路選択に役立てる。	4時間

232

授業科目名	**公法Ⅱ**				
担当教員名	兒玉圭司				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本科目では行政や地方自治に関する法令を取り上げて、それらの法律の目的や内容・役割、どういった場面でどのように使われているのかを学びます。
このことを通じて、私たちの日常生活に国や自治体がどのように関わっているか、それらの行為が法律上どのような形で定められているか、実際に受講者の皆さんが困るような事態が生じた際にはどのような形で対応することができるのか、といった知識を身につけてもらえればと思います。
また、受講者の一部には公務員を志望している方もおいでだと思いますので、公務員の立場からは法とどのように向き合えばよいのか、についても随所で触れたいと思います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	行政法および地方自治法等と私たちの生活との関わりを知るとともに、それらの法の目的や内容・役割を学ぶ。	私たちの日常を取り巻く様々な問題に、法がどのように関わっているかを知ることができる。また、修得した知識を利用して、問題解決に向けてどのような選択肢が取れるかを自ら考え、説明できる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		日常生活に関わるさまざまな問題とその解決策について、自身で情報を収集するとともに、論点を見出し、さまざまな学説を自分なりに理解してまとめることができる。
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		具体的な事例（問題）に含まれる法律上の論点を見つけ出し、学んだ知識にもとづいて考え、自分なりの答えを見つけ、説明を行うことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験	40 %	： 「授業概要」や「養うべき力と到達目標」に記された各項目の内容を満たしているか否かを問います。
レポート・小課題	10 %	： 講義で扱った内容について、調べる・考える・説明する能力や理解度、理解の妥当性・論理性を確認します。
リアクションペーパー等	50 %	： 講義への質問や、興味深かった点などを記してもらうことで、主体的な参加度合いや理解の深さを確認します。また、講義内容の理解度について、簡単な到達度確認を行います。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
大橋洋一	・ 社会とつながる行政法入門［第2版］	・ 有斐閣	・ 2021　年
	・	・	・ 2014　年

参考文献等

・野呂充ほか『行政法〔第3版〕』（有斐閣、2023年、ISBN：978-4-641-15109-3）
・宇賀克也編『ブリッジブック行政法〔第3版〕』（信山社出版、2017年、ISBN：978-4-797-22357-6）
・伊藤真『伊藤真の行政法入門』（日本評論社、2021年、ISBN：978-4-535-52605-1）
・岡田正則『地方自治のしくみと法』（自治体研究社、2014年、ISBN：978-4-88037-621-9）
・北村亘『地方自治論―2つの自律性のはざまで 新版』（有斐閣、2024年、ISBN：978-4-641-15121-5）
・池村好道・西原雄二編『地方自治法[第2版]』（弘文堂、2024年、ISBN：978-4-335-00254-0）
・板垣勝彦『自治体職員のためのようこそ地方自治法[第4班]』（第一法規、2024年、ISBN：978-4-474-09512-0）
そのほか、講義中に適宜、参考文献を示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をしてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　木曜日昼休み

場所：　非常勤講師室

備考・注意事項：　上記時間帯以外のご質問・ご相談は、メールでご連絡ください。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス－行政法とは何か** ・本科目の概要や狙い ・行政法とは何か ・「日本国憲法」と地方自治	これまでに学んできた科目（たとえば「公法Ⅰ」など）の中で、地方自治に関係する内容について復習しておいてください。	4時間
第2回	**法律による行政の原理** ・法律による行政の原理 ・法律による行政の原理の内容 ・法律の留保	教科書のChapter2を読んで、各自で理解を深めておいてください。	4時間
第3回	**行政上の一般原則** ・法治主義 ・比例原則 ・平等原則 ・信頼保護原則	教科書のChapter3,4を読んで、各自で理解を深めておいてください。	4時間
第4回	**行政行為・行政手続** ・行政行為 ・行政裁量 ・行政手続法	教科書のChapter5,6を読んで、各自で理解を深めておいてください。	4時間
第5回	**行政基準・行政計画** ・行政基準 ・委任立法 ・行政計画 ・行政計画の法的統制	教科書のChapter7,8を読んで、各自で理解を深めておいてください。	4時間
第6回	**行政指導・事実行為** ・行政指導の機能 ・行政指導の法的統制 ・事実行為	教科書のChapter9,10を読んで、各自で理解を深めておいてください。	4時間
第7回	**実効性確保手段** ・行政上の強制執行 ・行政上の義務違反に対する制裁 ・即時強制	教科書のChapter11を読んで、各自で理解を深めておいてください。	4時間
第8回	**情報公開法** ・行政調査制度 ・情報公開制度 ・個人情報保護制度	教科書のChapter12を読んで、各自で理解を深めておいてください。	4時間
第9回	**行政訴訟** ・行政訴訟の種類 ・取消訴訟 ・取消訴訟以外の抗告訴訟 ・抗告訴訟以外の行政訴訟 ・仮の救済	教科書のChapter13～15を読んで、各自で理解を深めておいてください。	4時間
第10回	**行政上の不服申立て** ・不服申立てとは ・審査請求とその手続き ・行政訴訟との使い分け	教科書のChapter16を読んで、各自で理解を深めておいてください。	4時間
第11回	**国家賠償・損失補償**	教科書のChapter17,18を読んで、各自で理解を深めておいてください。	4時間

	・国家賠償法について ・国家賠償法による責任 ・公務員の故意・過失 ・損失補償について ・国家賠償の谷間		
第12回	**行政組織法** ・行政組織法総論 ・国の行政組織に関する法 ・地方自治法	参考文献に掲げた野呂充ほか『行政法[第3版]』のChapter1や、宇賀克也編『ブリッジブック行政法〔第3版〕』の第16講義などを読んで、各自で理解を深めておいてください。	4時間
第13回	**地方自治のしくみと法①** ・地方自治の理念と歴史 ・地方自治体の事務と条例制定権 ・住民の権利と住民自治のしくみ	参考文献に掲げた岡田正則『地方自治のしくみと法』の第1～3章を読んで、各自で理解を深めておいてください。	4時間
第14回	**地方自治のしくみと法②** ・地方議会と執行機関の活動 ・自治体運営のしくみと方法 ・公務員と公務関連労働者	参考文献に掲げた岡田正則『地方自治のしくみと法』の第1～3章を読んで、各自で理解を深めておいてください。	4時間

232

授業科目名	**公共社会学**				
担当教員名	菅文彦				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

この授業は、社会学の主要な領域の概念と理論について現実の事象に照らし合わせながら探究していきます。
特に後半では「公共」と関わりの深い領域(環境、都市と地域、公共圏)を重点的に学びます。
社会学の出発点は「世の中に対する違和感」ともいえます。その違和感から学問的な問いが立てられ、数々の理論が生まれてきました。
あなた自身は何者なのか(アイデンティティ)、そしてあなた自身を取り巻くもの(家族、仲間、コミュニティ、都市、自然環境など)の本質とは何であり、これからどこへ向かおうとしているのか、そこであなたはなにができるのか、その解のひとかけらをこの授業で見つけることを期待します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	現代的テーマに即した社会学の理論と知見	ジェンダーや家族、地域社会、メディア、NPOといった現代的テーマに即した社会学の最新の知見に触れる
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		各テーマでの社会学の知見に触れることを通して、我々を取り巻く社会にはどのような課題があり、そして私たちはその課題にどのように関わっているのかに気づく
2. DP８.他者とのコミュニケーション		受講生どうしの対話を通して、互いの経験知や理解、分析視座を交換・共有し、新たな知を創造するコミュニケーション力を身につける
3. DP10.忠恕の心		授業の学びを通して社会に生きる多様な当事者の声に触れ、そうした当事者の課題を「自分ごと」として共感する力を身につける

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・eラーニング、反転授業
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業時の課題	60 %	： 毎回授業の事前課題や「問い」に対する自主学習の質を独自ルーブリックにより評価します
期末レポート	40 %	： 関心のある社会課題を取り上げ、それを社会学の視点や理論を通して分析し、その解決方法やそれに向けた自分の人生におけるアクションについてレポートを作成します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

・「よくわかる社会学[第3版]（やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ）宇都宮京子／西澤晃彦（ミネルヴァ書房／2020年）（ISBN：978-4623089710）
・「よくわかる社会学史(やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ）早川洋行(ミネルヴァ書房／2011年）（ISBN：978-4623059904）
・「大学4年間の社会学が10時間でざっと学べる」 出口 剛司（KADOKAWA／2019年） （ISBN：978-4046059765）
・「社会学入門－人間と社会の未来」 見田 宗介（岩波書店／2006年） （ISBN：978-4004310099）
・「社会学入門－社会とのかかわり方」 筒井 淳也／前田 泰樹（有斐閣／2017年） （ISBN：978-4641150461）
・「大学生のための社会学入門」 篠原 清夫／栗田 真樹（晃洋書房／2016年） （ISBN：978-4771027176）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜2限

場所：　研究室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション／社会学とは何か・基本的視座** 1 授業の説明 2 社会学とは何か 3 社会学の基本的視座 　行為論・相互作用論・構造論	・授業シラバスを事前に確認しておく	4時間
第2回	**アイデンティティ：〈私〉をめぐる社会学①** 1 自己について 2 自我と他者とのコミュニケーション 3 第二の近代における自己 4 記憶と忘却	授業テキスト(classroom 事前配布)を精読する・わからない用語があれば調べておく・気になることは自ら探求学習しておく	4時間
第3回	**社会的性格・準拠集団・イデオロギー：〈私〉をめぐる社会学②** 1 文化とパーソナリティ 2 準拠集団論 3 イデオロギーとは 4 知識と社会	授業テキスト(classroom 事前配布)を精読する・わからない用語があれば調べておく・気になることは自ら探求学習しておく	4時間
第4回	**家族をめぐる社会学／若者と子どもをめぐる社会学** 1 家族の絆とは何か 2 結婚の個人化 3 夫婦の関係 4 親子の関係 5 「家」制度から夫婦家族制度,核家族化へ:家族変動を捉える枠組み 6 閉じた家族,開く家族:脱近代家族 1 若者たちの「やさしい関係」 2 児童・生徒におけるいじめ 3 インセンティブ・ディバイド 4 子どもの貧困 5 青年期の長期化と友人関係	授業テキスト(classroom 事前配布)を精読する・わからない用語があれば調べておく・気になることは自ら探求学習しておく	4時間
第5回	**ジェンダーとセクシュアリティをめぐる社会学** 1〈女らしさ〉〈男らしさ〉を問い直す 2 ジェンダーの社会化 3 ワーク・ライフ・バランス 4 政治参画と公共圏 5 セクシュアリティとは何か 6 セクシュアリティとアイデンティティ 7 セクシュアリティと結婚・家族・国家	授業テキスト(classroom 事前配布)を精読する・わからない用語があれば調べておく・気になることは自ら探求学習しておく	4時間
第6回	**グローバル社会とエスニシティをめぐる社会学** 1 「エスニシティ」とは何か 2 国民国家とその課題 3 難民・移民をめぐる諸問題 4 多文化社会とその課題 5 日本の現状	授業テキスト(classroom 事前配布)を精読する・わからない用語があれば調べておく・気になることは自ら探求学習しておく	4時間
第7回	**メディアと情報化をめぐる社会学** 1 メディアとは何か 2 活字メディアと近代社会 3 情報化社会とその実現 4 スマートフォン時代のインターネット 5 情報化社会を捉える理論と方法 6 情報化社会の公共性	授業テキスト(classroom 事前配布)を精読する・わからない用語があれば調べておく・気になることは自ら探求学習しておく	4時間
第8回	**労働・職場をめぐる社会学／階層・階級をめぐる社会学**	授業テキスト(classroom 事前配布)を精読する・わからない用語があれば調べておく・気になることは自ら探求学習しておく	4時間

	1 就業形態の多様化 2 フォーディズムと労使関係 3 ポストフォーディズム 4 感情労働 1 階級と階層 2 日本の階級・階層構造とその変動 3 階級再生産とメリトクラシー 4 社会的排除と貧困		
第9回	**社会的逸脱をめぐる社会学** 1 デュルケームの理論 2 シカゴ学派の理論 3 緊張理論、逸脱の文化論、ラベリング論	授業テキスト(classroom 事前配布)を精読する・わからない用語があれば調べておく・気になることは自ら探求学習しておく	4時間
第10回	**社会運動をめぐる社会学** 1 デモと民主主義:社会運動は社会を変える 2 社会運動:新しい社会運動とユニオン運動 3 NPO/NGOと市民社会 4 後期近代におけるボランティア活動 5 東日本大震災とNPO・ボランティア	授業テキスト(classroom 事前配布)を精読する・わからない用語があれば調べておく・気になることは自ら探求学習しておく	4時間
第11回	**環境をめぐる社会学** 1 環境社会学の始まり 2 主要な問題領域 3 環境問題、環境共存の社会学的研究	授業テキスト(classroom 事前配布)を精読する・わからない用語があれば調べておく・気になることは自ら探求学習しておく	4時間
第12回	**都市と地域をめぐる社会学　序編** 1 都市社会学の誕生 2 戦後日本の都市社会学の展開 3 脱工業化時代の都市社会学 4 地域再生にむけて	授業テキスト(classroom 事前配布)を精読する・わからない用語があれば調べておく・気になることは自ら探求学習しておく	4時間
第13回	**都市と地域をめぐる社会学　本編** 1 人間にとって都市とは何か:アーバニズム論の系譜 2 シカゴ学派:都市社会学の「発生」 3 コミュニティはどこにあるのか 4 都市の死: ディズニーランド化・ジェントリフィケーション・郊外	授業テキスト(classroom 事前配布)を精読する・わからない用語があれば調べておく・気になることは自ら探求学習しておく	4時間
第14回	**公共圏・新しい公共** 1 ハーバーマス: 公共性の構造転換 2 公共圏 3 新しい公共 4 新たな問いの設定: 我々は何を見出していくべきか	・この授業全体を通して何を学んだかを考えておく	4時間

233

授業科目名	**情報法学**				
担当教員名	千代原亮一				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

情報をめぐる法と倫理について学ぶ。
マスメディアが「第四の権力」と呼ばれて久しいですが、本来、「情報の送り手」として国家と国民との情報の橋渡し役を務めるはずのマスメディアが、必ずしもその役割を果たしていないのではないかという批判が沸き起こっています。本講義では、表現の自由の優越的地位やマスメディアの権利などの古典的な論点から、ヘイトスピーチやリベンジポルノなどの新たな問題まで、マスメディアの正負、両方の側面に焦点を当てて、主要な判例の分析を通じてマスメディア本来の役割について解き明かしていきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	具体的な事例の分析を通じて、バランスのとれたものの見方、法的なものの見方の基礎を身につけ、政治問題や社会問題についてより深く理解する。	具体的な事例の分析を通じて、バランスのとれたものの見方、法的なものの見方の基礎を養い、政治問題や社会問題についてより深く理解できるようになる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		複雑な事象の中から解決すべき課題を抽出し、真の原因を見出し、その解決策を提示することができる。
2. DP８.他者とのコミュニケーション		他人の意見や主張を正確に把握し、他人との意見や主張の違いを理解した上で、自分の意見や主張を他人に対して正確に伝えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験	60 %	： 定期試験の答案により問題発見力と実践力を評価する。講義内容を踏まえた上で、一定程度のレベルを超えた試験答案の内容を合格とする。単にテキストや講義資料の内容を丸写しした内容では、合格とはしない。
授業中課題	30 %	： 討議などでの発言内容により授業貢献度を評価する。教員との質疑応答、他の受講生とのグループ討議及びディベートへの参加態度について、積極的に発言し、主体的に議論に参加する態度を示した場合に合格とする。
授業貢献	10 %	： 授業中に配布する課題の内容により理解力を評価する。講義内容を踏まえた上で、一定程度のレベルを超えた課題答案の内容を合格とする。単にテキストや講義資料の内容を丸写しした内容では、合格とはしない。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
長谷部恭男・山口いつ子・宍戸常寿（編）	・『メディア判例百選［第2版］』（別冊Jurist241号）	・有斐閣	・2018　年

参考文献等

①宍戸常寿編著『新・判例ハンドブック情報法』（日本評論社、ISBN：978-4535008311）、②松井茂記『マスメディア法入門（第5版）』（日本評論社、ISBN：978-4535519787）、③鈴木秀美・山田健太編著『よくわかるメディア法』（ミネルヴァ書房、ISBN： 978-4623085637）。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
・やむを得ず授業を欠席する場合は、文書にて速やかに届け出ること。
・授業中は、ディスカッションや質疑にも積極的に参加すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 金曜5時限目

場所： 西館3階個人研究室

備考・注意事項： メールアドレスは、chiyohara@osaka-seikei.ac.jp

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**取材・報道の自由①（取材源の秘匿と取材の自由）** 国家秘密の保護、および取材源の秘匿に関する重要判例をフォローした上で、取材・報道の自由とメディアの地位について考察する。	教科書の判例1・4を読んで、事実の概要と判旨をまとめておこう。	4時間
第2回	**取材・報道の自由②（報道の自由と公正な裁判）** 司法機関からのメディアに対する取材ビデオテープの差し押さえに関する重要判例をフォローした上で、報道の自由と公正な裁判の関係について考察する。	教科書の判例6・7・11を読んで、事実の概要と判旨をまとめておこう。	4時間
第3回	**情報公開と知る権利** 国民の「知る権利」と国家の「アカウンタビリティ」を具現化する制度としての情報公開法制について概説する。	教科書の判例12・13・14を読んで、事実の概要と判旨をまとめておこう。	4時間
第4回	**名誉毀損①（名誉毀損の基本原理）** 表現行為に対する規制の代表例としての名誉毀損制度について、表現の自由との関係、および免責要件を中心に概説する。	教科書の判例20・21・23・24・26を読んで、事実の概要と判旨をまとめておこう。	4時間
第5回	**名誉毀損②（意見・論評と名誉毀損）** 名誉毀損の免責法理の一つである「公正な論評の法理」について、概説する。	教科書の判例33・34・35・36を読んで、事実の概要と判旨をまとめておこう。	4時間
第6回	**名誉毀損③（名誉毀損の救済手段）** 名誉毀損の救済手段である損害賠償請求、謝罪広告及び反論文掲載の請求、事前差し止め、のそれぞれの制度の問題点について、表現の自由の保障との関係において概説する。	教科書の判例70・72・73・77を読んで、事実の概要と判旨をまとめておこう。	4時間
第7回	**プライバシー侵害とプライバシーの権利①（プライバシー侵害の成立要件）** プライバシーの権利の生成過程、権利概念の変遷についてフォローした上で、プライバシー侵害の成立要件について概説する。	教科書の判例40・41・42・43を読んで、事実の概要と判旨をまとめておこう。	4時間
第8回	**プライバシー侵害とプライバシーの権利②（少年事件報道と少年法61条）** 表現行為に対する規制の代表例としてのプライバシー侵害言論の規制について、少年法61条の問題を中心に概説する。	教科書の判例47・48を読んで、事実の概要と判旨をまとめておこう。	4時間
第9回	**プライバシー侵害とプライバシーの権利③（プライバシー侵害の救済手段）** プライバシー侵害の救済手段である損害賠償請求、事前差し止め、のそれぞれの制度の問題点について、表現の自由の保障との関係において概説する。	教科書の判例69・74・75・76を読んで、事実の概要と判旨をまとめておこう。	4時間
第10回	**性表現規制** 表現行為に対する内容着目規制としてのわいせつ表現規制、児童ポルノ規制、有害表現規制について概説し、その合憲性について考察する。	教科書の判例55・56・57・60を読んで、事実の概要と判旨をまとめておこう。	4時間
第11回	**新聞・出版に対する規制** プリント・メディアの代表例である新聞および出版に対する法規制について、表現の自由の保障との関係において概説する。	教科書の判例79・84・85を読んで、事実の概要と判旨をまとめておこう。	4時間
第12回	**放送法の規制**	教科書の判例89・92・98を読んで、事実の概要と判旨をまとめておこう。	4時間

	「発掘あるある大事典Ⅱ」事件や「生活ほっとモーニング」事件など、近年、その被害が問題となっている放送メディアについて、BPOの存在意義なども踏まえながら概説する。		
第13回	**インターネットと法①（名誉棄損とプロバイダ責任制限法）** 我々の生活を豊かにする一方で、様々な問題を引き起こしているインターネットの問題について、特に名誉棄損とプロバイダ責任制限法の関係に関して概説する。	教科書の判例110・111・112・113・114を読んで、事実の概要と判旨をまとめておこう。	4時間
第14回	**インターネットと法②（検索結果の削除請求と忘れられる権利）** 我々の生活を豊かにする一方で、様々な問題を引き起こしているインターネットの問題について、特に検索結果の削除請求と忘れられる権利の関係に関して概説する。	教科書の判例115・116・117を読んで、事実の概要と判旨をまとめておこう。	4時間

233

授業科目名	産業経営史				
担当教員名	都築晶				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

この授業では、日本企業の経営の個性、すなわち「日本的経営」の特徴および成立過程について説明をする。「日本的経営」と知られている経営現象は、第2次大戦後の高度成長期に全面的に開花した。「日本的経営」論はこの時に始まった。本講義では、「日本的経営」の元となった近代以降から、それが開花した現代までの期間について、その時々の時代背景とあわせ主要な産業の事例をもとに「日本的経営」がどのように展開し、現在に影響を与えているかを説明する。
期末試験の他に中間のレポートを課す予定である。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.現代社会におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	産業、経営に対する知識	歴史的経緯を通じて日本の現状を理解する。
2. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	組織に対する知識	歴史的経緯を通じて日本の組織文化を理解する。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		企業や産業について、自ら興味を持ち調査、情報収集する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
レポート	20 %	： 学生自ら興味を持った企業、ないし産業を対象として、それらの設立経緯、現状、経営上の強み、あるいは課題についてしっかりまとめているかどうかで評価する。
試験もしくは期末レポート	80 %	： 授業内容を中心に出題。しっかりと内容を理解しているかを基準に評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

宮本又郎ほか著『日本経営史〔第3版〕』(有斐閣、2023年、ISBN:978-4641166172)
その他参考書は授業中に紹介する

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業時間の前後の時間帯

場所：　授業教室

備考・注意事項：　原則として授業の前後に質問を受け付ける。
緊急の場合は教務科に問い合わせること。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンスー学びのポイントに関する解説ー** 産業経営史を学ぶ意義について	産業経営史を学ぶ意義について新聞やニュースにより現状を把握する。授業中に紹介した参考書を読む等。	4時間
第2回	**近世における企業経営ー三井家についてー** 江戸時代の商家経営、日本型企業経営の起源について	日本型企業経営の起源について新聞やニュースにより現状を把握する。授業中に紹介した参考書を読む等	4時間
第3回	**近世における企業経営ー近江商人についてー** 江戸時代の商家経営、日本型企業経営の起源について	江戸時代の商家経営について新聞やニュースにより現状を把握する。授業中に紹介した参考書を読む等	4時間
第4回	**近世から近代へ** 開港と維新、産業構造の変化と近代産業の定着について	産業構造の変化と近代産業の定着について新聞やニュースにより現状を把握する。授業中に紹介した参考書を読む等	4時間
第5回	**近代経営の形成** 企業家、専門経営者の出現、財閥の誕生について	企業家、専門経営者の出現、財閥の誕生について新聞やニュースにより現状を把握する。授業中に紹介した参考書を読む等	4時間
第6回	**近代経営の形成と展開** 企業活動の国際化（特に商社）について	企業活動の国際化（特に商社）について新聞やニュースにより現状を把握する。授業中に紹介した参考書を読む等	4時間
第7回	**戦前における企業経営の変容** 経営合理化と日本型労務管理について	経営合理化と日本型労務管理について新聞やニュースにより現状を把握する。授業中に紹介した参考書を読む等	4時間
第8回	**第８回　財閥の変化と新興財閥** 財閥の変化（いわゆる財閥の転向）や新たに成長した財閥について	財閥の変化（いわゆる財閥の転向）について新聞やニュースにより現状を把握する。授業中に紹介した参考書を読む等	4時間
第9回	**戦後における企業経営** 戦後改革期における企業経営について	戦後改革期における企業経営について新聞やニュースにより現状を把握する。授業中に紹介した参考書を読む等	4時間
第10回	**日本的経営の展開** 企業集団の出現とその展開について	企業集団の出現とその展開について新聞やニュースにより現状を把握する。授業中に紹介した参考書を読む等	4時間
第11回	**産業構造の変化** 産業構造の変化とそれに伴う国民生活の変化について	産業構造の変化とそれに伴う国民生活の変化について新聞やニュースにより現状を把握する。授業中に紹介した参考書を読む等	4時間
第12回	**日本企業の海外進出** どの産業がいつ、どこに進出していたのか	日本企業の海外進出について新聞やニュースにより現状を把握する。授業中に紹介した参考書を読む等	4時間
第13回	**自動車産業** 戦後の自動車産業、特にトヨタ生産システムについて	戦後の自動車産業、特にトヨタ生産システムについて新聞やニュースにより現状を把握する。授業中に紹介した参考書を読む等	4時間
第14回	**現代における企業経営** 現代における企業経営環境の変化と今後の展望について	現代における企業経営環境の変化と今後の展望について新聞やニュースにより現状を把握する。授業中に紹介した参考書を読む等	4時間

233

授業科目名	国際経済学				
担当教員名	藤森梓				
学年・コース等	3年、4年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

この講義では、経済学の応用分野である国際経済学の理論に関する知識を修得し、国際社会における様々な問題について考察を深めていきます。前半の講義では、国際経済学の諸理論を概観し、経済学的な思考方法をトレーニングします。後半の講義では、国際経済学の理論を踏まえて、現実の国際政治・経済のトピックを取り上げながら、問題の本質について検証していきます。講義で取り上げるトピックは、いずれも国際経済の重要な論点であり、国際ビジネスの世界で生きていく上でも有用な知識となるでしょう。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.現代社会におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	世界で何が起こっているのか、国際経済の諸問題を理解し、その本質について考察を深める。	経済学的視点から、国際経済問題について論理的な思考・議論ができるようになる。
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	国際経済学に関する知識をビジネス現場への応用力を身に付ける。	国際経済の状況を正確に理解し、ビジネスの現場に応用できるような力を身に付ける。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		国際経済の問題について、表層的な議論のみならず、その本質を見極める力を身に付ける。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
期末試験	70 %	： 国際経済学の理論の基礎を理解し、それを踏まて国際経済に関する時事問題をきちんと分析できているかを評価します。
小レポート	20 %	： 原則、毎回の授業で提出を求めます。授業内容を踏まえた上で、きちんと内容が記述されているかを評価します。
中間レポート	10 %	： 講義内容に関連したレポートの提出を求めます（1回）。授業内容を的確に理解した上でレポートが作成されているかを評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

初回の授業でリーディングリストを配布します。また、講義内でも適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をして下さい。
本講義の内容を深く理解するためには、国際社会の動きを正しく理解することが必須です。新聞やニュースなどを通して、国際情勢に常に注意を払って下さい。
授業の資料等はGoogle Classroomで配布します。登録については初回の授業でガイダンスを行います。

※本授業を履修する場合は、大学共通科目の「経済入門」/「現代社会と経済」および「経済学概論」を履修しておくことをお勧めします。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜4限

場所： 研究室（西館4階）

備考・注意事項： 授業に関する質問は、授業の前後、または研究室でのオフィスアワー（月曜日午後の予定）にて受け付けます。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス～国際経済学への導入～** 講義に関するガイダンス、経済学の内容を復習しながら国際経済学を学ぶ意味について考えます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（「経済入門」や「経済学概論」の内容の復習）	4時間
第2回	**国際経済学についての概説** 「国際経済学」に関する理解を深めます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（国際経済学という学問の性質を理解する）	4時間
第3回	**貿易のしくみ（1）～貿易の諸理論について～** なぜ貿易が発生するのか、貿易に関する諸理論を紹介します。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（講義内で紹介する貿易理論を論理的に理解する）	4時間
第4回	**貿易のしくみ（2）～保護貿易と自由貿易～** 自由貿易と保護貿易のメリット・デメリットについてそれぞれ説明し、貿易政策のあり方について考えます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（講義内容を応用し、日本の貿易政策について考える）	4時間
第5回	**貿易のしくみ（3）～世界貿易体制の変遷～** 第二次世界大戦後の世界の貿易体制を中心に、GATTからWTOにつながる貿易制度の変遷および問題点について講義します。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（WTO交渉の問題点について考える）	4時間
第6回	**国際金融（1）～資本移動と為替制度～** 現代の為替制度の概要を理解し、為替レート決定のについて学びます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（為替レートの変動が国内経済に与える影響について考える）	4時間
第7回	**国際金融（2）～国際通貨制度の変遷～** 第二次世界大戦後、国際通貨制度がどのように変化してきたのかを学びます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（現在の国際通貨制度の概要と問題点について考える）	4時間
第8回	**経済統合（1）～経済統合の理論～** 地域経済統合のプロセスについてメリット・デメリットを踏まえながら学びます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（講義内容を踏まえて、実際の経済統合の事例を分析する）	4時間
第9回	**経済統合（2）～EUのケース・スタディ～** 欧州における経済統合の歴史と現状について経済学的視点から学びます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（EUが直面する問題の本質について考える）	4時間
第10回	**経済開発（1）～貧困のメカニズム～** 貧困の定義について説明し、なぜ貧困の要因について考えます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（「貧困の罠」について理解を深める）	4時間
第11回	**経済開発（2）～貧困削減に向けて～** 短編のドキュメンタリー映画を見ながら、貧困削減に向けたさまざまな取り組みについて学びます。	講講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（フェアトレードの経済効果について考える）	4時間
第12回	**国際経済と環境問題** 経済活動と環境問題の関係について理解を深めます。また地球規模での環境問題を把握し、国際的な取り組みについても学びます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（地球温暖化防止に向けた国際的取り組みについて考える）	4時間
第13回	**日本におけるグローバル化の諸相** 日本を取り巻くさまざまな国際経済問題の現状と課題について学びます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（アジアにおける経済統合と日本経済の関係について考える）	4時間
第14回	**講義のまとめ** 講義全体を振り返りながら、国際経済学的な考え方を復習します。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（講義内容を振り返りながら要点をまとめる）	4時間

233

授業科目名	**ビジネス法学**				
担当教員名	橋谷聡一				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	債権回収会社（宅建業者）にて金融機関から債権譲渡を受け債権回収業務等を行った。また、特にビジネス法に関する事項としては、業界団体にて金融商品取引法等の法令制定から適用までの調査、会員向けコンサルティング、Jリートの合併施策の立案等の実務経験がある。				

授業概要

ビジネス・ローに明確な定義はありません。しかし、基本となる考え方のほか、民法、商法、会社法等の総合的な知識が土台となります。また、これらの関係についても知る必要があります。
例えば、企業が取引を行う場合、民法が基礎となりますし、会社の仕組みを理解するためには会社法の基本的な知識が求められます。
そのため、法学を学んだことがない学生の方も対象として法律の基本的な考え方から民法の重要なコンセプト、会社制度の基本的な知識を学びます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.現代社会におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	社会人であれば、だれもが知っておく必要がある会社法を中心とした商法やビジネス法について、確かな知識を身に着けること。	会社法を中心とした商法、ビジネス法について、どのようなものかを、説明できること。
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	日本には、どのような企業類型があり、それぞれがどのような特徴を有して経済活動を行っているか、専門的知識を身に着けること。	日本の企業形態、人材、設備、資金、情報について、実務で用いることができる知識を身に着けること。

汎用的な力	
1. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み	レポート作成を通じ、学んだ内容、調べた内容を文章にまとめる力を涵養する。
2. DP８.他者とのコミュニケーション	質疑、応答を繰り返すことで、問いかけられている内容の理解と正確な対応ができるようにする。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・その他(以下に概要を記述)

講義中に問いかけと考える時間を置き、自ら考える姿勢を養いたいと思います。直接、口頭で答えを求めることは苦手な方もいると思いますので原則としては行いません。

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
課題レポート	50 %	： レポート課題の内容に即して、調べたことを正しい日本語で書くことができているか。
ウェブラーニングテスト	50 %	： 講義で述べた基礎的な知識が身についているかどうか。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
池島　真策 ・橋谷　聡一	・『民法・商法からはじめる　ビジネス法入門』	・ 税務経理協会	・ 2023　年

参考文献等

池島真策・橋谷聡一　編『はじめてのビジネス法』（2017年、晃洋書房）

ISBN-13 ： 978-4771028241

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 講義終了後、10分。

場所： 非常勤講師室。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**イントロダクション** これから学ぶビジネス法の概要について説明する。また、教科書を概観し、どのような流れでこの講義が進められていくのか説明する。 さらに、この講義ではレポート課題を必須としていることから、レポートを書くにあたってのリサーチ方法、書き方などについても指示する。 受講生の理解状況を見ながら、シラバス内容を変更することがある。	法律の調べ方を学ぶ。	4時間
第2回	**第Ⅰ章ビジネスにおける法　Ⅰ－１ビジネスにかかわる法** ビジネス法について考える場合、その対象を考える必要がある。他の法、例えば、憲法であれば六法の憲法を学べばよいが、ビジネス法はその範囲が定まっているわけではない。そのため、ビジネスで出会う法的課題にどのような方が適用されるか、考えるという姿勢を養いたい。	日常生活やアルバイトでどのような法が関わるか考える。	4時間
第3回	**Ⅰ－２　民法と商法の関係 、Ⅰ－３　コンプライアンス** ビジネスの主要な法である民法と商法との関係について考える。民法は私法の一般法であり、商法はその特別法となる。また、近時コンプライアンスが強調されることが多いが、コンプライアンスとは何かについて基本的な事項を学ぶ。	コンプライアンス上の問題についてニュースを調べる。	4時間
第4回	**Ⅰ－４　訴訟に備える法務、 Ⅰ－５　ビジネスの展開とルールメイキング** みなさんが法務部に勤務した場合や営業パーソンとして求められる対応のヒントについて考える。これに加えて、新たな技術革新が進む中で、それらと法との関係を整理するために提供されている仕組みについて学ぶ。	電動キックスケーターはどのような条件を満たせば免許無しで公道を走行できるか、以前はどうだったか。	4時間
第5回	**第Ⅱ章民法　 Ⅱ－１民法概論 Ⅱ－２　人と物** ビジネス法の基礎となる民法について、その構造を学ぶ。権利の主体となる人に加えて、その客体となる物とは何かについて学習する。あくまでも民法上の権利の客体であり特別法が別に存在することには留意が必要である。基本的なことではあるが重要な概念である。	日常生活と民法との関係について考える。	4時間
第6回	**Ⅱ－３　債権①―債権の発生原因―、Ⅱ－４　債権②　―債務不履行―** 日本の民法では物権と債権を厳格に区別するが、債権はどのような理由で生じるのか、また、例えば、契約から生じた債務が履行されない場合、どのような対応を取ることができるかまなぶ。	日常生活で生まれる債権債務関係について考えてみる。	4時間
第7回	**Ⅱ－５　売買①―売買の基礎―** 最も身近な契約である売買について学習する。意識したことはないかもしれないが、学習者の皆さんは一日に何件かの売買契約を締結している。その場合、代金の支払いと商品の引き渡しが同時に行われることが多い。次回の講義との異同も意識しつつ聞いていただきたい。	どのような売買契約を最近締結したか振り返ってほしい。	4時間
第8回	**Ⅱ－６　売買②―不動産売買と登記―** 不動産売買の場合、契約締結と決済の時期的なズレが生じる。つまり、日常の売買契約とは異なり、時間的な流れが生じる。このような取引の特徴を学ぶとともに、不動産登記が果たす役割を学ぶ。	不動産取引についてネット等を利用して調べる。	4時間
第9回	**Ⅱ－７　売買③―代理や類似の概念―** 自らが専門性を有しないことや契約の場所が離れている場合、代理人を利用することがある。他にも、未成年者の契約を親権者が代理することもある。この制度の基本を学ぶ。	代理が有効に機能するための要件を確認する。	4時間
第10回	**Ⅱ－８　貸借① Ⅱ－９、貸借②―不動産の賃貸借―** ものやお金を貸し借りすることがある。これを貸借というが賃料を支払う場合が大半であり、賃貸借と呼ばれる。本講義ではその基本原則と不動産の賃貸借について学習する。	身近な借りる契約はどのような物があるか調べる。	4時間
第11回	**Ⅱ－10　委任・請負・雇用** 典型契約のうち、委任、請負、雇用など他人の労力を利用する契約について学ぶ。特に雇用については多くの方が卒業後、企業等で労働するわけであることから労働基準法等についても学習する。	アルバイトをしている方はその内容を確認する。	4時間
第12回	**第Ⅲ章　商法 Ⅲ－１商法概論** 	自ら、ビジネスをどのように運営すればスムースかを熟考する。	4時間

	民法の特別法である商法とはどのような法律なのかを学ぶ。ビジネスにおいては、たとえ儲けが薄くとも、大量に、繰り返し、素早く取引することで成功することができることがあるし、これが基本的な考え方となる。		
第13回	**Ⅳ－１　会社法概要 、Ⅳ－２　会社形態―株式会社・持分会社―** 会社には持分会社（組合の発展形に近い、内部規律の自由な会社）と株式会社が存在する。持分会社の基本的な仕組みを学ぶとともに、現在、主な事業主体となる株式会社の基本的な仕組みについても学習する。	インターネットで有名な会社がどのような会社形態をとっているか調べる。	4時間
第14回	**Ⅳ－３　会社の資金調達―株式・社債の発行―、 Ⅳ－４　株式会社の機関構造** 会社は資金調達し、それを事業に投資し、利益をえる。どのように資金調達を行うかと、事業が有効かつ効率的に行われているかを実行し、チェックする株式会社の機関について学ぶ。	有名な企業がどのような機関を置いているかネットで調べる。	4時間

233

授業科目名	**職業指導**				
担当教員名	南谷雄司				
学年・コース等	3・4年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	経理専門学校(２年) ・兵庫県立高等学校教諭(２４年) ・教頭(８年) ・校長(２年)・医療福祉専門学校(５年) ・短期大学(５年)・大学(６年) ・コミュニテイカレッジ(１９年) ・進路指導(職業指導１３年) 商品開発(５品目) ・ビジネスアイデア指導(５年)の勤務経験 (全１５回)				

授業概要

(商業教育の動向・職業教育の動向・ビジネスアイデア・ベンチャー企業・学生起業家発表・ジュニア・高等学校内株式会社紹介) 職業教育・職業指導について、知識社会、国際比較・高校現場教育の観点から詳述する。
知識社会・世界の職業教育・キャリア教育・ＡＩ・起業教育・産官学連携・リスキリング・アクティブ・ラーニング・企業分析・大学から仕事へのトランジションにおける新しい能力・新学習指導要領・高等学校の進路指導 (進学・就職) ・時事・授業方法・面接指導・教育委員会ホームページ研究

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	教職とは何かについて学び、教師の使命や職責について考える。	自己の理想とする教師像を確立する。多様な職業で活躍できる自己肯定感を育成する。
2. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	知識社会(AI・ロボット・グローバル時代等)における仕事の大変化に対応できる生きる力を養成する。	知識社会の大変化の中で、新たなる課題を発見し、対応する力を養成する。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		知識社会の大変化の中で、なくなる職業、新たなる職業課題を発見し、対応する力を養成する。

学外連携学修

有り(連携先：日本商業教育学会兵庫支部・神戸ベンチャー研究会(異業種)・学外授業の交通費は自己負担となります。)

授業方法 (アクティブラーニングを促す方法について)

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします
・その他(以下に概要を記述)
討論・発表後個別・全体的にコメントする。

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
振り返りテスト(授業内試験)・レポート	50 %	： 講義内容を踏まえて、多様なキャリア等の基礎的理解があるかどうかについてレポート・テスト(短答・論述等)で行います。
課題レポートの作成	30 %	： 知識社会の大変化に対応した新ビジネスプランと人生１００年計画を考える。(事業計画・収益・経費等)・レポート・発表(知識・理解・思考力・論理力)
授業への参加度	20 %	： グループワーク・討論・発表・質疑応答・教員からの質問に的確に回答できているか。毎回ビデオノートを提出。論理的、積極的な発言等評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
道幸哲也,原田順子	・『多様なキャリアを考える』	・一般財団法人　放送大学教育振興会	・2015　年

参考文献等

・テキスト「多様なキャリアを考える」ISBN978-4-595-31571-8
・「雇用社会と法」道幸哲也　著者　発行所　一般社団法人　放送大学教育振興会　2017年3月20日発行
　ISBN978-4-595-31728-6 C1332
・「新時代の組織経営と働き方」　著者　原田順子　若林直樹　発行所　一般社団法人　放送大学教育振興会
　2020年3月20日発行　ISBN978-4-595-32209-9 C1334
・「人口減少社会の構想」著者　宮本みちこ　大江守之　発行所　一般社団法人　放送大学教育振興会
　2017年3月20日発行　ISBN978-4-595-31717-0 C1336
・「教育社会学概論」　著者　岩永雅也　発行所　一般社団法人　放送大学教育振興会
　ISBN978-4-595-31921-1 C1337

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　初回授業時に周知します

場所：　初回授業時に周知します

備考・注意事項：　授業外での質問方法：初回授業時に周知します

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**１　オリエンテーション本授業の目標、内容、授業の進め方、評価キャリアについて** １　職業キャリアを主軸にしながらその他の多様なキャリアについて議論を広げる。ライフコースの概念を紹介し、職業キャリアと他のキャリアとの相互性について言及する。ライフ・キャリア・レインボー・産業人材育成・組織コーン 若者研究前編・仕掛学	１　キャリアの定義をまとめる。図１－１「産業人材育成の基本フレーム」の３つの輪の重なりにあてはまることについてまとめる。	4時間
第2回	**２　日本人の職業キャリアと勤続性ＡＩ・ロボット時代の職業教育の動向** ２　現代社会において、労働者が職業キャリアを積んでいく現象の重要性について解説する。人的資本・勤続性・功績性・技能・生きがい・長期雇用・働く目的 ＡＩ・ロボット時代の職業教育の動向 若者研究後編・世界の入試	２　職業キャリアの特徴を列挙する。日本人の働く目的の特徴をまとめる。職業キャリアの発達経路についてまとめる。	4時間
第3回	**３　日本の労働市場変化と職業キャリア起業家教育** ３　賃金プロファイルは、年齢上昇・勤続年数に応じて、どの程度の賃金水準を得ているかを解説し、職業キャリアの様相を間接的にみる。年功賃金制度・職能資格制度・成果主義 起業家教育の動向 野生の思考・答えは子供の中にある	３　日本人の賃金プロファイルの特徴を性別・年齢別・産業別の統計を使いまとめる。賃金プロファイルの国際比較から特徴を解析しまとめる。賃金プロファイルの全般的低下の意味をまとめる。	4時間
第4回	**４　正規と非正規労働者の職業キャリア世界の職業教育** ４　非正規雇用の特徴を解説し、なぜ非正規雇用が増大するのかについて解説する。少子高齢化・サービス経済化・グローバル化 世界の職業教育の動向 ・海外アルバイト・定年退職は何歳か	４　非正規雇用の性別・年齢別・職種別・産業別特徴について事例を挙げて整理する。少子高齢化という社会変化が非正規雇用に対して、どのような経路をたどって影響を及ぼしているかまとめる。非正規雇用の産業構造変化が及ぼす影響について具体例を挙げてまとめる。	4時間
第5回	**５　職業キャリアの形成持続可能社会の構築と教育** ５　職業キャリアの形成に焦点をあて、人的資本は一定不変ではなく何らかの訓練(学校教育・企業内教育・その他の職業教育)により発達させることができることを解説する。人的資本論・一般的技能・企業特殊的技能・ＯＪＴ・ＯＦＦ-ＪＴ・自己啓発・学校教育論・内省的成長理論・組織のフラット化・自律的キャリア開発 ＳＤＧＳの紹介・世界を変えるシンキング	５　あなたの職業能力はどのように積み上げられたかをまとめる。公共職業訓練の意義についてまとめる。	4時間
第6回	**６　企業が求める人材の変化** ６　企業が求める人材の変化を歴史的に解説する。過去４０年、企業が求める人材がどのように変化してきたかを具体的データに基づき外観してみる。その背景にある企業社会や産業構造の変化を理解し、企業が求める人材の最近の特徴を把握する。特に大卒新卒者に求められる能力を分析する。サービス経済化・雇用形態の多様化・コミュニケーション能力・キャリア開発支援・基礎力 ルソンの壺ネスカフェー・世界の教育予算	６　企業の求人広告を新聞やＷｅｂでみて、どのような人を求めているかまとめる。企業でのインターンシップで新たに経験できる事を整理し、どんな力が身についたかをまとめる。	4時間

第7回	**７　キャリア開発支援の動向　中間振返りテスト** ７　キャリア開発支援のゴールは就職ではなく、学生個人のキャリア自立であることを明確にし、学生時代に獲得しておくべき要素を解説する。キャリア開発・就業力育成・エンプロイアビリティ・キャリア・アダプタビリティ・キャリア自立・就業観・初年次教育・早期離職 ＡＩに負けない仕事術・AIが個人を点数化	７　企業の採用面接で学生のどのような面をみているか項目を列挙し整理する。面接のポイント・今までに役立った経験や勉強を整理する。入社後３年以内の早期離職について長所・短所を整理する。	4時間
第8回	**８　職場の人間関係と法** ８　職場の人間関係、とりわけ最近のハラスメント紛争の背景や特徴、法的紛争化を回避する工夫を検討する。セクハラ・パワハラ・労働者人格権・プライヴアシー・自己決定権・職場いじめ アクティブラーニングを活用した職業教育の実践について西成高校の挑戦・知られざる天才ギフテッド	８　職場いじめと学校でのいじめの違いについて調べ、その原因について整理する。どうしたら職場において円滑なコミュニケーションがとれるのかを、個人の努力と制度的な工夫の双方から考え整理する。	4時間
第9回	**９　企業内キャリア　１０　キャリア権の考え方** ９　人材育成を重視することは日本の企業の特徴とされてきたが、コア人材とそれ以外の人材の雇用ポートフォリオ論を解説する。人事管理・ＯＪＴ・ＯＦＦ-Ｊ Ｔ・コア人材・企業特殊的技能・雇用ポートフォリオ １０　職業キャリアを支えるキャリア権の考え方を憲法規定や職業訓練法制の関連規定に基づき検討し、更に生成途上にある労働契約上の位置づけについて裁判例を素材に考察する。キャリア権・幸福追求権・労働契約・就労請求権・職業訓練法制・労働者人格権・教育研修・競業避止義務・リスキニング・高専ディープラーニング	９　人材育成について、正規・非正規労働者の違いを整理する。「種まき型」「刈り取り型」の人事ダイナミックスをまとめる。あなたの身近な組織ポートフォリオがどのようなものかをまとめる。１０　キャリア権を実現するためにどのような訴訟を考えることができるかまとめる。キャリア権を実現するために、国、企業、学校、本人の役割や相互関連について整理する。	4時間
第10回	**１１　多様な働き方と労働法の役割** １１　労働の現状とそれに対する政府の基本方針を検討し、法的ルールの観点、雇用と雇用以外との比較、更に正規と非正規の働き方の違いを考える。非正規労働・規制緩和・雇用政策・労働者概念・賃金差別・職務専念義務 ブラック校則・校長学校変える	１１　非正規労働者が増加した理由を調べ、どうしたら正規化できるかを考えまとめる。雇用されない自営的な働き方のメリツト・デメリツトを比較し整理する。	4時間
第11回	**１２　ライフコースの考え方　１３　社会の変動とライフコース** １２　ライフコースの視点と考え方は、1970年代にアメリカの社会学・歴史学・心理学の研究者たちによって開発され採用された。この章では、ライフコース論に独自の視点や方法、成果について説明する。ライフコース・キャリア・役割移行・ライフサイクル・ライフステージ １３　ライフコース論の特質は、歴史的社会的出来事と家族における出来事、そして個人の出来事の３つ関連を重視する点にあり、個人のキャリアとの関連を具体的にみる中で、注意深く観察する。時機・出来事・出生コーホート・家族キャリア・職業キャリア・産業化 人生100年計画ライフシフト・副業・中流危機を乗り越えて	１２　ライフコース論の視点と特色を整理し、成果と問題点についてまとめる。自分自身のライフコースについて、キャリアごとに重要事項をならべ、どのように連動しているか考察しまとめる。自分自身のライフコースを振り返り、歴史的社会的出来事、家族の出来事、自分の出来事に分けて年表に整理する。産業化の初期段階の家族親族が産業の担い手になり得たというハレーブンの主張や産業化に伴う親族から相対的に孤立化した核家族形成を主張するＴ．パーソンズの学説を整理する。	4時間
第12回	**１４　パーソナル・ネットワークとライフコース　１５　多様なキャリア～女性のキャリアを考える～** １４　個人のライフコースにそつて、パーソナル・ネットワークもまた変化を遂げていく。戦争という社会的出来事や、就職、結婚、転勤、退職という個人の人生にとって重要な出来事も、パーソナル・ネットワークに大きな影響を与える。これらの様相を事例分析する。パーソナル・ネットワーク・第１次ゾーン・年賀状・事例分析 １５　女性労働者の特徴を理解した上で、組織内部における地位や課題を考える。女性が継続して働く際の支援と再就職支援の必要性を解説する。非正規の職員・従業員・労働力率・カンター・モデル・コース別人事制度・ポジティブ・アクション データサイエンス・プログラミング教育・GIGAスクール構想	１４　保管している年賀状の総枚数、カテゴリー別枚数を調査し分析する。年賀状をやりとりしている人とのネツトワークの内容を確認し、自分のライフコースに沿って、自分自身のパーソナルネツトワークの変化を整理する。女性労働の特徴をまとめる。女性管理職を増加させる方法をまとめる。ワーク・ライフ・バランスの施策の意義を整理する。	4時間
第13回	**１６　評価(振り返りテスト)と総括**	１６　これまでの講義内容を振り返り、まとめておくこと。また、教師や他の職業を目指す意志を明確にする。	4時間

	１６　多様なキャリア、自己の目指すべき教師像をまとめるとともに、今後、教師や職業人としてどうあるべきかを確かなものにする。教育委員会ホームページを研究する。 ０年転職めトットちゃんの学校		
第14回	**１７　ビジネスプランシート・人生１００年計画シート発表・質疑応答** １７　ビジネスプランシートを事前に作成し現代社会の課題を発見し解決するビジネスを考える・知識社会の中でＡＩ・ロボット・グローバル化が進み、寿命が１００年を超える時代の人生１００年計画シートを作成し発表し質疑応答をする。 防災教育・遠隔教育	１７　ビジネスプランシートの作成と発表の仕方を研究する。人生１００年計画シートを作成し発表の仕方を研究する。	4時間

233

授業科目名	ソーシャルビジネス論				
担当教員名	大島博文				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	政令市で都市計画・防災・交通・総合計画・統計等の新規施策立案・計画策定・経営業務を経験。公益財団法人であるシンクタンクで地域に関するまちづくり・福祉・環境・防災・災害復興等の政策立案・コンサルティング業務、研修等の人材育成業務を担当。（全14回）				

授業概要

「ソーシャルビジネス」とは、ビジネスを通して社会課題の解決を目指す活動であり、「まちづくり」「福祉」「教育」「子育て」「環境保護」「国際協力」など、様々な分野で事業が展開されている。本授業では、ソーシャルビジネスの理念や事例を学び、どのようにビジネスを通して社会課題を解決し、SDGｓについても目標を達成していくことにつながっていくかを学ぶ。
また事例に応じて社会起業家をゲストとして授業に招き、取り組みの現状や課題、新たな方向性等について紹介をいただき、事業に関する課題については、ディスカッションや解決策の提案なども行うことで主体的に学ぶ。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	ソーシャルビジネスの理念や意義、活動内容についての理解	ソーシャルビジネスの内容や方法、課題等について説明することができる
2. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	ソーシャルビジネスの課題の理解、課題解決に向けた方策の検討	ソーシャルビジネスの課題を理解し、課題解決に向けた方策を提案することができる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		格差・貧困、若者支援、障害者福祉、国際協力などの分野で日本社会が現在抱えている課題を説明できる
2. DP８.他者とのコミュニケーション		社会起業家やNPO関係者と良好な意思疎通を行うことができる
3. DP10.忠恕の心		社会起業家やNPO関係者との出会いや学びを通して、他者への思いやりや共感の精神を学ぶ

学外連携学修

有り(連携先：東淀川区)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・eラーニング、反転授業
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
期末試験 40 %	：	ソーシャルビジネスに関する基本的な事項を問う問題を出題し、その理解度と的確に記述や説明ができているかを基準にして評価する。
授業内レポート（３回）	：	ソーシャルビジネスに関する授業内レポートを作成し、「内容理解」「論理性」「独創性」を基準

に評価する。

30　％

授業への貢献　：　授業での発表内容、グループワークでの役割など授業への貢献度を評価する。

30　％

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

坂本恒夫ほか「ＮＰＯ、そしてソーシャルビジネス」文真堂／2017年（ISBN：978-4830949463）

風見正三ほか「コミュニティビジネス入門」学芸出版社／2009年（ISBN：978-4761524739）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　火曜日５限

場所：　西館3階37研究室

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス、ソーシャルビジネスの意義を考える** 授業の進め方 ソーシャルビジネスとは何かを学ぶ。	ソーシャルビジネスとは何かを参考図書やインターネット等で調べておく。	4時間
第2回	**ソーシャルビジネスの特徴** ソーシャルビジネス出現の背景、ソーシャル・アントレプレナー等について学ぶ。	提示した参考図書やインターネット等で予習し、授業資料等で復習する。	4時間
第3回	**世界におけるソーシャルビジネス** 国内外のソーシャルビジネスの代表事例について学ぶ。	提示した参考図書やインターネット等で予習し、授業資料等で復習する。	4時間
第4回	**ソーシャルビジネスとコミュニティビジネス** ソーシャルビジネスとコミュニティビジネスの共通点と相違点等を事例を参考にしながら学ぶ。	提示した参考図書やインターネット等で予習し、授業資料等で復習する。	4時間
第5回	**ソーシャルビジネスの事例** まちづくり、子育て支援、環境、健康などの分野についてのソーシャルビジネスの事例を学ぶ。	提示した参考図書やインターネット等で予習し、授業資料等で復習する。	4時間
第6回	**ソーシャルビジネスのマネジメント** ソーシャルビジネスの組織形態や経営に関する特徴や課題について学ぶ。	提示した参考図書やインターネット等で予習し、授業資料等で復習する。	4時間
第7回	**中間まとめ～ソーシャルビジネスを理解する** ソーシャルビジネスについてこれまで学んだ内容についてレポートを作成し、発表する。	これまで学んだ内容を復習しておく。	4時間
第8回	**【特別講義】ソーシャルビジネスの実践** ソーシャルビジネスを実践している事業者による特別授業を実施し、事業の現状、課題、今後の方向性等について学ぶ。	特別講義で扱う実践事例について事前に調べる。	4時間
第9回	**ソーシャルビジネスの課題解決策を考える（グループワーク）** 特別講義で学んだ実践事例について、これまで学んだことを活用して、グループワークにより解決策を検討する。	特別講義で扱う実践事例について詳細に調べる。	4時間
第10回	**ソーシャルビジネスの課題解決に向けた提案（グループ発表）** 特別講義で学んだ実践事例について、課題解決に向けた方策について、グループ発表を行い、関係者により評価・コメントを受ける。	発表できるよう資料を作成する。	4時間
第11回	**ソーシャルビジネスにおけるビジネスプランの検討（１）（グループワーク）** ＳＤＧｓの目標を実現するために、実現可能で効果的なビジネスプランを検討する。	ＳＤＧｓの目標の中のどれを目指すか検討しておく。	4時間
第12回	**ソーシャルビジネスにおけるビジネスプランの検討（２）（グループワーク）** ＳＤＧｓの目標を実現するために、実現可能で効果的なビジネスプランを検討する。	第13回でグループ発表できるよう資料を作成する。	4時間
第13回	**ソーシャルビジネスによるＳＤＧｓ目標の実現（グループ発表）**	グループ発表できるよう資料を作成する。	4時間

	ＳＤＧｓの目標を実現するために、実現可能で効果的なビジネスプランを発表する。		
第14回	**授業全体まとめ** 授業で学んだ内容についてまとめ・ふりかえりを行い、理解を深める。	これまで学んだ内容を復習する。	4時間

233

授業科目名	環境経営論				
担当教員名	澤田彩				
学年・コース等	3・4年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本講義では、環境問題が現代社会に対して、どのようなリスクや課題を与えているのか、そしてそれを企業経営がどのように解決していくかについて論理的に考える。
地球温暖化に代表される環境問題の発生とその対策の変遷を整理したうえで、企業経営の中にいかにして環境保全の視点を取り入れるのかをケーススタディを取り入れながら学び、持続可能な環境経営のあり方を理解することを目的とする。また環境だけでなく、SDGｓを企業経営に取り込むことを意味するSDGｓ経営についても取り上げる。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	環境経営論に関する重要な知識・理論の理解	環境経営論に関する重要な知識・理論について、その主要なポイントや論点を理解し説明できる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		環境経営論に関する重要な機能・役割について、その内容、特徴や課題を発見・指摘できる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
期末レポート	60 %	： 環境経営論に関する重要事項を問う問題を出題し、その理解度と、的確な記述や説明ができているかを基準にして評価します。
小レポート（毎回）	40 %	： 出題時の課題テーマに沿った内容であるか、文章力、論理性などをもとに評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

野村佐智代・山田雅俊・佐久間信夫［編著］『現代環境経営要論』創成社（ISBN978-4794425805）。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　木曜日

場所：　2限

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**イントロダクション　―環境経営論とは何か―** 環境経営論とは何か、環境問題と企業活動との関係について歴史を振り返り、環境経営が現代社会において必要とされているのはなぜかを理解します。	環境経営論について、興味を持った点や疑問点などを整理して授業に参加してください。	4時間
第2回	**環境問題 その１：有害物質　―公害の発生と有害物質規制―** 公害の発生について振り返り、被害を防止するための有害物質規制の歴史について学びます。	公害問題とその対策について、興味を持った点や疑問点などを整理して授業に参加してください。	4時間
第3回	**環境問題 その２：地球温暖化①　―脱炭素社会に向けた世界的な枠組みの形成―** 公害と地球温暖化の違いを理解し、脱炭素社会に向けた世界的な枠組みの形成がどのようになされてきたのか学びます。	地球温暖化とその対策について、興味を持った点や疑問点などを整理して授業に参加してください。	4時間
第4回	**環境問題その２：地球温暖化②　―再生可能エネルギーとその普及のための政策―** エネルギー産業の脱炭素化の重要性について理解し、その手段としての再生可能エネルギーについて理解する。	再生可能エネルギーについて、興味を持った点や疑問点などを整理して授業に参加してください。	4時間
第5回	**環境経営とは何か ―人間と自然との物質代謝―** 社会システムの変遷を概観し、今日における資本主義体制において必然的に企業経営による環境破壊が起こってきたことを理解します。	社会システムの変化と企業による環境破壊について、興味を持った点や疑問点などを整理して授業に参加してください。	4時間
第6回	**企業経営と環境経営戦略** 企業経営の環境への向き合い方の変化と環境戦略について学びます。	企業経営の環境への向き合い方の変化に関して、興味を持った点や疑問点などを整理して授業に参加してください。	4時間
第7回	**環境経営におけるマネジメントシステム** 環境経営におけるマネジメントシステムについて、その基本的内容を学びます。	ISO環境マネジメントシステム規格について、興味を持った点や疑問点などを整理して授業に参加してください。	4時間
第8回	**環境マーケティングと環境コミュニケーション** 顧客を含む社会全体と企業の収益性を同時達成することを目指す環境マーケティングを理解したうえで、企業と多様なステークホルダー間のパートナーシップ確立のための環境コミュニケーションを学びます。	環境マーケティングと環境コミュニケーションについて、興味を持った点や疑問点などを整理して授業に参加してください。	4時間
第9回	**環境金融** 近年急速に普及してきている、環境に配慮した投資や融資形態について学びます。	ESG投資について、興味を持った点や疑問点などを整理して授業に参加してください。	4時間
第10回	**分業構造の中での企業の立場の違いによる環境経営の違いその１** 再生可能エネルギー関連産業の環境経営について学びます。	再生可能エネルギー関連産業について、興味を持った点や疑問点などを整理して授業に参加してください。	4時間
第11回	**分業構造の中での企業の立場の違いによる環境経営の違いその２** 自動車産業の環境経営について学びます。	自動車産業の環境対応について、興味を持った点や疑問点などを整理して授業に参加してください。	4時間
第12回	**環境経営のための政策支援 その１** EUと米国の環境経営のための政策支援について学びます。	EUと米国の環境政策について、興味を持った点や疑問点などを整理して授業に参加してください。	4時間
第13回	**環境経営のための政策支援 その２** 中国と日本の環境経営のための政策支援について学びます。	中国と日本の環境政策について、興味を持った点や疑問点などを整理して授業に参加してください。	4時間
第14回	**まとめ：環境経営からサスティナビリティ経営へ** これまでの授業を振り返り、履修者の興味関心や理解の程度を踏まえて補足説明を行います。また、環境経営から、環境・社会・経済の持続可能性へ配慮したサスティナビリティ経営への展開についても学びます。	これまでの授業を振り返り、興味を持った点や疑問点などを整理して授業に参加してください。	4時間

223

授業科目名	サプライチェーンマネジメント				
担当教員名	児山俊行				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

サプライチェーンマネジメントの基本目的は、生産の良い流れを設計し、維持し、改善することにある。「良い流れづくり」という観点から、生産プロセスをベースとして把握するとともに、プロセスを改善するための考え方やアプローチについてひとまず学習する。 しかし現代経営を展望するに、生産のグローバル化にともなって時間的空間的に複雑化するサプライチェーン全体のマネジメントが欠かせない。
それを踏まえて本授業では、まずは生産管理の基本的な考え方と仕組みをおさえながら、サプライチェーンのマネジメントについて、事例を通じて受講生が理論と実践を統合した複眼的視点を構築することを目指す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	生産管理とサプライチェーンマネジメントに関する知識	生産管理とサプライチェーンマネジメントの諸概念、その生成された背景および歴史について理解できる。
2. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	生産管理とサプライチェーンマネジメントに関する知識の応用	企業の生産管理及びサプライチェーンマネジメントの現況を説明できる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		企業活動での現象を総合的に理解し考察するための事実の見方を修得できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
受講態度	10 %	： 講義の受講態度を評価する。
授業レポート	60 %	： 毎回の授業内容の理解と課題に対して自らの考えを論理的に説明できているかという点から評価する。
中間レポート	10 %	： （主として前半の）講義内容の理解度を評価。
期末レポート	20 %	： 授業内容全体の理解度を評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

神谷俊彦（2020）『図解でわかるSCM いちばん最初に読む本』、アニモ出版
ISBN-13 ： 978-4897952345

苦瀬博仁(2017)『サプライチェーン・マネジメント概論: 基礎から学ぶSCMと経営戦略』、白桃書房
ISBN-13 ： 978-4561752158

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日4限

場所： 研究室

備考・注意事項： メールでの質問はこちらまで（用件がわかるように件名などに明記すること）。
koyama_t@g.osaka-seikei.ac.jp

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション：ＳＣＭとは何か？なぜＳＣＭが現代で問題となるのか？** 本講義の目的や進め方、評価方法、スケジュール、約束事といった概要について説明する。さらに、講義で取り上げる「サプライチェーンマネジメント（SMC）」とはどのようなものであるのか経営学における位置づけと実務における重要性を確認し、様々な事例を基にイメージをつかみ、学ぶ意義を受講生との間で共有する。	【予習】シラバスを読んでおくこと。 【復習】SCMの講義概要を確認すること。	4時間
第2回	**大量生産の歴史：中世ベネチアの「アルセナーレ」から英国の産業革命、米国の量産システムの発展** 大量生産の形成プロセスを通じて、構成する基本的要素について学ぶ。	大量生産の発展ついての基本事項を確認する。	4時間
第3回	**大量生産の完成：フォード型大量生産方式の確立と巨大企業体制の登場** 大量生産の完成形とされるフォード型生産方式について学び、それを基盤とした巨大企業の発展を理解する。	フォード生産方式の特徴について確認する。	4時間
第4回	**大量生産の進化：トヨタ生産（リーン生産）方式への展開** 米国で発展した大量生産方式の限界を突破しようとしたトヨタ生産方式の発展について学ぶ。	トヨタ生産方式の特徴について確認する。	4時間
第5回	**ＳＣ重視の流れ：「購買・生産・販売」の統合へ** 企業の競争優位におけるマーケティングでの優位性をサプライチェーンの観点から分析・確保することについて学習する	企業の競争優位性とマーケティングの関連について確認する。	4時間
第6回	**新興国への製造シフト：生産のグローバル化と「世界の工場」となる東アジア** 経営戦略に沿ったサプライチェーンマネジメントのあり方について学習する。	サプライチェーンマネジメントと経営戦略の関連について確認する。	4時間
第7回	**「巨大工場」の誕生：工場を持たないブランドメーカーのＳＣＭ** サプライチェーンマネジメントを情報システムとみなし、購買・生産・販売と連動したデータ活用のあり方を学習する。	サプライチェーンマネジメントでの情報システムの具体的あり方を確認する。	4時間
第8回	**事例研究：現代「巨大工場」のシンボル・フォックスコンとアップル社** 具体的な手法を通じて、サプライチェーンマネジメントでの意思決定プロセスについて学習する。	サプライチェーンマネジメントでの意思決定システムの具体的あり方について確認する。	4時間
第9回	**グローバルブランドメーカーの輝きと暗影：グローバルSCから見て** サプライチェーンマネジメントにおける物流・ロジスティックスでの競争優位性の確保について学習する。	サプライチェーンマネジメントにおける物流・ロジスティックスでの競争優位の確保について確認する。	4時間
第10回	**国際問題とＳＣＭ（１）：「米中貿易戦争」の影響を中心に** 国家間の貿易紛争時での対応について、米中貿易戦争を例にサプライチェーンのマネジメントのあり方について学ぶ。	世界各地の貿易問題へのサプライチェーンマネジメントでの対応を考える。	4時間
第11回	**国際問題とＳＣＭ（２）：半導体産業を中心に** 「半導体を制するものは世界を制す」と言われる半導体産業におけるサプライチェーンのあり方は、各国の産業経済にとってますます重みをましている。主にそこでのＳＣＭについて学習する。	世界での半導体産業の現状について調べる。	4時間
第12回	**ＳＣＭとリスク：事故、災害、犯罪、紛争、テロ等への対処** 様々なリスク（自然災害、事故、犯罪、テロ、戦争等）に対するＳＣＭのあり方について学習する。	近年の自然災害や暴動テロ、戦争に対するサプライチェーンマネジメントの対応について考える。	4時間
第13回	**ＳＤＧｓへの貢献： 地球環境・社会問題へのアプローチ**	企業のＳＣ全体を見て、ＳＤＧｓに貢献しうる可能性を考える。	4時間

	ＳＣＭ上で年々課題の重みを増す企業の社会的責任や環境問題への対応について学習する。		
第14回	**まとめ：現代ＳＣＭの特性と今後の展望** 中世以来のＳＣＭの発展段階を確認。今後の様々な課題への対応やＤＸ等の新たな技術の活用可能性についても学習する。	中世から近代・現代のSCMの発展段階を全体的な流れの中で理解する。	4時間

223

授業科目名	**国際経営論**				
担当教員名	藤森梓				
学年・コース等	3年、4年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

近年のグローバル化の流れの中で、企業活動は国を問わず、世界規模で展開されています。このような流れの中で、今後のビジネスを担う世代には、国際的なセンスを身に付けることが求められています。こうした時代のニーズに合わせて、本講義では海外のビジネス事情に関する応用的な知識や情報の習得を目指します。経済のグローバル化が進む中で、高い国際感覚を活かしながらビジネスを展開することは、大きなアドバンテージとなるでしょう。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.現代社会におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	グローバルビジネスの実情を学びながら、グローバル企業の経営戦略について論理的に理解する。	経営学の知識を応用しながら、グローバルビジネスに関する様々な現象を分析することができる。
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	経営学的視点から、グローバルビジネス・国際経営の現状と課題を分析する。	国際経営に関する諸問題について理解し、その解決策を考えることができる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		グローバル企業が直面するさまざまな問題について、その本質をきちんと理解することができる。
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		グローバル企業が直面する問題の解決策について、論理的かつ現地事情を考慮しながら導き出すことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
期末試験	70 %	： 国際ビジネスに関する基本的な知識を有し、かつ国際ビジネスに関するさまざまな問題を理解し、適切に分析することができているかを評価します。
小レポート	20 %	： 原則、毎回の授業で提出を求めます。授業内容を踏まえた上で、きちんと内容が記述されているかを評価します。
中間レポート	10 %	： 授業内容をきちんと理解したうえで、自分なりの見解が述べられているかを評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

初回の授業でリーディングリストを配布します。また、講義内でも適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
本講義の内容を深く理解するためには、国際社会の動きを正しく理解することが必須です。新聞やニュースなどを通して、国際情勢に常に注意を払ってください。
授業の資料等はGoogle Classroomで配布します。登録については初回の授業でガイダンスを行います。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日3限

場所： 研究室（西館4階）

備考・注意事項： 授業に関する質問は、授業の前後、または研究室でのオフィスアワー（水曜日3限）にて受け付けます。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス～本科目の学びについて～** 講義に関するガイダンス。授業計画・内容、到達目標などを説明するとともに、国際経営論を学ぶ意味について考えます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（国際ビジネスを学ぶ意義について考える）	4時間
第2回	**グローバル化と国際経営** 企業活動のグローバル化とその背景について学びます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（企業活動のグローバル化を推し進める要因について考える）	4時間
第3回	**多国籍企業とビジネス（1）～多国籍企業の概要～** 多国籍企業の定義およびその役割について学びます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（どのような多国籍企業が存在するのかを調べる）	4時間
第4回	**多国籍企業とビジネス（2）～多国籍企業の歴史と展開～** 多国籍企業の誕生から発展、そして現代に至る歴史を、経済的な背景を理解しながら概観します。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（多国籍企業の誕生した背景について理解する）	4時間
第5回	**アメリカのビジネス環境（1）～アメリカ企業の発展～** 国際ビジネスに大きな影響を与えているアメリカ企業が発展してきた歴史を、アメリカの経済情勢と関連させて理解していきます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（多国籍企業の発展の歴史についてまとめる）	4時間
第6回	**アメリカのビジネス環境（2）～アメリカのベンチャービジネス～** IT企業を中心に、アメリカにおいてベンチャー企業が成長してきた要因について考えていきます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（シリコンバレーが発展した要因について考える）	4時間
第7回	**アメリカのビジネス環境（3）～アメリカ企業の今後の展望～** グローバル化が進展するなかで大きな変貌を遂げているアメリカ企業の現状を理解し、今後の問題について検証します。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（アメリカ経済の現状を踏まえながら、今後のアメリカ企業の戦略について考える）	4時間
第8回	**欧州のビジネス環境** アメリカや日本企業との比較を通して、欧州企業の特徴について理解を深めます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（欧州型企業の特徴について考える）	4時間
第9回	**企業組織の国際比較** 企業組織の構造やコーポレートガバナンスの在り方などを、日・米・欧の企業を中心に国際比較します。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（日・米・欧の企業組織の違いを理解する）	4時間
第10回	**新興国とビジネス（1）～アジアにおけるビジネス事情～** 中国やインドをはじめとする、新興国のビジネス事情について理解を深めます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（多国籍企業が新興国に進出する要因について考える）	4時間
第11回	**新興国とビジネス（2）～アジアビジネスの今後～** アジアにおける経済統合の現状などを理解しつつ、今後のアジアにおける企業戦略の可能性について検証します。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（アジアの経済統合の可能性を踏まえながら、今後の日系企業の国際戦略について考える）	4時間
第12回	**BOPビジネスの現状（1）～BOPビジネスの現状～** 近年、注目を集めているBOPビジネスについて、その定義や現状、今後の可能性について理解を深めます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（今、なぜBOPビジネスが注目されているのかを理解する）	4時間
第13回	**BOPビジネスの現状（2）～BOPのケーススタディ** ケーススタディを通してBOPビジネスの特徴や課題、将来性について理解を深めます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（BOPビジネスが成功する秘訣について考える）	4時間
第14回	**まとめ**	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（これまでの講義内容を振り返りつつ、その内容を自分自身の今後のキャリアにどう生かすのかを考える）	4時間

これまでの講義内容を振り返りながら、特に日本企業の今後の国際戦略のあり方について考えます。		

233

授業科目名	**財務諸表論**				
担当教員名	笠岡恵理子				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

財務会計は、株主、投資家、債権者等の企業外部の利害関係者に対し、経営成績や財政状態を報告することを目的とした会計である。本講義では、財務諸表の作成にあたり、企業が遵守すべきルールである会計基準について理解を深めていく。主として、財務会計の機能と制度、財務諸表における利益計算、企業会計原則の一般原則、および個々の会計項目における会計処理について学んでいく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	貸借対照表および損益計算書項目における会計処理の知識	財務諸表を構成する個別の会計項目における会計処理を理解する。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		企業の財務諸表を見て、その内容の分析および問題点の発見ができる。
2. DP８.他者とのコミュニケーション		与えられた課題の内容を把握した上で、グループのメンバーとコミュニケーションを取りながら課題に取り組むことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
小テスト	30 %	： 授業中に行う小テストにより内容理解の確認を行う。
課題の提出	30 %	： 学習内容を理解し、課題の発見ができているかを確認する。
期末テスト	40 %	： 授業内容の理解度を評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

桜井久勝『財務会計講義　第24版』中央経済社、2023年（ISBN：978-4-502-46061-6）。
伊東邦雄『新・現代会計入門　第6版』日本経済新聞出版、2022年（ISBN：978-4-296-12004-8）。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜2限目

場所： 個人研究室（西館２F）

備考・注意事項： 質問はメールでも受け付けます。
メールアドレスは第1回目の授業時に連絡します。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーションおよび財務会計の機能** 講義の進め方に関する説明 財務会計の利害調整機能と情報提供機能 財務会計の法規制	配布資料（財務会計の機能）の復習と次回講義内容の資料の予習	4時間
第2回	**貸借対照表と損益計算書** 貸借対照表と損益計算書における会計項目	配布資料（貸借対照表と損益計算書）の復習と次回講義内容の資料の予習	4時間
第3回	**利益計算の仕組み** 企業活動と財務諸表 複式簿記の構造	配布資料（利益計算の仕組み）の復習と次回講義内容の資料の予習	4時間
第4回	**会計基準** 会計基準の必要性 会計基準の設定 企業会計原則の一般原則	配布資料（会計基準）の復習と次回講義内容の資料の予習	4時間
第5回	**利益測定の基礎概念** 現金主義会計と発生主義会計 発生主義会計の基本原則	配布資料（利益測定の基礎概念）の復習と次回講義内容の資料の予習	4時間
第6回	**資産評価の基礎概念** 資産評価の基準（取得原価、取替原価、純実現可能価額、割引現在価値）	配布資料（資産評価の基礎概念）の復習と次回講義内容の資料の予習	4時間
第7回	**現金預金と有価証券** 現金および預金 有価証券とは 有価証券の範囲と区分 有価証券の取得原価 有価証券の期末評価	配布資料（現金預金と有価証券）の復習と次回講義内容の資料の予習	4時間
第8回	**売上高と売上債権** 収益認識に関する会計基準 売上債権（売掛金、受取手形、貸倒引当金）	配布資料（売上高と売上債権）の復習と次回講義内容の資料の予習	4時間
第9回	**棚卸資産と売上原価** 棚卸資産の範囲と区分 棚卸資産の取得原価 棚卸資産の原価配分 棚卸資産の期末評価	配布資料（棚卸資産と売上原価）の復習と次回講義内容の資料の予習	4時間
第10回	**有形固定資産と減価償却** 固定資産の範囲と区分（有形固定資産、無形固定資産、投資その他の資産） 有形固定資産の取得原価 減価償却 固定資産の期末評価	配布資料（有形固定資産と減価償却）の復習と次回講義内容の資料の予習	4時間
第11回	**無形固定資産** 知的財産と研究開発 無形固定資産とは 無形固定資産の取得原価 無形固定資産の償却 繰延資産	配布資料（無形固定資産）の復習と次回講義内容の資料の予習	4時間
第12回	**負債** 負債の範囲と区分 引当金 流動負債 固定負債 偶発債務	配布資料（負債）の復習と次回講義内容の資料の予習	4時間
第13回	**株主資本と純資産** 純資産の構成 払込資本――資本金と資本剰余金 稼得資本――留保利益	配布資料（株主資本と純資産）の復習と次回講義内容の資料の予習	4時間
第14回	**まとめ**	授業で配布した問題の見直し	4時間

第1回～第13回までの授業内容の復習		

233

授業科目名	地域ビジネス論				
担当教員名	児山俊行				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

地域経済は私たちの社会生活において一層重要性を増していることをまず理解する。そのうえでビジネスの主体を大企業から中堅企業、中小零細企業、ベンチャー企業に加え、コミュニティ・ビジネスまで多岐にわたっていることを確認する。そして地域を事業ドメインとみなし、伝統産業や地場産業、ひいてはＮＰＯに至るまで地域の経済振興や社会問題解決を直接的・間接的に目的とした様々なビジネス活動について様々なケーススタディを通じて学習していく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	地域での企業（起業）の動態を知ることができる。	企業（起業家）活動が地域の経済・社会発展につながる要因を理解できる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		地域経済・地域社会における隠された課題を発見することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業態度	10 %	： 質疑応答などの授業への参加の積極性で評価する。
授業レポート	60 %	： 授業内容の基本的把握の度合いにより評価する。
試験（筆記）	30 %	： 授業内容全体の理解度やそれを踏まえた考察度合いで評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業ごとに１～２冊紹介します（それらがレポートの課題図書の対象となります）。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜２限や昼休み

場所： 担当教員の研究室（西館３F西側）

備考・注意事項： 研究室前に掲示するが、研究日以外の昼休みやオフィスアワーに設定する。

またメールでの質問はこちらまで（用件がわかるように件名などに明記すること）。
koyama_t@g.osaka-seikei.ac.jp

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション：なぜ今「地域創造」なのか** 「東京一極集中」と言われてきた日本であるが、現代における「地域」の経済的・社会的な持続的発展とその重要性について学ぶ。	「極点社会」や「地方消滅」についての将来予測について調べる。	4時間
第2回	**従来の地域産業と構造変化** 日本の経済発展支えたのは大都市中心の工業地帯だけでなく、各地方に集積する産業（例えば「企業城下町」など）でもあった。しかし円高やバブル景気崩壊以降、製造業のアジアシフトやＩＴ化の進展などにより構造変化を余儀なくされ、地方産業が衰退してきた。それらの変動を事例を通じて学ぶ。	各地の「企業城下町」の形成と発展、そして衰退について調べる。	4時間
第3回	**地域連携事業による経済振興** 従来より地域内外の様々な資源・組織を組み合わせて連携させることで、新しい事業・産業を生み出そうとする試みが政策・企業次元で行われてきたが、それらの経緯と意義を事例を通じて学ぶ。	「クラスター政策」の内容と展開について調べる。	4時間
第4回	**農業を起点とした地域創造～６次産業化** 各地域ごとに農業特産物が存在し販売されているが（１次産業）、それに特殊な加工を施し（２次産業）、物語を詰め込んで地域に人々を呼び込む（３次産業）という農商工が互いに連携した戦略的行動を６次産業化と呼び、地域創造の有効な方向性だと評価されている。まず、この６次産業化について基本的理解を深める。	６次産業化について基本的概念について調べる。	4時間
第5回	**６次産業化による地域創造～商品開発について** 地域の特産物に新たな付加価値を加えて新商品を開発していくために、地域の「エコシステム」と共創という連携づくりも含めて市場的視点からいかに行っていくべきかを事例を通じて学んでいく。	各地の６次産業化による商品開発について調べる。	4時間
第6回	**６次産業化による地域創造～販路開拓について** 地域の特産物に新たな付加価値を加えて開発した新商品を販売していくために、地域の「エコシステム」と共創という連携づくりも含めて市場的視点からいかに行っていくべきかを事例を通じて学んでいく。	各地の６次産業化から生まれた新商品のユニークな販路について調べる。	4時間
第7回	**都会から地方へ～その理想と現実** 都会から理想をもって地方への「Ｕターン」「Ｊターン」「Ｉターン」する流れが以前より存在している。なぜ人々は「地方」にあこがれるのか。実はその理想と現実のギャップに成功・失敗の要因が隠されていることをまず理解していく。	「Ｕターン」「Ｊターン」「Ｉターン」とその現状について調べる。	4時間
第8回	**都会と地方のコラボから生まれる新事業・新製品** 都会のスキルと地方の固有資源を組み合わせることで地域から新たなビジネスが。そのポイントは「若者・よそ者・バカ者」と言われるが、ここでは人的資源と組織づくりの観点から事例を通じて学ぶ。	地域創造で「若者・よそ者・バカ者が必要」と言われる由来について調べる。	4時間
第9回	**地域創造における金融の重要性** 地域創造のため新商品開発や販路開拓など様々な活動が行われるが、そのための資金調達の様々な手法と有効性について事例を通じて学ぶ。	地域活性化のための新規プロジェクトのユニークな資金調達事例について調べる。	4時間
第10回	**デザイン活用と地域創造** デザインの様々な活用を通して地域活性化を図ろうとするを通して地域活性化を図ろうとするして地域活性化を図ろうとする試みを事例を通じて学ぶ。	公園や住宅などのデザインで地域振興につなげた事例を調べる。	4時間
第11回	**「ソーシャルデザイン」と地域創造** 「ソーシャルデザイン」を通して地域活性化を図ろうとする事例を通じて学ぶ。	「ソーシャルデザイン」の基本的意味と事例について調べる。	4時間
第12回	**被災地の復興ビジネス** 日本各地で頻発する甚大な自然災害で被災した地域の復興のため起ち上げられたビジネス事例を通じて復興のポイントと可能性について学ぶ。	近年の自然災害による日本各地の被災状況について調べる。	4時間
第13回	**「無縁社会」の転換**	「無縁社会」の基本的意味と内容について調べる。	4時間

	少子高齢化と東京一極集中に伴い各地で深刻化する「無縁社会」現象とその解決策ついて事例を通じて学ぶ。		
第14回	**「マネー資本主義」から「里山資本主義」へ** 世界を席巻するマッチョ経済といわれる「マネー（金融）資本主義」に対し、金銭コストやエネルギーコストなどを浪費せず地域経済・地域社会を活性化させるべく提唱されている「里山資本主義」を理解し、その可能性や是非について適用事例を通して考えていく。	「里山資本主義」の基本的概念とその評価ついて調べる。	4時間

233

授業科目名	**情報システム演習**				
担当教員名	中井秀樹				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義・演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

情報システムの使用にあたって、実際のシステムに関する知識習得と併せて、基幹技術として用いられている、情報ネットワークやデータベースについて、演習を通じて理解を深める。具体的には、ネットワークの標準とされるインターネットについて、仕組みや扱われる情報についての解説を行う。また、これらの技術の応用として、現在拡大しているIoTやビッグデータ、AIについても理解も深める。特に、昨今急激な進化を遂げている生成AIについても、利用体験を通じて理解を深める。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	実際の技術の活用を通じて、基本的なスキルの修得と同時に、実現可能な内容について推測するための理解を深める。	情報システムに関する知識・技能の習得することができる。IoT・ビッグデータ・AIといった用語について理解できる。

汎用的な力	
1. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み	スキルの理解と習得のために行う演習が実践できる
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案	計画的な課題への取り組み、及び社会における不足を補うための提案を行うことができる
3. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用	学修上の課題を自分自身の課題と捉え、取り組むことができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への取り組み	60 %	： 毎回の授業の取り組み状況を復習課題や演習課題によって評価
定期試験（レポート試験）	40 %	： 学期末定期試験の正答率で評価

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

伏見正則著「最新情報システム開発」（実教出版、2006年、ISBN978-4407309577）
浅井宗海著「情報通信ネットワーク」（近代科学社、2011年、ISBN978-4764903685）
三輪真木子、柳沼良知著「データベースと情報管理」（NHK出版、2016年、ISBN978-4595140723）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位のため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業にむけて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜4限

場所： 西館3階研究室

備考・注意事項： 授業内容以外でも、情報系資格や検定などについても自由に質問してください。
メールでの問い合わせの場合は、nakai-hi@osaka-seikei.ac.jpまで。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**授業概要。社会における情報システム** 授業概要と評価基準、予習・復習への取り組みに関する基本的な説明の後、これから学ぶ情報システムの実際の活用の状況とその重要性に関する説明を行う。	配布資料を基に学修をする。また、ニュースにおいて関連する事項をピックアップし、社会との関連についての考察を行う。	4時間
第2回	**情報システムの目的** 初回説明の情報システムの目的について、情報システムの定義などを元にきちんとした説明を行う。また、企業での活用だけでなく、学校や自治体などの非営利団体における必要性についても説明する。	配布資料を基に学修をする。また、ニュースにおいて関連する事項をピックアップし、社会との関連についての考察を行う。	4時間
第3回	**情報システムの構築手法** 情報システムの構築段階において、利用者の意見をきちんと汲み取ることは、その目的からも重要である。きちんとした要求定義を行うことができるように基本的な情報システム構築についての理解を促す。	配布資料を基に学修をする。また、ニュースにおいて関連する事項をピックアップし、社会との関連についての考察を行う。	4時間
第4回	**実際の情報システムの例** 企業で実際に活用されている情報システムの事例を紹介し、企業での活用についての理解を深める。	配布資料を基に学修をする。また、ニュースにおいて関連する事項をピックアップし、社会との関連についての考察を行う。	4時間
第5回	**基幹技術の理解①・情報ネットワーク** 情報ネットワークの基本的な構成としてのLANと、グローバルネットワークとしてのインターネットについての解説を行い、様々な規模のネットワークについての理解を促す。	配布資料を基に学修をする。また、ニュースにおいて関連する事項をピックアップし、社会との関連についての考察を行う。	4時間
第6回	**情報ネットワークの仕組み** イーサネット（LAN)及びインターネット（WAN）における情報伝達の仕組みについての理解と、インターネットにおいて利用されるIPアドレスの仕組みについての解説を行う。	配布資料を基に学修をする。また、ニュースにおいて関連する事項をピックアップし、社会との関連についての考察を行う。	4時間
第7回	**ネットワークプロトコル** 情報ネットワークの枠組みとしてOSI参照モデルと、また実際のネットワークとしてのTCP/IPモデルについての説明を行い、ネットワーク全体の機能についての理解を促す。	配布資料を基に学修をする。また、ニュースにおいて関連する事項をピックアップし、社会との関連についての考察を行う。演習に関する予習を行う。	4時間
第8回	**ネットワークプロトコルの確認と設定** IPアドレスによって、インターネットが機能していることについての理解を深めると同時に、IPアドレスに関する演習を行う。	配布資料を基に学修をする。また、ニュースにおいて関連する事項をピックアップし、社会との関連についての考察を行う。演習問題の復習を行う。	4時間
第9回	**基幹技術の理解②・データベース** 基幹技術としてのデータベースについて、その種類や活用状況についての解説を行い、基本的な理解を深める。	配布資料を基に学修をする。また、ニュースにおいて関連する事項をピックアップし、社会との関連についての考察を行う。	4時間
第10回	**データベースと情報管理** データベースにおける情報管理について、情報の正規化という概念の理解を通じて行う。また、情報管理における基本的な操作についての解説を行う。	配布資料を基に学修をする。また、ニュースにおいて関連する事項をピックアップし、社会との関連についての考察を行う。	4時間
第11回	**DBMS** DBMSはデータベース管理システムの事であり、データベースを運用する上でその理解は必要不可欠である。これについて、実際の操作を行うことで、体感的な理解を促す。	配布資料を基に学修をする。また、ニュースにおいて関連する事項をピックアップし、社会との関連についての考察を行う。	4時間
第12回	**最新技術の理解　IoT・ビッグデータ・AI**	配布資料を基に学修をする。また、ニュースにおいて関連する事項をピックアップし、社会との関連についての考察を行う。演習に関する予習を行う。	4時間

	近年の情報活用における重要キーワードである、IoT、ビッグデータ、AIについて解説し、Society5.0における重要性を理解すると同時に、今後の社会の在り方についても考える。		
第13回	**AIの歴史と生成AIについて** AIの歴史について紹介し、発展した技術として機械学習とその発展によって生まれた、生成AIについて解説し、生成AIの基本的な概念について理解する。	配布資料を基に学修をする。また、ニュースにおいて関連する事項をピックアップし、社会との関連についての考察を行う。演習問題の復習を行う。	4時間
第14回	**生成AIの利活用について** 前回に引き続き、生成AIについての理解を深め、さらに代表的な生成AIの利用についての紹介を行い、ChatGPTを実際に使用して、その特性について考え、理解を深める。	配布資料を基に学修をする。また、ニュースにおいて関連する事項をピックアップし、社会との関連についての考察を行う。	4時間

232

授業科目名	食品加工論				
担当教員名	髙畑能久				
学年・コース等	3・4年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大手総合食品メーカーの中央研究所で研究・商品開発および新規事業を経験。その後、グループ経営本部 経営企画部にて事業戦略の立案および投融資などを担当（全14回）。				

食ビジネスコース指定

授業概要

この授業では、安全・安心で豊かな食生活に欠かせない食品の加工・保蔵に関する専門知識と応用事例について学びます。食品の保蔵方法、包装の種類と材料、食品加工技術、食品添加物、加工食品のさまざまな表示、農産食品、畜産食品、水産食品、発酵食品、調味料、嗜好飲料、インスタント食品、コピー食品などの加工技術を講義、ビデオ視聴、ペアワークを通して理解します。また、市販の加工食品から加工方法や原材料特性、表示内容を読みとり、食品開発や品質管理などに応用できるレベルまで理解を深めることを目標とします。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	食品加工・保蔵、製造工程について理解を深め、食品開発や品質管理に応用します。	食品加工・保蔵に関する専門知識を商品設計や品質保証、HACCPプランの作成に応用します。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		食品工場における生産性や安全性、コスト面などの課題を発見します。
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		加工食品の品質保証やHACCPプランの作成や改善に応用します。
3. DP８.他者とのコミュニケーション		ペアワークでは自分の意見を上手に伝え、相手の意見も引き出します。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
授業での発言量・質	30 %	:	発問に対する回答の量と質やペアワークと発表等に積極的に参加しているかどうかを評価します。
レポート課題	20 %	:	課題に対し、授業で学んだ知識に基づき読み手に分かりやすく論述できているかを評価します。
定期試験	50 %	:	専門知識や応用事例を問われる設問に対し、授業で学んだ正しい知識に基づき解答できているかどうかを評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

菅原龍幸他『四訂　食品加工学』（建帛社、2019年、ISBN978-4-7679-0644-7）
渡邊智子他『サクセス管理栄養士講座 食べ物と健康Ⅰ』（第一出版、2016年、ISBN978-4-8041-1342-5）
森田英利他『わかりやすい食品機能学　第2版』（三共出版、2017年、ISBN978-4-7827-0770-8）
その他、必要に応じて紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外の学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習しておくこと。
日頃からテレビ、新聞、雑誌、Webサイト等を活用し、食ビジネスに関するニュースや最新情報の把握に努めてください。
※なお、連携先の都合に合わせて、授業の順番や内容を一部変更する場合がある。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜２限

場所： 髙畑研究室（西館２階）

備考・注意事項： 授業の前後以外で質問したい場合は、メールにて受け付けます（takahata@osaka-seikei.ac.jp）。件名には必ず、所属・学籍番号・氏名を明記してください。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンスと食品加工・保蔵および食生活** 授業の進め方や評価方法などの説明後、食品加工・保蔵の目的と分類、食生活との関係について学びます。	どのように製造されているのか興味を持った食品加工を探してきてください。	4時間
第2回	**食品の保蔵** 乾燥、塩蔵、糖蔵、酸貯蔵、燻煙、低温、加熱、品質保持剤、放射線照射について特徴と仕組みを学びます。	加工食品の賞味・消費期間について調べてきてください。	4時間
第3回	**食品の包装** 包装の種類、包装材料の特徴と仕組みを学びます。また、ペアワークにより廃プラスティックによる環境汚染についても考えます。	加工食品の容器包装について調べてきてください。	4時間
第4回	**加工操作・技術** 3つの基本操作、物理的操作、化学的操作、生物的操作の特徴と仕組みを学びます。可能であればキッチンカーを招き加工操作を体験します。	加工食品の加工方法について調べてきてください。	4時間
第5回	**食品添加物と食品加工** 食品添加物の種類と用途、加工食品の安全性確保の意義と仕組みを学びます。	加工食品の添加物について調べてきてください。	4時間
第6回	**加工食品の表示** 食品表示法に基づく品質表示、栄養成分表示、食物アレルギー表示、遺伝子組換え表示の意義と仕組みを学びます。	加工食品の裏面表示について調べてきてください。	4時間
第7回	**農産加工品、食用油脂** パン、麺類、味噌、醤油、大豆油、オリーブ油の特徴と加工技術を学びます。	良く利用している農産加工品、食用油脂について調べてきてください。	4時間
第8回	**畜産加工品、水産加工品** ハム、ソーセージ、ヨーグルト、バター、マヨネーズ、かまぼこ、塩蔵品、魚肉缶詰の特徴と加工技術を学びます。	良く利用している畜産加工品、水産加工品について調べてきてください。	4時間
第9回	**アルコール飲料** ビール、日本酒、ワイン、ウイスキーの特徴と加工技術を学びます。	良く利用しているアルコール飲料について調べてきてください。	4時間
第10回	**調味料、嗜好飲料** グルタミン酸Na、塩、甘味料、香辛料、コーヒー、紅茶の特徴と加工技術を学びます。	良く利用している調味料、嗜好飲料について調べてきてください。	4時間
第11回	**インスタント食品・コピー食品** 冷凍食品、レトルトパウチ食品、コピー食品の特徴と加工技術を学びます。	良く利用しているインスタント食品、コピー食品について調べてきてください。	4時間
第12回	**機能性食品** 特定保健用食品、栄養機能食品、機能性表示食品、特別用途食品の特徴と応用事例を学びます。	加工食品の機能性表示について調べてきてください。	4時間
第13回	**ペアワークおよびレポート（製造フロー・HACCPプラン）** ペアワークにより市販されている加工食品の製法や安全性について考えます。各自で「加工食品の製造フローとHACCPプラン」についてレポートを作成します。	各自でレポートを作成してください。	4時間
第14回	**授業の振り返り・将来の展望** これまでの学びを振り返り、SDGsに取り組むうえで食品加工・保蔵のあり方や将来の展望などについても考えます。	定期試験は持込不可とし、試験期間中に行います。この授業で学んだことを振り返り、復習しておいてください。	4時間

233

授業科目名	カフェ経営演習				
担当教員名	吉田誠				
学年・コース等	3・4年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	カフェ経営（全14回）				

食ビジネスコース指定

授業概要

フードサービス店を開業する場合、企画・運営・経営の知識から調理の知識まで、幅広い知識が必要となります。また、持続可能な経営を目指す場合、人気となるメニュー開発やテイクアウト商品開発に関する技術やトレンドを感じ取る情報収集が重要となってきます。カフェ演習では、人気の業態であるカフェのスキルはもちろん、フード業界に関わる基本スキルを実習中心で広く学びます。また、焙煎士の方より様々なコーヒーの抽出技術を学びます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	カフェを運営するためのメニュー構成、経営知識や業務知識が理解できる。	学んだ知識・技術を正確に把握・実践できる力を身に付ける。
汎用的な力		
1. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		学んだ知識・技術を主体的に実行・実践できる
2. DP９.他者との協調・協働		チームワークを大切にし、和を持って物事をやり遂げられる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
期末テスト（実技テスト）	40 %	： 課題メニューを時間内に作り上げ、衛生的な配慮ができていたか、盛り付けが美しいかの項目について評価する。
毎回のレポート（調理実習ノート）	40 %	： 講義内容が理解出来ているか、調理手順が理解出来ているか、調理作業の効率化や調理理論が理解出来ているか、完成品のイラストがカラーで描けているか、の全てを評価する。
授業態度	20 %	： 積極的に取り組もうとする主体性や自分の役割を理解し協働しようとするする態度があったかを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

参考文献については実習時にそのテーマに沿って、都度紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 実習後30分間

場所： 346教室および準備室

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**定番喫茶店メニュー** ・ナポリタン ・タルタルソース ・白身フライ ・海老フライ 以上の内容を教員が模範実技した後、学生が実習する。教員は実習巡回にて的確に指導。	授業のレポートを簡潔にまとめ、後日提出	1時間
	・ナポリタン ・タルタルソース ・白身フライ ・海老フライ 以上の内容を教員が模範実技した後、学生が実習する。教員は実習巡回にて的確に指導。		
第3回	**定番卵サンドとプリン　基本のコーヒー** ・卵サンド ・ポテトフライ ・ハンドドリップコーヒー ・プリン 以上の内容を教員が模範実技した後、学生が実習する。教員は実習巡回にて的確に指導。	授業のレポートを簡潔にまとめ、後日提出。メニューデッサンはカラーで描くこと。	1時間
第4回	**定番卵サンドとプリン　基本のコーヒー** ・卵サンド ・ポテトフライ ・ハンドドリップコーヒー ・プリン 以上の内容を教員が模範実技した後、学生が実習する。教員は実習巡回にて的確に指導。	授業のレポートを簡潔にまとめ、後日提出。メニューデッサンはカラーで描くこと。	1時間
第5回	**人気のパンメニューとプリン・ア・ラ・モード** ・クロックムッシュ ・クロックマダム ・シーザーサラダ ・プリン・ア・ラ・モード 以上の内容を教員が模範実技した後、学生が実習する。実習巡回にて的確に指導。	授業のレポートを簡潔にまとめ、後日提出。メニューデッサンはカラーで描くこと。	1時間
第6回	**人気のパンメニューとプリン・ア・ラ・モード** ・クロックムッシュ ・クロックマダム ・シーザーサラダ ・プリン・ア・ラ・モード 以上の内容を教員が模範実技した後、学生が実習する。実習巡回にて的確に指導。	授業のレポートを簡潔にまとめ、後日提出。メニューデッサンはカラーで描くこと	1時間
第7回	**ふわふわパンケーキとノンアルコールカクテル** ・パンケーキ（食事系と甘い系） ・ノンアルコールカクテル 以上の内容を教員が模範実技した後、学生が実習する。実習巡回にて的確に指導。	授業のレポートを簡潔にまとめ、後日提出。メニューデッサンはカラーで描くこと	1時間
	・パンケーキ（食事系と甘い系） ・ノンアルコールカクテル 以上の内容を教員が模範実技した後、学生が実習する。実習巡回にて的確に指導。		
第9回	**大人気オムライスとオリジナルパフェとチャイ** ・オムライス ・自家製ケチャップ ・オリジナルパフェ ・チャイ 以上の内容を教員が模範実技した後、学生が実習する。教員は実習巡回にて的確に指導。	授業のレポートを簡潔にまとめ、後日提出。メニューデッサンはカラーで描くこと。	1時間

	・オムライス ・自家製ケチャップ ・オリジナルパフェ ・チャイ 以上の内容を教員が模範実技した後、学生が実習する。教員は実習巡回にて的確に指導。		
第11回	**みんなで楽しむパーティーメニュー** ・スモークサーモンとクリームチーズ ・リンゴカマンベール ・ツナアンチョビ ・キャロットラペ ・鯖缶リエット ・ビスコティ ・ティーソース 以上の内容を教員が模範実技した後、学生が実習する。教員は実習巡回にて的確に指導。	授業のレポートを簡潔にまとめ、後日提出。メニューデッサンはカラーで描くこと。	1時間
	・スモークサーモンとクリームチーズ ・リンゴカマンベール ・ツナアンチョビ ・キャロットラペ ・鯖缶リエット ・ビスコティ ・ティーソース 以上の内容を教員が模範実技した後、学生が実習する。教員は実習巡回にて的確に指導。		
第13回	**カフェ演習総括と基本技術習得度合の見極め（実技試験）** ・基本技術習得度合見極めのため、実技試験の実施 以上の内容で実技試験を実施し、評価の一部とする。	授業のレポートを簡潔にまとめ、後日提出。	1時間
	・基本技術習得度合見極めのため、実技試験の実施 以上の内容で実技試験を実施し、評価の一部とする。		
	・基本技術習得度合見極めのため、実技試験の実施 以上の内容で実技試験を実施し、評価の一部とする。		

233

授業科目名	ライフステージ栄養学				
担当教員名	伴みずほ				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

健康なヒトの一生の、ライフステージ毎の人体の形態や機能の特性は、健康的に生活を送るための栄養の役割が異なります。この授業では栄養がヒトの誕生以前から死に至るまでいかに大きく関係するかを知ることにより、自分自身の食生活を振り返り改善していくことを導いていきます。特殊環境ではスポーツを取り上げ、基礎体力を強化するための食事について学び、食事内容を選択できる力を養うことを目標とします。
※ライフステージとは前半期（妊娠・授乳期、乳児期、幼児期、学童期および思春期）後半期（成人期、更年期、高齢期各期）を指します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	各ライフステージに見合った食事のマネジメント能力	バランスの良い食事の意義と内容の説明ができ、実践的に若年成人の特性に見合った食事の選択ができ、そのうえでライフステージの前半期、および後半期の生理的変化・特徴が説明できる
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		個々の食事記録から健康を維持・増進させるための課題に気付くことができる
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		個々の食事記録から健康を維持・増進させるための課題に気付き、講義で得られた知識を用いた課題解決のための食事および商品開発の提案が行える

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・その他(以下に概要を記述)

企業の方より各ライフステージの食事のサポートについての講演を計画しています。

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
発表	20 %	： 食品の特性の理解、各ライフステージに見合ったバランスの良い食事内容または加工食品の新規提案、食事のタイミングが説明ができているかを評価します。
演習（食事記録含む）	30 %	： 若年成人である自分自身の必要量をモデルとして、ライフステージの前半期および後半期の食事の理解度を、各ライフステージの適切な１人分の食事内容が説明できているかを評価します。
定期試験	50 %	： ライフステージの各期における身体状況や生理的変化・特徴を理解し、ライフステージ別のエネルギー・栄養素必要量の科学的根拠や留意すべき栄養関連の病態・疾患等について必要な基礎知識が理解できたかを評価します

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
鈴木和春（編）	・ ライフステージ栄養学　第2版	・ 光生館	・ 2021　年

参考文献等

【参考書】伊藤 貞嘉監修、日本人の食事摂取基準（2020年版）ISBN　9784804114088

【参考書】鈴木和春　他著　サクセス管理栄養士・栄養士養成講座 基礎栄養学　ISBN　9784804114705

【参考書】実教出版編修部　生活学Navi 資料＋成分表　2022　商品コード 9784407352375

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をしてください
授業の順番や内容を変更する場合があります

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日5時間目

場所： 研究室（図書館2階）

備考・注意事項： 質問はメールでも応じます
ban-m@osaka-seikei.ac.jp（タイトルには氏名、学籍番号を記入のこと）

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**自分を知る** エネルギーバランスをとるために、活動量と食事量の関係を理解する（消費エネルギーと摂取エネルギー）。 日本人の食事摂取基準の利用方法を習得する。	エネルギーバランスが崩れてしまうと起こり得る弊害について調べる。	4時間
第2回	**エネルギー代謝** ヒトが食事から得る摂取エネルギーと体内で消費される消費エネルギーとの出納をエネルギー代謝と言う。エネルギーの定義を理解し、自分のエネルギー消費量あるいは必要量の算出方法について学ぶ。またライフスタイルの違いについて学ぶ。	自分の食事（１日分）でどのくらい摂取しているのかを、食事（料理）のエネルギー量を調べ（教材を利用）把握しておく。	4時間
第3回	**効果的な食べるタイミング・食べると働く栄養素・食品の強みを知る・強くなる食べ方を知る** 朝食・昼食・夕食の役割を理解し、それぞれの役割に見合った内容を学ぶ。 私達ヒトは食物（有機物）を食べなければ生きていく事はできない。健康を維持・増進させるために、食べ物に含まれている５つの栄養素を、体内で利用するためである。食べた後の栄養素の取り込み方（消化と吸収）と、筋肉等の細胞に運ばれた栄養素の利用のされ方（分解や合成）を学ぶ。また栄養素は一つ一つが単独で働いているわけではない。栄養素のチームプレイの様子についても理解する。そのために、エネルギーを作る栄養素、体を作る栄養素、体の調子を整える栄養素、これらの栄養素を、それぞれ多く含む食品を知る。食事の基本形である、５つの皿を覚え各皿に込められている役割を理解する。またライフスタイルの違いについて学ぶ。	栄養素の過不足で起こる症状（例；脚気、肥満等）について調べる。	4時間
第4回	**ライフステージの前半期（妊娠・授乳期）** 母性の生理（妊娠の経過，つわりと悪阻，母体の変化）、妊娠期の栄養の特徴と食生活（妊娠期の食事摂取基準）授乳期の特性と授乳期の栄養（授乳期の食事摂取基準）について学ぶ。 ※ライフステージとは前半期（妊娠・授乳期、乳児期、幼児期、学童期および思春期）後半期（成人期、更年期、高齢期各期）を指します。	妊娠・授乳期関連商品を調べる。	4時間
第5回	**ライフステージの前半期（乳児期、幼児期）** 乳児の生理（成長発育，栄養生理）　母乳栄養と人工栄養 離乳期の栄養（食事摂取基準） 幼児期の栄養（栄養の特性、食行動としつけ、食事摂取基準）について学ぶ。 また食物アレルギーについて学ぶ。	乳児期、幼児期関連商品を調べる。食物アレルギーの事故例について調べる。	4時間
第6回	**ライフステージの前半期（学童期および思春期）** 学童期の栄養（学校給食、食事摂取基準）　思春期の栄養（発育と栄養の特性、食事摂取基準）について学ぶ。	学童期および思春期関連商品について調べる。	4時間
第7回	**ライフステージの後半期（成人期、更年期）** 成人期の栄養と食生活（成人期の食事摂取基準）　更年期の栄養　更年期の栄養 運動・スポーツによる生理効果、生活習慣病予防と運動、運動とQOL改善について学ぶ。 環境変化に対する生体応答とホメオスタシス、ストレス応答と栄養、特殊環境（スポーツ以外）と栄養　についても学ぶ。	成人期、更年期関連商品について調べる。	4時間
第8回	**ライフステージの後半期（高齢期各期）** 生体の加齢にともなう生理的変化と栄養状態、高齢期の生理的特徴と栄養（高齢期の食事摂取基準）高齢期に発症する疾病の種類と予防　　高齢期のQOL 改善　について学ぶ。	高齢期各期関連商品について調べる。	4時間
第9回	**特殊環境下の栄養：スポーツ栄養　水分補給でベストをつくす**	市販されているスポーツ飲料について調べる。	4時間

	成人の体の水分量は約60%である。この水分量を維持するために人は毎日水分を摂り不要になった水分を排泄する。ライフステージ毎で起こる生理機能を理解し、水分補給の方法を覚える。		
第10回	**特殊環境下の栄養：スポーツ栄養　競技特性を知る** スポーツの種類はエネルギーを何から得るかによって、ハイパワー系、ミドルパワー系、ローパワー系の３つに分けることができる。競技特性にみあった食事の違いを理解する。	エネルギー特性の違いによる運動時間の違いについて調べる。	4時間
第11回	**特殊環境下の栄養：スポーツ栄養　成果を最大限に引き出す①（スケジュール・運動量・食事内容）** シーズン中に立てられたスケジュール（トレーニング期、試合期、回復期（オフ期）、ウエイトコントロール期、障害の回復期）での運動量の違いを理解し、各期の目的に沿った食事内容を学ぶ。	各期（トレーニング期、試合期、回復期（オフ期）、ウエイトコントロール期、障害の回復期）の目的を調べる①	4時間
第12回	**特殊環境下の栄養：スポーツ栄養　成果を最大限に引き出す②（運動量・食事内容・疲労の種類）** シーズン中に立てられたスケジュール（トレーニング期、試合期、回復期（オフ期）、ウエイトコントロール期、障害の回復期）での運動量の違いを理解し、各期の目的に沿った食事内容を学ぶ。	各期（トレーニング期、試合期、回復期（オフ期）、ウエイトコントロール期、障害の回復期）の目的を調べる②	4時間
第13回	**ライフステージ別のベストな食事の発表準備・サプリメントで不足を補う** 各ライフステージから1つ選び、発表準備に取り掛かる。ベストな食事とは何か、また市場に売られている関連食品の紹介と課題を含める。 特定保健用食品およびJADA認定食品と現状について知り、サプリメントの使い方を学ぶ。	ライフステージ毎の関連商品について市場調査を行う	4時間
第14回	**ベストな食事の発表** 自分が選んだライフステージの食事を想定し、ベストな食事の発表を行う。	発表の準備を行う（ppt・原稿）	4時間

233

授業科目名	**公共リスクマネジメント/危機管理論**				
担当教員名	**大島博文**				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	政令市で都市計画・防災・交通・総合計画・統計等の新規施策立案・計画策定・経営業務を経験。公益財団法人であるシンクタンクで地域に関するまちづくり・福祉・環境・防災・災害復興等の政策立案・コンサルティング業務、研修等の人材育成業務を担当。（全14回）				

授業概要

「危機管理」とは、発生しうる危機（災害・大規模犯罪・大規模事故・国際紛争等）を管理することであり、また危機を回避する一連のプロセスを総称して呼ぶこともある。危機管理においては、危機が発生した場合に、負の影響を最小限にするとともに、いち早く危機状態からの脱出・回復を図ることが重要となる。すなわち、事前に危機として起こりうる災害・犯罪・事故・国際紛争等を想定して、実際に発生が避けられない起こりうることとして、何をすれば最も負の影響が減ることになるかを検討しておく必要がある。本授業では、我が国や地域において起こりうる危機を把握するとともに、危機への対応を行う組織（主として、自治体等の危機管理部門、警察、消防、自衛隊など）による取り組みや課題、今後新たに生じうる危機への対応等について学ぶ。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	我が国や地域において起こりうる危機を把握するとともに、危機への対応を行う組織（主として、自治体等の危機管理部門、警察、消防、自衛隊など）による取り組みや課題、今後新たに生じうる危機への対応等について学ぶ。	我が国や地域において起こりうる危機や危機への対応を行う組織（主として、自治体等の危機管理部門、警察、消防、自衛隊など）による取り組みや課題、今後新たに生じうる危機への対応等を説明できる。
2. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	我が国や地域において起こりうる危機を把握するとともに、危機への対応を行う組織（主として、自治体等の危機管理部門、警察、消防、自衛隊など）による取り組みや課題、今後新たに生じうる危機への対応等に関する理解に根ざした政策提案の実施	我が国や地域において起こりうる危機を把握するとともに、危機への対応を行う組織（主として、自治体等の危機管理部門、警察、消防、自衛隊など）による取り組みや課題、今後新たに生じうる危機への対応等に向けた効果的な政策提案をすることができる。
汎用的な力		
1. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		我が国や地域において起こりうる危機を把握するとともに、危機への対応を行う組織（主として、自治体等の危機管理部門、警察、消防、自衛隊など）による取り組みや課題、今後新たに生じうる危機への対応等を企画・立案できる
2. DP８.他者とのコミュニケーション		我が国や地域において起こりうる危機を把握するとともに、危機への対応を行う組織（主として、自治体等の危機管理部門、警察、消防、自衛隊など）による取り組みや課題、今後新たに生じうる危機への対応等を検討するうえで、外部機関やグループメンバー等とコミュニケーションをとることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・eラーニング、反転授業

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・見学、フィールドワーク

・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題

に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
期末試験	40 %	： 行政組織や地域におけるリスクマネジメントに関する事項を問う問題を出題し、その理解度と的確に記述や説明ができているかを基準にして評価する。
授業内レポート（３回）	30 %	： ①リスクマネジメント、②警察、消防等のリスクマネジメントへの対応、③地域におけるリスクマネジメントのあり方に関する授業内レポートを作成し、「内容理解」「論理性」「独創性」を基準に評価する。
授業への貢献	30 %	： 授業での発表内容、グループワークでの役割など授業への貢献度を評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

「実践 危機管理読本」（藤江俊彦／日本コンサルタントグループ／2007年（ISBN：978-4889165135）
「生活リスクマネジメント」（奈良由美子／放送大学教育振興会／2017年）（ISBN：978-4595140822）
「災害と防災～これまでと今」（志岐常正／／本の泉社／2018年）（ISBN： 978-4780719123）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　火曜・５限

場所：　西館3階37研究室

備考・注意事項：　連絡を取りたい場合はメールでも可（oshima@osaka-seikei.ac.jp）

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**授業オリエンテーション～危機管理とは** 授業の進め方 危機管理とは何かを学ぶ。	参考図書やインターネット等で予習・復習する。	4時間
第2回	**危機管理の現状と課題** 危機管理について、現状と課題を学ぶ。	参考図書やインターネット等で予習・復習する。	4時間
第3回	**災害における危機管理** 災害における事前想定や緊急対応など危機管理の方法等について学ぶ。	参考図書やインターネット等で予習・復習する。	4時間
第4回	**大規模犯罪・事故における危機管理** 大規模犯罪や大規模事故における事前想定や緊急対応など危機管理の方法等について学ぶ。	参考図書やインターネット等で予習・復習する。	4時間
第5回	**国際紛争における危機管理** 国際紛争における事前想定や緊急対応など危機管理の方法等について学ぶ。	参考図書やインターネット等で予習・復習する。	4時間
第6回	**リスクコミュニケーションによるリスクマネジメント** リスクコミュニケーションによる危機管理の方法等について学ぶ。	参考図書やインターネット等で予習・復習する。	4時間
第7回	**信頼と危機管理の関係性** 危機管理を実施するうえでの「信頼」の重要性等について学ぶ。	参考図書やインターネット等で予習・復習する。	4時間
第8回	**【特別講義】自治体における危機管理** 自治体の危機管理担当者により、自治体における危機管理の現状や課題、今後の取り組み等について特別講義を実施する。	参考図書やインターネット等で予習・復習する。	4時間
第9回	**【特別講義】自衛隊における危機管理** 自衛隊の危機管理担当者により、自治体における危機管理の現状や課題、今後の取り組み等について特別講義を実施する。	参考図書やインターネット等で予習・復習する。	4時間
第10回	**【特別講義】警察における危機管理** 警察関係者により、警察による犯罪リスク等への対応の現状や課題、今後の取り組み等について特別講義を実施する。	参考図書やインターネット等で予習・復習する。	4時間
第11回	**【特別講義】消防における火災・救急リスク等への対応** 消防関係者により、消防による火災・救急事案等への対応の現状や課題、今後の取り組み等について特別講義を実施する。	参考図書やインターネット等で予習・復習する。	4時間
第12回	**危機管理への対応策を検討する（グループワーク）**	参考図書やインターネット等で予習・復習する。	4時間

	自治体、自衛隊、警察、消防関係者の特別講義から学んだ危機管理の課題を解決するための方策等を検討する。（グループワーク）		
第13回	**危機管理に関する課題解決に向けて（グループ発表）** 自治体・自衛隊・警察・消防関係者を招き、グループにより、課題解決に向けた方策を発表し、評価・コメントを受ける。	参考図書やインターネット等で予習・復習する。	4時間
第14回	**授業全体まとめ** ・授業全体のふりかえり	授業全体の復習をする。	4時間

233

授業科目名	**地域経済学**				
担当教員名	田村匡・大島博文				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	スポーツ関連企業や団体のマーケティング支援、スポーツイベント企画・実施、スポーツ施設の設計施工・運営支援など（田村・8-14回）政令市で地域経済・防災・交通・総合計画・統計等の新規施策立案・計画策定・経営業務を経験（大島・1-7回）				

授業概要

地域や都市に関する経済学的視点での理論や政策を実務的視点も踏まえながら学習する。具体的には、日本の地域構造（産業構造、人口動態、情報化・国際化）、地域経済と所得形成（地域経済計算、地域所得、地域所得モデル、産業連関分析）、地域間格差と人口移動（経済発展との関係性、労働市場）、産業立地（産業立地理論、工業立地理論、空間的競争、外部性と産業集積）、自治体による産業政策・所得政策（インフラ整備、体制構築、新産業立地に向けた戦略性）、都市の成立・発展（中心地理論、都市システム、輸送費と商圏、地価と地代、住宅立地）、土地問題と土地政策（歴史的経緯、土地政策の手段）、地域政策（都市政策、まちづくり）等について学ぶ。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	日本の地域構造、地域経済と所得形成、地域間格差と人口移動、産業立地、自治体による産業政策・所得政策、都市の成立・発展、土地問題と土地政策、地域政策等に関する専門的知識・技能を学ぶ。	日本の地域構造、地域経済と所得形成、地域間格差と人口移動、産業立地、自治体による産業政策・所得政策、都市の成立・発展、土地問題と土地政策、地域政策等に関する専門的知識・技能を職務遂行上、活用できる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		日本の地域構造、地域経済と所得形成、地域間格差と人口移動、産業立地、自治体による産業政策・所得政策、都市の成立・発展、土地問題と土地政策、地域政策等に関する情報の収集・分析等ができる。
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		日本の地域構造、地域経済と所得形成、地域間格差と人口移動、産業立地、自治体による産業政策・所得政策、都市の成立・発展、土地問題と土地政策、地域政策等に関する課題解決に向けた方策の企画・立案ができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
期末試験	80 %	： 地域経済学に関する基本的な事項を問う問題を出題し、その理解度と的確に記述や説明ができているかを基準にして評価する。
授業内レポート（４回）	20 %	： 地域経済学に関する授業内レポートを作成し、「内容理解」「論理性」「独創性」を基準に評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
山田浩之・徳岡一幸（編）	・ 地域経済学入門（第３版）	・ 有斐閣	・ 2018　年

参考文献等

授業中に適宜資料等を配付する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加えその回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日５限

場所： 西館３階37研究室（大島）

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス、地域経済学の主な論点** 授業の進め方 地域経済学とは何かを学ぶ。	地域および経済についてこれまで学んだ知識を復習しておく。	4時間
第2回	**日本の地域構造** 日本の地域構造について、地域構造と①産業構造の変化、②人口動態との関係性を学ぶ。また、情報化・国際化と東京一極集中との関係性について学ぶ。	教科書やインターネット、講義中の参考資料等で復習し、日本の地域構造に関する理解を深める。	4時間
第3回	**地域経済と所得形成** 地域経済計算とその概念、地域所得の決定、単純な地域所得モデル、地域の産業連関分析について学ぶ。	教科書やインターネット、講義中の参考資料等で復習し、地域経済と所得形成に関する理解を深める。	4時間
第4回	**地域間格差と人口移動** 日本の地域間格差、経済発展と地域間格差、地域間格差が存続する理由、人口移動と労働市場について学ぶ。	教科書やインターネット、講義中の参考資料等で復習し、地域間格差と人口移動に関する理解を深める。	4時間
第5回	**産業立地** 産業に関する立地論の考え方、工業立地理論、空間的競争、外部性と産業集積について学ぶ。	教科書やインターネット、講義中の参考資料等で復習し、産業立地に関する理解を深める。	4時間
第6回	**自治体による産業政策** 自治体による産業政策について、インフラの整備、産業誘致体制の整備、新産業誘致に向けた戦略性等を学ぶ。	各自治体の産業政策について、インターネット、講義中の参考資料等で復習し、理解を深める。	4時間
第7回	**自治体による所得政策** 自治体による所得政策について、主として産業構造の転換政策との関係性を学ぶ。	各自治体の所得政策について、インターネット、講義中の参考資料等で復習し、理解を深める。	4時間
第8回	**都市の成立・発展** 都市とは何か、集積の経済と都市の発展、都市化と都市圏の形成について、そのメカニズムと諸説について学ぶ。	教科書やインターネット、講義中の参考資料等で復習し、都市の成立・発展に関する理解を深める。	4時間
第9回	**都市の土地利用** 地価と地代の関係、住宅立地と家計の行動との関係、住宅とオフィス企業の付け値地代との違いと土地利用の入替り等について学ぶ。	教科書やインターネット、講義中の参考資料等で復習し、地価と地代、土地利用との関係についての理解を深める。	4時間
第10回	**土地問題と土地政策** 戦後日本を題材として、土地問題の歴史的経緯、土地利用に関する土地政策とその手段、都市計画制度等について事例をまじえて学ぶ。	教科書やインターネット、講義中の参考資料等で復習し、土地政策に関する理解を深める。	4時間
第11回	**住宅市場と住宅政策** 住宅と住宅市場の特質、帰属家賃の考え方、ヘドニック・アプローチによる住宅価格決定の考え方等について学ぶ。	教科書やインターネット、講義中の参考資料等で復習し、住宅市場と住宅政策に関する理解を深める。	4時間
第12回	**日本の地域政策** 地域政策の目的と地域開発戦略についての一般的な理論を概観したのち、戦後日本の地域政策について、その変遷と目的の変化について学ぶ。	教科書やインターネット、講義中の参考資料等で復習し、日本の地域政策に関する理解を深める。	4時間
第13回	**日本の都市政策とまちづくり** 主に日本の都市政策の変遷を理解した上で、最近の都市再生政策、コンパクトシティ、創造都市等について学ぶ。	教科書やインターネット、講義中の参考資料等で復習し、日本の都市政策に関する理解を深める。	4時間

第14回	**まとめと振り返り** これまでの学習内容を整理し理解を深めるとともに、今後学修すべき点等について考える。	今後の学修に結びつけられるよう、学んだこと全体についてしっかり復習する。	4時間

233

授業科目名	**公共政策論Ⅱ**				
担当教員名	大塚康央				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	茨木市において、企画、都市計画、まちづくり計画、住民参加などを経験したのち、副市長として政策立案、実施、評価全般を担当。（全14回）				

授業概要

社会全体に関わる公共的課題を解決する「公共政策」について、個別事例を通じて、政策の目的、政策を実現するために行われる施策、事業の内容、政策推進における課題、関係する利害関係者や合意形成への取り組みなどを総合的に把握、理解し、公共政策の意義や内容を深く理解する。特に、政策形成や政策実施におけるアクターの役割や機能に注目して学ぶ。
また、政策について考察することで、問題の発見から利害調整、合意形成、効率的・合理的な方策の検討・提案、客観的な評価などの知識・能力を身につけ、政策的にものごとを考えることができる力を養う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	社会で発生する問題の解決のための公共政策を支える規範や基本的な姿勢を理解する。	公共政策を進める際に求められる公共性、公平性、公平性などの公共規範について理解し課題解決のための政策の内容や政策間の連携を説明できる。
2. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	公共的問題について理解し、解決策（政策）を検討・立案するために必要な知識、情報を身につける。	政策の具体的な内容を学ぶことで、政策を支える基本的な考え方を知り、関係する様々なステークホルダーとの協働や施策の総合化による課題解決について理解することができる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		公共的問題の原因を把握し、解決が必要な課題を見つけることができる。
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		課題に対応した解決策を検討し、効率的・合理的な計画案を立案することができる。

学外連携学修

有り(連携先：地方自治体)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への貢献	20 %	： 授業で行う具体的事例に関して、質問や政策の理解、グループワークでのまとめにおけるグループ活動での取り組みにより授業への貢献度を評価する。
グループ発表	10 %	： グループ発表の内容と、発表に対する質問や評価
最終レポート	40 %	： 政策と公共的問題・課題の分析、実施されている内容の整理と、当該政策に対する見解あるいは政策に関係する立場からの考えについてのレポートの内容により評価する。

授業を通じての成長	:	各回の振り返りにより、授業の理解度や社会の中で果たす役割などについて考え、これからの学びや活動につなげていくために必要な学びを獲得できているかを確認、評価する。

30　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

秋吉貴雄、伊藤修一郎、北山俊哉著『公共政策学の基礎（第3版）』（有斐閣ブックス、2020、ISDN978-4641184497）
西尾隆著『現代の行政と公共政策』（NHK出版、2016、ISBN978-4595316234）
新川達郎編『政策学入門－私たちの政策を考える』（法律文化社、2013、ISBN978-4589035288）
新藤宗幸著『概説日本の公共政策（第2版）』（東京大学出版会、2020、ISBN978-4130322294）
山崎義人ほか著『はじめてのまちづくり学』（学芸出版社、2021、ISBN978-4761527815）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
授業外学修課題に取り組むとともに、授業内容の復習・予習を行うこと。
公共政策に常に関心を払うため、新聞、ニュース等で、政策に関する情報を収集すること。
なお、ゲストスピーカーの予定により授業計画を変更する場合がある。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜4限

場所：　西館4階研究室

備考・注意事項：　上記以外でも、研究室に在席中は対応可能です。この場合、あらかじめ連絡すること。（otsuka-y@osaka-seikei.ac.jp）

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**公共政策とは** 公共政策について、対象とする問題、政策決定の仕組みや特徴、政策体系と実施における課題等、公共政策全般について概括する。 この授業で身につけたい知識・能力を各自で設定する。	公共政策論Ｉで学んだ公共政策過程を復習しておく。	4時間
第2回	**特徴ある公共政策の事例収集** 既存資料を用い、自らが特に関心があり、実際に行われている公共政策について調べ目的や特長を把握する。	特色ある政策について報告できるよう概要をまとめる。	4時間
第3回	**特色ある政策について（選定内容の報告）** 特色ある政策について、政策の目的、関係するステークホルダー、実施内容、効果や評価を報告する。特に、関係するステークホルダーの役割を考察する。	政策が生み出される背景、条件について政策の窓モデルやごみ箱モデルを用いて考察する。	4時間
第4回	**都市の課題と政策** 都市の問題、課題解決に立案される公共政策について、自治体がどのような計画を作成し、実施しているのか、その策定根拠はどこにあり、策定目的は何かを学修する。	行政計画の内容について、暮らしている自治体を事例に調査する。	4時間
第5回	**交通政策（特別授業）** 自治体の交通政策担当者から、地域交通をめぐる問題、自治体における取り組みについて説明を受け、交通政策の概要を学修する。	説明を受けた内容を整理し、交通政策の実態と課題についてまとめておく。	4時間
第6回	**交通政策（政策内容と課題分析）** グループワークで交通政策について意見交換を行い、自治体が直面している政策課題や解決が必要な事項について考える。地域の交通問題の解決に必要な事項を考察する。	交通政策（特に地域の交通をめぐる状況と対策）についてまとめを作成する。	4時間
第7回	**福祉・子育て政策（特別授業）** 自治体の福祉政策担当者から、良好な生活環境を実現するための自治体における取り組みについて説明を受け、環境政策の概要を学修する。	説明を受けた内容を整理し、福祉・子育て政策の実態と課題についてまとめておく。	4時間
第8回	**福祉・子育て政策（政策内容と課題分析）** グループワークで環境政策について意見交換を行い、自治体が直面している政策課題や解決が必要な事項について考える。政策の効果と課題について考察する。	福祉・子育て政策について、その歴史や現在の課題をまとめる。	4時間
第9回	**政策間の連携** 部門別に学んできた「都市計画」「交通政策」「福祉政策」が、どのように連携しているのか、連携することの必要性、重要性をグループ活動により考える。	交通政策、福祉政策について学んだ内容から､政策監の連携がどのように行われているのかを考察しまとめる。	4時間
第10回	**マスタープラン**	総合的な計画となるマスタープランと首長の政策（公約）との関係を考察する。	4時間

	都市のまちづくりの基本となるマスタープランについて、目的、社会環境の変化に応じた制度の変更、これからの計画のあり方などについて学修する。特に、政策間の関係（交通と福祉政策など）から、総合的な政策検討について学ぶ。		
第11回	**政策間の連携から政策立案（グループ活動、発表準備）** 架空の自治体を設定し、直面している課題を確認し、解決のための施策（複合化）を立案する。	他のメンバーの報告から得た知見のまとめを行う	4時間
第12回	**グループ発表** 公共的問題の解決を図る公共政策についてグループで協働してまとめてきた内容を発表し、評価を受ける。	発表に対する評価から、政策に関する考察を深める。	4時間
第13回	**政策の変遷** 自治体におけるスポーツ政策の移り変わりを分析し、スポーツとまちづくりや、関係団体との関係、重点的な施策などから、政策における変化と背景を考察する。 社会の状況やニーズと政策との関係の理解を深める。	作成したワークシートから政策・施策・事業を考えレポートとしてまとめていく。	4時間
第14回	**全体まとめ** まちづくりに向かう自分設定(ワーク)を行い、10年後、30年後の生活を思いうかべながら、それを実現するための政策提案を行う。 公共政策が対象とする問題、問題が政策・施策として取り上げられる過程、利害調整や合意形成による決定過程、行政職員を中心とする政策に関わる組織・関係者、政策評価の実態と課題など、公共政策全般を総括する。	学んできたことを振り返り、公共的問題における政策の意義や課題を整理する。	4時間

233

授業科目名	**公共政策フィールドワークⅡ**				
担当教員名	**荒木俊之**				
学年・コース等	3年・公共政策コース	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	民間企業に従事し、認定都市プランナーとして、地方自治体の都市計画やまちづくりなどに関する調査の実施や計画の策定などを支援した経験を有する。（全14回）				

授業概要

本授業では、高齢化が進む中、様々な課題が発生する高齢者の生活に焦点を当てて、大阪市東淀川区地域課・井高野地域活動協議会と協働で、東淀川区井高野地域における高齢者の生活に関する課題をフィールドワークにて分析、発見し、その解決に向けた取組みを検討する。本授業は、大きく分けて2部構成とする。第1～8回は、地域の高齢者に関する課題を、データ分析、フィールドワーク、インタビュー調査、政策担当者の講演からグループワーク等で検討する。そのうえで、第9回に全体で共有する。そこで発見した課題を解決するために、第10～13回に企画提案等を検討し、第14回に地域の関係者に対してそれを実施する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	講義内で行政が実施したアンケートを分析し、政策担当者との「まちあるき」フィールドワークとインタビュー調査を実施する。	フィールドワーク・アンケート分析・インタビュー調査の手法を習得する。
2. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	フィールドワーク・アンケート分析・インタビュー調査から地域の課題とその解決に向けた提案を政策担当者に報告する。	フィールドワーク・アンケート分析・インタビュー調査の手法を通して、政策課題解決のための提言を行う。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		フィールドワークとアンケート分析で現場の課題を見つける。
2. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		フィールドワーク・アンケート分析・インタビュー調査を実践する。
3. DP９.他者との協調・協働		グループワークを通した協調性を身につける。

学外連携学修

有り(連携先：大阪市東淀川区地域課・井高野地域活動協議会などを想定)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

・見学、フィールドワーク

・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
個人活動における課題	50 %	： 対象地域のデータ分析、フィールドワークの結果、住民自治に関するまとめレポートなどの内容が、妥当かつ的確であったかどうかなどで評価する。
グループ活動における課題	20 %	： グループワークで行うフィールドワークの結果共有やインタビュー調査結果などの内容が、妥当かつ的確であったかどうかなどで評価する。
企画提案（地域行事での取組み）の実施とそのまとめ		： ループごとに実施する企画提案（地域行事での取組み）とそのまとめの内容が、妥当かつ的確であったかどうかなどで評価する。

30　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

野間晴雄・香川貴志・土平 博・山田周二・河角龍典・小原丈明 編著「ジオ・パルNEO ［第2版］―地理学・地域調査便利帖―」海青社／2017年（第2刷2019年）（ISBN：9784860993153）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
なお、フィールドワークの実施状況などにより、授業内容や順序を変更する場合がある。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　火曜4限

場所：　西館3F 42研究室

備考・注意事項：　連絡を取りたい場合はメールでも可（araki-t@g.osaka-seikei.ac.jp）

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス：多世代協働のためのフィールドワーク** 高齢社会と高齢者の生活に関するレクチャーを通して理解を深める。	フィールドワークの目的や実施方法などについて、事前にインターネットや参考図書をもとに調べる。 授業後は、講義内容などをもとに、高齢社会における地域の課題を復習し、理解を深める。	4時間
第2回	**対象地域データの事前調査** 対象地域のデータを取得し整理を行う。	対象地域の高齢者の生活に関わるデータを取得する。 授業後は、入手したデータを、図表などに整理し、地域の現状の理解を深める。	4時間
第3回	**地域における社会福祉の現状と課題** 高齢者に関する行政サービスの現状や対象地域の課題について理解を深める。	事前に、地域の現状やインターネットなどで、対象地域における社会福祉の現状と課題を把握する。 授業後は、学修した地域の課題を踏まえて、フィールドワークで必要な調査事項等を検討する。	4時間
第4回	**課題発見に向けたフィールドワーク実施** フィールドワークにて高齢者の生活に関連する施設等を調査し、高齢者の生活空間への理解を深める。	事前に、フィールドワークに必要な準備を行う。 授業後は、フィールドワークの結果をもとに、高齢者の生活に関する課題を改めて考察する。	4時間
第5回	**フィールドワーク結果の共有** 個人ごとに整理したフィールドワークの成果をグループワークにて共有する。	事前に、第4回で実施したフィールドワークの内容などグループで共有しやすいように整理する。 授業後は、共有したフィールドワーク結果をもとに復習し、理解を深める。	4時間
第6回	**地域における政策課題の把握** 政策担当者等から行政が考える対象地域の現状や具体的な政策面の課題について説明を受け、理解を進める。	事前に、地域における政策面の課題をインターネット等で調べ、考える。 授業後は、示された具体的な政策面の課題を復習し、その理解を深める。	6時間
第7回	**地域住民等へのインタビュー調査の準備** 地域の課題把握や企画提案に必要なインタビュー調査の項目や内容などを検討する。	事前に、インタビュー調査で必要な調査事項等を検討する。 授業後は、インタビュー調査の準備を行う。	4時間
第8回	**地域住民等へのインタビュー調査** 地域住民や住民組織等へ、企画提案に向けて必要な事項等をインタビュー調査にて聴取する。	事前に、インタビュー調査の調査方法を確認する。 授業後は、インタビュー結果を企画提案に反映できるよう取りまとめる。	4時間
第9回	**インタビュー調査結果の共有および地域課題の検討** 個人ごとに整理したフィールドワークの成果をグループワークにて共有したうえで、解決すべき地域課題を改めて検討する。	事前に、第8回で実施したインタビュー調査結果の内容などグループで共有しやすいように整理する。 授業後は、検討した地域課題の理解を深める。	4時間
第10回	**企画提案の方針の検討** 地域の課題を解決するために個人ごとに考えた企画提案の方針（たたき案）を共有し、グループで企画提案の方針（方向性）を検討する。	事前に、地域の課題を解決するために、企画提案の方針（たたき案）を検討する。 授業後は、グループワークで検討した企画提案の方針（方向性）をもとに、その内容を考える。	4時間

第11回	**企画提案の内容の検討** 地域の課題を解決するために個人ごとに考えた企画提案の内容（たたき案）を共有し、グループで企画提案の内容（地域行事での取組み）を検討する。	事前に、地域の課題を解決するために、企画提案の内容（たたき案）を検討する。 授業後は、グループワークで検討した企画提案の内容（地域行事での取組み）を再確認し、理解を深める。	6時間
第12回	**企画提案に関する発表** グループごとに検討した企画提案の内容（地域行事での取組み）について全体で共有し、実施にあたっての留意点などを確認する。	事前に、全体で共有する企画提案の内容（地域行事での取組み）を整理し、報告に備える。 授業後は、企画提案（地域行事での取組み）の実施に向けた準備等を行う。	4時間
第13回	**企画提案の実施に向けた準備** 企画提案（地域行事での取組み）の実施に向けた準備等を行う。	事前、授業後ともに、企画提案（地域行事での取組み）の実施に向けた準備等を行う。	4時間
第14回	**企画提案の実施** グループごとに、企画提案（地域行事での取組み）を実施する。	事前に、企画提案（地域行事での取組み）の実施に向けた準備等を行う。 授業後、企画提案（地域行事での取組み）の実施状況をまとめる。	4時間

231

授業科目名	スポーツマネジメント基礎Ⅰ				
担当教員名	坂中勇亮・青野桃子				
学年・コース等	1年・2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	坂中：体育協会の職員として、地域スポーツ行政に従事				

授業概要

スポーツをマネジメントするうえで、教養としてのスポーツ科学の知識が必要となる。スポーツ科学とは、スポーツに関連する様々な現象や動向を科学的に検証し、考察する学問分野である。本講義では、スポーツ科学が扱う分野を知り、各分野でどのようなことを学ぶのか、その概要について学ぶ。本科目では、主に人文科学の分野である、「スポーツと歴史」、「スポーツと文化」、「スポーツと政治」、「スポーツと倫理」を取り扱っていく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	専門的な力の修得	スポーツに関する教養知識を学び、スポーツマネジメントへのスポーツ教養の応用について説明することができる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		スポーツに関する教養を学びつつ、関連した課題について自身で情報を収集し、考察することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
①振り返りレポート	50 %	： 独自のルーブリックを用いて評価します。
②講義内課題への取り組み	20 %	： 講義内で課せられた課題への取り組みについて、独自のルーブリックを用いて評価します。
③中間レポート	15 %	： 講義全体の内容を踏まえて、正確な理解と思考力を問うレポートを出題し、独自のルーブリックを用いて評価します。
④期末レポート	15 %	： 講義全体の内容を踏まえて、正確な理解と思考力を問うレポートを出題し、独自のルーブリックを用いて評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

・谷釜尋徳「スポーツの日本史: 遊戯・芸能・武術」吉川弘文館（ISBN 978-4642059800）
・井上俊・菊幸一編著「よくわかるスポーツ文化論【改訂版】」ミネルヴァ書房（ISBN 9784623088393）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日4限

場所： 担当教員の研究室

備考・注意事項： 何か、質問があればいつでも研究室に来てください

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション～スポーツとは何か？～** 講義の実施方法について説明します。また、本科目を始めるにあたり、スポーツの本質的な意義やスポーツ観（スポーツ目的論・手段論）について学びます。	本講義を受講する目的意識を確認しておきましょう。	4時間
第2回	**スポーツと歴史（１）～古代・中世のスポーツ～** 古代ギリシャ・ローマ時代から中世までの歴史とスポーツの関わりを学びます。	古代のギリシャ・ローマにおけるスポーツ活動について調べる	4時間
第3回	**スポーツと歴史（２）～江戸時代のスポーツ～** 江戸時代における歴史とスポーツの関わりを学びます。	江戸時代の日本におけるスポーツ活動について調べる	4時間
第4回	**スポーツと歴史（３）～近現代のスポーツ～** 明治時代以降の歴史とスポーツの関わりを学びます。	明治・大正時代の日本におけるスポーツ活動について調べる	4時間
第5回	**スポーツと文化（１）～近代スポーツの誕生とスポーツの伝播～** イギリスにおいて近代スポーツが誕生した変遷について学ぶとともに、近代スポーツが世界各地にどのように伝播したのかについても説明します。	興味・関心を持っているスポーツの歴史を調べる	4時間
第6回	**スポーツと文化（２）～近代オリンピックの歴史と開催意義～** 近代オリンピックの開催経緯や歴史的変遷を学ぶとともに、近代オリンピック開催の意義についても説明します。	第1回の近代オリンピックについて調べる	4時間
第7回	**スポーツと文化（３）～日本のスポーツ文化～** 駅伝、甲子園、ラジオ体操など日本独自のスポーツ文化について学びます。	日本オリジナルのスポーツ文化について調べる	4時間
第8回	**スポーツと政治（１）～スポーツとナショナリズム～** オリンピックや、世界選手権などスポーツとナショナリズムが顕在化する事例をみながら、「〇〇代表」と名指すことで生まれる権力性を考えます。	スポーツの試合で、ナショナリズムが問題になった例を調べる。	4時間
第9回	**スポーツと政治（２）～戦争、植民地とスポーツの関係～** 歴史を辿ると、スポーツと戦争の関係は深く、とくにスポーツの普及では植民地関係が大きく影響している点から学びます。	具体的なスポーツの普及過程を確認しておく。	4時間
第10回	**スポーツと政治（３）～スポーツと階級～** かつては「市民」や「貴族階級」のみが参加していた種目がありました。アマチュア規定や、各種目のプロ化など、スポーツの歴史を階級から読み解いていきます。	第２回、第５回の授業について、階級に注目して振り返っておく。	4時間
第11回	**スポーツと倫理（１）～ルールとスポーツマンシップ～** スポーツの特徴のひとつといえるルールに注目し、スポーツマンシップとはどのようなものを指すのか考えを深めます。	自身の体験から、スポーツマンシップが求められた局面を考えてみる。	4時間
第12回	**スポーツと倫理（２）～スポーツの公平性～** ドーピングなど、勝利のためにおこなわれる不正行為について、スポーツの公平性の観点から考えます。	スポーツの公平性が揺らいだ事例について調べておく。	4時間
第13回	**スポーツと倫理（３）～スポーツの定義～** スポーツのあり方や様相も変化を遂げています。これまでの授業を踏まえながら、「結局スポーツとは何か」を考えます。	自身の経験と授業内容を踏まえたうえで、スポーツの定義について考える。	4時間
第14回	**スポーツとSDGs ～環境問題とスポーツにおけるSDGs ～** スポーツに関する教養を学んだうえで、現代的な課題についてSDGsをひとつの切り口として検討します。	本講義を振返り、疑問点や確認しておきたい点をまとめておきましょう。	4時間

231

授業科目名	スポーツビジネス入門				
担当教員名	岡田功				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	岡田：新聞記者として長年、国内外のスポーツビジネスの現場を取材。折に触れて日本のプロスポーツクラブに経営のアドバイスを行ってきた（全14回） 外部講師A：Bリーグクラブ前社長（元プロ野球「パシフィックリーグマーケティング」幹部）（第9回目） 外部講師B：プロサッカー選手のエージェント（第13回）				

授業概要

スポーツには、「する」「みる」「ささえる」など様々な関わり方がある。また、スポーツビジネスといっても、スポーツ用品の販売からプロスポーツリーグ・クラブの運営、スポーツイベントの開催、スポンサーシップ、eスポーツまで、裾野の広い商品やサービスを扱う。本講義ではスポーツへの多様な関わり方について理解をしつつ、スポーツビジネスに関する事例や理論を紹介しながら、スポーツビジネスについての基本的な考え方を修得することを目的とする。
本科目は基本的に講義形式で行うが、Google Classroomや毎回の授業へのコメントシートを活用し、受講生の考えや疑問を共有・検討するアクティブラーニングを取り入れる。また、外部講師を招きスポーツ現場での話を聞く機会を設けるため、一部の授業はオンライン形式で行う場合もある。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	スポーツビジネスに関する基礎的な知識	「する」「みる」「ささえる」スポーツのビジネスと基礎理論を理解するとともに、課題を把握することができる
2. DP１.スポーツ産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	プロスポーツリーグ・クラブの運営の基礎知識	すそ野の広いスポーツ産業の特徴を理解しつつ、プロスポーツクラブの運営の基礎知識を修得する
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		収集した資料から、スポーツビジネス業界の課題を検討できる
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		スポーツビジネス業界の課題について、自身で解決策を立案・提案できる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への参加度	25 %	： 授業での積極的な発言、プレゼンテーションの内容を独自の評価指標に基づいて評価します。
レポートの提出	25 %	： 授業で出す課題についてのグループまたは個人のレポート、授業外学修の課題レポートについて独自の評価指標に基づいて評価します。
期末テスト	50 %	： 年間を通じてスポーツビジネスの講義内容を理解できていること。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

必要に応じて、授業の中で指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜2限

場所： 研究室

備考・注意事項： 教員に都度確認を取ること

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**ガイダンス、スポーツビジネスのステークホルダー** 初めに講義概要について説明する。その後、スポーツのビジネスの世界にあって、誰がステークホルダーにあたるのかについて考える。	スポーツビジネスのステークホルダーについて、あらかじめ自分の考えをまとめておく	4時間
第２回	**スポーツと企業** 日本では、プロとアマチュアをつなぐ「社会人」「実業団」が存在し、企業がある面、スポーツを発展させてきた歴史がある。1990年代、バブル崩壊で支援を打ち切る企業が続出したが、近年になって再び企業スポーツや企業によるスリーと支援が脚光を浴びている。企業側の狙いとメリット、デメリットは何か、プロとの違いは何かについて考察する。	日本のスポーツ界を支えてきた企業スポーツ（社会人スポーツ）について自身で資料を調べる	4時間
第３回	**プロスポーツクラブの組織構造** プロスポーツクラブはどのような組織構造になっているのか。また、どのような仕事があり、他の企業と異なる部分があるのかどうか。クラブの基本的な組織構造について学ぶ。	プロスポーツチームがどのような組織構造を持っているか、本やネット等で事前に調べる	4時間
第４回	**プロスポーツクラブの収入構造** プロスポーツクラブはどのように稼ぎ、どのようにお金を使っているのか。また、プロスポーツクラブがお金を稼がなければならない理由はなにか。クラブの基本的な収入・支出構造について学ぶ。	プロスポーツチームがどのような収入を得ているか、本やネット等で事前に調べる	4時間
第５回	**スタジアム＆アリーナ** 「稼ぐ」スタジアムへ進化を遂げてきたスタジアムとアリーナの建設・運営について基本的な知識を習得する。また、スタジアム運営を自治体が外部団体に委託する指定管理者制度についても触れる。	好きなスタジアムの所有者、オペレーター、核テナントなるスポーツクラブ、建設費などの基礎データを調べ、授業初めにレポートして提出する	4時間
第６回	**スポンサーシップ** 企業マネーはプロスポーツクラブの経営にとどまらず、スポーツイベントの開催、スタジアム建設・運営などあらゆるシーンで欠かせない存在になっている。なぜ企業は巨額のお金を投じてまでスポンサーになろうとするのか。メリットはあるのか。スポンサーシップについての基本知識を学ぶ。	スポンサーシップの具体例について、事前に調べ、レポートとして提出する	4時間
第７回	**メガスポーツイベント** オリンピックが商業化されたのは1984年ロサンゼルス五輪以降で、その歴史はまだ浅い。オリンピックが商業化を迫られた理由、その功罪について考える。	自身でオリンピックの商業化について調べる	4時間
第８回	**リーグとは** スポーツリーグは、成績次第で降格もあり得る「欧州型」リーグと、チームが固定された「アメリカ型」リーグに大別される。それぞれのリーグの特徴や強みなどの理解を深める。	スポーツリーグについて、下調べをしておく	4時間
第９回	**科学の発展とスポーツの関わり** スポーツ記録の向上、プレースタイルへの影響、より魅力的な観戦（ＶＲ映像など）など、科学技術の進歩が果たした役割について学ぶ。また、eスポーツなど将来のスポーツについても展望する。	科学技術の発展とスポーツの関りについて自分で調べる	4時間
第10回	**外部講師による特別講義A（Bリーグとプロ野球ビジネスの現場）** バスケットBリーグクラブ元社長で、以前はプロ野球パ・リーグが設立したマーケティング会社で働いた経験のある人を特別講師に招き、Bリーグのビジネスとプロ野球ビジネスについて講義をしてもらう。	Bリーグクラブとプロ野球のパ・リーグが設立したマーケティング会社について自身で事前に調べる	4時間

第11回	**スポーツツーリズム** 世界で成長し続けているスポーツツーリズム産業。スポーツ庁は日本へのインバウンドをさらに掘り起こすために、「武道」に焦点を当てた「武道ツーリズム」を押し出そうとしている。海外でも愛好者が多く、発祥地である日本への関心・訪日意欲を喚起できるためだ。スポーツツーリズムの中でもここでは「武道ツーリズム」に焦点を当て、考察する。	学習課題　武道憲章を読み、「武道とは何か」について理解を深める	4時間
第12回	**スポーツとメディア** オリンピックなどのメガスポーツイベントでも、プロスポーツ界でも、今やテレビの放映権料はチケット収入よりも比重が高い。放映権ビジネスが巨大化した理由などについて考える。	オリンピックやプロスポーツリーグが得ている放映権料について調べる	4時間
第13回	**外部講師による特別講義B（プレイヤーとエージェント）** サッカーや野球など人気のあるスポーツでは、スター選手の年俸が高騰している。代理人（エージェント）が絡み、選手の移籍はビジネス化する一方で、年俸を上げたい選手側の取り組み（ストライキなど）と年俸を抑制したい経営側の動き（サラリーキャップ制導入など）が激しくぶつかる。外部講師の講義を聴きながら、選手に焦点を当てたビジネスについて考える。	プロ選手の移籍に絡む問題を、あらかじめ自身で調べる	4時間
第14回	**ｅスポーツ** 近年、大きく市場が伸びているｅスポーツ。１億円以上を稼ぐプロゲーマーもおり、国体の種目にもなり、オリンピックの競技種目への採用も検討されている。しかし、ｅスポーツは通常のスポーツと大きく異なる構造もある。ｅスポーツの基本構造について学ぶ。	ｅスポーツに関する新聞、書籍を探し、読んでおく	4時間

231

授業科目名	**スポーツマネジメント基礎Ⅱ**				
担当教員名	古川拓也・菅文彦・鳥山稔				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	植田：体育教員やアスリート等へのスポーツマンシップについての指導経験（全７回） 坂中：体育協会の業務に従事（全７回）				

授業概要

「スポーツマネジメント基礎Ⅰ」に引続き、教養としてのスポーツ科学に関する知識を学修する。スポーツ科学とは、スポーツに関連する様々な現象や動向を科学的に検証し、考察する学問分野である。本講義では、スポーツ科学が扱う分野を知り、各分野でどのようなことを学ぶのか、その概要について学ぶ。本講講義は「スポーツとエンターテインメント」、「スポーツと心理」、「スポーツと教育」、「スポーツと健康」、「スポーツと科学技術」に関する内容を取り扱う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	スポーツに関する教養知識を学び、スポーツマネジメントへのスポーツ教養の応用について説明することができる。	スポーツマネジメントの実例に基づいた基礎的な知識を習得するとともに、授業内での個人ワークやグループワークを通じて人間力・課題解決力の向上を目指す
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		スポーツに関する教養を学びつつ、関連した課題について自身で情報を収集し、考察することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
講義レポート	50 %	： 講義の理解度を独自のルーブリックを用いて評価する。
講義内課題	10 %	： 講義内で課せられた課題について、取り組み状況と内容を評価する。
期末レポート	40 %	： 科目全体の理解度について、独自のルーブリックを用いて評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜、講義の中で紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
【履修条件】
必修であるので条件はないが、一定の基準をクリアしないと単位は取得できない。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜3限

場所： 研究室

備考・注意事項： 何か、質問があればいつでも研究室に来てください

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション～スポーツの役割～** スポーツの役割について、スポーツマネジメントとしての役割として基礎知識を学ぶ	スポーツの役割について調べる	4時間
第2回	**スポーツとエンターテインメント1** スポーツを題材とした映画・コミック・アニメ・ドラマなどについて考える	自身がこれまで視聴・読書してきたアニメやマンガなどで、スポーツに関わるタイトルを思い出し、その内容を確認しておく。	4時間
第3回	**スポーツとエンターテインメント2** エンターテイメント作品を通じてスポーツに対する価値観の変遷を考える	エンターテインメント作品から、スポーツの価値はどの様な点に見い出すことができるか整理しておく。	4時間
第4回	**スポーツと心理：運動学習** 人が運動技能を学ぶ過程について理解を深める	自身がこれまで身に着けてきた運動技能について、どの様な過程を経て習得してきたのか、整理しておく。	4時間
第5回	**スポーツと心理：コーチング** コーチングの技法について学び、スポーツコーチングのあり方について考える	自身がこれまでスポーツ現場で受けてきたコーチングについて、どの様なコーチングだったか説明できるようにしておく。	4時間
第6回	**スポーツと教育：学校体育** 学習指導要領に記載されている事項を理解するとともに、体育科教育の課題を検討する	学習指導要領：保健体育の内容を確認しておく。	4時間
第7回	**スポーツと教育：子どものスポーツ** 子どものスポーツ環境における課題を理解する。	子どものスポーツ環境において指摘されている課題を予めまとめておく。	4時間
第8回	**スポーツと教育：大学スポーツ** UNIVASの創設経緯や大学スポーツの課題を考える。	UNIVASの基本事項をwebページを確認し、整理しておく。	4時間
第9回	**スポーツと健康：成人スポーツ** 成人のスポーツ活動の現状と課題を理解する。	日本国内の成人のスポーツ実施率や政策について確認する。	4時間
第10回	**スポーツと健康：高齢者スポーツ** 高齢者のスポーツ活動について考える。	国内のスポーツ実施率を確認し、高齢者の実施状況や課題について整理しておく。	4時間
第11回	**スポーツと健康：障がい者スポーツ** 障害者スポーツやパラリンピックについて考える。	日本国内の障害者スポーツの課題を整理しておく。	4時間
第12回	**スポーツと科学技術：競技と科学技術** 最先端の科学技術とスポーツの接点を学修する。特に競技場面での活用実態を理解する。	競技場面でどの様なテクノロジーが用いられているか、調べて列挙しておく。	4時間
第13回	**スポーツと科学技術：スポーツ産業と科学技術** 最先端の科学技術とスポーツの接点を学修する。特にスポーツ産業における活用実態を理解する。	スポーツ産業におけるテクノロジーの用いられ方について、事前に調べて説明できるようにしておく。	4時間
第14回	**スポーツビジネスと教養** 授業の総括と学習した成果を発表する。	科目の学修成果を自分なりに整理し、発表できるように準備を進める。	4時間

232

授業科目名	スポーツマーケティング論				
担当教員名	岡田功・鳥山稔				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	岡田：新聞記者として長年、国内外のスポーツビジネスの現場を取材した（14回分）				

授業概要

スポーツが社会に受け入れられるためには、スポーツを商品やサービスと捉え、マーケティングの基本的な概念の理解とマーケティングプラン作成の能力を養うことが必須である。本講義ではマーケティング理論を説明し、スポーツマーケティングの概念を学ぶ。その上で、プロスポーツで実際に行われている事例をケーススタディとして扱い、理論と実践がどう結びついているかを考える。マーケティングに不可欠な量的分析の手法についても解説する。また、スポーツマーケティングの現場に詳しい講師が現場での経験を交えて講義します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.スポーツ産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	スポーツマーケティングにおける基礎知識	基本的なマーケティング理論をベースに、スポーツマーケティングの特徴を理解する
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	専門的な力の修得	スポーツマーケティングとは何か、概略を理解することができる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		収集した資料から、スポーツマーケティングの課題を検討できる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への参加度	40 %	： 授業での積極的な発言、プレゼンテーションの内容を独自の評価指標に基づいて評価します。
ミニレポート等	30 %	： 授業時に課すミニレポートについて独自の評価指標に基づいて評価します。
期末テスト	30 %	： 年間を通じてスポーツマーケティングの講義内容を理解できていること。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし。必要に応じて適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本講義では毎回の講義でノートを作成します。筆記用具を必ず持参してください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜3限（岡田）、木曜3限（鳥山）

場所： 個人研究室　西館3F（岡田）、西館2F（鳥山）

備考・注意事項： 研究室にはオフィスアワーに関わらずいつでもどうぞ

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**「スポーツマーケティングとは●●である！」** 授業の進め方について解説し、「スポーツマーケティング」とは何かについて導入の解説をおこなう。	「スポーツマーケティングとは」の問いに対する答えを調べておく。	4時間
第2回	**スポーツ財（product)の性質とブランド戦略** マーケティングの基礎的概念である４Ｐを確認したのち、スポーツにおける「商品」「サービス」とは何か、それをどう売るか、その条件について考える。消費者に購買意欲を持たせるために不可欠なブランド戦略についても解説する。	スポーツの「商品」「サービス」とは何か、ブランド戦略の成功例について調べておく。	4時間
第3回	**スポーツ財の価格戦略(price)** 特にチケット販売に焦点を当て、供給と需要の関係による価格の設定や競合との関係による価格設定など、いくつかの事例を用いながら、チケット販売戦略について解説する。	事前にスポーツリーグ、チームのチケット価格の設定について調べておく。	4時間
第4回	**スポーツ財のチャネル・立地戦略(place)** スポーツ用品の流通、スポーツ施設の立地戦略などいくつかの事例を用いながら、チャネル・立地戦略について解説する。	事前にスポーツ流通やスタジアムの立地戦略について調べておく。	4時間
第5回	**マーケティングミックス** 消費者側から見た購買理由となる４Ｃや、４Ｐの発展形である７Ｐについて学び、これらを組み合わせたマーケティングミックスの手法について、Ｊリーグを例に説明する。	７Ｐ、４Ｃ、マーケティングミックスについて調べておく。	4時間
第6回	**ファンビジネスとマーケティング** 特にプロチームで必要なファンづくりについて、プロモーション戦略の事例を使いながら説明する。	あるチームのファンになるために必要な要素は何か事前に調べておく。	4時間
第7回	**スポーツスポンサーシップ** 五輪のトップスポンサーをはじめ、いくつかの事例を用いながら、スポンサーシップ戦略について解説する。	事前にスポーツリーグやスポーツイベント等のスポンサーシップ戦略について調べておく。	4時間
第8回	**消費者行動とマーケティングリサーチ（定量的調査）の基本** マーケティングリサーチの基本について解説する。	事前にマーケティングリサーチの基本についてしらべておく	4時間
第9回	**外部講師による特別講義A（英プレミアリーグクラブと米メジャーリーグ球団のマーケティング戦略）** 英プレミアリーグクラブのグローバルパートナー責任者（元メジャーリーグ球団幹部）からマーケティング戦略について特別講義を受ける。終了後に小レポートを提出する。	講師が働くクラブ、球団について事前に調べる。	4時間
第10回	**外部講師による特別講義B（広報戦略）** 元大手メーカー広報で現在はアリーナ＆スタジアム建設のコンサルティングを行う会社の広報担当者からマーケティングを見据えた広報戦略について特別講義を受ける。終了後に小レポートを提出する。	講師が働く企業について事前に調べる。	4時間
第11回	**マーケットリサーチ演習①アンケート作成** スポーツ用品会社の企画・開発担当者になりきり、20歳前後の若者をターゲットにした新商品開発に当たっての市場調査を行う目的で、実際にGoogle Formによるアンケートを作成する。	自身が作成したアンケートを実施するほか、他のクラスメートが作成したアンケートに回答し、さらに調査目的と仮説を立てる	4時間
第12回	**スター選手の獲得と商業化** MLB球団による日本人スター選手獲得後の商業化の実例の紹介を通しながら、マーケティングについて学ぶ。	プロクラブによる外国人スター選手の獲得による商業化の実例を自身で探す	4時間
第13回	**マーケットリサーチ演習②アンケート分析** 実施したアンケート結果をもとに、新商品の企画書を作成する。その項目として①開発する新商品名、②ターゲット層、③コンセプト・機能、④訴求ポイント（買い手に訴えたいポイント）または他商品との差別化ポイントについて記す。	自身が実施したアンケーを振り返り、不十分だった点や気づいた点を考察する	4時間
第14回	**外部講師による特別講義C（モータースポーツ）**	講師が働く企業について事前に調べる。	4時間

スーパー・フォーミュラを運営する会社の社長から、現在のモータースポーツの現状と課題について特別講義を受ける。終了後に小レポートを提出する。		

232

授業科目名	**スポーツ経営論**				
担当教員名	田村匡・岡田功・菅文彦・青野桃子・鳥山稔・坂中勇亮・林悠太・藤森梓・古川拓也・丸朋子				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	スポーツ用品の製造、スポーツ政策、スポーツクラブ経営、スポーツイベントなど、実務経験のある教員が担当する。（全14回）				

授業概要

組織を運営するための必要な経営の専門知識をスポーツを通じて学びます。また、企業の役割やマネジメントの意味を学び、社会における経営の在り方や企業内部における経営の在り方など、企業経営やスポーツ経営を事例に応用力を養います。さらに、アマチュアスポーツとプロスポーツなど様々な現場で実践されている経営手法を例に、課題を発見し、どのような対策があり、どのように解決するのか、提案できる力を養うことを目標とします。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	スポーツビジネスの概要を把握する	スポーツ経営の企画・運営・管理を理解する
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		さまざまな角度から情報を収集分析し、物事を見る力を養う

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内小レポート	90 %	： 授業内容を理解しているか。各回実施。
期末レポート	10 %	： 課題に対し、経営の基礎知識の理解度を総合的に評価。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

【参考文献】必要に応じて紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 平日　8：50〜18：30

場所： 研究室

備考・注意事項： 各教員のオフィスアワーを参照

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**初回ガイダンス／スポーツ経営論の概要** スポーツ経営論の授業内容についてガイダンスをするとともに、経営とは、マネジメントとは何かを説明する。	スポーツをする・見る・支えるの諸側面でどのような企業・団体の経営が行われているか調べる。	4時間
第2回	**スポーツ政策の基本理解　坂中** スポーツそれ自体が内包する諸価値について整理し、スポーツが社会に貢献する多岐にわたる社会的価値をまとめる。 本講義の目的は、それらの諸価値が公共政策におけるスポーツの貢献や意義があることを理解することにある。 その上で、わが国のスポーツ政策の動向について学習する。	スポーツの本質が社会に貢献する諸価値について、自身のスポーツ経験も踏まえ検討し整理する。	4時間
第3回	**スポーツ商品流通のマネジメント　　菅** スポーツ産業の「商品とサービス」が、どのように生まれて消費されるのかを理解する。商品に関しては生産拠点がどこであり、それはなぜなのかを理解し、世界規模で展開しているグローバルブランドが、世界でどのような展開をしているのかも学ぶ。スポーツ産業のサービスに関しても、その流通（展開）がどのように行われているかを学ぶ。	消費者に商品サービスが届くまでの過程を原産地表示から考える。	4時間
第4回	**トップスポーツのマネジメント 岡田** プロスポーツビジネスの収入構造とその特徴、選手に支払う年俸について学ぶ。	自身の興味あるプロスポーツリーグ・競技の経営構造を調べる。	4時間
第5回	**スポーツメディアのマネジメント　　丸** スポーツ放映・視聴をめぐるビジネスモデルの特性や今後のトレンドを理解する。リーグや球団・クラブ自体がメディア化してコンテンツ配信・課金する事例や、スポーツ視聴観戦スタイルの変化など最新動向も織り交ぜながら学ぶ。	自身が日頃視聴するスポーツメディアを取り上げ、そのビジネスモデルを考えてみる。	4時間
第6回	**スポーツイベントのマネジメント　　田村** オリンピックやFIFAワールドカップ、マラソン大会など具体的なスポーツイベントを事例として、イベントとは何か、その定義、スポーツイベントの構造や特徴、スポーツイベントによる地域活性化の効果などを包括的に学ぶ。	オリンピック、各地のマラソン大会などについて、情報を収集する	4時間
第7回	**スポーツスポンサーシップのマネジメント　　田村** オリンピックなどのメガスポーツイベントや野球・サッカー・バスケットなどのプロチーム、プロリーグの運営／経営にはスポンサーシップが欠かせない。スポンサーシップとは何か、またどのような意味があるのか、その特徴について考え、オリンピック等を事例としてその概要を学ぶ。	オリンピックや応援するプロチームのスポンサーにはどのようなところがあるのか、情報を収集しておく。	4時間
第8回	**スポーツ施設のマネジメント 林** スタジアムやアリーナは国や自治体が建設運営する形から民間のノウハウを取り入れる形に変化している。そうした動向をふまえてスポーツ施設のマネジメント手法に関する基本的な理解を促す。	自身が住んでいる地域にあるスタジアムやアリーナでどのような興行・イベントが行われているか調べる。	4時間
第9回	**スポーツと健康産業ビジネスのマネジメント　　青野** スポーツがどのように健康に関係しているのか。また、ウェルネス、生きがいという概念について学ぶ。	自分の生き方、生きがいについて考えをまとめる。	4時間
第10回	**スポーツと地域・自治体のマネジメント　　坂中** スポーツを活用した地域活性化を志向する自治体が増加している。その背景や意義を紐解くとともに、スポーツを活用した地域活性化のマネジメントの概要や特徴、課題について学ぶ。	自身が住んでいる地域でどのようなスポーツに関する取り組みが行われているか調べる。	4時間
第11回	**スポーツツーリズムのマネジメント　　青野** スポーツと観光を組み合わせた「スポーツツーリズム」が注目されている。スポーツツーリズムの事例に触れながら、その推進主体や仕組みについて学ぶ。	自身がこれまでに体験したスポーツツーリズムの概要（目的・訪問先など）についてまとめる。	4時間
第12回	**スポーツと国際協力のマネジメント　　藤森** 国際社会における諸問題（貧困や紛争など）に対して、スポーツが果たす役割について学ぶ。	現在日本において、どのような形の国際協力が行われているのか、またその中でスポーツはどのような役割を担っているのかについて調べる。	4時間

第13回	**eスポーツのマネジメント 鳥山** 近年急速に注目を集めるeスポーツの概要や定義などの基本的理解を促し、eスポーツ特有の事業構造やマーケティングプロセスを学ぶ。	自身で何らかのeスポーツを体験してみる。伝統的な競技スポーツとの本質的な相違点と共通点を整理する。	4時間
第14回	**スポーツキャリアのマネジメント　　古川** アスリートのキャリアとスポーツに関わるキャリアについて考えていく。自分自身の将来的なキャリアも含めて、スポーツキャリアについて現在課題とされてきていることを理解する。	自分自身のスポーツキャリアを振り返ってみる。	4時間

232

授業科目名	スポーツ産業論				
担当教員名	田村匡・丸朋子				
学年・コース等	2・3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	スポーツ関連企業や団体のマーケティング支援、スポーツイベント企画・実施、スポーツ施設の設計施工・運営支援など。（全１４回）				

授業概要

スポーツと現代社会の基本的な仕組みを学びながら、スポーツがどのように産業とかかわっているのかを理解する。スポーツ産業は、産業分類上の一項目として独立してあるものではなく、多くの産業項目のスポーツに関わる一部分として存在する。そのためスポーツ産業を理解することは、様々な産業を理解することにつながる。また、スポーツ産業の概要と構造を理解するのみならず、スポーツを通じた社会的課題の解決方策等について考えることができるようになる。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	スポーツ用品、スポーツ施設、スポーツサービス産業等についての理解	スポーツビジネスの全容を理解することができる

汎用的な力	
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用	現代の社会・経済の課題を自ら発見できる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・eラーニング、反転授業

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
小論文	40 %	： 授業の内容を理解しているか。また自分で考えて論理的に説明できているか。授業内容に沿って、自分の経験等を踏まえて考え、記載されていると高得点が与えられる。
中間論文	30 %	： 授業の内容を理解しているか。
期末試験	30 %	： 授業の内容を理解しているか。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

参考図書として「スポーツ産業論第７版」原田宗彦編著（杏林書房、ISBN978-4764415966）をあげる。
また授業中において関係する書籍等を適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日2限

場所： 個人研究室

備考・注意事項： メールにて質問してください。オフィスにこられる場合、予約ください。tamura-t@osaka-seikei.ac.jp。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**スポーツ産業論を学ぶ意義** スポーツ産業は多くの産業の縮図であり、スポーツ産業を学ぶことは産業構造や社会のあり方を学習することである。オリエンテーション、授業の受け方等も説明する。	ネットや新聞・参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第2回	**スポーツ産業と生活者（マーケット）** スポーツ産業の全体の概要と、生活者、マーケットを通じた社会との関係を学ぶ。スポーツ産業は、産業分類上項目立てて分類されているわけではないが、歴史的には3つの大まかな柱があり、そこから発展してきたとされている。また最近のスポーツ産業を推計する試みについても学ぶ。	ネットや新聞・参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第3回	**スポーツ用品産業** 第1の柱である「スポーツ用品産業」について具体的に学ぶ。日本におけるミズノやアシックスなどのスポーツ用品産業の成立、発展、戦略等について学ぶ。	ネットや新聞・参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第4回	**スポーツ用品産業（海外）と流通** 海外も含めた世界的なスポーツ用品産業について学習する。ナイキやアディダス等の成り立ち、日本との関係等にさらにはスポーツ用品産業の流通について学ぶ。	ネットや新聞・参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第5回	**スポーツ施設産業（企画から建設まで）** 第2の柱である「スポーツ施設産業」のうち、スポーツ施設のを企画・計画・建設にいたるまでの過程、考慮すべきステイクホルダーやそのメリット・デメリット等について、その基礎知識を学ぶ。	ネットや新聞・参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第6回	**スポーツ施設産業（管理運営、仕組み等について）** スポーツ施設産業のうち、スポーツ施設の管理運営や、民間活力を活用した指定管理者制度、ＰＦＩ、コンセッション等について学ぶ。なぜ公設民営のシステムが生まれたのか、それがどのように発展し現在に至っているのか、その流れを大まかに学習する。	ネットや新聞・参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第7回	**中間まとめ** これまで学んできたスポーツ産業の概要について一旦とりまとめ、授業前半を振り返る。	これまで学んできたことを復習する	4時間
第8回	**スポーツサービス情報産業** 第3の柱である「スポーツサービス産業」について学ぶ。スポーツコンテンツやメディアとの関係等を学ぶ。また、スポーツ施設とスポーツサービスが合わさったフィットネスクラブの産業モデル等について学ぶ	ネットや新聞・参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第9回	**メガ・スポーツイベント** メガスポーツイベントの収入構造やビジネスとの関係について学ぶ。またスポーツイベントやチーム運営に欠かせない、スポンサーや放映権等についての概略を学ぶ。	ネットや新聞・参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第10回	**プロスポーツとスポーツ産業** プロスポーツをスポーツ産業の視点から見る。チームやリーグの４大収入構造および支出構造を中心に、それぞれの収入特性や、組織構造、ファンを獲得する仕組み等について学ぶ。	ネットや新聞・参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第11回	**ｅスポーツ／ＩＴとスポーツ** 最近はやりのｅスポーツやスポーツ×ＩＴビジネスとの関係を学ぶ。世界や日本におけるメタバースやＤＸ、ｅスポーツの現状、それらとスポーツビジネスの関係などを説明する。	ネットや新聞・参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第12回	**スポーツとツーリズム** 近年注目されているスポーツツーリズムやスポーツコミッションについて学習し、国内外への影響などを理解する。	ネットや新聞・参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第13回	**スポーツと地域活性化** 最近、スポーツをとおりした「地域活性化」が注目されている。地域活性化の概念整理、経済波及効果を含めた活性化の仕組み等について学ぶ。	ネットや新聞・参考書等にて関係事項をチェックする	4時間

第14回	**スポーツ産業論総括** これまで学んできたスポーツ産業について総括する。スポーツ産業の内容、構造等について再度みなおし、まとめる。	スポーツ産業論全体を振り返り、復習する	4時間

231

授業科目名	スポーツファイナンス入門				
担当教員名	菅文彦				
学年・コース等	2-4年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

スポーツファイナンスでは、①金融論における資金調達・資金運用の観点から、スポーツ産業での事業活動伴うファイナンスの基礎を習得し②スポーツ固有のファイナンスの領域についても現実問題から学びを深める。③スポーツビジネスでの財務問題やグローバルでのブランド・ライセンス展開などの問題についても学ぶ。
社会で日々起こっているニュースも交えながら、産業特有のファイナンス視点での問題発見をして、課題を把握して、将来社会活動で活用できる能力を育成することを目指す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	スポーツビジネス遂行に伴う資金調達管理の実態と必要性の理解。	スポーツ固有のファイナンス領域の知識習得から課題把握が出来る。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		スポーツビジネスのファイナンス領域に問題意識を持ち、課題を発見することが出来る。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業での課題提出	60 %	： 講義内容に関係した具体的問題から、ポイントを把握してその解決が導けること。講義の内容をベースとして、個人の考えを適切に記述できていること。
期末試験	40 %	： 期末試験で、スポーツファイナンスの講義科目を理解して、設問に回答できること。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

「スポーツファイナンス」原田宗彦・武藤泰明，大修館書店

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
3年次からの「スポーツファイナンス応用」を履修希望の場合は、まずこちらの単位を取得しておくこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜2限

場所： 研究室（西館３階）

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス/スポーツファイナンスの領域について** スポーツファイナンスの領域と学修の意義をガイダンスで紹介する。 最近のTVやニュースで話題となった事象を取り上げ、スポーツファイナンスの領域と「ファイナンス」の重要性を理解する。	最近の話題からスポーツファイナンスの領域を考える。	4時間
第2回	**貸借対照表（BS）とスポーツビジネス** スポーツリーグや球団・クラブ等の貸借対照表を紐解き、スポーツビジネス特有の資産・負債の有り様を理解する。	スポーツ関連の貸借対照表を調べて予習を進める。	4時間
第3回	**損益計算書（PL）とスポーツビジネス** スポーツリーグや球団・クラブ等の損益計算書を紐解き、スポーツビジネス特有の資金循環・収支構造を理解する。	スポーツ関連の損益計算書を調べて予習を進める。	4時間
第4回	**リーグ・競技団体の資金循環・ビジネスモデル** MLB（米国メジャーリーグ）やNPB（日本のプロ野球）、海外サッカーリーグやJリーグや、NBAやBリーグなど主要なリーグ、及び競技団体の資金循環の有り様とビジネスモデルを理解する。日本国内リーグと海外有力リーグの資金規模や構造の比較と要因分析も行う。	主なリーグや競技団体のWEBサイトを見て基本情報を収集しておく。	4時間
第5回	**球団・クラブの資金循環・ビジネスモデル** MLBやNPB球団、海外の有力クラブとJリーグクラブにおける資金循環の有り様とビジネスモデルを理解する。海外と日本の球団・クラブの資金規模や構造の比較と要因分析も行う。	主な球団・クラブのWEBサイトを見て基本情報を収集しておく。	4時間
第6回	**メガスポーツイベントの資金循環・ビジネスモデル** オリンピック・パラリンピック、FIFAワールドカップ、ラグビーワールドカップなど世界規模のスポーツイベントにおける資金循環の有り様とビジネスモデルを理解する。過去から現在に至る中で資金規模や構造の変化を捉え、その要因を分析する。	オリンピック・パラリンピック公式サイト等をみて基本情報を収集しておく。	4時間
第7回	**ローカルスポーツイベントの資金循環・ビジネスモデル** マラソン大会、自転車ロードレース、トライアスロン大会など地方自治体が中心となり企画運営するスポーツイベントにおける資金循環の有り様とビジネスモデルを理解する。	受講生の地元で行われているスポーツイベントの情報を収集しておく。	4時間
第8回	**スタジアム・アリーナの資金循環・ビジネスモデル** 「スタジアム・アリーナ改革」の趨勢により、全国で新設されるスタジアム・アリーナの建設運営における資金調達・循環の有り様とビジネスモデルを理解する。	受講生の地元周辺にあるスタジアムやアリーナの基本情報を収集しておく。	4時間
第9回	**スポーツブランドの資金循環・ビジネスモデル** ナイキ、アディダスをはじめとする主要スポーツブランドにおける資金循環の有り様とビジネスモデルを理解する。	主なスポーツブランドのWEBサイトを見て基本情報を収集しておく。	4時間
第10回	**選手・アスリートの資金循環・ビジネスモデル** 有名選手・アスリートは自身が商品化し、年棒や移籍に伴う契約金、大会賞金、スポンサー契約料、メディア出演料など多様な収入を得ている。その資金循環の有り様とビジネスモデルを選手・アスリート本人に加えてマネジメント会社の機能・役割もふまえて理解する。	関心ある選手・アスリートの競技成績やスポンサー、CM出演歴など基本情報を収集しておく。	4時間
第11回	**スポーツと放送通信メディアの資金循環・ビジネスモデル** 放映権料の仕組みによるスポーツコンテンツの放送・配信における資金循環の有り様とビジネスモデルを理解する。また、リーグや球団・クラブ自体がメディア化して（オウンドメディア化）コンテンツ配信や課金徴収する同行と今後のスポーツとメディアのあり方をファイネンス面から捉える。	スポーツ配信メディアの概要や球団・クラブのSNSなど基本情報を収集していおく。	4時間
第12回	**総合型地域スポーツクラブの収支** 全国に存在する総合型地域スポーツクラブの収支構造を理解する。ドイツなど欧州で多くみられるスポーツクラブとの比較分析も行う。	総合型地域スポーツクラブの基本概要を理解しておく。	4時間
第13回	**事業・収支計画作成** これまでの授業で扱ってきたスポーツ事業体（リーグ、球団・クラブ、イベント主催団体、メディア、総合型地域スポーツクラブなど）の中から特定のものを各自取り上げ、過去の収支や資金構造をふまえて次年度以降の事業・収支計画を作成する。	過去の授業回の内容を復習しておく。	4時間
第14回	**スポーツファイナンス授業のまとめ**	14回目での内容の振り返りでスポーツファイナンスの理解を深める。	4時間

スポーツファイナンス基礎の授業各回の中から、主要テーマの重要項目を振り返る。 振り返りとまとめから講義内容を復習し、最終の期末試験の注意事項を伝える。		

232

授業科目名	**スポーツメディア論**				
担当教員名	丸朋子				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	地方テレビ・ラジオ局においてアナウンサー・スポーツキャスター、番組制作業務のほか、プロ・クラブスポーツのスタジアムDJ・MCを経験した。また、プロスポーツチームにおいて事業企画や試合運営、広報業務等に従事した。（全14回）				

授業概要

スポーツの経済的・社会的・文化的価値を高める媒体として、メディアの存在意義と果たす役割は極めて大きく、その手段や有り様は著しい発展を遂げている。本講義では、スポーツメディアの歴史と現状や動向を理解した上で、スポーツメディアを通じた産業拡大への課題や発展可能性について検証するために必要な知識を養うことを目的とする。特に、授業で得た知識が、実践の場でどのように活用されうるのかといった視野・視座を養うために、具体的事例を取り上げ多面的・多角的に考察していく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.スポーツ産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	スポーツとメディアの関連性に対する理解。	スポーツとメディアの関係性を通して、現象・事象を捉え、スポーツメディアの存在意義と役割、歴史と現状を理解できる。
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	スポーツメディア領域における専門知識の習得。	経営学的視点から、スポーツメディアの専門知識をいかした市場拡大施策や価値の最大化について理解できる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		スポーツメディア領域における専門知識を適応・応用し、スポーツに関する諸問題を、事例を通して理論を軸に考察し、自分の考えとして表現することができる。
2. DP８.他者とのコミュニケーション		事例検証（グループワーク）において、他者の意見を傾聴し、自分の考えを表現できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内課題	30 %	： 適切に授業外学修課題を行い予習に取り組んでいるか、かつ、授業内容の基本的把握の度合いにより評価する。
企画課題（ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ実践）	40 %	： 設定されたテーマや条件に沿った適切なリサーチ・分析・企画内容であるか、かつ、論理性、根拠等を含む考察度合いや相互評価を、独自のルーブルック評価表に基づいて評価する。
学期末レポート	30 %	： 授業内容全体の理解度や、それを踏まえた論理性、根拠等を含む考察度合いを独自のルーブルック評価表に基づいて評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

「スポーツ産業論」第6版 原田宗彦（編）（杏林書院. 2015. ISBN:978-4-7644-1588-1 C3037）
「スポーツ産業論」第7版 原田宗彦（編）（杏林書院. 2021. ISBN:978-4-7644-1596-6 C3037）
「スポーツビジネス論 -理論と実態-」大野貴司・齋藤れい(編)（三恵社. 2021. ISBN:978-4-86693-349-8）
「図とイラストで学ぶ新しいスポーツマネジメント」山下秋二・中西純司・松岡宏高（編）（大修館書店. 2016. ISBN:978-4-469-26804-1）
「スポーツ、アート、エンターテイメントにおける効果的なスポンサーシップ」 著：T. Bettina Cornwell訳：佐藤晋太郎・備前嘉文. （大修館書店. 2023. ISBN:978-4469269689）
他の参考文献については授業時に紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。授業3日前までにgoogle classroomで授業資料を配布しますので必ず一読して予習してください。また「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の講義内容を丁寧に復習すること。私語、居眠り、携帯電話（スマートフォン）の不要な場合の使用などを禁止します。講義では「自ら調べ、考え、探究する」という自発的な姿勢を期待しています。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜2限

場所：　研究室

備考・注意事項：　メールによる事前予約が望ましいですが、講義時間外の月～木曜日（午前）はいつでもお越しください。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス・授業科目の概要／スポーツメディアとの関わりについて** 本科目の概要、進め方、受講時の留意点など。 スポーツメディアと自分自身とのこれまでの関わりを、「する」「みる」「ささえる」視点から再認識する。	「する」「みる」「ささえる」立場で、自身が行ってきたスポーツに関する活動をまとめておく。	4時間
第2回	**スポーツメディアとは何か、その存在意義と役割** スポーツメディアと何を指すのか。また、スポーツ界におけるメディアの存在意義および果たす役割について、産業領域の視点から理解する。さらに、本授業が扱うスポーツメディアの範囲を規定する。	スポーツ産業にはメディアの他にどのような領域があるのかをリサーチしておく。スポーツ産業論(7)pp.2-17.	4時間
第3回	**スポーツとメディアの関係（1）活字メディア～新聞報道～** スポーツとメディアに関する歴史的背景を理解する。さらに、スポーツメディアのなかでも、初めてスポーツの話題を取り上げた印刷媒体・活字メディアである新聞報道が、いかにして黎明期をけん引したのかを探る。	スポーツの話題を一つ選び、一般紙、地方紙、スポーツ専門紙・専門誌をファイリングして読み比べ、記載されている内容の違いをA4・1枚に整理してまとめておく。スポーツ産業論(7)pp.29-32.	4時間
第4回	**スポーツとメディアの関係（1）活字メディア～体育・スポーツ専門誌、スポーツ漫画～** スポーツと専門誌に関する歴史的・社会的背景と現状を理解する。活字メディアのなかでも、体育・スポーツ専門誌、スポーツ漫画によって、スポーツに関連した情報がどのようにして「コンテンツ」としての価値を持つようになったのかを探る。	興味のあるスポーツ誌の記事を一つ選び、概要(５Ｗ１Ｈ)と記者の視点をまとめておく。スポーツ産業論(7)pp. 29-32.	4時間
第5回	**スポーツとメディアの関係（2）放送メディア～テレビ・ラジオの歴史と変遷～** スポーツとテレビ・ラジオに関する歴史的・社会的背景と現状を理解する。印刷媒体との比較に加えて、電波媒体であるラジオと電波・映像媒体であるテレビの登場により、スポーツメディアがいかにして転換期を迎え、コンテンツ価値を高めたのかを探る。	最も興味があるスポーツのラジオ・テレビ番組を一つ選び、番組概要と見どころを1分間スピーチできるようまとめておく。スポーツ産業論(7)pp.32-35.	4時間
第6回	**スポーツとメディアの関係（2）放送メディア～スポーツ中継と放映権～** スポーツとテレビ・ラジオにおいて、「スポーツ中継」をはじめとしたスポーツコンテンツがどのように事業化され、番組制作および放送されるのか、また放映権の仕組みと現状を理解する。 (外部講師招聘の予定：講師の都合により変更の可能性あり)	好きなチーム・クラブの中継媒体（ネットメディア含む）や放映権に関する情報をまとめておく。スポーツ産業論(7)pp.32-35.	4時間
第7回	**スポーツとメディアの関係（3）ネットメディア** モバイル端末とSNSという新たなメディアの登場により、「する」「みる」「ささえる」スポーツメディアの範囲は急速に拡大し、消費者行動に変容をもたらした。ネットメディアの基礎知識や巨大IT企業の動向を踏まえて、どのようなコンテンツやサービスが登場したのか、現状を把握する。	授業外学修課題でまとめてきた各メディアが、どのようにネットメディアを展開しているか、リサーチして比較検討しておく。スポーツ産業論(6)pp.51-55.	4時間
第8回	**スポーツとメディアの関係（4）スポーツイベント**	最も興味があるスポーツイベントを一つ選び、学んできた各メディアがどのような目的でどのように運用されているかをまとめておく．スポーツ産業論(6)pp.176-185.	4時間

	市民マラソン大会などを事例として、商品やサービスを消費者に届けるための「媒体」としてスポーツイベントを捉え、イベントが包括する様々なメディア媒体の運用目的と相乗効果を理解する。さらに、イベントに期待されるソーシャルタッチポイント（消費者との接点）×メディアとの波及効果について理解する。		
第9回	**メディア化するスポーツ組織** リーグや球団・クラブなどスポーツコンテンツホルダー自身のメディア化なしにスポーツビジネスの継続は難しい時代になった。これまでスポーツ組織とメディアは一線を引いていたが、なぜそのような現象が起きたのか。オウンドメディアをキーワードに、スポーツ組織はどのように消費者（ファン・顧客）を増やして事業に結び付けているのか、現状と動向を把握する。	最も興味があるスポーツ組織（リーグや球団・クラブなど）を一つ選び、そのスポーツ組織が保有するメディアを全て書き出し、コンテンツの内容やSNSの登録者・いいね数、工夫されている点をまとめておく。	4時間
第10回	**スポーツメディア×エンターテイメントの最前線(1)デジタル戦略との融合** デジタル戦略（テクノロジー）を、エンターテイメントと掛け合わせることによって、プロスポーツのビジネスモデルにどのような変容や機会が創造されうるのか、プロスポーツの最前線を、事例検証を通じて考察する。 (外部講師招聘の予定：講師の都合により変更の可能性あり)	経産省(2022)スポーツDXレポート(概要)を一読し、「ICT」と「DX」の違いは何かを、リサーチしてまとめておく。 予告されたチームのデジタル戦略事例をリサーチして、質問を準備しておく。	4時間
第11回	**スポーツメディア×エンターテイメントの最前線(2)試合演出との融合** エンターテイメント事業が、集客、スポンサーシップといったプロスポーツのビジネスモデルにどのような影響や効果を与えているのか。スポーツエンターテイメント（試合演出）の最前線を、事例検証を通じて考察する。 (外部講師招聘の予定：講師の都合により変更の可能性あり)	予告されたチームのエンターテイメント事例をリサーチして、質問を準備しておく。	4時間
第12回	**スポーツメディアプランニング(1)リサーチ・現地調査** これまで学んできた複数のメディアを組み合わせるメディアミックスの狙いと効果を再確認する。企画レポート課題（テーマ）が発表されるので、対象の現場調査・リサーチを行う。	これまで学んできた各メディアの特性・特徴を復習しておく。スポーツビジネス論-理論と実践-pp.164-168.	4時間
第13回	**スポーツメディアプランニング(2)企画作成** 与えられた企画課題（テーマ）に応じて、プランニングシートを基に、企画案を作成する。	前回のリサーチを基に、企画立案の素案をまとめてくる	4時間
第14回	**スポーツメディアプランニング(3)発表および評価／本講義のまとめ** グループワークによるアクティブラーニングを実践し、発表および相互検証する。今後のスポーツメディアの発展可能性を考察し、本講義を総括する。（学期末レポートの詳細連絡あり）	プランニングシートをまとめて、プレゼン準備をしておく。	4時間

232

授業科目名	スポーツスポンサーシップ論				
担当教員名	田村匡				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	スポーツ関連団体のスポンサー募集実務や各企業とのスポンサーアクティベーション作業の実施。（全１４回）				

授業概要

現代のオリンピックやＦＩＦＡワールドカップなどのメガスポーツイベント、さらにはスポーツチームの運営上なくてはならいスポンサーシップ。スポンサーシップや放映権、ライセンス、チケット販売など、スポーツイベント主催者等は、どのようにしてスポーツをもとに企業等から収入を得るのか、その内容や課題等について実例を踏まえて学習する。またスポンサーとなった企業等は、スポーツイベント主催者等からどのような権利を獲得し、それを使ってどのような広報・広告を行っているのか、具体例を示して学習し、それらの権利を応用する方法（アクティベーション）を理解する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	スポーツスポンサーについて幅広く理解する	スポーツにとってのスポンサーシップや放映権、ライセンスの意味を理解することができる
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		スポーツに関わるビジネスの課題を発見できる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
小論文	40 %	： 授業の内容を理解しているか。また自分で考えて論理的に説明できているか。
中間論文	30 %	： 授業の内容を理解しているか。
期末試験	30 %	： 授業の内容を理解しているか。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

一般社団法人日本イベント産業振興協会(2021)「スポーツイベント検定公式テキスト」(ISBN978-4-901173-37-7)

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日2限

場所： 個人研究室

備考・注意事項： メールにて質問してください。オフィスにこられる場合、予約ください。tamura-t@osaka-seikei.ac.jp。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**スポーツスポンサーシップを学ぶ意義** スポーツスポンサーシップを学ぶ意義や、授業の進め方等について説明する。	ネットや新聞・参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第2回	**国際オリンピック委員会（ＩＯＣ）等の収入構造** 国際オリンピック委員会（ＩＯＣ）やＦＩＦＡ等のメガスポーツイベントの収入構造等について学習。企業やテレビ局等からのスポンサー収入や放映権の必要性について理解する。	ネットや新聞・参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第3回	**東京2020組織委員会、FIFAとスポンサー** 東京2020オリンピック・パラリンピックに関連して、その組織委員会の収入構造について学ぶ。メガスポーツイベントには巨額の資金が必要である。どのように資金を集めていたのか、その種類、方法等について具体的に学んでいく。	ネットや新聞・参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第4回	**東京オリンピックでの比較（1964年と2020の比較）** ＩＯＣやＦＩＦＡ、オリンピック等におけるスポンサーシステムはどのように発展してきたのか？それらについてこれまでのオリンピックと、東京オリンピックの1964年と2020の比較等を踏まえて学んでいく。またロサンゼルスオリンピック以降採用されている「一業種一社」システムについて、そのメリット・デメリット等について学ぶ。	ネットや新聞・参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第5回	**スポンサー以外の収入源（放映権・チケット）** スポンサーシップ以外の収入源として放映権やチケット収入等について学ぶ。	ネットや新聞・参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第6回	**スポンサー以外の収入源（ライセンス）、プロリーグ・チームのスポンサー** スポンサーシップ以外の収入源として、ライセンス（マーチャンダイジング）等について学習する。さらにプロスポーツチームのスポンサーについて実例をもとに学んでいく。	ネットや新聞・参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第7回	**中間まとめ** これまで学習してきた、国際組織やイベント主催者、チームから見たスポンサーシップや放映権、ライセンス、チケット販売について中間総括する。	これまでの授業等を一旦振り返り、復習する	4時間
第8回	**ワールドマスターズゲームズ関西大会とスポンサー** 2027年に関西にて開催される予定のワールドマスターズゲームズについて、スポンサーシップの面から学習する。	ネットや新聞・参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第9回	**企業から見たスポンサーシップ** 企業からみたスポンサーについて、そのメリット・デメリット等をオリンピックやワールドカップのスポンサーとなっている企業等を実例として学習する。	ネットや新聞・参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第10回	**スポンサーが取得する権利１（世界陸上大阪大会の事例）** スポンサーが獲得するマーケティング権とは何か。具体的に世界陸上大阪大会の実例をもとに、理解を深めていく。	ネットや新聞・参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第11回	**スポンサーが取得する権利２（企業による具体的な活用事例）** マーケティング権の詳細について学習し、どのような権利がスポンサーとなることにより獲得できるかについて学ぶ。マーケティング権の法的権原となる著作権や商標権等についても学習する。	ネットや新聞・参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第12回	**スポンサー活動の実際（契約、ＶＩＫ、アクティベーション）** マーケティング権を得た企業等が、実際にどのようなマーケティング活動を行うのか、広告は販売促進の実例を踏まえ学習。アクティベーションの重要性を学ぶ。また、スポンサー契約の内容はどのようなものなのか、ＶＩＫと呼ばれる物品・サービス等の提供について学ぶ。	ネットや新聞・参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第13回	**契約、VIK、エンドースメント** スポンサー契約、その中でも重要なVIKの概念を学ぶ。また個人のスポンサーである「エンドースメント」について、実例を元に学習する。また選手のマネジメントやマネジメント会社等について理解する。	ネットや新聞・参考書等にて関係事項をチェックする	4時間

第14回	**ＷＩＮ＝ＷＩＮ関係** スポンサー活動は、マーケティングを与える団体等と企業がＷＩＮ=ＷＩＮの関係にならなければ成り立たない。ＷＩＮ＝ＷＩＮがどのように実現されていくのか、その成立条件について検討する。	授業全体を振り返り、復習する	4時間

232

授業科目名	スポーツ法学入門				
担当教員名	千代原亮一				
学年・コース等	2・3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

今日、スポーツをめぐる法的問題は、選手の契約に関する問題、肖像権に関する問題、事故に関する問題、ドーピングと人権の問題、スポーツ団体と競技者との関係に関する問題、その他多岐にわたり、また急増しています。また、一口にスポーツ法と言っても、スポーツ基本法などのスポーツに関する特別な法律だけでなく、民法、労働法など様々な法分野が関わり、更にスポーツルールや団体規約などのスポーツ固有法もあります。本講義では、複雑多岐にわたるスポーツ法の現代的課題について、幅広く理解することを目的とします。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	具体的な事例の分析を通じて、バランスのとれたものの見方、法的なものの見方の基礎を身につけ、政治問題や社会問題についてより深く理解する。	具体的な事例の分析を通じて、バランスのとれたものの見方、法的なものの見方の基礎を養い、政治問題や社会問題についてより深く理解できるようになる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		複雑な事象の中から解決すべき課題を抽出し、真の原因を見出し、その解決策を提示することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・ディベート、討論

・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験	60 %	： 定期試験の答案により問題発見力と実践力を評価する。講義内容を踏まえた上で、一定程度のレベルを超えた試験答案の内容を合格とする。単にテキストや講義資料の内容を丸写しした内容では、合格とはしない。
授業中課題	30 %	： 授業中に配布する課題の内容により理解力を評価する。講義内容を踏まえた上で、一定程度のレベルを超えた課題答案の内容を合格とする。単にテキストや講義資料の内容を丸写しした内容では、合格とはしない。
授業貢献	10 %	： 討議などでの発言内容により授業貢献度を評価する。教員との質疑応答、他の受講生とのグループ討議及びディベートへの参加態度について、積極的に発言し、主体的に議論に参加する態度を示した場合に合格とする。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
新井喜代加・武田丈太郎編著	・ はじめて学ぶスポーツと法	・ みらい	・ 2023　年

参考文献等

①スポーツ問題研究会(編著)『Q&Aスポーツの法律問題〔第4版〕』（民事法研究会、ISBN:978-4865562231）、②友添秀則(編著)『よくわかるスポーツ倫理学』（ミネルヴァ書房、ISBN：978-4623080137）。

履修上の注意・備考・メッセージ

・本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
・「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
・やむを得ず授業を欠席する場合は、文書にて速やかに届け出ること。
・授業中は、ディスカッションや質疑にも積極的に参加すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　金曜5時限

場所：　西館3階個人研究室

備考・注意事項：　メールアドレスは、chiyohara@osaka-seikei.ac.jp

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**スポーツにおける法律と倫理** (1)スポーツの法律問題と倫理的思考 (2)フェアプレイ教育とスポーツ倫理 (3)スポーツのルールと法 (4)勝敗の倫理学－勝利至上主義は正しいか (5)スポーツとホスピタリティ	スポーツにおける勝利至上主義とフェアプレイの精神との関係について自分の考えをまとめておこう。	4時間
第2回	**スポーツ団体と法** (1)スポーツ団体の法的性格 (2)スポーツ団体の役割 (3)スポーツ団体に対する仲裁事例	「スポーツ団体の役割」について調べておこう。	4時間
第3回	**スポーツと人権①（スポーツにおけるジェンダー平等）** (1)スポーツにおけるジェンダー平等とは (2)スポーツにおけるリーダーの女性比率 (2)スポーツにおけるジェンダー平等の実現を目指す法整備 (3)性同一性障害とスポーツ	スポーツにおけるジェンダー差別には、どのようなものがあるかについて調べておこう。また、「LGBTQ」の言葉の意味についても調べておこう。	4時間
第4回	**スポーツと人権②（障がい者スポーツと法）** (1)障がい者スポーツ権を保障する法律 (2)合理的配慮とツールドーピングをめぐる問題 (3)社会モデル型スポーツがひらく可能性	ツールドーピングについて調べ、自分の考えをまとめておこう。	4時間
第5回	**スポーツにおける体罰と暴力** (1)スポーツにおける暴力 (2)体罰と暴力の法的扱い (3)令和のスポーツにおける暴力への視点	許される指導と許されない暴力の違いについて考えておこう。	4時間
第6回	**スポーツにおけるハラスメント** (1)様々なハラスメント (2)スポーツにおけるハラスメントに関係する法律 (3)スポーツにおけるハラスメントの構造的要因	スポーツ界におけるハラスメントには、どのような特徴があるかについて調べておこう。	4時間
第7回	**学校スポーツと法** (1)体育・スポーツ部活動とは何か (2)事故が減らない原因とは (3)体育・スポーツ指導のリスクマネジメント	教育現場におけるスポーツ事故について調べておこう。	4時間
第8回	**スポーツ事故とリスクマネジメント** (1)スポーツ事故 (2)リスクマネジメントの実践 (3)スポーツ事故補償制度	スポーツ事故におけるリスクマネジメントの意味について調べておこう。	4時間
第9回	**スポーツ事故の法的責任** (1)スポーツ事故における様々な責任 (2)スポーツ事故の法的責任 (3)免責同意と法的責任	スポーツ事故の法的処理の仕方について調べておこう。	4時間
第10回	**オリンピックと法** (1)オリンピックの歴史とオリンピック憲章 (2)オリンピックをめぐる政治的問題 (3)オリンピックをめぐる法的問題	オリンピックにおける政治的・法的問題について調べておこう。	4時間
第11回	**アンチ・ドーピングと法**	アンチ・ドーピングに関する仕組みについて調べておこう。	4時間

	(1)ドーピングとは何か (2)ドーピングはどのようにして取り締まられているか (3)各国のアンチ・ドーピング法		
第12回	**プロスポーツの法的問題①（プロ野球選手の法的身分）** (1)労働者か事業者か (2)労働組合としての選手会 (3)野球協約と労働協約	プロ野球選手の法的地位について調べておこう。	4時間
第13回	**プロスポーツの法的問題②（プロ野球における諸制度と法的問題）** (1)契約・入団に関する制度 (2)移籍に関する制度 (3)代理人制度	プロ野球選手の移籍に関する制度について調べておこう。	4時間
第14回	**スポーツビジネスと法** (1)スポーツビジネスと法 (2)スポーツビジネスと権利 (3)新しいスポーツビジネスの創造・拡大	スポーツビジネスにおける様々な権利について調べ、まとめておこう。	4時間

231

授業科目名	**スポーツビジネス研究調査**				
担当教員名	坂中勇亮・青野桃子・丸朋子・菅文彦・田村匡・藤森梓・古川拓也・林悠太・鳥山稔・佐藤亮・村田正夫・小島大輔・藤田大雪				
学年・コース等	1～4年	開講期間	通年	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

スポーツの様々な現場に足を運び、フィードワークを通して、【情報収集・「問い」と「仮説」を立てる・リサーチ方法の整理・リサーチ実行・分析・結果・考察】の一連の研究調査サイクルを修得する。
◉前期のフィールドワーク先：球場・スタジアム・アリーナ施設、地域スポーツクラブ、スポーツイベント会場など。
◉後期のフィールドワーク先：受講生各自が自分で調査テーマを設定して、リサーチ訪問先を決めて、リサーチ実行する。
調査結果はレポート執筆や発表の形でまとめて、質疑やディスカッションの能力も養成する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	スポーツビジネスに関する知識	スポーツビジネスの特徴的な動向を理解できる
2. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	スポーツ現場のフィールド分析・考察力	集めた情報を元に、調査対象に関する調査分析と報告資料を作成することができる
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		調査した内容から、課題を理解し発表できる
2. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		個人調査において、課題を設定して主体的に調査を遂行する
3. DP７.実践の完遂		自分の担当分野について、指定の形式にそった資料を完成させることができる
4. DP８.他者とのコミュニケーション		発表への意見・質問を通じて研究テーマについての議論と相互理解ができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
前期：フィールドワーク調査の評価 30 %	： グループ調査の発表会において、発表内容をルーブリックに基づいて評価します（調査及びスライド作成における貢献度も評価）

後期：個人調査の評価 : 2回実施する個人調査の報告書について、ルーブリックに基づいて評価します。

30 %

授業・フィールドワーク参加態度 : フィールドワークでの調査行動姿勢や、調査結果発表に対するコメントや質問など、授業全体へ積極関与する姿勢を評します。

20 %

期末試験（レポート） : ルーブリックに基づいて評価します。

20 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

必要に応じて紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 各教員によって異なる

場所： それぞれの研究室

備考・注意事項： 各教員に都度確認を取ること。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**フィールドワークの基礎理解** スポーツ現場に赴いて行うフィールドワークの概要や手順・手法などを理解する。	理解度チェックのミニレポートの提出	4時間
第2回	**フィールドワーク：球場・スタジアム・アリーナ** 甲子園球場、ヨドコウ桜スタジアムなどを訪問して、施設の内部見学を行いながらフィールドワークを行う。 （見学人数に上限があり受講生全員が１つの場所に訪問することはできない。希望に応じて訪問先を割り振る）	調査レポートの提出	4時間
第3回	**フィールドワーク：地域スポーツクラブ** 総合型地域スポーツクラブや民間スポーツクラブを訪問して、フィールドワークを行う。 を行う。 （見学人数に上限があり受講生全員が１つの場所に訪問することはできない。希望に応じて訪問先を割り振る）	調査レポートの提出	4時間
第4回	**フィールドワーク：スポーツイベント会場** マラソン・トライアスロンなどのスポーツイベント会場を訪問して、フィールドワークを行う。 （見学人数に上限があり受講生全員が１つの場所に訪問することはできない。希望に応じて訪問先を割り振る）	調査レポートの提出	4時間
第5回	**フィールドワーク：シューズ・野球グラブ生産工場** シューズ・野球グラブ生産工場を訪問して、フィールドワークを行う。 （見学人数に上限があり受講生全員が１つの場所に訪問することはできない。希望に応じて訪問先を割り振る）	調査レポートの提出	4時間
第6回	**フィールドワーク：アーバンスポーツ施設** スケートボードやBMXができる専用施設を訪問して、フィールドワークを行う。 （見学人数に上限があり受講生全員が１つの場所に訪問することはできない。希望に応じて訪問先を割り振る）	調査レポートの提出	4時間
第7回	**フィールドワーク：大型スポーツ公園** 長居公園（大阪市）を訪問して、フィールドワークを行う。 （見学人数に上限があり受講生全員が１つの場所に訪問することはできない。希望に応じて訪問先を割り振る）	調査レポートの提出	4時間
第8回	**個人調査：調査基本計画の作成** リサーチ・クエスション（研究上の「問い」）を立て、それを元とした調査計画書を作成する。	調査計画書の提出	4時間
第9回	**リサーチ方法の立案** 調査基本計画の内容に基づき、具体的なリサーチ方法（アンケート調査、インタビュー調査、参与観察など）を立案する。	リサーチ実行書の提出	4時間
第10回	**調査結果の分析** 調査実施により取得したデータの分析を行い、その結果を整理してまとめる。	分析結果レポートの提出	4時間
第11回	**発表**	発表スライド資料の提出	4時間

	調査の結果・考察を発表する（ペアワーク・グループワーク）		
第12回	**発表のブラッシュアップ（再発表）** 発表で得た質問点や改善点を踏まえて、発表スライドを改良して再発表を行う。	改良版発表スライド資料の提出	4時間
第13回	**新たな研究テーマ考案** 自身が行った調査から得た知見を元に、さらに探究を深めるためにいかなる研究調査が望まれるか検討して、新たな研究テーマを定めて調査計画書を作成する。	新・調査計画書の提出	4時間
第14回	**スポーツフィールド調査の理解とまとめ** 一連の研究調査手法の学びについて再確認する。本科目の振り返りを行うとともにまとめを行う。	授業での学びについて、振り返りシートに記述する。	4時間

232

授業科目名	スポーツキャリア論				
担当教員名	古川拓也				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本講義では、スポーツキャリアに関する知識を身につけ、アスリートやスポーツ組織が抱える課題の発見、解決できる能力を身につけます。さらには自分自身のスポーツキャリアを分析し、プランニングできる能力を身につけることを目指します。ハイパフォーマンススポーツの視点からアスリートのスポーツキャリアとその支援について、草の根スポーツの視点から生涯を通じたスポーツの関わり方、さらにはスポーツに関連した職業などをテーマとして取扱います。受講するみなさんが自身のキャリアを考えるうえでも役に立つことを期待しています。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	スポーツキャリアの専門的知識習得と基本的な課題の理解	スポーツキャリアに関わる問題を知り、専門的知識を課題の理解に役立てることができる。
汎用的な力		
1．DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		スポーツキャリアの課題を発見できるようになる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
講義レポート	50 %	:	内容の妥当性と論理構成について、独自のルーブリックを用いて評価します。
講義中課題	15 %	:	与えられた課題への取り組み状況を評価します。
中間理解度確認	15 %	:	講義内容の理解度を選択式のフォームを用いて評価します。
期末レポート	20 %	:	内容の妥当性と論理構成について、独自のルーブリックを用いて評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

テーマや必要性に応じて紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日　2限（10：30－12：00）

場所： 研究室　西館2階

備考・注意事項： 授業に関する質問等はメールでも受け付けます（furuakwa-t@g.osaka-seikei.ac.jp）。メールには忘れずに、氏名・学籍番号・所属を明記してください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**アスリートは競技のみに集中するべきなのか？（実践編）** ガイダンスの後、講義のテーマに沿ってグループディスカッションを行います。そこで出た見解や個人の意見について考察していきます。	次のキーワードについて予習し講義に備えること。スポーツキャリア、デュアルキャリア、セカンドキャリア、スポーツキャリア支援	4時間
第2回	**アスリートは競技のみに集中するべきなのか？（理論編）** アスリートのキャリアについて明らかになっている学術的知見などの理論的背景を踏まえながら、アスリートのキャリアについて考察を深めます。	第1回目の「授業外学修課題」の見直しと講義内容の復習を行っておくこと。	4時間
第3回	**特別講義：ケーススタディ「競技を引退したアスリートのキャリア」** 競技を引退したアスリートをお招きし、これまでのキャリアやキャリア移行に関する体験談などをお話しいただく。	これまでの講義内容の復習を行うこと。	4時間
第4回	**特別講義：ケーススタディ「現役アスリートのキャリア」** 現役アスリートをお招きし、これまでのキャリアや今後のキャリアなどについてお話しいただく。	これまでの講義内容の復習を行うこと。	4時間
第5回	**アスリートの円滑なキャリアトランジションに向けた方策とは？** アスリートキャリアの支援方策を概観し、キャリア支援の在り方や今後の方向性について考えていきます。	アスリートの支援として現在、どのような取り組みがなされてるのか事前に予習しておくこと。	4時間
第6回	**ハイパフォーマンスアスリートになるために王道はあるのか？** 世界で活躍するアスリートになるための王道は存在するのか。アスリートの成長の軌跡について考えていきます。	世界で活躍するアスリートについて調べ、どの様な過程を経て現在に至るのか調べること。	4時間
第7回	**人生におけるスポーツとの関わり方** スポーツ実施率や子どもの体力”問題”について触れながら、その解決課題と一生涯を通じたスポーツへの関わり方について考えていきましょう。	スポーツ庁のwebサイトを参照し、スポーツ実施率の動向について確認すること。また、近年スポーツ実施率が維持傾向だった理由について自分なりの考えをまとめておくこと。	4時間
第8回	**スポーツからのドロップアウト** スポーツにおけるドロップアウトについて学びます。また、ドロップアウトの要因やその対策について考えます。	ドロップアウトをキーワードに、予習を進めること。また、部活動や所属クラブを途中で辞めた人がいれば、なぜ辞めるに至ったのか話を聞いてみること。	4時間
第9回	**中間まとめ** これまでのテーマについての理解度確認を行うとともに、スポーツキャリアに関する知識を応用したグループディスカッションを行います。	第1回～第8回までの内容を振り返ること。	4時間
第10回	**スポーツに関わるキャリアとは？** スポーツ産業の全体像を概観しつつ、多様な職業について考えます。	スポーツ産業とは何か、またスポーツに関連する職業とは何かを予め予習しておくこと。	4時間
第11回	**プロスポーツクラブにおけるキャリア** プロスポーツクラブの組織特性を学び、そこで働くスタッフのキャリアなどについて学修します。	プロスポーツクラブの組織特性について考察してみましょう。	4時間
第12回	**特別講義：ケーススタディ「スポーツに関わるキャリア（仕事）」** スポーツに関するキャリアの観点から、スポーツに関するビジネスに携わる人をお招きし、経験や体験についてお話しいただく。	第10回、第11回の講義内容を振り返っておくこと	4時間
第13回	**スポーツに関わるキャリア-まとめ-** スポーツに関わる仕事について振り返ります。	スポーツに関わる仕事の全体像を今一度確認しておくこと。	4時間

第14回	**スポーツキャリアについてのまとめ** 講義全体のまとめを行う。改めてスポーツキャリアとは何か、各自のスポーツキャリアに照らし合わしながら考えてみる。	講義全体のまとめをしておくこと。	4時間

233

授業科目名	スポーツ組織論				
担当教員名	古川拓也				
学年・コース等	2・3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本講義では、スポーツ組織に関する専門的な知識を学修することを目指します。具体的には、スポーツ組織固有の特性や現象について理解すること、スポーツ組織について判別できること、その種類を説明できるようになること、スポーツ組織におけるリーダーシップと課題について理解し、説明できるようになることを目指します。そして、スポーツトピックスについて議論をすることで、スポーツ組織におけるガバナンスの在り方やリーダーシップの理解を深化させます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.スポーツ産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	スポーツ組織に関する専門的知識の獲得と理解を目指す。	スポーツ組織に関する定義やその種類、特性について説明することができるようになる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		ディスカッションやグループワークにおいて、論理的に考え、課題に沿った議論ができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・eラーニング、反転授業

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
振り返りレポート	50 %	： 独自のルーブリックで内容の妥当性や論理の一貫性を評価します。
講義内課題	10 %	： 講義内で課した課題への取り組み状況や内容について評価します。
期末レポート	40 %	： 独自のルーブリックで内容の妥当性や論理の一貫性を評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

テーマや必要性に応じて紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日　１限（10：30－12：00）

場所： 研究室

備考・注意事項： 授業に関する質問等はメールでも受け付けます（furukawa-t@g.osaka-seikei.ac.jp）。メールには忘れずに、氏名・学籍番号・所属を明記してください。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**スポーツ組織とは？** スポーツ組織とは何か考えていきます。組織の仕組みやスポーツが持つ特性を理解し、スポーツ組織を定義していきます。	スポーツ組織とは何か、自部なりの理解を整理しましょう。	4時間
第2回	**スポーツ組織の法人格とガバナンス** スポーツ組織の法人格を見分け、その特徴について説明できるようになることを目指します。また、スポーツ組織特有のガバナンス上の課題について理解を深めます。	スポーツ組織の法人格を事前に調べ、どの様な法人各になっているかを整理しましょう。また、一般的に指摘されているスポーツ組織のガバナンス上の課題を説明できるようにしておきましょう。	4時間
第3回	**プロスポーツリーグとプロクラブ** プロスポーツリーグとプロクラブの組織的な違いを説明できるようになることを目指します。リーグとクラブの関係性について、基本的な理解を深めていきます。	日本国内のプロスポーツリーグについてwebページから基本情報を参照し、その特徴を自分なりにまとめてみましょう。	4時間
第4回	**企業スポーツ** 企業スポーツリーグやチームの基本を理解し、プロスポーツリーグやクラブとの違いを説明できるようになることを目指します。また、日本国内にあるトップリーグの動向について基本的な理解を深めます。	プロスポーツリーグやクラブと国内の各種トップリーグ、実業団チームの違いについて、自らの言葉で説明できるように情報を整理しておきましょう。	4時間
第5回	**総合型地域スポーツクラブとスポーツ少年団** 日本国内に存在する地域スポーツ組織として、総合型地域スポーツクラブとスポーツ少年団について学びましょう。どの様な背景のもと誕生し、何が目指されているのか、現在生じている課題について、説明できるようになりましょう。	総合型地域スポーツクラブとスポーツ少年団について、基本的な情報を調べて、まとめましょう。	4時間
第6回	**フィットネスクラブ** 主に日本国内のフィットネスクラブを中心に、フィットネスクラブの基本的な理解と近年の動向、基本的な理解を学びます。	日本国内のフィットネスクラブを調べ、種別を分類してみましょう。	4時間
第7回	**競技統括団体** 日本スポーツ協会や都道府県スポーツ協会、中央競技団体や地方競技団体について、その基本事項を学修します。その役割や事業について理解を深めるとともに、課題についても説明できるようになりましょう。	日本スポーツ協会と、自身がこれまで取り組んできたスポーツの中央競技団体について、基本的事項をまとめておきましょう。	4時間
第8回	**スポーツ組織におけるリーダーシップ：リーダーシップとは？** リーダーシップの概念について学びます。リーダーシップとは何か、リーダーシップとマネジメントの違いは何かについて考え、本講義におけるリーダーシップを定義します。	リーダーシップとは何か、自分なりの定義を整理しましょう。	4時間
第9回	**スポーツ組織におけるリーダーシップ：伝統的なリーダーシップ理論** 伝統的なリーダーシップ理論について理解するとともに、スポーツ組織の現象にあてはめ、現象を説明できるようになることを目指します。	自分自身がこれまで体験してきたリーダーシップ現象について、エピソードをまとめてみましょう。	4時間
第10回	**スポーツ組織におけるリーダーシップ：近年のリーダーシップ理論** 近年のリーダーシップ理論について理解するとともに、スポーツ組織の現象にあてはめ、現象を説明できるようになることを目指します。	自分自身がこれまで体験してきたリーダーシップ現象について、エピソードをまとめてみましょう。	4時間
第11回	**リーダーシップのダークサイド**	スポーツ組織に関連した不正等について、ケースとその原因を調べてきましょう。	4時間

	リーダーシップは必ずしも良い影響を組織にもたらすとは限りません。スポーツ組織では暴力・ハラスメント、八百長・贈収賄など、スポーツインテグリティを脅かす不正が行われることがあります。どの様なリーダーシップがそれらの不正を助長しているのか、説明できるようになりましょう。		
第12回	**スポーツ組織の戦略** スポーツ組織の戦略立案と実行について学修します。一般企業との違いなどについても説明できるようになりましょう。	プロスポーツクラブや競技統括団体などが、どの様な中長期戦略を立てているのか調べてまとめましょう。	4時間
第13回	**スポーツ組織のガバナンス** スポーツ組織はガバナンスが脆弱になりがちです。ケーススタディをもとに、ガバナンスの在り方について学修しましょう。	スポーツ組織において不祥事が起きない・起こさないための工夫は、どの様なことが取り組まれているか、事前に調べておきましょう。	4時間
第14回	**全体まとめ** 講義のまとめを行います。	これまでの講義で学んだことを振り返りましょう。	4時間

232

授業科目名	**スポーツ経済論**				
担当教員名	藤森梓・田村匡				
学年・コース等	2年～4年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

経済学とは、世の中の資源を最適な配分方法にモデル化し、より良い社会の実現を目的とした学問領域です。この講義では、経済学の考え方を応用し、スポーツを通して豊かな社会を実現する施作について考ます。具体的には、スポーツ産業やスポーツビジネスがどのような形で経済や社会の発展に貢献しているのかを学びます。講義の前半（藤森担当）は、経済学の基本的な概念とスポーツ分野への応用について考えます。後半（田村担当）は、サッカーを事例として具体的にどのような経済の動きがあるのか、その仕組み、影響等について教科書「サッカーの経済学」を使いながら学んでいきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.スポーツ産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	経済学の知識を活用した、スポーツ産業の分析。	経済学的視点から、スポーツ産業の現状と課題について考察できるようになる。
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	経済学という学問領域の理解、およびその知識の応用。	経済学を応用して、スポーツに関する議論を展開できるようになる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		スポーツに関する諸問題を経済学的視点から考察する力を身につける。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
中間試験（藤森担当分）	40 %	： スポーツ経済学の基本的な概念を理解できているかどうかを評価します。
期末試験（田村担当分）	40 %	： サッカーを事例として具体的な経済の動き、仕組等を理解しているかを評価します。
平常点	20 %	： 毎回の授業のポイントを理解できているかどうかを評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
平田竹男	・ サッカーの経済学	・ 新星出版社	・ 2023 年

参考文献等

「特になし」　随時紹介します

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をして下さい。
本科目を履修する場合、大学共通科目の「現代社会と経済」を事前に履修済であることが望ましいです。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日3限（藤森）、水曜日2限（田村）

場所： 個人研究室　西館4F（藤森）、西館4F（田村）

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**導入：スポーツと経済学　　藤森** 授業計画について話をするとともに、経済学を応用したスポーツ関連の研究の可能性についてお話しします。	経済学の研究領域についての理解と各自の研究テーマとの関連性について考える。	4時間
第2回	**経済学の概念　　藤森** 経済学という学問領域についての基本的な考え方について紹介します。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（経済学という学問の特性とその目的について理解を深める）。	4時間
第3回	**GDP、経済成長とスポーツ産業　　藤森** GDPの定義と経済成長についての説明をします。また、その中でスポーツ産業がどのような形で関わっているのかを講義します。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（GDPの概念について理解を深めるとともに、マクロ経済の中でのスポーツ産業の位置付けについて考える）。	4時間
第4回	**メガスポーツイベントと経済学：景気循環とスポーツ　藤森** 景気循環の概念についてお話をしたうえで、オリンピック等のメガスポーツイベントが景気にどのような影響を与えているのかについて、具体例を挙げながら説明します。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（マクロ経済におけるめがスポーツイベントのインパクトについて考える）。	4時間
第5回	**マクロ経済学とスポーツ：Sport for Tomorrowとスポーツ産業　　藤森** 日本のスポーツ政策「Sport fo Tomorrow」についてお話したうえで、日本のスポーツの発展が日本経済に与えるインパクトについて説明します。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（日本経済と政府のスポーツ政策の方向性につ考える）。	4時間
第6回	**地域経済とスポーツ振興：関西経済の問題点とスポーツ産業　　藤森** 大阪・関西の経済事情について説明したうえで、地域のスポーツ産業の概要について説明します。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（関西経済の歴史と現状、課題について理解し、スポーツを通した問題解決の可能性について考える）。	4時間
第7回	**中間試験とその解説　　藤森** 前半部分のまとめとして中間試験を実施します。また、その内容についての解説を行います。	前半部分のまとめを行い、試験対策を行う	4時間
第8回	**サッカーの経済学　後半オリエンテーション　田村** 授業後半のオリエンテーションを行います。 教科書「サッカーの経済学」を活用しサッカービジネスの概要、プロリーグやプロサッカーチームの経済的、組織的構造等について概略を説明します。	教科書「サッカーの経済学」について予習・復習する	4時間
第9回	**サッカー選手とクラブ・リーグの経営　田村** サッカーのプロ選手の給与や移籍金、クラブの経営とJリーグとの関係、それにかかわる経済の話題を学びます。	教科書「サッカーの経済学」について予習・復習する	4時間
第10回	**サッカースタジアムの経済　田村** サッカースタジアムの建設、運営について学びます。建設・運営のコストや命名権、スタジアム広告等の収入、運営手法等の具体的な姿を理解します。	教科書「サッカーの経済学」について予習・復習する	4時間
第11回	**サッカークラブの運営・マネジメントの経済　田村** Jリーグに所属するサッカークラブを中心に、フロントや選手の人件費、移籍金等のマネジメントについて学びます。	教科書「サッカーの経済学」について予習・復習する	4時間
第12回	**欧州5大リーグとこれからのビジネスモデル　田村** 世界的な視点から、サッカーの最高峰である欧州5大リーグについて学び、日本のJリーグと比較しながらビジネスモデルを考えます。さらにはeサッカーの可能性等についても考えます。	教科書「サッカーの経済学」について予習・復習する	4時間
第13回	**FIFAワールドカップの経済学　田村** ワールドカップを主宰しているFIFAの収入構造や日本のJFAとの関係等につい理解し、世界におけるサッカーの位置づけを考えてみます。	教科書「サッカーの経済学」について予習・復習する	4時間
第14回	**まとめとディスカッション　　田村** 授業の後半で学んだ「サッカーの経済学」全体を、もう一度振り返り、復習します。	これまで学習してきたことを復習する	4時間

232

授業科目名	スポーツ政策論				
担当教員名	坂中勇亮				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	体育協会の職員として地域スポーツ行政に従事（全14回）				

授業概要

本科目ではスポーツ政策の専門性を身に付けることを目指し、基礎知識や各種分野の政策・制度について学習する。
2011年に公布・施行された「スポーツ基本法」には、「スポーツが世界共通の人類の文化であること、スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、全ての人々が有する権利である」ことが基本理念として明記された。
国家戦略としてスポーツ立国を実現するために、国や地方公共団体にはスポーツに関わる総合的な施策策定と実施が責務として課せられている。本講義では、日本のスポーツ政策の在り方を深く考察していく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	わが国のスポーツ政策に関する基礎知識や各種分野の政策・制度についての知識。	わが国のスポーツ政策およびスポーツ法規に関するな知識を獲得することができる。
2. DP１.スポーツ産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	各種課題や講義内ワークを通じて、専門性や思考フレームワークを実践。	わが国のスポーツに関わる政策課題をあぶり出し、課題解決のための具体的な施策を提案することが出来るようになる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		現政策を分析し評価することで、批判的思考力や合理的思考力をつけることができる。また、客観的判断のための情報を獲得、適格な情報を整理するために、情報検索力が発揮できるようになる。
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		課題解決のための論理的思考を備え、意見具申しその要点を公表できるようになる。 その過程で創造的思考力を発揮することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
各講義の振り返りレポート	50 %	： 独自のルーブリックで内容の妥当性や論理の一貫性について評価する。
講義内課題への取り組み(グループ活動を含む)	30 %	： 独自のルーブリックで内容の妥当性や論理の一貫性について評価する。
期末レポート	20 %	： 独自のルーブリックで内容の妥当性や論理の一貫性について評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

①真山達志、横山勝彦他編「スポーツ政策論」成文堂・2011年（ISBN 978-4-7923-8067-0）
②成瀬和弥、真山達志編「地方におけるスポーツ価値実現の実像」・晃洋書房・2023年（ISBN 978-4-7710-3716-8）

履修上の注意・備考・メッセージ

・講義時には、講義内容のノートを取ることを推奨します。
・学園ルールを順守し、講義中は私語、居眠り、携帯電話での通話等は厳禁です。
・規定回数以上の出席がなければ本講義取得放棄とみなし、成績評価は「不可」となります。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　月曜3限

場所：　研究室（西館2階・18室）

備考・注意事項：　講義内容のご質問、あるいはスポーツ関連（実践含む）事項でのご相談等がありましたら、遠慮なく研究室までおいでください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**スポーツ政策と政策アクター** 我が国のスポーツ政策の概要とその歴史的な変遷について学ぶ。また、スポーツ政策を立案・実施する中心的なアクターや組織について詳しく理解することを目的とする。具体的には、政策の背景や目的を明らかにし、それを支える組織の役割や活動について深く掘り下げる。 講義の前半では、スポーツ政策全体の流れを俯瞰し、後半では特に政策アクターであるスポーツ庁と日本スポーツ協会に焦点を当てる。これらの組織の概要や事業内容を把握することで、スポーツ政策がどのように形成され、実社会にどのような影響を与えているのかを理解する。	スポーツ政策の概要および歴史的変遷を整理する	4時間
第2回	**スポーツ政策に関する制度・予算** はじめに、スポーツ政策の根幹である「スポーツ基本法」と「スポーツ基本計画」について学ぶ。特に、スポーツ基本計画については、実際の計画内容を事例として取り上げ、詳細に検討する。次に、日本におけるスポーツ関連予算の概要を紹介し、その全体像を理解する。さらに、前年度のスポーツ関連予算を題材に、グループワークを通じて予算配分のデモンストレーションを行う。これらを通じて、スポーツ政策の実務的な側面について具体的かつ深い理解を得ることを目指す。	前年度のスポーツ関連予算額について調べる	4時間
第3回	**子供の体力向上に関する政策** 現代の子どもたちの体力および運動習慣の現状について紹介した上で、子どもたちの年代ごとの課題および各年代に特有の問題点や特徴について説明する。また、子どもたちの体力や運動習慣の向上を目的とした政策の内容について取り上げ、その具体的な取り組みや効果を紹介する。これを通じて、子どもたちの健康や運動習慣の向上に向けた政策の重要性と実践的な意義を理解することを目指す。	子どもたちの運動習慣や体力の現状について調べる	4時間
第4回	**学校体育・運動部活動に関する政策** 体育の充実と部活動改革に関する政策について学ぶ。具体的には、「体育授業の学習指導要領」「ICT端末を活用した体育授業の展開」「部活動の地域移行」といった、実際に実施されている政策の内容を取り上げる。特に「部活動の地域移行」については、受講者自身の地元自治体における実態を調べ、その現状や課題を通じて理解を深める。	受講者自身の地元自治体における「部活動の地域移行」の実情を調べる	4時間
第5回	**国民のスポーツライフに関する政策** 国民のスポーツライフに関わる政策について学ぶ。まず、日本における「スポーツ実施率」とスポーツ活動への参画を阻害する要因について説明する。その後、スポーツ実施率の向上を目的とした「Sport in Lifeプロジェクト」を事例として取り上げ、プロジェクトの概要や具体的な取り組み内容、そしてその効果について紹介する。	日本のスポーツ実施率およびスポーツ実施の阻害要因を調べる	4時間
第6回	**障害者スポーツに関する政策** 障害者スポーツに関わる政策について学ぶ。まず、日本における障害者の運動・スポーツの実施状況を解説し、国内外の大規模スポーツ大会の意義や役割を紹介する。次に、「障害者スポーツ推進プロジェクト」と「障害者スポーツの実施環境の整備等に向けたモデル創出事業」の概要や具体的な取り組みについて説明する。これらを通じて、障害者スポーツの振興のための実態や課題についての理解を深める。	障害者のスポーツ実施率について調べる	4時間
第7回	**本講義の中間振返りと子どものスポーツ政策の検討** 第1回から第6回の講義内容を振り返り、これまでの学びを整理する。特に前半の授業で取り上げた「子どものスポーツ活動と政策」に焦点を当て、現代社会における子どもたちのスポーツ環境や課題について整理する。その上で、子どものスポーツ活動を普及・振興するために必要な政策をグループで検討し、具体的なアイデアを企画・立案する。企画の内容は、社会的意義や実現可能性も含めて議論し、実践的な提案を目指す。	子どものスポーツ活動に関わる政策を整理する	4時間
第8回	**競技力向上に関する政策**	オリンピック・パラリンピックにおける日本の競技成績を調べる	4時間

	競技力向上に関する政策について学ぶ。まず、オリンピックやパラリンピックなど国際競技大会における日本の競技成績を紹介し、その成果や課題を分析する。次に、「国際競技力向上プラン」や「日本版FTEM（パスウェイに基づくアスリート育成）」といった政策の概要や目的を説明する。また、競技力向上を支える重要な要素として、「パフォーマンスサポート」や「ナショナルトレーニングセンター」の役割や具体的な取り組みについても取り上げる。これらを通じて、日本の競技力向上を実現するための政策の全体像を理解する。		
第9回	**国際交流・国際協力に関する政策** 国際交流・国際協力に関する政策について学ぶ。まず、「国際スポーツ界への意思決定への参画」「スポーツを通じた国際交流・協力の推進」「スポーツ産業の国際展開」「国際競技大会の招致・開催支援」「オリ・パラ教育を活用した教育活動の展開」などの政策について、具体的な事例を交えながら説明する。また、代表的な政策である「SPORT FOR TOMORROW」の事業内容について受講生が調査を行い、その取り組みの意義や成果を深く理解することを目指す。	「SPORT FOR TOMORROW」を調べて事業概要をまとめる	4時間
第10回	**スポーツの場づくりに関する政策** スポーツの場づくりに関する政策について学ぶ。まず、「スポーツ施設の全体最適化」「地域で誰もが気軽にスポーツを楽しめる場づくり」「スタジアム・アリーナ改革」「国立競技場の整備」など、具体的な政策内容を説明する。次に、「スタジアム・アリーナ改革」に焦点を当て、受講生が全国各地の事例を調査し、改革の具体的な取り組みや成果について整理・考察する。	スタジアム・アリーナ改革の対象となっているスポーツ施設を調べる	4時間
第11回	**スポーツによる地域・経済の活性化に関する政策** スポーツによる地域・経済の活性化に関する政策について学ぶ。まず、「スポーツによるまちづくり」「スポーツ産業の成長支援」「大学スポーツの振興」など、実際に実施されている政策を具体的に紹介する。これらの政策が地域経済や社会に与える影響や、スポーツを通じてどのように地域が活性化されるかを理解する。さらに、地域資源を活用して実施される「ご当地スポーツ」に注目し、その生成過程や地域独自の特色を反映させた活動がどのように地域社会に貢献し、まちづくりに効果を与えるのかを詳細に説明する。これにより、スポーツが地域社会や経済の活性化において果たす重要な役割を深く理解する。	受講生の地元の地域資源を活用したスポーツイベントを調べる	4時間
第12回	**スポーツ界の透明性，公平・公正性の向上に関する政策** スポーツ界の透明性、公平・公正性の向上に関する政策について学ぶ。「スポーツ団体ガバナンスコードの策定」「ドーピング防止活動」「スポーツ・インテグリティ推進事業」「スポーツ仲裁活動推進事業」など、実施されている政策について具体的に説明する。特に、大学スポーツ協会の取り組みに焦点を当て、大学スポーツ界での実際の事例を交えながら、その活動がどのように透明性や公平・公正性の向上に寄与しているかを考察する。これにより、スポーツ界全体でのガバナンス強化とインテグリティ向上の重要性について理解を深める。	日本のスポーツ界におけるスポーツ組織・団体の不祥事の事例を調べる	4時間
第13回	**スポーツを通じた女性の活躍促進に関する政策** スポーツを通じた女性の活躍促進に関する政策について学ぶ。まず、「女性スポーツの促進方策」「女性のスポーツ実施率向上」「女性スポーツに関する国際的な取り組み」「女性コーチの育成」など、実施されている政策を具体的な実例を通じて説明する。特に、女性がスポーツに参加する際に直面する障壁や実施を阻害する要因を整理し、その課題に対処するために必要な取り組みを受講生と共に検討する。これにより、女性のスポーツ実施を促進するための効果的な方策を理解し、今後の発展に向けた具体的なアクションを考察する。	女性を対象としたスポーツイベントの実例を調べる	4時間
第14回	**スポーツ政策論総論** 本講義のまとめを行う。 「スポーツは世界共通の人類の文化」と位置付け、「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことが人々の 権利」としているわが国のスポーツ政策について、講義の振返りと内容の復習を行う。 本講義のまとめとしてレポート提出についてのテーマ課題を課す。	課題レポート作成を通じて、本講義内容の理解を深め、自身が考えるスポーツ政策によってスポーツが社会課題解決となるよう要点をまとめ上げること。	4時間

232

授業科目名	スポーツ国際協力				
担当教員名	藤森梓				
学年・コース等	2年～4年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

この講義は、発展途上国の経済開発や社会開発の場面における、スポーツを通した国際協力の可能性について考えていきます。近年の国際協力の場面では、SDGsの中で提唱されているように、「持続可能性」という言葉がキーワードになります。そうした中で、従来の資金援助中心の国際協力から、幅広い形の国際協力の形が模索されています。本講義では、このような現状を鑑みて、発展途上国における諸問題を紹介しながら、スポーツを通してどのような形の国際協力ができるのかの考察し、さらにプロジェクトの企画立案を行いたいと思います

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	海外、特に発展途上国の現状を認識し、異文化理解を深める。	発展途上国が抱える諸問題を理解し、実際にスポーツを通して国際協力に携われる知識・能力を身につける。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		発展途上国が抱える問題について適切に認識することができるようになる。またスポーツを通した国際協力のあり方について考えることができるようになる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
期末レポート	40 %	： スポーツ国際協力に関する問題発見能力、問題解決能力を身につけており、それを論理的に文章化できているかどうかを評価します。
期末発表	40 %	： スポーツ国際協力に関する問題発見能力、問題解決能力を身につけており、それを適切かつ明快にプレゼンテーションできているかどうかを評価します。
平常点	20 %	： 毎回の授業の重要ポイントをきちんと理解できているかを評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

参考文献については、初回の授業でリストを配布します。その他、授業内で適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求めらます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をして下さい。
この講義の大部分はアクティブラーニング型の授業となります。従って、履修する学生には、学びに対する強い意欲と積極的な授業への参加を求めます。
授業の資料等はGoogle Classroomで配布します。登録については初回の授業でガイダンスを行います。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日3限

場所： 個人研究室（西館4階）

備考・注意事項： 注意事項：授業に関する質問は、授業の前後、または研究室でのオフィスアワー（月曜日3限）にて受け付けます。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス～スポーツ国際協力の可能性について～** 講義の計画や目的を説明するとともに、国際協力に携わることの意義や効果についてお話しします。	講義の目的について理解を深める。	4時間
第2回	**貧困と開発（１）～貧困のメカニズム～** なぜ、貧困は発生するのか。その本源的な理由について理解を深めます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（貧困の罠のメカニズムを理解する）。	4時間
第3回	**貧困と開発（２）～貧困対策の可能性～** 貧困に対して、我々ができることは何なのか。貧困削減政策の現状と課題についてお話しします。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（現代の貧困対策の限界と打開策について考える）。	4時間
第4回	**SDGsの概念について** 近年、世界共通の経済開発目標として掲げられているSDGsの概要とその理念、目的についてお話をします。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（MDGsからSDGsへの流れと貧困対策の関連性を理解する）。	4時間
第5回	**国際協力のフレームワーク** 具体的に国際協力はどのような形で行われているのか。そのしくみについて詳しく解説します。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（日本の国際協力のしくみについて、大まかな形を理解する）。	4時間
第6回	**スポーツを通した国際協力（１）～教育とスポーツ国際協力～** スポーツを通した国際協力の可能性として、教育、人材育成部門への活動とその効果についてお話しします。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（教育を通した国際協力の事例をさがして研究する）。	4時間
第7回	**スポーツを通した国際協力（２）～健康とスポーツ国際協力～** スポーツを通した国際協力の可能性として、健康部門への活動とその効果についてお話しします。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（健康を通した国際協力の事例をさがして研究する）。	4時間
第8回	**スポーツを通した国際協力（３）～企業活動と国際協力～** スポーツを通した国際協力の可能性として、企業活動を通した活動の可能性についてお話しします。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（企業活動を通した国際協力の事例をさがして研究する）。	4時間
第9回	**スポーツ国際協力のケーススタディ（１）～JICAにおけるスポーツ国際協力事業を例に～** スポーツを通した国際協力の事例として、JICAのスポーツ国際協力事業について取り上げ、その効果や課題について考えます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（JICAにおけるスポーツ国際協力事業の課題について理解する）。	4時間
第10回	**スポーツ国際協力のケーススタディ（２）～ピースボールアクションを例に～** スポーツを通した国際協力の事例として、本学にも関わりのある「ピースボールアクション」の活動についてお話しするとともに、その効果や課題について考えます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。（ピースボールアクションが直面する問題ついて考える）。	4時間
第11回	**スポーツ国際協力プログラムの企画・立案（１）～問題提起～** スポーツ国際協力のプログラム立案について、その概要、目的、企画・立案の進め方について説明します。	ワーキンググループを作り、計画書を作成する。	4時間
第12回	**スポーツ国際協力プログラムの企画・立案（２）～対象国・地域の絞り込み～** 具体的なプロジェクト対象国・地域を絞り込み、どのような形のスポーツ国際協力が可能なのかを考えます。	プロジェクト対象国・地域の事情について、参考文献や資料を用いて調べる。	4時間
第13回	**スポーツ国際協力プログラムの企画・立案（３）～議論の組み立て～** グループ内の議論を通して、具体的なスポーツ国際協力の形を作り上げていきます。	具体的なプログラム案を組み立て、プレゼンテーションを作成する。	4時間

第14回	**プレゼンテーションおよびディスカッション** 各グループが作成したスポーツ国際協力プログラムについてのプレゼンテーションを行います。またディスカッションを通して、授業の振り返りをします。	プレゼンテーションの準備、リハーサルを行う。	4時間

232

授業科目名	スポーツビジネス体験				
担当教員名	村田正夫・菅文彦・古川拓也・丸朋子・林悠太・鳥山稔				
学年・コース等	1・2年	開講期間	通年	単位数	2
授業形態	講義（集中講義）				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	村田：柔道運営業務に従事（全14回）				

授業概要

本授業では、スポーツビジネスでもとめられる理論と実践をスポーツビジネス現場の体験を通じて習得する。
Jリーグクラブ（セレッソ大阪）、プロ野球（オリックス・バファローズ）、Bリーグ：プロバスケットボール（大阪エヴェッサ・バンビシャス奈良）、SVリーグ：バレーボール（大阪ブルテオン）、ラグビー（花園近鉄ライナーズ）の試合会場運営の体験実習を行う。
実際の大会・イベント運営の基礎的な知識や施設管理について習得を図る。具体的には、事前準備、会場のセッティング、チラシの配布、座席への案内、ショップでの販売などを体験する。

※受講生は各コースに分かれて実習や講義を受ける。詳細は履修ガイダンス時に説明を行う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	バスケットボール、サッカー等に関する大会運営の実習を行う。	大会運営を通じて、スタッフ、選手、観客などさまざまな視点から、スポーツビジネスに関す実践的な知識を習得する。

汎用的な力	
1. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み	バスケットボール、サッカー等の大会における役割と競技についての基礎的能力及び専門に関する知識と理解。
2. DP７.実践の完遂	実習や課題で果たすべきタスクを計画的に実行して完遂する。
3. DP８.他者とのコミュニケーション	チームのメンバーと協働し、良好な意思疎通を行いながら実習や課題を行う。
4. DP９.他者との協調・協働	チームとしての取り組みとして、自らの役割を理解し、メンバーと連携し、目標を達成する。

学外連携学修

有り(連携先：ヒューマンスポーツエンタテイメント株式会社（大阪エヴェッサ）、セレッソ大阪、花園近鉄ライナーズ)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
実習評価（意欲・行動・協調など）	60 %	： 授業内の活動に対する、主体性、積極性に関して5段階で評価する。
課題（中間及び期末）		： 課題レポートを提出する。実習体験を踏まえて得た気づきやリサーチ・クエスションに対するアウトプットを探究的思考から導き出す。

40　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、全体で90時間の学修が求められる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 教員によって異なる

場所： 各研究室

備考・注意事項： 担当教員のオフィスアワーを参照

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション** 授業の説明、スポーツイベントの紹介を行う。 ※受講生は各コースに分かれて実習を体験する。そのため各コース（Jリーグ、ラグビー等）により授業計画は異なる。詳細は履修ガイダンス時に説明を行う。	プロスポーツの試合運営の仕組みの学修	4時間
第2回	**プロスポーツの試合運営の仕組みの学修** 実習先のプロスポーツクラブ・チームの試合運営の仕組みを理解する。	プロスポーツクラブの仕組みの学修	4時間
第3回	**プロスポーツの経営についての講義** 実習先のプロスポーツクラブ・チームの経営の仕組み全般を理解する。	大阪エヴェッサ、セレッソ大阪について事後調査	4時間
第4回	**学外体験実習１日目準備（試合運営会場実習）** 大会の準備を体験する。 【主な内容】（実習先コースにより内容は異なる・以下同） ◆試合当日の設営・封入作業 ◆ファンクラブブースでの対応 ◆メディアへのスタッツ配布 ◆メディアへのスタッツ配布	スポーツマーケティングについて学習する	4時間
第5回	**学外体験実習１日目大会中（試合運営会場実習）** 大会中のスタッフの仕事を体験する。 【主な内容】 ◆再入場口・会場入り口でのお客様誘導/対応 ◆座席案内 ◆来場者アンケートの促進	スポーツマーケティングについて学習する	4時間
第6回	**学外体験実習２日目準備（試合運営会場実習）** 大会の準備を体験する。 【主な内容】 ◆試合当日の設営・封入作業 ◆ファンクラブブースでの対応 ◆メディアへのスタッツ配布 ◆メディアへのスタッツ配布	スポーツマーケティングについて学習する	4時間
第7回	**学外体験実習２日目大会中（試合運営会場実習）** 大会中のスタッフの仕事を体験する。 【主な内容】 ◆再入場口・会場入り口でのお客様誘導/対応 ◆座席案内 ◆来場者アンケートの促進	スポーツマーケティングについて学習する	4時間
第8回	**グループワーク** ２日間の前半の大会体験を通じて、課題の発見及び対策などをグループワークする。	課題レポートの作成	4時間
第9回	**学外体験実習３日目準備（試合運営会場実習）** 大会の準備を体験する。 【主な内容】 ◆試合当日の設営・封入作業 ◆ファンクラブブースでの対応 ◆メディアへのスタッツ配布 ◆メディアへのスタッツ配布	集客イベントについて学習する	4時間
第10回	**学外体験実習３日目大会中（試合運営会場実習）** 大会中のスタッフの仕事を体験する。 【主な内容】 ◆再入場口・会場入り口でのお客様誘導/対応 ◆座席案内 ◆来場者アンケートの促進	集客イベントについて学習する	4時間
第11回	**学外体験実習４日目準備（試合運営会場実習）**	集客イベントについて学習する	4時間

	大会の準備を体験する。 【主な内容】 ◆試合当日の設営・封入作業 ◆ファンクラブブースでの対応 ◆メディアへのスタッツ配布 ◆メディアへのスタッツ配布		
第12回	**学外体験実習４日目大会中（試合運営会場実習）** 大会中のスタッフの仕事を体験する。 【主な内容】 ◆再入場口・会場入り口でのお客様誘導/対応 ◆座席案内 ◆来場者アンケートの促進	集客イベントについて学習する	4時間
第13回	**グループワーク** グループ毎に、気づいたこと（課題発見）、提案（対策）をディスカッションする。	発表資料作成	4時間
第14回	**発表会** グループ毎に、気づいたこと（課題発見）、提案（対策）、学んだこと、活かしたいこと。 パワーポイントを使って発表する。	期末レポート作成	4時間

233

授業科目名	**トップスポーツビジネス論**				
担当教員名	岡田功・久保田剛				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	岡田：新聞記者として長年、国内外のスポーツビジネスの現場を取材した（12回分） 久保田：パナソニックスポーツ株式会社社長。Jリーグ大宮の元取締役の経験もあり、スポーツマーケティングの現場に詳しい（2回分）				

授業概要

米メジャーリーグの経営をベースに、他のプロスポーツリーグや社会人リーグとの比較を通しながら、トップスポーツのビジネスの仕組みと運営方法を学びます。毎回の授業で取り上げるトピックについて各自調べ、授業内で順次発表してもらいます。また、一部の授業ではトップスポーツの現場で働く人をゲストスピーカーに招き、講義していただきます。
本科目は基本的に講義形式で行いますが、Google Classroomや毎回の授業へのコメントシートを活用し、受講生の考えや疑問を共有・検討するアクティブラーニングを取り入れます。一部の授業はオンライン形式で行う場合もあります。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	プロスポーツビジネスの専門的知識を習得するとともに、研究課題の調査・分析を行います	専門的知識と職業理解を背景に、プロスポーツクラブの課題解決に向けての提案を行えるようにする
汎用的な力		
1. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		豊かな発想力によって、未知の課題にも創造的に取り組み、研究課題の計画を立案する力を身に付ける

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
研究発表の評価	30 %	： 専門性としてテーマや内容の妥当性、オリジナリティー、データ・先行研究の参照▼実践力として論理的構成、資料の活用、プレゼン技術、発表時間、質疑応答の内容▼忠恕として適切なコメント内容を評価する
期末試験	50 %	： 年間を通じてスポーツビジネスの講義内容を理解できていること。
授業への参加度	20 %	： 授業中に行うディスカッションへの参加度を独自の評価指標に基づいて評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
岡田功	・ メジャーリーグ　なぜ「儲かる」	・ 集英社新書	・ 2010　年

参考文献等

必要に応じ、授業内で指示します

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜3限

場所：　研究室

備考・注意事項：　研究室にはオフィスアワーに関わらずどうぞ

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス、スポーツリーグとその経営構造** 初めに講義概要について説明する。その後、成績次第で昇降格のある「欧州型」と、チームが固定された「アメリカ型」に大別されるスポーツリーグそれぞれの特徴や強み、弱みなどの理解を深める。さらにリーグによってそのビジネス構造に違いがあることを学ぶ	スポーツリーグについて、下調べをしておく	4時間
第2回	**チケット販売** 教科書で取り上げた米メジャーリーグのチケット販売戦略、チケットの再販制度と、自身が調べた他球団、他リーグ、または他のプロスポーツ競技のチケット販売戦略とを比較・分析、発表後、ディスカッションする。	チケット販売に関するニュースにアンテナを張り、授業での発表の準備をする。また、授業で取り上げるトピックに関連して、他チーム、他リーグのデータを調べ、メジャリーグの戦略と比較する	4時間
第3回	**ホスピタリティ** 教科書で取り上げた米メジャーリーグのスイートルーム販売戦略と、自身が調べた他球団、他リーグ、または他のプロスポーツ競技の同戦略とを比較・分析、発表後、ディスカッションする。	スイートルーム販売に関するニュースにアンテナを張り、授業での発表の準備をする。また、授業で取り上げるトピックに関連して、他チーム、他リーグのデータを調べ、メジャリーグの戦略と比較する	4時間
第4回	**スポンサーシップと命名権** 教科書で取り上げた米メジャーリーグのスポンサーシップ戦略と命名権戦略を、自身が調べた他球団、他リーグ、または他のプロスポーツ競技のスポンサーシップ戦略とを比較・分析、発表後、ディスカッションする。	スポンサーシップに関するニュースにアンテナを張り、授業での発表の準備をする。また、授業で取り上げるトピックに関連して、他チーム、他リーグのデータを調べ、メジャリーグの戦略と比較する	4時間
第5回	**飲食物販売** 教科書で取り上げた米メジャーリーグの球場内における飲食物販売と、自身が調べた他球団、他リーグ、または他のプロスポーツ競技の飲食物販売とを比較・分析、発表後、ディスカッションする。	スタジアム内での飲食物販売に関するニュースにアンテナを張り、授業での発表の準備をする。また、授業で取り上げるトピックに関連して、他チーム、他リーグのデータを調べ、メジャリーグの戦略と比較する	4時間
第6回	**グッズ販売** 教科書で取り上げた米メジャーリーグのロゴ入りグッズの販売戦略と、自身が調べた他球団、他リーグ、または他のプロスポーツ競技のグッズ販売戦略とを比較・分析、発表後、ディスカッションする。	グッズ販売に関するニュースにアンテナを張り、授業での発表の準備をする。また、授業で取り上げるトピックに関連して、他チーム、他リーグのデータを調べ、メジャリーグの戦略と比較する	4時間
第7回	**放映権** 教科書で取り上げた米メジャーリーグの放映権販売と、自身が調べた他球団、他リーグ、または他のプロスポーツ競技の放映権販売とを比較・分析、発表後、ディスカッションする。	放映権に関するニュースにアンテナを張り、授業での発表の準備をする。また、授業で取り上げるトピックに関連して、他チーム、他リーグのデータを調べ、メジャリーグの戦略と比較する	4時間
第8回	**選手年俸（FA制度、サラリーキャップ）** 教科書で取り上げた米メジャーリーグの選手年俸とフリーエージェント制度と、自身が調べた他球団、他リーグ、または他のプロスポーツ競技における同様の制度・選手年俸とを比較・分析、発表後、ディスカッションする。	選手年俸とフリーエージェント制度に関するニュースにアンテナを張り、授業での発表の準備をする。また、授業で取り上げるトピックに関連して、他チーム、他リーグのデータを調べ、メジャリーグの戦略と比較する	4時間
第9回	**社会人リーグの運営**	社会人リーグについて、あらかじめ調べておく	4時間

	社会人リーグの運営に携わる講師が、社会人トップリーグ運営の現場について解説する。		
第10回	**バレーボールのアジア戦略** バレーボールチームを運営する講師が2023年度から開始しているアジアでの親善交流試合やそれにまつわるビジネス展開について、将来展望を交えて解説する。	バレーボールのアジア戦略について、あらかじめ調べておく	4時間
第11回	**ネット事業** 教科書で取り上げた米メジャーリーグのネット事業と、自身が調べた他球団、他リーグ、または他のプロスポーツ競技のネット事業とを比較・分析、発表後、ディスカッションする。	プロクラブのネット事業に関するニュースにアンテナを張り、授業での発表の準備をする。また、授業で取り上げるトピックに関連して、他チーム、他リーグのデータを調べ、メジャーリーグの戦略と比較する	4時間
第12回	**海外事業** 教科書で取り上げたワールド・ベースボール・クラシック（ＷＢＣ）を含めた米メジャーリーグの海外事業戦略と、自身が調べた他球団、他リーグ、または他のプロスポーツ競技の海外事業戦略とを比較・分析、発表後、ディスカッションする。	プロクラブの海外事業に関するニュースにアンテナを張り、授業での発表の準備をする。また、授業で取り上げるトピックに関連して、他チーム、他リーグのデータを調べ、メジャーリーグの戦略と比較する	4時間
第13回	**スター選手の獲得と商業化** 教科書で取り上げたMLB球団による日本人スター選手獲得後の商業化の実例と、自身が調べた他球団、他リーグ、または他のプロスポーツ競技の海外事業戦略とを比較・分析、発表後、ディスカッションする。	プロクラブによる外国人スター選手の獲得による商業化の実例を探す	4時間
第14回	**スタジアム建設** 教科書で取り上げた米メジャーリーグの相次ぐ新球場建設の実態と、自身が調べた他球団、他リーグ、または他のプロスポーツ競技の同種のトピックとを比較・分析、発表後、ディスカッションする。	新スタジアム建設に関するニュースにアンテナを張り、授業での発表の準備をする。また、授業で取り上げるトピックに関連して、他チーム、他リーグのデータを調べ、メジャーリーグの戦略と比較する	4時間

233

授業科目名	スポーツファイナンス応用				
担当教員名	菅文彦				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

スポーツファイナンス応用では、入門で基礎を習得しているという前提で、①現実社会で発生しているスポーツ産業での資金調達・投資・ビジネス活動のそれぞれの内容を見ながら、②スポーツ産業で現在進行している問題や課題を理解しする。さらに、③スポーツの現場で発生しているケースを各自あるいはグループワークで問題を深く考えてもらう。
課題として考察検討してもらった内容は、発表と討論の場を設け、社会にでても活用できるレベルの高いコミュニケーション力を養う。
本科目は「応用」と名にあるとおり高い学修レベルが求められるため、「スポーツファイナンス入門」を意欲的に受講して優秀な成績を収めた者の受講を推奨する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	多様なスポーツビジネスでのファイナンスの実践への応用。	ケーススタディーによる課題解決。

汎用的な力	
1. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案	ファイナンス面から組織事業体の課題を解決する方策を立案する能力を養う。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業での課題提出	60 %	： 講義内容に関係した具体的問題から、ポイントを把握してその解決が導けること。講義の内容をベースとして、個人の考えを適切に記述できていること。
期末レポート	40 %	： 最終課題テーマで、課題を理解して適切に文書化できること。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

講義によって分野を深めたい学生には参考文献の紹介をする。
深めたいテーマに関しては、各自読了すること。

履修上の注意・備考・メッセージ

スポーツファイナンス応用は、「スポーツファイナンス入門」の習得を前提として、内容を一層深めるための講義となる。「入門」で修得した延長での内容

となっている。
履修にあたっては簿記・会計などが履修済みであれば内容理解の助けとなり好ましい。
本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を講義のスライドを見ながら復習すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜2限

場所： 研究室（西館３階）

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス＋スポーツファイナンス応用の領域** スポーツファイナンス応用の領域と学修の意義をガイダンスで紹介する。 スポーツで話題となった事象を取り上げ、スポーツビジネスと「ファイナンス」の重要性を理解する。	最近のトピックからスポーツファイナンスの領域を考える。	4時間
第2回	**スポーツ組織でのファイナンス思考での課題解決** ファイナンスにおける数字による定量分析の意義を理解する。 スポーツビジネスにおける課題解決においてファイナンス思考での問題解決を行うことの実例から重要性を学ぶ。	課題解決での数量的問題把握と、課題解決ツールとしての活用を学ぶ	4時間
第3回	**スポーツビジネスのファイナンスアプローチ** 「資金供給側からのスポーツビジネス」についての講義から、スポーツビジネスについて受講者で考える。 翌週のグループ討議に向けて、課題に取り組む。	スポーツビジネスを銀行から見るとどのようになるかを課題を通じて復習する	4時間
第4回	**グループワーク（スポーツビジネスのファイナンスアプローチ）** スポーツビジネスの形態について学び、スポーツビジネスでの資金の動きを理解する。 前回の授業を受けて課題についてグループワークで理解を深める。	スポーツビジネスで多面的にファイナンス的アプローチを行う。	4時間
第5回	**スポーツのグローバルブランドと企業財務** スポーツブランドの財務内容を実際に分析する。財務諸表を理解し、成長の要素や業績改善方法についても学ぶ。 グローバルブランドの財務諸表の入手方法を伝えるので、実際に入手してその内容を分析する。 各ブランドの企業内容から、その企業特性も考察する。	講義内容を参考に、ブランドの価値についてそれぞれ考える	4時間
第6回	**プロリーグの選手契約に関わるファイナンス** スポーツファイナンスの領域の中でプロ・アスリートに支払われる報酬についての内容は一般的に年俸金額などでの話題に終始する。 プロ選手のチームとの契約に際しては、エージェントを使うことが一般的になっており、その具体的内容をエージェントを行っている企業より説明を受け、質疑応答を通じて理解を深める。	プロ契約の具体的なやり方を学び、興味あるエリアのプロ選手の報酬実態も調べてみる。	4時間
第7回	**スポーツ施設ファイナンス** スポーツ施設に関わるファイナンスでは、建築計画・運営収支など投資金額が莫大なために、一般的な企業の事業運営以上の事前の分析が重要である。 実践的にどのように行われているかを学び、コストセンターからプロフィットセンターへの施設の改革の現実を理解する。	次週のグループワークの準備として出された課題を完了する。	4時間
第8回	**スポーツ施設ファイナンス（グループワーク）** 現代のスポーツ施設に求められる要素の理解の上に、グループワークでその内容を深める討議を実施してもらう。各グループで、モデルケースを設定して、収益計画を立てて、発表を行う。	スポーツ施設の投資計画・運営計画などの現実性を振り返る。	4時間
第9回	**スタジアム建設運営** スタジアムの成り立ちを学修する。スタジアム建設運営をファイナンスの観点から理解し、レポートを作成する。	次週の講義に向けての予備知識を復習する。	4時間
第10回	**スタジアム建設運営の実践** 具体的なスタジアム建設における資金調達と運営収支の事例分析を行う。	施設への投資と運営の収支を理解し、翌週のグループワークに備える。	4時間
第11回	**スポーツ施設の建設運営のグループワーク** スポーツ施設の建設と運営に関してのグループワークとレポート作成を行う。結果をまとめて、報告もしくは発表を行う予定である。	スタジアムのファイナンスに関してのポイントを理解し、吹田以外のスタジアムも考察してみる。	4時間
第12回	**Bリーグ経営における経営分析実践（ファイナンス分析）** 日本におけるスポーツ行政が今後どうなっていくかを、スポーツ庁の誕生から存在意義を理解することで学んでいく。 スポーツ行政で目標としていることは何かを理解する。 スポーツイベントなどの経済波及効果についてどのような計算をしているのかも理解する。	政府の政策が自らの将来の仕事にどう影響するかを考える	4時間
第13回	**Bリーグ経営における経営実践**	次週に向けてのグループワークの課題を考える	4時間

	プロスポーツクラブの経営について実際の経営者から話を聞き、チーム経営の実態を学ぶ。 日本においてプロスポーツクラブ経営は容易ではないが、成長へのチャレンジの具体的な内容を知る。		
第14回	**Bリーグ経営に関するグループワーク** プロチーム運営の学びの中から、グループ毎にテーマを決めて議論をし、報告もしくは発表を実施する。 学期最後のレポート課題を提示する。	グループワークからレポートもしくは発表を実施予定	4時間

233

授業科目名	スポーツイベントマネジメント論				
担当教員名	田村匡				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	スポーツイベントの企画・実施、スポーツ施設の設計施工・運営実施。（全１４回）				

授業概要

本講義では、まずは「イベント」自体の目的、構造、構成、種類等について理解する。また大規模スポーツイベント（オリンピック、ワールドマスターズゲームズ、大阪マラソン等）について、その歴史、分類、構造、組織等の知識を身につける。現実のスポーツイベントを実例として、スポーツイベントにとって重要な6W2Hについて自分で考えて分析する。
さらにはスポーツイベントへの理解を通じて、具体的にスポーツイベントを企画・計画する手法等について学ぶ。
またイベントに関係する資格として「イベント検定」「スポーツイベント検定」「イベント業務管理士」について紹介する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	スポーツイベントを通じてスポーツ自体の課題や地域の課題を発見する	スポーツイベントの構造や地域活性化の関係について理解できる
汎用的な力		
1. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		スポーツイベント等を企画・計画できる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
小論文	40 %	： 授業の内容を理解しているか。また自分で考えて論理的に説明できているか。
中間論文	30 %	： 授業の内容を理解しているか。
期末試験	30 %	： 授業の内容を理解しているか。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

一般社団法人日本イベント産業振興協会「スポーツイベント検定公式テキスト　スポーツイベントの企画・運営に携わる人のための教科書」（2021年4月、ISBN978-4-901173-37-7）
日本イベント産業振興協会「イベント業務管理士公式テキスト」（2019年4月、ISBN978-4-901173-36-0）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日2限

場所： 個人研究室

備考・注意事項： メールにて質問してください。オフィスにこられる場合、予約ください。tamura-t@osaka-seikei.ac.jp。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**スポーツイベント・マネージメントを学ぶ意義** スポーツイベントのマネジメントについて、それらを学ぶ意義や授業の進め方等について説明する。今年度についてはスポーツ施設についても学習するがそれらを学ぶ意義について考える。	ネットや新聞・参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第2回	**イベントとは** まずはスポーツイベントの上位概念である「イベント」について学ぶ。イベントの基本構造（６Ｗ２Ｈ）等について解説する。また順次ワールドカップ、オリンピック・パラリンピック、ワールドマスターズゲームズ等について説明していく。	ネットや新聞・参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第3回	**スポーツイベント概論** スポーツイベントについての概論。スポーツイベントの分類、特性などの重要ポイント等について概観する。	ネットや新聞・参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第4回	**スポーツイベントの歴史** オリンピックや世界陸上、ワールドカップラグビー、ＦＩＦＡワールドカップ等の具体的な事例をもとに、スポーツイベントの歴史について学ぶ。	ネットや新聞・参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第5回	**スポーツイベントの構造** スポーツイベントの構造、組立て方、マネジメント手法等について学習。大阪マラソン等を題材として具体的に考える。６Ｗ２Ｈに基づき、実際にはそれらがどのような内容となるのかについて検討する。	ネットや新聞・参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第6回	**スポーツイベントの組織、実施、リスクマネジメントなど** スポーツイベントの組織について、大阪マラソン組織委員会等を参考としながら学習する。また実施の際の問題・課題や、リスクへの対処方法等について学習する。	ネットや新聞・参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第7回	**中間まとめ** これまでの授業の理解を確実にするため、これまでの授業を振り返って復習をする。	これまでの学習内容を復習する	4時間
第8回	**ワールドマスターズゲームズ関西大会** 2027年に予定されているワールドマスターズゲームズ関西大会について、大会内容、組織等について学習。	ネットや新聞・参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第9回	**スポーツイベントの招致・誘致** スポーツイベントを招致する、誘致するとはどういうことか。ワールドマスターズゲームズ等の招致活動を例に、実際にはどのようなことが行われたのか概括する。	ネットや新聞・参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第10回	**スポーツイベントとスポーツ施設** スポーツイベントに不可欠なスポーツ施設について学んでいく。特に、スポーツイベントを実施する立場から、スタジアム建設についてはどのようなことを考える必要があるのか等の課題について理解する。	ネットや新聞・参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第11回	**地域活性化の理論と実践** 地域活性化の理論について、主に経済学的な見地から学ぶ。特に、経済波及効果や地域に残される金銭について、まずはその理論を概観し、次に具体的な事例を踏まえた実践方法等を学ぶ。	ネットや新聞・参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第12回	**スポーツと地域活性化（様々な事例）** スポーツチームによる地域活性化や、スポーツツーリズムによる地域活性化など、スポーツを活用した地域活性化の事例を学ぶ。具体的な事例をもとに理解を進め、スポーツによる地域活性化の体系を把握する。	ネットや新聞・参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第13回	**スポーツと地域活性化（スポーツコミッション）** スポーツを活用して地域を活性化する組織として、スポーツコミッションがある。アメリカや日本のスポーツコミッションの現状等について、スポーツコミッション関西の実例等をもとに学ぶ。	ネットや新聞・参考書等にて関係事項をチェックする	4時間
第14回	**総まとめ**	授業全体を振り返り、復習する	4時間

スポーツイベント・マネジメントについてのこれまでの授業を全て振り返り、重要な点等をもう一度復習する。		

233

授業科目名	地域スポーツ経営論				
担当教員名	坂中勇亮				
学年・コース等	3・4年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	体育協会の職員として地域スポーツ行政に従事（全14回）				

授業概要

本授業では、地域住民が実践するスポーツや運動活動を「地域スポーツ」と位置付け、小学生を対象としたスポーツ少年団や民間スポーツスクール、中高生の部活動、プロスポーツチームの活動、地域住民によるスポーツ愛好活動など、多様な取り組みを対象とする。地域スポーツは自治体の支援を基盤として活動が成立していることを踏まえ、各種活動のマネジメントや仕組み、行政による支援の役割について理解を深める。
受講生は、地元地域における地域スポーツの現状を分析し、その振興策を立案・作成する実践的な学習に取り組む。これにより、地域スポーツの発展に貢献するための視点や具体的な提案を行う力を養うことを目的とする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	地域スポーツ組織(クラブや競技団体など)のマネジメントの仕組みの概要と課題を理解する。	様々な地域スポーツ組織の事業報告・計画や収支計画を読み解き、経営状況を判断することができる。
汎用的な力		
1. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		地域スポーツ組織の経営関連データの収集・分析に基づいて、事業計画の立案ができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
振り返りレポート	60 %	： 12回×5点（内容点） ルーブリックに基づいて評価
毎回の授業への関わりの様子	20 %	： 授業での積極的な態度、グループワーク等での協調性等を評価する。
試験（レポート）	20 %	： 14回目以降提出。講義の内容を理解して文章にまとめることができているかルーブリックに基づいて評価

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

井上俊・菊幸一編著「よくわかるスポーツ文化論【改訂版】」ミネルヴァ書房（ISBN 9784623088393）
日本体育スポーツ経営学会「テキスト 総合型地域スポーツクラブ」（大修館書店,2004,ISBN4-469-26548-9）
谷塚 哲「地域スポーツクラブのマネジメント ――クラブ設立から運営マニュアルまで――（カンゼン,2008,ISBN 978-4-86255-022-4）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜3限

場所： 研究室（西館2階・18室）

備考・注意事項： 質問などいつでも歓迎します。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**スポーツの定義と地域スポーツ活動** 「スポーツ」および「地域スポーツ活動」について学習する。まず、現代社会における「スポーツ」の定義やその解釈について説明する。次に、グループワークを通じて具体的な活動を分類し、「地域スポーツ活動」の類型化を行い理解を深める。	地元の地域で行われているスポーツ活動を調べる	4時間
第2回	**スポーツの価値とスポーツ基本法** 「スポーツの価値」と「スポーツ基本法」について学習する。まず、スポーツが持つ多面的な価値について議論し理解を深める。次に、「スポーツ基本法」の内容について詳しく学び、同法が目指すスポーツ振興の目的や理念、スポーツの持つ価値がどのように規定されているかを説明する。	スポーツ基本法に目を通して内容を確認する	4時間
第3回	**スポーツ基本計画と地域スポーツ活動** 「スポーツ基本計画」における地域スポーツ活動について学習する。まず、「スポーツ基本計画」の概要や目的を理解し、その内容を詳しく説明する。次に、計画における地域スポーツ活動の位置づけや役割について紹介する。その後、受講生各自が地元自治体のスポーツ計画を調べ、地域スポーツの現状や課題を把握することで、「スポーツ基本計画」との関係性を具体的に学び、理解を深める。	地元自治体のスポーツに関連する計画を調べて内容を整理する	4時間
第4回	**クラブと住民のスポーツライフ** スポーツクラブと住民のスポーツライフについて学習する。まず、様々な形態のスポーツクラブを紹介し、その類型化を通じてクラブの特徴や役割について理解を深める。次に、スポーツクラブが利用者に与える価値について検討する。さらに、民間フィットネスクラブの最新動向やトレンドを紹介し、現代社会におけるスポーツクラブの役割について理解を深める。	地元の民間フィットネスクラブのプログラム内容を調べる	4時間
第5回	**地域スポーツ活動の実際①～地域が抱える課題の発見～** 地域スポーツ活動を実践する際の課題について学習する。まず、大学周辺（相川地域）を散策し、住民がスポーツ活動を行う際に直面する課題を調査・発見する。その後、グループ活動を通じて、発見した課題を性別や年代ごとに整理し、住民が抱える具体的な問題点や障壁を明らかにする。これにより、地域特有の課題を把握し、地域スポーツ活動の促進に向けた解決策を考えるための基礎的な知見を得ることを目指す。	相川地域でスポーツ活動を実施する際の課題を整理する	4時間
第6回	**地域スポーツ活動の実際②～地域課題の解決策の検討～** 地域スポーツ活動を実践する際の課題解決策について学習する。グループ活動を通じて、前回の講義で明らかにした相川地域特有の課題をふまえ、地域スポーツ活動を促進するための具体的な方策を検討する。これにより、地域のニーズに即したスポーツ活動のあり方や、その実践に必要な支援策について理解を深める。	相川地域のスポーツ活動が抱える課題の解決策を考える	4時間
第7回	**総合型地域スポーツクラブ①～活動の特色と運営の課題～** 総合型地域スポーツクラブについて学習する。まず、クラブの特色や全国での育成状況を紹介し、その基本的な仕組みや目的について理解する。次に、全国のクラブからいくつか事例を取り上げ、クラブ運営の実情や直面している課題について具体的に説明する。クラブが地域住民に果たす役割や持続的な運営のために必要な要素について説明し、クラブの意義と現状への理解を深める。	地元で活動する総合型地域スポーツクラブについて調べる	4時間
第8回	**総合型地域スポーツクラブ②～クラブ経営の実例～** 総合型地域スポーツクラブについて学習するため、クラブを運営するクラブマネージャーを外部講師として招き、実際のクラブ経営の実態や直面する課題について説明してもらう。講師の経験を通じて、クラブ運営の現場で必要な知識やスキル、地域との関わり方について具体的に学び、クラブ経営への理解を深める。	実際のクラブ経営で直面する課題について整理する。	4時間
第9回	**スポーツによる地域活性化と施設の利活用**	スポーツによる地域活性化の実例を調べてみる	4時間

	スポーツによる地域活性化と施設活用について学習する。まず、グループ活動を通じて「スポーツによる地域活性化」の概念を検討する。次に、実際の地域で行われたスポーツを活用した活性化の事例を紹介し、その成功要因や課題を説明する。最後に、スポーツ施設の活性化について、全国の事例を交えながら、施設の有効活用方法を説明し、理解を深める。		
第10回	**プロスポーツと地域活性化** プロスポーツによる地域活性化について学習する。まずグループ活動を通じて事例を整理する。その後、プロスポーツが地域にもたらす効果について、経済的・社会的・心理的な観点から説明する。これらを踏まえ、地域におけるプロスポーツの意義についても理解する。	プロスポーツチームの地域活動の事例を調べる	4時間
第11回	**スポーツイベントの利活用** スポーツイベントによる地域活性化について学習する。まずスポーツイベントを類型化し、各カテゴリーの特色を整理する。次に、スポーツイベントを活性化させる役割を担う組織である「スポーツコミッション」について説明する。これらの学びを通じて、スポーツイベントと地域活性化の関係について理解を深める。	参加型スポーツイベントの事例について調べる	4時間
第12回	**地域の自然環境・都市環境を利活用したスポーツ** 地域の自然環境や都市環境を活用したスポーツについて学習する。まず、アウトドアスポーツを活用したスポーツツーリズムや、まちなかスペースを利用したアーバンスポーツの全国的な事例を説明する。その後、受講生の地元で実施されているこれらのスポーツ活動を調べ、具体的な取り組みを理解する。	地元で実施されている自然環境や都市環境を活用したスポーツイベントを調べる	4時間
第13回	**スポーツ推進計画の立案①～地元のスポーツ資源の把握～** 第1回から第12回までの授業内容を踏まえ、受講生の地元における「スポーツ推進計画」を作成する。まず、地元の地域の特色や課題を把握し現状を分析する。次に、スポーツ推進に活用できる地域特有のスポーツ資源を整理し、それらをどのように活用するかを検討する。 これらのプロセスを通じて、地域に適した具体的な施策を立案し、スポーツ推進への理解を深める。	地元の地域においてスポーツ推進に活用できる資源を整理する	4時間
第14回	**スポーツ推進計画の立案②～具体的な施策の作成～** 第1回から第12回までの授業内容を踏まえ、受講生の地元における「スポーツ推進計画」を作成する。前回の講義で把握した地域の現状や課題を分析した上で、スポーツ推進のための具体的な施策を検討する。施設整備やイベント開催、地域住民への啓発活動、協働体制の構築など、地域の特性に合った施策を立案することで地域スポーツに対する理解を深める。	地元の地域におけるスポーツ推進のための具体的な施策を検討する	4時間

233

授業科目名	スポーツツーリズム論				
担当教員名	青野桃子				
学年・コース等	3・4年	開講期間	前期	単位数	2単位
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

この授業では、スポーツツーリズムを多面的に考察します。
日本は成長戦略として観光立国を目指しており、地域社会の維持の一策として、スポーツによる交流人口や関係人口の増加の必要性も指摘されています。スポーツは「みる」（スポーツ観戦など）、「する」（スポーツ実施、スポーツイベント参加など）、「支える」（スポーツボランティアなど）、いずれの側面でも、ツーリズムとの親和性が高くなっています。
この授業を通して、今後の日本の産業発展について考察できる力を身につけることを目指します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	スポーツをツーリズムの観点で理解し、実際の現象を考察できる。	スポーツツーリズムの基本的な考え方を踏まえて、関連ビジネスがどのように行われているか説明できる。
汎用的な力		
1. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		スポーツツーリズムの知識を活用し都市・地域に対する貢献策を企画できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
ミニレポート	40 %	： 毎回の授業終了時に振り返りレポートを提出してもらいます。
グループワーク・発表	40 %	： 第10-13回はチーム制をとり、学生の共同学習をおこないます。内容、貢献度、積極性などの観点から、チーム・個人評価をおこないます。
期末レポート	20 %	： 授業内容の理解度を評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

日本スポーツツーリズム推進機構編『スポーツツーリズム・ハンドブック』学芸出版社、2015年
ジェームス・ハイアム、トム・ヒンチ著、伊藤央二、山口志郎訳『スポーツツーリズム入門』晃洋書房、2020年
日本スポーツツーリズム推進機構編『実践　スポーツツーリズム　組織運営・事業開発・人材育成』学芸出版社、2022年

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて各自で調べミニレポート執筆に生かしてください。また、後半は授業外学習課題に取り組むためにチーム制を取り共同学習をおこないます。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 金曜3限

場所： 西館4階　研究室

備考・注意事項： 授業前後の時間にも質問を受け付けます。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス・スポーツツーリズムとは** ・講師紹介をおこなう。 ・今後の授業の進め方を確認し、スポーツツーリズムのイメージを共有する。	授業内で紹介した言葉について、わからないものは自分で調べる。	4時間
第2回	**スポーツ×ツーリズムの背景と変遷** ・スポーツの３つの側面「する」「みる」「支える」を確認する。 ・日本の観光立国戦略について解説する。	スポーツとツーリズムの共通点について考え、調べる。	4時間
第3回	**スポーツを「みる」ツーリズム①：メガイベント** ・メガイベント（オリンピック、ワールドカップ）の観戦ツアーについて解説する。	興味のあるスポーツイベントの具体的なツアーを調べる。	4時間
第4回	**スポーツを「みる」ツーリズム②：プロスポーツチーム** ・プロスポーツチームのスポーツツーリズム戦略を解説する。	興味のあるプロスポーツチームのツーリズム戦略を調べる。	4時間
第5回	**スポーツを「する」ツーリズム①：シーズンスポーツ** ・スキー、スノボなどのシーズンスポーツ、合宿の誘致などの事例を解説する。	出身地や身近な地域でおこなわれているスポーツの様子を調べる。	4時間
第6回	**スポーツを「する」ツーリズム②：スポーツイベント** ・マラソン、サイクリング、トライアスロンなどの大会がツーリズムと結びつく様子を解説する。	大規模大会と地域の関係に注目して調べる。	4時間
第7回	**スポーツを「支える」ツーリズム①：スポーツボランティア** ・マラソン大会などのボランティアの役割、意義について考える。	ボランティアの募集状況と条件について調べる。	4時間
第8回	**スポーツを「支える」ツーリズム②：キャンプ・遠征** ・キャンプ、遠征、移動に関する産業について学ぶ。	興味のあるスポーツの移動、遠征にかかわる産業を調べる。	4時間
第9回	**プレゼンテーションに向けて①：企画会議** ・第11-13回におこなうプレゼンテーションに向けて、興味関心に合わせてチーム分けをおこなう。 ・今後の進め方について、各チームで企画会議をおこなう。	チームで分担、進め方を検討する（企画会議）	4時間
第10回	**プレゼンテーションに向けて②：調査・資料作成** ・プレゼンテーションのための調査、準備、発表資料の制作をおこなう。	チームで進捗を確認し、発表資料作成をすすめる（発表準備）	4時間
第11回	**スポーツイベントをツーリズムから考える①経済的効果** ・スポーツツーリズムの経済的効果に注目したプレゼンテーションとディスカッションをおこなう。	チームでの作業・復習（発表準備）	4時間
第12回	**スポーツイベントをツーリズムから考える②社会的効果** ・スポーツツーリズムの社会的効果に注目したプレゼンテーションとディスカッションをおこなう。	チームでの作業・復習（発表準備）	4時間
第13回	**スポーツイベントをツーリズムから考える③都市戦略・地方戦略** ・スポーツツーリズムの都市戦略・地方戦略に注目したプレゼンテーションとディスカッションをおこなう。	チームでの作業・復習（発表準備）	4時間
第14回	**プレゼンテーションのまとめと振り返り** ・各チームのプレゼンテーションに対するフィードバック、講評、総合ディスカッションをおこなう。	チームでの作業・復習	4時間

233

授業科目名	スポーツ用具論				
担当教員名	林悠太				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

この科目ではスポーツ用具　について、実際の製品を例として多面的に学び、以下の学修成果達成を目標とする。
①スポーツ用具の進化の歴史、及びスポーツ用具の生産・流通・販売の仕組みと特性を把握する。
②各種スポーツ用具の製造方法の変遷や特徴、効用を理解する。
③スポーツ用具を企画・設計するうえで必要とされる基礎的な知識を身につける。
④スポーツ産業構造やライフスタイルの変化に応じて求められるスポーツ用具を構想する能力を養う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	スポーツ用具には、どのような機能があり、どのようにつくられているのか理解する	スポーツ用具の機能と役割を理解する

汎用的な力	
1. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案	現状のスポーツ用具の問題点を発見する。
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案	最適な用具を選ぶ能力を養う。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
毎回の課題レポート	50 %	： 授業で学んだことを理解し、分かりやすく論述できているかどうかを評価します。
期末レポート	50 %	： スポーツ用具を選択する知識、及び企画する知識を正しく理解しているかを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

必要に応じて紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日 ２限

場所： 研究室（西館3F）

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**スポーツの歴史と用具の進化①：オリンピック・ハイパフォーマンス競技** オリンピックの歴史をたどりながら、時代ごとのスポーツ用具の特徴と進化について学びます。	スポーツの歴史に関する文献を通読する。	4時間
第2回	**スポーツの歴史と用具の進化②：パラリンピック・Sports for All** パラリンピックの歴史や生涯スポーツのあり方の変遷をたどりながら、時代ごとのスポーツ用具の特徴と進化について学びます。	スポーツの歴史やスポーツ政策に関する文献を通読する。	4時間
第3回	**スポーツ用具の生産・流通・販売とサステナビリティ** スポーツ用具の生産・流通・販売過程の基本を理解し、用具に用いられている原材料の調達から廃棄プロセスについて学びます。	スポーツ用具の生産や流通に関する文献を通読する。	4時間
第4回	**実地スタディ：スポーツショップ調査** 市中のスポーツ販売店を訪問して、スポーツ用具の種類や価格、販売・陳列方法を概観して、リサーチ・クエスションを立てることを試みます。	スポーツ用品販売店に関する基本情報を予習する。	4時間
第5回	**スポーツ用具とパフォーマンス** 用具の素材、設計、技術が競技者のパフォーマンスに与える影響の実例調査を試みます。	スポーツ用具進化や素材が競技者のパフォーマンスに影響を与えてきたのか、歴史的な背景を踏まえて予習する。	4時間
第6回	**スポーツ用具と安全性** 用具の安全基準、事故防止の観点からの改良例と、その社会的影響の検討します。	スポーツ用具の安全基準や規格について予習する。	4時間
第7回	**スポーツ用具のマーケティング①** ブランド戦略、ターゲティング手法、プロモーション活動に関して学びます。	有名スポーツブランドメーカーについてどのようなマーケティング戦略を掲げているのか予習する。	4時間
第8回	**スポーツ用具のマーケティング②** デジタルマーケティングやソーシャルメディアの活用事例、キャンペーン成功の要因の分析を試みます。	デジタルマーケティングやソーシャルメディアを活用したマーケティング戦略について予習する。	4時間
第9回	**スポーツ用具とサステナビリティ** サステナブル素材の採用、環境配慮型製造プロセス、および社会的責任との関連について学びます。	スポーツ用具の開発における廃棄プロセスやSDGsの取り組みについて予習する。	4時間
第10回	**スポーツイベントとスポーツ用具** メジャースポーツイベントにおけるスポーツ用具の役割、スポンサーシップの影響を検討します。	W杯やオリンピックといったメジャースポーツイベントとスポーツ用具の関連について予習する。	4時間
第11回	**リサーチ・クエスションレポート作成** 4回目授業（スポーツ用品店訪問）で自身が立てた問いに対する結果・考察をまとめる。	必要に応じてスポーツ用品店を再訪して情報収集を行う。	4時間
第12回	**企画構想グループワーク①　市場動向・ニーズ分析** 5～10回目講義で登場した競技種目・カテゴリー別に少人数グループに分かれる。 その種目・カテゴリーの今後の市場動向やニーズの変化を分析する。	5～10回目講義の内容の復習・振り返りを行う。	4時間
第13回	**企画構想グループワーク② 企画書作成** 各グループで新たな用具の企画書を作成してする。	企画書作成の基本プロセスを再確認する。	4時間
第14回	**発表** 各グループで企画内容を発表する。	プレセンテーション技法の再確認をする。	4時間

233

授業科目名	スポーツ流通論				
担当教員名	菅文彦				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

スポーツ流通論では、
①スポーツ品の生産から、どのようにユーザーの手に渡っているのかという構造を学び、②地球規模での生産・販売・消費の中の様々な社会問題・企業課題についても考察し、③日々の社会・国際問題にも注目することで、流通を取り巻く様々な課題にも目を向ける。
スポーツ流通論の対象は、スポーツ商品にとどまらず、スポーツのサービスも含めて学ぶ。流通・サービスは社会や科学の発展とともに日々変化している。
知識習得のみにとどまらず、時代の進歩を認識して考察できる力を育成することが本科目の目的である。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	スポーツ流通の具体的事例を自身で考える課題を実施。	流通の業務を実践できるように、流通の問題に自身で取り組むことができる。
汎用的な力		
1. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		現実社会で日々発生しているスポーツ流通課題に対し、自己の見解を持ち、企画立案を形成することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内容からの小テスト・課題レポート	60 %	： 授業の内容やゲストスピーカーの講義を理解し、個人の考えを記述できること
期末レポートもしくは試験	40 %	： スポーツ流通論の授業の内容から自ら問題意識を持ちテーマを選んで個人での分析と結論が述べられること

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

テーマによって参考文献の紹介をすることがある。

履修上の注意・備考・メッセージ

こちらの科目の履修前に、学部共通の「流通論」を単位取得し内容を理解しておくこと。
専門科目の応用内容となるため、グループでの自主的学びや発表なども含まれる。

現場で実際に働いておられるゲストスピーカーからの講義もいただき、その内容からのレポートやグループワークにより、自ら課題を探求する授業とする。
本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜2限

場所： 研究室（西館３階）

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス～スポーツ商品流通の概要** 商品の生産を出発点として、どのように自分の手にスポーツ品が到達するのかという「流通」の基礎と概観を把握する。	スポーツ流通における生産から消費までの概要を復習する。	4時間
第2回	**スポーツ品の流通戦略（商品製造・販売戦略）** スポーツ品独自の流通戦略の特色を学ぶ。 商品製造は現状アジア圏に集中しており、消費は欧米等先進国に広がっている。 メーカー・ブランド各社の流通実態を理解する。	スポーツ品の流通戦略の特色を復習する。	4時間
第3回	**スポーツ品固有のマーケティングとプロモーション** スポーツ品であるが故のマーケティングの特色がある。 スポーツ品の流通と「マーケティング」「プロモーション」は切り離せない。 固有の活動やその背景を理解する。	製品やスポーツブランドの価値向上にマーケティングとプロモーションが重要な事例を考える。	4時間
第4回	**販売チャネルとその特性** スポーツの流通の最終消費者への接点にはいくつかのチャネルがある。 それぞれのチャネルの違いを把握する。歴史的経緯と現状の姿を理解する。	消費者としてどのようなチャネルにニーズがあるかを復習で考えてみる	4時間
第5回	**専門店チャネルの現場を学ぶ** 専門店の方をゲストスピーカーにお呼びして、その内容を学ぶ。 そのチャネルが、消費者にとってどのように位置づけられているのか、今後の課題についても考えてもらう。	ゲストスピーカーからの学びをまとめる。	4時間
第6回	**量販店チャネルの現場を学ぶ** 量販店の販売についてゲストスピーカーをお呼びして、その内容を学ぶ。 日本市場での成長の経緯を学び、現在直面する問題を考える。	量販店の特色を理解し、今後の課題についても検討する。	4時間
第7回	**スポーツ品販売の全体像** いくつかの典型的なチャネルの現場から学んだことから、日本におけるスポーツ品流通の将来像を考える。 消費者にとって、多様な流通チャネルの存在意義は大きい。今後ECの拡大に対し既存チャネルがどのように取り組むかなどの課題も考える。 将来にわたりチャネルとして存在意義を維持し、成長するための方策を議論する。	チャネルの多様性を理解し、それぞれの特徴を理解して準備をする。	4時間
第8回	**グローバルロジスティックス** グローバル商品調達を実施している企業も多い。 どのようにグローバル視点で商品調達をして、グローバルに供給をしていくのかを学ぶ。 また、社会的に議論がされてきている、持続可能な調達についても理解する。	スポーツ品の特性からどのように生産・流通が行われているかを学び、そこから派生した問題の事例を見る。	4時間
第9回	**スポーツイベントでの商品流通** スポーツイベントで物販は大変重要である。 イベント物販において、商品がどのように企画・調達・販売されている実態を学ぶ。	スポーツイベントでの物販の現実を理解する。	4時間
第10回	**スポーツイベントの流通を考える** 前週の講義を受けて、イベントでの販売について、グループで考えてみる。 近年ではプロチームの物販に加え、地方創生イベントなどでも物販は重要になっている。 イベントでの販売の重要性について、議論・レポート提出を行う。	スポーツイベントでの物販の具体例を調査する。	4時間
第11回	**スポーツサービス業の流通を学ぶ** スポーツサービスに係るゲストスピーカーをお呼びして、その内容を学ぶ。 どのようにして日本市場で拡大をしてきたのかを理解する。	スポーツのサービスは商品から形を変えて拡大する潜在市場のため、商品市場がどのように代替されるかを考える。	4時間
第12回	**スポーツサービス産業の市場を考える** スポーツはサービスも市場として非常に重要である。サービスの市場も規模は大きい。 スポーツのサービスに関しての流通をとらえて、どのような市場がなぜ発展しているのかを理解する。	前回の講義からサービスの発展可能性についてグループで議論する。	4時間

第13回	**スポーツサービスのグローバル展開** スポーツのソフトウエアをグローバル展開させるようなビジネスが拡大している。 ゲストスピーカーをお呼びして、そのような取り組みの話を聞き、将来的な新たなビジネス拡大になりうるかを考える。	スポーツサービスのグローバル展開の一般化が図れるかを考察する。	4時間
第14回	**スポーツサービスのグローバル展開、課題と発表** スポーツサービスをグローバル展開することに関し、日本にその可能性があるかをグループワークで検討し、発表を実施する。 期末課題を提示して、最終レポートを提出してもらう。	グローバル展開の将来可能性について考える	4時間

233

授業科目名	ウェルネスサービスビジネス論				
担当教員名	青野桃子				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

ウエルネスとは何か、健康だけに留まらず、幸福感、生きがい、人間の成長など基礎的な知識や、スポーツとウエルネスとビジネスの関係を総合的に学びます。また、スポーツがどのようにウエルネスと関係しているのか。生産性の向上など健康であることが、どのようにビジネスにに影響するのか。ウエルネスビジネス市場の動向や、具体的に心身をより良い状態にするために何をすればよいのかなどについて学び、ウエルネス関連ビジネスで活躍できる人材育成を目標とします。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	スポーツを通じてウエルネスを理解する	人・モノ・金などの資源を活用する力を養う

汎用的な力	
1. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案	さまざまな角度から問題を解決する力を養う

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内小レポート	40 %	： 授業内容を理解しているか、問いに回答しているか
課題レポート	60 %	： レポートの課題に対する回答を総合的に評価

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

【参考文献】必要に応じて紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜2限

場所： 西館4階　研究室

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション／ウエルネスとは** ウエルネスとは何か、ヘルスケアとの違い、ウエルネス産業の市場規模、各分野の概要について説明。さらに、健康、幸福、生きがい、人間の成長について学ぶ。	配布したプリントで講義の内容を復習する。	4時間
第2回	**フィットネス・ダイエット・ボディポジティブ** ダイエットとSNSの関係、ダイエット市場、摂食障害について学ぶ	身近なダイエットの情報、商品について情報収集する	4時間
第3回	**幸福な国や地域の価値観・考え方を学ぶ** スポーツ・運動と健康や幸福感の関係について学ぶ。北欧の国（デンマーク、スウェーデン）、沖縄、宮崎などの価値観や、オールドリッチとニューリッチなどの価値観の違いについて学ぶ。	様々な幸せ概念について知り、自身の生活を振り返る	4時間
第4回	**健康経営について** 健康経営＝ヘルシーカンパニーについて説明 健康経営のメリット、運動・睡眠、栄養、行動変容について学ぶ。	健康経営を実践する企業を調査する	4時間
第5回	**ウエルネス市場・フィットネス市場についての動向** フィットネスクラブなどの変遷、カーブスやライザップのビジネスモデル、これからのニーズについて考える	具体的な企業の強み、ターゲット等を分析する	4時間
第6回	**幸福になる方法について考える** 幸福に関する研究を基に、科学的に何が人に幸福感を与えるのか学ぶ。 なぜ学ぶのか、仕事をするのか、学びや仕事の意味を考える。	人生観・労働観について自身の考えをまとめる	4時間
第7回	**ウエルネスと幸福** ウエルネスの役割、年齢や性別等による価値観の違いを理解する。	配布したプリントで講義の内容を復習する。	4時間
第8回	**ウエルネスビジネスについてグループワーク** 「ウェルネスサービス」の知識を整理 各人が、何が大切かを理解し、行動するための考えを議論する。	講義の内容をまとめ、今後議論すべき点を整理する	4時間
第9回	**生活時間調査** 世論調査、社会調査を活用し、自由時間の課題を明らかにする。	自身の生活時間を記録し、分析する	4時間
第10回	**日本の健康政策** 日本の健康政策 「健康日本21」 身体活動量METｓ 健康寿命について学ぶ	健康政策について資料を収集し理解する	4時間
第11回	**地方自治体・企業の健康プロジェクト** スマート・ライフ・プロジェクト 各地方自治体・企業での健康プロジェクトについて学ぶ	健康寿命の延伸のためのプロジェクトについて情報収集する	4時間
第12回	**日本国民のスポーツライフ** 世論調査から見る日本のスポーツ「する」「みる」「ささえる」の実態について説明 資料の読み取りをおこなう。	講義の内容をまとめる	4時間
第13回	**運動実施率向上のためのグループワーク** 日本の「する」スポーツの実態を理解 日本のスポーツ実施率向上のためのアイデアをグループで議論する。	運動実施率の向上策を調査する	4時間
第14回	**ウェルネスと私たちの暮らし** 授業の振り返りをおこない、自分自身の暮らしにどのように取り入れていけるのかを考える。	授業で学習した内容を自身の生活に紐づけて理解する。	4時間

233

授業科目名	スポーツ施設マネジメント論				
担当教員名	林悠太				
学年・コース等	3～4年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

スポーツをするうえでスポーツ施設はなくてはならない存在です。皆さんもこれまでに一度はスポーツ施設を何らかの形で利用されたのではないでしょうか。他方、スポーツ施設の建設や維持管理には多くのコストがかかります。このような問題を抱えながら、スポーツ施設は官民問わず運営がなされています。本講義では、これらの課題を提示しながら、運営方式や資金調達、マーケティング等について概説します。また、スポーツ施設がこれからどのような発展をするのかといったことにも触れながら講義を進めていきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	スポーツ施設に関するマーケティングや資金調達、運営方式等について学修し、スポーツサービス産業について理解を深める。	スポーツ施設のマーケティング、資金調達、運営方式ついて述べることができる。

汎用的な力	
1. DP８.他者とのコミュニケーション	グループ内での活動において積極的に関与することができる。 各自の知識をもちより、より良い発表となるように貢献できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
授業時の課題・ワーク	30 %	:	授業内で提示するミニレポートの記述内容(形式、論理性、正確性等)で評価する。
中間試験	30 %	:	講義前半部分の確認テストを実施し、その理解度を評価する。
フィールド調査分析・発表	40 %	:	スポーツ施設を訪問するフィールド調査を行い、調査内容の妥当性、論理性討議のコミュニケーション能力、新たな問いの設定力で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

「スポーツファシリティマネジメント」原田宗彦・間野義之，大修館書店
「スマートベニュー・ハンドブック」日本政策投資銀行編，ダイヤモンド社
「スポーツ産業論　第6版」原田宗彦編著，杏林書院

履修上の注意・備考・メッセージ

この講義はフィールド調査(スポーツ施設の訪問・利用・管理者への聞き取り等)の参加が必要である。
フィールド調査は所定の講義時間(火曜1限)以外に土日など各自で時間を設けて行う。

また、本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜2限

場所： 研究室

備考・注意事項： 事前に連絡を頂ければ、上記の限りではありません。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンスおよびスポーツ施設産業の現状** 授業の進め方や目的を確認する。また、スポーツ施設の変遷、現状および課題について理解を深める。	スポーツ庁の「スタジアム・アリーナ改革」について内容を把握し、疑問点を整理しておく。	4時間
第2回	**スポーツ施設の分類および運営方式について** スポーツ施設は大きく3つに大別（官・民・官民連携）されるが、その運営方式や所有者の違いに着目する。また、スポーツ施設に関連する法改正についても概説し、理解を深める。	自身が興味のある施設（１つ）の運営方式について、詳細に調査しておく。調査内容については、第１回目に提示する。	4時間
第3回	**スポーツ施設と資金調達** 官民問わずスポーツ施設を建設し、維持管理していくには莫大は費用が必要である。事業モデルとともに、その資金調達方法について理解を深める。	自身が興味のある施設（１つ）の資金調達方法について、詳細に調査しておく。調査内容については、第２回目に提示する。	4時間
第4回	**スポーツ施設がもたらす影響①　環境的側面** スポーツ施設（主にスタジアム・アリーナ）が建設・稼働することによって生じる施設周辺地域の環境への影響について理解する。	自身が興味のある施設（１つ）ついて、施設周辺地域に及ぼす環境への影響について可能な限り調査し、その調査をもとに推測したことをまとめておく。調査内容については、第３回目に提示する。	4時間
第5回	**スポーツ施設がもたらす影響②　経済的側面** スポーツ施設（主にスタジアム・アリーナ）が建設・稼働することによって生じる施設周辺地域の経済への影響について理解する。	自身が興味のある施設（１つ）ついて、施設周辺地域の経済への影響について可能な限り調査し、その調査をもとに推測したことをまとめておく。調査内容については、第４回目に提示する。	4時間
第6回	**スポーツ施設がもたらす影響③　社会的側面** スポーツ施設（主にスタジアム・アリーナ）が建設・稼働することによって生じる施設周辺地域の社会への影響について理解する。	自身が興味のある施設（１つ）ついて、施設周辺地域の社会への影響について可能な限り調査し、その調査をもとに推測したことをまとめておく。調査内容については、第５回目に提示する。	4時間
第7回	**講義前半の振り返りと中間テスト** 講義前半の振り返りと内容理解度を評価するため中間テストを実施する。	講義前半（第１回目～第６回目）の内容を振り返り、中間テストの準備を進める。	4時間
第8回	**「見る」スポーツのマーケティング①　ファンエクスペリエンス** プロスポーツ産業において、スポーツ施設は「する」だけでなく、「見る」機能の充実が求められている。本講義では、観戦者の経験価値向上について理解を深める。	自身が興味のある施設およびスポーツチーム（１つ）ついて、経験価値を向上させる取り組みを調査し、その成果（アウトカム）をまとめておく。	4時間
第9回	**「見る」スポーツのマーケティング②　観戦者からファンへ** 前回の講義（第８回目）に続き、本講義では経験価値の向上だけでなく、その先（コアファン）を見据えたマーケティングについて、理論的背景に基づき解説し、理解を深める。	自身が興味のある施設およびスポーツチーム（１つ）ついて、観戦者からリピーターやコアファンに昇華させる取り組みを調査し、その成果（アウトカム）をまとめておく。	4時間
第10回	**フィールド調査①　対象施設および調査項目の選定** 少人数（4～５人）のグループごとに（国内外の）スポーツ施設について調査を進める。対象スポーツ施設や調査項目・方法などの調査に関わる事柄の意思決定はグループに一任される。	スムーズなグループ内での議論になるように、あらかじめ各自で調査対象となるスポーツ施設を少なくとも３つ提案できるように準備しておく。	4時間

第11回	**フィールド調査②　調査の実施および結果分析** グループごとに調査したスポーツ施設について発表および討論を実施する。発表に関する詳細（発表時間など）については第10回の講義内 にてアナウンスする。	発表の準備だけでなく、フロア（他の受講者）からの質問や指摘に返答できるようにグループ内で準備をしておく。	4時間
第12回	**発表・討論①（前半グループ）** グループごとに調査したスポーツ施設について発表および討論を実施する。発表に関する詳細（発表時間など）については第10回の講義内にてアナウンスする。	発表の準備だけでなく、フロア（他の受講者）からの質問や指摘に返答できるようにグループ内で準備をしておく。	4時間
第13回	**発表・討論①（後半グループ）** グループごとに調査したスポーツ施設について発表および討論を実施する。発表に関する詳細（発表時間など）については第10回の講義内にてアナウンスする。	発表の準備だけでなく、フロア（他の受講者）からの質問や指摘に返答できるようにグループ内で準備をしておく。	4時間
第14回	**スポーツ施設とサステナビリティ** 昨今、スポーツ施設（主にスタジアム等）は欧米を中心にサステナビリティが求められている。それは、環境に配慮した設計やコストの最適化など多岐に渡る。国内におけるスマートベニューにも着目し、理解を深める。	自身が興味のあるスポーツ施設（主にスタジアム等）が実施しているサステナビリティの取り組みについて３点挙げ、まとめておく。	4時間

232

授業科目名	**海外スポーツビジネス調査**				
担当教員名	岡田功・古川拓也・菅文彦・鳥山稔				
学年・コース等	2～4年	開講期間	後期（集中）	単位数	2
授業形態	講義・演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	岡田：新聞記者として長年、スポーツビジネスの現場を取材。延べ３回留学し、スポーツビジネスを研究した（全14回）				

授業概要

米国ボストンで先進的なビジネスモデルを展開するメジャーリーグ「ボストン・レッドソックス」等の経営戦略を現地で学ぶとともに、スタジアムを核にした街づくりについてもフィールドワーク調査を通して学ぶ（9月上中旬に実施予定）。一方、台湾では、プロ野球の楽天モンキーズと連携した授業も行う（8～9月に実施予定）。
①プロクラブの関係者による講義、スタジアムツアー、試合観戦（ボストン、台湾）
②スポーツメーカー本社訪問（ボストン）
③ハーバード・ビジネス・スクール教授による特別講義（ボストン）
④京セラドーム大阪のスタジアム調査（ボストン、台湾）
などを行う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.スポーツ産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	スポーツマネジメントの幅広い基礎知識を習得	メジャーリーグの先進的なスポーツビジネスや台湾プロ野球等のビジネスと、日本のプロ野球とを比較し、違いを理解できる
2. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	フィールワーク調査の設定と実行	海外での環境に適応しながら、自身でテーマを設定し、フィールドワーク調査を実行し、日米のスポーツビジネスの違いを探る
汎用的な力		
1. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		米国や台湾等のスポーツビジネスモデルを学び、日本のスポーツビジネスにおける課題を見つけ、解決策を提案する

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
現地調査・視察の学習意欲	50 %	： 現地で積極的に学習に取り組み、語学の習得にも意欲的に取り組んでいるかを評価
期末レポート	40 %	： 事前学習、事後学習において自ら課題をみつけて調査、研究をまとめて作成する期末レポートを評価
現地特別講義の受講態度		： 外国人講師による講義をどこまで理解できているか、積極的に質問しているか等の受講態度を評価

10　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

必要に応じて指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

１．本科目は2単位の科目であるため、全体で90時間の学修が求められます。
２．実習参加にあたっては、アドバイザー教員の推薦を得るとともに、学内選考（書類・面接）を通過する必要があります。
３．研修は夏季休暇中や土・日曜日にも実施されます。あらかじめ日程を確認し、必ず出席してください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜２限

場所：　岡田研究室

備考・注意事項：　受講に関する質問や海外事情など必要な情報の入手はいつでも研究室へ。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**「メジャーリーグのビジネス」または「台湾プロ野球のビジネス」** ＜ボストン研修＞＝メジャーリーグはどのような収入源から収入を得、どのようにお金を使っているのかなど、基本的な収入・支出構造について学ぶ。 ＜台湾研修＞＝台湾プロ野球はどのような収入源から収入を得、どのようにお金を使っているのかなど、基本的な収入・支出構造について学ぶ。	メジャーリーグや台湾プロ野球の収入構造について、事前に調べて理解する。英語初級会話の自主学習	4時間
第2回	**「レッドソックスのビジネス」または「楽天モンキーズのビジネス」** ＜ボストン研修＞＝他のスポーツクラブ（レーシングチームや英プレミアリーグクラブなど）の運営や、テレビ局の経営、他競技のスポンサー獲得など、多角的で戦略的なレッドソックスの経営について学ぶ。 ＜台湾研修＞＝日本企業などと連携した楽天モンキーズの経営について学ぶ。	レッドソックスや楽天モンキーズの独特な経営について、事前に調べて理解する。または自転車産業の動向について理解を深める。英語初級会話の自主学習	4時間
第3回	**プロ野球の経営** ＜共通＞＝日本のプロ野球とメジャーリーグまたは台湾プロ野球のビジネスの違いについて学ぶ。ボストン研修参加者は特に1995年時点ではメジャーリーグに匹敵する経済規模だった日本のプロ野球のビジネスだが、今や10倍近い開きがある。その差はなぜ生まれたのか、、プロ野球界はビジネス拡大のためにどのような努力を行おうとしているのか、について学ぶ。	プロ野球のビジネスについて、本やネットで調べる。台湾におけるスポーツツーリズムについて本やネットで調べる。英語初級会話の自主学習	4時間
第4回	**事前調査（甲子園球場の視察）** ＜共通＞＝阪神甲子園球場を現地視察するとともに、阪神タイガースの試合を観戦。日本のプロ野球の球場、ビジネスの仕組みについて現地調査を行う。	甲子園球場のマネジメントについて事前に調べる	4時間
第5回	**事前研修（特別講義）** ＜共通＞＝レッドソックスの元幹部から、レッドソックスの経営やスポンサー戦略などについて、特別講義を受講する。	レッドソックス元幹部による特別講義の内容の振り返り	4時間
第6回	**現地研修①** ＜ボストン研修＞＝レッドソックスの本拠地フェンウェイパークの視察。球場内を案内してもらいながら、観客席、スイートルーム、グッズ販売の状況やスタジアムの歴史などを実地調査し研究する。事前に行った甲子園球場と比較してみる。 ＜台湾研修＞＝楽天モンキーズの本拠地桃園国際野球場の視察。球場内を案内してもらいながら、観客席、スイートルーム、グッズ販売の状況やスタジアムの歴史などを実地調査し研究する。事前に行った甲子園球場と比較してみる。	フェンウェイパークや桃園国際野球場の視察資料のまとめと整理	4時間
第7回	**現地研修②** ＜ボストン研修＞＝レッドソックスの試合観戦。攻守が交代するイニング間の短い時間をどのように集客やファンを楽しませるために利用しているのか、集客の工夫、試合観戦とIT（情報通信）技術の融合などを体験しながら学ぶ。 ＜台湾研修＞＝楽天モンキーズの試合観戦。SNSのフォロワーが100万以上いる楽天ガールズ（チア）たちと一体となった応援風景、試合後も開催される音楽コンサートなどファンを楽しませる工夫について学ぶ。	レッドソックスや楽天モンキーズの試合観戦を通した調査資料のまとめと整理	4時間
第8回	**現地研修③**	ブランド戦略、スポーツ政策の講義内容の振り返り（ボストン）。来場者を楽しませるイベントの企画立案と準備（台湾）	4時間

	＜ボストン研修＞＝50年以上前から米国で初めてスポーツビジネスの講義を、ハーバード・ビジネス・スクールで始めた、世界的に著名なStephen Greyser教授によるブランド戦略の特別講義を受講する。 ＜台湾研修＞＝楽天モンキーズの試合開催日に本学のブースを出展するが、そのイベント実施のための準備を行う。		
第9回	**現地研修④** ＜ボストン研修＞＝世界的なスポーツメーカー「ニューバランス」本社を訪問し、同社が推進するスタジアムを核にした街づくりの現場をフィールドワーク調査する。 ＜台湾研修＞＝楽天モンキーズの試合開催日に本学のブースを出展（1日目）。来場者を楽しませるイベントや企画を考え、実践する。	ニューバランス社に関する調査資料のまとめと整理（ボストン）。来場者を楽しませるイベントの企画立案と反省会（台湾）。	4時間
第10回	**現地研修⑤** ＜ボストン研修＞＝ボストン市内のスポーツショップを現地調査する。 ＜台湾研修＞＝楽天モンキーズの試合開催日に本学のブースを出展（2日目）。来場者を楽しませるイベントや企画を考え、実践する。	スポーツショップの現地調査資料をまとめる（ボストン）。来場者を楽しませるイベントの企画立案と反省会（台湾）。	4時間
第11回	**現地研修⑥** ＜ボストン研修＞＝発展著しいメジャーリーグサッカーの試合観戦を通じたオペレーションの見学。 ＜台湾研修＞＝大手自転車メーカー本社に付属する自転車博物館を訪問し、台湾の自転車産業について学ぶ。	メジャーリーグサッカーに関する調査資料のまとめと整理（ボストン）。台湾の自動車産業について、調べて理解する（台湾）。	4時間
第12回	**事後研修、調査報告書の作成** ＜共通＞＝事前調査と現地調査の資料を基に、受講生各自で報告書・レポートの作成を行う。	事前調査と現地調査のレポート資料の整理	4時間
第13回	**調査報告書の提出** ＜共通＞＝事前調査と現地調査の資料を基に作成した報告書・レポートを完成させ、提出する。	事前調査と現地調査の報告書・レポートの見直し作業	4時間
第14回	**発表会** ＜共通＞＝受講生一人一人がフィールドワークで体験したことを発表。また、調査計画をもとに米国と日本のスポーツビジネスの比較も発表する。	発表用資料づくり	4時間

232

授業科目名	観光マーケティング論				
担当教員名	金蘭正				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	教員による一方的な講義ではなく、受講者によ講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

観光は人々の楽しみに大きく関与するものなので、その期待に応えていくためには、他の一般商品以上にお客様の視点に立ったマーケティングの発想が不可欠であります。本講義では、観光ビジネスではどのようなマーケティングが実践されているのかを理解するために、マーケティングの基本的な理論とケーススタディを中心に学びます。観光客を受け入れる都市や地域は集客のためにどのような取り組みをしているかについても理解してもらいます。本授業は、教員による一方的な講義ではなく、受講者による学習・発表が主になります。発表内容に基づき、教員が補足説明することによって、学習内容の理解を深めます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.グローバル産業・観光関連産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	マーケティングの基礎理論と観光マーケティングの実践方法の理解	マーケティングを学ぶ上で必要な理論の理解とそれに対応する観光のケーススタディを通して、実践で発揮する力を付ける。
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	観光産業のマーケティングに関する知識	インターネットや書籍の情報をもとに、観光産業のマーケティングの特徴的な動向を理解できる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		常に観光現象に興味を持ち、新聞、雑誌、テレビなどのマスコミの情報から国内外の観光動向を把握してもらうことによって、観光地における集客戦略やリピータ率向上のための取り組みについて考察することが出来る。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
発表・受講態度	40 %	： １．与えられた課題に対してポイントを適切にまとめ、分かりやすく発表できたのか。２．毎回実施する小テスト点数の平均。
中間テスト	30 %	： 次の観点から評価する。１．授業内容をどの程度理解しているか、２．理解したことをわかりやすく適切に表現できているか。
定期試験（筆記）	30 %	： 次の観点から評価する。１．マーケティングの基礎知識を正しく理解、２．観光マーケティングのケーススタディを通して、集客戦略やリピーター率向上のための取り組みについて自身で考察できるのか。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年

森下　晶美編著　・新版　観光マーケティング入門　・同友館　・2016　年

参考文献等

ホスピタリティ・ビジネス研究会訳（Philip Kotler 外2人）『ホスピタリティと観光マーケティング』　東海大学出版部　1997年(ISBN4486014030)

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜3限

場所： 研究室（西館2階）

備考・注意事項： 質問は授業の前後にも答えるが、メールでも対応する。
アドレス：kim-r@g.osaka-seikei.ac.jp
メールには必ず氏名と学籍番号を書くこと。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション・マーケティングとは** 学習内容や評価方法、受講においての注意事項などについて説明したうえで、マーケティング・観光マーケティングとは何かについてQuiz形式で確認します。	事前にシラバスを熟読しておく	4時間
第2回	**ホスピタリティと観光のマーケティングについて** マーケティングの定義について確認したうえで、ホスピタリティ・ツーリズムのマーケティングの特徴について学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：マーケティング・ミックス、4P,7P）	4時間
第3回	**商品購買と人間ニーズの充足** マーケティングは、「お客の思い」を正しく理解するための活動であることを学び、本当のニーズをつかむことが大事であることを学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：ニーズ、ウォンツ）	4時間
第4回	**購買意思決定のプロセス** 商品の購買に至る一連の行動について理論と事例を通して理解します。また、購買に影響を与える消費者の特性について学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：AIDMA法則、AISAS理論）	4時間
第5回	**お客とはだれなのか。市場細分化、ポジショニング** 消費者を“ある尺度”で共通したグループに分類するとの市場細分化についてその理由や基準等について学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：セグメンテーション、ターゲット・マーケティング）	4時間
第6回	**マーケティング環境分析：SWOT分析** マーケティング環境分析の必要性とツールとしてのSWOT分析について学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：Strength,Weakness,Opportunity,Threat）	4時間
第7回	**マーケティング・リサーチ** マーケティング・リサーチの企画・設計の進め方やデータ収集のための尺度・質問文作成における注意点などについて学ぶ。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：PDCA、定量的データ、定性的データ）	4時間
第8回	**今までの授業内容のReviewと中間テスト** 現在までの授業内容をまとめた上で、中間テストを実施します。また、中間テストの解説を実施し、第7回までの授業を総合的に振り返ります。	現在までの授業ノートを取りまとめる	4時間
第9回	**プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント** プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント手法を理解し、プロダクト・ライフサイクルの概念と観光地のライフサイクルにおける特徴や問題点について確認します。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：PPM、プロダクト・ライフサイクル）	4時間
第10回	**旅行商品流通チャネル** 旅行商品の種類と特徴について理解したうえで、旅行商品の流通チャネルについて理解します。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：パッケージツアー、ホールセール）	4時間
第11回	**マーケティングで価格戦略を策定** 競争優位の基本戦略を理解し、価格決定方法や競争市場戦略の４つの位置づけについて学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：スケールメリット、競争市場戦略）	4時間
第12回	**ブランドマーケティング** ブランド・イメージの定義やブランド構築のプロセスなどについて学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：ブランド・アイデンティティ、永続性）	4時間
第13回	**観光地ブランドと地域づくり** 観光地におけるブランド構築や地域づくりにおいてのポイントについて学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：コンセンサス、ディマーケティング）	4時間
第14回	**カスタマー・リレーションシップ・マーケティング**	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：CRM、データベース・マーケティング）	4時間

CRMの概念やCRMが重視されるようになった背景について理解したうえで、実践事例を通じてその考え方を理解します。		

232

授業科目名	**専門演習１【経営】**				
担当教員名	児山俊行・千代原亮一・海野大・中井秀樹・澤田彩・李美花・白濱孝之				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

専門演習１では経営コースが目指す「マネジメント能力が発揮できる人材の育成」の基盤づくりに取り組みます。そのため前期は後期とともに、現代のビジネスとマネジメントの基礎力を育てることを目指し、特に前期は理論的基礎の修得を中心に行います。その際、理論とはいっても具体的な企業事例の分析・考察を通じ、授業内や課外での個人学習やグループ活動によって進めていきます。これは後期からの実践的演習の準備ともなります。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	現代の様々な経営事象について基本的知識を諸事例を調べて分析・考察し発表・議論する。	自ら問題意識をもって、問題に対して適切に調べまとめ、発表・議論することができる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		経営現象を観察して因果関係を理解し、そこにある（発展・停滞の）課題を見出す。
2. DP９.他者との協調・協働		ゼミメンバーと時に協力・協調し、特に切磋琢磨し、目的を達成するよう行動する。

学外連携学修

有り(連携先：池田市（海野ゼミ）、大阪モノレール（中井））

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

・課題解決学習(PBL)

経営に係る基礎知識と具体的な事例も交えながら講義による解説の進行にあわせ、ケーススタディーについて、受講者への問いかけやレポート課題を組み合わせて進めていく。

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業態度	10 %	： 授業への集中度や質疑応答などの積極性で評価する。
授業での活動の評価	45 %	： グローバルな視点やそれに基づく思考が深まっているいるかどうか、授業での発表や議論、課題の提出などの成果で評価する。
グループワーク活動	20 %	： 提示された課題解決へのグループ活動での自己の役割遂行や解決提案の策定などの成果で評価する。

試験（レポート）　：　自らの演習を振り返りながら学びの修得度と自身のどこが成長したかについてふりかえるレポートを作成し評価する。

25　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

参考文献は必要に応じて紹介・指示する予定。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　各教員のオフィスアワー

場所：　担当教員の研究室（西館２・３階）

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション：現代の経営事象の特徴、研究倫理教育** 現代に顕著となってきている経営事象の特徴についての概要講義を行い、演習内容や進め方について全体的説明を行なう。また、研究倫理教育の実施。	１年次の経営学領域授業の復習	4時間
第2回	**現代のビジネス課題の現状** 現代のビジネス課題についてグループ活動を通じて調べ分析、考察する。	現在のビジネスのトピックスについて調べる。	4時間
第3回	**現代のビジネス課題～会社の形態の変化** 会社の形態の変化についてグループ活動を通じて調べ分析、考察する。	企業形態の変遷について調べる。	4時間
第4回	**現代のビジネス課題～経営組織のあり方** 経営組織のあり方についてグループ活動を通じて調べ分析、考察する。	経営組織の変遷について調べる。	4時間
第5回	**現代のビジネス課題～有効な経営戦略** 有効な経営戦略についてグループ活動を通じて調べ分析、考察する。	経営戦略のタイプについて調べる。	4時間
第6回	**現代のビジネス課題～経営のグローバル化** 経営のグローバル化についてグループ活動を通じて調べ分析、考察する。	経営のグローバル化の変遷について調べる。	4時間
第7回	**現代のビジネス課題～人的資源管理** 人的資源管理についてグループ活動を通じて調べ分析、考察する。	人的資源管理の変遷について調べる。	4時間
第8回	**現代のビジネス課題～マーケティング** マーケティングについてグループ活動を通じて調べ分析、考察する。	マーケティングの変遷について調べる。	4時間
第9回	**現代のビジネス課題～生産管理** 生産管理についてグループ活動を通じて調べ分析、考察する。	生産管理の変遷について調べる。	4時間
第10回	**現代のビジネス課題～情報システム** 情報システムについてグループ活動を通じて調べ分析、考察する。	情報システムの発展について調べる。	4時間
第11回	**現代のビジネス課題～財務管理** 財務管理についてグループ活動を通じて調べ分析、考察する。	財務管理の流れについて調べる。	4時間
第12回	**現代のビジネス課題～ベンチャー企業** ベンチャー企業についてグループ活動を通じて調べ分析、考察する。	ベンチャー企業の歴史について調べる。	4時間
第13回	**現代のビジネス課題～企業の社会的責任** 企業の社会的責任についてグループ活動を通じて調べ分析、考察する。	企業の社会的責任の発展について調べる。	4時間
第14回	**現代のビジネス課題～ナレッジマネジメント** ナレッジマネジメントについてグループ活動を通じて調べ分析、考察する。	知識創造経営への発展について調べる。	4時間

232

授業科目名	**専門演習１【食】**				
担当教員名	髙畑能久				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大手総合食品メーカーの中央研究所で研究・商品開発および新規事業を経験。その後、グループ経営本部 経営企画部にて事業戦略の立案および投融資などを担当（全14回）。				

授業概要

この授業では、食に関わるマクロ環境・製造業・流通業・一次産業などの最新情報を調査・分析して経営分析資料を作成します。また、連携先の食品企業から与えられたPBL課題「オリジナル弁当を開発・販売しよう」にグループワークで取り組むことにより、新商品の企画・開発から売場づくり、接客マナーなどについても体験学修します。自分たちで考案した商品アイデアが試作と改良を経て、実際に顧客が購入するところまで実施することによってやりがいや達成感を得ることができます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	経営分析資料の作成、産学連携PBLにより商品の企画・開発と販売促進に取り組む。	グループで協力し、与えられた課題に対して関連する情報を集め、問題点を把握し、改善策を提案することができる。

汎用的な力	
1. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案	商品の企画・開発と販促施策を立案することができる。
2. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み	課題解決に向けてグループで主体的に行動・実践することができる。
3. DP７.実践の完遂	困難な課題であってもあきらめず、最後までやり遂げることができる。
4. DP９.他者との協調・協働	グループ内で自らの役割を理解し、協働して周囲の期待に応えることができる。

学外連携学修

有り(連携先：中日本フード株式会社（ニッポンハムグループ）、佐竹食品株式会社、株式会社カノー)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内のワーク	20 %	： グループ内で自らの役割を理解し、周囲の期待に応えることができたかどうか、あきらめずに最後までやり遂げることができたかどうかを評価します。
ポートフォリオ（学びの記録）	20 %	： 連携PBLにより何を学ぶことができだのか分かるものになっているか、その振り返りができているかを評価します。
中間・期末発表会		： PBL課題に対し、関連情報を集め、問題点を把握し、改善策を提案することができたかどうか、成果を上手にアピールできたかどうかを評価します。

40　%

期末レポート　：　指定された日時までに提出されたレポートを対象とし、授業を通じて学んだことを、今後どのように活かしていくのかを評価します。

20　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

日本大学食品ビジネス学科『人を幸せにする食品ビジネス学入門』（オーム社、2016年、ISBN978-4-274-21954-2）
朝倉敏夫他『食科学入門-食の総合的理解のために-』（昭和堂、2018年、ISBN978-4-8122-1705-4）
その他、必要に応じて紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外の学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習しておくこと。
日頃からテレビ、新聞、雑誌、Webサイト等を活用し、食ビジネスに関するニュースや最新情報の把握に努めてください。
※なお、連携先の都合に合わせて、授業の順番や内容を一部変更する場合がある。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜２限

場所：　髙畑研究室（西館2階）

備考・注意事項：　授業の前後以外で質問したい場合は、メールにて受け付けます（takahata@osaka-seikei.ac.jp）。件名には必ず、所属・学籍番号・氏名を明記してください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンスと研究倫理、コーディネート手法（基礎）** 授業の進め方などを説明した後、研究倫理や食ビジネスの現場で役立つマナーについて学びます。また、コーディネート手法（論理的思考、聴く、書く、話す）を学び、グループでリーダー選出やチームビルディングなどに取り組みます。	研究倫理教育の資料を読み直しておいてください。	4時間
第2回	**経営分析資料①（章立て・各章のテーマ設定）** 最新情報を収集・整理し、グループ毎に経営分析資料の章立てを行った後、食品業界にとって重要なテーマを選び、各章毎のテーマ設定と担当者を決めます。	食ビジネスに関する業界新聞やWebサイトの記事を持ち寄ってください。	4時間
第3回	**経営分析資料②（情報収集・資料作成）** 各自で担当したテーマの情報収集を行い、各テーマ毎に経営分析資料を作成します。	食ビジネスに関する業界新聞やWebサイトの記事を持ち寄ってください。	4時間
第4回	**経営分析資料③（資料ブラッシュアップ・発表準備）** 各自で作成した資料をグループ毎にまとめ、お互いに共有します。グループ毎に発表準備を行います。	グループ毎に成果発表の準備を行ってください。	4時間
第5回	**経営分析資料④（成果発表）** グループ毎に成果発表と質疑応答を行います。成果発表の様子を撮影した動画を視聴し、各自で振り返りします。発表用パワーポイントは事前に提出してください。	グループ毎に成果発表の振り返りを行ってください。	4時間
第6回	**特別授業（PBL課題の提示）** 連携先からゲストスピーカー（専門家）を招いて特別授業を開講します。市場動向や商品開発のヒントを学んだ後、PBL課題について提示を受けます。	各自で市場調査を行い、商品アイデアを考えてきてください。	4時間
第7回	**商品の企画・開発①（アイデア出し）** 前回の特別授業の内容を踏まえ、各自で市場調査を行い、商品アイデアを出し合います。 連携先からゲスト（専門家）を招いてディスカッションを行います。	グループ毎にアイデアから商品企画書を作成してください。	4時間
第8回	**商品の企画・開発②（商品企画書の作成）** 複数の商品アイデアから絞込みグループで商品企画書を作成し、連携先に提案します。	グループ毎に選ばれた商品企画書をブラッシュアップしてください。	4時間
第9回	**学外授業①（試作）** 選ばれた商品企画書を連携先のテストキッチンで試作を行い、試食（官能評価）した後、改善点についてディスカッションします。	各自で試作のレポートを作成してください。	4時間
第10回	**学外授業②（農場実習・金融制度）** 生産地を訪問し、外部講師による農業経営、農業技術と水産技術（栽培技術／漁法・養殖技術）、農林水産・中小企業向け金融支援制度等に関する講義を受けた後、圃場での農場実習および収穫作物の試食体験などを行います。	各自で農場実習のレポートを作成してください。	4時間
第11回	**販促物（POP）①（アイデア出し）**	グループ毎にオリジナルのPOPを作成してください。	4時間

	企画・開発した新商品を店頭で販売する際に必要な購買時点広告（POP）のアイデアを出し、連携先に提案します。		
第12回	**販促物（POP）②（制作）** 企画・開発した新商品を店頭で販売する際に必要な購買時点広告（POP）を作成し、連携先に提案します。	グループ毎にオリジナルのPOPを作成してください。	4時間
第13回	**学外授業③（売場実習）** メーカー営業を理解するため連携先の店舗を訪問し、売場接客、チラシ配布、店内アナウンス、試食などのシフトを組み、企画・開発した新商品の売場実習を行います。	各自で売場実習のレポートを作成してください。	4時間
第14回	**PBL成果発表会** これまでグループワークで取り組んできた成果を発表し、プレゼンテーション資料を提出してください。グループ毎に連携先からのフィードバックを受けます。授業の最後に期末レポートの課題を提示します。	期末レポートは、指定された日時までに提出してください。この授業で学んだことの振り返りを行っておいてください。	4時間

232

授業科目名	**専門演習１【公共】**				
担当教員名	荒木俊之・大島博文				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	自治体職員、都市計画コンサルタントとして長年にわたり、まちづくり、住民参加、地域協働の取り組みを実践(全14回)				

授業概要

専門演習１では、現在の日本に生じている様々な都市・地域問題を取り上げて、その現状や問題点、課題解決の方向性などを、個人ワークやグループワークを通じて理解する。本授業では、人口減少・少子高齢化の進行や頻発する自然災害、地球温暖化に代表される地球環境問題などを、行政や住民、事業者など様々な主体の視点から取り上げて議論する。都市・地域問題の理解の際には、今後の専門演習や卒業研究で必要となる知識やスキルを身に付けられるように、文献調査や各種統計データの入手、データの図表化なども学修する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	実社会で起きている事例から、公共政策の役割を考え理解する。	都市・地域問題に関する基礎的な知識を獲得し、行政の活動や社会の仕組み、公共と住民、事業者との連携を考えることができる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		都市・地域問題を理解し、課題を発見できる。
2. DP８.他者とのコミュニケーション		グループワークを通して自分の意見を簡潔に説明し、他者の意見を傾聴して理解し、互いの意見をすり合わせて新たな解をつくったり、場の合意形成を導くことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業での個人ワーク	30 %	： 与えられた個人ワーク資料に基づき知識が身に付き思考が深まっているかどうかなどで評価する。
グループワーク活動	20 %	： 提示した資料に基づくグループでの情報収集、まとめの作成や発表、グループ内での役割を理解して活動したかどうかなどで評価する。
授業に対する姿勢	10 %	： 授業への集中度や質疑応答、意見交換などの積極的な取組み姿勢であったかどうかなどで評価する。

最終レポート	:	学んできた内容を理解しているか、今後の学修に活かしていくことができるかについて振り返るレポートの構成や内容が、妥当かつ的確であったどうかなどで評価する。

40 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

宇都宮浄人・多田 実 編著（2022）「まちづくりの統計学―政策づくりのためのデータの見方・使い方―」学芸出版社／2022年（ISBN：9784761528065）
岡本耕平 監修 阿部康久・土屋 純・山元貴継 編「論文から学ぶ地域調査―地域について卒論・レポートを書く人のためのガイドブック―」ナカニシヤ出版／2022年（ISBN：9784779516207）
野間晴雄・香川貴志・土平 博・山田周二・河角龍典・小原丈明 編著「ジオ・パルNEO ［第2版］―地理学・地域調査便利帖―」海青社／2017年（第2刷2019年）（ISBN：9784860993153）
半澤誠司・武者忠彦・近藤章夫・濱田博之 編「地域分析ハンドブック―Excelによる図表づくりの道具箱―」ナカニシヤ出版／2015年（ISBN：9784779509179）
藤塚吉浩・高柳長直 編「図説 日本の都市問題」古今書院／2016年（ISBN：9784772241977）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
なお、授業の進捗状況などにより、授業内容や順序を変更する場合がある。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 各教員のオフィスアワー

場所： 各研究室

備考・注意事項： 上記以外での対応は、各教員にあらかじめメール等で連絡すること。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス：専門演習１の進め方と研究倫理** 専門演習１の進め方を理解する。 著作権や個人情報保護などの研究倫理について学修する。	授業内容を復習し、今後の研究の進め方を検討する。	4時間
第2回	**都市や地域の問題とは** 都市や地域とはどのようなものか、その概念を確認したうえで、都市や地域の問題について学修する。	都市や地域の問題について調べるとともに、学修した内容を復習し、理解を深める。	4時間
第3回	**公共施設の立地に関する考察** 公共施設の立地をもとに、都市計画（土地利用規制）の現状と課題を考える。	住んでいる地域の都市計画やまちづくりに関する計画の内容を調べるとともに、学修した内容を復習し、理解を深める。	4時間
第4回	**自然災害に対する備えに関する考察** 自然災害に対する備えについて、予防対策として個人でできることについて、事例を用いながら考える。	住んでいる地域の自然災害の危険性について調べるとともに、学修した内容を復習し、理解を深める。	4時間
第5回	**Web GISを利用した自然災害への備え** 地理院地図などのWeb GISを利用して大学周辺や居住地域などの自然災害の危険性を理解し、自然災害への備えを考える。	住んでいる地域の自然災害の危険性や自然災害への備えについて学修した内容を復習し、理解を深める。	4時間
第6回	**まちづくりに関する考察** 人口減少社会の中で取り組まれている「まちづくり」に関する計画の背景、内容、課題を学修し、実現に向けた課題を考える。	人口減少社会におけるまちづくりについて調べるとともに、学修した内容を復習し、理解を深める。	4時間
第7回	**文献研究：文献の調べ方と読み方** 文献調査の方法、先行研究の検討方法（読み方）について学び、論文検索サイトを用いて公共政策に関する研究を調べる。	学修した内容を復習し、理解を深めるとともに、公共政策に関する研究テーマの論文を精読し、その概要をまとめる。	4時間
第8回	**統計データの特性と図表化** 統計データの種類やその特性、収集方法や先行研究における活用、図表化の方法などを学修する。	統計データについてどのようなものがあるか調べ、その特性を探るとともに、図表化した統計データから読み取れる内容をまとめる。	4時間
第9回	**地域の課題を解決する(1)：テーマ・課題の設定** 地域の課題を設定し、課題解決するテーマを検討する。	関心のある地域課題について、検討するとともに、設定した地域課題について理解を深める。	4時間
第10回	**地域の課題を解決する(2)：調べ学修と現地調査準備** 第9回で設定した地域の課題についてより深く知るために調べ学修を行うとともに、現地調査の準備を行う。	設定した地域課題について、多様な視点から調べるとともに、現地調査方法について復習し、理解を深める。	4時間

第11回	**地域の課題を解決する(3)：現地調査** 第10回で順義した現地調査を実施する。	現地調査した結果を情報共有するために、整理する。	4時間
第12回	**地域の課題を解決する(4)：課題解決案の検討** 第11回で実施した現地調査の結果を共有するとともに、課題解決に向けての提案を検討する。	第12回で検討した提案内容を、発表できるように準備する。	4時間
第13回	**地域の課題を解決する(5)：報告** 第12回で検討した課題解決案を報告する。	授業後は、他グループの発表内容などを復習し、地域課題の設定や解決策の検討について理解を深める。	4時間
第14回	**まとめとふりかえり** これまでの学修内容をふりかえり、授業で得た学修成果を確認したうえで、最終レポートを作成する。 これらを踏まえて、専門演習２以降の学修を考える。	これまでの学修内容をふりかえり、得られた知識をスキルを定着させるよう取組むとともに、専門演習２以降に向けての準備に入る。	4時間

232

授業科目名	**専門演習１【スポーツ】**				
担当教員名	**藤森梓・村田正夫・小島大輔・青野桃子・丸朋子・林悠太**				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

専門演習１では、卒業研究を行う上で必要となる知識や能力を身につけます。スポーツマネジメントの研究対象領域や調査方法等の基本的な考え方を学んでいきます。それらの講義や活動を通して以下の4点を目指します。
①スポーツマネジメントにおける研究対象領域を理解する。
②研究の基本的な手法を学ぶ
③エビデンスに基づいた説明や主張ができるようになる。
④スポーツに関する事象に興味関心を持ち、自ら問いを立てることができるようになる。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.スポーツ産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	研究の基本的な手法	研究の基本的な手法を身に付けている。
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	スポーツマネジメントにおける研究対象領域	スポーツマネジメントにおける研究対象領域を理解している。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		エビデンスに基づいた説明や主張ができる。
2. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		研究/企画書に関する知識を習得し自らの課題を発見できる。
3. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		スポーツに関する事象に興味関心を持ち、自ら問いを立てることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
演習課題への取り組み	40 %	： 「何を学んだかわかるものになっているか」、「学びの振返りが出来ているか」を評価の基準とする。
プレゼンテーション評価		： 独自のルーブリックに基づき評価する。

40 %

講義に対する態度や姿勢 : 普段の講義に対する態度や学習での姿勢を評価する。

10 %

期末レポート : 独自のルーブリックに基づき評価する。

10 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

必要に応じて紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 教員によって異なるため、適宜連絡します

場所： 各研究室

備考・注意事項： 各教員に都度確認を取ること。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**専門演習１のねらいと研究倫理** 専門演習１の概要を確認し、レポート・論文、プレゼンテーションを実施する上での諸注意事項を学びます。	スポーツマネジメント領域の内容を確認して授業に臨むこと	4時間
第2回	**１年次の振り返りと問いの立て方** １年次の学びをふりかえり、自身の関心を再確認し、そこにどのような「問い」を立てることができるか検討します。	予習：自身の関心を整理しておくこと、復習：自身の立てた問いについてどのように答えることができるか仮説を立てること	4時間
第3回	**研究とは何か・卒業論文の全体像（体裁・内容など）** 研究と勉強、レポートと論文の違い、卒業研究における問題設定について学び、適切な卒業論文のテーマについて検討します。	「興味を持てそう、おもしろそうな研究テーマ」をあげてみること	4時間
第4回	**文献調査・レヴューの理解（1）解説、演習** 文献調査の方法、先行研究の検討方法について学び、実際に論文検索サイトを用いてスポーツマネジメント領域の研究を調べてもらいます。さらに、各自が関心のある論文の内容をまとめてもらいます。	自身が調べた論文の内容をまとめること	4時間
第5回	**文献調査・レヴューの理解（2）課題の提出・発表** 各自がまとめてきた論文の内容についてプレゼンテーションしてもらいます。	論文の内容を紹介する資料を準備してくること	4時間
第6回	**データの特性と統計を用いた研究の理解（1）解説、演習** 一次データ、二次データの違い、調査の方法、統計を用いた研究方法について学びます。実際にスポーツマネジメントに関連する統計データを提示し、その内容を分析してもらいます。	授業内で提示された調査方法、統計データの分析についてまとめること	4時間
第7回	**データの特性と統計を用いた研究の理解（2）課題提出・発表** 統計データの分析結果についてプレゼンテーションしてもらいます。	統計データの分析結果をまとめ、プレゼンテーション用の資料を作成してくること。	4時間
第8回	**アンケート調査の理解（1）解説、演習** アンケート調査を用いた研究方法について学びます。その上で、アンケートを作成して簡単な調査を行ってもらいます。	簡単なアンケート調査を実施して結果をまとめる	4時間
第9回	**スポーツマネジメント領域の理解（プロポーザル発表聴講）** 卒業研究のプロポーザル発表会を聴講し、発表に対してコメントしてもらいます。	自身が興味を持ったスポーツマネジメントの研究領域を確認しておくこと	4時間
第10回	**アンケート調査の理解（2）課題の提出・発表** 前々回の授業で実施したアンケート調査の結果を分析して、プレゼンテーションしてもらいます。	アンケート調査の結果をまとめ、プレゼンテーション用の資料を準備してくること	4時間
第11回	**インタビュー調査の理解（1）解説、演習**	インタビュー調査を実施して結果をまとめてくること	4時間

	インタビュー調査を用いた研究方法について学びます。また、授業内で簡単なインタビュー調査を実施してもらいます。		
第12回	**インタビュー調査の理解（２）課題の提出・発表** ゼミ内で、各自が行ったインタビュー調査の結果を発表してもらいます。また、プレゼンテーション終了後には、より良いインタビュー調査を行うための改善点について議論します。	簡単なインタビュー調査を行って結果をまとめ、プレゼンテーション用の資料を作成してくること	4時間
第13回	**スポーツマネジメント研究の概観（ゼミ紹介）** 各教員の専門領域から、スポーツマネジメントにおける研究領域を概観します。自身の卒業論文として興味のあるテーマを考えます。	予めスポーツマネジメントに関するどの様な事象に興味があるのか考えてくること	4時間
第14回	**授業のまとめ** 本講義のまとめを行います。研究手法の振り返りとスポーツマネジメント領域の再確認を行います。	専門演習1の学修内容と自身が会得した知識・能力の振り返りを行うこと	4時間

232

授業科目名	専門演習２【経営】				
担当教員名	児山俊行・國方太司・千代原亮一・海野大・中井秀樹・澤田彩・李美花・白濱孝之				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

専門演習２では経営コースが目指す「マネジメント能力が発揮できる人材の育成」の基盤づくりに取り組みます。そのため後期は前期に引き続き、現代のビジネスとマネジメントの基礎力を育てることを目指し、特に後期は実践的基礎の修得を中心に行います。その際、企業へのヒアリングやアンケートを行うなど、授業内や課外での個人学習やグループ活動によって経営の実践力を養います。これは３年次からの本格的演習の準備ともなります。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	経営実践について基本的知識を自らで調査・分析・考察し、発表・議論する。	自ら問題意識をもって、問題に対して適切に調べまとめ、発表・議論することができる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		経営事象を観察して因果関係を理解し、そこにある（発展・停滞の）課題を見出す。
2. DP９.他者との協調・協働		ゼミメンバーと時に協力・協調し、特に切磋琢磨し、目的を達成するよう行動する。

学外連携学修

有り(連携先：池田市（海野ゼミ）、大阪モノレール（中井））

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・見学、フィールドワーク

・課題解決学習(PBL)

経営に係る基礎知識と具体的な事例も交えながら講義による解説の進行にあわせ、ケーススタディーについて、受講者への問いかけやレポート課題を組み合わせて進めていく。

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業態度	10 %	： 授業への集中度や質疑応答などの積極性で評価する。
授業での活動の評価	45 %	： グローバルな視点やそれに基づく思考が深まっているいるかどうか、授業での発表や議論、課題の提出などの成果で評価する。
グループワーク活動	20 %	： 提示された課題解決へのグループ活動での自己の役割遂行や解決提案の策定などの成果で評価する。

試験（レポート）　：　自らの演習を振り返りながら学びの修得度と自身のどこが成長したかについてふりかえるレポートを作成し評価する。

25　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

参考文献は必要に応じて紹介・指示する予定。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　各教員のオフィスアワー

場所：　担当教員の研究室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、後期の演習の進め方について** 現代の経営事象について、分野ごとに顕著となってきている特徴についての概要講義を行い、演習内容や進め方について全体的説明を行なう。	各自、関心ある分野の最新ニュースを調べ整理する。	4時間
第2回	**調査・マーケティングリサーチとは** 調査の意義や調査の種類（定量調査と定性調査）、マーケティングにおける調査とその活用（事例を交えて）について学ぶ。	当日の授業内容（マーケティングリサーチ）についての復習を行う。	4時間
第3回	**調査の技法（定性調査編）** 「調査設計～調査実施～集計分析～報告の流れ」の事例から調査設計のポイント（課題、仮説、対象者条件、質問項目 など）を学び、インタビューの基本を修得する。	当日の授業内容（マーケティングリサーチの定性的技法）について復習を行う。	4時間
第4回	**調査の技法　（定量調査編）** 定量調査の基本と調査票作成のポイント（質問文、選択肢、集計計画）、そして分析の流れについて学ぶ。	当日の授業内容（マーケティングリサーチの定量的技法）について復習を行う。	4時間
第5回	**企業研究の開始** 事業分野ごとに調査対象企業を決定する。	関心ある事業分野の企業について調べ整理する。	4時間
第6回	**企業研究①（対象企業の抱える課題の抽出）** 対象企業の抱える課題を抽出し、その背景や要因を分析する。	対象企業の歴史を調べ整理する。	4時間
第7回	**企業研究②（課題解決策の策定計画の作成）** 対象企業の課題解決策の策定計画を作成する。	対象企業の現在の経営状況を調べる。	4時間
第8回	**企業研究③（課題解決の方向性についての議論）** 対象企業の課題解決の方向性について議論する。	類似の課題解決事例を調べ整理する。	4時間
第9回	**企業研究④（調査項目の検討）** 解決案策定のための調査項目を挙げ、調査方法を検討する。	調査項目と調査方法を整理して確定する。	4時間
第10回	**企業研究⑤（調査結果の収集および整理）** 調査結果を収集・整理し分析、発表。教員や他学生から示唆をもらう。	調査を実施する。	4時間
第11回	**企業研究⑥（調査の中間結果の分析および考察）** 調査の中間結果を分析・考察し、最終案の方向性をいくつか決める。	調査を継続する。	4時間
第12回	**企業研究⑦（解決策の最終案のブラッシュアップ）** 調査の最終結果を分析、考察し、最終案の方向性と概略を定める。	解決案をブラッシュアップする。	4時間
第13回	**企業研究⑧（解決案の策定）** 調査の最終結果にもとづき、解決案策定を行う。	解決案をまとめる。	4時間
第14回	**発表会** 各グループから課題解決の提案について発表を行う。	発表資料の完成。発表方法など諸準備に取り組む。	4時間

232

授業科目名	専門演習２【食】				
担当教員名	伴みずほ				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

専門演習１・２では、生産地・食品工場・小売店などでの体系的な視察や演習を通して食ビジネスの幅広いフィールド（フードチェーン）の仕組みを学びます。この授業では、フードチェーンのうち生産地、卸売市場、物流センター、小売までの商品の流れを学んだあと、小売店の売場にフォーカスした販促手法を学びます。また、フードチェーンに存在するさまざまな課題のうち、自ら選んだ課題に対し、関連する情報の収集・整理を行い、現状の理解と課題点のリストアップを行います。また学期末には一連の学びの成果（企画提案を含む）を授業内で発表します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	大阪府中央卸売市場等の連携授業であるPBL学習に取り組みます。	グループ毎に協力し、与えられた課題に対して関連する情報を集め、問題点を把握、改善策を提案することができる。

汎用的な力	
1. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案	売場提案と販売促進の企画を立案することが出来る。
2. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み	課題解決に向けてグループで行動・実践することが出来る。
3. DP７.実践の完遂	困難な課題であってもあきらめずに、最後までベストを尽くすことができる。
4. DP９.他者との協調・協働	グループ内で自分の役割を理解し、その役割を果たすことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内のワーク	20 %	： グループ内で自分の役割を理解し、その役割を果たすことができたかどうか、途中であきらめずに最後までベストを尽くすことができたかどうか評価します。
ポートフォリオ（学びの記録）	20 %	： PBL学修に取り組み、何を学んだかわかるものになっているか、学びの振り返りができているかを評価します。
発表会	40 %	： 与えられた課題に対して、関連する情報を集め、問題点を把握し、改善策を提案することができたかどうか、グループで協力し成果をアピールできたかどうか評価します。

期末レポート　：　指定された日時までに提出された期末レポートについて、独自の視点から課題に対する効果的な解決策を提案出来ているかを評価します。

20　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

【参考図書】石川伊津（著）　食のPOPイラスト&タイトル　マール社
ISBNコード　978-4-8373-0779-2

【参考図書】梅本 雅（著）　青果物購買行動の特徴と店頭マーケティング　農林統計出版
ISBN-13　978-4897321783

【参考図書】時子山ひろみ・荏開津典生・中嶋康博（著）　フードシステムの経済学 第6版　医歯薬出版
ISBN978-4-263-70740-1

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

授業の順番や内容を変更する場合があります。

POPの理論と技術を学ぶ（特別講義と演習）	1回/14回。
青果売り場フィールド調査を行う	1回/14回。
食品工場又は物流の見学を行う	1回/14回。
食産業にある課題を１つグループワークで改善提案を行う（市場調査・POPの作成・売場提案）	1回/14回。
食産業にある課題を１つ選び背景をまとめる（情報収集）	1回/14回。
食産業にある課題を１つ選びプレゼンを行う	1回/14回。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜日5時間目

場所：　研究室（西館2階）

備考・注意事項：　質問はメールでも応じます。ban-m@osaka-seikei.ac.jp（タイトルには氏名、学籍番号を記入のこと）

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーションおよびPBL課題** 専門演習１で学んだ生産地で外部講師により受けたPBL課題や、圃場見学や生産者との意見交換など食産業におけるさまざまな課題を、各グループで整理しまとめます。 また小売店におけるPBL課題への過去の取組みを参考にし、この授業全体の進め方を説明します。 ＜2テーマ/班＞	グループ毎にPBL課題の情報収集・発表準備を行うこと	4時間
第2回	**PBL課題の発表** グループ毎に食産業におけるさまざまな課題を整理しまとめた内容を、お互い発表し情報を共有することで理解を深めます。	グループ毎に発表の発表資料pptおよび原稿作成を行うこと	4時間
第3回	**食産業のさまざまな課題とその解決事例紹介** 食産業のさまざまな課題とその解決事例を知ることで、自分ならどのような業種業態でPBL課題に取り組んでいくのかを考えます。	どのジャンルのPBL課題に取り組むのかレポートを作成し第4回で必ず提出すること	4時間
第4回	**卒業研究中間発表会への参加** ４年生の卒業研究中間発表会に参加し、研究の進め方などを知ることで、今後、専門演習３・４履修に向けて、どのようなPBL課題に取り組んでいくのか自分の考えをまとめます。	自ら選んだPBL課題に取り組むため先行研究を調べること	4時間
第5回	**職場見学（物流センター）** 物流センターを視察し、業務内容説明、倉庫見学、商品試食や企業人との意見交換を行います。	学外授業のレポートを作成すること	4時間
第6回	**売場作り提案（POP広告理論・POP広告作製）** 売場作り提案を行うにあたって、外部講師によるPOP技術を習得します。 販売促進のための広告媒体であるPOP広告（Point of purchase advertising）の理論を学びます。	特別授業のレポートを作成し、グループ毎に企画書を作成すること	4時間
第7回	**売場作り提案（フィールド調査・企画書の立案・POP広告作製とPOP広告掲示例）**	グループ毎にPOP等を作成し、pptと原稿を準備し練習すること	4時間

	＜フィールド調査＞ 売場作り提案を行うにあたって、グループで選んだ小売店である、業態別（小売：百貨店、総合および食品スーパーマーケット、コンビニ / 飲食：カフェ、レストラン、食堂）のいづれかの売場づくりを調査します。 ＜企画書の作成＞ 調査結果で得られた課題について、複数のアイデアの中から各グループで整理した企画書を作成します。 ＜発表資料の作成＞ 企画内容に従い、売場を実際に商品を陳列しながら作ります。商品がよく売れるようグループで工夫を凝らしたPOP作製も同時に行います。		
第8回	**売場作り企画提案発表会** 商品がよく売れるようグループで工夫した販売促進ポイントをわかりやすく説明します。	グループ毎に売場作り企画提案発表会の振り返りを行うこと	4時間
第9回	**情報収集について** 自ら選んだ研究テーマの現状を知るために情報収集（論文、新聞記事など）の方法を学びます。	自ら選んだ研究テーマに関する情報を検索し、背景を理解すること	4時間
第10回	**研究課題発表会の準備①情報収集** 研究テーマの背景を発表するため、情報収集（論文、新聞記事など）を行います。 各自で発表準備も行ってください。 また選んだ研究テーマの背景を十分に調べます。	背景の情報収集を行うこと	4時間
第11回	**研究課題発表会の準備②課題のリストアップ** 研究テーマの背景を発表するため、課題のリストアップを行います。 各自で発表準備も行ってください。 また選んだ研究テーマの課題を十分に調べます。	発表資料pptと原稿を準備すること	4時間
第12回	**研究課題発表会の準備③発表資料作成** 研究テーマの背景を発表するため、パワーポイントと発表原稿を作成します。 各自で発表練習を行い最終確認を行います。 また選んだ研究テーマの解決策を十分に調べます。	グループ毎に研究課題発表会の振り返りを行うこと	4時間
第13回	**卒業研究発表会への参加** 4年生の卒業研究発表会に参加し研究の進め方や考察などを知ることで、今後の研究の参考にします。また各発表者へのコメントの記入や質疑にも参加します。	参考になったことを第14回の発表に活用すること	4時間
第14回	**研究課題発表会** 研究テーマの背景について発表準備を通して学んだ成果をパワーポイントを用いて発表します。発表に対する質問や意見に対応してください。 授業の最後に期末レポートの課題を提示します。	期末レポートは指定された日時までに提出すること	4時間

232

授業科目名	**専門演習２【公共】**				
担当教員名	荒木俊之・大島博文				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	自治体職員、都市計画コンサルタントとして長年にわたり、まちづくり、住民参加、地域協働の取り組みを実践(全14回)				

授業概要

専門演習2では、地域が抱える問題の解決、地域の活性化に取組む能力などを身につけられるよう、地方自治体などへ提案する具体的な施策・事業等を、グループワークで協働して作成する。本授業では、提案先自治体における地域の現況把握、問題の発見、解決すべき課題の設定、課題解決に関係し、協働が必要なアクターとの連携、公正で効果的、かつ新規性がある魅力的な施策・事業等の立案といった政策形成の過程を学修し、公共性を養成する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	地域の課題を理解したうえで、解決策を考え自分たちでできる実行計画を作成する。	地域の状況の正確な理解、関係する主体との協働などを踏まえたグループでの活動計画を立案することができる。
2. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	まちづくり及び協働に関する基礎知識を踏まえ、グループで協働してまちづくり課題に応える解決策を編み出し実践する。	地域課題への有効な解決アイデアをグループで生み出し、カウンターパートナーとコミュニケーションを取りながらアイデアを実践することができる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		地域社会やまちづくりに関わる組織の課題を発見できる。
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		まちづくりや組織の課題に対し、創造的な解をもたらすアクションを協働で計画・立案できる。
3. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		計画・立案したまちづくりアクションを協働で実践できる。

学外連携学修

有り(連携先：地方自治体、NPO、住民などを想定)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業での個人ワーク	30 %	： 問題発見、課題設定、事例調査、施策・事業の方向など、施策・事業の立案に必要な事項への理解が、妥当かつ的確であったかどうかなどで評価する。
グループワーク活動	20 %	： グループでの活動に対し、意見・提案、情報の提供、まとめへの協力など果たすべき役割を理解して活動したかどうかなどで評価する。
提案施策・事業		： グループでまとめた施策・事業等の企画提案内容やプレゼンテーションが、妥当かつ的確な内容であったかどうかなどで評価する。

20　%

最終レポート　：　問題解決のための政策立案過程の理解と自らの成長を振り返るレポートの構成や内容が、妥当かつ的確であったかどうかなどで評価する。

30　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

参考文献や先行事例等は必要に応じ紹介する予定

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
なお、フィールドワークの実施状況などにより、授業内容や順序を変更する場合がある。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　各教員のオフィスアワー

場所：　各研究室

備考・注意事項：　上記以外での対応は、各教員にあらかじめメール等で連絡すること。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス：専門演習２の進め方と研究倫理** 専門演習２の進め方を理解する。 著作権や個人情報保護などの研究倫理について学修する。	授業内容を復習し、今後の研究の進め方を検討する。	4時間
第2回	**提案先自治体の現況把握と先行事例の調査** 提案先自治体の対象地域について、地域の現況把握を行うとともに、他都市の先行事例などを調査する。	提案先自治体の対象地域について、人口や地勢などの現況、地域で実施されている施策や事業、イベントなどを調査し、それを踏まえて、他都市の先行事例などを調べる。	4時間
第3回	**卒業研究のテーマ検討：卒業研究中間報告会への出席** 卒業研究中間報告会へ出席し、卒業研究のテーマや研究方法を学修する。	卒業研究中間報告会へ出席したうえで、今後の研究テーマや研究方法を検討する。	4時間
第4回	**現地調査：フィールドワーク（学外授業）** 提案先自治体の対象地域にて、フィールドワークを実施し、地域の現状把握とともに、具体的な問題・課題の事象を捉える。	現地調査で得られた内容を整理し、今後の取組み方等を考える。	4時間
第5回	**現地調査結果等の共有** 現地調査やヒアリングの結果をグループ内で共有する。	現地調査やヒアリングの結果を共有したことにから地域の問題や解決すべき課題を考える。	4時間
第6回	**地域課題解決の実践：自治体の取組み①（特別授業：首長リレー講座）** 特別講義として、自治体の首長（市長など）から、地域課題解決に関する方策、地域づくりの理念、自治体経営改革などについて説明を受け学ぶ。	特別講義の対象となる自治体について、参考文献やインターネット等でも適宜調べて理解を深める。	4時間
第7回	**問題の発見、課題の設定** 現地調査結果等をもとに、地域の問題を発見し、解決すべき課題を設定する。	課題の設定をもとに、課題解決の方向等を考える。	4時間
第8回	**地域課題解決の実践：自治体の取組み②（特別授業：首長リレー講座）** 特別講義として、自治体の首長（市長など）から、地域課題解決に関する方策、地域づくりの理念、自治体経営改革などについて説明を受け学ぶ。	特別講義の対象となる自治体について、参考文献やインターネット等でも適宜調べて理解を深める。	4時間
第9回	**提案内容の検討（中間報告会資料の作成）** 地域の課題に対する解決策について、現況把握、問題の発見、課題の設定、対応方針と方向性、実施する施策・事業、効果などの概要（アウトライン）を示す企画提案内容（たたき案）を作成する。	中間報告会にむけて、発表・説明内容の確認と、想定される質問の想定、回答の準備を行う。	4時間
第10回	**中間報告会** 施策・事業、効果などの企画提案内容（たたき案）を報告し、質疑応答等を行うとともに、グループの提案内容について意見交換を行い、課題や改善点を確認する。	指摘を受けた事項を整理し、改善が必要な事項、充実させる事項をまとめる。	4時間
第11回	**提案内容の見直し検討** 中間報告会の指摘事項を踏まえて、施策・事業、効果などの企画提案内容の見直しを行う。	企画提案内容の構成やその内容を検討する。	4時間

第12回	**最終報告会の資料作成** グループごとに検討、作成してきた施策・事業、効果などの企画提案内容を、分かりやすい説明資料や提案書として作成する。	最終報告会に向け、報告内容の確認など準備する。	4時間
第13回	**最終報告会** 施策・事業、効果などの企画提案内容を報告し、質疑応答等を行うとともに、グループの提案内容、プレゼン資料や内容に対し評価する。	質疑応答、意見交換の内容を整理し、さらに改善すべき事項がないかを確認する。	4時間
第14回	**まとめとふりかえり** これまでの学修内容をふりかえり、施策・事業、効果などの企画提案をまとめてきたことにより得た学修成果を確認したうえで、最終レポートを作成する。 これらを踏まえて、専門演習３以降の学修を考える。	これまでの学修内容をふりかえり、得られた知識をスキルを定着させるよう取組むとともに、専門演習３以降に向けての準備に入る。	4時間

232

授業科目名	**専門演習２【スポーツ】**				
担当教員名	**藤森梓・村田正夫・小島大輔・青野桃子・丸朋子・林悠太**				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

専門演習２では、卒業研究を行う上で必要となる知識や能力を身につけます。スポーツマネジメントの研究対象領域や調査方法等の基本的な考え方を学んでいきます。それらの講義や活動を通して以下の4点を目指します。
①スポーツマネジメントにおける研究対象領域を理解する。
②研究の基本的な手法を学ぶ
③エビデンスに基づいた説明や主張ができるようになる。
④スポーツに関する事象に興味関心を持ち、自ら問いを立てることができるようになる。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.スポーツ産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	研究の基本的な手法	研究の基本的な手法を身に付けている。
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	スポーツマネジメントにおける研究対象領域	スポーツマネジメントにおける研究対象領域を理解している。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		エビデンスに基づいた説明や主張ができるようになる。
2. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		研究/企画書に関する知識を習得し自らの課題を発見できる。
3. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		自らの課題に対して計画し立案できる。
4. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		スポーツに関する事象に興味関心を持ち、自ら問いを立てることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
演習課題への取り組み	70 %	： 「何を学んだかわかるものになっているか」、「学びの振返りが出来ているか」を評価の基準とする。
研究計画書の評価		： 独自のルーブリックに基づき評価する。

10 %

講義に対する態度や姿勢 : 普段の講義に対する態度やグループ学習での姿勢を評価する。

10 %

期末レポート : 独自のルーブリックに基づき評価する。

10 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

必要に応じて紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 教員によって異なるため、適宜連絡します

場所： 各研究室

備考・注意事項： 用事がある際は、随時担当教員に事前に確認をとること

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**専門演習２のねらいと進め方** 専門演習２の概要を確認し、卒業論文の計画を作成するまでのプロセスを学びます。	専門演習１の振返りをしてくること	4時間
第2回	**研究論文としての文章作法（１）引用、参考文献一覧** 良いレポート・論文の条件、知的な文章を書くポイント、文章力をアップさせる方法、引用、参考文献一覧の書き方について学び、レポートの改善方法について検討してもらいます。	授業内で提示されたレポートをさらに改善できないか検討すること	4時間
第3回	**スポーツマネジメント領域の理解（１）（中間発表聴講）** ４年生の卒業研究中間発表会の見学を行い、発表に対してコメントしてもらいます。	興味・関心を持った中間発表内容についてまとめること	4時間
第4回	**研究論文としての文章作法（２）課題の提出・発表** グループでレポート改善を検討した結果をまとめ、プレゼンテーションをおこないます。	前々回の授業を基に、レポート改善について、発表資料作成をすること	4時間
第5回	**定量的分析の理解（１）単純/クロス集計、記述統計量等** 集計方法の違いとその特徴について学び、データの集計とその分析をしてもらいます。	授業時に使用したデータを別の集計方法で分析してみること	4時間
第6回	**定量的分析の理解（２）分析結果の発表** グループで統計的手法を用いて分析した結果をまとめ、プレゼンテーションをおこないます。	実際のデータを入手し、統計的手法を実践し、発表資料作成をすること	4時間
第7回	**定量的分析の理解（３）相関、因果関係等** 相関、因果関係等の統計的手法を用いて、データを分析してもらいます。	実際のデータを入手し、統計的手法を実践すること	4時間
第8回	**定量的分析の理解（４）分析結果の発表** グループで相関、因果関係等の統計的手法を用いて分析した結果をまとめ、プレゼンテーションをおこないます。	実際のデータを入手し、統計的手法を実践し、発表資料作成をすること	4時間
第9回	**定性的分析の理解（１）内容分析、コーディング、KH coder** 内容分析等の定性的データの分析方法について学び、資料を基に分析を体験してもらいます。	実際の資料を入手し、内容分析を試みること	4時間
第10回	**定性的分析の理解（２）分析結果の発表** グループで定性的分析を実施した結果をまとめ、プレゼンテーションをおこないます。	授業時に使用したデータについて定性的分析を試みてみること	4時間
第11回	**スポーツマネジメント研究の概観（ゼミ紹介ふりかえり）** 卒業研究発表会の聴講およびゼミ紹介をふりかえり、自身の卒業論文として興味のあるポーツマネジメントにおける研究領域を考えます。	予めスポーツマネジメントに関するどの様な事象に興味があるのか考えてくること	4時間
第12回	**研究計画の作成**	研究計画の概要書を作成すること	4時間

	ゼミの教員が提示するテーマを基に、各自が興味・関心のある研究課題を選定して量的調査を用いた研究計画を立ててもらいます。		
第13回	**授業のまとめ** 本講義のまとめを行います。研究手法の振り返りとスポーツマネジメント領域の再確認を行います。	専門演習２の学修内容と自身が会得した知識・能力の振り返りを行うこと	4時間
第14回	**スポーツマネジメント領域の理解（２）（最終発表聴講）** ４年生の卒業研究最終発表会の見学を行い、発表に対してコメントしてもらいます。	興味・関心を持った発表内容についてまとめること	4時間

233

授業科目名	**専門演習３【経営】**				
担当教員名	山崎哲弘				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

専門演習３では、人的資源管理論の諸管理を学ぶとともに、労政時報など人事系専門紙などから具体的な企業の人事施策例を調査し、今後企業における人材育成施策や人事評価などがどのように変化していくのか、また求められるのかを皆さんとともに探求していく。前半は指定のテキストを輪読し、グループ学習・発表を行う。後半は各自の興味・関心ごとに個人研究を行い、最終的には研究計画書のアウトラインまで作成することを目標とする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.現代社会におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	文献購読やニュースの情報理解を通して基礎知識を習得する	社会の課題に対して経営学視点から論じることができる
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	人的資源管理の専門知識と研究課題の調査分析を行う	企業における人事・労務管理の現状について、課題とか行ける策を論じることができる
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		自らの研究の課題を発見することができる
2. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		様々な活動に積極的に参加し、自ら体験し、実践することができる
3. DP８.他者とのコミュニケーション		自主的に発言・行動し、他社を巻き込むことができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
課題提出	70 %	： 与えられた課題に対して、論理的に論述できているかどうかを評価する。
授業態度	20 %	： チームで取り組む課題については「主体的に取り組めているか」「他者と協調性を持って取り組めているか」の２点から評価する。また課題発表は報告の内容によって評価する。
期末レポート		： 「何を学んだかわかるものになっているか」「学びの振り返りができているか」を評価の基準とする。

10　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

太田肇（2008）『日本的人事管理論』中央経済社。ISBN-13　：　978-4502661501

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　月曜日１限

場所：　西館２階研究室

備考・注意事項：　通常開講時間以外の実施を行います。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス－専門演習と卒業研究に関する説明** 授業計画の説明と大学での研究活動に関する基本の理解。研究倫理教育の実施。	自身の興味のある分野について考えておく。また与えられた自己紹介課題を作成する。	4時間
第2回	**プレゼン演習とレクチャー** ゼミメンバーの自己紹介、レポートと論文の違いについて学習する。	各自、興味のある分野についての発表資料をまとめる。	4時間
第3回	**個人研究テーマの探索** 各自興味があるテーマについて、現状を調査し、問題意識や明らかにしたい点を発表する（３分程度）	指定テキストの第1章のまとめ及び個人研究テーマ資料作成	4時間
第4回	**テキストまとめ＆個人研究①** 発表担当者は、「第１章１、２節」をまとめた配布資料を配り、発表を行う。 個人研究：テーマ（仮）の発表	指定テキストの第1章のまとめ及び個人研究テーマ資料作成	4時間
第5回	**テキストまとめ＆個人研究②** 発表担当者は、「第１章３、４、５節」をまとめた配布資料を配り、発表を行う。 個人研究：テーマ（修正版）および問題意識の発表	指定テキストの第２章のまとめ及び個人研究テーマ資料作成	4時間
第6回	**テキストまとめ＆個人研究③** 発表担当者は、「第２章１、２節」をまとめた配布資料を配り、発表を行う。 個人研究：課題に対する現状分析の発表	指定テキストの第２章のまとめ及び個人研究テーマ資料作成	4時間
第7回	**テキストまとめ＆個人研究④** 発表担当者は、「第２章３節」をまとめた配布資料を配り、発表を行う。 個人研究：テーマに関する文献調査の報告	指定テキストの第３章のまとめ及び個人研究テーマ資料作成	4時間
第8回	**テキストまとめ＆個人研究⑤** 発表担当者は、「第２章４節、第３章１節」をまとめた配布資料を配り、発表を行う。 個人研究：テーマに関する文献調査の報告	指定テキストの第３章のまとめ及び個人研究テーマ資料作成	4時間
第9回	**テキストまとめ＆個人研究⑥** 発表担当者は、「第３章２、３節」をまとめた配布資料を配り、発表を行う。 個人研究：テーマに関する課題について	指定テキストの第３章のまとめ及び個人研究テーマ資料作成	4時間
第10回	**テキストまとめ＆個人研究⑦** 発表担当者は、「第３章４、５節」をまとめた配布資料を配り、発表を行う。 個人研究：テーマに関する課題について	指定テキストの第4章のまとめ及び個人研究テーマ資料作成	4時間
第11回	**テキストまとめ＆個人研究⑧** 発表担当者は、「第４章１、２節」をまとめた配布資料を配り、発表を行う。 個人研究：テーマに関する研究方法の発表	指定テキストの第4章のまとめ及び個人研究テーマ資料作成	4時間
第12回	**テキストまとめ＆個人研究⑨** 発表担当者は、「第４章３、４節」をまとめた配布資料を配り、発表を行う。 個人研究：研究計画書の発表１	指定テキストの終章のまとめ及び個人研究テーマ資料作成	4時間

第13回	**テキストまとめ＆個人研究⑩** 発表担当者は、「第４章５節、終章」をまとめた配布資料を配り、発表を行う。 個人研究：研究計画書の発表２	個人研究の最終発表資料の作成	4時間
第14回	**研究計画書の作成** テキストの総括 個人研究：研究計画書のスケジュール作成	前期の取り組みを振り返る	4時間

233

授業科目名	**専門演習３【経営】**				
担当教員名	中井秀樹				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

社会におけるICTの利活用に関して、様々な調査・研究を行う。特に、今後の専門的な研究活動に備えて、比較的短い期間での調査・報告を行う事で、研究活動の実践的経験を積むと同時にその精度を高めていく。
また、研究における批判的思考能力の向上を目指して、アカデミックディベートを実施する予定であり、可能であれば学外との連携でのディベートなどにも参加する。
年度末には、次年度取組予定の卒業研究に関する調査活動を開始する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	調査活動に必要となる様々なスキルや実際に調査することによる知識の習得を目指す。	論文執筆や発表のスキルの修得し、きちんと執筆・発表ができる
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	自己や他者の考えに触れ、その内容について論理的矛盾点などの検証を行う	ディベート活動により、批判的思考が身につき、自己評価・他者評価をきちんとできる
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		身近な環境における技術の応用や工夫に気付き、分析ができる
2. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		様々な活動に積極的に参加し、自ら体験をし、実践に活かせる
3. DP８.他者とのコミュニケーション		グループでの活動におけるコミュニケーションがきちんとできる
4. DP９.他者との協調・協働		ゼミメンバーと時に協力・協調し、特に切磋琢磨し、目的を達成するよう行動する

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への参加・貢献度	50 %	： 各人の活動やグループにおける活動での積極性や発言の度合いなどで評価 活動への参加および発言がない場合は、0点とする
報告内容	30 %	： 提出物や発表の内容によって評価 発表・レポートはルーブリック評価を行う
ポートフォリオ（学びの記録）	10 %	： 「何を学んだかわかるものになっているか」、「学びのふりかえりができているか」を評価の基準とする。

試験(期末レポート) : 14回の学びに対してのふりかえりときちんと行えており、今後の学修目標の設定に結び付けられている。

10 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

参考文献等:なし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間: 水曜4限

場所: 西館3階研究室

備考・注意事項: 通常開講時間以外の実施を行う場合があります。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス-専門演習と卒業研究に関する説明と理解、研究倫理の説明-** 授業計画の説明と大学での研究活動に関する基本の理解。また、研究活動を進める上で注意が必要な研究倫理についての説明を行う。	時事関連の調査	4時間
第2回	**プレゼン演習１ 自己紹介** 内容としてはよく認識している自己の情報を用いて、自己紹介として発表資料の作成とプレゼンテーションを行う事で、プレゼン技能の現状認識を行う。	時事関連の調査	4時間
第3回	**プレゼン演習２ 事例紹介による自己技能の向上** 調査した事例紹介のプレゼンテーションを行う。 主に自己の能力について、新しい取り組みによる技能向上を目指し、次回の目標設定につなげる。	時事関連の調査	4時間
第4回	**プレゼン演習３ 事例紹介による他者技能の確認** 調査した事例紹介のプレゼンテーションを行う。 主に他者の実施を観察し、内容の理解にとどまらず、プレゼン技能についての客観的な認識と橋上のための知見を得る。	時事関連の調査	4時間
第5回	**事例研究１ テーマ決定** 自己テーマの選択・決定の実施 様々な資料から、ショートタームのテーマ選定を行い、研究計画を立てる。	時事関連の調査	4時間
第6回	**事例研究２ テーマの調査** テーマ研究における調査活動 決定したテーマに関しての調査活動を行う。	時事関連の調査	4時間
第7回	**事例研究３ 資料整理、発表準備** 論理的展開のための資料集めと整理・管理	時事関連の調査	4時間
第8回	**報告会** テーマ内容の報告を行い、学修者間で評価を行う。	時事関連の調査、発表資料の指摘事項の確認と訂正	4時間
第9回	**事例研究４ テーマ決定** 自己テーマの選択・決定の実施 様々な資料から、ショートタームのテーマ選定を行い、研究計画を立てる。	時事関連の調査	4時間
第10回	**事例研究5テーマの調査** テーマ研究における調査活動 決定したテーマに関しての調査活動を行う。	時事関連の調査	4時間
第11回	**事例研究6 資料整理、発表準備** 論理的展開のための資料集めと整理・管理	時事関連の調査	4時間
第12回	**報告会** テーマ内容の報告を行い、学修者間で評価を行う。	時事関連の調査、発表資料の指摘事項の確認と訂正	4時間
第13回	**グループによる課題解決学習 役割分担** グループによる課題への取り組み	時事関連の調査	4時間
第14回	**グループによる課題解決学習 まとめとふりかえり** グループによる課題への取り組み	時事関連の調査、学修ポートフォリオ	4時間

233

授業科目名	**専門演習３【経営】**				
担当教員名	李美花				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本演習では、日本のサービス産業はどのような変遷を経て、どのような特徴をもち、今後どのように変化していくのかを皆さんとともに探求していく。具体的には、サービス産業に関する知識やスキールを中心にサービス理論と実践事例を学習する。専門演習３では、指定のテキストに沿って授業を進めるが、サービス事例を多く取り入れながらサービス業の理解を深めていく。各自、興味・関心ごとに個人研究を行い、最終的には報告書を仕上げることを目標とする。希望者がいれば、工場見学、企業訪問調査（国内外を含む）も行う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	問題を発見し、解決方法を見つける能力を身に付ける	個人研究の調査・発表を行い研究作業を理解できる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		自らの研究課題を発見できる。
2. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		研究課題の計画を立て、実行できる。
3. DP８.他者とのコミュニケーション		研究課題について、ディスカッションおよびプレゼンテーションできる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

サービスマーケティングに係る基礎知識と具体的な事例も交えながら講義による解説の進行にあわせ、ケーススタディーについて、受講者への問いかけやレポート課題を組み合わせて進めていく。

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
試験（課題作成・最終レポート）	40 %	： 試験（課題作成・最終レポート）、領域に関する基礎的な事項を理解し、整理・論述ができたかどうか、の観点より評価する。
平常点	30 %	： 「グループワークでの貢献度」「取り組む姿勢」の観点より評価する。
ポートフォリオ（学びの記録）	30 %	： 「何を学んだかわかるものになっているか」、「学びのふりかえりができているか」の観点より評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
近藤 隆雄	・ サービス・マーケティング	・ 生産性出版	・ 2010　年

参考文献等

【参考書】
講義中に適宜紹介する 。

履修上の注意・備考・メッセージ

★本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、毎回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
★必ず、毎回の授業の出席状況を各自確認すること
★授業のお知らせや課題などは、グーグルクラスルームを活用する。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　月曜日、4時限

場所：　研究室、西館2階

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**全体のガイダンス：授業の進め方、成績評価、研究倫理** ゼミナールの学びについて考える。また、研究倫理教育の実施。	配布した「自分の自己紹介」を作成する	4時間
第2回	**レクチャー「レポートと論文の違い」** ゼミメンバー紹介、「レポートと論文の違い」について学習する	各自、興味のある分野について考えておく	4時間
第3回	**個人研究のテーマ探し①レビュー探しをする** 各自興味のある分野について市場の規模、現況について調べて発表する（3分程度）	テキストの輪読＆まとめ（第4章）をする	4時間
第4回	**個人研究のテーマ探し②仮のテーマを決める** 前回の発表をレベルアップさせて個人研究の仮テーマを決め、発表する（3分程度）	指定テキストの目次を読んでおく	4時間
第5回	**テキストのまとめ（第4章：サービス商品の特徴：モノ製品とどこが違うのか）＆個人研究** 発表担当者は、「第4章　サービス商品の特徴：モノ製品とどこが違うのか」テキストのまとめた配布物を配り、発表する。個人研究のテーマ（仮）発表① ★学外授業：鶴橋商店街振興組合（予定）	事前学習としてテキストの輪読＆まとめ（第5章）をする	4時間
第6回	**テキストのまとめ（第5章：サービスプロダクトとモノ・プロダクト）＆個人研究** 発表担当者は、「第5章　サービスプロダクトとモノ・プロダクト」テキストのまとめた配布物を配り、発表する。個人研究のテーマ（仮）発表②	事前学習としてテキストの輪読＆まとめ（第6章）をする	4時間
第7回	**テキストのまとめ（第6章：サービスの達人）＆個人研究** 発表担当者は、「第6章　サービスの達人」テキストのまとめた配布物を配り、発表する。個人研究発表「産業分析」	事前学習としてテキストの輪読＆まとめ（第7章）をする	4時間
第8回	**テキストのまとめ（第7章：サービス商品の特徴―サービス・エンカウンターの設計）＆個人研究** 発表担当者は、「第7章　サービス商品の特徴―サービス・エンカウンターの設計」テキストのまとめた配布物を配り、発表する。個人研究発表「現状分析」	事前学習としてテキストの輪読＆まとめ（第8章）をする	4時間
第9回	**テキストのまとめ（第8章：サービスの分類と構成要素）＆個人研究** 発表担当者は、「第8章　サービスの分類と構成要素」テキストのまとめた配布物を配り、発表する。個人研究発表「課題発見＆文献調査」	事前学習としてテキストの輪読＆まとめ（第9章）をする	4時間
第10回	**テキストのまとめ（第9章：サービス品質）＆個人研究：学外授業** 発表担当者は、「第9章　サービス品質」テキストのまとめた配布物を配り、発表する。個人研究発表「仮説設定」 学外授業：鶴橋商店街振興組合を訪問し、在来市場の現状と課題についてフィールドサーベイを行う。	事前学習としてテキストの輪読＆まとめ（第10章）をする	4時間
第11回	**テキストのまとめ（第10章：顧客価値の実現とサービス組織）＆個人研究** 発表担当者は、「第10章　顧客価値の実現とサービス組織」テキストのまとめた配布物を配り、発表する。個人研究発表「研究方法選定」	事前学習としてテキストの輪読＆まとめ（第11章）をする	4時間
第12回	**テキストのまとめ（第11章：サービス・マーケティング・ミックス）＆個人研究** 発表担当者は、「第11章　サービス・マーケティング・ミックス」テキストのまとめた配布物を配り、発表する。個人研究発表「研究計画書の作成」①	事前学習としてテキストの輪読＆まとめ（第12章）をする	4時間
第13回	**テキストのまとめ（第12章：サービス・マネジメント・システム）＆個人研究**	事前学習としてテキストの輪読＆まとめ（第13章）をする	4時間

	発表担当者は、「第12章　サービス・マネジメント・システム」テキストのまとめた配布物を配り、発表する。個人研究発表「研究計画書の作成」②		
第14回	**テキストのまとめ（第13章：サービス・プロフィット・チェーン）＆個人研究** 発表担当者は、「第13章　サービス・プロフィット・チェーン」テキストのまとめた配布物を配り、発表する。個人研究発表「研究計画書のスケジュール作成」 個人研究の最終発表＆これまでの学びの確認と反省会：前期の総括及び、これまでの個人研究の最終発表を行う	これまでの授業内容を振り返ってみる	4時間

233

授業科目名	専門演習３【経営】				
担当教員名	児山俊行				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

専門演習３では新製品・新サービスの開発・イノベーションについて考えていきます。例えば、テクノロジーの進展が自動的に人々の生活をよりよくするとは限りません。生活の「意味」を変革する「デザイン」的発想があってこそ、人々と企業自らに価値創造の喜びを与えるからです。従来の狭い「デザイン」の枠を飛び越えた新たな「デザイン」、また新たなイノベーションによる「文化開発」のあり方を、テキストを読み込んでゼミナールに参加した学生間の議論を通じて探っていきたい。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	テキストの予習による基礎知識を習得した上でのゼミナール議論を通じて、一層の専門的知識の理解を深めていく。	議論を通じてのイノベーションの立体的理解

汎用的な力	
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用	イノベーションによる組織成果の成否の要因を分析する力の習得
2. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み	自主的にリサーチを行い、新製品の特別な意味を紡ぎ出す熟慮
3. DP８.他者とのコミュニケーション	新製品に関するリサーチやコンセプトについて相互批評を行う
4. DP９.他者との協調・協働	新製品のプレゼンにおいて相互評価を行うことでコンセプトをブラッシュアップさせる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業態度	10 %	： 授業への集中度や質疑応答などの積極性で評価する。
授業ごとの課題の提出	70 %	： 課題の提出などの成果で評価する。提示された課題解決へのグループ活動での自己の役割遂行や解決提案の策定などの成果で評価する。

発表（新製品・サービスのコンセプト）　：　自らの演習の積み重ねから学んだことを活用し、独自の新製品コンセプトを発表する。

20　％

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

三宅秀道『新しい市場のつくりかた』東洋経済新報社、2012年
(ISBN-10　：　4492522050　ISBN-13　：　978-4492522059)

その他、参考文献は必要に応じて紹介・指示する予定。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　火曜日２限

場所：　担当教員の研究室（西館３F西側）

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション―イノベーションとは何か** イノベーションの定義について学ぶ。また、研究倫理教育の実施。	イノベーションの多義性について調べる。	4時間
第2回	**デザインによるイノベーション** モノに意味を与える「デザイン」―ジョブズの発明より	ジョブズのイノベーションの歴史について調べる。	4時間
第3回	**デザインと意味①** 全ての製品が持つ意味について―メイド・イン・イタリーを考える	ユニークなイタリア製品を調べる	4時間
第4回	**デザインと意味②** デザインについての諸説の理解	ユニークな（過去の）日本製品について調べる。	4時間
第5回	**ラジカルなイノベーションとは** ユーザー中心のイノベーションと意味のイノベーションの違いについて	日本の最近の家電メーカーの新製品について調べる	4時間
第6回	**技術とデザインの「結婚」** Wiiや任天堂、スウォッチ、iPhone等の事例研究	任天堂の製品の歴史について調べる	4時間
第7回	**デザインによる価値創造** プロダクトライフサイクルからの解放	プロダクトライフサイクルに基づく新製品の成長・成熟化について調べる	4時間
第8回	**中間理解度確認** 今までの「デザイン」と意味のイノベーションの確認と理解度を見る。	７回までの新製品開発ポイントと自身の理解度の振り返り	4時間
第9回	**社会文化の解釈者たち** クリエイティブな人々との「対話」の重要性	ウォシュレットの誕生について調べる	4時間
第10回	**微弱な徴候をつかむ** 地理的近接性と「対話」	水泳帽など現在では当たり前の製品の普及について調べる	4時間
第11回	**新たなビジョンの構築** アレッシィやアルテミデの製品についての事例研究	アレッシィ製品の特性や売れ行きを調べる。	4時間
第12回	**事例研究～最近の新製品について** 最近の新たな製品やサービスの開発プロセスを学ぶ	ユニークな新製品とその開発プロセスを調べる。	4時間
第13回	**新ビジョンと経営者の役割** 新ビジョンを得るための経営者の役割について考える	独特の製品を世に送ってきた著名な起業家について調べる	4時間
第14回	**発表会** 独自の新製品コンセプトを打ち出し発表する。	発表会での新製品コンセプトのブラッシュアップと発表会の準備	4時間

233

授業科目名	専門演習３【経営】				
担当教員名	稲村昌南				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

「企業の成長と進化、これからのビジネスにおける企業間競争の在り方」を大きなテーマとして経営戦略に関する基礎知識を習得し、ICTを活用した企業のグローバルな活動を概念レベルで理解できるようにすることを目標とします。一方で、データ分析の基本的な手法を学習し、情報の利活用能力の向上も目指します。なお、14回の授業のうちの5回については、主体性や協調性といった社会で求められる汎用的な能力の育成を目的としたグループ学習を実施します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	企業の戦略的行動に関する知識	企業の行動の背後にある戦略的な思惑について理解できる。
汎用的な力		
1. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		与えられた課題に対して主体的に取り組み、一定の成果を出すことができる。
2. DP９.他者との協調・協働		グループでの活動において発言・行動し、目的に向かって協力して取り組むことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業における課題	40 %	： 「自分の考えを明確かつ論理的に表現できているか」、「課題テーマに対して適切な情報を収集できているか」という2つの観点から評価する。
取組む姿勢	40 %	： チームで取り組む課題については「グループワークに主体的に取り組めているか」、「他者と協調性を持って取り組めているか」という2つの観点から評価する。
ポートフォリオ（学びの記録）	20 %	： 「何を学んだかわかるものになっているか」、「学びのふりかえりができているか」を評価の基準とする。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜、指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日3時間目

場所： 西館3階45研究室

備考・注意事項： classroom上での連絡も可能

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**研究倫理について** 研究における著作権と個人情報保護の重要性について理解します。	研究における著作権の侵害に関する事例とその問題点について調査します。	4時間
第2回	**情報化の進展** 就労人口、GDPといった数値から情報化の意味を理解します。	社会が情報化している具体的な事例について調査します。	4時間
第3回	**企業経営と情報化（1）情報化のプロセス** 情報化は、産業の情報化、情報の産業化、企業の情報化といったプロセスを経て深化していったことを確認します。	スマートアグリなど近年の情報化の広がりについて調査します。	4時間
第4回	**企業経営と情報化（2）企業の知識集約化** 企業があらゆる情報を駆使して経営している姿を学びます。	企業のデータ活用の事例について調査します。	4時間
第5回	**企業のグローバル戦略** 企業に押し寄せるグローバル化の波がどのような課題を突きつけているか学びます。	自動車産業に起きている課題について調査します。	4時間
第6回	**ローカライゼーション** 日本企業が現地化（ローカライゼーション）という課題に直面し、どのように対応しようとしているかを学びます。	ローカライゼーションに成功している日本企業の事例について調査します。	4時間
第7回	**グローバライゼーション** 日本企業が海外の子会社をどのようにコントロールして世界戦略を展開しているかを学びます。	トヨタの世界戦略について調査します。	4時間
第8回	**グループ学習（1）ブレーンストーミングとKJ法** 課題テーマに対して、できるだけ多くの意見を出し合います。	グループの中で決められた自分の課題を次週までに行います。	4時間
第9回	**グループ学習（2）問題の発見** 出された意見の中から、課題テーマに対して重要と思われる問題を抽出します。	グループの中で決められた自分の課題を次週までに行います。	4時間
第10回	**グループ学習（3）提案書の作成** 問題に対してそれを解決すると思われる提案をまとめます。	グループの中で決められた自分の課題を次週までに行います。	4時間
第11回	**グループ学習（4）プレゼン準備** 発表資料をパワーポイントで作成します。	グループの中で決められた自分の課題を次週までに行います。	4時間
第12回	**グループ学習（5）提案のプレゼンテーション** 各グループの提案をプレゼンし、意見交換します。	次週までにふり返りシートを完成させます。	4時間
第13回	**データ分析実習（1）表とグラフの作成、相関分析** データ分析の基本となる表計算とグラフの作成および相関分析を学びます。	表とグラフの作成に関する課題を完成させます。	4時間
第14回	**データ分析実習（2）時系列分析** 周期的な売上の傾向を見るための時系列分析の方法を学びます。	時系列分析を使った課題を完成させます。	4時間

233

授業科目名	専門演習３【経営】				
担当教員名	笠岡恵理子				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

この授業では、財務諸表を構成する貸借対照表と損益計算書における会計項目について学習し、財務諸表から得られる情報、および財務諸表が持つ社会で果たす役割の重要性と意義について理解することを目的とする。同時に、各会計基準における論点についても学習することで、今後の個人研究への課題策定につなげていく。また、実際の企業における財務およびESG等の非財務情報を用いて企業を分析することで、情報分析能力を身につけていく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	会計に関する基礎知識を身に付け、そこにおける論点を整理し、発表を行う。	会計に関する論点を発見し、それを論理的に説明および議論することができる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		自らの研究課題を発見することができる。
2. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		研究課題の計画を立て、実行することができる。
3. DP７.実践の完遂		与えられた課題を詳細に調べ、やり遂げることができる。
4. DP８.他者とのコミュニケーション		研究課題について、ディスカッションおよびプレゼンテーションを行うことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
提出課題	40 %	： 与えられた課題について、授業で学習した内容を踏まえて、論理的に記述されているかで評価する。
授業への積極的参加	30 %	： グループワークおよびプレゼンテーションについて、積極性および他との協調性を持って、相手に伝わる説明ができているかという点から評価を行う。
期末レポート	30 %	： 授業内容の理解度を評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

桜井久勝『財務諸表講義（第24版）』中央経済社、2023年（ISBN：978-4-502-46061-6）。
井上達男、山地範明『エッセンシャル財務会計（第4版）』中央経済社、2021年（ISBN：978-4-502-37881-2）。
橋本尚、山田善隆『IFRS会計学基本テキスト（第7版）』中央経済社、2022年（ISBN：978-4-502-42611-7）。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　月曜2限目

場所：　個人研究室（西館2F）

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス：授業計画および研究倫理** ゼミにおけるこれからの授業計画と研究倫理教育に関する説明を行う。	自己紹介を行うので、各自事前に準備しておくこと。次回の授業に向けて与えられた課題に対するアイデアを考えておく。	4時間
第2回	**グループワーク（１）課題の発見とディスカッション** 課題解決に向けて必要な会計に関する知識についての説明を行い、それに基づいてグループでディスカッションを行い、意見を出し合う。	資料作成に向けて、より効果的なプレゼンテーションを行うために必要な情報を集めておく。	4時間
第3回	**グループワーク（２）発表資料作成** 第2回で行ったディスカッションを基にして、発表資料の作成を行う。	発表資料の作成	4時間
第4回	**グループワーク（３）発表** 第3回で準備した資料を用いて発表を行う。発表後に行う質疑応答やコメントを踏まえて、内容にどのような改善が必要かを考える。	発表内容に関する改善点について考え、配布された用紙にまとめておく。	4時間
第5回	**グループワーク（４）課題に対する内容の改善** 第4回における質問やコメントを踏まえて、どのような内容の改善が必要かについてグループでディスカッションし、その改善について発表を行う。	次週に向けて、損益計算書における売上総利益、営業利益、経常利益、税引前当期純利益、当期純利益について、および貸借対照表における資産、負債、純資産の意味を調べておく。	4時間
第6回	**財務諸表の内容と社会的役割** 貸借対照表と損益計算書の内容とそこから得られる情報について学習する。また、財務諸表が持つ機能と社会的役割についても検討する。	次週に向けて、各自授業中に与えられた企業会計原則の一般原則に関する課題に取り組み、発表に向けての資料作成を行う。	4時間
第7回	**会計理論と会計基準** 会計基準の設定と問題点、および企業会計原則の一般原則について学習する。各自与えられた課題について、内容を調べ、資料を作成し、発表を行う。	次週に向けて、各自授業中に与えられた資産評価の基準に関する課題に取り組み、発表に向けての資料作成を行う。	4時間
第8回	**利益測定と資産評価** 現金主義と発生主義、および資産評価の基準について学習する。各自与えられた課題について、内容を調べ、資料を作成し、発表を行う。	次週に向けて、各自授業中に与えられた現金預金の範囲、有価証券の範囲と区分に関する課題に取り組み、発表に向けての資料作成を行う。	4時間
第9回	**現金預金と有価証券** 現金および預金の範囲、およびお有価証券の範囲と区分、取得原価、期末評価について学習する。各自与えられた課題について、内容を調べ、資料を作成し、発表を行う。	次週に向けて、各自授業中に与えられた棚卸資産の範囲と区分、および払出単価の決定方法に関する課題に取り組み、発表に向けての資料作成を行う。	4時間
第10回	**棚卸資産** 棚卸資産の範囲と区分、取得原価、払出単価の算定方法、期末評価について学習する。各自与えられた課題について、内容を調べ、資料を作成し、発表を行う。	次週に向けて、各自授業中に与えられた有形固定資産の減価償却方法に関する課題に取り組み、発表に向けての資料作成を行う。	4時間
第11回	**有形固定資産** 有形固定資産とは、有形固定資産の取得原価、減価償却方法、および期末評価について学習する。各自与えられた課題について、内容を調べ、資料を作成し、発表を行う。	次週に向けて、各自授業中に与えられた無形固定資産の種類に関する課題に取り組み、発表に向けての資料作成を行う。	4時間

第12回	**無形固定資産** 無形固定資産の種類、取得原価、および償却について学習する。各自与えられた課題について、内容を調べ、資料を作成し、発表を行う。	次週に向けて、各自授業中に与えられた負債の項目に関する課題に取り組み、発表に向けての資料作成を行う。	4時間
第13回	**負債** 負債の範囲と区分、流動負債、固定負債、引当金、および偶発債務について学習する。各自与えられた課題について、内容を調べ、資料を作成し、発表を行う。	次週に向けて、各自授業中に与えられた純資産の項目に関する課題に取り組み、発表に向けての資料作成を行う。	4時間
第14回	**純資産** 純資産の構成、資本金と資本剰余金および留保利益について学習する。各自与えられた課題について、内容を調べ、資料を作成し、発表を行う。	これまでに配布した資料の復習を行い、今後の研究課題について考えておく。	4時間

233

授業科目名	専門演習３【経営】				
担当教員名	海野大				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大手通信事業者で新サービス開発，新規事業立ち上げ，マーケティング・リサーチ／顧客データ分析，情報システム企画・要件定義・プロジェクト管理に従事．（全14回）				

授業概要

専門演習3・4では，学外の複数の企業等と連携し，企業等が実際に直面している経営課題をテーマとして提示していただくとともに，課題の分析や解決策の検討に必要な情報やデータを提供していただき，学生が，企業等からテーマとして提示された経営課題を自分なりの観点で分析して，解決策を検討し，企業等に提案します．現実の経営課題に取り組み，悩みながらも，自分なりの解決策を考え，提案するという経験を通して，社会で通用する実践力を身につけます．
前期の専門演習3では，企業等から提示されたテーマについて詳細に検討してその内容を深く理解し，解決すべき問題を具体的に定義するとともに，原因や解決策について仮説を立て，データを分析することにより仮説の検証を行います．そして，分析結果と解決の方向性について，連携先企業等に報告・提案を行います．

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	企業の経営課題解決のためのデータ活用	企業等の経営課題に対し，適切な情報収集とデータ分析，論理的思考によって解決策を提案できる．
汎用的な力		
1．DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		データの収集，整理，加工を行い，適切な分析手法を適用できるようになる．
2．DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		データ分析による仮説検証と考察により，課題解決策を立案できる
3．DP９.他者との協調・協働		グループでの活動において，メンバーと協力し，作業を分担するとともに，積極的に提言，行動し、目的達成に向けて取り組むことができる．

学外連携学修

有り(連携先：一般企業（非公開））

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
連携先企業への提案	50 %	： 経営課題の内容の理解と分析結果の考察，課題解決の方向性の提案内容により評価します．
取り組み内容	30 %	： グループ活動における主体性，貢献度，成果物（レポート，プレゼン等）により評価します．
期末レポート	20 %	： 自らの活動と学びの振り返りの内容により評価します．

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

必要な教材，資料は教員から提供します.

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため，平均すると毎回4時間の授業外学修が必要です.
さらに，連携先企業へのヒアリングやフィールドワークに取り組み，その成果をまとめ，企業への提案に活用できるようにすることが必要です.

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　前期：火曜日３時限　後期：水曜日5時限

場所：　研究室（西館３階）

備考・注意事項：　事前にメールでアポイントメントをとるようにしてください.
メールアドレス：unno@g.osaka-seikei.ac.jp

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション** 連携先企業等の概要，取り組む経営課題のテーマの内容を理解するとともに，活動計画を確認します. 大学における研究活動の方法，研究倫理について学びます.	自分が取り組みたい企業等と課題テーマについて考える.	4時間
第2回	**連携先企業等からの課題提示** 連携先企業等から，企業の概要，経営環境，経営戦略，経営課題テーマ，学生に期待することなどについて説明していただき，その後質疑応答を行います.	自分が取り組みたい企業と課題テーマについて考える.	4時間
第3回	**経営課題を理解する** 連携先企業等の経営環境，業界構造，経営理念・目標，解決すべき経営課題について，連携先企業等からの説明や提供された資料などに基づき，深く理解します.	連携先企業等の経営環境や経営課題に関連する文献等を調べる.	4時間
第4回	**問題を定義し仮説を立案する** 経営課題の解決とは，あるべき経営の状況（収益性，売上高・市場シェア，事業基盤などの状況）と現実の経営状況とのギャップを明確化し，そのギャップを埋めるための具体的な取り組み内容を策定し，実行することです．あるべき状況と現実の状況とのギャップの内容や原因を探求し明確化することを，「問題を定義する」といいます．ここでは，各自が取り組む課題テーマについて，問題を定義します. そして，ギャップを生み出している原因とその解決策に関する仮説を立案し，仮説の検証方法（既存のデータを分析する，新たにアンケート調査を行う等）を検討します．また，仮説検証のためにどのようなデータが必要か検討します.	各自の問題を定義し，原因と解決策について複数の仮説を立てる.	4時間
第5回	**問題解決のためのデータ分析手法を学ぶ（1）Rの使い方** データ分析に最もよく使われる統計ソフトRの使い方を学びます.	授業で行った演習課題を復習する.	4時間
第6回	**問題解決のためのデータ分析手法を学ぶ（2）仮説検定** Rを用いて，仮説を検証するためのデータ分析手法（仮説検定等）を演習形式で学びます.	授業で行った演習課題を復習する.	4時間
第7回	**問題解決のためのデータ分析手法を学ぶ（3）回帰分析** Rを用いて，仮説を検証するためのデータ分析手法（回帰分析等）を演習形式で学びます.	授業で行った演習課題を復習する.	4時間
第8回	**フィールドワークを行う** 連携先企業等へのヒアリングや現地調査を行い，立案した仮説や仮説検証方法の妥当性について確認を行います．連携先企業等からのフィードバックに基づき，仮説の内容や検証方法について見直しを行います.	ヒアリングや調査結果について要点を整理し，自らの仮説の妥当性について確認する.	4時間
第9回	**データを収集する** 仮説検証に必要なデータを収集し，分析できるように整理します．必要に応じて，連携先企業等の協力を仰ぎます.	収集もしくは連携先企業等から提供されたデータを整理し，内容を確認する.	4時間
第10回	**仮説を検証する** 収集したデータに基づき，仮説検定の方法により仮説を検証します.	仮説検定結果を整理し，確認する.	4時間
第11回	**仮説検証結果を考察する** 仮説検証結果を考察し，解決の方向性についてまとめます．連携先企業等へのプレゼンテーションの資料を作成します.	仮説検証の考察結果をまとめ，プレゼンテーション資料を作成する.	4時間

第12回	**プレゼンテーションの準備をする** プレゼンテーションのリハーサルを行います.	プレゼンテーション資料をブラッシュアップするとともに，リハーサルを行う.	4時間
第13回	**連携先企業等へプレゼンテーションする** 解決すべき問題の定義，原因や解決策に関する仮説とその検証結果，解決の方向性について，連携先企業等に報告・提案を行います.	連携先企業からのフィードバックなどをもとに，プレゼンテーションを振り返る.	4時間
第14回	**振り返りと後期の活動計画を立てる** 連携先企業からのフィードバックなどをもとに，後期に行う課題解決策の効果検証の実施計画を作ります.	後期に行う活動項目を整理し，計画書を作成する.	4時間

233

授業科目名	**専門演習３【食】**				
担当教員名	髙畑能久				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大手総合食品メーカーの中央研究所で研究・商品開発および新規事業を経験。その後、グループ経営本部 経営企画部にて事業戦略の立案および投融資などを担当（全14回）。				

授業概要

この授業では、専門演習１・２での学びを踏まえ、興味をもった分野の先行研究・事例を調査し、自ら設定した研究課題を探究するため仮説を立て、多くの選択肢の中から最適な検証手段を選択し、調査研究の過程を通して、その解決策を探究します。研究倫理、文献検索の方法、実地調査の進め方、専門知識やスキルを修得しながら、自ら主体的に卒業研究に取り組むことが求められます。食ビジネスの新たな価値創造と更なるスキルアップをめざし、食品開発、食の安全マネジメント、食の持続可能性などを中心とした研究領域に挑戦します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	研究倫理、文献検索の方法、実地調査の進め方、専門知識やスキルを修得し、主体的に卒業研究に取り組む。	自ら設定した研究課題を解決するため仮説を立て、最適な検証手段を選択し、その解決策を探究できる。

汎用的な力	
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用	自ら研究課題を設定し、情報の収集・分析を進めることができる。
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案	仮説を検証するため、最適な検証手段やアクションプランを企画・立案できる。
3. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み	自ら主体的に行動し、PDCAサイクルを回しながら研究・開発を実践できる。
4. DP10.忠恕の心	誠実で思いやりのある人、周囲から頼りにされる人になることをめざす。

学外連携学修

有り(連携先：株式会社ローソン、NSW株式会社 他)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・見学、フィールドワーク

・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内のワーク	20 %	： 課題設定および仮説検証のプロセスが妥当かつ効果的であったか、主体的な取り組み姿勢であったかどうかを評価します。
ポートフォリオ（学びの記録）	20 %	： 卒業研究を通して何を学ぶことができたのか分かるものになっているか、学びの振り返りができているかを評価します。
中間・期末発表		： 発表内容（専門性・実践力）が適切であり、自らの主張を伝えられたかどうか、相手の意図を理解して適切に応答できたかどうかを評価します。

40　%

期末レポート　：　指定された日時までに提出された期末レポート（研究計画、概要含む）について、社会背景、目的、アクションプランを明確に示せているかを評価します。

20　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

戸田山和久『新版　論文の教室-レポートから卒論まで-』（NHK出版、2017年、ISBN978-4-14-091194-5）
西澤幹雄『はじめての学会発表』（化学同人、2017年、ISBN978-4-7598-1930-4）
その他、テーマ毎に必要に応じて紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
※各自のテーマ毎の進捗状況などに合わせ、授業の順番や内容を一部変更する場合がある。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜２限

場所：　髙畑研究室（西館２階）

備考・注意事項：　授業の前後以外で質問したい場合は、メールにて受け付けます（takahata@osaka-seikei.ac.jp）。件名には必ず、所属・学籍番号・氏名を明記してください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンスと卒業研究の進め方・研究倫理** 卒業研究の進め方、研究倫理、文献検索や資料収集、図書館の活用方法、ビジネスマナーについて学びます。	研究倫理に関する事例を調べておいてください。	4時間
第2回	**研究テーマの設定①（アイデア出し）** 興味をもった課題の現状と今後の動向を見据え、先行研究や先行事例の調査を行い、各自で解決すべき最も重要なテーマとは何かを考えます。	各自でテーマ設定のため先行研究・事例の調査を行ってください。	4時間
第3回	**研究テーマの設定②（課題を具体化する）** 前回考えた研究領域についてより詳細に先行研究や先行事例の調査を行い、変革が求められる領域を特定し、各自で研究したいテーマを具体的に考えます。	各自でテーマ設定のため先行研究・事例の調査を行ってください。	4時間
第4回	**研究テーマの設定③（課題を絞り込む）** 前回考えた研究領域をさらに細分化し、先行研究や先行事例の調査を行い、各自で卒業研究として取り組めるテーマを絞り込みます。	各自でテーマ設定のため先行研究・事例の調査を行ってください。	4時間
第5回	**仮説を立てる①（真因を探る）** 前回絞り込んだ研究テーマについて、想定される真因や対策について仮説を立てます。	各自で仮説を立てるための情報収集、分析を行ってください。	4時間
第6回	**仮説を立てる②（解決策を考える）** 前回考えた研究テーマの仮説について、その根拠を示し、最適な解決策を検討します。	各自で仮説を立てるための情報収集、分析を行ってください。	4時間
第7回	**仮説を立てる③（検証する）** 前回考えた研究テーマの仮説、解決策について妥当であるか（矛盾がないか）を検証します。	各自で仮説を検証するための情報収集、分析を行ってください。	4時間
第8回	**ゼミ内中間発表会の準備** ここまで検討してきた研究テーマと仮説、その解決策を発表するためパワーポイントと発表原稿を作成します。	各自で発表練習を行ってください。	4時間
第9回	**ゼミ内中間発表会** 研究テーマの進捗状況をパワーポイントを用いて発表し、質疑応答します。他のゼミ生の発表に対するコメントを記入します。発表用パワーポイントは事前に提出してください。	各自で中間発表の振り返りを行ってください。	4時間
第10回	**検証手段の立案（調査対象・方法）** 自ら立てた仮説を検証するため調査対象や方法を考え、最適な検証手段を立案します。	各自でアクションプランを作成してください。	4時間
第11回	**アクションプランの策定および実践** 前回選定した調査対象や方法、検証手段に沿って、具体的にアクションプランを作成します。また、可能な範囲で実践します。	各自でアクションプランを実践してください。	4時間
第12回	**コース期末発表会の準備** ここまで取り組んできた研究テーマと仮説、調査対象と方法、検証手段を発表するため発表用パワーポイントと発表原稿を作成します。	各自で発表練習を行ってください。	4時間

第13回	**コース期末発表会（前半）** 研究テーマの進捗状況をパワーポイントを用いて発表し、質疑応答します。他のゼミ生の発表に対するコメントを記入します。発表用パワーポイントは事前に提出してください。	各自で期末発表の振り返りを行ってください。	4時間
第14回	**コース期末発表会（後半）** 研究テーマの進捗状況をパワーポイントを用いて発表し、質疑応答します。他のゼミ生の発表に対するコメントを記入します。発表用パワーポイントは事前に提出してください。 授業の最後に、期末レポートの課題を提示します。	各自で期末発表の振り返りを行ってください。期末レポートは指定された日時までに提出してください。また、前期で学んだことを踏まえ、各自で夏休みの研究計画を立ててください。	4時間

233

授業科目名	**専門演習３【食】**				
担当教員名	伴みずほ				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

専門演習では、興味をもった分野の先行研究・事例を調査し、自ら設定した研究課題を解決するため仮説を立て、調査研究の過程を通してその解決策を提案します。研究倫理、文献検索の方法、フィールド調査の進め方など、専門知識やスキルを習得しながら自ら主体的に卒業研究に取り組むことが求められます。 食ビジネスの新たな価値創造を目指し、食の安全マネジメント、食と健康、食の持続可能性を中心としたテーマに挑戦します。専門演習3では興味をもった分野の先行研究・事例を調査し課題を発見に取り組みます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	研究倫理、文献検索の方法、フィールド調査の進め方、専門知識やスキルを習得し、主体的に卒業研究に取組む。	自ら設定した課題を解決するため仮説を立て、最適な検証手段を立案し、その解決策を提案する。

汎用的な力	
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用	自ら課題を設定し、その真因を探ることができる。
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案	仮説を検証するために必要な検証手段、計画を立案できる。
3. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み	自ら行動に対してPDCAサイクルを回しながら実践できる。
4. DP10.忠恕の心	誠実で思いやりのある人、周囲から頼りにされる人になることを目指す。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内のワーク	20 %	： 課題設定および仮説検証のプロセスが妥当、効果的であったかどうか、自主的な取り組み姿勢であったかどうかを評価します。
ポートフォリオ（学びの記録）	20 %	： 卒業研究に取り組み、何を学んだかわかるものになっているか、学びの振り返りができているかを評価します。
中間・期末発表	40 %	： 発表内容が適切であり、自らの主張を伝えられたかどうか、相手の意図を理解して適切に応答できたかどうかを評価します。
試験（期末レポート）	20 %	： 指定された日時までに提出された期末レポート（研究計画、概要含む）について、独自の問いに対して明確な答えを主張し、論証できているかを評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

参考書：「現代の食生活と消費行動」斎藤修監修、農林統計出版 ISBN：978-4-89732-346-6
「フードシステムの経済学 第6版」時子山ひろみ　他著　医歯薬出版　ISBN978-4-263-70740-1

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
授業の順番や内容を変更する場合があります。

専門書や報文の輪読を行います。各自でpptの資料準備を行っておいてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　月曜日5時間目

場所：　研究室（西館2階）

備考・注意事項：　質問はメールでも応じます。ban-m@osaka-seikei.ac.jp（タイトルには氏名、学籍番号を記入のこと）

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**卒業研究の進め方および研究倫理** 卒業研究の進め方、研究倫理について学び、文献検索や資料収集、図書館の活用方法、ビジネスマナーなどについても習得します。	研究倫理に関する事例を調べておいてください。	4時間
第2回	**研究テーマの設定①（アイデア出し）** 食ビジネスの現状と将来の課題を見据え、先行研究や先行事例の調査を行い、各自で解決すべき最も重要なテーマとは何かを考えます。	テーマ設定のため先行研究の調査を行ってください。	4時間
第3回	**研究テーマの設定②（課題を具体化する）** 前回考えた研究領域の先行研究調査をより詳細に行い、変革が求められる領域を特定し、各自で研究したいテーマを具体的に考えます。	各自でテーマ設定のため先行研究の調査を行ってください。	4時間
第4回	**研究テーマの設定③（課題を絞り込む）** 前回考えた研究領域をさらに細分化し、先行研究の調査より、各自で卒業研究として取り組めるテーマを絞り込みます。	各自でテーマ設定のため先行研究の調査を行ってください。	4時間
第5回	**仮説を立てる①（真因を探る）** 前回絞り込んだ研究テーマについて想定される真因と対策について仮説を立てます。	各自で仮説を立てるための情報収集、分析を行ってください。	4時間
第6回	**仮説を立てる②（解決策を考える）** 前回考えた研究テーマの仮設について、その根拠を示し、最適な解決策を検証します。	仮説を立てるための情報収集、分析を行ってください。	4時間
第7回	**仮説を立てる③（検証する）** 前回考えた研究テーマの仮設について、解決策について妥当であるか（矛盾がないか）を検証します。	仮説を立てるための情報収集、分析を行ってください。	4時間
第8回	**ゼミ内発表会の準備** ここまで検討してきた研究テーマと仮説、その解決策を発表するためパワーポイントと発表原稿を作成します。	各自で発表練習を行ってください。	4時間
第9回	**ゼミ内中間発表会** 研究テーマの進捗状況をパワーポイントを用いて発表し、質疑応答します。他のゼミ生の発表に対するコメントをコメントシートに記入します。 発表に使用したパワーポイントは提出してください。	各自で中間発表の振り返りを行ってください。	4時間
第10回	**検証手段の立案①（調査対象を選ぶ）** 自ら立てた仮説を検証するため調査対象や方法を考え、最適な検証手段を選択します。	各自でアクションプランを作成してください。	4時間
第11回	**検証手段の立案②（調査内容を決める）** 前回選定した調査対象や方法、検証手段に沿って、具体的にアクションプランを作成します。	各自でアクションプランを作成してください。	4時間
第12回	**コース期末発表会の準備** ここまで検討してきた研究テーマと仮説、調査の対象と方法、検証手段を発表するためパワーポイントと発表原稿を作成します。	各自で発表練習を行ってください。	4時間
第13回	**コース期末発表会（前半）** 卒業研究の進捗状況をパワーポイントを用いて発表し、質疑応答します。他のゼミ生の発表に対するコメントをコメントシートに記入します。 発表に使用したパワーポイントは提出してください。	各自で期末発表の振り返りを行ってください。	4時間

第14回	**コース期末発表会（後半）** 卒業研究の進捗状況をパワーポイントを用いて発表し、質疑応答します。他のゼミ生の発表に対するコメントをコメントシートに記入します。 発表に使用したパワーポイントは提出してください。 授業の最後に試験（期末レポート）の課題を提示します。	試験（期末レポート）は指定された日時までに提出して下さい。各自で期末発表の振り返りを行ってください。また、前期で学んだことを踏まえ、各自で夏休みの計画を立ててください。	4時間

233

授業科目名	**専門演習３【公共】**				
担当教員名	**大島博文**				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	政令市で都市計画・防災・交通・総合計画・統計等の新規施策立案・計画策定・経営業務を経験。公益財団法人であるシンクタンクで地域に関するまちづくり・福祉・環境・防災・災害復興等の政策立案・コンサルティング業務、研修等の人材育成業務を担当。（全14回）				

授業概要

公共経営、都市政策、地域防災をテーマとした書籍を指定し、分担して内容を調べ発表（ペアワーク）することで、専門分野の知識を理解する。また、自治体と連携してフィールドワークを実施する。具体的には自治体広報の業務を体験することで、住民ニーズの適確な理解、ニーズに応じた政策の立案、政策の実施、広報といった一連の業務を体験することで、専門的な知識やスキルを修得する。また、新しい公共を目指して企業や住民との協働により自治体業務を進めることを体験することで、協働力を修得する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	行政等における情報収集、資料作成、プレゼン、業務実践のための知識・技能を修得する。	情報収集、資料作成、プレゼン、業務実践のための知識・技能を修得し、実践することができる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		行政等における課題発見のための情報の収集・分析・活用を実践できる。
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		行政等における課題解決のための方策を企画・立案できる。

学外連携学修

有り(連携先：摂津市)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
期末レポート	40 %	： 情報収集、自己表現の観点から評価する。
授業への貢献	30 %	： 授業内でのペアワーク、グループワーク、取り組む姿勢の観点から評価する。
ポートフォリオ（学びの記録）		： 自らが記述するポートフォリオにおいて学修成果が適切に表現され、効果がみられるかという観点から評価する。

30　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業内で適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加えその回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　火曜日５時間目

場所：　西館3階37研究室

備考・注意事項：　連絡を取りたい場合はメールでも可（oshima@osaka-seikei.ac.jp）

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**研究倫理について** 研究における著作権と個人情報保護の重要性について理解する。	研究における著作権の侵害に関する事例とその問題点について調査する。	4時間
第2回	**プレゼン演習１　レポート作成** レポート作成のポイント等を学ぶ。	参考書等によるレポート作成に関する復習により理解を深める。	4時間
第3回	**プレゼン演習２　研究発表のポイント** 研究発表のポイントを学ぶ。	参考書等による研究発表に関する復習により理解を深める。	4時間
第4回	**事例研究　テーマの検討** 研究を行うテーマの選び方等を学ぶ。	参考書等によるテーマ選定等に関する復習により理解を深める。	4時間
第5回	**地域課題に関する分析** 公共経営、都市政策、地域防災をテーマとして、地域課題の現状と分析方法について学ぶ。	参考書等による地域課題の分析に関する復習により理解を深める。	4時間
第6回	**事例研究を行うテーマの選定** 公共経営、都市政策、地域防災をテーマとして、連携自治体から提示を受ける地域課題の中から研究するテーマを検討する。	テーマを選定できるよう、関連情報の収集・理解のための学修を行う。	4時間
第7回	**地域課題に関するヒアリング（グループワーク）** 選定した地域課題に関するテーマに基づき、連携自治体に対してヒアリングを実施する。	連携自治体にヒアリングを行えるよう項目や内容について検討しておく。	4時間
第8回	**ヒアリング内容の整理、分析（グループワーク）** 連携自治体よりヒアリングした内容を整理、分析する。	ヒアリング内容を整理、分析できるようヒアリング内容をまとめておく。	4時間
第9回	**地域課題を解決するための解決策の検討（グループワーク）** 地域課題を解決するための解決策の検討を行う。	地域課題の解決策を検討できるようヒアリング内容の整理、分析を行っておく。	4時間
第10回	**地域課題解決に向けた中間発表（グループ発表）** 地域課題の解決策について中間発表を行う。連携自治体により評価・コメントを受ける。	発表資料、プレゼンの準備を行う。	4時間
第11回	**解決策の再検討（グループワーク）** 地域課題の解決策の発表内容について、連携自治体により受けた評価・コメント等を参考としながら、再検討する。	発表内容の再検討ができるよう連携自治体から受けた評価・コメントを整理・分析しておく。	4時間
第12回	**地域課題解決に向けた最終提案発表（グループ発表）** 地域課題の解決策についてグループ発表を行う。連携自治体により評価・コメントを受ける。	発表資料、プレゼンの準備を行う。	4時間
第13回	**発表内容の実践** 発表した内容の一部を連携自治体の協力を得て実践する。	発表内容の実践に向けた準備を行う。	4時間
第14回	**まとめとふり返り** これまでの学習内容を整理し理解を深めるとともに、今後学修すべき点等について考える。	今後の学修に結びつけられるよう、学んだこと全体についてしっかり復習する。	4時間

233

授業科目名	**専門演習３【公共】**				
担当教員名	荒木俊之				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	民間企業に従事し、認定都市プランナーとして、地方自治体の都市計画やまちづくりなどに関する調査の実施や計画の策定などを支援した経験を有する。（全14回）				

授業概要

専門演習３では、都市計画やまちづくり、都市問題、都市政策に関する基本書・専門書を輪読し、研究テーマや研究方法、研究全体の構成や内容などを概観したうえで、受講者が関心ある分野を捉えられるよう授業を進める。また、専門演習３では、ペアワーク・グループワークなどを通じて、文献研究、統計データの分析、フィールドワーク等の実施による地域の問題把握やその解決策の検討や提案を行い、専門演習４に繋げられるようにする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	統計データなどの収集や整理、資料を作成し発表する知識やスキル	地域の現状に関する統計データを収集、整理し、そのうえで資料を作成し、発表することができる
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		地域の現状を把握し、分析することで、解決が必要な地域の問題、課題を発見することができる
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		地域の課題に対して解決するための方策を検討し、どのように進めるかを示すことができる

学外連携学修

有り(連携先：受講者のテーマに応じた自治体等を想定)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

・見学、フィールドワーク

・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内の発表	30 %	： 研究の視点や研究方法、構成や調査結果など発表内容に応じて評価する。
ゼミへの参加・貢献	30 %	： ゼミメンバーの研究に対する質問や意見など、専門演習での学びを高める行動を評価する。
期末レポート	40 %	： 資料や文献の収集・分析、課題の設定、レポートの構成、文章のわかりやすさなど、妥当かつ適切かどうかを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

各受講生のテーマに応じて紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
なお、授業の進捗状況などにより、授業内容や順序を変更する場合がある。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　火曜4限

場所：　西館3F 42研究室

備考・注意事項：　連絡を取りたい場合はメールでも可（araki-t@g.osaka-seikei.ac.jp）

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス：専門演習３の進め方および研究倫理教育** 専門演習３の進め方を理解する。また、レポートや論文を作成するにあたって必要な研究倫理（著作権と個人情報保護等）の重要性について理解する。	授業内容を再確認し、今後の進め方を検討、確認するとともに、研究倫理についても理解を深める。	4時間
第2回	**基本書・専門書の輪読①：研究テーマを知る** 専門書・基本書を輪読し、様々な分野の研究テーマを概観する。	学修した内容を復習し、理解を深めたうえで、関心のある研究分野の研究テーマを考える。	4時間
第3回	**基本書・専門書の輪読②：研究方法を知る** 専門書・基本書を輪読し、様々な分野における研究の方法を概観する。	学修した内容を復習し、理解を深めたうえで、関心のある研究分野の研究方法を考える。	4時間
第4回	**基本書・専門書の輪読③：研究内容や構成を知る** 専門書・基本書を輪読し、研究内容や構成など研究全体を概観する。	学修した内容を復習し、理解を深めたうえで、関心のある研究分野の研究内容やその構成を考える。	4時間
第5回	**事例研究を行うテーマや研究方法等の選定** 第2～4回を踏まえて、事例研究を行うテーマや研究方法等を検討、選定する。	グループワークで選定したテーマや研究方法等について復習し、その内容等についての理解を深める。	4時間
第6回	**地域の特性把握と課題の分析** 研究テーマごとに、地域の特性把握や課題の分析などを学修する。	研究テーマごとに選定した地域の特性把握や課題の分析を復習し、その内容や方法についての理解を深める。	4時間
第7回	**フィールドワークの準備** 研究テーマごとに、フィールドワークの準備を行う。	フィールドワークに必要な調査表などの資料や備品等を準備する。	4時間
第8回	**フィールドワークの実施** 選定した地域においてフィールドワーク等を実施する。	フィールドワークのメモ等を整理する。整理したメモ等をもとに、結果の整理や分析方法を考える。	4時間
第9回	**フィールドワーク結果等の整理・分析** 第8回で実施したフィールドワークの結果等を整理、分析する。	整理・分析したフィールドワークの結果等をもとに、その内容等についての理解を深めるとともに、地域課題の解決策を考える。	4時間
第10回	**地域課題を解決するための解決策の検討①** 研究テーマごとに地域課題を解決するための解決策を検討する。	検討した地域課題の解決策について、その内容等について理解を深め、不足している事項等を考える。	4時間
第11回	**地域課題を解決するための解決策の検討②** 第10回の検討を踏まえて、フィールドワーク等、追加の調査、分析、検討を行う。	追加のフィールドワーク調査等のメモを整理するとともに、解決策の再検討を行う。	4時間
第12回	**最終発表・報告に向けての準備** これまでの調査、分析、検討結果を整理し、最終発表の準備を進める。	発表報告内容について復習し、理解を深めたうえで、最終発表に向けての準備を行う。	4時間
第13回	**最終発表・報告** 研究テーマごとに、地域課題の解決策についてグループ発表を行う。	最終発表でのコメントをもとに、解決策についてまとめる。	4時間
第14回	**まとめとふりかえり**	専門演習3で学修した内容の理解を深め、専門演習4に向けた個人研究の取り組み方を考える。	4時間

これまでの学修内容を再確認し、専門演習４での学修を考える。		

233

授業科目名	専門演習３【スポーツ】				
担当教員名	青野桃子				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

卒業研究に向けて、スポーツに関する文献や先行研究を批判的に読み込むことを学びます。そして、個別の問題関心を研究課題へと発展させていきます。主なテーマは、スポーツ文化とは何か、スポーツの価値、意義、スポーツの教育的活用などです。
個人、グループでおこなう研究発表、ディスカッションを通じて問題意識を深めます。４年次に卒業研究がスムーズにおこなえるよう、研究手法や文献読解の方法も確認し、準備をすすめます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.スポーツ産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	文献、先行研究を通して、基礎知識を習得する。	幅広い教養やスキルを身につける。
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	専門的知識、研究手法を学ぶ。	専門的知識を獲得する。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		自ら研究課題を発見する。
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		研究計画を立案する。
3. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		計画に基づいて、実際に研究を進める。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
論文・企画書の評価	30 %	： テーマ選定が研究課題に対して適切であるかどうか、データや先行研究が参照できているかどうかを評価する。
研究過程の評価	30 %	： 研究に取り組む姿勢、自主性、グループでの活動においては協調性を評価する。

研究発表の評価 : 自身の研究について、論理的に、資料にもとづいて発表ができていることを評価する。

10 %

ポートフォリオ（学びの記録） : 学んだことについて理解ができているかどうかを評価する。

30 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業のなかで適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 金曜3限

場所： 西館4階　研究室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション：専門演習の意義と研究倫理** ゼミの目的や進め方を確認する。研究倫理教育をおこなう。	研究倫理についての予習復習	4時間
第2回	**卒業論文執筆にむけて** 研究とは何か、卒業論文執筆に向けて取り組むべきことを確認する。	自身の研究課題についての情報収集	4時間
第3回	**問題意識の検討1：グループディスカッション** 各自の問題意識について引き続きディスカッションをおこなう。 質問やコメントに対して、関心の広げ方を学ぶ。	自身の研究課題についての情報収集	4時間
第4回	**問題意識の検討2：リサーチクエスチョンの設定** ディスカッションの内容を踏まえて、問題意識をリサーチクエスチョンへと深めていく。	自身の研究課題についての情報収集	4時間
第5回	**研究課題に関する情報収集1：資料・データ収集** 研究に関連する資料、データの収集方法について学ぶ。	研究課題に関する資料・データ収集	4時間
第6回	**研究課題に関する情報収集2：文献調査** 研究に関連する文献の収集方法について学ぶ。	研究課題に関する文献収集	4時間
第7回	**研究課題に関する情報収集3：先行研究調査** 研究に関連する先行研究の収集方法について学ぶ。	研究課題に関する先行研究収集	4時間
第8回	**卒業研究中間発表会の見学** 4年生の卒業研究中間発表を聴講する。	前期中間発表の聴講	4時間
第9回	**４年生の卒業研究発表の評価** ４年生の卒業研究発表についてゼミでディスカッションし、評価をおこなう。	４年生の卒業研究発表の内容の復習	4時間
第10回	**研究進捗状況の報告1：先行研究で明らかになっていること** 各自の問題関心をもとに、先行研究をレビューし、その結果を報告する。	報告資料の作成・復習	4時間
第11回	**研究進捗状況の報告2：今後明らかにすべき点** 各自の問題関心をもとに、先行研究をレビューし、その結果を報告する。	報告資料の作成・復習	4時間
第12回	**研究進捗状況の報告3：研究方法・計画の立案** 各自の問題関心をもとに、先行研究をレビューし、その結果を報告する。	報告資料の作成・復習	4時間
第13回	**前期期末発表会の準備** 期末発表会の準備として、当日使用する資料の作成をおこなう。	発表用資料の作成	4時間
第14回	**前期期末発表会（ゼミ内）** 前期学んだことをもとに、今後の研究計画を発表し、検討する。	資料の作成・復習	4時間

233

授業科目名	専門演習３【スポーツ】				
担当教員名	丸朋子				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	地方テレビ・ラジオ局においてアナウンサー・スポーツキャスター、番組制作業務のほか、プロ・クラブスポーツのスタジアムDJ・MCを経験した。また、プロスポーツチームにおいて事業企画や試合運営、広報業務等に従事した。（全14回）				

授業概要

自らの卒業研究に向けて、スポーツマネジメントに関する諸分野の研究を主体的に進めていきます。丸研究室のテーマは「スポーツによる共有価値の創造（スポーツチーム運営と地域との関係性）」「スポーツエンターテイメント」「スポーツメディア」です。自らの課題に対する主体的な探究を通じて問題意識を深めつつ、2回生までに学習してきた基礎知識をいかし、スポーツマネジメントの専門性をさらに深め、グループディスカッションや研究発表を通じて、卒業研究を進めるために必要な基礎知識とスキルを身につけます。また、これらを通して、自らが積み重ねる専門性と進路との関連性を意識し、大学卒業後のキャリアデザインも手掛けていきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.スポーツ産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	文献や先行研究などを通して、基礎知識を習得する	幅広い教養やスキルを身につける
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	専門的知識と研究課題の調査、分析を学ぶ	専門的知識と研究課題の調査・分析手法を身につける
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		研究の課題を発見する
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		研究課題の計画を立案する
3. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		計画に基づいて実践し、発表や意見交換を通じて自己評価と再検証をする

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
論文・企画の評価	:	専門性：内容の妥当性・論点の明確さ、テーマや設定課題に対する適切さ、データと先行研究の参照など。 取り組む姿勢：意思疎通、自発的行動、協調性（グループ研究のみ）、忠恕の心を持ったコメントなど。
30 %		
研究過程の評価	:	専門性：論理的構成、内容の妥当性・オリジナリティ、データ・先行研究の参照など。

	30 %	
研究発表の評価	:	実践力：論理的構成、妥当性、資料の活用、発表技術、発表時間、質疑応答など。
	30 %	
学びの記録	:	何を学んだかわかるものになっているか。学びのふりかえりができているか。
	10 %	

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業内で適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜２限

場所： 研究室

備考・注意事項： 研究室にはオフィスアワーに関わらずどうぞ。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンスおよび研究倫理教育** 専門演習3の進め方と諸注意を伝える。また、専門演習や卒業研究に取り組むことの意義について学ぶ。さらに、研究倫理教育を行う。	専門演習３の進め方と諸注意をよく聞く。研究倫理について理解を深める。	4時間
第2回	**問題意識の検討：問いを探る・リサーチクエスチョンと仮説設定とは** 研究課題に繋がる問題意識についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。質問やコメントの仕方を学び、興味関心を拡げて、今後のフィールドワークを決定する。さらに素朴な疑問や本質的な問いを探る。	自らの問題意識に関する情報を収集する。	4時間
第3回	**チームビルディングと相互理解** 交渉ゲームを通じて、リーダーシップとフォロアーシップを体感し、ゼミ生同士の相互理解を図る。今後の産学連携ｈウィールドワークへつなげる。	フィードバックシートを基に、自らのコミュニケーションスタイルを復習する。	4時間
第4回	**ゼミ企画1：3.4年生合同ゼミ　研究テーマ探索と現場理解** プロスポーツチームの現場体験あるいは見学ツアーなどを通じて、スポーツの現場で自らの研究課題に繋がるテーマを探索する。フィールドワークの計画を具現化する。	自ら企画を立案し、問題・課題を探索する。	4時間
第5回	**卒業研究の進め方１：健康・スポーツ科学における卒業論文とは** 研究領域に関するテーマ設定、研究の種類、論文作成の基本を理解する。	事前配布された課題を熟読し、グループで予習復習を行う。	4時間
第6回	**卒業研究の進め方２：研究にとりかかる／研究の着想、問題の具体化と研究仮説の設定** 研究の着想、問題の具体化と研究仮説の設定を具現化および明文化するための方法を理解する。	事前配布された課題を熟読し、グループで予習復習を行う。	4時間
第7回	**卒業研究の進め方３：研究にとりかかる／卒業論文を作成する** 実際にどのように研究計画を立てるのか、文献レビューや研究目的を精査するためのポイントを理解する。	事前配布された課題を熟読し、グループで予習復習を行う。	4時間
第8回	**卒業研究の進め方４：卒業論文を作成する分析枠組みの設定、定量的・定性的方法論** 具体的な調査計画や、データ収集・分析方法を理解する。	事前配布された課題を熟読し、グループで予習復習を行う。	4時間
第9回	**前期 卒業研究中間発表会（４年生）：聴講** ４年生の卒業研究中間発表会を聴講する。	４年生の卒論中間発表を聴講し、評価をまとめる。	4時間
第10回	**前期 卒業研究中間発表会（４年生）の評価と検証およびゼミ企画2** ４年生の卒業研究中間発表会の評価を基に、ゼミ内でディスカッションする。また、ゼミ生が主体的に夏季休暇中のゼミ合宿・後期のゼミ運営を計画する。	評価を自らの問題意識と関連づけて考察し、前期期末発表会に向けた研究計画作成を始める。	4時間
第11回	**研究計画書の作成** これまでの学びを踏まえて、研究計画書の書き方を基に、自らの研究計画書作成に着手する。	研究計画書にはどのような項目が必要か、何を書くべきかを知り、書き進める。	4時間

第12回	**前期期末発表会（研究計画あるいは参加コンペ）の準備：前半** 前期期末発表会の準備として、資料の作成やリハーサルを行う。	質疑応答を踏まえて、発表資料を修正する。	4時間
第13回	**前期期末発表会（研究計画あるいは参加コンペ）の準備：後半** 前期期末発表会の準備として、資料の作成やリハーサルを行う。	質疑応答を踏まえて、発表資料を修正する。	4時間
第14回	**前期期末ゼミ内発表会** 前期期末のゼミ内発表会を行う。夏休みの課題を設定する。	発表後の復習と研究課題の修正を行い、夏休みの計画を立てる。	4時間

233

授業科目名	**専門演習３【スポーツ】**				
担当教員名	岡田功				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	新聞記者として長年、国内外のスポーツビジネスの現場を取材。折に触れて日本のプロスポーツクラブに経営のアドバイスを行ってきた（全14回）				

授業概要

米メジャーリーグの経営を深掘りして学ぶとともに、他球団や他リーグまたは他のプロスポーツ競技との比較を通して、プロスポーツビジネスの仕組みと基礎になる考え方を徹底的に学びます。またゼミでは、毎回の授業で取り上げるトピックについて発表してもらうことに加え、毎週のニュースの中から興味を持ったトピックや個人研究につながりそうなトピックをレポートにまとめ、順次発表してもらいます。４年生時の卒業研究に向けた準備ともなります。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.スポーツ産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	プロスポーツビジネスに関する文献購読などを通して基礎知識を習得します	確かな専門性を磨くための幅広い教養やスキルを身に付ける
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	プロスポーツビジネスの専門的知識を習得するとともに、研究課題の調査・分析を行います	専門的知識と職業理解を身につけている
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		論理的に考え、自らの研究課題を発見する力を身に付ける
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		豊かな発想力によって、未知の課題にも創造的に取り組み、研究課題の計画を立案する力を身に付ける
3. DP８.他者とのコミュニケーション		他者の意見をよく聴き、自己の意図を正確に伝えることができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・問答法・コメントを求める

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業テーマに関するゼミ内発表	60 %	： 授業テーマに関するゼミ内発表において、内容の妥当性、論理的構成、発表技術、発表時間、質疑応答の様子などを評価する
研究過程の評価	30 %	： 取り組む姿勢として、意思疎通、自発的行動、協調性（グループ研究）、忠恕の心を持ったコメントなどを評価する

ポートフォリオ（学びの記録）	:	「何を学んだかわかるものになっているか」「学びのふりかえりができているか」を評価の基準とする
10 %		

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
岡田功	・ メジャーリーグ　なぜ「儲かる」	・ 集英社新書	・ 2010 年

参考文献等

必要に応じ、授業内で指示します

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜２限

場所：　研究室

備考・注意事項：　研究室にはオフィスアワーに関わらずどうぞ

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンスおよび研究倫理教育** 専門演習３の進め方と諸注意を伝える。また、専門演習や卒業研究に取り組むことの意義について学ぶ。また、レポートや論文を作成するにあたって必要な研究倫理教育も行う。	専門演習３の進め方と諸注意をよく聞く。研究倫理について理解を深める	4時間
第2回	**チケット販売①：シーズンチケット、グループチケット、シングルチケット、変動価格制** 教科書で取り上げた米メジャーリーグのチケット販売戦略と、自身が調べた他球団、他リーグ、または他のプロスポーツ競技のチケット販売戦略とを比較・分析し、発表する。	チケット販売に関するニュースにアンテナを張り、ゼミでの発表の準備をする。また、授業で取り上げるトピックに関連して、他チーム、他リーグのデータを調べ、メジャリーグの戦略と比較する	4時間
第3回	**チケット販売②：再販制度、スイートルーム** 教科書で取り上げた米メジャーリーグのチケット販売戦略（再販制度とスイートルーム）と、自身が調べた他球団、他リーグ、または他のプロスポーツ競技の同戦略とを比較・分析し、発表する。	チケットの再販制度やスイートルーム販売に関するニュースにアンテナを張り、ゼミでの発表の準備をする。また、授業で取り上げるトピックに関連して、他チーム、他リーグのデータを調べ、メジャリーグの戦略と比較する	4時間
第4回	**スポンサーシップ** 教科書で取り上げた米メジャーリーグのスポンサーシップ戦略と、自身が調べた他球団、他リーグ、または他のプロスポーツ競技のスポンサーシップ戦略とを比較・分析し、発表する。	スポンサーシップに関するニュースにアンテナを張り、ゼミでの発表の準備をする。また、授業で取り上げるトピックに関連して、他チーム、他リーグのデータを調べ、メジャリーグの戦略と比較する	4時間
第5回	**命名権** 教科書で取り上げた米メジャーリーグの命名権販売と、自身が調べた他球団、他リーグ、または他のプロスポーツ競技の命名権販売とを比較・分析し、発表する。	命名権ビジネスに関するニュースにアンテナを張り、ゼミでの発表の準備をする。また、授業で取り上げるトピックに関連して、他チーム、他リーグのデータを調べ、メジャリーグの戦略と比較する	4時間
第6回	**飲食物販売** 教科書で取り上げた米メジャーリーグの球場内における飲食物販売と、自身が調べた他球団、他リーグ、または他のプロスポーツ競技の飲食物販売とを比較・分析し、発表する。	スタジアム内での飲食物販売に関するニュースにアンテナを張り、ゼミでの発表の準備をする。また、授業で取り上げるトピックに関連して、他チーム、他リーグのデータを調べ、メジャリーグの戦略と比較する	4時間
第7回	**グッズ販売** 教科書で取り上げた米メジャーリーグのロゴ入りグッズの販売戦略と、自身が調べた他球団、他リーグ、または他のプロスポーツ競技のグッズ販売戦略とを比較・分析し、発表する。	グッズ販売に関するニュースにアンテナを張り、ゼミでの発表の準備をする。また、授業で取り上げるトピックに関連して、他チーム、他リーグのデータを調べ、メジャリーグの戦略と比較する	4時間
第8回	**春の中間発表（4年生の卒論中間発表）を聞く**	4年生の卒論中間発表を聞き、評価する	4時間

	4年生の卒論中間発表を聞く		
第9回	**放映権** 教科書で取り上げた米メジャーリーグの放映権販売と、自身が調べた他球団、他リーグ、または他のプロスポーツ競技の放映権販売とを比較・分析し、発表する。	放映権に関するニュースにアンテナを張り、ゼミでの発表の準備をする。また、授業で取り上げるトピックに関連して、他チーム、他リーグのデータを調べ、メジャリーグの戦略と比較する	4時間
第10回	**選手年俸とフリーエージェント制度** 教科書で取り上げた米メジャーリーグの選手年俸とフリーエージェント制度と、自身が調べた他球団、他リーグ、または他のプロスポーツ競技における同様の制度・選手年俸とを比較・分析し、発表する。	選手年俸とフリーエージェント制度に関するニュースにアンテナを張り、ゼミでの発表の準備をする。また、授業で取り上げるトピックに関連して、他チーム、他リーグのデータを調べ、メジャリーグの戦略と比較する	4時間
第11回	**各自の研究テーマの進捗報告①前半＝6人発表** 期末に各自が発表する研究テーマについて議論し、テーマを固める。	議論からの課題を考察して、自己のテーマを深める	4時間
第12回	**各自の研究テーマの進捗報告②後半＝6人発表** 期末に各自が発表する研究テーマについて議論し、テーマを固める。	議論からの課題を考察して、自己のテーマを深める	4時間
第13回	**前期期末発表準備・ゼミ内発表と質疑応答** 期末発表の準備として、ゼミ内発表と質疑を行い、本発表に備える。	期末発表のために、資料・発表方法を検討し、指摘事項については期末発表までに修正をする	4時間
第14回	**前期期末合同発表会** スポーツマネジメント学科専門演習３を行っている各ゼミ合同で、ゼミ代表による前期期末発表会を行う。	前期期末発表会の準備を行う	4時間

233

授業科目名	専門演習３【スポーツ】				
担当教員名	菅文彦・佐藤亮				
学年・コース等	3	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

自らの卒業研究へとつながるように、スポーツマネジメントに関する研究を主体的に進めていきます。主なテーマは、スポーツ政策、スポーツを通じた地域活性化、地域スポーツクラブ経営です。先行研究についての精読・発表を通して自らの問題意識を深め、その問題意識を基づくディスカッションを通じて、自身の研究のリサーチ・クエスション（RQ）を発見します。 また、フィールドワーク実践も重視します。4年時の卒業研究の論文作成と研究発表に向けて準備を行います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.スポーツ産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	スポーツ政策やスポーツを通じた地域活性化などの文献購読なと？を通して基礎知識を習得します	幅広い教養やスキルを身に付ける
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	スポーツ政策ややスポーツを通じた地域活性化の専門的知識と研究課題の調査、分析を行う	専門的知識と研究課題の調査、分析を行う
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		自らの研究の課題を発見する力を身に付ける
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		研究の課題の計画を立案する力を身に付ける
3. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		研究の課題の計画を立案し、発表会などを通じて実践していく力を身に付ける

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
試験：論文・企画書の評価 30 %	:	専門性としてテーマの妥当性・論点の明確さ、テーマや設定課題に対して適切な内容となっているか、データと先行研究の参照、主張や提案の根拠
研究過程の評価	:	取り組む姿勢として意思疎通、自発的行動、協調性(グループ研究のみ)、忠恕の心を持ったコメン

ト

30 %

試験：研究発表の評価 : 専門性として内容の妥当性・オリジナリティ、データ・先行研究の参照 実践力として論理的構成、資料の活用、発表技術、発表時間 協調性、質疑応答 忠恕として不適切な内容

10 %

ポートフォリオ（学びの記録） : 「何を学んだかわかるものになっているか」、「学びの振返りが出来ているか」を評価の基準とする

30 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業の中で適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日2限

場所： 担当教員の研究室

備考・注意事項： 質問などいつでも歓迎します。

授業計画

	授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンスおよび研究倫理に関する講義** ゼミの目的や進め方について確認します。あわせて研究倫理教育を実施します。	研究倫理に関する予習復習	4時間
第2回	**各自の問題意識を深堀りするディスカッション１　キーワード選出** 各自の問題意識をテーマに全体でディスカッションを行い、本質的な問いを見つけ出すことを試みます。	自身の関心テーマ領域に関する時事的な話題・動向を調べる。	4時間
第3回	**各自の問題意識を深堀りするディスカッション2　関連連想キーワード構造化** 各自の問題意識をテーマに全体でディスカッションを行い、本質的な問いを見つけ出すことを試みます。	自身の関心テーマ領域に関する時事的な話題・動向を調べる。	4時間
第４回	**各自の問題意識を深堀りするディスカッション3　リサーチクエスション形成** 各自の問題意識をテーマに全体でディスカッションを行い、本質的な問いを見つけ出すことを試みます。	自身の関心テーマ領域に関する時事的な話題・動向を調べる。	4時間
第5回	**関心分野の情報収集　【資料・データ編】** 研究に関連する資料やデータの収集・整理の方法を習得します。	関心分野・領域に関わる資料・データを収集する。	4時間
第6回	**関心分野の情報収集　【文献・先行研究編】** 研究に有用な文献や先行研究の収集・整理の方法を習得します。	関心分野・領域に関わる文献・先行研究を収集する。	4時間
第7回	**関心分野の情報収集　【文献レビュー】** 収集した文献のレビュー方法を習得します。	前期中間発表の発表準備・聴講	4時間
第8回	**前期中間発表** 前期の卒業研究中間発表を聴講します。	前期中間発表の発表準備・聴講	4時間
第9回	**研究プロセスを学ぶ　【リサーチクエスション（RQ）】** RQとは何かを知り、RQを立てる道筋を学びます。	関心分野・領域におけるる素朴な疑問や問いを明らかにする。	4時間
第10回	**研究プロセスを学ぶ　【仮説の構築】** 研究における仮説構築の重要性を知り、仮説を立てる道筋を学びます。	関心分野・領域におけるる素朴な疑問や問いに対する簡易な仮説を作ってみる。	4時間
第11回	**研究プロセスを学ぶ　【調査】** 調査方法の選定について学びます。	作成してみた簡易な仮説を検証するために妥当な調査方法は何かを考えてみる。	4時間
第12回	**卒業研究プロポーザル聴講** ４年生の卒業研究プロポーザルを聴講して、卒業研究の基本的枠組みと構成を理解する。	プロポーザル内容に関するコメント・質問の提起。	4時間
第13回	**研究プロセスを学ぶ　【考察】**	考察の書き方について参考文献・先行研究を通読する。	4時間

	研究における考察の位置づけを知り、考察をまとめる方法を学びます。		
第14回	**前期期末発表** 前期期末発表を行います。	期末発表で得たコメントをもとに計画書のブラッシュアップを行う。	4時間

233

授業科目名	**専門演習３【スポーツ】**				
担当教員名	藤森梓				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

専門演習では、２年間を通して卒業論文を作成します。なお、本格的に卒業研究をスタートさせるのは４回生になってからですが、３回生の専門演習ではその準備を行います。専門演習３では、卒業研究を行う上で必要なリサーチスキルおよび研究のバックグランドとなる専門知識の習得を目指すと同時に、実践的な課題探求・解決能力のトレーニングも行います。具体的な専門演習のテーマについては、受講生の意向を尊重しつつ、担当者と相談の上で決定します。なお、担当者の専門領域は、「経済一般・グローバルビジネス・国際問題」となります。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.スポーツ産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	自身の研究分野に関連した幅広い教養と知識の習得する。	卒業研究のバックグラウンドの知識として役立てる。
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	研究を遂行する技術・能力の習得する。	研究を自分自身で進めることができるようになる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		研究の課題発見する力を身に付ける。
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		研究課題の計画の立案を行う力を身に付ける。
3. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		研究発表などの実践力を涵養する。
4. DP７.実践の完遂		研究課題の探究について、自分自身で調査、研究を行う力を身に付ける。
5. DP９.他者との協調・協働		他のゼミメンバーとのグループワーク等を通して、他者との協働する力を身に付ける。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
レポート（研究プロポーサル）の評価	:	専門性としてテーマの妥当性、内容の妥当性・論点の明確さ、データと先行研究の参照、独自性・社会的意義 実践力として論理的構成、文章の体裁、表現の推敲、研究の完遂 忠恕として適切な内容
50 ％		
ポートフォリオ（学びの記録）	:	「何を学んだかわかるものになっているか」、「学びのふりかえりができているか」を評価の基準とする

30　%

研究発表の評価　：　専門性として内容の妥当性・オリジナリティ、データ・先行研究の参照 実践力として論理的構成、資料の活用、発表技術、発表時間 協調性、質疑応答 忠恕として適切な内容

20　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

研究分野に関連する文献を多数、紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜日3限

場所：　研究室（西館4階）

備考・注意事項：　随時、研究や学生生活を含め、幅広く相談に乗ります。オフィスアワー以外も気軽に研究室にお越しください。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション：専門演習３の意義につて** 卒業研究とはどのようなものか、その概要について説明します。また、卒業研究を進める上での研究倫理について、本学の定めるガイドラインに従って解説します。	卒業研究のイメージをつかむ	4時間
第2回	**研究テーマを探求する①～研究とは何かを考える～** 自分自身の興味や関心を整理し、どのような研究ができそうなのかを検証します。	資料・文献の検索	4時間
第3回	**研究テーマを探求する②～研究分野を知る～** 自分自身が興味・関心のある研究領域について、現状を認識し、どのようなテーマが設定可能なのかを考えます。	資料・文献の検索	4時間
第4回	**研究テーマを探求する③～資料・文献検索～** 自分自身が興味ある研究分野について、関連の資料や文献を検索します。	資料・文献の検索	4時間
第5回	**研究テーマを探求する④～問題意識の共有～** 各自の研究分野に関する問題意識をディスカッションや意見交換を通して共有します。	資料・文献の検索	4時間
第6回	**研究テーマを探求する⑤～問題意識の醸成～** これまで収集した文献・資料をまとめ、自分自身の研究テーマについて深く探求します。	資料・文献の検索	4時間
第7回	**研究テーマを探求する⑥～研究領域の検証～** 研究領域について理解を深め、自分自身の研究テーマのポジショニングを行う。	資料・文献の検索	4時間
第8回	**ゼミ発表会の準備～発表資料の作成～** 発表のための、資料・発表方法を検討します。	期末発表の準備・研究計画書の作成	4時間
第9回	**ゼミ内発表会①（研究内容の報告）** ゼミ内で研究計画を発表し、その内容について議論します。	研究発表の準備及び振り返り	4時間
第10回	**ゼミ内発表会②（各自の研究内容についてのディスカッション）** ゼミ内で研究計画を発表し、その内容について議論します。	研究発表の準備及び振り返り	4時間
第11回	**ゼミ内発表会③（修正コメントを踏まえた研究計画の再発表）** ゼミ内で研究計画を発表し、その内容について議論します。	研究発表の準備及び振り返り	4時間
第12回	**卒論中間発表会の見学** 4回生の卒論発表会を見学し、卒業研究に対するイメージをつかみます。	4回生の研究内容を評価する	4時間
第13回	**卒論中間発表会の振り返り** 4回生の卒論発表会の内容についてゼミ内で議論します。	4回生の研究内容を評価する	4時間
第14回	**前期の振り返り** 研究発表の内容を振り返り、今後の研究計画を立てます。	研究計画書の再検討・修正	4時間

233

授業科目名	**専門演習３【スポーツ】**				
担当教員名	田村匡				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	スポーツイベントやスポーツ施設、スポーツマネジメントに係る組織、資金、運営方法等について業務として取り組んできた。（全１４回）				

授業概要

自らの卒業研究へとつながるように、スポーツマネジメントに関する諸分野の研究を主体的に進めていきます。また、課題を主体的に探究するうえで、先行研究についての精読・発表を通じて自らの問題意識を深めていきます。
田村研究室では、毎週ニュースから個人研究につながるトピックをレポートにまとめて発表・質疑応答することで、スポーツビジネスのさまざまな分野や基礎知識を習得し、自らの研究課題を発見します。
個人のテーマを探しながら、最終的には4年生に向けて卒業研究の論文作成と研究発表に向けて準備を行います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	スポーツマネジメントの専門的知識と研究課題の調査、分析を行う	専門的知識と研究課題の調査、分析を行うことができる
2. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	スポーツビジネスの環境の変化に適応し、解決方策を立案する	具体的なスポーツビジネスに関する解決策を自分で立案することができる
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		自らの研究の課題を発見する力を身に付ける
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		研究の課題の計画を立案する力を身に付ける
3. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		研究の課題の計画を立案し、発表会などで実践していく力を身に付ける

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
論文・企画書の評価 30 %	：	専門性としてテーマの妥当性　研究テーマは学部・学科・コースの専門性と適合的か、内容の妥当性・論点の明確さ、テーマや設定課題に対して適切な内容となっているか、データと先行研究の参照、主張や提案の根拠
研究過程の評価 20 %	：	取り組む姿勢として意思疎通、自発的行動、協調性（グループ研究のみ）

研究発表の評価	:	専門性として内容の妥当性・オリジナリティ、データ・先行研究の参照 実践力としはて論理的構成、資料の活用、発表技術、発表時間 協調性、質疑応答
10 %		
ポートフォリオ（学びの記録）	:	「何を学んだかわかるものになっているか」、「学びの振返りが出来ているか」を評価の基準とする
20 %		
期末レポート	:	授業終了後のレポート
20 %		

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業内で指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日2限目

場所： 個人研究室

備考・注意事項： メールにて質問してください。オフィスにこられる場合、予約ください。tamura-t@osaka-seikei.ac.jp

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンスおよび研究倫理に関する講義** 専門演習3の計画と諸注意を伝える。また、専門演習や卒業研究に取り組むことの意義について学ぶ。また、研究倫理教育を実施する。	自分の研究したい事柄について事前調査する	4時間
第2回	**グループワーク：研究テーマ１選定のための議論** ３つのグループにわけ、スポーツ＆ビジネス・マネジメントの研究テーマ１を選ぶ。	毎週ニュースからトピックを取り上げ発表する。質疑応答ができるように問題意識をもって情報を集めておく。	4時間
第3回	**グループワーク：研究テーマ１についての情報収集と調査** 研究テーマ１についての情報収集と調査をインターネット等を使いニュースや資料等を探索し調査する。	毎週ニュースからトピックを取り上げ発表する。質疑応答ができるように問題意識をもって情報を集めておく。	4時間
第4回	**グループワーク：研究テーマ１についての発表準備** 研究テーマ１について、グループワークによる発表の準備を行う。	毎週ニュースからトピックを取り上げ発表する。質疑応答ができるように問題意識をもって情報を集めておく。	4時間
第5回	**各グループごとの研究テーマ１の発表会** 各グループごとに研究テーマ１について発表と質疑応答を実施する。また他の班について質問を行う。質疑応答の後、各グループごとに反省会を行う。	議論からの課題を考察して、自己のテーマを深める	4時間
第6回	**グループワーク：研究テーマ２についての選定、情報収集と調査** 新たなグループに分かれ、研究テーマ２を決める。早速、そのテーマ２についての情報収集と調査を行う。	卒業発表から自己のテーマを見直す	4時間
第7回	**グループワーク：研究テーマ２についての議論、発表準備** 研究テーマ２について、グループ内で議論し、発表準備を行う。	指摘された修正事項について検討、研究テーマ等を修正する	4時間
第8回	**前期中間発表会を聴講する。** ４年生の行う前期中間発表を聴講する。	４年生の中間発表の評価等を行う	4時間
第9回	**各グループごとの研究テーマ２についての発表会** 各グループごとに研究テーマ２について発表と質疑応答を実施する。また他の班について質問を行う。質疑応答の後、各グループごとに反省会を行う。	自分の研究テーマと4年生のテーマ等との比較	4時間
第10回	**各自の研究テーマの選定** 自己のテーマの選定を行う。仮でもよいので各自の研究テーマの報告を順番に発表して、ゼミ内で批評と議論を行う。	議論からの課題を考察して、自己のテーマを深める	4時間
第11回	**各自の研究テーマの進捗報告**	議論からの課題を考察して、自己のテーマを深める	4時間

	自己のテーマの進捗と先行研究や仮説についての報告を順番に発表して、ゼミ内で批評と議論を行う。		
第12回	**各自の研究テーマの資料収集と調査研究** 自己のテーマの資料収集と調査研究を行う。発表資料の作成を自分で行う。	議論からの課題を考察して、自己のテーマを深める	4時間
第13回	**前期期末発表準備・ゼミ内発表質疑応答** 期末発表の準備として、ゼミ内発表と質疑を行い、本発表に備える。	指摘事項に関して、期末発表までに修正をすること。	4時間
第14回	**前期期末発表会** 前期期末発表会にて自分の研究テーマの発表を行う。	前期期末発表の準備（資料等）を行う。	4時間

233

授業科目名	**専門演習３【スポーツ】**				
担当教員名	古川拓也				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

自らの卒業研究へとつながるように、前半では研究手法や論文作成技法について、後半ではスポーツ政策に関連する研究の概観をしつつ自身の研究計画を立案していきます。あつかう研究のキーワードは「スポーツ政策」「スポーツ実施率向上政策」「競技力向上政策」「スタジアム・アリーナ政策」「学校運動部活動政策」「総合型地域スポーツクラブ政策」などです。専門演習3ではこれらのキーワードをベースに資料を集めていきながら、自身で執筆する卒論のテーマを確定することを目指します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.スポーツ産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	研究関連の文献購読などを通して基礎知識を習得します	幅広い教養やスキルを身に付ける
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	研究関連の専門的知識と研究課題の調査、分析を行う	専門的知識と研究課題の調査、分析を行う
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		自らの研究の課題を発見する力を身に付ける
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		研究の課題の計画を立案する力を身に付ける
3. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		研究の課題の計画を立案し、発表会などで実践していく力を身に付ける

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
論文・企画書の評価	30 %	： 専門性としてテーマの妥当性　研究テーマは学部・学科・コースの専門性と適合的か、内容の妥当性・論点の明確さ、テーマや設定課題に対して適切な内容となっているか、データと先行研究の参照　主張や提案の根拠
研究過程の評価	30 %	： 取り組む姿勢として意思疎通、自発的行動、協調性（グループ研究のみ）、忠恕の心を持ったコメント

研究発表の評価	:	専門性として内容の妥当性・オリジナリティ、データ・先行研究の参照 実践力としはて論理的構成、資料の活用、発表技術、発表時間 協調性、質疑応答 忠恕として不適切な内容
10 %		
ポートフォリオ（学びの記録）	:	「何を学んだかわかるものになっているか」、「学びの振返りが出来ているか」を評価の基準とする
15 %		
期末レポート	:	独自のルーブリックに基づき評価します。
15 %		

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業内で指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　火曜日1・2限（9：00〜12：00）

場所：　研究室　西館2階

備考・注意事項：　研究室にはオフィスアワーに関わらずどうぞ。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンスおよび研究倫理に関する講義** 専門演習3の計画と諸注意を伝える。また、専門演習や卒業研究に取り組むことの意義について学ぶ。	研究倫理の振返り	4時間
第2回	**論文を執筆する前に** ・研究とは何か？ ・卒業論文に取組む姿勢として心がけておくこと ・批判的に読む・考える ・問いを立てる	改めて、自身が関心を持つ研究領域ならびに事象について、実態の把握に努めること	4時間
第3回	**タイトル・緒言** ・タイトル設定の考え方 ・問題の所在 ・解決すべき課題	自身が興味を持つ事象について、簡易的な緒言構成を考えてみること	4時間
第4回	**先行研究の検討方法** ・文献検索の手法 ・仮説の設定 ・先行研究のまとめ方	自身が興味を持つ事象について、先行研究を検索しまとめてくること	4時間
第5回	**研究の手法** ・定量調査、定性調査 ・対象者 ・調査時の心得	自身が興味を持つ事象について、研究方法の作成してみること	4時間
第6回	**結果と図表** ・結果には何を書くか ・図と表の読み取り方	自身が興味を持つ事象について、予想される結果を作成すること。また、どの様な図と表で表現することが相応しいか考えてみること。	4時間
第7回	**考察** ・研究において、何を考察することが考察なのか ・考察の方法	自身が興味を持つ事象について、予想される結果を踏まえて、何を考察すべきか考えまとめてくること	4時間
第8回	**春の中間発表会を聞く** 4年生の卒業研究の中間発表会を聴講します。	自身の関心のある研究テーマについて考えておきましょう。	4時間
第9回	**文献の引用** ・引用するとは ・引用の方法	先行研究を用いて、自身の考えを主張する課題に取組むこと。	4時間
第10回	**スポーツ政策研究の概観－研究の範囲から国策を対象とした研究について－**	自身が興味を持つ事象について、先行研究を探しておくこと	4時間

	・スポーツ政策研究の範囲 ・スポーツ実施に関する研究 ・競技力向上政策に関する研究 ・スポーツキャリアに関する研究		
第11回	**スポーツ政策研究の概観－非営利セクターに着目した研究－** ・学校運動部活動政策の研究 ・競技団体に関する研究	自身が興味を持つ事象について、先行研究を探しておくこと	4時間
第12回	**研究計画プレゼンテーションに向けて－研究テーマの設定－** 自身の研究計画についてプレゼンテーションを行います。これまで学んだ視点から、研究計画を立案してみましょう。	研究テーマに関して実態を調べてくること	4時間
第13回	**研究計画プレゼンテーション－研究計画の立案－** 自身の研究計画についてプレゼンテーションを行います。これまで学んだ視点から、研究計画を立案してみましょう。	研究テーマに関して計画を立案してくること	4時間
第14回	**研究計画プレゼンテーション－プレゼンテーション－** 自身の研究計画についてプレゼンテーションを行います。誰もがわかりやすいように、発表の工夫を心がけましょう。	研究テーマに関して発表資料を作成すること	4時間

233

授業科目名	専門演習３【スポーツ】				
担当教員名	坂中勇亮				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	・スポーツ協会に勤務し、スポーツ行政に従事（全１４回）				

授業概要

自身の卒業研究につながるように、スポーツマネジメントに関する諸分野の研究を主体的に進めていきます。また、課題を主体的に探究する中で、先行研究についての精読・発表を通じて自らの問題意識を深めます。 特に、担当教員の専門領域であるスポーツ行政を中心とした課題について、各自の関心や問題意識より、４年生で作成する卒業論文に向けての準備を進めると共に、ゼミ内での議論や中間発表会を通じて研究内容の充実を図っていきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	各自の研究報告を通じて、研究を進める能力やプレゼンする能力を習得する。	研究を遂行する能力や発表する能力を身に付ける
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		研究課題の発見
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		研究課題の計画の立案を行う
3. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		発表などの実践力を身に付ける

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
研究発表の評価	10 %	： 専門性として内容の妥当性・オリジナリティ、データ・先行研究の参照 実践力として論理的構成、資料の活用、発表技術、発表時間 忠恕として不適切な内容
研究過程の評価	30 %	： 取り組む姿勢として意思疎通、自発的行動、協調性（グループ研究のみ）忠恕の心を持ったコメント
論文・企画書の評価		： 専門性としてテーマの妥当性、内容の妥当性・論点の明確さ、データと先行研究の参照、独自性・社会的意義 実践力として論理的構成、文章の体裁、表現の推敲、研究の完遂 忠恕として不適切な内容

30　%

ポートフォリオ（学びの記録）　：　「何を学んだかわかるものになっているか」、「学びのふりかえりができているか」を評価の基準とする

10　%

期末レポート　：　ルーブリックに基づき評価します

20　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

必要に応じて、授業内で指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜日　13：00－15：00

場所：　研究室

備考・注意事項：　本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**専門演習３のガイダンス及び研究倫理に関する講義** 専門演習３の授業計画と研究倫理について説明する	専門演習３の進め方と諸注意をよく聞く。研究倫理についての理解を深める。	4時間
第2回	**研究テーマの検討** ゼミ選択の際に作成した研究計画書に基づいて、興味・関心のある研究テーマについて考える	研究に関連する資料・文献の収集	4時間
第3回	**研究テーマについての報告** 自身が興味・関心のあるテーマをまとめゼミ内で報告する	研究に関連する資料・文献の収集	4時間
第4回	**先行研究の収集** 研究テーマに関連する先行研究の検索方法について学ぶ	研究に関連する先行研究を最低５本は収集する	4時間
第5回	**先行研究のまとめ** 研究テーマに関連する先行研究の内容をまとめる	研究に関連する先行研究の内容をまとめる	4時間
第6回	**先行研究の報告** 前回の授業でまとめた先行研究についてゼミ内で報告する	ゼミ内での報告内容を振り返る	4時間
第7回	**研究課題の決定** これまでの授業(研究テーマの選定・先行研究レビュー)を通じて、各自が取り組む研究課題を決定する。	自身の研究課題を決定する	4時間
第8回	**卒業研究中間発表会の見学** ４年生の卒業研究中間発表会を見学して、今後の研究について考える。	４年生の卒業研究の内容を振り返る	4時間
第9回	**４年生の卒業研究中間発表会の評価** ゼミ内での議論を通して、４年生の卒業研究について評価を行う。	４年生の卒業研究の内容を振り返る	4時間
第10回	**研究の進捗状況の報告（グループ１）** 各自の研究に関して、研究テーマ及び先行研究レビューの結果を報告し、ゼミ内で議論する。	ゼミ内での議論を通して、各自の研究内容を再考する。	4時間
第11回	**研究の進捗状況の報告（グループ２）** 各自の研究に関して、研究テーマ及び先行研究レビューの結果を報告し、ゼミ内で議論する。	ゼミ内での議論を通して、各自の研究内容を再考する。	4時間
第12回	**研究の進捗状況の報告（グループ３）** 各自の研究に関して、研究テーマ及び先行研究レビューの結果を報告し、ゼミ内で議論する。	ゼミ内での議論を通して、各自の研究内容を再考する。	4時間
第13回	**前期期末発表会の準備（発表用資料の作成）** 期末発表会の準備として、発表時に使用する資料を作成する	発表用資料の作成	4時間
第14回	**前期期末発表会（ゼミ内での発表会）** 前期期末発表を行い、今後の研究計画について検討する。	前期期末発表の準備を行う	4時間

233

授業科目名	専門演習３【スポーツ】				
担当教員名	林悠太				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

３・４回生で履修する専門演習は各自の卒業論文を作成することが目的です。３回生の専門演習では卒業論文を作成するための基礎知識を学び、４回生の専門演習でスムーズに論文作成できるように準備をしていきます。
具体的に専門演習３では、研究の定義や論文検索法、リサーチクエスチョンの設定方法、リサーチデザインなどについて学びます。なお、授業担当者は「スポーツマーケティング」、「スポーツエコロジー」を専門領域とし、プロスポーツビジネスやスタジアム・アリーナを対象に研究を行っています。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.スポーツ産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	スポーツ産業の動向や先行研究から自身の関心のある分野について知識を深める	自身の関心のある分野について現状を把握し、どのような課題があるのかを述べることができる
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		研究デザインおよび研究方法について理解できる。
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		研究計画を立案できる。
3. DP８.他者とのコミュニケーション		他者のプレゼンに対してフィードバック（コメント）することができる。 発表者はフィードバックに耳を傾け、より良い研究に繋げることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
論文・企画の評価	:	専門領域と研選定した究テーマの整合性、先行研究を参照できているかを評価する。
30 %		
研究過程の評価	:	授業および自身の研究に対しての取り組み（どの程度時間を割いたか）やその成果物(発表資料など)への評価、ディスカッションでは発言の積極性、建設的な姿勢を評価する。

研究発表の評価	30 %	:	自身の研究について、資料やデータに基づいて客観的に発表できているかを評価する。
学びの記録	30 %	:	授業で学んだことへの理解度を評価する。
	10 %		

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業のなかで適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜２限

場所： 研究室

備考・注意事項： 事前に連絡を頂ければ、上記の限りではありません。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**オリエンテーション：専門演習の意義と研究倫理** ゼミの目的や進め方、研究倫理を確認する。	研究倫理についての予習復習	4時間
第２回	**卒業論文執筆にむけて** 研究とは何か、卒業論文執筆に向けて取り組むべきことを確認する。	自身の研究課題についての情報収集	4時間
第３回	**論文検索** 論文の検索方法について学ぶ。	自身の研究課題についての情報収集	4時間
第４回	**リサーチクエスチョン** リサーチクエスチョンの設定方法について学ぶ。	自身の研究課題についての情報収集	4時間
第５回	**先行研究の検討** 先行研究のレビューから研究目的の設定における論理展開について学ぶ。	研究課題に関する先行研究の収集	4時間
第６回	**方法** 研究における「方法」について、その構成要素や手順などについて学ぶ。	研究課題に関する先行研究の収集	4時間
第７回	**研究デザイン** 自身のリサーチクエスチョンに対して適切な研究デザインの選択方法について学ぶ。	研究課題に関する先行研究の収集	4時間
第８回	**卒業研究中間発表会の見学** 4回生の卒業研究中間発表に参加する。	前期中間発表の聴講	4時間
第９回	**４回生の卒業研究発表の評価** ４回生の卒業研究発表についてゼミでディスカッションし、評価をおこなう。	前期中間発表の内容の復習	4時間
第１０回	**研究進捗状況報告１：これまでの研究で明らかになっていること** 各自の課題意識や関心に基づき、先行研究のレビューから明らかになっていることについて、その結果を報告する。	報告資料の作成・復習	4時間
第１１回	**研究進捗状況報告２：リサーチギャップ** 各自の課題意識や関心に基づき、先行研究のレビューからリサーチギャップをまとめ、その結果を報告する。	報告資料の作成・復習	4時間
第１２回	**研究進捗状況報告３：研究計画の立案** 各自の課題意識や関心に基づき、先行研究のレビューから研究計画をまとめ、その結果を報告する。	報告資料の作成・復習	4時間
第１３回	**前期期末発表会の準備** 末発表会の準備として、当日使用する資料の作成をおこなう。	発表用資料の作成	4時間
第１４回	**前期期末発表会** 前期学修したこと基づき今後の研究計画を発表し、検討する。	資料の作成・復習	4時間

233

授業科目名	専門演習３【スポーツ】				
担当教員名	鳥山稔				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

自らの卒業研究へとつながるように、3年生前期では論文を読解する力、自分の考えをアウトプットする力を養っていきます。鳥山研究室では、「スポーツ組織の社会的価値」をキーワードとし、「プロスポーツ」、「eスポーツ」、「地域スポーツ」、それぞれにはどのような価値があるのか、価値を明らかにするにはどのような調査が必要か、等々、論文を読みながら理解していきます。
まずは論文とは何か、なぜ論文を書く必要があるのかという意義の理解からはじめ、自分自身が現在、どのような分野に興味があるのか、どのような研究が行われているのか、現状理解を行います。4年生になった際に質の高い卒業論文が作成出来るよう、3年生の間に基礎を固めていきます。
また、鳥山研究室ではフィールドワークを重視しています。時には実際にスポーツの現場に足を運び、課題発見、解決の手がかりを探しにいきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.スポーツ産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	先行研究を理解し、興味のある分野に関して知識を深めていく	自身が興味のある分野に関する知識を身に付けることが出来る
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	先行研究から課題解決の手法を学ぶ	先行研究から課題解決の手法を学び、研究計画作成に活かすことが出来る
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		調査手法について理解することが出来る
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		研究計画書を作成することが出来る
3. DP８.他者とのコミュニケーション		研究計画書をゼミ内で共有した際に、他者と議論を交わすことが出来る

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業態度	:	学生が授業に出席し、積極的にディスカッションや活動に参加するかどうかを評価する
30 ％		
プレゼンテーション	:	研究内容を適切に伝える能力や、質疑応答に適切に対応する能力を評価する

40 %

研究計画書 : 研究計画書について評価する（研究テーマの設定、研究計画の妥当性、明確性、等）

30 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

講義内で紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜2限

場所： 研究室

備考・注意事項： 事前に連絡を頂ければいつでも構いません

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**専門演習ガイダンス** 専門演習の進め方と評価視点を伝える。その後、グループワークを行い、協調性・コミュニケーションの重要性を伝える。	専門演習のシラバスを読み、個人的な目標や興味関心をメモする	4時間
第2回	**論文の理解：論文の意義、研究倫理** なぜ卒業研究を行う必要があるのか、なぜ研究者は論文を執筆しているのか、意義を学ぶ。また、正しい論文の利用方法や研究倫理に沿った研究活動の実践を理解する。	事前に提示する文献を熟読し、研究倫理に関する知識を深める	4時間
第3回	**論文の理解：論文の探し方、読み方** Google ScholarやConsensusを用いて論文を検索する方法を学ぶ。その後、論文の構造や読み方について理解を深める。	講義内で推奨する文献を熟読する	4時間
第4回	**自己理解：興味関心の深掘り** 自身の興味関心を深めるための方法について探求する。ワークシートやディスカッションを通じて、学生は自分の研究関心を明確にする。	自分が何に興味関心を抱いているかを考える	4時間
第5回	**自己理解：研究テーマの設定** 研究テーマの選定方法とその重要性について学ぶ。自身が何に興味関心を抱いているかを書き出し、関連する論文を検索する。	事前に興味関心を抱いている分野の文献を調べ、内容を理解する	4時間
第6回	**プレゼンテーションの手法** 効果的なプレゼンテーション技術（スライド作成、話し方、視覚的な表現方法など）について学ぶ。	講義内で推奨する文献を熟読する	4時間
第7回	**プレゼンテーション①** 興味のあるテーマの論文を1本選び、内容を紹介する。発表を聴講している学生は、批判的視点を持ちながら聞くことで、論理的思考力を養う。	事前に論文を読み、発表資料を作成する	4時間
第8回	**卒業研究中間発表会（４年生）：聴講** 4年生が行う卒業研究の中間発表会に参加する。異なるテーマやアプローチに触れ、学びを深める。内容に疑問が生じた際は、4年生へ問いかける。	4年生の発表で気になった点をまとめる	4時間
第9回	**卒業研究中間発表の批評** 卒業研究中間発表を分析し、批評する。論点の明確化やプレゼンテーションの改善点についてディスカッションする。	4年生の発表で気になった点をまとめる	4時間
第10回	**プレゼンテーション②** 興味のあるテーマの論文を1本選び、内容を紹介する。発表を聴講している学生は、批判的視点を持ちながら聞くことで、論理的思考力を養う。	事前に論文を読み、発表資料を作成する	4時間
第11回	**プレゼンテーション③** 興味のあるテーマの論文を1本選び、内容を紹介する。発表を聴講している学生は、批判的視点を持ちながら聞くことで、論理的思考力を養う。	事前に論文を読み、発表資料を作成する	4時間
第12回	**研究計画書の作成：テーマ設定** 卒業研究、学会発表のための研究計画書を作成する準備を進める。	研究テーマに関する文献を熟読しておく	4時間
第13回	**研究計画書の作成：研究計画書**	研究計画書の草案を作成する	4時間

	研究の背景、目的、方法、予想される結果を整理し、研究計画書を作成する。		
第14回	**研究計画書の作成：発表と批評** 研究計画書を発表する。学生同士で批評することで内容を改善していく。その後、夏季休暇中のスケジュールを整理する。	研究計画書の発表資料を作成する	4時間

233

授業科目名	専門演習４【経営】				
担当教員名	中井秀樹				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

社会におけるICTの利活用に関して、様々な調査・研究を行う。特に、今後の専門的な研究活動に備えて、比較的短い期間での調査・報告を行う事で、研究活動の実践的経験を積むと同時にその精度を高めていく。
これまでの調査や学修から得た、興味・関心のある分野の中から、卒業研究のテーマについて模索をし、3年次の卒業研究計画の立案を行っていく。
また、機会があれば様々な発表に挑戦し、知識だけではなく実践力についてもさらに磨きをかける。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	調査活動に必要となる様々なスキルや実際に調査することによる知識の習得を目指す。	論文執筆や発表のスキルの修得し、きちんと執筆・発表ができる
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		身近な環境における技術の応用や工夫に気付き、分析ができる
2. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		様々な活動に積極的に参加し、自ら体験をし、実践に活かせる
3. DP８.他者とのコミュニケーション		グループでの活動におけるコミュニケーションがきちんとできる
4. DP９.他者との協調・協働		ゼミメンバーと時に協力・協調し、特に切磋琢磨し、目的を達成するよう行動する

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への参加・貢献度	50 %	： 各人の活動やグループにおける活動での積極性や発言の度合いなどで評価 活動への参加および発言がない場合は、0点とする
報告内容	30 %	： 提出物や発表の内容によって評価 発表・レポートはルーブリック評価を行う
ポートフォリオ（学びの記録）	10 %	： 「何を学んだかわかるものになっているか」、「学びのふりかえりができているか」を評価の基準とする。
試験（期末レポート）	10 %	： 卒業研究計画に関する最終レポートを提出し、研究の実現可能性などから評価を行う。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

参考文献等:なし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜4限

場所：　西館3階研究室

備考・注意事項：　通常開講時間以外の実施を行う場合があります。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**これまでのふりかえりと今後の計画** 前期の活動を踏まえた後期の研究活動に対する計画を考える	時事関連の調査	4時間
第2回	**プレゼン演習１　自己紹介** 前期に実施した内容をブラッシュアップし、自己流の自己紹介に挑戦する。 主に自己の能力について、新しい取り組みによる技能向上を目指し、次回の目標設定につなげる。	時事関連の調査	4時間
第3回	**プレゼン演習２　事例紹介による自己技能の向上** 調査した事例紹介のプレゼンテーションを行う。 主に自己の能力について、新しい取り組みによる技能向上を目指し、次回の目標設定につなげる。	時事関連の調査	4時間
第4回	**プレゼン演習３　事例紹介による他者技能の確認** 調査した事例紹介のプレゼンテーションを行う。 主に他者の実施を観察し、内容の理解にとどまらず、プレゼン技能についての客観的な認識と橋上のための知見を得る。	時事関連の調査	4時間
第5回	**事例研究１　テーマ決定** 自己テーマの選択・決定の実施 様々な資料から、ショートタームのテーマ選定を行い、研究計画を立てる。	時事関連の調査	4時間
第6回	**事例研究２　テーマの調査** テーマ研究における調査活動 決定したテーマに関しての調査活動を行う。	時事関連の調査	4時間
第7回	**事例研究３　資料整理、発表準備** 論理的展開のための資料集めと整理・管理	時事関連の調査	4時間
第8回	**報告会** テーマ内容の報告を行い、学修者間で評価を行う。	時事関連の調査、発表資料の指摘事項の確認と訂正	4時間
第9回	**事例研究４　テーマ決定** 自己テーマの選択・決定の実施 様々な資料から、ショートタームのテーマ選定を行い、研究計画を立てる。	時事関連の調査	4時間
第10回	**事例研究5テーマの調査** テーマ研究における調査活動 決定したテーマに関しての調査活動を行う。	時事関連の調査	4時間
第11回	**事例研究6　資料整理、発表準備** 論理的展開のための資料集めと整理・管理	時事関連の調査	4時間
第12回	**報告会** テーマ内容の報告を行い、学修者間で評価を行う。	時事関連の調査、発表資料の指摘事項の確認と訂正	4時間
第13回	**グループによる課題解決学習　役割分担** グループによる課題への取り組み	時事関連の調査	4時間
第14回	**グループによる課題解決学習　まとめとふりかえり** グループによる課題への取り組み	時事関連の調査、ポートフォリオの作成	4時間

233

授業科目名	**専門演習４【経営】**				
担当教員名	児山俊行				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

卒業論文を視野にその準備を行っていきます。
①まず、最も重要な「問題や課題の発見」から行います。現象を当たり前と思った ところから、ビジネスでも組織でも停滞が起こります。したがって、常に社会や組織の問題や課題を見つけることは、自己と環境を変えるために不可欠な事柄です。
②活字に苦手な人が多い世の中です。よって、当演習ではあえて書籍を中心に論文作成を進めていきます。もちろん、必要に応じてアンケートなど実施してもらいます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	製品開発における基本的プロセスと現代的課題を理解する。	ビジネスの実情・背景を理解し、基本的視角を持つことができる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		社会現象を観察して因果関係を理解し、そこにある（発展・停滞の）課題を見出すことができる。
2. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		自主的にリサーチを行い、新製品の特別な意味を紡ぎ出す熟慮
3. DP８.他者とのコミュニケーション		新製品に関するリサーチやコンセプトについて相互批評を行う
4. DP９.他者との協調・協働		新製品のプレゼンにおいて相互評価を行うことでコンセプトをブラッシュアップさせる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業態度	10 %	： 授業への集中度や質疑応答などの積極性で評価する。
授業中での活動	70 %	： 授業での発表や議論、授業前に提出された課題、上級生の卒業研究発表会や学術交流会への参加と振り返りなどの成果で評価する。
発表会		： 各自で新たな製品やサービスについての発表を行う。

20　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

参考文献等:学生の卒業論文のテーマごとに指導します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　火曜２限と昼休み

場所：　研究室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション** 日本企業の製品開発の事例を通じて、製品開発プロセスに関する学びについての動機づけを行う。また、研究倫理教育の実施。	各自、発表テーマについて探索を開始する	4時間
第2回	**学術交流発表に向けてのテーマ設定** 学術交流へ向けて、グループ分けを行い、それぞれで発表テーマ候補を複数挙げて決定する。	発表テーマについてグループ内での話し合いとテーマ設定	4時間
第3回	**学術交流発表に向けて新ビジネスの基本コンセプトの探求** 学術交流へ向けて、グループごとで新ビジネスの（革新的な）コンセプトを複数挙げて議論する。	発表テーマについてグループ内でのコンセプトについては議論する。	4時間
第4回	**学術交流発表に向けて新ビジネスの基本コンセプトの決定** 学術交流へ向けて、グループごとで新ビジネスの（革新的な）コンセプトを決定する。	発表テーマについて次回報告できるようにグループ内でまとめておく。	4時間
第5回	**学術交流へ向けて新ビジネスに関連する既存ビジネスのリサーチ** 学術交流へ向けて、グループごとに新ビジネスコンセプトを発表。そしてそれぞれのコンセプトに類似する既存ビジネスをリサーチして、それらのビジネスの特徴をひとつひとつ確認しておく。	新ビジネスに類似した既存ビジネスをひきつづきリサーチする。	4時間
第6回	**4年生の卒業研究中間発表会への参加** 次年度の自らの卒業研究の参考とするべく、4年生の卒業研究の中間発表会に参加。各発表内容と発表形式などから次年度の自らの卒業研究と発表への参考となるものを学びとる。	各発表内容の把握と評価を行う。	4時間
第7回	**学術交流へ向けて新ビジネスに類似する既存ビジネスとの差別化** 学術交流へ向けて、グループごとに新ビジネスに類似する既存ビジネスをリサーチして出てきた類似ビジネスの特徴と異なる自らの新ビジネスの革新性、独自性をブラッシュアップしていく。	類似ビジネスの特徴と異なる自らの新ビジネスの革新性、独自性をブラッシュアップしていく。	4時間
第8回	**学術交流へ向けて新ビジネスコンセプトの洗練化** 学術交流へ向けて、グループごとに新ビジネスに類似する既存ビジネスをリサーチして出てきた類似ビジネスの特徴と異なる自らの新ビジネスの革新性、独自性をブラッシュアップして、コンセプトを決定する	新ビジネスコンセプトについて次回報告できるようにグループ内でまとめておく。	4時間
第9回	**学術交流へ向けて新ビジネスの事業内容を決定** 学術交流へ向けて、グループごとにブラッシュアップした新ビジネスコンセプトに沿って、具体的な事業内容を盛り込んでいく。	次回に報告できるよう自らの新ビジネスの事業内容をまとめておく。	4時間
第10回	**グループ間評価会** 学術交流へ向けて、グループごとにビジネス内容を発表し、ゼミの代表を決定する。	代表グループの発表会準備と他のグループからのサポート	4時間
第11回	**学術交流会** 各ゼミの代表と相手大学の発表を聞いて、内容と研究の意義を把握し、評価を行う。	学術交流会での発表内容について振り返りと評価を行う。	4時間
第12回	**研究テーマの探求** 各自が研究としたいテーマの候補を複数あげ、ゼミ内でそれらと選んだ理由とを発表する。	研究の候補テーマについて、それぞれ参考文献やウェブ記事などあたりながら検討する。	4時間
第13回	**卒業研究テーマの絞り込み**	各自が研究したいテーマ候補に関する参考文献を探し取得する。	4時間

	各自が研究としたいテーマの複数候補の中から絞り込む。		
第14回	**研究テーマの決定** 各自が研究としたいテーマを決定し、それに関する参考文献を示す。	各自が研究したいテーマ候補に関する参考文献を内容把握しながら読破する。	4時間

233

授業科目名	専門演習４【経営】				
担当教員名	稲村昌南				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本演習では、近年のモノづくりにおける戦略的な観点から「モジュール化」をテーマとしてグローバルな規模で展開されるビジネス活動について理解を深めます。一方、3年次に本格化する就職活動を見据え、企業研究・業界研究も行います。なお、前期と同様、14回の授業のうちの5回については、企業や社会が抱える課題の解決を行うグループ学習を実施します。また、卒業研究発表会に参加し、卒業論文作成に向けた意識の向上も図ります。そして、卒業研究計画書3年次版を作成し、研究テーマと研究目的の設定を行います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	企業の戦略的行動に関する知識	企業の行動の背後にある思惑について分析し、客観的に説明できる。
汎用的な力		
1. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		与えられた課題に対して主体的に取り組み、一定の成果を出すことができる。
2. DP９.他者との協調・協働		グループでの活動において発言・行動し、目的に向かって協力して取り組むことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
期末レポート（研究計画書）	40 %	： 「研究テーマについての背景が一定のデータに基づいて示されているか」、「研究目的がテーマに対して適切か」という2つの観点から評価する。
取組む姿勢	40 %	： チームで取り組む課題については「グループワークに主体的に取り組めているか」、「他者と協調性を持って取り組めているか」という2つの観点から評価する。
ポートフォリオ（学びの記録）	20 %	： 「何を学んだかわかるものになっているか」、「学びのふりかえりができているか」を評価の基準とする。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜、指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日3時間目

場所： 西館3階45研究室

備考・注意事項： classroom上での連絡も可能

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**イノベーションの重要性を考える** 国の経済的成長と企業のイノベーション力の関係について考えます。	特許数ランキングと国別のイノベーション力ランキングについて調査します。	4時間
第2回	**日本のモノづくりの現状と課題** 家電業界を中心に日本のモノづくりが苦戦している現状とその背後にある課題について考えます。	日本家電メーカーの世界におけるポジションについて調査します。	4時間
第3回	**モジュール化の意味** モジュールとは何か、またモジュール化とはどのような現象か学びます。	製品のモジュール化が進んでいる業界について調査します。	4時間
第4回	**モジュール生産方式とは何か** モジュール生産方式の特徴について学びます。	モジュール生産方式のメリットについて調査します。	4時間
第5回	**日本企業とモジュール化** モジュール化が日本のモノづくりにどのような影響を与えたか考えます。	日本のモノづくりのメリットとデメリットについて調査します。	4時間
第6回	**ICTの活用とイノベーション（1）クローズドイノベーション** 日本企業の伝統的な製品開発手法について学びます。	「擦り合わせ」型のメリットデメリットについて調査します。	4時間
第7回	**ICTの活用とイノベーション（2）オープンイノベーション** オープンなインターネット環境を利用した製品開発手法について学びます。	「組み合わせ型」のメリットとデメリットについて調査します。	4時間
第8回	**グループワーク（1）ブレーンストーミングとKJ法** 課題テーマに対して、できるだけ多くの意見を出し合います。	グループの中で決められた自分の課題を次週までに行います。	4時間
第9回	**グループワーク（2）課題の抽出** 出された意見の中から、課題テーマに対して重要と思われる問題を抽出します。	グループの中で決められた自分の課題を次週までに行います。	4時間
第10回	**グループワーク（3）提案書の作成** 問題に対してそれを解決すると思われる提案を企画案としてまとめます。	グループの中で決められた自分の課題を次週までに行います。	4時間
第11回	**グループワーク（4）プレゼン準備** 発表資料をパワーポイントで作成し、発表のポイントをグループメンバーで話し合います。	グループの中で決められた自分の課題を次週までに行います。	4時間
第12回	**グループワーク（5）提案のプレゼンテーション** 各グループの提案をプレゼンし、意見交換します。	ふり返りシートを次週までに完成させます。	4時間
第13回	**企業研究－情報収集と分析、論点整理－** 企業研究・業界研究を行うに当たっての資料収集と分析の観点、および論点整理の仕方について学びます。	企業研究・業界研究のプレゼン資料を作成します。	4時間
第14回	**企業研究発表** 発表者は自身の分析資料とプレゼンするとともに、他の学生は発表者の発表内容とプレゼン技術を評価します。	評価シートを参考に、ふりかえりシートを完成させます。	4時間

233

授業科目名	**専門演習４【経営】**				
担当教員名	笠岡恵理子				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

この授業では、財務諸表を作成する際のルールである会計基準について、会計処理の方法および開示項目を理解するとともに、それぞれの会計基準における論点についても学習を行っていく。また、財務情報だけでなく、企業のCSR（企業の社会的責任）やSDGs（持続可能な開発目標）への取り組みなどの非財務情報の重要性についても検討を行っていく。これらの学習を通じて、会計に関する知識の理解を深め、研究方法を習得していくことを目的としている。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	個人研究の調査・発表を行う。	会計における問題を発見し、それを論理的に解決することができる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		自らの研究課題を発見することができる。
2. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		研究課題の計画を立て、実行することができる。
3. DP７.実践の完遂		与えられた課題を詳細に調べ、やり遂げることができる。
4. DP８.他者とのコミュニケーション		研究課題について、ディスカッションおよびプレゼンテーションを行うことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
提出課題	40 %	： 与えられた課題について、授業で学習した内容を踏まえて、論理的に記述されているかで評価する。
授業への積極的参加	30 %	： グループワークおよびプレゼンテーションについて、積極性および他との協調性を持って、相手に伝わる説明ができているかという点から評価を行う。
期末レポート	30 %	： 授業内容の理解度を評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

桜井久勝『財務諸表講義（第24版）』中央経済社、2023年（ISBN：978-4-502-46061-6）。
井上達男、山地範明『エッセンシャル財務会計（第4版）』中央経済社、2021年（ISBN：978-4-502-37881-2）。
橋本 尚、 山田善隆『IFRS会計学基本テキスト(第7版)』中央経済社、2022年（ISBN：978-4-502-42611-7）。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜2限目

場所： 個人研究室（西館2F）

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス：前期の振り返りと今後の授業計画、および論文の書き方** 前期における学習内容の振り返り、ゼミにおけるこれからの授業計画、および論文の書き方についての説明を行う。	収益と費用の意義、および収益と費用の分類について調べる。	4時間
第2回	**収益と費用** 収益と費用の意義、収益と費用の分類、および収益と費用の認識と測定について学習する。	リース会計の意義、およびリース取引の分類について調べる。	4時間
第3回	**リース会計** リース会計の意義、リース取引の分類、ファイナンス・リース取引の会計処理、およびオペレーティング・リースの会計処理について学習する。	減損会計の意義、減損処理の対象となる資産および減損の兆候について調べる。	4時間
第4回	**減損会計** 減損会計の意義、減損処理の対象となる資産、減損の兆候と減損損失の認識、減損損失の測定等について学習する。	退職給付の意義、および退職給付会計における構成要素について調べる。	4時間
第5回	**退職給付会計** 退職給付の意義、退職給付債務と退職給付に係る負債、および退職給付費用の算定について学習する。	金融商品の意義、および金融商品の認識について調べる。	4時間
第6回	**金融商品会計** 金融商品の意義、金融資産および金融負債の発生および消滅の認識、金融資産および金融負債の貸借対照表額等について学習する。	企業結合の意義、および企業結合の会計処理について調べる。	4時間
第7回	**企業結合会計** 企業結合の意義、企業結合の会計処理、取得の会計処理、株式交換および株式転換の処理、および共同支配企業の形成と共通支配下の取引等の会計処理について学習する。	第2回から第7回で学習したことを振り返り、個別研究のテーマを考える。	4時間
第8回	**文献調査と個別研究（1）研究テーマの設定** 個別に財務会計において興味のあるテーマを設定し、文献調査を行う。	個別研究のテーマ設定とそれに関連する文献調査を行った結果をパワーポイントにまとめ、発表の準備をする。	4時間
第9回	**文献調査と個別研究（2）研究テーマの発表** 各自興味のあるテーマおよび第8回の授業で調査を行った内容について、発表を行う。	発表から得られたコメントを基にして、研究内容の構成を考え直す。	4時間
第10回	**文献調査と個別研究（3）研究資料の収集** 第8回の文献調査に加え、必要なデータ等の収集を行う。	収集を行った文献およびデータから、これらの情報をどの章や節で取り扱うのかを考える。	4時間
第11回	**文献調査と個別研究（4）研究内容のまとめ** テーマに沿って調査した内容を小論文にまとめる。	これまでの研究内容を小論文にまとめ、完成させるとともに、発表の際に伝えるべき内容について考える。	4時間
第12回	**文献調査と個別研究（5）発表の準備** これまで行ってきた研究内容について、パワーポイントを作成し、発表の準備をする。	繰り返し発表を練習し、質疑応答に対しても十分な準備をしておく。	4時間
第13回	**文献調査と個別研究（6）研究内容の発表** これまで調査した研究内容について、発表を行う。	発表によるコメントを受け、小論文において改訂を行うべき箇所を考える。	4時間
第14回	**文献調査と個別研究（7）小論文の内容の改訂** 第13回における研究内容の発表から得られたコメントを基にして、内容の改訂を行う。	これまで研究してきたことを振り返り、次年度の研究内容および研究計画を考える。	4時間

233

授業科目名	**専門演習４【経営】**				
担当教員名	山崎哲弘				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

専門演習４では、人的資源管理論の諸管理を学ぶとともに、労政時報など人事系専門紙などから具体的な企業の人事施策例を調査し、今後企業における人材育成施策や人事評価などがどのように変化していくのか、また求められるのかを皆さんとともに探求していく。また３年次末より本格化する就職活動を見据え、企業研究や業界研究も行います。
また、研究における批判的思考能力の向上を目指して、アカデミックディベートを実施する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	個人の研究テーマに関した専門的知識と研究課題の調査、分析を行う	専門的知識と研究課題の調査、分析することができる
2. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	個人研究の調査・発表を行う	論文執筆や発表のスキルの修得し、きちんと執筆・発表ができる
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		自らの研究の課題を発見することができる
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		研究課題の計画を立案することができる
3. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		計画に基づき行動し、発表会などでプレゼンテーションができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
課題提出	70 %	： 与えられた課題に対して、論理的に論述できているかどうかを評価する。
授業態度	20 %	： チームで取り組む課題については「主体的に取り組めているか」「他者と協調性を持って取り組めているか」の２点から評価する。また課題発表は報告の内容によって評価する。
期末レポート	10 %	： 「何を学んだかわかるものになっているか」、「学びのふりかえりができているか」を評価の基準とする。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

高橋伸夫（2004）『虚妄の成果主義』日経BP社。ISBN-13 ： 978-4822243722

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日１限

場所： 西館２階研究室

備考・注意事項： 通常開講時間以外の実施を行います。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**これまでのふりかえりと今後の計画** 前期の活動を踏まえた後期の研究活動に対する計画を考える	各自の学習分野についてレビューを行う	4時間
第2回	**文献調査と論文指導①** 研究の進め方をレクチャーする。レポートと論文の違いを確認する。	興味のある分野の文献を読み、まとめる	4時間
第3回	**文献調査と論文指導②** 各自の学習分野についてレビューした内容を発表する。	興味のある分野の文献を読み、まとめる	4時間
第4回	**文献調査と論文指導③** 前回発表したレビュー内容について、小論文の形式でまとめる。	興味のある分野の文献を読み、まとめる	4時間
第5回	**文献調査と論文指導④** 学習分野について、最終的に取り組んでいくテーマを決定する。	研究を行う分野の文献を読み、まとめる	4時間
第6回	**文献調査と論文指導⑤** 各自で取り組んでいる研究テーマの現状分析を行い、そのまとめた内容を発表する（一人５分程度）	研究を行う分野の文献を読み、まとめる	4時間
第7回	**発表とディスカッション** 前回発表した内容をもとに、ディスカッションを行う	研究を行う分野の文献を読み、まとめる	4時間
第8回	**事例研究①** 研究テーマに関する業界や企業などについて、グループによる調査活動を行う。 初回は、チーム分けとテーマ決め、役割分担を決定する。	チームメンバーと協働で調査活動を行う	4時間
第9回	**事例研究②** 各メンバーが決まった役割分担をもとに資料収集を行う。	チームメンバーと協働で調査活動を行う	4時間
第10回	**事例研究③** 各メンバーが収集した資料について、必要性の有無など検討し、取捨選択を行う。	チームメンバーと協働で調査活動を行う	4時間
第11回	**事例研究④** 企業の人事担当者による企業目線の採用動向などについての特別講義を実施する。	チームメンバーと協働で調査活動を行う	4時間
第12回	**事例研究⑤** 特別講義の内容も踏まえ、事例研究報告の資料を作成する	チームメンバーと協働で調査活動を行う	4時間
第13回	**事例研究⑥** 最終発表用の事例研究報告資料を作成する	チームメンバーと協働で調査活動を行う	4時間
第14回	**事例研究発表** グループによる事例研究報告を行う	次年度の研究スケジュールを作成する	4時間

233

授業科目名	専門演習４【経営】				
担当教員名	李美花				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本ゼミでは、サービスに関する様々な文献を批判的に検討し、ディスカッションを行ったり、レポート・論文を執筆することを通じて、卒業論文の執筆能力を高めていくことを目的とする。
ゼミは、受講生の皆さんと担当教員で、一緒に作り上げていくもので、よりよいゼミになるには、みなさんの主体性が欠かせない。前期学習したテキストを参考にゼミレポート・論文の執筆など、他のゼミに比べてハードなので、皆さんには真面目に取り組めることや学習意欲があることを期待する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	問題を発見し、解決方法を見つける能力を身に付ける	個人研究の調査・発表を行い研究作業を理解できる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		自らの研究課題を発見できる。
2. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		研究の計画を立て、実行できる。
3. DP８.他者とのコミュニケーション		研究に対するディスカッションとプレゼンテーションができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

サービスマーケティングに係る基礎知識と具体的な事例も交えながら講義による解説の進行にあわせ、ケーススタディーについて、受講者への問いかけやレポート課題を組み合わせて進めていく。

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
試験（課題作成・最終レポート）	40 %	： 試験（課題作成・最終レポート）、領域に関する基礎的な事項を理解し、整理・論述ができたかどうか、の観点より評価する。
平常点	30 %	： 「グループワークでの貢献度」「取り組む姿勢」の観点より評価する
ポートフォリオ（学びの記録）	30 %	： 「何を学んだかわかるものになっているか」、「学びのふりかえりができているか」の観点より評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
近藤 隆雄	・ サービス・マーケティング	・ 生産性出版	・ 2010　年

参考文献等

【参考書】
講義中に適宜紹介する 。

履修上の注意・備考・メッセージ

★本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、毎回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
★必ず、毎回の授業の出席状況を各自確認すること
★授業のお知らせや課題などは、グーグルクラスルームを活用する。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　月曜日、4時限

場所：　研究室、西館2階

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション：前期のふりかえと後期のスケジュール** 講義の目標、授業スケジュール、成績評価、研究とは何か	各自の学習分野（興味のある）についてレビューを行う	4時間
第2回	**文献調査その一＆レクチャー「レポートの書き方と学術論文の違い」** 研究の仕組みとゼミの進め方、レポートについてレクチャーを行う	興味のある分野を決めておく	4時間
第3回	**文献調査その二＆事例研究** 各自の学習分野（興味のある）についてレビューした内容を発表する。 事例をDVDなどのビジュアル資料を通じて学習する	レポートと小論文の違いを調べる	4時間
第4回	**文献調査その三＆小論文の作成** 小論文についてレクチャーを行う。前回発表したレビュー発表の内容を小論文にしてまとめる	論文の書き方について予習する	4時間
第5回	**文献調査その四＆論文** 学術論文についてレクチャーを行う。前回発表したレビュー発表の内容はフォーマルな論文形式にまとめる	現状分析について調べる	4時間
第6回	**現状分析その一＆プレゼンテーション** 各自の取り組んでいるテーマの現状分析を行い、そのまとめ内容を発表する（3分程度）	ディスカッションについて調べる	4時間
第7回	**現状分析その二＆ディスカッション** 前回、まとめ発表した現状分析を元に、ディスカッションをする （予定）学外授業：黒門市場	産業分析について調べる	4時間
第8回	**産業分析その一＆プレゼンテーション：学外授業** 各自の取り組んでいるテーマの産業分析を行い、そのまとめ内容を発表する（3分程度） 学外授業：ミスドミュージアムを訪問し、ダスキンの経営についてヒアリング調査を行う。	発表スキルについて調べる	4時間
第9回	**産業分析その二＆ディスカッション** 前回、まとめ発表した産業分析を元に、ディスカッションをする	チームメンバーとの共同作業（テーマ選定）を行う	4時間
第10回	**チームワーク①テーマ選定を行う** 各グループごとに研究テーマを決めてもらう。演習以外の時間でもチームワークができるように計画を立てる	チームメンバーとの共同作業（役割分担）を行う	4時間
第11回	**チームワーク②役割分担を決める** 各グループごとの研究テーマに沿ってメンバーの役割分担を行い、効率よく作業を進めてもらう	チームメンバーとの共同作業（資料収集）を行う	4時間
第12回	**チームワーク③資料収集を行う** 各メンバーの役割分担通りに調査分野、範囲を決め、資料収集を行う。そして共同で資料をまとめる作業を行う	チームメンバーとの共同作業（取捨作業）を行う	4時間
第13回	**チームワーク④資料の取捨作業を行う** 集めた資料の分類作業と補強調査について検討する	チームメンバーとの共同作業（プレゼンテーション）を行う	4時間
第14回	**チームワーク④プレゼンテーション** 各グループの研究についてプレゼンテーションを行う	チームメンバーとの共同作業（最終まとめ）を行う	4時間

233

授業科目名	**専門演習４【経営】**				
担当教員名	海野大・伊藤由紀子				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大手通信事業者で新サービス開発，新規事業立ち上げ，マーケティング・リサーチ／顧客データ分析，情報システム企画・要件定義・プロジェクト管理に従事．（全14回）				

授業概要

専門演習3・4では，学外の複数の企業等と連携し，企業等が実際に直面している経営課題をテーマとして提示していただくとともに，課題の分析や解決策の検討に必要な情報やデータを提供していただき，学生が，企業等からテーマとして提示された経営課題を自分なりの観点で分析して，解決策を検討し，企業等に提案します．現実の経営課題に取り組み，悩みながらも，自分なりの解決策を考え，提案するという経験を通して，社会で通用する実践力を身につけます．
後期の専門演習4では，前期で仮説検証した解決策に基づき，その効果（どれだけ課題解決できるか）を実証します．実証のための研究計画策定，実証のための実験や調査等の実施，実証結果に基づく効果検証，考察までを行います．そして，連携先企業などに報告を行います．

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	企業の経営課題解決のためのデータ活用	企業の経営課題解決のためのデータ分析手法を習得する
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		データの収集，整理，加工を行い，適切な分析手法を適用できるようになる．
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		データ分析による効果検証と考察により，課題解決策の効果を評価できる
3. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		課題解決策を策定し，提案，実施できる．
4. DP９.他者との協調・協働		グループでの活動において，メンバーと協力し，作業を分担するとともに，積極的に提言，行動し、目的達成に向けて取り組むことができる．

学外連携学修

有り(連携先：一般企業（非公開））

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
連携先企業への提案	50 %	： 経営課題の内容の理解と分析結果の考察，課題解決の方向性の提案内容により評価します．
取り組み内容	30 %	： グループ活動における主体性，貢献度，成果物（レポート，プレゼン等）により評価します．
期末レポート	20 %	： 自らの活動と学びの振り返りの内容により評価します．

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

必要な教材，資料は教員から提供します.

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため，平均すると毎回4時間の授業外学修が必要です.
さらに，連携先企業へのヒアリングやフィールドワークに取り組み，その成果をまとめ，企業への提案に活用できるようにすることが必要です.

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　前期：火曜日３時限　後期：水曜日5時限

場所：　研究室（西館３階）

備考・注意事項：　事前にメールでアポイントメントをとるようにしてください.
メールアドレス：unno@g.osaka-seikei.ac.jp

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**実証方法を検討する** 前期の結果を踏まえ，解決策の実証のための研究計画を作成するとともに，具体的な実証方法を検討し，連携先企業等に提案する準備を行います.	実証方法を検討し，手順としてまとめる.	4時間
第2回	**効果検証のためのデータ分析手法を学ぶ（1）効果検証とは** 実証データから解決策の効果を検証するためのデータ分析方法の基本的考え方を学びます．統計ソフトRを使います.	授業で行った演習課題を復習する.	4時間
第3回	**効果検証のためのデータ分析手法を学ぶ（2）効果検証のための回帰分析** 効果検証のための回帰分析の方法について演習形式で学びます．統計ソフトRを使います.	授業で行った演習課題を復習する.	4時間
第4回	**効果検証のためのデータ分析手法を学ぶ（3）効果検証のための回帰分析の実際** 前回に引き続き，効果検証のための回帰分析の方法と，結果の考察のやり方を学びます．統計ソフトRを使います.	授業で行った演習課題を復習する.	4時間
第5回	**実証方法の連携先企業等への提案の準備をする** 具体的な実証方法と効果検証の目的（どんな効果が期待され，それをどのように検証するのか），検証方法について連携先企業等に提案するための準備を行います.	検証方法や目的について資料を作成する.	4時間
第6回	**実証方法を連携先企業等へ提案する** 連携先企業等の協力を受けるために，実証の具体的方法，手順等について，提案を行います．連携先企業等と具体的な実証計画を確認します.	連携先企業からのフィードバックなどをもとに，実証方法をブラッシュアップする.	4時間
第7回	**実証実験・調査を行う（1）実験・調査の実施** 連携先企業等とともに，実証実験・調査を行います.	実証実験・調査を行う.	4時間
第8回	**実証実験・調査を行う（2）実験・調査データの収集** 前回に引き続き，連携先企業等とともに，実証実験・調査を行います. 実験・調査データを収集します.	実証実験・調査を行う.	4時間
第9回	**実証結果の効果検証を行う（1）効果検証のためのデータ分析** 実証実験・調査によって収集したデータに基づき，解決策の効果検証を行います.	効果検証を行う.	4時間
第10回	**実証結果の効果検証を行う（2）分析結果の整理** 前回に引き続き，解決策の効果検証を行います. 分析した結果を，考察しやすいように整理します.	効果検証結果を整理し，まとめる.	4時間
第11回	**効果検証結果を考察する** 効果検証の結果を考察し，結論としてまとめます. 連携先企業等に報告する準備を行います.	効果検証の考察結果をまとめ，プレゼンテーション資料を作成する.	4時間
第12回	**プレゼンテーションの準備をする** プレゼンテーションのリハーサルを行います.	プレゼンテーション資料をブラッシュアップするとともに，リハーサルを行う.	4時間
第13回	**連携先企業等へプレゼンテーションする** 前期で実施した解決すべき問題の解決策に関する仮説検証結果と，後期で実施した解決策の提案内容，解決策の効果の実証結果と効果検証，考察などについて，連携先企業に報告します.	連携先企業からのフィードバックなどをもとに，プレゼンテーションを振り返る.	4時間
第14回	**振り返りと研究計画を立てる** 次年度の研究スケジュールを策定する.	後期に行う活動項目を整理し，計画書を作成する.	4時間

233

授業科目名	専門演習４【食】				
担当教員名	伴みずほ				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

専門演習では、専門演習３での学びを踏まえ、興味をもった分野の先行研究・事例を調査し、自ら設定した研究課題を解決するため仮説を立て、調査研究の過程を通してその解決策を提案します。研究倫理、文献検索の方法、フィールド調査の進め方など、専門知識やスキルを習得しながら自ら主体的に卒業研究に取り組むことが求められます。食ビジネスの新たな価値創造を目指し、食の安全マネジメント、食と健康、食の持続可能性を中心としたテーマに挑戦します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	研究倫理、文献検索の方法、フィールド調査の進め方、専門知識やスキルを習得し、主体的に卒業研究に取組む。	自ら設定した課題を解決するため仮説を立て、最適な検証手段を立案し、解決策を提案できる。

汎用的な力	
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用	自ら課題を設定し、その真因を探ることができる。
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案	仮説を検証するために必要な検証手段、計画を立案できる。
3. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み	自ら行動に対してPDCAサイクルを回しながら実践できる。
4. DP10.忠恕の心	誠実で思いやりのある人、周囲から頼りにされる人になることを目指す。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内のワーク	20 %	： 課題設定および仮説検証のプロセスが妥当、効果的であったかどうか、自主的な取り組み姿勢であったかどうかを評価します。
ポートフォリオ（学びの記録）	20 %	： 卒業研究に取り組み、何を学んだかわかるものになっているか、学びの振り返りができているかを評価します。
中間・期末発表	40 %	： 発表内容が適切であり、自らの主張を伝えられたかどうか、相手の意図を理解して適切に応答できたかどうかを評価します。
試験（期末レポート）	20 %	： 指定された日時までに提出された期末レポート（研究計画、概要含む）について、独自の問いに対して明確な答えを主張し、論証できているかを評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

テーマ毎の進捗に応じて紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

授業の順番や内容を変更する場合があります。
専門書や報文の輪読を行います。
各自でpptの資料準備を行っておいてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日5時間目

場所： 研究室（西館2階）

備考・注意事項： 質問はメールでも応じます。ban-m@osaka-seikei.ac.jp（タイトルには氏名、学籍番号を記入のこと）

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーションおよび卒業研究の進め方** 卒業論文・要旨の執筆方法、研究計画書の作成、知的財産権（特許・商標・意匠など）について学びます。	知的財産権に関する事例を調べておいてください。	4時間
第2回	**フィールド調査①（計画を立てる）** アンケート調査やヒアリング調査などの計画（5W1H）を立案します。	フィールド調査のための資料作成を行ってください。	4時間
第3回	**フィールド調査②（調査票の作成）** インタビュー調査や市場調査などの調査票の作成を行います。 企業ではなく、ヒトを対象とした調査の場合は、事前に倫理審査を受けます。	フィールド調査のための資料作成を行ってください。	4時間
第4回	**フィールド調査③（調査の実施）** インタビュー調査や市場調査などの調査票を配布し、記入を依頼します。	フィールド調査のための資料作成を行ってください。	4時間
第5回	**フィールド調査④（調査票の回収・集約）** インタビュー調査や市場調査などの調査票を回収し、集約を行います。	フィールド調査結果の回収、集約を行ってください。	4時間
第6回	**フィールド調査⑤（結果の解析）** 前回集約したインタビュー調査や市場調査などの調査票を解析、独自の視点から結果を考察します。	フィールド調査結果の分析を行ってください。	4時間
第7回	**ゼミ内中間発表会の準備** これまで取り組んできた卒業研究の進捗状況を発表するためパワーポイントと発表原稿を作成します。	各自で発表練習を行ってください。	4時間
第8回	**ゼミ内中間発表会** 卒業研究の進捗状況をパワーポイントを用いて発表し、質疑応答します。他の発表に対するコメントシートも記入します。 発表に使用したパワーポイントは提出してください。	各自で中間発表の振り返りを行ってください。	4時間
第9回	**研究計画書の作成①（社会的・学術的背景、目的）** 卒業論文のタイトル・目的・背景を考え、先行研究・事例を踏まえ研究計画書に記入します。	研究計画書を作成してください。	4時間
第10回	**研究計画書の作成②（明らかにすること・企画する内容）** 卒業論文で何を明らかにするのか、企画するのかを考え、研究計画書を作成します。	研究計画書を作成してください。	4時間
第11回	**研究計画書の作成③（予想される結果・意義）** 卒業論文の想定される結果、その意義を考え、研究計画書を作成します。	次週までに研究計画書を提出してください。	4時間
第12回	**期末発表会の準備** これまで取り組んできた研究成果を発表するためパワーポイントと発表原稿を作成します。	各自で発表練習を行ってください。	4時間
第13回	**コース期末発表会（前半）** 卒業研究の進捗状況をパワーポイントを用いて発表し、質疑応答します。他の発表に対するコメントシートも記入します。 発表に使用したパワーポイントは提出してください。	各自で期末発表の振り返りを行ってください。	4時間

第14回	**コース期末発表会（後半）** 卒業研究の進捗状況をパワーポイントを用いて発表し、質疑応答します。他の発表に対するコメントシートも記入します。 発表に使用したパワーポイントは提出してください。 授業の最後に試験（期末レポート）の課題を提示します。	各自で期末発表の振り返りを行ってください。試験（期末レポート）は指定された日時までに提出してください。また、後期で学んだことを踏まえ、各自で春休みの計画を立ててください。	4時間

233

授業科目名	専門演習４【食】				
担当教員名	髙畑能久				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大手総合食品メーカーの中央研究所で研究・商品開発および新規事業を経験。その後、グループ経営本部 経営企画部にて事業戦略の立案および投融資などを担当（全14回）。				

授業概要

この授業では、専門演習３での学びを踏まえ、興味をもった分野の先行研究・事例を調査し、自ら設定した研究課題を探究するため仮説を立て、多くの選択肢の中から最適な検証手段を選択し、調査研究の過程を通して、その解決策を探究します。研究倫理、文献検索の方法、実地調査の進め方、専門知識やスキルを修得しながら、自ら主体的に卒業研究に取り組むことが求められます。食ビジネスの新たな価値創造と更なるスキルアップをめざし、食品開発、食の安全マネジメント、食の持続可能性などを中心とした研究領域に挑戦します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	研究倫理、文献検索の方法、実地調査の進め方、専門知識やスキルを修得し、主体的に卒業研究に取り組む。	自ら設定した研究課題を解決するため仮説を立て、最適な検証手段を選択し、解決策を探究できる。

汎用的な力	
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用	自ら研究課題を設定し、情報の収集・分析を進めることができる。
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案	仮説を検証するため、最適な検証手段やアクションプランを企画・立案できる。
3. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み	自ら主体的に行動し、PDCAサイクルを回しながら研究・開発を実践できる。
4. DP10.忠恕の心	誠実で思いやりのある人、周囲から頼りにされる人になることをめざす。

学外連携学修

有り(連携先：株式会社ローソン、NSW株式会社 他)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・見学、フィールドワーク

・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内のワーク	20 %	： 課題設定および仮説検証のプロセスが妥当かつ効果的であったか、主体的な取り組み姿勢であったかどうかを評価します。
ポートフォリオ（学びの記録）	20 %	： 卒業研究を通して何を学ぶことができたのか分かるものになっているか、学びの振り返りができているかを評価します。
中間・期末発表	40 %	： 発表内容（専門性・実践力）が適切であり、自らの主張を伝えられたかどうか、相手の意図を理解して適切に応答できたかどうかを評価します。

期末レポート	:	指定された日時までに提出された期末レポート（研究計画、概要含む）について、社会背景、目的、アクションプランを示せているかを評価します。

20　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

戸田山和久『新版　論文の教室-レポートから卒論まで-』（NHK出版、2017年、ISBN978-4-14-091194-5）
西澤幹雄『はじめての学会発表』（化学同人、2017年、ISBN978-4-7598-1930-4）
その他、テーマ毎に必要に応じて紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
※各自のテーマ毎の進捗状況などに合わせ、授業の順番や内容を一部変更する場合がある。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜２限

場所：　髙畑研究室（西館２階）

備考・注意事項：　授業の前後以外で質問したい場合は、メールにて受け付けます（takahata@osaka-seikei.ac.jp）。件名には必ず、所属・学籍番号・氏名を明記してください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンスと卒業研究の進め方** 卒業論文の構成や研究計画書の作成、知的財産権（特許・商標・意匠など）について学びます。	知的財産権に関する事例を調べておいてください。	4時間
第2回	**研究（開発）の実践①（計画を立てる）** アンケート調査やインタビュー調査などの具体的な調査計画（5W1H）を検討します。	各自で調査計画の作成を行ってください。	4時間
第3回	**研究（開発）の実践②（調査票の作成）** アンケート調査やインタビュー調査などの調査票を作成します。企業（法人）ではなく、個人を対象とした調査の場合は、必要に応じて倫理審査を受ける必要があります。	各自で実地調査のため調査票を作成を行ってください。	4時間
第4回	**研究（開発）の実践③（調査の実施）** アンケート調査やインタビュー調査などの調査票を配布し、記入を依頼します。	各自でフィールド調査のため調査票を作成を行ってください。	4時間
第5回	**研究（開発）の実践④（調査票の回収・集計）** アンケート調査やインタビュー調査などの調査票を回収し、集計を行います。	各自で実地調査結果の回収、集計を行ってください。	4時間
第6回	**研究（開発）の実践⑤（結果および考察）** アンケート調査やヒアリング調査などの調査結果を集計・分析し、独自の視点から考察します。	各自で実地調査結果の解析、考察を行ってください。	4時間
第7回	**ゼミ内中間発表会の準備** これまで取り組んできた卒業研究の進捗状況を発表するため発表用パワーポイントと発表原稿を作成します。	各自で発表練習を行ってください。	4時間
第8回	**ゼミ内中間発表会** 卒業研究の進捗状況をパワーポイントを用いて発表し、質疑応答します。他のゼミ生の発表に対するコメントを記入します。発表用パワーポイントは事前に提出してください。	各自で中間発表の振り返りを行ってください。	4時間
第9回	**研究計画書の作成①（社会的・学術的背景、目的）** 卒業研究の題目・目的・背景を考え、社会背景や先行研究・事例を踏まえて研究計画書を作成します。	各自で研究計画書を作成してください。	4時間
第10回	**研究計画書の作成②（明らかにすること、企画すること）** 卒業研究で何を明らかにするのか、何を企画するのかを考え、具体的に研究計画書を作成します。これまでに取り組んだこと、これから取り組むことを区別して記述します。	各自で研究計画書を作成してください。	4時間
第11回	**研究計画書の作成③（予想される結果、意義）** 卒業研究で既に得られている成果から想定される結果と意義を考え、研究計画書を作成します。	次週までに研究計画書を提出してください。	4時間
第12回	**期末発表会の準備** これまで取り組んできた研究成果を発表するため、発表用パワーポイントと発表原稿を作成します。	各自で発表練習を行ってください。	4時間
第13回	**期末発表会（前半）** 卒業研究の進捗状況をパワーポイントを用いて発表し、質疑応答します。他のゼミ生の発表に対するコメントを記入します。発表用パワーポイントは事前に提出してください。	各自で期末発表の振り返りを行ってください。	4時間

第14回	**期末発表会（後半）** 卒業研究の進捗状況をパワーポイントを用いて発表し、質疑応答します。他のゼミ生の発表に対するコメントを記入します。発表用パワーポイントは事前に提出してください。 授業の最後に期末レポートの課題を提示します。	各自で期末発表の振り返りを行ってください。期末レポートは指定された日時までに提出してください。また、後期で学んだことを踏まえ、各自で春休みの計画を立ててください。	4時間

233

授業科目名	専門演習４【公共】				
担当教員名	大島博文				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	政令市で都市計画・防災・交通・総合計画・統計等の新規施策立案・計画策定・経営業務を経験。公益財団法人であるシンクタンクで地域に関するまちづくり・福祉・環境・防災・災害復興等の政策立案・コンサルティング業務、研修等の人材育成業務を担当。（全14回）				

授業概要

本授業は、卒業論文のテーマ選択に資する知識、スキルを学ぶための個人研究をベースとした学習を行う。選択した研究テーマに関する専門書を指定し、内容を調べ発表することで、専門分野の知識を理解する。また、自治体と連携して選択テーマに関する調査を実施する。具体的には自ら自治体と交渉して連携自治体を設定し、地域課題を解決するための政策を立案したうえで、自治体に中間提案する。自治体から得た評価・コメントに基づき提案内容を再検討し、再提案を行う。繰り返し提案を行うことで、政策立案等のスキルの向上を図る。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	行政等における情報収集・資料作成、プレゼン、業務実践のための知識・技能を修得する。	行政等における情報収集・資料作成、プレゼン、業務実践のための知識・技能を修得し、実践することができる。

汎用的な力	
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用	行政等における課題発見のための情報の収集・分析・活用を実践できる。
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案	行政等における課題発見のための方策を企画・立案できる。

学外連携学修

有り(連携先：自治体)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
期末レポート	40 %	： 情報収集、自己表現の観点から評価する。
授業への貢献	30 %	： 授業内での発表、取り組む姿勢の観点から評価する。
ポートフォリオ（学びの記録）		： 自らが記述するポートフォリオにおいて学修成果が適切に表現され、効果がみられるかという観点から評価する。

30　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業内で適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加えその回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日５時間目

場所： 西館3階37研究室

備考・注意事項： 連絡を取りたい場合はメールでも可（oshima@osaka-seikei.ac.jp）

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**ガイダンス、専門演習と卒業研究に関する理解** 授業計画の説明と大学での研究活動に関する基本の理解。	参考書等による大学での研究活動に関する復習により理解を深める。	4時間
第２回	**事例研究を行うテーマの選定** 事例研究を行うテーマを検討し選択する。選択したテーマについて連携できる自治体を検討する。	参考書等により事例研究テーマを検討する。	4時間
第3回	**専門書要約の発表** 選択したテーマに基づく専門書の内容の要約について発表する。また発表内容についてディベートを行う。	専門書の要約を発表できるよう準備する。	4時間
第4回	**専門書要約の整理・分析** 発表した専門書要約の内容についてディベート等で得た示唆等に基づき整理・分析を行う。	専門書の要約を整理・分析できるよう準備する。	4時間
第5回	**連携自治体、事例の検討** 研究テーマに基づき連携する自治体、事例の検討を行い発表する。	連携自治体、事例を検討できるよう準備する。	4時間
第6回	**連携自治体へのヒアリング、事例調査の実施** 連携自治体に対して、選定した事例に関してヒアリングを行う。ヒアリング内容を発表する。	連携自治体にヒアリングできるよう準備する。	4時間
第7回	**政策提案の検討** ヒアリング等で明確となった地域課題解決に向けた政策について検討し、発表する。	ヒアリング内容を整理・分析しておく。	4時間
第8回	**政策内容の中間提案** 地域課題解決に向けた政策について、連携自治体に対して中間的に提案し、評価・コメントを受ける。	中間提案できるよう政策提案の準備をする。	4時間
第9回	**政策提案の再検討** 政策提案に対する連携自治体の評価・コメントを参考にして、政策提案の再検討を行い、発表する。	政策提案の再検討ができるよう連携自治体の評価・コメントを整理・分析する。	4時間
第10回	**最終提案内容の発表** 地域課題解決に向けた最終提案を発表し、ディベート等を行う。	最終提案の内容を発表できるよう準備する。	4時間
第11回	**最終提案内容の再検討** 地域課題解決に向けた再検討内容を発表し、ディベート等を行う。	最終提案を再検討する。	4時間
第12回	**連携自治体に対する最終提案** 地域課題解決に向けた政策について、連携自治体に対して最終提案し、評価・コメントを受ける。	政策の最終提案ができるよう準備する。	4時間
第13回	**最終提案に関する報告、評価・分析** 連携自治体に対して行った最終提案について報告を行い、評価・分析を受ける。	最終提案関する報告をまとめる。	4時間
第14回	**まとめとふり返り** これまでの学習内容を整理し理解を深めるとともに、今後学修すべき点等について考える。	今後の学修に結びつけられるよう、学んだこと全体についてしっかり復習する。	4時間

233

授業科目名	専門演習４【公共】				
担当教員名	荒木俊之				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	民間企業に従事し、認定都市プランナーとして、地方自治体の都市計画やまちづくりなどに関する調査の実施や計画の策定などを支援した経験を有する。（全14回）				

授業概要

専門演習４では、専門演習3で学んだ内容は発展させ、受講者個人が関心ある分野を対象に、文献収集や先行研究の分析、研究課題の抽出や研究テーマの選定、地域特性の把握やフィールドワークの実施、課題に対する解決策に検討など、卒業論文執筆に必要な知識やスキルを身に付ける。そのため、専門演習４では、文献研究、統計データの分析、フィールドワークなど個人研究（個人ワーク）が中心となり、受講者の報告やそれに対するメンバーのコメント、受講者全体による討論などにより授業が進められる。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	統計データなどの収集や整理、資料を作成し発表する知識やスキル	地域の現状に関する統計データを収集、整理し、資料を作成、発表するとともに、レポート（4,000字程度）をまとめる
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		地域の現状を把握し、分析することで、解決が必要な地域の問題、課題を発見することができる
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		地域の課題に対して解決するための方策を検討し、どのように進めるかを示すことができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・見学、フィールドワーク

・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内の発表	30 %	： 個人研究における研究の視点や研究方法、構成や調査結果など発表内容に応じて評価する。
ゼミへの参加・貢献	30 %	： ゼミメンバーの研究に対する質問や意見など、専門演習での学びを高める行動を評価する。
期末（個人研究）レポート	40 %	： 資料や文献の収集・分析、課題の設定、レポートの構成、文章のわかりやすさなど、妥当かつ適切かどうかを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

各受講生のテーマに応じて紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
なお、授業の進捗状況などにより、授業内容や順序を変更する場合がある。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜4限

場所： 西館3F 42研究室

備考・注意事項： 連絡を取りたい場合はメールでも可（araki-t@g.osaka-seikei.ac.jp）

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス：専門演習４の進め方** 専門演習４の進め方を理解する。	授業内容を復習し、今後の研究の進め方を検討する。	4時間
第2回	**専門演習３のふりかえり** 専門演習３をふりかえり、その際の問題点や課題を再確認する。	専門演習3の内容を振り返り、問題点や課題を再確認したうえで、研究テーマを検討する。	4時間
第3回	**研究テーマや研究方法の検討：卒業研究中間報告会への出席** 卒業研究中間報告会へ出席し、研究テーマや研究方法を検討する。	卒業研究中間報告会へ出席したうえで、研究テーマや研究方法を検討、選定する。	4時間
第4回	**研究テーマや研究方法の検討・選定** 第2、3回授業を踏まえて、研究テーマや研究方法を検討・選定する。	第2、3回授業での検討を踏まえて、研究テーマや研究方法を選定する。	4時間
第5回	**研究テーマや研究方法の発表** 第4回で検討・選定した研究テーマや研究方法を発表し、コメントを受ける。	コメントを踏まえて、研究テーマや研究方法を再検討し、研究テーマに関する先行研究を調べる。	4時間
第6回	**先行研究の検討** 研究テーマに関する先行研究を検討、分析する	先行研究の検討、分析を踏まえて、地域特性の把握や課題の分析にあたっての統計データ等を収集する。	4時間
第7回	**地域特性の把握や課題の分析** 研究テーマを踏まえて、対象となる地域特性の把握や課題を分析する。	地域特性の把握や課題の分析から、フィールドワーク等に向けて、調査表等の準備を進める。	4時間
第8回	**地域に関するフィールドワーク等** 選定した地域に関するフィールドワーク等を実施する。	実施したフィールドワーク等の結果を整理し、個人研究の進捗状況報告の準備を行う。	4時間
第9回	**個人研究の進捗状況報告①** 第6～8回を踏まえて、個人における研究の進捗状況を報告し、コメントを受ける。	発表者は、コメントを踏まえて、個人研究の進め方などを再検討する。発表者以外は、個人研究の進捗状況報告の準備を行う。	4時間
第10回	**個人研究の進捗状況報告②** 第6～8回を踏まえて、個人における研究の進捗状況を報告し、コメントを受ける。	コメントを踏まえて、個人研究の進め方などを再検討し、卒業研究に向けての卒業研究計画書の作成を考える。	4時間
第11回	**卒業研究に向けての検討** 第9・10回を踏まえて、卒業研究に向けての検討を行い、卒業研究計画書を作成する。	卒業研究計画書を作成したうえで、発表の準備を行う。	4時間
第12回	**卒業研究計画書の発表①** 第11回で検討した卒業研究計画書を発表し、コメントをもらったうえで、再検討する。	発表者は、コメントを踏まえて、卒業研究の進め方などを再検討する。発表者以外は、発表の準備を行う。	4時間
第13回	**卒業研究計画書の発表②** 第11回で検討した卒業研究計画書を発表し、コメントをもらったうえで、再検討する。	コメントを踏まえて、卒業研究の進め方などを再検討する。	4時間
第14回	**まとめとふりかえり** これまでの学修内容を再確認し、専門演習５以降の学修を考える	これまでの学習内容を振り返り、専門演習5以降の卒業研究に向けての準備に入る。	4時間

233

授業科目名	**専門演習４【スポーツ】**				
担当教員名	青野桃子				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

卒業研究に向けて、スポーツ文化に対する各自の問題関心を主体的に深めていくことを目指す。前期の専門演習３で学習したことをふまえて、先行研究や既存のデータを収集し、批判的に読み解く力を発展させる。また、ゼミ内での発表とディスカッションを繰り返しおこなうことで、他者に自身の研究を伝える方法、議論の展開の方法を実践的に学ぶ。最終的に、卒業研究だけでなく、批判的思考、論理的思考、議論する能力の向上も目指す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.スポーツ産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	文献、先行研究を通して、基礎知識を習得する。	幅広い教養やスキルを身につける。
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	専門的知識、研究手法を学ぶ。	専門的知識を獲得する。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		自ら研究課題を発見する。
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		研究計画を立案する。
3. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		計画に基づいて、実際に研究を進める。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
論文・企画書の評価	30 ％	： テーマ選定が研究課題に対して適切であるかどうか、データや先行研究が参照できているかどうかを評価する。
研究過程の評価	30 ％	： 研究に取り組む姿勢、自主性、グループでの活動においては協調性を評価する。
研究発表の評価		： 自身の研究について、論理的に、資料にもとづいて発表ができていることを評価する。

10　%

ポートフォリオ（学びの記録）　：　学んだことについて理解ができているかどうかを評価する。

30　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業のなかで適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜2限

場所：　西館4階　研究室

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション：専門演習の意義と研究倫理** ゼミの目的や進め方を確認する。研究倫理教育をおこなう。 前期の活動を振り返る。	前期のゼミ・議論の復習	4時間
第2回	**研究内容について再考する** 前期に取り組んできたことを復習し、後期の研究計画を再検討する。	後期の研究計画の再考	4時間
第3回	**先行研究の再検討** 再検討した研究計画を踏まえて、先行研究を収集する。	先行研究の収集	4時間
第4回	**先行研究の報告1：先行研究で明らかになっていること** 収集した先行研究についてまとめ、報告をおこなう。	自身の研究課題についての情報収集	4時間
第5回	**先行研究の報告2：今後明らかにすべきこと** 収集した先行研究についてまとめ、報告をおこなう。	研究課題に関する資料・データ収集	4時間
第6回	**研究の進捗報告1：研究手法の確認** 研究テーマおよび先行研究レビューの結果を報告し、議論を通して今後の課題を明らかにする。	研究課題に関する文献収集	4時間
第7回	**研究の進捗報告2：研究スケジュールの設定** 研究テーマおよび先行研究レビューの結果を報告し、議論を通して今後の課題を明らかにする。	研究課題に関する先行研究収集	4時間
第8回	**４年生の卒業研究中間発表会の見学** ４年生の卒業研究中間発表を聴講する。	発表会の内容理解	4時間
第9回	**４年生の卒業研究発表の評価** ４年生の卒業研究発表についてゼミでディスカッションし、評価をおこなう。	４年生の卒業研究発表の内容の復習	4時間
第10回	**卒業研究計画書発表会の準備（研究計画書の作成）** 研究計画書発表会の準備として、現時点の研究計画書を作成する。	報告資料の作成・復習	4時間
第11回	**卒業研究計画書発表会の準備（研究計画書の報告）** 作成した計画書について、ゼミ内で報告・議論をおこなう。	議論の復習	4時間
第12回	**卒業研究計画書発表会の準備（発表資料の作成）** 計画書についての議論をもとに、発表資料の作成をおこなう。	報告資料の作成	4時間
第13回	**卒業研究計画書発表会** 卒業研究計画書について発表をおこない、現時点での研究の見通しを明らかにする。	資料の作成、議論の復習	4時間
第14回	**４年生卒業研究発表会の見学** ４年生の卒業研究発表会を聴講する。	卒業研究についての再考	4時間

233

授業科目名	**専門演習４【スポーツ】**				
担当教員名	岡田功				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	新聞記者として長年、国内外のスポーツビジネスの現場を取材。折に触れて日本のプロスポーツクラブに経営のアドバイスを行ってきた（全14回）				

授業概要

米メジャーリーグの経営を深掘りして学ぶとともに、他球団や他リーグまたは他のプロスポーツ競技との比較を通して、プロスポーツビジネスの仕組みと基礎になる考え方を徹底的に学びます。またゼミでは、毎回の授業で取り上げるトピックについて発表してもらうことに加え、毎週のニュースの中から興味を持ったトピックや個人研究につながりそうなトピックをレポートにまとめ、順次発表してもらいます。４年生時の卒業研究に向けた準備ともなります。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.スポーツ産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	プロスポーツビジネスに関する文献購読と卒業研究計画の検討	プロスポーツビジネスに関する文献購読などを通して確かな専門性を磨くための幅広い教養やスキルを身に付ける
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	プロスポーツビジネスの専門的知識を習得するとともに、研究課題の調査・分析を行います	専門的知識と職業理解を身につけている
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		論理的に考え、自らの研究課題を発見する力を身に付ける
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		豊かな発想力によって、未知の課題にも創造的に取り組み、研究課題の計画を立案する力を身に付ける
3. DP８.他者とのコミュニケーション		他者の意見をよく聴き、自己の意図を正確に伝えることができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業テーマに関するゼミ内発表	60 %	： 授業テーマに関するゼミ内発表において、内容の妥当性、論理的構成、発表技術、発表時間、質疑応答の様子などを評価する
研究過程の評価	30 %	： 取り組む姿勢として、意思疎通、自発的行動、協調性（グループ研究のみ）、忠恕の心を持ったコメントなどを評価する

ポートフォリオ（学びの記録）　：　「何を学んだかわかるものになっているか」「学びのふりかえりができているか」を評価の基準とする

10　％

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
岡田功	・ メジャーリーグ　なぜ「儲かる」	・ 集英社新書	・ 2010　年

参考文献等

必要に応じ、授業内で指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜３限

場所：　研究室

備考・注意事項：　研究室にはオフィスアワーに関わらずどうぞ

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、専門演習４の意義について** 専門演習4の計画と諸注意を伝える。また、前期の活動を踏まえて、後期の研究活動の取り組み方を考える。	専門演習4の計画と諸注意をよく理解する	4時間
第2回	**副業収入** 教科書で取り上げた米メジャーリーグの副業収入戦略と、自身が調べた他球団、他リーグ、または他のプロスポーツ競技の副業収入戦略とを比較・分析し、発表する。	スポーツビジネスに関するニュースにアンテナを張り、ゼミでの発表の準備をする。また、授業で取り上げるトピックに関連して、他チーム、他リーグのデータを調べ、メジャーリーグの戦略と比較する	4時間
第3回	**新球場建設** 教科書で取り上げた米メジャーリーグの相次ぐ新球場建設の実態と、自身が調べた他球団、他リーグ、または他のプロスポーツ競技の同種のトピックとを比較・分析し、発表する。	スポーツビジネスに関するニュースにアンテナを張り、ゼミでの発表の準備をする。また、授業で取り上げるトピックに関連して、他チーム、他リーグのデータを調べ、メジャーリーグの戦略と比較する	4時間
第4回	**ネット事業** 教科書で取り上げた米メジャーリーグのネット事業と、自身が調べた他球団、他リーグ、または他のプロスポーツ競技のネット事業とを比較・分析し、発表する。	スポーツビジネスに関するニュースにアンテナを張り、ゼミでの発表の準備をする。また、授業で取り上げるトピックに関連して、他チーム、他リーグのデータを調べ、メジャーリーグの戦略と比較する	4時間
第5回	**海外事業、ワールド・ベースボール・クラシック（WBC）** 教科書で取り上げたワールド・ベースボール・クラシック（ＷＢＣ）を含めた米メジャーリーグの海外事業戦略と、自身が調べた他球団、他リーグ、または他のプロスポーツ競技の海外事業戦略とを比較・分析し、発表する。	スポーツビジネスに関するニュースにアンテナを張り、ゼミでの発表の準備をする。また、授業で取り上げるトピックに関連して、他チーム、他リーグのデータを調べ、メジャーリーグの戦略と比較する	4時間
第6回	**論文査読ゼミ内発表会①3人** スポーツビジネスのさまざまな分野と基礎知識を習得するため、各個人の卒業研究テーマに沿った文献購読を行う。	スポーツビジネスのさまざまな分野と基礎知識を習得するため、文献購読を行う	4時間
第7回	**論文査読ゼミ内発表会②3人** スポーツビジネスのさまざまな分野と基礎知識を習得するため、各個人の卒業研究テーマに沿った文献購読を行う。	スポーツビジネスのさまざまな分野と基礎知識を習得するため、文献購読を行う	4時間
第8回	**秋の中間発表（4年生卒論中間発表会）を聞く** 4年生卒論中間発表会を聞く。	4年生卒論中間発表会を聞き、評価する	4時間
第9回	**論文査読ゼミ内発表会③3～4人** スポーツビジネスのさまざまな分野と基礎知識を習得するため、各個人の卒業研究テーマに沿った文献購読を行う。	スポーツビジネスのさまざまな分野と基礎知識を習得するため、文献購読を行う	4時間
第10回	**論文査読ゼミ内発表会④3～4人** スポーツビジネスのさまざまな分野と基礎知識を習得するため、各個人の卒業研究テーマに沿った文献購読を行う。	スポーツビジネスのさまざまな分野と基礎知識を習得するため、文献購読を行う	4時間

第11回	**卒論計画書の準備と発表資料まとめ** 期末発表会に向けて、資料・発表方法を検討する。	期末発表会のために、資料・発表方法を検討する	4時間
第12回	**卒論計画期末発表会（ゼミ内発表会）** ゼミ内で、卒論計画の期末発表会を行う。	後期期末発表会に向けて準備を行う	4時間
第13回	**卒論計画の合同発表会** 全ゼミ合同で、代表者による期末発表会を行う。	合同発表会を聞き、評価を行う	4時間
第14回	**4年生卒論発表会の見学** 4年生の卒論発表会の見学を行う。	4年生卒業研究発表会の見学を行い、評価する	4時間

233

授業科目名	専門演習４【スポーツ】				
担当教員名	菅文彦・佐藤亮				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

自らの卒業研究へとつながるように、スポーツマネジメントに関する研究を主体的に進めていきます。主なテーマは、スポーツ政策、スポーツを通じた地域活性化、地域スポーツクラブ経営です。先行研究についての精読・発表を通して自らの問題意識を深め、その問題意識を基づくディスカッションを通じて、自身の研究のリサーチ・クエスション（RQ）を発見します。 また、フィールドワーク実践も重視します。4年時の卒業研究の論文作成と研究発表に向けて準備を行います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.スポーツ産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	スポーツ政策やスポーツを通じた地域活性化などの文献購読どを通して基礎知識を習得します	幅広い教養やスキルを身に付ける
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	スポーツ政策ややスポーツを通じた地域活性化の専門的知識と研究課題の調査、分析を行う	専門的知識と研究課題の調査、分析を行う
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		自らの研究の課題を発見する力を身に付ける
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		研究の課題の計画を立案する力を身に付ける
3. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		研究の課題の計画を立案し、発表会などを通じて実践していく力を身に付ける

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
試験：論文･企画書の評価 30 %	： 専門性としてテーマの妥当性 容の妥当性・論点の明確さ、テーマや設定課題に対して適切な内容となっているか、データと先行研究の参照、主張や提案の根拠

研究過程の評価	:	取り組む姿勢として意思疎通、自発的行動、協調性(グループ研究のみ)、忠恕の心を持ったコメント
30 %		
試験：研究発表の評価	:	専門性として内容の妥当性・オリジナリティ、データ・先行研究の参照 実践力として論理的構成、資料の活用、発表技術、発表時間 協調性、質疑応答 忠恕として不適切な内容
10 %		
ポートフォリオ（学びの記録）	:	「何を学んだかわかるものになっているか」、「学びの振返りが出来ているか」を評価の基準とする
30 %		

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業の中で適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜日2限

場所：　担当教員の研究室

備考・注意事項：　質問などいつでも歓迎します。

授業計画

	授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション** ゼミの目的や進め方について確認します。	検証資料と反証資料の両側面からのエビデンス収集に努めること。	4時間
第2回	**先行研究の抽出・レビュー** 各自の研究テーマに示唆を与える先行研究を選んでレビューを行います。	検証資料と反証資料の両側面からのエビデンス収集に努めること。	4時間
第3回	**卒業研究中間発表会の聴講** 卒業研究中間発表会の聴講を通して、研究計画の立案・実施・分析方法のプロセスを理解する。	計画発表内容に対するコメント・質問の提起	4時間
第4回	**着眼点　～何が明らかで、何を明らかにすべきか～** 先行研究をふまえて、各自の研究テーマ・領域でまだ明らかになっていないことは何かを追究します。	検証資料と反証資料の両側面からのエビデンス収集に努めること。	4時間
第5回	**研究テーマ・目的の設定** 各自の研究テーマ・目的の設定を試みます。	反証資料の両側面からのエビデンス収集に努めること。	4時間
第6回	**研究の個人的意義・学術的意義・社会的意義** 設定した研究テーマ・目的が如何なる意義（個人的・学術的・社会的）を持っているのか考えてみます。	フィードバック内容をもとに研究意義の文章化する。	4時間
第7回	**研究意義フィードバック** 文章化した研究意義の内容についてフィードバックを行います。	フィードバック内容をもとに研究意義の文章を改良する。	4時間
第8回	**後期卒業研究中間発表** 卒業研究中間発表を聴講します。	中間発表を聴講し、自らの研究テーマの見直し、補強を実施する。	4時間
第9回	**後期中間発表の振り返り** 後期卒業研究中間発表の振り返りを行います。	自らの研究テーマの見直し、補強を実施する。	4時間
第10回	**研究計画書の作成** 各自のテーマ・目的に沿った研究計画書の作成を進めます。	検証資料と反証資料の両側面からのエビデンス収集に努めること。	4時間
第11回	**研究計画書フィードバック** 研究計画書の内容についてフィードバックを行います。	研究計画書をいったん仕上げる。	4時間
第12回	**研究計画書の完成** フィードバックをもとに記述形式や内容、ロジックの確認をもとに計画書を完成させます。	ゼミの他メンバーの計画書を自身のものを比較すること。	4時間
第13回	**後期期末発表会**	期末発表で得たコメントやフィードバックをもとに卒業研究計画書を改良する。	4時間

	後期期末発表を行います。		
第14回	**4年生卒業研究発表会の聴講** 4年生卒業研究発表会を聴講します。	4年生卒業研究発表会の聴講をふまえて自身の研究計画を見直す。	4時間

233

授業科目名	専門演習４【スポーツ】				
担当教員名	藤森梓				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

専門演習では、２年間を通して卒業論文を作成します。なお、本格的に卒業研究をスタートさせるのは４回生になってからですが、３回生の専門演習ではその準備を行います。専門演習４では、卒業研究の方向性を定め、関連する分野の知識を深めていきます。また、学外授業なども取り入れながら、実践的な課題探求・解決能力のトレーニングも行います。具体的な専門演習のテーマについては、受講生の意向を尊重しつつ、担当者と相談の上で決定します。なお、担当者の専門領域は、「経済一般・グローバルビジネス・国際問題」となります。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.スポーツ産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	自身の研究分野に関連した幅広い教養と知識の習得する。	卒業研究のバックグラウンドの知識として役立てる。
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	研究を遂行する技術・能力の習得する。	研究の自分自身で進めることができるようになる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		研究の課題発見する力を身に付ける。
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		研究課題の計画の立案を行う力を身に付ける。
3. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		研究発表などの実践力を涵養する。
4. DP７.実践の完遂		研究課題の探究について、自分自身で調査、研究を行う力を身に付ける。
5. DP９.他者との協調・協働		他のゼミメンバーとのグループワーク等を通して、他者との協働する力を身に付ける。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
レポート（研究プロポーサル）の評価	:	専門性としてテーマの妥当性、内容の妥当性・論点の明確さ、データと先行研究の参照、独自性・社会的意義 実践力として論理的構成、文章の体裁、表現の推敲、研究の完遂 忠恕として適切な内容
50 %		
ポートフォリオ（学びの記録）	:	「何を学んだかわかるもになっているか」、「学びのふりかえりができているか」を評価の基準とする

30　%

研究発表の評価　：　専門性として内容の妥当性・オリジナリティ、データ・先行研究の参照 実践力として論理的構成、資料の活用、発表技術、発表時間 協調性、質疑応答 忠恕として適切な内容

20　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

研究分野に関連する文献を多数、紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　月曜日3限

場所：　研究室（西館4階）

備考・注意事項：　随時、研究や学生生活を含め、幅広く相談に乗ります。オフィスアワー以外も気軽に研究室にお越しください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション：専門演習４の意義につて** 専門演習４のガイダンスを行い、後期の研究スケジュールについて説明します。	3回生後期の研究スケジュールを考える	4時間
第2回	**「卒業研究」の意義について考える** 前期の内容を復習しながら、卒業研究の目的について考えます。	卒業研究の概要を理解する	4時間
第3回	**4回生の中間発表会の見学** 4回生の中間発表会を見学し、自らの卒業研究との関連性について考えます。	4回生の卒業研究を評価しながら、自分自身の研究計画について考える	4時間
第4回	**Literature Reviewの作成①～先行研究の整理～** これまで収集した先行研究に関する情報を整理します。	先行研究を熟読する	4時間
第5回	**Literature Reviewの作成②～先行研究を評価する～** 具体的なLiterature Reviewの作成方法を学びます。	Literature Reviewを作成する	4時間
第6回	**仮説の設定①～仮説の立て方を学ぶ～** 自らの研究テーマに対して、どのように仮説を立てればいいのか、その方法について学びます。	仮説の立て方について理解を深める	4時間
第7回	**仮説の設定②～先行研究の熟読～** 先行研究の熟読を通して、自分自身の問題意識を明確化します。	先行研究を読んで、仮説の立て方を学ぶ	4時間
第8回	**仮説の設定③～具体的な仮説を考える～** これまでの調査・研究で得た知識をもとに、各自の卒業論文の仮説を設定します。	自らの卒論の中での仮説を考える	4時間
第9回	**研究計画の立案①～調査・研究手法を考える～** 先行研究などを参考に、各自の調査・研究手法について考えます。	様々な研究手法を理解する	4時間
第10回	**研究計画の立案②～調査・研究計画の検討～** 各自の調査・研究の具体的な進め方について考えます。	詳細な研究計画書を作成する	4時間
第11回	**研究計画の立案③～研究計画書の評価～** ゼミ内で研究計画を発表し、意見交換を行います。	コメントを踏まえて研究計画書を改訂する	4時間
第12回	**期末発表会の準備～発表資料の作成・検討～** 期末発表のために、資料・発表方法を検討します。また、ゼミ内で各自の研究計画を発表し、その内容について議論します。	期末発表会の資料を作成する	4時間
第13回	**期末発表会** 期末発表を行い、自らの研究計画の方向性・問題点について検証します。	期末発表を振り返り、自身の研究計画を再検討する	4時間
第14回	**卒論公聴会の見学** 4回生の卒論公聴会を見学し、自らの卒業研究との関連性について考えます。	4回生の卒業研究を評価しながら、自分自身の研究計画について考える	4時間

233

授業科目名	**専門演習４【スポーツ】**				
担当教員名	丸朋子				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	地方テレビ・ラジオ局においてアナウンサー・スポーツキャスター、番組制作業務のほか、プロ・クラブスポーツのスタジアムDJ・MCを経験した。また、プロスポーツチームにおいて事業企画や試合運営、広報業務等に従事した。（全14回）				

授業概要

自らの卒業研究に向けて、スポーツマネジメントに関する諸分野の研究を主体的に進めていきます。丸研究室のテーマは「スポーツによる共有価値の創造（スポーツチーム運営と地域との関係性）」「スポーツエンターテイメント」「スポーツメディア」です。先行研究の精読、プレゼンテーションやグループディスカッションを通じて、研究テーマを決定し、リサーチクエスチョンおよび仮説の設定を進め、４年生時の卒論作成と研究発表に向けた素地を固めます。また、積極的に学外フィールドワークに参加し、理論と実践の運用を通じて「実践知」を身に付けます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.スポーツ産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	スポーツによる価値共創や協働、エンターテイメント創造などの文献精読を通して、基礎知識を習得する	幅広い教養やスキルを身につける
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	スポーツによる価値共創や協働、エンターテイメント創造などの専門知識と研究課題の調査、分析を行う	専門知識と研究課題の調査、分析手法を身につける
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		研究テーマ・課題に応じた意味ある先行研究や資料をレビューし、論理展開する
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		研究課題の計画を立案する
3. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		計画に基づいて実践し、発表や意見交換を通じて自己評価と再検証をする

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
論文・企画の評価	： 専門性：内容の妥当性・論点の明確さ、テーマや設定課題に対する適切さ、データと先行研究の参照など。 取り組む姿勢：意思疎通、自発的行動、協調性（グループ研究のみ）、忠恕の心を持ったコメントなど。

研究過程の評価	30 %	: 専門性：論理的構成、内容の妥当性・オリジナリティ、データ・先行研究の参照など。
研究発表の評価	30 %	: 実践力：論理的構成、妥当性、資料の活用、発表技術、発表時間、質疑応答など。
学びの記録	30 %	: 何を学んだかわかるものになっているか。学びのふりかえりができているか。
	10 %	

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業内で適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜2限

場所： 研究室

備考・注意事項： 研究室にはオフィスアワーに関わらずどうぞ。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンスおよび研究倫理教育** 専門演習4の計画と諸注意を伝える。また、前期の活動を踏まえて、後期の研究活動の取り組み方を考える。	専門演習4の進め方と諸注意をよく理解する。	4時間
第2回	**ゼミ企画①：後期ゼミ計画およびフィールドワーク実践1「企画立案」** ゼミ生が主体的に、主にフィールドワーク実践の運用や、後期ゼミ運営について計画する。	ゼミ生が主体的に今後の計画と各自の役割を決める。	4時間
第3回	**後期 卒業研究 第2回中間発表会（４年生）：聴講** ４年生の卒業研究中間発表会を聴講する。	４年生の卒業研究中間発表会を聴講し、評価をまとめる。	4時間
第4回	**後期 卒業研究 第2回中間発表会（４年生）の評価と相互検証およびフィールドワーク実践2「企画立案」** ４年生の卒業研究中間発表会の評価を基にディスカッションする。また、コンペの企画立案を進める。	ゼミ生が主体的にディスカッションを進める。企画を立てる。	4時間
第5回	**卒業研究の深掘り1およびフィールドワーク実践3「企画立案」** 後期期末「ゼミ内」発表会に向けて、研究計画をプレゼンテーションする。また、ゼミ生が主体的にコンペの企画立案を進める。	フィードバックを基に、研究目的と仮説を修正する。さらなる先行文献の収集に努める。	4時間
第6回	**卒業研究の深掘り2およびフィールドワーク実践4「企画プレゼン会リハーサル」** 後期期末「ゼミ内」発表会に向けて、研究計画をプレゼンテーションする。また、ゼミ生が主体的にコンペの企画実践リハーサルを行い検証する。	フィードバックを基に、研究目的と仮説を修正する。さらなる先行文献の収集に努める。	4時間
第7回	**卒業研究の深掘り3およびフィールドワーク実践5「企画プレゼン会振り返り」** 後期期末「ゼミ内」発表会に向けて、研究計画をプレゼンテーションする。また、ゼミ生が主体的にコンペの企画プレゼン会を振り返り、相互フィードバックを行う。	フィードバックを基に、研究目的と仮説を修正する。さらなる先行文献の収集に努める。	4時間
第8回	**卒業研究の深掘り4およびフィールドワーク実践6「企画実践準備」** 期期末「ゼミ内」発表会に向けて、研究計画をプレゼンテーションする。また、ゼミ生が主体的にコンペの企画実践に向けて準備を進める。	フィードバックを基に、研究目的と仮説を修正する。さらなる先行文献の収集に努める。	4時間
第9回	**卒業研究の深掘り5およびフィールドワーク実践7「企画実践準備」** 期期末「ゼミ内」発表会に向けて、研究計画をプレゼンテーションする。また、ゼミ生が主体的にコンペの企画実践に向けて準備を進める。	フィードバックを基に、研究目的と仮説を修正する。さらなる先行文献の収集に努める。	4時間
第10回	**ゼミ企画②：フィールドワーク現地実習＆調査** フィールドワークの企画実践および成果を検証する。（学外学修の予定。日程は前後する可能性あり）	企画実践を行う。成果を検証し可視化する。	4時間
第11回	**ゼミ企画③：次年度計画**	調査計画を立てる。	4時間

	ゼミ生が主体的に、春休みの卒論調査や、新ゼミ生および学外ステークホルダーとの研究交流などについて計画する。		
第12回	**後期期末「ゼミ内」発表会** 個人の研究計画、あるいは、グループのフィールドワーク発表を発表する。	発表後の復習と研究計画書の修正を行う。	4時間
第13回	**卒業研究 最終発表会（４年生）：聴講** ４年生の卒業研究中間発表会を聴講する。	自らの研究計画と照らし合わせ、修正を行う。	4時間
第14回	**後期期末「全体」発表会** 各ゼミの代表学生が発表する。	発表会の内容を踏まえて、自らの研究計画書を最終修正し、春季休業の計画を立てる。	4時間

233

授業科目名	**専門演習４【スポーツ】**				
担当教員名	古川拓也				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

創造性が高い卒業論文を執筆するためには、既存の研究で何がわかっているのか、わかっていないことは何かを明確にすることが大切です。専門演習４では、自らの卒業研究へとつながるように、前半では専門演習３で身につけた先行研究の検討手法に基づいて先行研究を精読します。後半では、各々の研究計画についてゼミ内でディスカッションしつつ研究の質を高めていきます。最終的に、卒業論文のみならず、批判的思考や論理的思考、議論する能力、質疑応答の能力が高まることを目指します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.スポーツ産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	先行研究や文献などを通して基礎知識を習得します	幅広い教養やスキルを身に付ける
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	専門的知識と研究課題の調査、分析を行う	専門的知識と研究課題の調査、分析手法を習得する。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		自らの研究の課題を発見する力を身に付ける
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		研究の課題の計画を立案する力を身に付ける
3. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		研究の課題の計画を立案し、発表会などで実践していく力を身に付ける

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
論文・企画書の評価 30 %	：	専門性としてテーマの妥当性　研究テーマは学部・学科・コースの専門性と適合的か、内容の妥当性・論点の明確さ、テーマや設定課題に対して適切な内容となっているか、データと先行研究の参照　主張や提案の根拠
研究過程の評価	：	取り組む姿勢として意思疎通、自発的行動、協調性（グループ研究のみ）、忠恕の心を持ったコメ

ント

30　%

研究発表の評価　：　専門性として内容の妥当性・オリジナリティ、データ・先行研究の参照
実践力としはて論理的構成、資料の活用、発表技術、発表時間
協調性、質疑応答
忠恕として不適切な内容

10　%

ポートフォリオ（学びの記録）　：　「何を学んだかわかるものになっているか」、「学びの振返りが出来ているか」を評価の基準とする

15　%

期末レポート　：　独自のルーブリックに基づき評価します。

15　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業内で指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　火曜日1・2限（9：00～12：00）

場所：　研究室　西館2階

備考・注意事項：　研究室にはオフィスアワーに関わらずどうぞ。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション：専門演習３の意義について** 専門演習4の計画と諸注意を伝える。また、前期の活動を踏まえて、後期の研究活動の取り組み方を考える。	専門演習３の振返りをしておくこと	4時間
第2回	**先行研究の検討－スポーツ実施・参加に関する研究－** 課題の論文を提示します。概要の把握と研究に関するディスカッションを中心に進めていきます。	課題論文を読んでくること	4時間
第3回	**先行研究の検討－競技力向上政策に関連する研究－** 課題の論文を提示します。概要の把握と研究に関するディスカッションを中心に進めていきます。	課題論文を読んでくること	4時間
第4回	**先行研究の検討－エリートアスリートに関する研究－** 課題の論文を提示します。概要の把握と研究に関するディスカッションを中心に進めていきます。	課題論文を読んでくること	4時間
第5回	**先行研究の検討－競技団体に関する研究－** 課題の論文を提示します。概要の把握と研究に関するディスカッションを中心に進めていきます。	課題論文を読んでくること	4時間
第6回	**先行研究の検討－スポーツ施設に関する研究－** 課題の論文を提示します。概要の把握と研究に関するディスカッションを中心に進めていきます。	課題論文を読んでくること	4時間
第7回	**先行研究の検討－ユース・スポーツに関する研究－** 課題の論文を提示します。概要の把握と研究に関するディスカッションを中心に進めていきます。	課題論文を読んでくること	4時間
第8回	**秋の中間発表会を聞く** 卒業研究の中間発表会を聴講し、自身の研究イメージを高めるとともに、研究に対する批判的思考スキルを身につけましょう。	自身の関心がある研究テーマを考えておくこと	4時間
第9回	**研究計画プレゼンテーション－テーマの設定－** 研究計画のプレゼンテーションを行います。 先行研究の検討から仮説を考えましょう。	自身の関心テーマについて、仮説を考えましょう。	4時間
第10回	**研究計画プレゼンテーション－研究計画の策定－** 研究計画のプレゼンテーションを行います。 テーマ、目的、調査計画、予想される結果が一貫性を保っているか、確認します。	自身の関心テーマについて、研究計画を作りましょう。	4時間
第11回	**研究計画プレゼンテーション－発表－** 研究計画のプレゼンテーションを行います。 聞き手の人たちも傾聴し、積極的に質疑を行いましょう。	プレゼンテーションの準備をしてくること。	4時間
第12回	**卒論計画発表準備**	期末発表のために、資料の作成並びに発表練習をしてくること	4時間

	期末発表のために、資料・発表方法を検討します。		
第13回	**3年の卒論計画発表** 自身の卒業研究発表会を行います。	期末発表のために、資料の作成並びに発表練習をしてくること	4時間
第14回	**4年生卒業研究発表会の見学** 4年生卒業研究発表会の見学を行います。	4年生卒業研究発表会の見学をしたうえで感想・自身の研究に生かすことができることを整理しておくこと	4時間

233

授業科目名	**専門演習４【スポーツ】**				
担当教員名	田村匡				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	スポーツイベントやスポーツ施設、スポーツマネジメントに係る組織、資金、運営方法等について業務として取り組んできた。（全１４回）				

授業概要

自らの卒業研究へとつながるように、スポーツマネジメントに関する諸分野の研究を主体的に進めていきます。また、課題を主体的に探究するうえで、先行研究についての精読・発表を通じて自らの問題意識を深めていきます。
田村研究室では、学外でのインターカレッジコンペティション等を通じて他流試合を行い、企画から調査、資料のまとめ、発表までを体験します。
個人のテーマを探しながら、最終的には4年生に向けて卒業研究の論文作成と研究発表に向けて準備を行います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	スポーツマネジメントの専門的知識と研究課題の調査、分析を行う。	専門的知識と研究課題の調査、分析を行う
2. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	スポーツビジネスの環境の変化に適応し、解決方策を立案する	具体的なスポーツビジネスに関する解決策を自分で立案することができる
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		自らの研究の課題を発見する力を身に付ける
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		研究の課題を立案する力を身に付ける
3. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		研究の課題の計画を立案し、発表会などで実践していく力を身に付ける

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
論文・企画書の評価	:	専門性としてテーマの妥当性　　研究テーマは学部・学科・コースの専門性と適合的か、内容の妥当性・論点の明確さ、テーマや設定課題に対して適切な内容となっているか、データと先行研究の参照、主張や提案の根拠
30　％		
研究過程の評価	:	取り組む姿勢として意思疎通、自発的行動、協調性（グループ研究のみ）

	20 %		
研究発表の評価		:	専門性として内容の妥当性・オリジナリティ、データ・先行研究の参照 実践力としはて論理的構成、資料の活用、発表技術、発表時間 協調性、質疑応答
	10 %		
ポートフォリオ（学びの記録）		:	「何を学んだかわかるものになっているか」、「学びの振返りが出来ているか」を評価の基準とする
	20 %		
期末レポート		:	授業終了後のレポート
	20 %		

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業内で指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日2限目

場所： 個人研究室

備考・注意事項： メールにて質問してください。オフィスにこられる場合、予約ください。tamura-t@osaka-seikei.ac.jp

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション：専門演習４の意義について** 専門演習４の計画と諸注意を伝える。また、前期の活動を踏まえて、後期の研究活動の取り組み方を考える。	学外提案競技等について調べ、理解する	4時間
第2回	**学外提案競技会の説明** インターカレッジコンペティション等の学外の提案競技会についての説明と、それに参加するために心構え等を理解する。 まずは企画の骨子をどのようにするか、グループで考えていく。	グループに分かれて、どのようなテーマ、内容で発表を行うのか、検討する	4時間
第3回	**企画提案の素案の作成** 学外提案競技会に発表するための企画づくり。グループでのブレインストーミングや過去の事例等を学び、自分たちがどのようなテーマで企画を作成していくのか、討議する。	グループに分かれて企画提案素案について検討し、作成する。	4時間
第4回	**企画提案素案の相互議論** 企画提案の素案をもとに相互議論し、内容を深める。何が問題点で何が課題かを明確にする。	議論からの課題を考察し提案内容を深める。	4時間
第5回	**企画提案素案のさらなる資料収集と調査** 企画提案を検討、問題点、課題、解決方法について相互議論する。また資料収集やインターネット上の調査等を行う。場合によりアンケート調査を行う。	議論からの課題を考察し提案内容を深める。	4時間
第6回	**資料や調査を元にした相互議論とまとめ** 資料や調査を元にして相互議論し、内容を深める。研究目的や研究方法にいきつもどりつしながら提案内容をまとめていく。	レポート作成。議論からの課題を考察して、自己のテーマを深める。	4時間
第7回	**素案から企画書案へ** 具体的に提案内容を企画書へ固定化していく。最終的なプレゼンテーションに向けて作業を行う。	レポート作成。議論からの課題を考察して、自己のテーマを深める。	4時間
第8回	**後期中間発表会を聞く** ４年生の行う中間発表会に出席、自分ごととして様々な視点から発表を聴講する。	各自の視点から４年生の中間発表を評価する。	4時間
第9回	**提案する企画内容の再検討** 提案する企画内容を再検討し、内容を深化するとともに、プレゼンテーションの準備を行う。	議論からの課題を考察して、企画内容を深める	4時間
第10回	**企画書作成とプレゼンテーション内容の練上げ** 企画書を作成する。さらにプレゼンテーション内容を練り上げていく。	議論からの課題を考察して、企画内容を深める	4時間
第11回	**各グループの発表内容等の相互議論**	発表資料作成。議論からの課題を考察して、自グループの企画内容を深める。	4時間

	自グループのテーマを順番に発表して、ゼミ内で批評と議論を行う。それをもとに、発表内容を修正し、さらにブラッシュアップしていく。		
第12回	**提案発表会準備** インターカレッジコンペティション等の提案発表会の準備を行う。	発表のために、資料準備・発表練習をする。	4時間
第13回	**発表会実施** インターカレッジコンペティション等にて発表をする。他校や関係社会人の眼前にてこれまで準備してきた内容を披露、質疑応答に答える。	発表に対するコメント等を参考にし、自分の卒業研究に活用する	4時間
第14回	**４年生卒業研究発表会の聴講** ４年生の卒業研究発表会を聴講する。自分ごととして様々な視点から発表を聴講する。	4年時の卒業研究に向けてのテーマの再検討を行う。	4時間

233

授業科目名	専門演習４【スポーツ】				
担当教員名	坂中勇亮				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	２
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	・スポーツ協会に勤務し、スポーツ行政に従事（全１４回）				

授業概要

自身の卒業研究につながるように、スポーツマネジメントに関する諸分野の研究を主体的に進めていきます。また、課題を主体的に探究する中で、先行研究についての精読・発表を通じて自らの問題意識を深めます。 特に、担当教員の専門領域であるスポーツ行政を中心とした課題について、各自の関心や問題意識より、４年生で作成する卒業論文に向けての準備を進めると共に、ゼミ内での議論や中間発表会を通じて研究内容の充実を図っていきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	各自の研究報告を通じて、研究を進める能力やプレゼンする能力を習得する。	研究を遂行する能力や発表する能力を身に付ける
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		研究課題の発見
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		研究課題の計画の立案を行う
3. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		発表などの実践力を身に付ける

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
レポート（論文・企画書の評価）	30 ％	： 専門性としてテーマの妥当性、内容の妥当性・論点の明確さ、データと先行研究の参照、独自性・社会的意義 実践力として論理的構成、文章の体裁、表現の推敲、研究の完遂 忠恕として不適切な内容
研究過程の評価	30 ％	： 取り組む姿勢として意思疎通、自発的行動、協調性（グループ研究のみ）忠恕の心を持ったコメント
試験（研究発表の評価）		： 専門性として内容の妥当性・オリジナリティ、データ・先行研究の参照 実践力として論理的構成、資料の活用、発表技術、発表時間 忠恕として不適切な内容

10　%

ポートフォリオ（学びの記録）　：　「何を学んだかわかるものになっているか」、「学びのふりかえりができているか」を評価の基準とする

30　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

必要に応じて、授業内で指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜日　13：00－15：00

場所：　研究室

備考・注意事項：　本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**専門演習４のガイダンス及び研究倫理について** 専門演習４の計画と諸注意を伝える。また、前期の活動を踏まえ て、後期の研究活動の取り組み方を考える。	専門演習４の計画と諸注意から学期計画を立案する	4時間
第2回	**各自の研究内容について再検討する** 前期に取り組んできた研究内容を評価し、研究の方向性を再検討する。	これまでの研究内容及び進捗状況を確認する	4時間
第3回	**先行研究の再検討** 再検討した研究内容について、各自で先行研究を調べて内容をまとめる。	研究に関連する先行研究の内容をまとめる	4時間
第4回	**先行研究の報告（グループ１）** 前回の授業でまとめた先行研究についてゼミ内で報告する	ゼミ内での報告内容を振り返る	4時間
第5回	**先行研究の報告（グループ２）** 前々回の授業でまとめた先行研究についてゼミ内で報告する	ゼミ内での報告内容を振り返る	4時間
第6回	**研究の進捗状況の報告（グループ１）** 各自の研究に関して、研究テーマ及び先行研究レビューの結果を報告し、ゼミ内で議論する。	ゼミ内での議論を通して、各自の研究内容を再考する。	4時間
第7回	**研究の進捗状況の報告（グループ２）** 各自の研究に関して、研究テーマ及び先行研究レビューの結果を報告し、ゼミ内で議論する。	ゼミ内での議論を通して、各自の研究内容を再考する。	4時間
第8回	**４年生の卒業研究中間発表会の見学** ４年生の卒業研究中間発表会を見学して、各自の研究について考える。	中間発表会の内容を振り返り、各自の研究内容を再考する。	4時間
第9回	**卒論研究計画書発表会の準備（研究計画書の作成）** 研究計画書発表会の準備として、現段階での研究計画書を作成する。	発表用資料の作成	4時間
第10回	**卒論研究計画書発表会の準備（ゼミ内での報告）** 研究計画書発表会の準備として、前回の授業で作成した研究計画書についてゼミ内で報告する。	ゼミメンバーや指導教員より指摘された事項を修正する	4時間
第11回	**卒論研究計画書発表会の準備（発表会用資料の作成）** 研究計画書発表会の準備として、発表用資料を作成する。	発表用資料を作成して完成させる	4時間
第12回	**卒論研究計画書発表会の準備（ゼミ内での発表）** 前回の授業で作成した発表会資料に基づきゼミ内で発表する。	ゼミ内発表会での指摘事項や質問事項に対する対応を検討する	4時間
第13回	**卒論研究計画書発表会** 卒論研究計画書発表会を行い、現段階での研究計画について発表する。	発表会を踏まえて、今後の研究計画を検討する。	4時間
第14回	**４年生卒業研究発表会の見学** ４年生卒業研究発表会の見学を行う	卒業研究に向けてのテーマ及び内容について、再度、検討を行う。	4時間

233

授業科目名	**専門演習４【スポーツ】**				
担当教員名	林悠太				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

３・４回生で履修する専門演習は各自の卒業論文を作成することが目的です。３回生の専門演習では卒業論文を作成するための基礎知識を学び、４回生の専門演習でスムーズに論文作成できるように準備をしていきます。
具体的に専門演習４では、研究の結果における図表の作成方法、考察の構成要素、引用・参考文献などについて学びます。なお、授業担当者は「スポーツマーケティング」、「スポーツエコロジー」を専門領域とし、プロスポーツビジネスやスタジアム・アリーナを対象に研究を行っています。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.スポーツ産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	スポーツ産業の動向や先行研究から自身の関心のある分野について知識を深める	自身の関心のある分野について現状を把握し、どのような課題があるのかを述べることができる
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	専門的知識、研究方法について知識を深める。	専門的知識、研究方法を身につける。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		研究デザインおよび研究方法について理解できる。
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		研究計画を立案できる。
3. DP８.他者とのコミュニケーション		他者のプレゼンに対してフィードバック（コメント）することができる。 発表者はフィードバックに耳を傾け、より良い研究に繋げることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
論文・企画の評価 30 %	： 専門領域と研選定した究テーマの整合性、先行研究を参照できているかを評価する。

研究過程の評価	:	業および自身の研究に対しての取り組み（どの程度時間を割いたか）やその成果物(発表資料など)への評価、ディスカッションでは発言の積極性、建設的な姿勢を評価する。
30 %		
研究発表の評価	:	自身の研究について、資料やデータに基づいて客観的に発表できているかを評価する。
30 %		
学びの記録	:	授業で学んだことへの理解度を評価する。
10 %		

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業のなかで適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜２限

場所：　研究室

備考・注意事項：　事前に連絡を頂ければ、上記の限りではありません。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**オリエンテーション：専門演習の意義と研究倫理** ゼミの目的や進め方、研究倫理を確認する。 前期の活動を振り返る。	前期のゼミ・議論の復習	4時間
第２回	**研究内容について再考する** 前期に取り組んできたことを復習し、後期の研究計画を再検討する。	後期の研究計画の再考	4時間
第３回	**結果** 研究の「結果」について図表の作成方法などを学ぶ。	研究課題に関する先行研究の収集	4時間
第４回	**考察** 研究の「考察」について構成要素を学ぶ。	研究課題に関する先行研究の収集	4時間
第５回	**引用・参考文献** 研究の「引用・参考文献」についてを学ぶ。	研究課題に関する先行研究の収集	4時間
第６回	**研究の進捗報告1：研究手法の確認** 研究テーマおよび先行研究レビューの結果を報告し、議論を通して今後の課題を明らかにする。	研究課題に関する文献収集	4時間
第７回	**研究の進捗報告2：研究スケジュールの設定** 研究テーマおよび先行研究レビューの結果を報告し、議論を通して今後の課題を明らかにする。	研究課題に関する先行研究収集	4時間
第８回	**４回生の卒業研究中間発表会の見学** ４年生の卒業研究中間発表に参加する。	研究発表の内容理解	4時間
第９回	**４回生の卒業研究発表の評価** ４回生の卒業研究発表についてゼミでディスカッションし、評価をおこなう。	４回生の卒業研究発表の内容の復習	4時間
第１０回	**卒業研究計画書発表会の準備（研究計画書の作成）** 研究計画書発表会の準備として、現時点の研究計画書を作成する。	報告資料の作成・復習	4時間
第１１回	**卒業研究計画書発表会の準備（研究計画書の報告）** 作成した計画書について、ゼミ内で報告・議論をおこなう。	議論の復習	4時間
第１２回	**卒業研究計画書発表会の準備（発表資料の作成）** 計画書についての議論をもとに、発表資料の作成をおこなう。	報告資料の作成	4時間
第１３回	**卒業研究計画書発表会** 卒業研究計画書について発表をおこない、現時点での研究の見通しを明らかにする。	資料の作成、議論の復習	4時間
第１４回	**４回生卒業研究発表会の見学** ４年生の卒業研究発表会に参加する。	卒業研究についての再検討	4時間

233

授業科目名	**専門演習４【スポーツ】**				
担当教員名	鳥山稔				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

自らの卒業研究へとつながるように、3年生前期では論文を読解する力、自分の考えをアウトプットする力を養っていきます。鳥山研究室では、「スポーツ組織の社会的価値」をキーワードとし、「プロスポーツ」、「eスポーツ」、「地域スポーツ」、それぞれにはどのような価値があるのか、価値を明らかにするにはどのような調査が必要か、等々、論文を読みながら理解していきます。
まずは論文とは何か、なぜ論文を書く必要があるのかという意義の理解からはじめ、自分自身が現在、どのような分野に興味があるのか、どのような研究が行われているのか、現状理解を行います。4年生になった際に質の高い卒業論文が作成出来るよう、3年生の間に基礎を固めていきましょう。
また、鳥山研究室ではフィールドワークを重視しています。時には実際にスポーツの現場に足を運び、課題発見、解決の手がかりを探しにいきましょう。詳細は最初のガイダンスで説明します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.スポーツ産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	先行研究を理解し、興味のある分野に関して知識を深めていく	自身が興味のある分野に関する知識を身に付けることが出来る
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	先行研究から課題解決の手法を学ぶ	先行研究から課題解決の手法を学び、研究計画作成に活かすことが出来る
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		調査手法について理解することが出来る
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		研究計画書を作成することが出来る
3. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		研究計画書をゼミ内で共有した際に、他者と議論を交わすことが出来る

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業態度	:	学生が授業に出席し、積極的にディスカッションや活動に参加するかどうかを評価する
30 %		
プレゼンテーション	:	研究内容を適切に伝える能力や、質疑応答に適切に対応する能力を評価する

40 %

研究計画書 : 研究計画書について評価する（研究テーマの設定、研究計画の妥当性、明確性、等）

30 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

講義内で紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜2限

場所： 研究室

備考・注意事項： 事前に連絡を頂ければいつでも構いません

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**専門演習ガイダンス** 専門演習4のガイダンスを行う。専門演習3で作成した研究計画書を再度確認し、夏季休暇中に何を行ったかグループワークで共有する	夏季休暇中に行ったことを整理しておく	4時間
第2回	**先行研究の検討①** 自身の研究テーマに関連する先行研究を調査し、文献レビューを行う。どのような文献があるか、どのような手法でデータを収集しているかを整理し、発表する。	事前に論文を読み、発表資料を作成する	4時間
第3回	**卒業研究中間発表会の聴講** 4年生が行う卒業研究の中間発表会に参加する。異なるテーマやアプローチに触れ、学びを深める。内容に疑問が生じた際は、4年生へ問いかける。	4年生の発表で気になった点をまとめる	4時間
第4回	**卒業研究中間発表の批評** 卒業研究中間発表を分析し、批評する。論点の明確化やプレゼンテーションの改善点についてディスカッションする。	4年生の発表で気になった点をまとめる	4時間
第5回	**先行研究の検討②** 自身の研究テーマに関連する先行研究を調査し、文献レビューを行う。どのような文献があるか、どのような手法でデータを収集しているかを整理し、発表する。	事前に論文を読み、発表資料を作成する	4時間
第6回	**先行研究の検討③** 自身の研究テーマに関連する先行研究を調査し、文献レビューを行う。どのような文献があるか、どのような手法でデータを収集しているかを整理し、発表する。	事前に論文を読み、発表資料を作成する	4時間
第7回	**研究計画書の修正：テーマの再検討** 研究計画書のテーマを再検討し、必要に応じて修正する。先行研究の分析や批評を踏まえて、より適切な研究テーマを設定する。	研究計画書を見直し、必要に応じて追加で文献を熟読する	4時間
第8回	**研究計画書の修正：仮説の再設定** 研究計画書の仮説を再設定し、より適切な問いを明確化する。先行研究の検討や分析を元に、仮説の適切性をグループワークを行いながら検証する。	研究計画書を見直し、必要に応じて追加で文献を熟読する	4時間
第9回	**研究計画書の修正：研究手法の再検討** 研究計画書の研究手法を再検討し、研究課題を解決するための最適な手法を選択する。	研究計画書を見直し、必要に応じて追加で文献を熟読する	4時間
第10回	**研究計画書の発表準備** 卒業研究、学会発表のための研究計画書を発表する準備を進める。	研究計画書の発表資料を作成する	4時間
第11回	**研究計画書の発表** 自身の研究テーマや目的、方法、予想される結果などを伝え、教員、学生からフィードバックを受ける。	研究計画書を修正する。データ収集の方法を先行研究から学ぶ	4時間
第12回	**フィールド調査①** 発表した研究計画書を修正し、調査手法を確立する。その後、実際にフィールド調査を行いながらデータを収集し、分析を行う。	調査方法、分析方法を再確認する	4時間
第13回	**フィールド調査②**	調査方法、分析方法を再確認する	4時間

	発表した研究計画書を修正し、調査手法を確立する。その後、実際にフィールド調査を行いながらデータを収集し、分析を行う。		
第14回	**卒業研究発表会（４年生）：聴講** 4年生が行う卒業研究発表会に参加する。異なるテーマやアプローチに触れ、学びを深める。内容に疑問が生じた際は、4年生へ問いかける。	4年生の発表で気になった点をまとめる	4時間

234

授業科目名	**専門演習５【経営】**				
担当教員名	山崎哲弘				
学年・コース等	4年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

経営学、特に人的資源管理論に関する諸問題について学術的な知見をもとに、個々に設定した研究テーマに沿って調査、研究を行う。専門演習５では、研究を進めていく上で必要な先行研究のレビューを実施し、卒業論文の全体構成案を作成する。特に後半の講義ではこれまでの調査・研究内容についての中間報告を行い、指摘された事項をもとに研究のブラッシュアップを行う。中間報告までのスケジュールは講義計画の通りであるが、必要に応じて授業時間外の指導も実施する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	自身の研究テーマにおける基本的知識や課題を理解する	研究テーマにおける現状や背景を理解するとともに、その課題解決向けた論理的に考えることができる。

汎用的な力	
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用	適切な研究課題を設定できる
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案	問題解決に向けた論理的思考ができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
平常点	10 %	： 授業中の質疑応答など授業に対する積極性など取り組み姿勢から評価する。
課題発表	40 %	： 中間報告を中心に、授業中の発表内容により評価する。
期末試験（論文概要）	50 %	： 期末試験として、卒業論文概要の提出を課し、その内容により評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし。
個々の研究テーマに応じて別途指定する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その会の授業内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日１限

場所： 西館２階研究室（14）

備考・注意事項： 通常開講時間以外に実施します。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**研究方法および研究倫理** 自身の研究内容について、進捗状況を報告する。 著作権や個人情報保護などの研究倫理について学ぶ。	J-STAGEなどで先行文献を調査し、概要をまとめる。	4時間
第2回	**研究テーマの決定と内容の検討（１）** 各自の卒論テーマの決定およびテーマの妥当性の検討、研究の目的を議論する。	J-STAGEなどで先行文献を調査し、概要をまとめる。	4時間
第3回	**研究テーマの決定と内容の検討（２）** 各自の卒論テーマの決定およびテーマの妥当性の検討、研究の目的を議論する。	J-STAGEなどで先行文献を調査し、概要をまとめる。	4時間
第4回	**研究テーマの決定と内容の検討（３）** 各自の卒論テーマの決定およびテーマの妥当性の検討、研究の目的を議論する。	J-STAGEなどで先行文献を調査し、概要をまとめる。	4時間
第5回	**研究テーマの決定と内容の検討（４）** 各自の卒論テーマの決定およびテーマの妥当性の検討、研究の目的を議論する。	J-STAGEなどで先行文献を調査し、概要をまとめる。	4時間
第6回	**卒論内容の中間報告（前半）** 各自の卒論テーマに沿って、進捗状況の報告を行う。	J-STAGEなどで先行文献を調査し、概要をまとめる。	4時間
第7回	**卒論内容の中間報告（後半）** 各自の卒論テーマに沿って、進捗状況の報告を行う。	J-STAGEなどで先行文献を調査し、概要をまとめる。	4時間
第8回	**中間報告の振り返り** ゼミ全体で中間報告の振り返りを行い、適宜研究内容の修正を行う。	J-STAGEなどで先行文献を調査し、概要をまとめる。	4時間
第9回	**卒業論文の作成（１）** 各自が設定したテーマに基づき、章立てまで作成し、研究内容に論理矛盾が生じていないか、テーマに即した内容かどうかを議論する。	章立て構成の精緻化を行う。	4時間
第10回	**卒業論文の作成（２）** 各自が設定したテーマに基づき、章および節まで作成し、研究内容に論理矛盾が生じていないか、テーマに即した内容かどうかを議論する。	章および節の構成の精緻化を行う。	4時間
第11回	**卒業論文の作成（３）** 各自が設定したテーマに基づき、章および節、項まで作成し、研究内容に論理矛盾が生じていないか、テーマに即した内容かどうかを議論する。	章および節、項の構成の精緻化を行う。	4時間
第12回	**卒業論文の作成（４）** 各自が設定したテーマに基づき、卒業論文全体について、研究内容に論理矛盾が生じていないか、テーマに即した内容かどうかを議論する。	前期末報告の準備を行う。	4時間
第13回	**前期末報告（前半）** 研究の進捗に関する期末報告を行い、今後の研究の進め方についての確認を行う。	卒業論文全体の構成の精緻化を行う。	4時間
第14回	**前期末報告（後半）** 研究の進捗に関する期末報告を行い、今後の研究の進め方についての確認を行う。	卒業論文全体の構成の精緻化を行う。	4時間

234

授業科目名	専門演習５【経営】				
担当教員名	児山俊行				
学年・コース等	4年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

卒業論文作成とそれに向けての指導を行っていきます。
①専門演習４で、収集・分析した資料群の本格的なまとめを行います。
②それと受講生の興味関心を踏まえて、論文のテーマを決定いたします。
③さらに、必要な文献・資料・調査を行っていきます。
④その過程で、問題設定から結論に至る「ストーリー」を考えていきます。
③それに沿って、不足しているエビデンスの収集・分析を行っていきます。
⑥論文構成の要素を固めていきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	自らの研究テーマにおける基本的知識・情報と現代的課題を理解する。	テーマ分野の実情・背景を理解し、基本的視角を持つことができる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		テーマ分野のビジネス事象を観察・情報収集して因果関係を理解する
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		先の因果関係から研究対象を立体的に把握し（発展・停滞の）課題を見出すことができる。
3. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		見出した課題について、いかに解決すべきかを様々な事例や調査を通じて明確にしていく
4. DP７.実践の完遂		研究目的が最後の結論と首尾一貫しており、その中の論旨も明確であるように中間発表に向けて卒業研究をまとめる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業態度	10 %	： 授業への集中度や質疑応答などの積極性で評価する。
授業中での活動	50 %	： 授業での発表や議論、授業前に提出された課題などの成果で評価する。

試験（論文）　：　テーマ研究へのアプローチ策定や研究の具体的成果で評価する。

40　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

各自の研究テーマに沿って推薦・指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　火曜日２限

場所：　担当教員の研究室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーションと卒論の進め方** 自分の興味のある分野に関連する基本文献と論文作成の全体的プロセスの確認。また、研究倫理教育の実施。	関心ある分野の基本文献読み進める。	4時間
第2回	**基本文献についての内容把握（前半）** 各自が読み進める基本文献（前半）の要旨を発表して、その正確な内容把握のためにゼミ内で議論を行う。	関心ある分野の基本文献読み進める。	4時間
第3回	**基本文献についての内容把握（中盤）** 各自が読み進める基本文献（中盤）の要旨を発表して、その正確な内容把握のためにゼミ内で議論を行う。	関心ある分野の基本文献読み進める。	4時間
第4回	**基本文献についての内容把握（後半）** 各自が読み進める基本文献（後半）の要旨を発表して、その正確な内容把握のためにゼミ内で議論を行う。	関心ある分野の基本文献読み進める。	4時間
第5回	**研究テーマの絞り込み** 各自が読了した基本文献内容にもとづいて、ゼミ内議論を通じて研究テーマを絞りこみ、より具体的なものにするよう試みる。	研究対象を分析する切り口を考える。	4時間
第6回	**研究テーマの決定** 各自が読了した基本文献内容にもとづいて、ゼミ内議論を通じて研究テーマを絞りこみ、より具体的なものに決定する。	研究対象を分析する切り口を考える。	4時間
第7回	**論文の基本構成の策定** 設定したテーマに則し、ゼミ内議論を通じて論文の基本構成を考える。	論文の基本構成案を作成する。	4時間
第8回	**論文の基本構成と第二アプローチの決定** 設定したテーマに則し、ゼミ内議論を通じて論文の基本構成と次のアプローチとを決定する。	第二アプローチのアクション案の策定。	4時間
第9回	**論文作成への第二アプローチ（序盤）** 論文の基本構成から、次に行うべきアクション（文献探索・資料収集・フィールドワーク等）について報告する。	各自で研究上のアクションを行う。	4時間
第10回	**論文作成への第二アプローチ（中盤）** 継続しているアクション（文献サーベイ・資料収集・フィールドワーク等）について報告する。	各自で研究上のアクションを行う。	4時間
第11回	**論文作成への第二アプローチ（後半）** 継続しているアクション（文献サーベイ・資料収集・フィールドワーク等）についてまとめの報告する。	各自で研究上のアクションのまとめを行う。	4時間
第12回	**論文作成への第三アプローチ案の策定** 基本文献と第二アクションの成果を踏まえ、次のアクション（文献サーベイ・資料収集・フィールドワーク等）についてゼミ内議論を通じて考える。	各自の研究上の次なるアクション案を考える。	4時間
第13回	**論文作成への第三アプローチ案の決定** 基本文献と第二アクションの成果を踏まえ、次のアクション（文献サーベイ・資料収集・フィールドワーク等）についてゼミ内議論を通じて決定する。	各自の研究上の次なるアクション案を考える。	4時間
第14回	**論文中間発表の準備** 教員指導のもとで、各自論文の中間発表の構成と内容の作成。	中間発表案の作成。	4時間

234

授業科目名	専門演習５【経営】				
担当教員名	中井秀樹				
学年・コース等	4年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

大学での研究活動の集大成として、卒業研究を行い、卒業論文または卒業作品の作成を行う。１年間を通じて、自分の選定したテーマに沿った調べ学習と中間報告を行い、アドバイスを受けて調査を実施する。また、他者の発表についても学習の一環として、きちんと内容の理解に努め、可能な範囲でアドバイスをするなど、切磋琢磨し自己の成長を促すとともに、互いのさらなる成長を目指す。
学年末には卒業研究を卒業論文・研究発表会で発表する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	これまでの講義で得た知識を研究活動への適用する。	卒業研究の完了及び卒業論文発表会の実施

汎用的な力	
1. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み	スケジュールに従って、自発的・自律的に行動し、研究活動を行う
2. DP７.実践の完遂	期日までの各種課題の提出及び発表などの実践活動をやり遂げる
3. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用	各自のテーマにおける情報の収集を行い、課題となる点を発見する
4. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案	各自のテーマにおいて、課題に対する適切な解決法や対処法を模索する

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への参加・貢献度	40 %	： 授業中の発言や発表時の積極的態度 他者の発表時のコメント
課題発表	40 %	： 研究進捗の確認のための発表の内容により評価する
試験（論文概要）	20 %	： 期末課題として論文概要の提出を課し内容により評価する

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

参考文献等:なし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜4限

場所：　西館3階研究室

備考・注意事項：　nakai-hi@osaka-serikei.ac.jp
卒論提出まで気を抜かずにしっかり頑張りましょう

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**卒論テーマ学修および中間報告、年間研究計画の再検討、研究倫理に関する確認** 各自のテーマに沿って、進捗状況の報告を交代で行う。 他者の発表時には、コメントなどをする。 お互いに、発表の聴講・評価をすることで、切磋琢磨する。 卒業研究計画書を再度作成し、今後の研究計画についての再検討を行う。 研究活動を遂行する上でも研究倫理に関しての実質的な確認を行う。	個別テーマ研究	4時間
第2回	**卒論テーマ学修における調査準備** 各自のテーマに沿って、調査活動を行い、必要な資料の準備や調査のための準備を行う	個別テーマ研究、発表資料の指摘事項の確認と訂正	4時間
第3回	**卒論テーマ学修** 準備によって建てた研究計画に合わせて調査活動を行う。 必要な個所については、適宜指導教員や他の教員への相談を経て、適切に研究計画の遂行を行う。	個別テーマ研究、発表資料の指摘事項の確認と訂正	4時間
第4回	**卒論テーマ学修における中間発表(1回目)・発表(グループ1)** 各自のテーマに沿って、進捗状況の報告を交代で行う。 他者の発表時には、コメントなどをする。 お互いに、発表の聴講・評価をすることで、切磋琢磨する。	個別テーマ研究、発表資料の指摘事項の確認と訂正	4時間
第5回	**卒論テーマ学修における中間発表(1回目)・発表(グループ2)** 各自のテーマに沿って、進捗状況の報告を交代で行う。 他者の発表時には、コメントなどをする。 お互いに、発表の聴講・評価をすることで、切磋琢磨する。	個別テーマ研究、発表資料の指摘事項の確認と訂正	4時間
第6回	**卒論テーマ学修における中間発表(1回目)・発表(グループ３)** 各自のテーマに沿って、進捗状況の報告を交代で行う。 他者の発表時には、コメントなどをする。 お互いに、発表の聴講・評価をすることで、切磋琢磨する。	個別テーマ研究	4時間
第7回	**卒論テーマ学修における調査** 1回目の中間発表を経て、研究活動の調整を行った上で、研究活動を継続する。 必要であれば、研究計画の修正も含めて、随時指導教員と相談の上で、進めていく。	卒論テーマ学修の目次作成	4時間
第8回	**卒論テーマ学修における中間発表(2回目)の準備** おおよその研究内容の確定を行い、目次を設定することで、論文の展開についてを整理し、まとめる。 その際、論理的展開やそれに必要なエビデンスの提示についてもきちんと計画を立てておくこと。	個別テーマ研究、発表資料の指摘事項の確認と訂正	4時間
	具体的な研究方法や実行についての目途を立て、これについて研究方法における問題点やその解決方法なども含めて、2回目中間発表として報告するための準備を行う。 なお、この発表はゼミ内での発表に加えて、コースが実施するプレ中間発表の内容にも適用されるものとして準備を行う。		
第10回	**卒論テーマ学修における中間発表(2回目)　発表(グループ１)** 各自のテーマに沿って、進捗状況の報告を交代で行う。 他者の発表時には、コメントなどをする。 お互いに、発表の聴講・評価をすることで、切磋琢磨する。	個別テーマ研究、発表資料の指摘事項の確認と訂正	4時間
第11回	**卒論テーマ学修における中間発表(2回目)　発表(グループ２)** 各自のテーマに沿って、進捗状況の報告を交代で行う。 他者の発表時には、コメントなどをする。 お互いに、発表の聴講・評価をすることで、切磋琢磨する。	個別テーマ研究、発表資料の指摘事項の確認と訂正	4時間
第12回	**卒論テーマ学修における中間発表(2回目)　発表(グループ３)**	個別テーマ研究、発表資料の指摘事項の確認と訂正	4時間

	各自のテーマに沿って、進捗状況の報告を交代で行う。 他者の発表時には、コメントなどをする。 お互いに、発表の聴講・評価をすることで、切磋琢磨する。		
第13回	**卒論テーマ学修および中間報告のふりかえり** 2回目発表における指摘事項や質疑応答などを経て、課題として挙がった点や、新たな課題解決のための視点などを整理し、振り返りと行うとともに、プレ中間発表に向けた準備を行う。	個別テーマ研究、発表資料の指摘事項の確認と訂正	4時間
第14回	**前期まとめと夏季休業期間の活動計画の設計** 夏期休業期間中にどのように研究活動を進めるのかについて、きちんと計画を立て、他の活動ときちんと両立する形での研究活動スケジュールを改めて組みなおす。 また、プレ中間発表や中間発表に向けた準備についてもしっかりと行う得るように、準備する。	個別テーマ研究、発表資料の指摘事項の確認と訂正	4時間

234

授業科目名	専門演習５【経営】				
担当教員名	稲村昌南				
学年・コース等	4年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本演習では、これまでの学習を基に、主に経営と情報の観点から卒業論文のテーマを設定し、まずはそれに関する情報収集と資料整理の方法を学びます。それから、それらを基に論点の洗い出しを行うとともに論文の目的としてのゴールに向かうまでの全体の構成を練っていきます。どのような内容の論文になりそうかおおまかなあらすじまでを考えます。主なスケジュールは講義計画の通りですが、授業時間外にも指導を行う場合があります。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	経営課題に対する企画・提案力	ビジネスの中で実際に問題となっている課題に対して適切なデータや資料を用いながら一定の提案を行うことができる。
汎用的な力		
1. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		問題解決の筋道を論理的に組み立てることができる
2. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		社会において解決すべき課題を抽出することができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
取組みの適正性	30 %	： 論文作成の取り組みにおいて「文章に論理性と簡潔性があるか」、「テーマに対して収集した情報に適正性はあるか」という2つの観点から評価する。
資料整理と論文の構成	40 %	： 「論文を組み立てるために抽出したキーワードに論理的矛盾はないか」という観点から評価する。
期末試験（口頭発表）	30 %	： 「テーマに対する背景が適切か」、「論文の目的が明確でその道筋が示されているか」という２つの観点から評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜、指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日3時間目

場所： 西館3階45研究室

備考・注意事項： classroom上での連絡も可能

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**研究計画書の作成（1）研究の背景（研究倫理について）** 設定したテーマに関する社会的・学術的背景についてどのようなデータや先行研究を基にするのが適切かを考察します。また、研究における著作権と個人情報保護の重要性について理解します。	研究における著作権及び個人情報保護の意味について復習するとともに、論文テーマの背景について整理して次週までに提出します。	4時間
第2回	**研究計画書の作成（2）研究目的の設定** 設定したテーマに関して、どこに焦点を当て何を明らかにするのかを決定します。	研究の目的について整理して文章にまとめます。	4時間
第3回	**研究計画書の作成（3）研究の意義について** 各自で設定した研究目的がどのような社会的意義を持つのか明らかにします。	研究の意義について文章にまとめます。	4時間
第4回	**研究計画書の作成（4）研究方法とスケジュール** どのような方法・プロセスで研究目的を達成するのかについて検討します。	いつまでに何を明らかにするのか大まかなスケジュール表を作成します。	4時間
第5回	**研究の背景の文章化（3000文字）** 1回目の授業で検討したデータや先行研究を用いて、研究の背景について3000文字で記述します。	調査や資料収集を行い、裏付けとなるデータや資料を追加します。	4時間
第6回	**文章の書き方について** 句読点の適切な入れ方や作文と違う論文の書き方などを学び、各自が3000文字で記述した研究の背景について見直します。	3000文字で記述した研究の背景について文章を修正して完成させます。	4時間
第7回	**研究計画書（4年次版）の作成** 研究の背景、目的、意義、研究スケジュールを記載した研究計画書（4年次版）を作成します。	研究計画書（4年次版）を完成させます。	4時間
第8回	**研究計画書の発表** 各自5分程度で計画書を発表し、矛盾する点などがないかどうか議論します。	裏付けとなるデータや資料について再考して必要があれば追加します。	4時間
第9回	**研究計画書の問題点の把握** 第三者による研究計画書の評価を返却し、要件を満たす個所と満たさない箇所について各自が認識します。	計画書で指摘を受けた箇所について、どうすれば改善できるか各自で考え、報告できる準備をします。	4時間
第10回	**研究計画書修正案の作成** 研究計画書の修正案を発表します。	調査や資料収集を行い、結論の裏付けとなるデータや資料を追加します。	4時間
第11回	**プレ発表会資料の作成** 研究計画書を基にコースで行う卒論プレ発表会用のパワーポイント資料を作成します。	発表の内容に沿って必要なデータ等を探し追加します。	4時間
第12回	**プレ発表会資料の確認** 各自が作成した発表会用資料について論理矛盾はないか教員からのコメントを受けます。	コメント受けた点については次週までに解決してきます。	4時間
第13回	**プレ発表用資料の修正版の提出** 教員から指摘を受けた個所を修正した修正版のプレ発表資料を提出します。	追加・修正すべき点については次週までに解決してきます。	4時間
第14回	**経営コースプレ発表会の実施** コースの中の2ゼミ合同で研究計画書ベースのプレ発表会を実施し、副査教員およびコース教員からのコメントを受けます。	発表会でのコメントや評価を基に今後の計画を作成します。	4時間

234

授業科目名	**専門演習５【経営】**				
担当教員名	李美花				
学年・コース等	4年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本講義では、3回生の研究課題をベースに4年の学生生活を締めくくる最終の仕上げとして、論文作成を目的とする。
これまで養ってきた知識を応用して、論文作成を通じての論理的な思考力を身につける。後期には個別に論文作成の指導を行う。卒業論文中間発表と最終発表に向けてゼミ合宿も行う。なお、学術的理論や専門用語、概念は覚えているだけでは意味がない。使いこなしてこそ知的意義をもつ。授業外時間に設定した予習と復習課題に取り組むことで高い学習効果が期待できる

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	各自の研究テーマにおける基本的知識および課題を理解する。	研究テーマにおける現状および課題を理解し、それを論理的に記述することができる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		研究テーマに関する情報を文献・資料から収集し、そこから課題を抽出することができる。
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		発見した課題に対して、論理的思考を持って、様々な視点から解決策を提案することができる。
3. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		課題解決に向けて、積極的に文献・資料などを収集し、論文を作成することができる。
4. DP７.実践の完遂		論文作成にあたってすべきことを最後まで丁寧にやり抜くことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
試験（課題作成・最終レポート）	90 ％	： 試験（課題作成・最終レポート）、自分の意見を論理的に述べているのか、簡潔に文章をまとめているのか、論文の完成度、文章表現力と情報収集力、課題提出、発表、の組み合わせによって総合的に評価する
平常点	10 ％	： 卒業論文作成への取り組み（課題提出回数）という観点から評価する

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

【参考文献】
講義中に適宜紹介する 。

履修上の注意・備考・メッセージ

★本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、毎回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
★必ず、毎回の授業の出席状況を各自確認すること
★授業のお知らせや課題などは、グーグルクラスルームを活用する。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日、4時限

場所： 研究室、西館2階

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス：前期のスケジュールについて説明、研究倫理** 3回生時の研究について発表を行い、今後の研究テーマについて意見交換をする。また、研究倫理教育の実施。	あらためて論文とは何か調べる	4時間
第2回	**レクチャー「卒業論文とは」＆卒業論文のテーマ探し①** レクチャーとして「論文とは何か」について行う。各自、卒業論文のテーマ（仮）を決める	テーマ探しに有効な情報を集める	4時間
第3回	**関連論文の輪読と卒業論文のテーマ探し②** 卒業論文の入門として関連論文の輪読を行う。決めた仮の卒業論文のテーマについて発表する	関連資料リストを作る	4時間
第4回	**関連資料の収集と卒業論文のテーマ探し③学外授業** 各自、興味のある研究分野の参考文献リストをまとめて発表する（3分程度） 学外授業：大阪府立中央図書館を訪問し、各自の研究に必要な資料の検索を行う。	関連分野の参考データーを集める	4時間
第5回	**参考資料の収集と卒業論文のテーマ探し④** 各自、興味のある研究分野の参考文献のカードを作成し、発表する（3分程度） ★学外授業：大阪府立中央図書館（予定）	参考文献から最も見受けられるキーワードを絞る	4時間
第6回	**卒業論文の作成①キーワード** テーマと関連するキーワードを決める。なお、主なキーワードを絞り、テーマとの関連性を考える	現状分析のフレームワークを調べる	4時間
第7回	**卒業論文の作成②現状分析** 各自、興味のある研究分野の現状分析を行い、そのまとめ内容を発表する（3分程度）	産業分析のフレームワークを調べる	4時間
第8回	**卒業論文の作成③産業分析** 各自の取り組んでいる卒業論文の産業分析を行い、そのまとめ内容を発表する（3分程度）	仮説とは何かについて調べる	4時間
第9回	**卒業論文の作成④仮説を立てる** 各自の取り組んでいる卒業論文の仮説を立てる	目次作成のたたき台を作成する	4時間
第10回	**卒業論文の作成⑤目次作成** 各自の取り組んでいる卒業論文の目次作成を行い、発表する（3分程度）	定性的・定量的研究の違いを調べる	4時間
第11回	**卒業論文の作成⑥研究方法** 各自の取り組んでいる卒業論文の研究方法について決める	各自の研究日程を作成する	4時間
第12回	**卒業論文の作成⑦調査スケジュール** 各自の取り組んでいる卒業論文の調査スケジュールを決める	フィールドワーク場所を決める	4時間
第13回	**卒業論文の作成⑧調査のまとめ** 各自の取り組んでいる卒業論文のフィールドワークを実施し、発表する	フィールドワークのまとめをする	4時間
第14回	**まとめ：前期の総括** これまでの卒業論文のまとめを発表する	前期を振り返ってみる	4時間

234

授業科目名	**専門演習５【経営】**				
担当教員名	笠岡恵理子				
学年・コース等	4年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本演習は、これまで学習してきたことに加えて、会計学に関する知識をより深めていくことで、卒業論文を作成していくにあたっての知識を身に付け、それぞれの研究テーマに沿って資料収集および論文作成を行っていくことを目的とする。前半においては、文献・資料の収集およびテーマの設定を行う。その上で、論文の構成を考えていく。後半については、論文の内容を記述するために必要な文献・資料をさらに収集しながら、論文作成を行っていく。また、講義内で発表を行うことによって、内容の改善を行っていく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	各自の研究テーマにおける基本的知識および課題を理解する。	研究テーマにおける現状および課題を理解し、それを論理的に記述することができる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		研究テーマに関する情報を文献・資料から収集し、そこから課題を抽出することができる。
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		発見した課題に対して、論理的思考を持って、様々な視点から解決策を提案することができる。
3. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		課題解決に向けて、積極的に文献・資料などを収集し、論文を作成することができる。
4. DP７.実践の完遂		論文作成にあたってすべきことを最後まで丁寧にやり抜くことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
平常点	20 %	： 授業における質疑応答など、授業への積極的な姿勢から評価する。
課題発表	40 %	： 授業におけるプレゼンテーションの内容およびプレゼンテーション力を評価する。
定期試験（レポート）	40 %	： 期末に卒業論文の概要の提出を課し、その内容を評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜、指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜2限

場所： 個人研究室（西館2F）

備考・注意事項： 初回授業にてメールアドレスをお伝えします。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーションおよび卒業論文の作成に向けて** 卒業論文の作成にあたって、文献・資料の収集方法、研究テーマの設定、論文の構成、研究倫理などについて説明を行う。	研究テーマに関連する文献・資料を読む。	4時間
第2回	**研究テーマの決定** 興味のある会計に関連する文献・資料を集め、各自の研究テーマを決定する。	研究テーマに関連する文献・資料を読む。	4時間
第3回	**論文内容の検討** 研究の目的を明確にし、結論を導き出すために必要な論文の構成内容を考える。	研究テーマに関連する文献・資料を読む。	4時間
第4回	**卒業論文の中間報告へ向けた資料作り** 設定した研究テーマおよび内容に関する中間報告を行うにあたり、資料を作成する。	発表に向けた資料を完成する。	4時間
第5回	**卒業論文の中間報告（１）グループ１** 各自の卒業論文のテーマに沿って、研究の目的、背景、論文の構成などについて報告を行う。	発表後のコメントなどを検討し、研究の内容に反映する。	4時間
第6回	**卒業論文の中間報告（２）グループ２** 各自の卒業論文のテーマに沿って、研究の目的、背景、論文の構成などについて報告を行う。	発表後のコメントなどを検討し、研究の内容に反映する。	4時間
第7回	**卒業論文の作成（１）章立ての検討** 決定した研究テーマおよび論文内容に沿って、章立てを考える。研究の目的から結論を導き出すために、その内容に一貫性があるかを考えながら検討していく。	作成した章立てに基づいて、必要な文献・資料を収集する。	4時間
第8回	**卒業論文の作成（２）各章における内容の検討** 決定した各章に関連する文献・資料を収集し、各章における節、項についても設定を行っていく。	作成した章立てに基づいて、必要な文献・資料を収集する。	4時間
第9回	**卒業論文の作成（３）構成内容の検討** これまでに設定した章、節、項について、内容が首尾一貫しているか確認する。また、論文の内容に独自性があるかどうかも再検討する。	作成した章立てに基づいて、必要な文献・資料を収集する。	4時間
第10回	**卒業論文の作成（４）研究の背景の記述** 研究の背景および目的を中心に、これまでに集めた文献・資料に基づいて文章化していく。	これから卒業論文の内容を記述していくにあたり、その基礎となる研究の背景について文章化し、完成させる。	4時間
第11回	**前期における卒業論文発表に向けた資料作成** 各自のテーマに基づいてこれまで研究してきた内容について発表を行うために、資料を作成する。	前期における卒業論文発表に向けた資料を完成させる。	4時間
第12回	**前期における卒業論文発表に向けた資料の確認** 各自のテーマに基づいて作成した資料に論理的矛盾がないかどうかを確認し、発表に向けて準備を行う。	資料内容を確認した上で、修正を行う。	4時間
第13回	**前期における卒業論文の発表（１）グループ１** 各自のテーマに基づいて、これまで研究してきた内容についての発表を行う。	発表後のコメントなどを検討し、研究の内容に反映する。	4時間
第14回	**前期における卒業論文の発表（２）グループ２** 各自のテーマに基づいて、これまで研究してきた内容についての発表を行う。	発表後のコメントなどを検討し、研究の内容に反映する。	4時間

授業科目名	**専門演習５【経営】**				
担当教員名	**海野大**				
学年・コース等	4年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大手通信事業者で新サービス開発，新規事業立ち上げ，マーケティング・リサーチ／顧客データ分析，情報システム企画・要件定義・プロジェクト管理に従事．（全14回）				

授業概要

専門演習5・6では，専門演習3・4で取り組んだ成果を卒業研究論文としてまとめ上げます．
前期の専門演習5では，まず，研究テーマを設定し，research question（研究における問い）を明確化します．次に，研究テーマに関連する参考文献を調査し，研究の背景に関する事実を整理するとともに，先行研究をまとめます．さらに，専門演習3・4で取り組んだ成果を改めて整理し，結果を客観的に評価し，考察します．そして，結論に至る研究論文全体のアウトラインを確定します．
これらの作業を踏まえて，論文を執筆し，研究成果の中間発表を行います．
専門演習5での到達目標は，「研究の背景」「研究における問い」「先行研究」「提案する施策内容」「提案施策の検証」「提案施策の評価と考察」までの完成とします．

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	企業等の経営課題に対する企画・提案力	企業等の経営課題に対し，適切な情報収集とデータ分析，論理的思考によって解決策を提案できる．
汎用的な力		
1．DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		必要な情報やデータを収集し，適切な手法を用いて分析できる．
2．DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		仮説思考（仮説立案と検証，考察）により，課題解決策を立案できる．

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
卒業研究論文の内容	60 %	： 目標までの達成状況により評価する．特に，「論文全体の論理的整合性（ストーリー性）」「研究の問いの妥当性」「提案施策の評価と考察の妥当性」「研究の社会的意義」を重視する．
卒業研究中間発表	40 %	： 発表内容により評価する．特に．「研究内容の論理的整合性（ストーリー性）」「発表方法の適正性」「発表資料の明快さ」を重視する．

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

必要な教材，資料は教員から提供します.

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため，平均すると毎回4時間の授業外学修が必要です.
授業時間外に論文指導を行うことがあります.

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 前期：火曜日3時限　後期：水曜日5時限

場所： 研究室（西館3階）

備考・注意事項： 事前にメールでアポイントメントをとるようにしてください.
メールアドレス：unno@g.osaka-seikei.ac.jp

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション** 各自の卒業研究の進捗状況および今後の研究計画について確認します. 大学における研究活動の方法，研究倫理について理解します.	各自の研究テーマに関連する参考文献を調査する.	4時間
第2回	**卒業研究論文の執筆（1）研究の背景（情報収集）** 研究テーマにかかる社会経済的・学術的背景に関する情報やデータを収集し，整理します．収集した情報やデータの出典を，参考文献リストとしてまとめます.	研究テーマにかかる社会経済的・学術的背景に関する情報やデータを文献リストとして整理する.	4時間
第3回	**卒業研究論文の執筆（2）研究の背景（論文執筆）** 研究テーマにかかる社会経済的・学術的背景に関して収集・整理した情報やデータを要約し，卒業研究論文の「研究の背景」部分を執筆します．必要により，さらに情報・データを追加収集します．収集した情報・データの出典は，参考文献リストに追加します.	研究の背景を執筆する.	4時間
第4回	**卒業研究論文の執筆（3）研究の問い（研究の目的と意義）** 研究の目的と，研究の社会的意義について検討し，論文を執筆します.	研究の目的と，研究の社会的意義を執筆する.	4時間
第5回	**卒業研究論文の執筆（4）研究の問い（解決すべき課題とその方法）** 研究によって解決する課題を明確化し，どのような研究方法（手順）で解決するのかについて検討し，論文を執筆します.	研究によって解決する課題と研究方法について執筆する.	4時間
第6回	**卒業研究論文の執筆（5）先行研究** 各自の研究テーマに関連する先行研究を調査し，要約します．さらに，それらの先行研究と自身の研究との関係，活用について検討します．収集した先行研究の論文・調査資料等は，参考文献リストに追加します.	先行研究の要約，自身との研究の関係等について執筆する.	4時間
第7回	**卒業研究論文の執筆（6）提案施策の内容** 研究の本論となる，自身が提案する施策の内容について文章としてまとめ，論文を執筆します.	提案施策の内容について執筆する.	4時間
第8回	**卒業研究論文の執筆（7）提案施策の実施結果** 提案した施策の実施結果について整理し文章としてまとめ，論文を執筆します.	提案施策の実施結果について執筆する.	4時間
第9回	**卒業研究論文の執筆（8）提案施策の検証** 提案した施策の実施結果から，施策の効果について検証し，文章としてまとめ，論文を執筆します.	提案施策の効果検証を執筆する.	4時間
第10回	**卒業研究進捗状況の発表** 「研究の背景」「研究における問い」「先行研究」「提案する施策内容」「提案施策の検証」までの内容について，各自5分以内で発表します.	発表に対するフィードバックコメントに基づき，論文内容を見直す.	4時間
第11回	**卒業研究論文の執筆（9）提案施策の評価と考察** 提案した施策の実施結果と効果検証に基づき，提案した施策を客観的に評価し，以下の考察を行います. ・「研究における問い = 解決したい課題」を解決する上でどのような効果が期待できるのか，逆にどのような問題（デメリット）があるのか，その問題はどうすれば解決できるのかを考察する ・さらに効果を高めるために提案施策をどのように改善すればよいかを考察する 考察内容を文章としてまとめ，論文を執筆します.	提案施策の評価と考察を執筆する.	4時間
第12回	**中間発表の準備** 「研究の背景」「研究における問い」「先行研究」「提案する施策内容」「提案施策の検証」「提案施策の評価と考察」まで完成させ，中間発表資料を作成します.	中間発表用のプレゼン資料を作成します.	4時間
第13回	**中間発表（前半グループ）** 中間発表は，2グループに分かれて実施します. 前半のグループの中間発表を行います.	発表に対するフィードバックコメントに基づき，発表資料を修正する.	4時間

第14回	**中間発表（後半グループ）** 中間発表は，2グループに分かれて実施します． 後半のグループの中間発表を行います．	発表に対するフィードバックコメントに基づき， 発表資料を修正する．	4時間

234

授業科目名	**専門演習５【食】**				
担当教員名	髙畑能久				
学年・コース等	4年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大手総合食品メーカーの中央研究所で研究・商品開発および新規事業を経験。その後、グループ経営本部 経営企画部にて事業戦略の立案および投融資などを担当（全14回）。				

授業概要

この授業では、専門演習３・４での学びを踏まえ、自ら設定した研究課題を探究するため仮説を立て、多くの選択肢の中から最適な検証手段を選択し、調査研究の過程を通してその解決策を探究します。そして、学びの集大成としての卒業論文を執筆します。研究倫理、文献検索の方法、実地調査の進め方、専門知識やスキルを修得しながら、自ら主体的に卒業研究に取り組むことが求められます。食ビジネスの新たな価値創造と更なるスキルアップをめざし、食品開発、食の安全マネジメント、食の持続可能性などを中心とした研究領域に挑戦します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	研究倫理、文献検索の方法、実地調査の進め方、専門知識やスキルを修得し、主体的に卒業研究に取り組む。	自ら設定した研究課題を解決するため仮説を立て、最適な検証手段を立案し、解決策を探究する。

汎用的な力	
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用	自ら研究課題を設定し、その真因を探ることができる。
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案	仮説を検証するため、必要な検証手段やアクションプランを立案できる。
3. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み	自ら主体的に行動し、PDCAサイクルを回しながら研究・開発を実践できる。
4. DP10.忠恕の心	誠実で思いやりのある人、周囲から頼りにされる人になることをめざす。

学外連携学修

有り(連携先：日乃本食産株式会社、日本ハムマーケティング株式会社)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・見学、フィールドワーク

・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
授業内のワーク	20 %	：	課題設定および仮説検証のプロセスが妥当かつ効果的であったか、主体的な取り組み姿勢であったかどうかを評価します。
ポートフォリオ（学びの記録）	20 %	：	先行研究の調査レポート、仮説と研究計画、実地調査票および解析データなどが適切であったかどうかを評価します。
中間・期末発表	40 %	：	発表内容（専門性・実践力）が適切であり、自らの主張を伝えられたかどうか、相手の意図を理解して適切に応答できたかどうかを評価します。

期末レポート	:	指定された日時までに提出された期末レポート（研究計画、概要含む）について、学術的な問いに対して持論を明確に主張し、エビデンスを示して論述できているかを評価します。

20　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

戸田山和久『新版　論文の教室-レポートから卒論まで-』（NHK出版、2017年、ISBN978-4-14-091194-5）
西澤幹雄『はじめての学会発表』（化学同人、2017年、ISBN978-4-7598-1930-4）
その他、テーマ毎に必要に応じて紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
※各自のテーマ毎の進捗状況などに合わせ、授業の順番や内容を一部変更する場合がある。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜２限

場所：　髙畑研究室（西館２階）

備考・注意事項：　授業の前後以外で質問したい場合は、メールにて受け付けます（takahata@osaka-seikei.ac.jp）。件名には必ず、所属・学籍番号・氏名を明記してください。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンスと卒業研究の進め方・研究倫理** 今後の卒業研究の進め方、卒業論文・要旨の執筆方法、研究倫理について学びます。	研究倫理に関する事例を調べておいてください。	4時間
第2回	**研究テーマの見直し①（課題を発展させる）** 専門演習３・４の成果を踏まえ、先行研究の調査を行い、課題を見直し発展させます。	研究テーマを見直すため先行研究の調査を行ってください。	4時間
第3回	**研究テーマの見直し②（目的を明確にする）** 専門演習３・４の成果を踏まえ、先行研究の再調査を行い、課題を見直し目的を明確にします。	研究テーマを見直すため先行研究の調査を行ってください。	4時間
第4回	**研究（開発）の実践①（計画を見直す）** アンケート調査やヒアリング調査など追加の研究計画（5W1H）を立案します。	各自で追加調査のための研究計画を作成してください。	4時間
第5回	**研究（開発）の実践②（調査票の作成）** アンケート調査やヒアリング調査などの調査票の作成を行います。企業ではなく、人を対象とした調査の場合は、必要に応じて倫理審査を受ける必要があります。	各自で追加調査のため調査票を作成を行ってください。	4時間
第6回	**研究（開発）の実践③（調査の実施）** アンケート調査の調査票を配布し、記入を依頼します。さらに理解を深めるためヒアリング調査も実施します。	各自で追加調査を行ってください。	4時間
第7回	**研究（開発）の実践④（調査票の回収・集計）** アンケート調査やヒアリング調査などの調査票を回収し、集計を行います。	各自で追加調査の結果を回収、集計してください。	4時間
第8回	**ゼミ内中間発表会の準備** これまで取り組んできた卒業研究の進捗状況を発表するため発表用パワーポイントと発表原稿を作成します。	各自で発表練習を行ってください。	4時間
第9回	**ゼミ内中間発表会** 卒業研究の進捗状況をパワーポイントを用いて発表し、質疑応答します。他のゼミ生の発表に対するコメントを記入します。発表用パワーポイントは事前に提出してください。	各自で中間発表の振り返りを行ってください。	4時間
第10回	**研究（開発）の実践⑤（結果の分析、考察）** 第7回で集約したアンケート調査やインタビュー調査などの調査結果を分析し、考察します。	各自で追加調査の結果を分析、考察してください。	4時間
第11回	**卒業研究計画書の作成・提出** これまでの調査研究の結果を踏まえ、研究計画書を作成します。今後の研究計画やアクションプランを具体的に示してください。	研究計画書を提出してください。	4時間
第12回	**コース期末発表会の準備** これまで取り組んできた研究成果を発表するため、発表用パワーポイントと発表原稿を作成します。これまでに取り組んだこと、これから取り組むことを区別して記述します。	各自で発表練習を行ってください。	4時間
第13回	**コース期末発表会（前半）**	各自で期末発表の振り返りを行ってください。	4時間

	卒業研究の進捗状況をパワーポイントを用いて発表し、質疑応答します。他のゼミ生の発表に対するコメントを記入します。発表用パワーポイントは事前に提出してください。		
第14回	**コース期末発表会（後半）** 卒業研究の進捗状況をパワーポイントを用いて発表し、質疑応答します。他のゼミ生の発表に対するコメントを記入します。発表用パワーポイントは事前に提出してください。 授業の最後に期末レポートの課題を提示します。	各自で期末発表の振り返りを行ってください。期末レポートは指定された日時までに提出してください。また、前期で学んだことを踏まえ、各自で夏休みの計画を立ててください。	4時間

234

授業科目名	専門演習５【食】				
担当教員名	伴みずほ				
学年・コース等	4年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

この授業では、専門演習３・４での学びを踏まえ、自ら設定した研究課題を解決するため仮説を立て、調査研究の過程を通してその解決策を提案します。そして、学びの集大成としての卒業論文を執筆します。研究の進め方、文献検索の方法、研究倫理など研究の基礎となる知識を習得しながら、自ら主体的に卒業研究に取組むことが求められます。卒業論文のテーマは食ビジネスの変革であり、特に消費者とのコミュニケーションを中心とした研究テーマを取り扱います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	研究倫理、文献検索の方法、フィールド調査の進め方、専門知識やスキルを習得し、主体的に卒業研究に取組む。	自ら設定した課題を解決するため仮説を立て、最適な検証手段を立案し、解決策を提案できる。

汎用的な力	
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用	自ら課題を設定し、その真因を探ることができる。
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案	仮説を検証するために必要な検証手段、計画を立案できる。
3. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み	自ら行動に対してPDCAサイクルを回しながら実践できる。
4. DP10.忠恕の心	誠実で思いやりのある人、周囲から頼りにされる人になることを目指す。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内のワーク	20 %	： 課題設定および仮説検証のプロセスが妥当、効果的であったかどうか、自主的な取り組み姿勢であったかどうかを評価します。
提出物	20 %	： 先行研究の調査レポート、仮説と研究計画、フィールド調査票および解析データなどが適切であったかどうかを評価します。
中間・期末発表	40 %	： 発表内容が適切であり、自らの主張を伝えられたかどうか、相手の意図を理解して適切に応答できたかどうかを評価します。
試験（期末レポート）	20 %	： 指定された日時までに提出された期末レポート（研究計画、概要含む）について、独自の問いに対して明確な答えを主張し、論証できているかを評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

テーマ毎の進捗に応じて紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

授業の順番や内容を変更する場合があります。
不定期で専門書の輪読を行います。
各自でpptの資料準備を行っておいてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日5時間目

場所： 研究室（西館２階）

備考・注意事項： 質問はメールでも応じます。ban-m@osaka-seikei.ac.jp（タイトルには氏名、学籍番号を記入のこと）

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**卒業研究の進め方および研究倫理** 今後の失業研究の進め方、研究倫理、卒業論文・要旨の執筆方法、などについて学びます。	研究倫理に関する事例を調べておいてください。	4時間
第2回	**研究テーマの見直し①（課題を発展させる）** 専門演習３・４の成果を踏まえ、先行研究調査を行い、課題を見直しより発展させます。	研究テーマを見直すため先行研究調査を行ってください。	4時間
第3回	**研究テーマの見直し②（目的を明確にする）** 専門演習３・４の成果を踏まえ、先行研究調査を行い、課題を見直しより目的を明確にします。	研究テーマを見直すため先行研究調査を行ってください。	4時間
第4回	**フィールド調査①（計画を立てる）** インタビュー調査や市場調査などの計画（5W1H）を立案します。	フィールド調査のための資料作成を行ってください。	4時間
第5回	**フィールド調査②（調査票の作成）** インタビュー調査や市場調査などの調査票の作成を行います。 企業ではなくヒトを対象とした調査の場合は、事前に倫理審査を受けます。	フィールド調査のための資料作成を行ってください。	4時間
第6回	**フィールド調査③（調査の実施）** インタビュー調査や市場調査などの調査票をもとに、結果を記入します。	フィールド調査のための資料作成を行ってください。	4時間
第7回	**フィールド調査④（調査票の回収・集約）** インタビュー調査や市場調査などの調査票を、集約を行います。	フィールド調査結果の回収、集約を行ってください。	4時間
第8回	**ゼミ内中間発表会の準備** これまで取り組んできた卒業研究の進捗状況を発表するためパワーポイントと発表原稿を作成します。	各自で発表練習を行ってください。	4時間
第9回	**ゼミ内中間発表会** 卒業研究の進捗状況をパワーポイントを用いて発表し、質疑応答します。他の発表に対するコメントシートも記入します。 発表に使用したパワーポイントは提出してください。	各自で中間発表の振り返りを行ってください。	4時間
第10回	**フィールド調査⑤（結果の解析）** 第7回で集約したインタビュー調査や市場調査などの調査票の解析を行い考察します。	フィールド調査結果の解析を行ってください。	4時間
第11回	**卒業論文　研究計画書の作成・提出** これまでの調査研究の結果をふまえ、研究計画書を作成します。今後の研究計画や結果を具体的に示してください。	次週までに研究計画書を提出してください。	4時間
第12回	**コース期末発表会の準備** これまで取り組んできた研究成果を発表するためパワーポイントと発表原稿を作成します。	各自で発表練習を行ってください。	4時間
第13回	**コース期末発表会（前半）** 卒業研究の進捗状況をパワーポイントを用いて発表し、質疑応答します。他の発表に対するコメントシートも記入します。 発表に使用したパワーポイントは提出してください。	各自で期末発表の振り返りを行ってください。	4時間

第14回	**コース期末発表会（後半）** 卒業研究の進捗状況をパワーポイントを用いて発表し、質疑応答します。他の発表に対するコメントシートも記入します。 発表に使用したパワーポイントは提出してください。 授業の最後に試験（期末レポート）の課題を提示します。	各自で期末発表の振り返りを行ってください。試験（期末レポート）は指定された日時までに提出して下さい。また、前期で学んだことを踏まえ、各自で夏休みの計画を立ててください。	4時間

234

授業科目名	**専門演習５【公共】**				
担当教員名	**大島博文**				
学年・コース等	4年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	政令市で都市計画・防災・交通・総合計画・統計等の新規施策立案・計画策定・経営業務を経験。公益財団法人であるシンクタンクで地域に関するまちづくり・福祉・環境・防災・災害復興等の政策立案・コンサルティング業務、研修等の人材育成業務を担当。（全14回）				

授業概要

本演習では、これまでの学習を基に、主に行政等の課題解決に向けた公共経営の観点から卒業論文のテーマを設定し、論文内容に関する情報収集や資料整理、論点整理等を行ったうえでディスカッションペーパーを作成し、ゼミ内でのディスカッション等を行う。各プロセスにおいては、学術的な知見を持ちながらも行政等の現場で実現可能なものであるかを常にチェックし、理論と実践の整合を図りながら課題解決に向けた複数のアプローチ法を提示できるようにする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	行政等における課題解決に向けた提案をまとめる。	行政等における課題解決に向けた提案を各プロセスを経たうえで、研究計画としてまとめることができる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		行政等における課題解決に向けた提案をまとめるための情報の収集・分析・活用ができる。
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		行政等における課題解決に向けた方策の企画・立案を実践できる。

学外連携学修

有り(連携先：豊中市、吹田市、池田市、摂津市等)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

・見学、フィールドワーク

・課題解決学習(PBL)

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への参加・貢献度	40 %	： 授業中の発言や発表時の積極的態度 他者の発表時のコメント
課題発表	40 %	： 研究進捗の確認のための発表の内容により評価する

試験（論文概要）　：　期末課題としての「論文概要」の内容を評価する

20　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜、指導する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　火曜日５限

場所：　西館3階37研究室

備考・注意事項：　連絡を取りたい場合はメールでも可（oshima@osaka-seikei.ac.jp）

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**研究方法および研究倫理** 自身の研究内容について、進捗状況を報告する。 著作権や個人情報保護などの研究倫理について学ぶ。	先行研究、関連データ、関連事例等を調査し、概要をまとめる。	4時間
第2回	**卒業研究テーマおよび内容の検討（1）** 各自の卒業研究テーマおよびテーマについて概要を作成し、適切性等を検討する。	先行研究、関連データ、関連事例等を調査し、概要をまとめる。	4時間
第3回	**卒業研究テーマおよび内容の検討（2）** 各自の卒業研究テーマおよびテーマについて概要を作成し、適切性等を検討する。	先行研究、関連データ、関連事例等を調査し、概要をまとめる。	4時間
第4回	**卒業研究テーマおよび内容の検討（3）** 各自の卒業研究テーマおよびテーマについて概要を作成し、適切性等を検討する。	先行研究、関連データ、関連事例等を調査し、概要をまとめる。	4時間
第5回	**卒業研究テーマおよび内容の検討（4）** 各自の卒業研究テーマおよびテーマについて概要を作成し、適切性等を検討する。	先行研究、関連データ、関連事例等を調査し、概要をまとめる。	4時間
第6回	**卒業研究概要の中間報告（1）** 本専門演習内でのディスカッション等の内容を反映して概要を修正し、中間報告を行う。	本専門演習内でのディスカッション等の内容を反映して概要を修正しておく。	4時間
第7回	**卒業研究概要の中間報告（2）** 本専門演習内でのディスカッション等の内容を反映して概要を修正し、中間報告を行う。	本専門演習内でのディスカッション等の内容を反映して概要を修正しておく。	4時間
第8回	**中間まとめと振り返り** ゼミ全体で中間まとめとふりかえりを行い、後半で卒業研究を進めるための論点整理を行う。	中間まとめとふりかえりができるよう、これまで作成した研究概要や演習内でもらった意見等を整理しておく。	4時間
第9回	**卒業論文の作成（1）～目次の作成** 各自が作成した「研究概要」に基づき、卒業論文の目次の作成を行う。	卒業論文の目次の作成が行えるよう、概要の内容を体系化しておく。	4時間
第10回	**卒業論文の作成（2）～序論の作成** 各自が作成した「研究概要」に基づき、卒業論文の序論の作成を行う。	卒業論文の序論の作成が行えるよう、研究の背景や目的、先行研究等を整理しておく。	4時間
第11回	**卒業論文の作成（3）～本論（研究方法）の作成** 各自が作成した「研究概要」に基づき、卒業論文の本論（研究方法）の作成を行う。	卒業論文の本論（研究方法）の作成が行えるよう、研究の調査方法等を整理しておく。	4時間
第12回	**卒業論文の作成（4）～本論（結果）の作成** 各自が作成した「研究概要」に基づき、卒業論文の本論（結果）の作成を行う。	卒業論文の本論（結果）の作成が行えるよう、研究の調査結果等を整理しておく。	4時間
第13回	**前期末研究まとめ（1）**	前期末まとめができるよう、これまでの研究成果および作成論文の整理をしておく。	4時間

	研究及び論文に関する前期末まとめを行い、考察など今後の研究の進め方について検討する。		
第14回	**前期末研究まとめ（2）** 研究及び論文に関する前期末まとめを行い、考察など今後の研究の進め方について検討する。	前期末まとめができるよう、これまでの研究成果および作成論文の整理をしておく。	4時間

234

授業科目名	**専門演習５【公共】**				
担当教員名	**大塚康央**				
学年・コース等	4年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	茨木市において、企画、都市計画、まちづくり計画、住民参加などを経験したのち、副市長として政策立案、実施、評価全般を担当。（全14回）				

授業概要

公共政策コースの学びは、社会で解決すべきとされた問題（政策問題）を対象に、行政をはじめとするさまざまな主体の活動や政策立案、決定、実施、評価という過程や、社会環境、住民ニーズと政策との関係などについて考察し、住民福祉の向上豊かな地域社会の創造を目指すために必要な事項などを考えていくものである。この基本的な事項を踏まえ、個々に設定した研究テーマに沿って調査、研究を進めていくこととなるが、専門演習5では、設定した仮説に基づき、先行研究のレビュー、事例踏査の実施や対象とするテーマに応じた社会調査を進めていく。そして、得られた知見を踏まえた中間報告を行い、指摘された事項を踏まえ研究をさらに深めていく。必要に応じて授業時間外の指導を実施する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	研究テーマにおける社会的課題の分析、関係主体の行動原理と内容などを把握、理解する。	研究テーマに関して、仮説を検証するに必要な調査を設定することができ、調査の実施により社会的な問題や背景を分析、理解することができる。
2. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	専門的な知識に基づき、社会的課題に関する公共政策の内容や効果、関係する主体の行動等を分析し、政策課題解決に関係する要素、原理を明らかにする。	研究テーマの内容を、さまざなまな要素から分析し、論文の構成を確立させまとめにつなげることができる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		社会的な問題（政策問題）に対する理解とそれによる適切な研究課題の構築
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		政策内容を理解することで、社会問題や地域課題への対策等の公共政策について調査計画を立てて研究を進めることができる。
3. DP７.実践の完遂		社会問題に対する理解に基づき、関係する主体の役割や活動、政策実施等について詳細に分析し、その内容を論理的に説明することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への取り組み	10 %	： 進捗状況の報告、授業中の質疑や他の学生への質問、アドバイスなどの取り組み姿勢を評価する。
積極的な調査活動	10 %	： 研究に必要な先行研究の収集、事例調査等の活動について報告した内容に基づき評価する。
研究論文の構成	30 %	： 研究論文の構成が適正に組み立てられ、必要な情報を収集することができているかという観点から評価する。

期末試験（中間発表）　：　卒業研究の中間まとめの提出を課し、その内容により評価する。

50　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

個々の研究テーマに基づき、適宜、指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
個々の研究テーマにもとづいた調査を計画的に実施するとともに、進捗状況の報告や、指摘を受けた事項に基づく調査研究を行うこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜1限

場所：　西館4階研究室

備考・注意事項：　上記以外でも、あらかじめ要請があれば対応する。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**卒業研究の進め方・研究倫理** 卒業研究を進めるにあたって、研究テーマの具体化、当該テーマに関する調査の進め方、論文執筆の注意点について学ぶ。 また、研究を進める際に守らなければならない研究倫理についても学び理解する。	研究テーマと当該テーマの検証に必要な情報収集の方法を考える。	4時間
第2回	**研究計画の具体化（研究目的の確認）** 設定した研究テーマについて、何を明らかにするのか、どこに焦点をあてるかを確認し、研究の目的を定める。	研究の目的について、整理しまとめる。	4時間
第3回	**研究計画の具体化（研究方法の確立）** 研究目的を達成するために進めていく調査方法やプロセス、スケジュール等、研究計画を確立する。	どのような調査を進めていくのかを館和えまとめるとともに、おおまかなスケジュールを作成する。倫理審査申請が必要な調査を予定している場合は、その準備を進める	4時間
第4回	**資料収集、先行研究の把握** 研究計画に基づく資料収集や先行研究の収集を行う。	先行研究、研究に必要な資料の収集を行い整理する。	4時間
第5回	**研究計画の確定** 先行研究等の内容を踏まえ、研究計画の見直しの必要性について検討し、研究計画を確定する。	研究計画書を確定させる。先行研究の把握や研究資料の収集を進める。	4時間
第6回	**ゼミ内発表、意見交換、計画書の見直し** 各自が確定した研究計画の内容を報告し、他のゼミ生からのレビューを受ける。	レビューの内容を参考として調査研究の準備を進める。	4時間
第7回	**研究実施（情報収集、仮説との関係分析・整理）** 研究目的達成に必要となる資料の収集を進める。仮説との関係から、資料の内容を分析、評価する。	研究に必要な資料の収集、分析を進める。	4時間
第8回	**研究実施** さらに調査研究を進める。 得た資料等を踏まえ、研究の梗概と体系（構成）の作成に取り組む。	研究に必要な資料の収集、分析を進める	4時間
第9回	**梗概の作成** 得た知見、資料の内容を踏まえながら、研究の構成､梗概を作成する、目的、意義との関連には留意する。	研究の目的な意義を再確認し、進めている研究の内容を要約しまとめる。	4時間
第10回	**研究構成の作成（論理的構成の検討）** 研究の内容と資料、データに基づき、構成を作成し、論理的に説明できているかを確認する。	論理的に証明できる構成ができるか、不足している情報は何かを考え、不足資料を収集する。	4時間
第11回	**ゼミ内発表準備** ゼミ内での発表資料を作成する。	資料の作成と不備がないかを確認し、必要により修正を行う。	4時間
第12回	**ゼミ内発表（前半）** 卒業研究の構成（目次）と梗概をもとに、ゼミ内で発表する。他のゼミ生は、当該発表に対する質問・コメントを行う。 指摘等を受け､研究計画についての見直しを行い､今後の調査研究計画を設定する。	質問・コメントの内容確認と修正等の必要性の検討	4時間

第13回	**ゼミ内発表（後半）** 卒業研究の構成（目次）と梗概をもとに、ゼミ内で発表する。他のゼミ生は、当該発表に対する質問・コメントを行う。 指摘等を受け、研究計画についての見直しを行い、今後の調査研究計画を設定する。	質問・コメントの内容確認と修正等の必要性の検討	4時間
第14回	**進捗状況まとめ、研究計画の確認、調査実施準備** 前期で取り組んできたことをまとめ、後期の研究の準備を進める。 夏休み期間中の調査研究計画を立て、発表する。	収集した資料の内容、仮説検証の妥当性、今後の研究計画の検討作成を進める。	4時間

234

授業科目名	**専門演習５【スポーツ】**				
担当教員名	青野桃子				
学年・コース等	4年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

スポーツマネジメントに関する諸問題について、学術的な知見を持ちながら、各自の研究テーマへのアプローチ法を整理し、研究計画の作成とプレゼンテーションをおこなう。ゼミ内でディスカッションをおこない、多面的に問題をとらえることを目標とする。そして、先行研究を批判的に検討することで、問題関心を深め、オリジナリティのある卒業研究を目指す。また最終的に、卒業研究だけでなく、批判的思考、論理的思考、議論する能力の向上も目指す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.スポーツ産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	文献、先行研究を通して、基礎知識を習得する。	幅広い教養やスキルを身につける。
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	専門的知識、研究手法を学ぶ。	専門的知識を獲得する。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		自ら研究課題を発見する。
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		研究計画を立案する。
3. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		計画に基づいて、実際に研究を進める。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
論文・企画書の評価	50 ％	： テーマ選定が研究課題に対して適切であるかどうか、データや先行研究が参照できているかどうか、論理的構成、文章の体裁を評価する。
研究過程の評価	30 ％	： 研究に取り組む姿勢、自主性、グループでの活動においては協調性を評価する。
研究発表の評価		： 自身の研究について、論理的に、資料にもとづいて発表ができていることを評価する。

20　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業のなかで適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　金曜3限

場所：　西館4階　研究室

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション：専門演習の意義と研究倫理** ゼミの目的や進め方を確認する。研究倫理教育をおこなう。	３年ゼミ・議論の復習	4時間
第2回	**研究テーマの決定** 研究テーマを決定し、テーマの妥当性、研究目的について検討する。	研究テーマに関する先行研究の検討	4時間
第3回	**先行研究・参考文献収集** 決定した研究テーマにそった、先行研究・文献を収集する。	先行研究の収集	4時間
第4回	**論文構成の作成** 収集した先行研究・文献をもとに、論文の構成を作成する。	論文構成の作成・修正	4時間
第5回	**抄録の作成** 発表会に向けて、各自の研究について抄録を作成する。	抄録の作成・修正	4時間
第6回	**ゼミ内発表会の実施** 発表会に向けて、ゼミ内で発表会を実施する。	議論の復習	4時間
第7回	**中間発表会用の資料作成** ゼミ内での議論をふまえて、中間発表会用の資料を完成させる。	資料の作成	4時間
第8回	**卒業研究中間発表会** 卒業研究中間発表会をおこなう。	発表会の復習	4時間
第9回	**研究テーマに関する予備調査の検討** 調査方法、調査対象、妥当性について検討する。	調査方法、調査対象、妥当性についての検討	4時間
第10回	**研究テーマに関する調査資料の作成** 調査を実施するための資料を完成させる。	調査資料作成	4時間
第11回	**研究テーマに関する予備調査の実施** 研究に関する予備調査を実施する。	予備調査のまとめ	4時間
第12回	**予備調査の回収・集計、仮説の検討** 予備調査の結果をもとに、仮説を立てる。	仮説の設定	4時間
第13回	**研究テーマに関する本調査の検討：研究方法** 調査方法の妥当性、具体的な調査項目について検討する。	資料の作成、議論の復習	4時間
第14回	**研究テーマに関する本調査の検討：調査対象** 調査対象、実施時期、内容について検討する。	資料の作成、議論の復習、スケジュールの設定	4時間

234

授業科目名	専門演習５【スポーツ】				
担当教員名	丸朋子				
学年・コース等	4年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	地方テレビ・ラジオ局においてアナウンサー・スポーツキャスター、番組制作業務のほか、プロ・クラブスポーツのスタジアムDJ・MCを経験した。また、プロスポーツチームにおいて事業企画や試合運営、広報業務等に従事した。（全14回）				

授業概要

スポーツマネジメントに関する諸問題について学術的な知見を持ちながら、各自の研究テーマへのアプローチ法を整理し、研究計画の作成および執筆、発表を行います。また、研究を進めていく上で先行研究を丁寧に解釈し、研究の個人的意義・学術的意義・社会的意義を検討します。　丸研究室では、スポーツ地域マネジメントおよびスポーツエンターテイメント、メディアを中心とした課題について、各自の関心や問題意識より、卒業論文及び企画書の作成にむけて演習を行い、各自が主体的に情報収集、事例研究、データの収集を行います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	スポーツ地域マネジメント、スポーツエンターテイメントおよびメディアの幅広い教養と知識の習得	幅広い知識と教養
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	スポーツ地域マネジメント、スポーツエンターテイメントおよびメディアの専門知識とスキルの習得	専門知識と理解
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		研究の課題発見
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		研究課題の調査計画の立案を行う
3. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		発表などの実践力を身に付ける

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
試験（論文・企画書） 50　％	：	専門性としてテーマの妥当性、内容の妥当性・論点の明確さ、データと先行研究の参照、独自性・社会的意義 実践力として論理的構成、文章の体裁、表現の推敲、研究の完遂 忠恕として適切な内容
研究過程の評価	：	取り組む姿勢として意思疎通、自発的行動、協調性（グループ研究のみ）忠恕の心を持ったコメント

40　%

研究発表の評価　：　専門性として内容の妥当性・オリジナリティ、データ・先行研究の参照
実践力として論理的構成、資料の活用、発表技術、発表時間
協調性、質疑応答
忠恕として適切な内容

10　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

卒論を完成させるために先行研究、引用参考文献など合わせて10本以上を自ら用意する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜日　2限

場所：　研究室　西館3F

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンスおよび研究倫理に関する講義** 専門演習５の授業計画と研究倫理について伝えると共に、卒業研究の進め方を概説する。	研究倫理に関する予習復習を行う。研究テーマの決定、先行研究・参考文献の収集、論文構想の作成を行う。	4時間
第2回	**研究テーマの決定** 各自が3年次に作成した研究計画のレビューを行い、研究の目的を明確にする。	研究テーマの決定、先行研究・参考文献の収集、論文構想の作成を行う。	4時間
第3回	**研究テーマ検討会** テーマの妥当性や意義について教員、ゼミ生と討議を行う。必要な文献や先行研究を整理する。	先行研究・参考文献を収集し、通読する。	4時間
第4回	**研究方法の確認** 各自のテーマ、研究目的をもとに、必要とされる研究方法を明らかにする。	先行研究等における研究方法を整理する。	4時間
第5回	**調査計画および予備調査の検討** 調査方法、調査対象、その妥当性について検討し、具体的な調査計画を作成し、順次実行する。	調査方法、調査対象、その妥当性について検討する。	4時間
第6回	**調査資料の作成** 調査を実施するための資料を完成させる。	先行研究を吟味し、調査を実施するための資料を作成し、教員やゼミ生間で内容を相互チェックしておく。	4時間
第7回	**卒業研究中間発表会の準備** 発表会の内容の検討および資料作成を行う。	発表会のプレゼンを行い、スライド資料を修正する。	4時間
第8回	**卒業研究中間発表会** 審査教員のアドバイス、他学生の発表を参考にする。	発表会でのコメントをふまえて研究内容の改善を行う。	4時間
第9回	**調査の実施１：データ整理** 調査を実施し、その結果の整理を行う。	結果を図表などにまとめる。	4時間
第10回	**調査の実施２：データ分析** 調査結果をもとに定性・定量的手法による分析を行う。	結果を図表などにまとめる。	4時間
第11回	**調査の実施３：追加調査や再調査の検討** 結果を照らし合わせ、追加調査や再調査の必要性を検討する。	調査設計の検討を行う。	4時間
第12回	**調査結果レビュー1：ゼミ内レビュー①** 各自の調査結果をゼミ内でレビューし、相互検証する。	調査結果から何が言えるか、何が明らかになったか事前に自身で確認する。	4時間
第13回	**調査結果レビュー1：ゼミ内レビュー②** 各自の調査結果をゼミ内でレビューし、相互検証する。	調査結果から何が言えるか、何が明らかになったか事前に自身で確認する。	4時間
第14回	**調査結果レビュー2：フィードバックによる改善** ゼミ内レビューで得たフィードバックをもとに、論文全体の構成や内容の改善につなげる。	調査結果から何が言えるか、何が明らかになったか事前に自身で確認し、明文化する。	4時間

234

授業科目名	専門演習５【スポーツ】				
担当教員名	岡田功				
学年・コース等	4年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	新聞記者として長年、国内外のスポーツビジネスの現場を取材。折に触れて日本のプロスポーツクラブに経営のアドバイスを行ってきた（全14回）				

授業概要

スポーツビジネスなどに関する諸問題について学術的な知見を持ちながら、各自の研究テーマへのアプローチ法を整理し、研究計画の作成およびプレゼンテーションを行う。また、研究を進めていく上で関連研究の調査、事例調査、定量調査、定性調査について学び、各自の研究に活用していきます。岡田研究室では、事例分析や先行研究を通して経営学分野のさまざまな基礎知識を習得し、その中で学生とは個別に卒業研究論文と発表に向けて準備を行います。個別指導が多くなると思われるため、効果的にオンラインによる指導も併行する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.スポーツ産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	スポーツマネジメントに関する研究計画の策定と実行	自身の研究テーマを設定し、適切な研究方法を選び実施する
2. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	経営学の専門的知識と研究課題の調査、分析を行う	専門的知識と研究課題の調査、分析を行う
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		自らの研究の課題を発見する力を身につける
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		研究の課題の計画を立案する力を身につける
3. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		研究の課題の計画を立案し、発表会などで実践していく力を身につける

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
卒業研究の計画書と中間発表 50　％	：　専門性としてテーマの妥当性、内容の妥当性・論点の明確さ、データと先行研究の参照、独自性・社会的意義 実践力として論理的構成、文章の体裁、表現の推敲、研究の完遂 思恕として適切な内容

研究過程の評価	:	取り組む姿勢として意思疎通、自発的行動、協調性（グループ研究のみ）忠恕の心を持ったコメント
40 %		
試験（研究発表の評価）	:	専門性として内容の妥当性・オリジナリティ、データ・先行研究の参照 実践力として論理的構成、資料の活用、発表技術、発表時間
10 %		

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

論文を完成させるために先行研究、引用参考文献など合わせて10本以上を自ら用意する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜２限

場所： 研究室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**専門演習5のガイダンス、研究倫理教育** 専門演習5の計画と諸注意を伝える。また、前期の活動を踏まえて、卒業研究の取り組みに向け、先行研究や優秀論文を紹介する。また、論文作成にあたって必要な研究倫理教育も行う。	研究テーマを絞り込む	4時間
第2回	**研究テーマの絞り込み** 研究テーマの妥当性、必要性、研究の目的について検討する。	研究テーマについて資料を収集する	4時間
第3回	**研究テーマの決定** 研究をテーマ決定する	研究テーマに関する資料収集を行う	4時間
第4回	**先行研究・参考文献の収集** 先行研究・参考文献の収集を進め、研究目的の明確化を図る。	先行研究・参考文献の収集を進め、研究目的の明確化を図る	4時間
第5回	**先行研究・参考文献のさらなる収集** 先行研究・参考文献のさらなる収集を進め、研究目的を固める。	先行研究・参考文献のさらなる収集を進め、研究目的を固める	4時間
第6回	**仮説の検討** 仮説について検討する。	仮説について検討する	4時間
第7回	**論文構成の検討** 論文の構成について検討を進める。	論文の構成について検討を進める	4時間
第8回	**研究テーマに関する調査資料の作成** 研究テーマに関する調査資料を作成する。	研究テーマに関する調査資料を完成させる	4時間
第9回	**研究テーマに関する予備調査の検討** 調査方法、調査対象、その妥当性について検討する。	調査方法、調査対象、その妥当性について検討する	4時間
第10回	**卒業研究プロポーザル発表会の準備** 卒業研究プロポーザル発表会の準備として発表資料の作成を行う。	卒業研究プロポーザル発表の準備を行う	4時間
第11回	**卒業研究プロポーザル発表会の発表資料完成** 卒業研究プロポーザル発表会の発表資料を精査し、適宜修正を加える。	卒業研究プロポーザル発表の準備を行う	4時間
第12回	**卒業研究プロポーザル発表会の実施** 卒業研究プロポーザル発表会を行う。	発表会での振り返りを行い、適宜修正を加えていく	4時間
第13回	**研究テーマに関する予備調査の実施** 研究テーマに関する予備調査を実施する。	研究テーマに関する予備調査を実施する	4時間
第14回	**研究テーマに関する本調査の検討** 調査方法、調査対象、その妥当性について検討する。	調査方法、調査対象、その妥当性について検討する	4時間

234

授業科目名	専門演習５【スポーツ】				
担当教員名	菅文彦・羽藤文彦				
学年・コース等	4年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

スポーツマネジメントに関する諸問題について学術的な知見を持ちながら、各自の研究テーマを掲げて、研究計画、研究成果の作成および発表を行う。研究テーマの選定においては、研究の個人的意義・学術的意義・社会的意義から検討する。
研究を進めていく上で、リサーチ・クエスションと仮説をの明確化に努め、次に、妥当な研究方法を選定し、その手法を体得する。研究方法は文献調査のみとせず、質問紙調査やヒアリング調査などの実施を旨とし、オリジナルデータの収集とその分析を主眼とする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.スポーツ産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	幅広い知識と教養	スポーツマネジメントの幅広い教養と知識の習得
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	専門知識と理解	スポーツマネジメントの専門知識とスキルの習得
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		研究の課題発見
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		研究課題の計画の立案を行う
3. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		発表などの実践力を身に付ける

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
試験：論文・企画書の評価	50 %	： 専門性としてテーマの妥当性、内容の妥当性・論点の明確さ、データと先行研究の参照、独自性・社会的意義 実践力として論理的構成、文章の体裁、表現の推敲、研究の完遂 忠恕として適切な内容
研究過程の評価	40 %	： 取り組む姿勢として意思疎通、自発的行動、協調性（グループ研究のみ）忠恕の心を持ったコメント
試験：研究発表の評価		： 専門性として内容の妥当性・オリジナリティ、データ・先行研究の参照

実践力として論理的構成、資料の活用、発表技術、発表時間
協調性、質疑応答
忠恕として適切な内容

10　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

論文を完成させるために先行研究、引用参考文献など合わせて10本以上を自ら用意する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるが、卒業論文制作のため90時間以上の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜日2限

場所：　担当教員の研究室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンスおよび研究倫理に関する講義** ガイダンスおよび研究倫理に関する講義を行う。	研究倫理に関する予習復習を行う。	6時間
第2回	**研究テーマの選定** 各自が3年次に作成した研究計画のレビューを行い、研究の目的を明確にする。	先行研究・参考文献等の資料収集・通読	6時間
第3回	**研究テーマ検討会** テーマの妥当性や意義について教員、ゼミ生と討議を行う。必要な文献や先行研究を整理する。	先行研究・参考文献等の資料収集・通読	6時間
第4回	**研究方法の確認** 各自のテーマ、研究目的をもとに、必要とされる研究方法を明らかにする。	先行研究等における研究方法を整理する。	6時間
第5回	**調査計画** 質問紙調査、ヒアリング調査など各自が行う研究方法に則り、具体的な調査計画を作成し、順次実行する。	発表会に向けた準備	6時間
第6回	**調査の実施１：データ整理** 調査を実施し、その結果の整理を行う。	結果を図表等にまとめる	6時間
第7回	**中間発表会準備** 発表会の内容の検討および資料作成を行う。	発表会のプレゼンやPPの見直し	6時間
第8回	**中間発表会** 審査教員のアドバイス、他学生の発表を参考にする	発表会でのコメントをふまえて研究内容の改善を行う。	6時間
第9回	**調査の実施２：データ分析** 調査結果をもとに定性・定量的手法による分析を行う。	結果を図表等にまとめる	6時間
第10回	**調査の実施３：追加調査や再調査の検討** 結果を照らし合わせ、追加調査や再調査の必要性を検討する。	調査設計の検討を行う。	6時間
第11回	**調査の実施４：調査設計の再立案の検討** 追加調査や再調査の必要性の検討をふまえ、必要に応じて調査設計を再立案して実施する。	結果を図表等にまとめる	6時間
第12回	**研究プロポーザル発表** 卒業研究のプロポーザル発表を行い、研究目的・仮説との整合性を検討する。	発表に対する指摘コメントをふまえて研究目的や調査方法を精査する。	6時間
第13回	**調査結果レビュー1：ゼミ内レビュー** 各自の調査結果をゼミ内でレビューする。	調査結果から何が言えるか、何が明らかになったか事前に自身で確認する。	6時間
第14回	**調査結果レビュー2：フィードバックによる改善** ゼミ内レビューで得たフィードバックをもとに、論文全体の構成や内容の改善につなげる。	調査結果から何が言えるか、何が明らかになったか事前に自身で確認する。	6時間

234

授業科目名	専門演習５【スポーツ】				
担当教員名	藤森梓				
学年・コース等	4年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

４回生の専門演習では、本格的な卒業研究の遂行と、その成果を卒業論文としてまとめる作業が中心となります。みなさんは３回生の専門演習を通して、自分自身の卒業研究のテーマを絞り込み、研究計画を作成していると思います。４回生の前期は、その研究計画に従って各自で研究を進めていきます。専門演習５では、各自の研究の進み具合の確認および指導教員からの助言を中心として組み立てられます。なお、研究成果は、中間発表の場で報告することになります。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.スポーツ産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	自身の研究分野に関連した幅広い教養と知識の習得する。	卒業研究のバックグラウンドの知識として役立てる。
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	研究を遂行する技術・能力の習得する。	卒業研究を自分自身で進めることができるようになる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		研究の課題発見する力を身に付ける。
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		研究課題の計画の立案を行う力を身に付ける。
3. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		研究発表などの実践力を身に涵養する。
4. DP７.実践の完遂		卒業研究に取り組むことにより、自分自身で課題を実践、完遂する力を身に付ける。
5. DP８.他者とのコミュニケーション		指導教員と適切なコミュニケーションを取りながら、卒業研究を作成する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
期末レポート（研究プロポーサル）の評価 50 %	： 専門性としてテーマの妥当性、内容の妥当性・論点の明確さ、データと先行研究の参照、独自性・社会的意義 実践力として論理的構成、文章の体裁、表現の推敲、研究の完遂 思恕として適切な内容

研究過程の評価 : 取り組む姿勢として意思疎通、自発的行動、協調性（グループ研究のみ）忠恕の心を持ったコメント

40 %

研究発表（中間発表会）の評価 : 専門性として内容の妥当性・オリジナリティ、データ・先行研究の参照
実践力として論理的構成、資料の活用、発表技術、発表時間
協調性、質疑応答
忠恕として適切な内容

10 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

論文を完成させるために先行研究、引用参考文献など合わせて10本以上を自ら用意する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
卒業研究では、学生自身の自主的な研究遂行が求められています。従って、授業時間にとらわれず、積極的に担当教員とのコンタクトを取り続けてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日3限

場所： 研究室（西館4階）

備考・注意事項： オフィスアワー以外の時間でも、必要に応じて研究相談を行います。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**専門演習5のガイダンスおよび研究倫理に関する講義** 専門演習5の計画と諸注意を伝えると共に、卒業研究の進め方について概説します。また、卒業研究を進める上での研究倫理について、本学の定めるガイドラインに従って解説します。	１年間の具体的な研究計画を立てる	4時間
第2回	**研究テーマの決定** 3回生時に各自が提示した研究領域について掘り下げ、具体的な研究テーマを決定します。	自身の研究分野・テーマに関する文献・資料等を読む	4時間
第3回	**先行研究・参考文献の収集** テーマ決定後、関連の先行研究や参考文献についての検索を行います。	先行研究・参考文献のリストを作成する	4時間
第4回	**論文構想の作成** 各自の卒業論文の大まかな構成について考えます。	各自の卒業論文の全体構成を完成させる	4時間
第5回	**先行研究・参考文献のまとめ** 先行研究の内容をまとめ、自分自身の論文の位置付けを検討します。	先行研究・参考文献の内容をまとめる	4時間
第6回	**仮説・問題の設定** 卒業研究でどのような仮説や問題を設定するのかを検討します。	自分自身の研究領域でどのような分析が可能なのかを考える	4時間
第7回	**研究テーマに関する調査の検討および資料の作成** 研究テーマに関する調査方法について検討し、実際に調査を実施するための資料を完成させます。	自身の調査に必要な知識・ノウハウを身につける	4時間
第8回	**研究テーマに関する予備調査の実施** 各自の研究に関する予備調査を実施します。	予備調査に関する計画を策定する	4時間
第9回	**研究テーマに関する予備調査の回収・集計および仮説の検討** 各自の研究に関する予備調査の結果をもとに仮説を立てます。	予備調査の結果をまとめ、考察する	4時間
第10回	**研究テーマに関する本調査の検討** 調査方法、調査対象、その妥当性について検討します。	本調査に必要な知識・ノウハウを身につける	4時間
第11回	**中間発表会の準備** 中間発表会の資料を作成します。	各自で研究計画書を作成し、それに基づいて中間発表会の資料を作成する	4時間
第12回	**卒業研究前期中間発表会** 卒業研究前期中間発表会を行います。	卒業研究前期中間発表の準備を行う	4時間
第13回	**卒業研究前期中間発表会の振り返り** ゼミ内において発表会での振り返りを行い、適宜修正を加えていきます。	中間発表会の振り返りを行い、問題点や修正点等についてまとめる	4時間

第14回	**前期の振り返り** 前期の研究進捗状況を振り返り、自身の研究計画について見直しを行います。	前期の研究の進捗状況を踏まえて、夏休み・後期の研究計画を策定する	4時間

234

授業科目名	**専門演習５【スポーツ】**				
担当教員名	古川拓也				
学年・コース等	4年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

スポーツマネジメントに関する諸問題について学術的な知見を持ちながら、各自の研究テーマへのアプローチ法を整理し、研究計画の作成およびプレゼンテーションを行う。また、研究を進めていく上で関連研究の調査、アイデアの出し方について学び、各自の研究へ実践する。また、古川研究室では、スポーツ政策に関連した研究課題について、各自の関心や問題意識より、卒業論文及び企画書の作成にむけて演習をすめる。最終的に、卒業論文のみならず、批判的思考や論理的思考、議論する能力、質疑応答の能力が高まることを目指す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.スポーツ産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	幅広い教養と知識の習得	スポーツ政策に関する幅広い知識と教養を習得する
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	専門知識とスキルの習得	専門知識とスキルを習得する
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		研究の課題発見
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		研究課題の計画の立案を行う
3. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		発表などの実践力を身に付ける

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
論文・企画書の評価	45 %	： 専門性としてテーマの妥当性、内容の妥当性・論点の明確さ、データと先行研究の参照、独自性・社会的意義 実践力として論理的構成、文章の体裁、表現の推敲、研究の完遂 忠恕として不適切な内容
研究過程の評価	35 %	： 取り組む姿勢として意思疎通、自発的行動、協調性（グループ研究のみ）忠恕の心を持ったコメント

研究発表の評価	:	専門性として内容の妥当性・オリジナリティ、データ・先行研究の参照 実践力として論理的構成、資料の活用、発表技術、発表時間 協調性、質疑応答 忠恕として不適切な内容
10 %		
期末レポート	:	独自のルーブリックに基づき評価します。
10 %		

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

卒論を完成させるために先行研究、引用参考文献など合わせて10本以上を自ら用意する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　火曜日１・２限（9：00～12：00）

場所：　研究室　西館2階

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンスおよび研究倫理に関する講義** 専門演習5の計画と諸注意を伝える。また、前期の活動を踏まえて、卒業研究の取り組みに向け、先行研究や優秀論文を紹介する。	研究テーマの決定、先行研究・参考文献の収集、論文構想の作成	4時間
第2回	**研究テーマの決定** テーマ決定後、テーマの妥当性、必要性、研究の目的について検討する。	研究テーマの決定、先行研究・参考文献の収集、論文構想の作成	4時間
第3回	**研究テーマの先行研究・参考文献の収集** 先行研究について検討する。	研究テーマの決定、先行研究・参考文献の収集、論文構想の作成	4時間
第4回	**研究の論文構想の作成** 研究の論文構想を作成する	研究テーマの決定、先行研究・参考文献の収集、論文構想の作成	4時間
第5回	**抄録の作成** 発表会に向け、各自の研究について抄録を作成する。	発表会に向け、各自の研究について抄録を作成する。	4時間
第6回	**卒業研究前期中間発表会（前半）** 卒業研究前期中間発表会を行う	卒業研究前期中間発表の準備を行う	4時間
第7回	**卒業研究前期中間発表会（後半）** 卒業研究前期中間発表会を行う	卒業研究前期中間発表の準備を行う	4時間
第8回	**春の中間発表会** ゼミ内において発表会での振り返りを行い、適宜修正を加えていく。	ゼミ内において発表会での振り返りを行い、適宜修正を加えていく。	4時間
第9回	**研究テーマに関する予備調査の検討** 調査方法、調査対象、その妥当性について検討する。	調査方法、調査対象、その妥当性について検討する。	4時間
第10回	**研究テーマに関する調査資料の作成** 調査を実施するための資料を完成させる。	調査を実施するための資料を完成させる。	4時間
第11回	**研究テーマに関する予備調査の実施** 各自の研究に関する予備調査を実施する。	各自の研究に関する予備調査を実施する。	4時間
第12回	**研究テーマに関する予備調査の回収・集計および仮説の検討** 各自の研究に関する予備調査の結果をもとに仮説を立てる。	各自の研究に関する予備調査の結果をもとに仮説を立てる。	4時間
第13回	**研究テーマに関する本調査の検討** 調査方法、調査対象、その妥当性について検討する。	調査方法、調査対象、その妥当性について検討する。	4時間
	調査方法、調査対象、その妥当性について検討する。		

234

授業科目名	**専門演習５【スポーツ】**				
担当教員名	坂中勇亮				
学年・コース等	4年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	スポーツ協会に勤務し、スポーツ行政に従事（全１４回）				

授業概要

スポーツビジネスに関する諸問題について学術的な知見を持ちながら、各自の研究テーマへのアプローチ法を整理し、研究計画の作成およびプレゼンテーションを行います。また、研究を進めていく上で先行研究の収集・分析、研究の手法について学び、各自の研究テーマに沿って実践していきます。特に、担当教員の専門領域であるスポーツ行政を中心とした課題について、各自の関心や問題意識より、卒業論文及び企画書の作成にむけて演習を進めます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	卒業論文を作成するための技術・能力の習得	研究を遂行する能力
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		研究課題の発見
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		研究課題の計画の立案を行う
3. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		発表などの実践力を身に付ける

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
論文・企画書の評価	50 %	： 専門性としてテーマの妥当性、内容の妥当性・論点の明確さ、データと先行研究の参照、独自性・社会的意義 実践力として論理的構成、文章の体裁、表現の推敲、研究の完遂 忠恕として不適切な内容
研究過程の評価	40 %	： 取り組む姿勢として意思疎通、自発的行動、協調性（グループ研究のみ）忠恕の心を持ったコメント
試験（研究発表の評価）		： 専門性として内容の妥当性・オリジナリティ、データ・先行研究の参照 実践力として論理的構成、資料の活用、発表技術、発表時間 忠恕として不適切な内容

10　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

卒論を完成させるために先行研究、引用参考文献などを自ら準備する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日　13：00－15：00

場所： 研究室

備考・注意事項： 本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス及び研究倫理について** 専門演習５の授業計画と研究倫理について伝えると共に、卒業研究の進め方を概説する。	研究テーマの決定、先行研究・参考文献の収集、論文構想の作成	4時間
第2回	**研究テーマの決定** テーマ決定後、テーマの妥当性、必要性、研究の目的について検討する。	研究テーマの決定、先行研究・参考文献の収集、論文構想の作成	4時間
第3回	**先行研究・参考文献の収集** テーマ決定後、テーマの妥当性、必要性、研究の目的について検討する。	研究テーマの決定、先行研究・参考文献の収集、論文構想の作成	4時間
第4回	**論文構成の作成** テーマ決定後、テーマの妥当性、必要性、研究の目的について検討する。	研究テーマの決定、先行研究・参考文献の収集、論文構想の作成	4時間
第5回	**抄録の作成** 発表会に向け、各自の研究について抄録を作成する。	発表会用の抄録を作成する	4時間
第6回	**ゼミ内発表会の実施** 全体での中間発表会に向けてゼミ内で発表会を開催	ゼミ内発表会で指摘された事項を修正する	4時間
第7回	**中間発表会用資料の作成** ゼミ内発表会で指摘された事項を修正して中間発表会用の資料を完成させる	中間発表会用の資料を仕上げる	4時間
第8回	**卒業研究前期中間発表会** 卒業研究前期中間発表会を行う	発表会での振り返りを行い、適宜修正を加えていく。	4時間
第9回	**研究テーマに関する予備調査の検討** 調査方法、調査対象、その妥当性について検討する。	調査方法、調査対象、その妥当性について検討する。	4時間
第10回	**研究テーマに関する調査資料の作成** 調査を実施するための資料を完成させる。	調査を実施するための資料を完成させる。	4時間
第11回	**研究テーマに関する予備調査の実施** 各自の研究に関する予備調査を実施する。	各自の研究に関する予備調査を実施する。	4時間
第12回	**研究テーマに関する予備調査の回収・集計および仮説の検討** 各自の研究に関する予備調査の結果をもとに仮説を立てる。	各自の研究に関する予備調査の結果をもとに仮説を立てる。	4時間
第13回	**研究テーマに関する本調査の検討（１）調査概要の決定** 調査方法、調査対象、その妥当性について検討する。	調査方法、調査対象、その妥当性について検討する。	4時間
第14回	**研究テーマに関する本調査の検討（２）調査日の決定** 本調査の実施日など具体的な調査予定について検討する	具体的な調査日時等を調査対象者と調整する	4時間

234

授業科目名	専門演習５【スポーツ】				
担当教員名	田村匡				
学年・コース等	4年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	スポーツイベントやスポーツ施設、スポーツマネジメントに係る組織、資金、運営方法等について業務として取り組んできた。（全１４回）				

授業概要

スポーツビジネスに関する諸問題について学術的な知見を持ちながら、各自の研究テーマへのアプローチ法を整理し、研究計画の作成およびプレゼンテーションを行います。また、研究を進めていく上で関連研究の調査、アイデアの出し方について学び、各自の研究へ実践していきます。また、田村研究室では、スポーツイベントやスポーツ施設、スポーツ組織等を中心とした課題について、各自の関心や問題意識より、卒業論文及び企画書の作成にむけて演習をすすめます。各自が主体的に情報収集、事例研究、アンケート調査などを行います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	具体的なスポーツビジネスに関する解決策を自分で立案することができる	専門知識と理解
2. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	スポーツビジネスの環境の変化に適応し、解決方策を立案する	具体的なスポーツビジネスに関する解決策を自分で立案することができる
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		研究の課題発見
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		研究課題の計画の立案を行う
3. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		発表などの実践力を身に付ける

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
論文・企画書の評価	40 ％	： 専門性としてテーマの妥当性、内容の妥当性・論点の明確さ、データと先行研究の参照、独自性・社会的意義 実践力として論理的構成、文章の体裁、表現の推敲、研究の完遂 忠恕として適切な内容
研究過程の評価	40 ％	： 取り組む姿勢として意思疎通、自発的行動、協調性（グループ研究のみ）忠恕の心を持ったコメント

研究発表の評価 : 専門性として内容の妥当性・オリジナリティ、データ・先行研究の参照 実践力として論理的構成、資料の活用、発表技術、発表時間 協調性、質疑応答 忠恕として適切な内容

10 %

期末レポート : 授業終了後のレポート

10 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

卒論を完成させるために先行研究、引用参考文献など合わせて10本以上を自ら用意する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日2限目

場所： 個人研究室

備考・注意事項： それ以外の時間でも研究室在室時であれば気軽に訪問してください。
Ｅメールでの問い合わせにも応じます。（氏名、学籍番号を明記のこと）

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンスおよび研究倫理に関する講義** 専門演習5の計画と諸注意を伝える。また、前期の活動を踏まえて、卒業研究の取り組みに向け、先行研究や優秀論文を紹介する。 また、研究倫理教育を実施する。	研究テーマの決定、先行研究・参考文献の収集、論文構想の作成	4時間
第2回	**研究テーマの仮決定、先行研究・参考文献の収集** テーマを仮決定し、テーマの妥当性、必要性、研究の目的等について検討する。さらに先行研究や参考文献を調査する。	研究テーマの決定、先行研究・参考文献の収集、論文構想の作成	4時間
第3回	**先行研究・参考文献の収集とさらなる資料の収集、論文全体構想の作成** 先行研究や参考文献を調査する中でさらに先行研究・参考文献等の資料を収集し、論文全体構想を作成する。	研究テーマの決定、先行研究・参考文献の収集、論文構想の作成	4時間
第4回	**論文の構成の検討と詳細内容の作成** 論文全構想から構成を検討し、詳細内容の作成を始める。場合によりアンケート調査等の項目の詳細を検討、決定していく。	研究テーマの決定、先行研究・参考文献の収集、論文構想の作成	4時間
第5回	**抄録の作成** 発表会に向け、各自の研究について抄録を作成する。	発表会に向け、各自の研究について抄録を作成する。	4時間
第6回	**卒業研究前期中間発表会の準備（資料の作成）** 卒業研究前期中間発表会へ向けた準備を行う。これまでの調査資料をまとめ、発表資料を作成する。	卒業研究前期中間発表に向けた資料作成、準備を行う。	4時間
第7回	**卒業研究前期中間発表会の準備（プレゼンテーションの練習）** 卒業研究前期中間発表会へ向けてプレゼンテーションの練習を行う。ゼミ内で相互に批判し、修正していく。	卒業研究前期中間発表に向けた資料作成、準備を行う	4時間
第8回	**卒業研究前期中間発表会実施** 卒業研究前期中間発表会の実施	卒業研究前期中間発表会でのプレゼンテーションの準備を行う	4時間
第9回	**研究テーマに関する予備調査の検討** 調査方法、調査対象、その妥当性について検討する。	調査方法、調査対象、その妥当性について検討する。	4時間
第10回	**研究テーマに関する調査資料の作成** 調査を実施するための資料を完成させる。	調査を実施するための資料を完成させる。	4時間
第11回	**研究テーマに関する予備調査の実施** 各自の研究に関する予備調査を実施する。	各自の研究に関する予備調査を実施する。	4時間
第12回	**研究テーマに関する予備調査の回収・集計および仮説の検討** 各自の研究に関する予備調査の結果をもとに仮説を立てる。	各自の研究に関する予備調査の結果をもとに仮説を立てる。	4時間
第13回	**研究テーマに関する本調査の検討**	調査方法、調査対象、その妥当性について検討する。	4時間

	仮設を検証するための調査方法、調査対象、その妥当性について検討する。		
第14回	**研究テーマに関する本調査の実施** 本調査の実施。適宜調査範囲を広げたり、調査内容案を修正したりしながら本調査に臨む。 また本調査の結果を元に仮説との関係を考察する。	調査方法、調査対象、その妥当性について検討する。	4時間

234

授業科目名	**専門演習５【スポーツ】**				
担当教員名	林悠太				
学年・コース等	4年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

スポーツマネジメントに関する諸問題について、学術的な知見を持ちながら、各自の研究テーマへのアプローチ法を整理し、研究計画の作成とプレゼンテーションを行います。また、研究を進めていく過程で、先行研究を概観し、リサーチギャップを明確化することを重要視します。これによってオリジナリティのある研究を目指します。そのうえで、調査手法の選定、データの取得および分析を行います。
必要に応じてオンラインによる指導も併行する予定です。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.スポーツ産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	文献、先行研究を通して、基礎知識を習得する。	幅広い教養やスキルを身につける。
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	専門的知識、研究手法を学ぶ。	専門的知識を獲得する。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		自ら研究課題を発見する。
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		自ら研究計画を立案する。
3. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		計画に基づいて、実際に研究を進める。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
論文・企画の評価	50 %	： テーマ選定が研究課題に対して適切であるかどうか、データや先行研究が参照できているかどうか、論理的構成、文章の体裁を評価する。
研究過程の評価	40 %	： 研究に取り組む姿勢、自主性、グループでの活動においては協調性を評価する。

研究発表の評価　　：　自身の研究について、論理的に、資料にもとづいて発表ができていることを評価する。

10　％

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業のなかで適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜２限

場所：　西棟2階　研究室

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**オリエンテーション：専門演習の意義と研究倫理** ゼミの目的や進め方を確認する。また研究倫理教育をおこなう。	３年ゼミ・議論の復習	4時間
第２回	**研究テーマの決定** 専門演習３・４のおいて検討してきた内容をもとに研究テーマを決定する。また、テーマの妥当性、研究目的、社会的意義について検討する。	研究テーマに関する先行研究の収集・検討	4時間
第３回	**先行研究・参考文献収集** 研究テーマ必要となる先行研究・文献を収集する。	研究テーマに関する先行研究の収集・検討	4時間
第４回	**論文構成の作成** 収集した先行研究・文献をもとに、論文の構成を作成する。	論文構成の検討・作成	4時間
第５回	**抄録の作成** 発表会に向けて、各自の研究について抄録を作成する。	抄録の検討・作成	4時間
第６回	**ゼミ内発表会の実施** 発表会に向けて、ゼミ内で発表会を実施する。	議論の復習	4時間
第７回	**中間発表会用の資料作成** ゼミ内での議論をふまえて、中間発表会用の資料を完成させる。	資料の作成	4時間
第８回	**卒業研究中間発表会** 卒業研究中間発表会をおこない、フィードバックを得る。	発表会の復習	4時間
第９回	**研究テーマに関する予備調査の検討** 調査方法、調査対象、妥当性について検討する。	調査方法、調査対象、妥当性についての検討	4時間
第１０回	**研究テーマに関する調査資料の作成** 調査を実施するための資料を完成させる。	調査資料作成	4時間
第１１回	**研究テーマに関する予備調査の実施** 研究に関する予備調査を実施する。	予備調査のまとめ	4時間
第１２回	**備調査の回収・集計、仮説の検討** 予備調査の結果をもとに、仮説を立てる。	仮説の設定	4時間
第１３回	**研究テーマに関する本調査の検討：研究方法** 調査方法の妥当性、具体的な調査項目について検討する。	資料の作成、議論の復習	4時間
第１４回	**研究テーマに関する本調査の検討：調査対象** 調査対象、実施時期、内容について検討する。 資料の作成、議論の復習、スケジュールの設定	資料の作成、議論の復習、今後の研究計画の設定	4時間

234

授業科目名	**専門演習５【スポーツ】**				
担当教員名	鳥山稔				
学年・コース等	4年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

スポーツマネジメントに関する諸問題について学術的な知見を持ちながら、各自が3年次に作成した研究計画をもとに、卒業研究の執筆を進める。また、既存の研究にはない独自のアプローチ法を考え、自身の研究アイデアを形にする。加えて、研究を進めていく上で関連研究の調査、アイデアの出し方について学び、各自の研究へ実践する。鳥山研究室では、スポーツが生み出す価値をテーマに、プロスポーツ、eスポーツ、地域スポーツに関連した課題について理解を深めます。独自の観点から問題意識を持ち、卒業研究に取り組む事で、主体性や論理的思考等を身につける事が出来ます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	スポーツの価値についての教養を身につける	スポーツについて深い知識を得る
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	卒業論文執筆を通して専門知識を習得する	卒業研究を通して深い知識を得る
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		研究の課題発見
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		研究課題の計画の立案を行う
3. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		発表などの実践力を身に付ける

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
試験（論文・企画書）	50 %	： 内容の妥当性、エビデンスの適正性と充実度、独自性・社会的意義、論理的構成、文章の体裁によって評価
研究過程の評価	40 %	： 研究計画を作成する上で十分にコミュニケーションが取れているか、自発的に研究に取り組んだかを評価
研究発表の評価		： スライド資料の見せ方、発表技術を評価

10　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

卒業研究執筆に必要な文献を適宜確認する

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　木曜日　3限

場所：　研究室　西館2階

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンスおよび研究倫理に関する講義** 卒業論文作成の前にガイダンスおよび研究倫理に関する講義を行う。	3年次に作成した研究計画書の修正、再確認	4時間
第2回	**研究テーマの決定** テーマ決定後、テーマの妥当性、必要性、研究の目的について検討する。	研究テーマの最終決定、論文の概観を構成する	4時間
第3回	**先行研究・参考文献の収集** テーマ決定後、テーマの妥当性、必要性、研究の目的について検討する。	自身の卒業研究に必要な文献を調べてくる	4時間
第4回	**論文構成の作成** テーマ決定後、テーマの妥当性、必要性、研究の目的について検討する。	自身の卒業研究に必要な文献を調べてくる	4時間
第5回	**抄録の作成・スライド作成** ゼミ内発表、学科発表に向けて資料等を作成する。	発表に向けて資料等を作成する	4時間
第6回	**中間発表会の準備・ゼミ内発表会** 中間発表に向けて準備を進める	発表を受けて自身が作成した資料を修正する	4時間
第7回	**中間発表会** 審査教員のアドバイス、他学生の発表を参考にする	発表を受けて自身が作成した資料を修正する	4時間
	審査教員のアドバイス、他学生の発表を参考にする		
第9回	**調査計画書の作成①** 調査方法、調査対象を検討し、調査計画書を作成する	調査計画の作成に必要な文献を熟読する	4時間
第10回	**調査計画書の作成②** 調査方法、調査対象を検討し、調査計画書を作成する	調査計画の作成に必要な文献を熟読する	4時間
第11回	**予備調査の実施** 調査計画書の通りに予備調査を実施する	調査計画の作成に必要な文献を熟読する	4時間
第12回	**予備調査の結果の確認、本調査の準備** 予備調査で得た調査結果を確認し、整理する。その後、本調査に向けた内容の再確認を行う。	調査計画の作成に必要な文献を熟読する	4時間
第13回	**本調査の実施** 調査計画書の通りに本調査を実施する	調査計画の作成に必要な文献を熟読する	4時間
第14回	**本調査の結果の確認** 本調査で得た調査結果を確認し、整理する	調査計画の作成に必要な文献を熟読する	4時間

234

授業科目名	専門演習６【経営】				
担当教員名	児山俊行				
学年・コース等	4年	開講期間	後期	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

卒業論文作成とそれに向けての指導を行っていきます。
①専門演習４で、収集・分析した資料群の本格的なまとめを行います。
②それと受講生の興味関心を踏まえて、論文のテーマを決定いたします。
③さらに、必要な文献・資料・調査を行っていきます。
④その過程で、問題設定から結論に至る「ストーリー」を考えていきます。
③それに沿って、不足しているエビデンスの収集・分析を行っていきます。
⑥論文構成の要素を固めていきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	自らの研究テーマにおける基本的知識・情報と現代的課題を理解する。	テーマ分野の実情・背景を理解し、基本的視角を持つことができる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		テーマ分野のビジネス事象を観察して因果関係を理解し、そこにある（発展・停滞の）課題を見出すことができる。
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		先の因果関係から研究対象を立体的に把握し（発展・停滞の）課題を見出すことができる。
3. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		見出した課題について、いかに解決すべきかを様々な事例や調査を通じて明確にしていく
4. DP７.実践の完遂		研究目的が最後の結論と首尾一貫しており、その中の論旨も明確であるように中間発表に向けて卒業研究を完成させる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
授業態度 10 %	： 授業への集中度や質疑応答などの積極性で評価する。

授業での活動の評価　：　授業での発表や議論、授業前に提出された課題などの成果で評価する。

40　%

試験（論文）　：　テーマ研究へのアプローチ策定や研究の具体的成果で評価する。

50　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

学生各自の卒業論文テーマに則して推薦・指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　火曜日２限

場所：　担当教員の研究室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**アクション成果の発表** 前期最後の中間発表とそこでの質疑応答から導き出したアクション計画に沿ったアクション成果を各自発表する。また、研究倫理教育の実施。	夏季休暇期間中のアクション成果をまとめる。	4時間
第2回	**論文序盤の下書き作成指導～研究の背景** 論文作成した序盤箇所（研究の背景）のゼミ内の質疑応答を通じた検討	研究の補足アクション、ないしは論文作成開始。	4時間
第3回	**論文序盤の下書き作成指導～先行研究のサーベイ** 論文作成した序盤箇所（先行研究のサーベイ）のゼミ内の質疑応答を通じた検討	研究の補足アクション、ないしは論文作成の継続	4時間
第4回	**論文序盤の下書き作成指導～先行研究の分析** 論文作成した序盤箇所（先行研究の分析）のゼミ内の質疑応答を通じて、論文内容の次への作成方針を検討する。	研究の補足アクション、ないしは論文作成の継続	4時間
第5回	**論文中盤の下書き作成指導～ケーススタディの整理** 論文作成した中盤箇所（ケーススタディの整理）のゼミ内の質疑応答を通じた検討。	論文作成の継続（開始）	4時間
第6回	**論文中盤の下書き作成指導～ケーススタディの分析** 論文作成した中盤箇所（ケーススタディ）の分析のゼミ内の質疑応答を通じた検討。	論文作成の継続	4時間
第7回	**論文中盤の下書き作成指導～現時点での結論** 論文作成した中盤箇所のゼミ内の質疑応答を通じて、論文内容の次への作成方針を検討する。	論文作成の継続	4時間
第8回	**中間発表の準備** 中盤まで作成した論文内容と今後の展開について要旨にまとめる。	中間発表内容の作成	4時間
第9回	**中間発表会での発表** 中間発表を行い、そこで受けた質疑や批判、提案などから今後の論文構成と内容について考える。	中間発表内容の振り返り	4時間
第10回	**論文終盤の下書き作成指導～発表会での指摘に関する対応** 中間発表会で指摘された箇所の修正も含め、ゼミ内の質疑応答を通じた論文全体の方向性の検討。	論文終盤までの構成案の作成	4時間
第11回	**論文終盤の下書き作成指導～新たな構成部の追加** 論文で新たに追加した箇所のゼミ内の質疑応答を通じた検討。	論文（終盤）の作成	4時間
第12回	**論文終盤の下書き作成指導～全体構成** 論文を追加作成したうえでの全体構成についてゼミ内の質疑応答を通じた検討。	論文終盤作成の継続	4時間
第13回	**論文全体の検討・確認** 論文全体での課題のゼミ内質疑応答を通じた指摘と修正。	論文の結論部の作成	4時間
第14回	**論文の結論の完成と序文の作成** 論文の結論について、ゼミ内質疑応答を通じた検討と、それを踏まえた序文内容を考える。	論文の結論部修正と序文の作成	4時間

234

授業科目名	専門演習６【経営】				
担当教員名	稲村昌南				
学年・コース等	4年	開講期間	後期	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本演習では、これまで学習してきた知識を基に、主に経営と情報の観点から問題提起したテーマで卒業論文にまとめ上げる作業を行います。結論を裏付けるデータや事実がそろっているか、また先行研究の紹介とそれに対するレビューに漏れがないか確認しながら進めます。主なスケジュールは講義計画の通りですが、授業時間外にも指導を行う場合があります。最終的には、卒業研究発表会において、全員が各自の卒業論文（研究）の発表を行います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	経営課題に対する企画・提案力	ビジネスの中で実際に問題となっている課題に対して適切なデータや資料を用いながら一定の提案を行うことができる。
汎用的な力		
1. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		問題解決の筋道を論理的に組み立てることができる
2. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		社会において解決すべき課題を抽出することができる
3. DP７.実践の完遂		やるべきことを最後まで自分の力でやり抜くことができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
取組みの適正性	50 %	： 「文章に論理性と簡潔性があるか」「テーマに対して収集した情報に適正性はあるか」という2つの観点から評価する。
期末試験（卒業論文）	50 %	： 「論文を組み立てるために抽出したキーワードに論理的矛盾はないか」、「テーマに対して本質的な結論が導けているか」という2つの基準から評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜、指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。なお、その他に９０時間程度の論文・企画書等の作成にかかわる学修が求められる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日3時間目

場所： 西館3階45研究室

備考・注意事項： classroom上での連絡も可能

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**卒業研究作成スケジュールの設定** 夏休みの進捗状況を踏まえ、卒業研究を作成していくための今後のスケジュールを決定します。	スケジュール通り進むよう、必要なデータや資料を追加します。	4時間
第2回	**論文構成（目次）の作成** 目的から結論に至るまでのストーリーを構成する目次を完成させます。	論文構成の見直しを行い必要に応じて修正します。	4時間
第3回	**中間発表資料の作成** 論文の目次に沿って適切なデータおよび分析結果を用いながらパワーポイントを使って中間発表資料を作成します。	論旨の裏付けとなるデータや先行研究をパワーポイント資料に追加します。	4時間
第4回	**中間発表資料の確認** 作成した発表資料について修正すべき点がないか教員からコメントを受けます。	発表に備え、教員からのコメントを基に適宜パワーポイント資料を修正します。	4時間
第5回	**中間発表会** 経営コースの2ゼミ合同でパワーポイントを使った発表を行い、副査教員及び他の教員に評価してもらうことで適切な内容になっているか確認します。	発表の時に受けた評価やコメントから足りないところは何かを明確に認識します。	4時間
第6回	**論文ストーリー（構成）の修正** 中間発表会での指摘を踏まえ、追加・修正が必要な個所について確認し、それを題目届に反映させます。	題目届に記載する概要について、中間発表での指摘を踏まえ修正します。	4時間
第7回	**論文形式の確認** 引用や図表の挿入など論文を作成するための決まりについて卒業研究ガイドラインに従って確認します。	論文の形式について確認し、本文の記載済みの部分について引用や図表の挿入の仕方を修正します。	4時間
第8回	**題目届の作成と提出** テーマと内容を確定させる「題目届」を作成し、提出します。	教員の確認を経て題目届を提出します。	4時間
第9回	**目的と内容の整合性の確認** 作成した論文の目的と内容が整合しているか確認します。	目的と内容に不整合な個所がある場合は可能な範囲で修正します。	4時間
第10回	**結論の妥当性の確認** 導かれた結論が妥当で研究目的に合致しているかを確認します。	結論の導かれ方に不備がある場合は可能な範囲で修正します。	4時間
第11回	**卒業研究の最終確認** 形式等、全体を通して論文に不備がないか確認します。	論文の形式の不備を修正して期日までに提出できるよう準備しておきます。	4時間
第12回	**卒業研究発表会資料の作成** 完成させた原稿に従い最終発表会の資料をパワーポイントを使って作成します。	作成したパワーポイント資料について論理矛盾がないか確認します。	4時間
第13回	**発表会資料の最終確認** 論旨が明確でわかりやすい資料になっているかを確認します。	スライドを入れ替えたり、追加したりするなどしてより分かりやすい資料になるよう修正して準備します。	4時間
第14回	**卒論発表会** パワーポイントを使って発表し、副査からコメントを受けるとともに質疑応答を行い、フロアの学生および教員からコメントや質問を受けます。また、優秀論文の候補となった学生については候補者のみの別枠で発表を行います。	最終発表での評価を受けて、論文の作成にどの程度向き合えたか振り返ります。	4時間

234

授業科目名	**専門演習６【経営】**				
担当教員名	山崎哲弘				
学年・コース等	4年	開講期間	後期	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

経営学、特に人的資源管理論に関する諸問題について学術的な知見をもとに、個々に設定した研究テーマに沿って調査、研究を行う。専門演習６では、専門演習５での学びを踏まえ、卒業論文の作成を通じて論理的な思考力を身に付けていく。特に後半の講義では卒業論文の完成および最終発表に向けて、各自発表を行い、研究内容の妥当性等について議論する。卒業研究発表会に向けたスケジュールは講義計画の通りであるが、必要に応じて授業時間外の指導も実施する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	これまでの様々な講義で得た知識を研究活動に適用する。	卒業論文を完成させ、卒業論文発表会で報告できる。
汎用的な力		
1. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		卒業論文の完成までのスケジュールを立てる。
2. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		自身で立てたスケジュールに基づき、自律的に研究活動ができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
平常点	10 %	： 授業中の質疑応答など授業に対する積極性など取り組み姿勢から評価する。
試験（卒業論文）	50 %	： 研究内容の専門性、妥当性、論点の明確さなど、卒業論文の完成度によって評価する。
研究発表	40 %	： 中間報告および最終報告を中心に、授業中の発表内容により評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし。
個々の研究テーマに応じて別途指定する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その会の授業内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　月曜日１限

場所：　西館２階研究室（14）

備考・注意事項：　通常開講時間外に実施します。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス：これまでの研究を振り返る** 専門演習６の計画と諸注意を伝える。 卒業研究を仕上げるポイントを伝える。	先行研究をもとに、卒業論文を作成する。	4時間
第2回	**卒業論文の作成（1）** 卒業論文の内容について、ゼミ内での質疑応答を通じて、ブラッシュアップを行う。	先行研究をもとに、卒業論文を作成する。	4時間
第3回	**卒業論文の作成（2）** 卒業論文の内容について、ゼミ内での質疑応答を通じて、ブラッシュアップを行う。	先行研究をもとに、卒業論文を作成する。	4時間
第4回	**卒業論文の作成（3）** 卒業論文の内容について、ゼミ内での質疑応答を通じて、ブラッシュアップを行う。	先行研究をもとに、卒業論文を作成する。	4時間
第5回	**卒業論文の作成（4）** 卒業論文の内容について、ゼミ内での質疑応答を通じて、ブラッシュアップを行う。	先行研究をもとに、卒業論文を作成する。	4時間
第6回	**卒業論文の作成（5）** 卒業論文の内容について、ゼミ内での質疑応答を通じて、ブラッシュアップを行う。	先行研究をもとに、卒業論文を作成する。	4時間
第7回	**卒業論文の作成（6）** 卒業論文の内容について、ゼミ内での質疑応答を通じて、ブラッシュアップを行う。	中間報告資料の作成	4時間
第8回	**中間報告** 講義前半でまとめた内容について、報告会を実施する。	中間報告で得た知見をもとに論文を修正する。	4時間
第9回	**卒業論文の作成（7）** 卒業論文の内容について、ゼミ内での質疑応答を通じて、ブラッシュアップを行う。	先行研究をもとに、卒業論文を作成する。	4時間
第10回	**卒業論文の作成（8）** 卒業論文の内容について、ゼミ内での質疑応答を通じて、ブラッシュアップを行う。	先行研究をもとに、卒業論文を作成する。	4時間
第11回	**卒業論文の作成（9）** 卒業論文の内容について、ゼミ内での質疑応答を通じて、ブラッシュアップを行う。	先行研究をもとに、卒業論文を作成する。	4時間
第12回	**卒論発表会資料の作成** 執筆した卒業論文をもとに、発表用の要旨に落とし込む	ゼミ内卒論発表会資料の作成を行う。	4時間
第13回	**ゼミ内卒論発表会（1）** 卒論発表会に備え、ゼミ内での発表を通じて、研究内容の論点の整理を行う。	各自の論文の研究内容の妥当性等について、再度確認を行う。	4時間
第14回	**ゼミ内卒論発表会（2）** 卒論発表会に備え、ゼミ内での発表を通じて、研究内容の論点の整理を行う。	各自の論文の研究内容の妥当性等について、再度確認を行う。	4時間
第15回	**ゼミ内卒論発表会（3）** 卒論発表会に備え、ゼミ内での発表を通じて、研究内容の論点の整理を行う。	各自の論文の研究内容の妥当性等について、再度確認を行う。	4時間

234

授業科目名	専門演習６【経営】				
担当教員名	中井秀樹				
学年・コース等	4年	開講期間	後期	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

大学での研究活動の集大成として、卒業研究を行い、卒業論文または卒業作品の作成を行う。１年間を通じて、自分の選定したテーマに沿った調べ学習と中間報告を行い、アドバイスを受けて調査を実施する。また、他者の発表についても学習の一環として、きちんと内容の理解に努め、可能な範囲でアドバイスをするなど、切磋琢磨し自己の成長を促すとともに、互いのさらなる成長を目指す。
なお、授業以外で卒業研究を卒業研究中間発表及び卒業研究発表会で発表する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	これまでの講義で得た知識を研究活動への適用する。	卒業研究の完了及び卒業論文発表会の実施

汎用的な力	
1. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み	スケジュールに従って、自発的・自律的に行動し、研究活動を行う
2. DP７.実践の完遂	期日までの各種課題の提出及び発表などの実践活動をやり遂げる
3. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用	各自のテーマにおける情報の収集を行い、課題となる点を発見する
4. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案	各自のテーマにおいて、課題に対する適切な解決法や対処法を模索する

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への参加・貢献度	40 %	： 授業中の発言や発表時の積極的態度 他者の発表時のコメント
試験（卒業論文）	60 %	： 卒業論文・卒業研究の内容と発表資料の作成及び発表のパフォーマンスにより評価

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

参考文献等:なし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。なお、その他に約90時間程度の論文・企画書等の作成にかかわる学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜4限

場所： 西館3階研究室

備考・注意事項： 卒論提出まで気を抜かずにしっかり頑張りましょう

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**中間発表に向けた準備** 各自で進めている研究テーマに関して、夏季休業期間中の研究活動成果も含めてコースで実施する中間発表を行うための準備を行う。 必要であれば、発表の事前演習を行う。	個別テーマ研究、中間発表資料作成	4時間
第2回	**中間発表のふりかえりと課題抽出** コースで実施する中間発表でのアドバイスを踏まえて、研究における課題を整理し、その解決のための方法についての検討を行う。	個別テーマ研究、課題抽出と資料の修正	4時間
第3回	**卒論テーマ研究活動** 中間発表を経て、軌道修正した研究計画に従って、研究を進めていく。	個別テーマ研究	4時間
第4回	**卒論テーマ授業内発表(1回目)　グループ1** 各自のテーマに沿って、進捗状況の報告を交代で行う。 他者の発表時には、コメントなどをする。 お互いに、発表の聴講・評価をすることで、切磋琢磨する。	個別テーマ研究、発表講評と改善案の検討	4時間
第5回	**卒論テーマ授業内発表(1回目)　グループ2** 各自のテーマに沿って、進捗状況の報告を交代で行う。 他者の発表時には、コメントなどをする。 お互いに、発表の聴講・評価をすることで、切磋琢磨する。	個別テーマ研究、発表講評と改善案の検討	4時間
第6回	**卒論テーマ授業内発表(1回目)　グループ3** 各自のテーマに沿って、進捗状況の報告を交代で行う。 他者の発表時には、コメントなどをする。 お互いに、発表の聴講・評価をすることで、切磋琢磨する。	個別テーマ研究、発表講評と改善案の検討	4時間
第7回	**授業内発表のふりかえり** 授業内発表を経て、新たに提示された課題や問題点について、指導教員や副差教員と相談の上で、最終的な研究の結論にむけて道筋を描き、研究の完遂を目指す。 また、卒業論文の初稿提出に向けた準備を進める。	個別テーマ研究、課題抽出と資料の修正	4時間
第8回	**卒業研究授業内発表準備** 研究論文が結論まできちんと記述されている状態で初稿提出のための準備を行い、指導教員の指導を受ける。 各自のテーマに沿って、進捗状況の報告を交代で行う準備を進める。	個別テーマ研究	4時間
第9回	**初稿提出・卒論テーマ発表に向けな授業内発表　グループ1** 研究論文が結論まできちんと記述されている状態で初稿提出を行い、指導教員の指導を受ける。 各自のテーマに沿って、進捗状況の報告を交代で行う。 他者の発表時には、コメントなどをする。 お互いに、発表の聴講・評価をすることで、切磋琢磨する。	個別テーマ研究、発表講評と改善案の検討	4時間
第10回	**卒論テーマ発表に向けな授業内発表　グループ２、初稿添削返却** 各自のテーマに沿って、進捗状況の報告を交代で行う。 他者の発表時には、コメントなどをする。 お互いに、発表の聴講・評価をすることで、切磋琢磨する。 研究題目の確定と題目届の作成。 初稿添削を返却し、指摘事項についての確認を行い、修正稿作成のための準備を行う。	個別テーマ研究、発表講評と改善案の検討	4時間
第11回	**卒論テーマ発表に向けな授業内発表　グループ３** 各自のテーマに沿って、進捗状況の報告を交代で行う。 他者の発表時には、コメントなどをする。 お互いに、発表の聴講・評価をすることで、切磋琢磨する。 初稿添削を受けて原稿の修正を進める。	個別テーマ研究、発表講評と改善案の検討	4時間
第12回	**最終報告準備、概要原稿の作成** コースで実施する卒論発表会のための発表準備を行う。 また、概要原稿を作成する。	個別テーマ研究、発表事前練習	4時間
第13回	**最終報告準備、授業内発表** コースで実施する卒論発表会のための発表準備を行い、発表練習・予行演習を行う。 発表時間の調整やスライド構成などの微調整を行う。	個別テーマ研究、発表講評と改善案の検討	4時間
第14回	**卒論テーマ学修および最終報告**	個別テーマ研究ふりかえり	4時間

卒論の最終稿の提出、卒業研究概要の作成		

234

授業科目名	専門演習６【経営】				
担当教員名	李美花				
学年・コース等	4年生	開講期間	後期	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本演習は、経営学に関する知識をより深め、それぞれの研究テーマに沿って内容の調査および研究を行い、卒業論文の作成を行っていくことを目的とする。専門演習5において決定した論文構成に基づいて、文献・資料の収集および財務・非財務データの分析を行い、それらを用いて論文を完成させていく。また、講義内で研究発表を行うことによって、その内容についての確認を行い、論文の論理性や独自性などについて検討し、内容の改善を行いながら進めていく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	各自の研究テーマにおける知識を用いて論文を作成する。	研究テーマの内容を理解し、それを論理的に記述することができる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		研究テーマに関する情報を文献・資料から収集し、そこから課題を抽出することができる。
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		研究テーマにおける課題に対して、論理的思考を持って、様々な視点から解決策を提案し、論理的に記述することができる。
3. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		卒業論文完成に向けてスケジュールを立て、それに基づき主体的に論文を作成することができる。
4. DP７.実践の完遂		論文完成に向けてすべきことを最後まで丁寧にやり抜くことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
平常点	20 %	： 授業における質疑応答など、授業への積極的な姿勢から評価する。
研究発表	40 %	： 授業におけるプレゼンテーションの内容およびプレゼンテーション力を評価する。
試験（卒業論文）	40 %	： 研究内容における論理性や独自性など、卒業論文の完成度により評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜、指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

★本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、毎回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
★必ず、毎回の授業の出席状況を各自確認すること
★授業のお知らせや課題などは、グーグルクラスルームを活用する。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜4限

場所： 個人研究室（西館2F）

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーションおよび研究計画の作成** 卒業論文の完成に向けて、これまでの研究進捗状況を踏まえて、今後のスケジュールを決定する。	計画したスケジュールに基づいて、研究テーマに関連する文献・資料を収集する。	4時間
第2回	**卒業論文の作成（1）研究の目的** これまでに作成した卒業論文の構成に基づいて、構成内容の基礎となる部分（研究の目的、背景など）について論文を作成する。	研究テーマに関連する文献・資料に基づいて、論文を作成する。	4時間
第3回	**卒業論文の作成（2）研究の背景** これまでに作成した卒業論文の構成に基づいて、構成内容の基礎となる部分（研究の目的、背景など）について論文を作成する。	研究テーマに関連する文献・資料に基づいて、論文を作成する。	4時間
第4回	**卒業論文の作成（3）先行研究レビューなど** 各自の研究テーマに沿って、研究の目的から結論を導き出すために必要な内容（これまでの先行研究の内容、研究テーマに関連するより具体的な内容など）を記述する。	研究テーマに関連する文献・資料に基づいて、論文を作成する。	4時間
第5回	**卒業論文の作成（4）財務・非財務情報の分析方法の検討** 各自の研究テーマに沿って、研究の目的から結論を導き出すために必要な財務または非財務情報の分析方法について検討し、論文に記述する。	研究テーマに関連する文献・資料に基づいて、論文を作成する。	4時間
第6回	**卒業論文の作成（5）財務・非財務情報を用いた分析** 研究テーマに応じて、企業の財務または非財務情報を用いて分析・検討を行う。	研究テーマに関連する文献・資料に基づいて、論文を作成する。	4時間
第7回	**中間発表** 各自の研究テーマに基づいて、これまで調査・研究を行ってきたことを発表する。	発表後のコメントを検討し、研究の内容に反映する。	4時間
第8回	**卒業論文の作成（6）分析結果の検討** 企業の財務または非財務情報の分析結果に基づいて、その内容を論文に記述する。	研究テーマに関連する文献・資料に基づいて、論文を作成する。	4時間
第9回	**卒業論文の作成（7）結論の記述** 卒業論文の内容を振り返り、結論を記述する。その際に、研究の目的と結論に整合性があるかを確認する。	研究テーマに関連する文献・資料に基づいて、論文を作成する。	4時間
第10回	**卒業論文の作成（8）最終確認** 完成した卒業論文の形式および内容について再度検討し、不備等がないかを確認する。	研究テーマに関連する文献・資料に基づいて、論文を作成する。	4時間
第11回	**卒業論文発表に向けた資料作成** 各自のテーマに基づいた卒業論文の内容について発表を行うために、資料を作成する。	卒業論文発表に向けた資料を完成させる。	4時間
第12回	**卒業論文の発表（1）グループ１** 各自のテーマに基づいて、卒業論文の内容についての発表を行う。	発表後のコメントなどを検討し、研究の内容に反映する。	4時間
第13回	**卒業論文の発表（2）グループ２** 各自のテーマに基づいて、卒業論文の内容についての発表を行う。	発表後のコメントなどを検討し、研究の内容に反映する。	4時間
第14回	**卒業論文の発表（3）グループ３** 各自のテーマに基づいて、卒業論文の内容についての発表を行う。	発表後のコメントなどを検討し、研究の内容に反映する。	4時間

234

授業科目名	**専門演習６【経営】**				
担当教員名	笠岡恵理子				
学年・コース等	4年	開講期間	後期	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本演習は、会計学に関する知識をより深め、それぞれの研究テーマに沿って内容の調査および研究を行い、卒業論文の作成を行っていくことを目的とする。専門演習5において決定した論文構成に基づいて、文献・資料の収集および財務・非財務データの分析を行い、それらを用いて論文を完成させていく。また、講義内で研究発表を行うことによって、その内容についての確認を行い、論文の論理性や独自性などについて検討し、内容の改善を行いながら進めていく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	各自の研究テーマにおける知識を用いて論文を作成する。	研究テーマの内容を理解し、それを論理的に記述することができる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		研究テーマに関する情報を文献・資料から収集し、そこから課題を抽出することができる。
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		研究テーマにおける課題に対して、論理的思考を持って、様々な視点から解決策を提案し、論理的に記述することができる。
3. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		卒業論文完成に向けてスケジュールを立て、それに基づき主体的に論文を作成することができる。
4. DP７.実践の完遂		論文完成に向けてすべきことを最後まで丁寧にやり抜くことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
平常点	20 %	： 授業における質疑応答など、授業への積極的な姿勢から評価する。
研究発表	40 %	： 授業におけるプレゼンテーションの内容およびプレゼンテーション力を評価する。
試験（卒業論文）	40 %	： 研究内容における論理性や独自性など、卒業論文の完成度により評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜、指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜2限

場所： 個人研究室（西館2F）

備考・注意事項： 初回授業にてメールアドレスをお伝えします。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーションおよび研究計画の作成** 卒業論文の完成に向けて、これまでの研究進捗状況を踏まえて、今後のスケジュールを決定する。	計画したスケジュールに基づいて、研究テーマに関連する文献・資料を収集する。	4時間
第2回	**卒業論文の作成（1）研究の目的** これまでに作成した卒業論文の構成に基づいて、構成内容の基礎となる部分（研究の目的、背景など）について論文を作成する。	研究テーマに関連する文献・資料に基づいて、論文を作成する。	4時間
第3回	**卒業論文の作成（2）研究の背景** これまでに作成した卒業論文の構成に基づいて、構成内容の基礎となる部分（研究の目的、背景など）について論文を作成する。	研究テーマに関連する文献・資料に基づいて、論文を作成する。	4時間
第4回	**卒業論文の作成（3）先行研究レビューなど** 各自の研究テーマに沿って、研究の目的から結論を導き出すために必要な内容（これまでの先行研究の内容、研究テーマに関連するより具体的な内容など）を記述する。	研究テーマに関連する文献・資料に基づいて、論文を作成する。	4時間
第5回	**卒業論文の作成（4）財務・非財務情報の分析方法の検討** 各自の研究テーマに沿って、研究の目的から結論を導き出すために必要な財務または非財務情報の分析方法について検討し、論文に記述する。	研究テーマに関連する文献・資料に基づいて、論文を作成する。	4時間
第6回	**卒業論文の作成（5）財務・非財務情報を用いた分析** 研究テーマに応じて、企業の財務または非財務情報を用いて分析・検討を行う。	研究テーマに関連する文献・資料に基づいて、論文を作成する。	4時間
第7回	**中間発表** 各自の研究テーマに基づいて、これまで調査・研究を行ってきたことを発表する。	発表後のコメントを検討し、研究の内容に反映する。	4時間
第8回	**卒業論文の作成（6）分析結果の検討** 企業の財務または非財務情報の分析結果に基づいて、その内容を論文に記述する。	研究テーマに関連する文献・資料に基づいて、論文を作成する。	4時間
第9回	**卒業論文の作成（7）結論の記述** 卒業論文の内容を振り返り、結論を記述する。その際に、研究の目的と結論に整合性があるかを確認する。	研究テーマに関連する文献・資料に基づいて、論文を作成する。	4時間
第10回	**卒業論文の作成（8）最終確認** 完成した卒業論文の形式および内容について再度検討し、不備等がないかを確認する。	研究テーマに関連する文献・資料に基づいて、論文を作成する。	4時間
第11回	**卒業論文発表に向けた資料作成** 各自のテーマに基づいた卒業論文の内容について発表を行うために、資料を作成する。	卒業論文発表に向けた資料を完成させる。	4時間
第12回	**卒業論文の発表（1）グループ１** 各自のテーマに基づいて、卒業論文の内容についての発表を行う。	発表後のコメントなどを検討し、研究の内容に反映する。	4時間
第13回	**卒業論文の発表（2）グループ２** 各自のテーマに基づいて、卒業論文の内容についての発表を行う。	発表後のコメントなどを検討し、研究の内容に反映する。	4時間
第14回	**卒業論文の発表（3）グループ３** 各自のテーマに基づいて、卒業論文の内容についての発表を行う。	発表後のコメントなどを検討し、研究の内容に反映する。	4時間

234

授業科目名	専門演習６【経営】				
担当教員名	海野大				
学年・コース等	4年	開講期間	後期	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大手通信事業者で新サービス開発，新規事業立ち上げ，マーケティング・リサーチ／顧客データ分析，情報システム企画・要件定義・プロジェクト管理に従事．（全14回）				

授業概要

専門演習5・6では，専門演習3・4で取り組んだ成果を卒業研究論文としてまとめ上げます．
後期の専門演習6では，まず，専門演習5で執筆した「研究の背景」「研究における問い」「先行研究」「提案する施策内容」「提案施策の検証」「提案施策の評価と考察」までの部分について，ブラッシュアップします．そして，「研究における問い」への答えとしての「結論」をまとめ，卒業論文を完成させます．
また，最終発表に向けての準備を行います．

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	企業等の経営課題に対する企画・提案力	企業等の経営課題に対し，適切な情報収集とデータ分析，論理的思考によって解決策を提案できる．
汎用的な力		
1．DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		必要な情報やデータを収集し，適切な手法を用いて分析できる．
2．DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		仮説思考（仮説立案と検証，考察）により，課題解決策を立案できる．

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
卒業研究論文の内容	60 %	： 卒業研究論文の内容により評価する．「内容の妥当性」「エビデンスの適正性と充実度」「独自性・社会的意義」「論理的構成」「文章の体裁」の各観点で評価する．
卒業研究最終発表	40 %	： 発表内容により評価する．卒業研究論文の各評価観点に，「資料の活用」「発表技術」の観点を加えて評価する．

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

必要な教材，資料は教員から提供します．

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため，平均すると毎回4時間の授業外学修が必要です.
授業時間外に論文指導を行うことがあります.

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　前期：火曜日3時限　後期：水曜日5時限

場所：　研究室（西館3階）

備考・注意事項：　事前にメールでアポイントメントをとるようにしてください.
メールアドレス：unno@g.osaka-seikei.ac.jp

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション** 各自の卒業研究の進捗状況および今後の研究計画について確認します.	各自の卒業研究論文執筆の進捗を確認する.	4時間
第2回	**卒業研究論文の執筆（10）ブラッシュアップ** 専門演習5で執筆した「研究の背景」「研究における問い」「先行研究」「提案する施策内容」「提案施策の検証」「提案施策の評価と考察」までの部分について，中間発表を踏まえて，教員からコメントします. 各自，教員からのフィードバックコメントに基づき，論文をブラッシュアップします.	これまでに執筆した卒業研究論文をブラッシュアップする.	4時間
第3回	**卒業研究論文の執筆（11）結論** 「研究における問い」への答えとしての「結論」をまとめます.	研究の結論をまとめ，執筆する.	4時間
第4回	**卒業研究論文の執筆（12）ドラフト作成1** 卒業研究論文のドラフト版を完成させます. 授業時間外で個別に論文指導することがあります.	卒業研究論文のドラフトを執筆する.	4時間
第5回	**卒業研究論文の執筆（13）ドラフト作成2** 教員からのフィードバックに基づき，卒業研究論文のドラフトを見直します. 授業時間外で個別に論文指導することがあります.	卒業研究論文のドラフトを修正する.	4時間
第6回	**卒業研究論文の執筆（14）ドラフト作成3** 教員からのフィードバックに基づき，卒業研究論文のドラフトを見直します. 授業時間外で個別に論文指導することがあります.	卒業研究論文のドラフトを修正する.	4時間
第7回	**卒業研究論文の執筆（15）ドラフト作成4** 教員からのフィードバックに基づき，卒業研究論文のドラフトを見直します. 授業時間外で個別に論文指導することがあります.	卒業研究論文のドラフトを修正する.	4時間
第8回	**卒業研究論文の執筆（16）ドラフト作成5** 教員からのフィードバックに基づき，卒業研究論文のドラフトを見直します. 授業時間外で個別に論文指導することがあります.	卒業研究論文のドラフトを修正する.	4時間
第9回	**卒業研究論文の執筆（16）論文の完成** 指定された体裁に基づき，卒業研究論文を完成させます.	卒業研究論文を完成させる.	4時間
第10回	**卒業研究最終発表の準備** 最終発表用の資料を作成します.	最終発表用のプレゼン資料を作成します.	4時間
第11回	**卒業研究最終発表リハーサル（前半グループ）** 卒業研究最終発表のリハーサルを行います．リハーサルは，2グループに分かれて実施します. 前半のグループのリハーサルを行います.	発表に対するフィードバックコメントに基づき，発表資料を修正する.	4時間
第12回	**卒業研究最終発表リハーサル（後半グループ）** 卒業研究最終発表のリハーサルを行います．リハーサルは，2グループに分かれて実施します. 後半のグループのリハーサルを行います.	発表に対するフィードバックコメントに基づき，発表資料を修正する.	4時間
第13回	**卒業研究最終発表資料のブラッシュアップ** リハーサルのフィードバックコメントに基づき，最終発表資料を修正し，内容を確認します.	卒業研究の最終発表の準備をする.	4時間
第14回	**卒業研究最終発表会** 卒業研究の最終発表を行います. 副査からコメントを受けるとともに，質疑応答を行います.	副査からのコメントに基づき，発表の振り返りを行う.	4時間

234

授業科目名	**専門演習６【食】**				
担当教員名	髙畑能久				
学年・コース等	4年	開講期間	後期	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大手総合食品メーカーの中央研究所で研究・商品開発および新規事業を経験。その後、グループ経営本部 経営企画部にて事業戦略の立案および投融資などを担当（全14回）。				

授業概要

この授業では、専門演習３・４・５での学びを踏まえ、自ら設定した研究課題を探究するために一連の調査研究の過程を通して見出した独自の知見や解決策を探究します。そして、学びの集大成としての卒業論文を執筆し、卒業論文発表会にて発表します。研究倫理、文献検索の方法、実地調査の進め方、専門知識やスキルを修得しながら、自ら主体的に卒業研究に取り組み、卒業論文を執筆することが求められます。食ビジネスの新たな価値創造と更なる変革をめざし、食品開発、食の安全マネジメント、食の持続可能性などを中心とした研究領域に挑戦します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	研究倫理、文献検索の方法、実地調査の進め方、専門知識やスキルを修得し、主体的に卒業研究に取り組み完遂する。	自ら設定した研究課題を解決するため仮説を立て、最適な検証手段を立案し、解決策を探究する。

汎用的な力	
1. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案	仮説を検証するため、必要な検証手段やアクションプランを立案できる。
2. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み	自ら主体的に行動し、PDCAサイクルを回しながら研究・開発を実践できる。
3. DP７.実践の完遂	困難な課題であっても最後まであきらめずにやり遂げることができる。
4. DP10.忠恕の心	誠実で思いやりのある人、周囲から頼りにされる人になることをめざす。

学外連携学修

有り(連携先：日乃本食産株式会社、日本ハムマーケティング株式会社)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
授業内のワーク	20 %	：	課題設定および仮説検証のプロセスが妥当かつ効果的であったか、主体的な取り組み姿勢であったかどうかを評価します。
ポートフォリオ	20 %	：	先行研究の調査レポート、仮説と研究計画、実地調査票および解析結果、研究概要などが適切であったかどうかを評価します。
中間・卒業論文発表	40 %	：	発表内容（専門性・実践力）が適切であり、自らの主張を伝えられたかどうか、相手の意図を理解して適切に応答できたかどうかを評価します。

卒業論文	:	指定された日時までに提出された卒業論文について、学術的な問いに対して仮説をもち、エビデンスを示して持論を論述できているかを評価します。

20　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

戸田山和久『新版　論文の教室-レポートから卒論まで-』（NHK出版、2017年、ISBN978-4-14-091194-5）
西澤幹雄『はじめての学会発表』（化学同人、2017年、ISBN978-4-7598-1930-4）
その他、テーマ毎に必要に応じて紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。なお、その他に90時間程度の論文・企画書等の作成にかかわる学修が求められる。
※各自のテーマ毎の進捗状況などに合わせ、授業の順番や内容を一部変更する場合がある。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜２限

場所：　髙畑研究室（西館２階）

備考・注意事項：　授業の前後以外で質問したい場合は、メールにて受け付けます（takahata@osaka-seikei.ac.jp）。件名には必ず、所属・学籍番号・氏名を明記してください。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンスと卒業論文の執筆プロセス** 卒業論文の執筆プロセスを学び、研究計画書に沿ってアクションプランを立案します。	卒業論文の執筆プロセスを考えてきてください。	4時間
第2回	**卒業論文の作成①（題目・目次・要約・キーワード）** 卒業論文の骨子を考え、題目、目次、要約、キーワードを執筆します。	各自で卒業論文の執筆を行ってください。	4時間
第3回	**中間発表会の準備** これまで取り組んできた卒業研究の進捗状況を発表するため発表用パワーポイントと発表原稿を作成します。	各自で発表練習を行ってください。	4時間
第4回	**中間発表会** 卒業研究の進捗状況をパワーポイントを用いて発表し、質疑応答します。他のゼミ生の発表に対するコメントを記入します。発表用パワーポイントは事前に提出してください。	各自で中間発表の振り返りを行ってください。	4時間
第5回	**卒業論文の作成②（はじめに）および題目届の提出** 先行研究・事例を踏まえ、はじめにの章では卒業研究の目的や意義を記述します。また、題目届に記入して提出します。	各自で題目届を提出してください。	4時間
第6回	**卒業論文の作成③（調査対象・方法）** 仮説を証明するために実施したアンケート調査、インタビュー調査、実地調査などの具体的な調査対象、方法、期間などを執筆します。	各自で卒業論文の執筆を行ってください。	4時間
第7回	**卒業論文の作成④（結果）** 前回記述したアンケート調査、インタビュー調査、実地調査などの結果を集計して記述します。	各自で卒業論文の執筆を行ってください。	4時間
第8回	**卒業論文の作成⑤（考察）** 前回までのアンケート調査、インタビュー調査、実地調査などの結果を分析し、考察を執筆します。	各自で卒業論文の執筆を行ってください。	4時間
第9回	**卒業論文の作成⑥（引用・参考文献）および研究概要の提出** 卒業論文の文章や図表で引用した引用文献および、参考文献の一覧を執筆します。また、卒業研究概要を作成して提出します。	各自で卒業研究概要を提出してください。	4時間
第10回	**卒業論文のブラッシュアップ①（書式など）** 卒業論文を一次提出し、卒業研究ガイドラインを参考にして書式などが不十分な箇所をブラッシュアップします。	各自で卒業論文のブラッシュアップを行ってください。	4時間
第11回	**卒業論文のブラッシュアップ②（内容など）および卒業論文の提出** 卒業論文を再提出し、内容が不十分な箇所をブラッシュアップします。これを何回か繰り返して完成したら卒業論文を提出します。	各自で卒業論文のブラッシュアップを行ってください。	4時間
第12回	**卒論発表会の準備** 一連の研究成果を発表するため発表用パワーポイントと発表原稿を作成します。	各自で発表練習を行ってください。	4時間
第13回	**卒論発表会の予演会** 卒業研究の成果をパワーポイントを用いて発表し、質疑応答します。その後、不十分な箇所をブラッシュアップします。	各自で予演会の振り返りを行ってください。	4時間

第14回	**卒論発表会** 卒業研究の成果をパワーポイントを用いて発表し、質疑応答します。他のゼミ生の発表に対するコメントを記入します。発表用パワーポイントは事前に提出してください。	各自で卒業研究全体（ゼミ活動含む）の学びについて振り返りを行ってください。	4時間

234

授業科目名	専門演習６【食】				
担当教員名	伴みずほ				
学年・コース等	4年	開講期間	後期	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

この授業では、専門演習３・４・５での学びを踏まえ、自ら設定した研究課題を解決するために一連の調査研究の過程を通して見出した独自の知見や解決策を提案します。そして、学びの集大成としての卒業論文を執筆し、卒業論文発表会にて発表します。研究の進め方、文献検索の方法、研究倫理など研究の基礎となる知識を習得しながら、自ら主体的に卒業研究に取組むことが求められます。卒業論文のテーマは食ビジネスの変革であり、特に消費者とのコミュニケーションを中心とした研究テーマを取り扱います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	研究倫理、文献検索の方法、フィールド調査の進め方、専門知識やスキルを習得し、主体的に卒業研究に取組む。	自ら設定した課題を解決するため仮説を立て、最適な検証手段を立案し、解決策を提案できる。

汎用的な力	
1. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案	仮説を検証するために必要な検証手段、計画を立案できる。
2. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み	自ら行動に対してPDCAサイクルを回しながら実践できる。
3. DP７.実践の完遂	困難な課題であっても最後まであきらめずにやり遂げることができる。
4. DP10.忠恕の心	誠実で思いやりのある人、周囲から頼りにされる人になることを目指す。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内のワーク	20 %	： 課題設定および仮説検証のプロセスが妥当、効果的であったかどうか、自主的な取り組み姿勢であったかどうかを評価します。
ポートフォリオ	20 %	： 先行研究の調査レポート、仮説と研究計画、フィールド調査票および解析データ、研究概要などが適切であったかどうかを評価します。
中間・卒業論文発表	40 %	： 発表内容が適切であり、自らの主張を伝えられたかどうか、相手の意図を理解して適切に応答できたかどうかを評価します。
試験（論文）	20 %	： 指定された日時までに提出された卒業論文（研究計画、概要含む）について、独自の問いに対して明確な答えを主張し、論証できているかを評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

フードシステムの経済学 第6版
時子山ひろみ　他著
医歯薬出版　ISBN978-4-263-70740-1

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。なお、「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その他に約90時間程度の論文・企画書等の作成に関わる学修が求められる。毎回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
専門演習１、２、３、４および５の単位を修得していること。

授業の順番や内容を変更する場合がある。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日5時間目

場所： 研究室（西館２階）

備考・注意事項： 質問はメールでも応じます。ban-m@osaka-seikei.ac.jp（タイトルには氏名、学籍番号を記入のこと）

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**卒業論文執筆の進め方** 卒業論文を執筆プロセスを学び、計画を立てます。	卒業論文執筆の計画を考えてきてください。	4時間
第2回	**卒業論文の作成①（骨子を考える）** 卒業論文の骨子を考え、タイトル、章立て、目次を記述します。	卒業論文の執筆を行ってください。	4時間
第3回	**中間発表会の準備** これまで取り組んできた卒業研究の進捗状況を発表するためパワーポイントと発表原稿を作成します。	各自で発表練習を行ってください。	4時間
第4回	**中間発表会** 卒業研究の進捗状況をパワーポイントを用いて発表し、質疑応答します。他の発表に対するコメントシートも記入します。 発表に使用したパワーポイントは提出してください。	各自で中間発表の振り返りを行ってください。	4時間
第5回	**卒業論文の作成②（はじめに）・題目届提出** 先行研究を踏まえ、はじめにの項では卒業研究の目的や意義を記述します。 また、題目届を提出します。	卒業論文の執筆を行ってください。	4時間
第6回	**卒業論文の作成③（調査方法）** 仮説を証明するために実施した文献調査、フィールド調査などの具体的な方法を記述します。	卒業論文の執筆を行ってください。	4時間
第7回	**卒業論文の作成④（結果）** 前回記述した文献調査、フィールド調査などの結果を記述します。	卒業論文の執筆を行ってください。	4時間
第8回	**卒業論文の作成⑤（考察）** 前回記述した文献調査、フィールド調査などの結果を踏まえ、考察を記述します。	卒業論文の執筆を行ってください。	4時間
第9回	**卒業論文の作成⑥（引用・参考文献）** 卒業論文の中で引用した文章・図表の引用文献および参考文献を記述します。	卒業論文の執筆を行ってください。	4時間
第10回	**卒業論文の修正（書式の確認）** 卒業論文を仮提出し、内容・書式など不十分な箇所について追加・修正を行います。	卒業論文の修正を行ってください。	4時間
第11回	**卒業論文の修正（内容の確認）** 卒業論文を仮提出し、内容・書式など不十分な箇所について追加・修正を行います。	卒業論文の修正を行ってください。	4時間
第12回	**卒業研究発表会の準備** 一連の研究成果を発表するためパワーポイントと発表原稿を作成します。	各自で発表練習を行ってください。	4時間
第13回	**卒業研究発表会の予演会** 卒業研究の成果をパワーポイントを用いて発表し、質疑応答します。発表に使用したパワーポイントは必要に応じて修正してください。	各自で予演会の振り返りを行ってください。	4時間
第14回	**卒業研究発表会** 卒業研究の成果をパワーポイントを用いて発表し、質疑応答します。発表に使用したパワーポイントは提出してください。 発表に使用したパワーポイントは提出してください。	卒業研究全体の学びについて振り返りを行ってください。	4時間

234

授業科目名	**専門演習６【公共】**				
担当教員名	**大島博文**				
学年・コース等	4年	開講期間	後期	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	政令市で都市計画・防災・交通・総合計画・統計等の新規施策立案・計画策定・経営業務を経験。公益財団法人であるシンクタンクで地域に関するまちづくり・福祉・環境・防災・災害復興等の政策立案・コンサルティング業務、研修等の人材育成業務を担当。（全14回）				

授業概要

本授業では、専門演習５などこれまで学習してきた知識を基に、主に公共経営、都市政策、地域防災等の観点から問題提起したテーマで卒業論文にまとめ上げるプロセスを通じて、リテラシーや論理的思考力を修得する。学術的な問いが設定されているか、先行研究を十分に調査しているか、自らの研究のオリジナリティーは何か、仮説が設定されているか、論理的に文章が構成されているかなどを、教員による指導、授業内での発表などで確認・整理する。主なスケジュールは講義計画に記載するが、それ以外でも指導を行う場合がある。最終的には卒業研究発表会において、卒業論文（研究）の発表を行う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	行政等に関する政策課題の理解およびその現実的・具体的な解決方策を検討・整理する。	行政等に関する政策課題の理解およびその現実的・具体的な解決方策をまとめ、提案することができる。
汎用的な力		
1. DP７.実践の完遂		行政等に関する政策課題について、現実的・具体的な解決策を作成し、提案することができる。
2. DP10.忠恕の心		政策課題の解決策を作成するプロセスにおいて、関係者に対して誠実な態度をとるとともに、提案内容が多くの人の立場に立った内容にすることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への貢献	50 %	： 授業での発表内容、他者の発表へのコメント等での役割など授業への貢献度を評価する。
期末試験（卒業論文）	50 %	： 学術的な問いが設定されているか、先行研究を十分に調査しているか、自らの研究のオリジナリティーは何か、仮説が設定されているか、論理的に文章が構成されているかを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜、指導する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　火曜日５限

場所：　西館3階37研究室

備考・注意事項：　連絡を取りたい場合はメールでも可（oshima@osaka-seikei.ac.jp）

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**論文作成スケジュールの作成** 前期までの進捗状況を踏まえ、論文を作成していくためのスケジュールを作成する。	スケジュールが作成できるよう、現時点での進捗状況や今後行うべきことを把握しておく。	4時間
第2回	**論文テーマおよび要旨の検討および作成** 論文テーマおよび要旨の内容が適切であるか検討し、作成する。	論文テーマおよび要旨の内容が適切であるかを検討できるよう、指導教員による指導を受けたり、専門演習内でディスカッションしておく。	4時間
第3回	**論文における序論の検討および作成** 専門演習５で作成した序論（案）を再検討し、序論を作成する。	論文における序論の内容が適切であるかを検討できるよう、指導教員による指導を受けたり、専門演習内でディスカッションしておく。	4時間
第4回	**論文における本論（方法・結果）の検討および作成** 専門演習５で作成した本論（案）を再検討し、本論（方法・結果）を作成する。	論文における本論（方法・結果）の内容が適切であるかを検討できるよう、指導教員による指導を受けたり、専門演習内でディスカッションしておく。	4時間
第5回	**論文における考察の検討および作成** 論文における序論および本論の内容を踏まえて、考察の検討および作成を行う。	論文における考察の内容が適切であるかを検討できるよう、指導教員による指導を受けたり、専門演習内でディスカッションしておく。	4時間
第6回	**中間報告会での発表準備（１）** 公共政策コース内での各専門演習合同で実施する中間発表会での卒業論文の概要発表を行うための発表資料を作成する。	中間発表会での卒業論文の概要発表ができるよう、パワーポイント等の資料を作成しておく。	4時間
第7回	**中間報告会での発表準備（２）** 公共政策コース内での各専門演習合同で実施する中間発表会での卒業論文の概要発表を行うための発表資料を作成する。	中間発表会での卒業論文の概要発表ができるよう、パワーポイント等の資料を作成しておく。	4時間
第8回	**中間発表会（１）** 公共政策コース内での各専門演習合同で実施する中間発表会での卒業論文の概要発表を行う。	中間発表会での卒業論文の概要発表ができるよう、パワーポイント等の資料を作成しておく。	4時間
第9回	**中間発表会（２）** 公共政策コース内での各専門演習合同で実施する中間発表会での卒業論文の概要発表を行う。	中間発表会での卒業論文の概要発表ができるよう、パワーポイント等の資料を作成しておく。	4時間
第10回	**卒業論文内容の再検討** 中間発表会で、主査、副査、他学生等から受けた指摘などを踏まえて、これまでの作成した論文内容の再検討を行う。	卒業論文内容の再検討ができるよう、中間発表会で受けた指摘などを整理しておく。	4時間
第11回	**卒業研究の最終確認** 卒業論文について、形式や構成、論理性等、全体として不備がないか確認する。	卒業論文全体のチェックおよび加筆・修正等を行う。	4時間
第12回	**卒業論文の提出および卒業研究発表会資料の作成** 卒業論文を期限内に提出するとともに、卒業研究における最終発表会の発表資料を作成する。	最終発表会での卒業論文の概要発表ができるよう、パワーポイント等の資料を作成しておく。	4時間

第13回	**発表会資料の確認** 最終発表会の資料の適切性等を確認する。	指導教員の指導を受けたり、専門演習内で学生間でディスカッションしたりして、適切性等を確認しておく。	4時間
第14回	**最終発表会での発表** 発表資料を使って発表し、副査からコメントを受けるとともに質疑応答を行い、学生および教員からコメントや質問を受ける。	最終発表での評価を受けて、論文の作成にど の程度向き合えたか振り返ります	4時間

234

授業科目名	**専門演習６【公共】**				
担当教員名	**大塚康央**				
学年・コース等	4年	開講期間	後期	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	茨木市において、企画、都市計画、まちづくり計画、住民参加などを経験したのち、副市長として政策立案、実施、評価全般を担当。（全14回）				

授業概要

本演習では、これまで学習してきた知識を基に、社会で解決すべき問題と、そのための行政をはじめとする関係する主体の政策形成やの関与や活動を主とした個々の研究テーマについて調査研究を進め、卒業研究論文としてまとめあげる作業を行う。授業では、進捗状況の報告（論文内容含む）とゼミ学生からの質問、意見交換などを進めながら、論文作成を進めていく。論文については、必要なデータや事例がそろっているか、先行研究のレビューは適切か、結論にいたる論理的な構成に矛盾はないか等の観点からチェックするとともに、独自性や新たな知見の構築なども考慮して作成を進めていく。最終的には、卒業研究発表会で発表する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	社会の課題を的確にとらえ分析するための情報収集能力や関係する主体の行動などを分析、評価する力	社会の問題解決に必要な情報を分析し、その原因と課題を示すことができる。
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	調査分析に必要な知識や情報収集の方法を身につけている	仮説を証明するために必要なものは何かを的確に把握し、収集しまとめることができる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		自ら課題を設定し、研究を進めるために必要な情報を収集、分析することができる。
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		調査研究のプロセスやスケジュールを立て、計画的に取り組むことができる。
3. DP７.実践の完遂		設定した研究テーマについて、論理的に検証し成果をまとまげることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への取り組み	10 %	： 進捗状況の報告、授業中の質疑や他の学生への質問、アドバイスなどの取り組み姿勢を評価する。
積極的な調査研究活動	30 %	： 研究に必要な先行研究の収集、事例調査等の活動について報告した内容に基づき評価する。
卒業研究論文	60 %	： 作成した卒業研究論文について、仮説の設定、仮説の堅守に関する説明（データ、理論）、論理的な構成、論文として必要な体裁などを総合的に評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

研究テーマに応じて、適宜、指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
個々の研究テーマにもとづいた調査を計画的に実施するとともに、進捗状況の報告や、指摘を受けた事項に基づく調査研究を行うこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日5限

場所： 西館4階研究室

備考・注意事項： 上記以外でも、あらかじめ要請があれば対応する。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス、卒業研究の進め方確認** 研究の進捗状況の確認を行う。また、卒業研究を進めていくためのスケジュールを確認する。研究計画の見直しの必要性についてもチェックする。	夏休み期間中の取り組みのまとめと研究への反映検討	4時間
第2回	**卒業論文の作成（1）** 卒業論文の内容について、ゼミ内での質疑応答を行い、論文のブラッシュアップを行う。	先行研究や収集データの整理、ゼミ内、主査・副査の指摘などを踏まえ、卒業論文の作成を進める。	4時間
第3回	**卒業論文の作成（2）** 卒業論文の内容について、ゼミ内での質疑応答を通じて、ブラッシュアップを行う。	先行研究や収集データの整理、ゼミ内、主査・副査の指摘などを踏まえ、卒業論文の作成を進める。	4時間
第4回	**卒業論文の作成（3）** 卒業論文の内容について、ゼミ内での質疑応答を通じて、ブラッシュアップを行う。	先行研究や収集データの整理、ゼミ内、主査・副査の指摘などを踏まえ、卒業論文の作成を進める。	4時間
第5回	**卒業論文の作成（4）** 卒業論文の内容について、ゼミ内での質疑応答を通じて、ブラッシュアップを行う。	先行研究や収集データの整理、ゼミ内、主査・副査の指摘などを踏まえ、卒業論文の作成を進める。	4時間
第6回	**卒業論文の作成（5）** 卒業論文の内容について、ゼミ内での質疑応答を通じて、ブラッシュアップを行う。	先行研究や収集データの整理、ゼミ内、主査・副査の指摘などを踏まえ、卒業論文の作成を進める。	4時間
第7回	**中間発表準備** 卒業研究の内容を簡潔にまとめた中間発表資料を作成する。	卒業研究の目的、意義、仮説と説明データの整理、結論等論理的な構成を構築し発表資料作成につなげる。	4時間
第8回	**中間発表会（3ゼミ合同）** 前半で進めてきた調査研究成果に基づき作成した資料により中間発表を行う。 主査、副査や他の学生との質疑応答を行う。	指摘された事項等について検討	4時間
第9回	**中間発表会（2）（3ゼミ合同）** 前半で進めてきた調査研究成果に基づき作成した資料により中間発表を行う。 主査、副査や他の学生との質疑応答を行う。	中間発表での意見、指摘などを踏まえ、卒業論文のブラッシュアップを行う。	4時間
第10回	**卒業論文の作成（8）** 中間発表での意見、指摘などを踏まえ、卒業論文のブラッシュアップを行う。 卒業研究論文の最終的なとりまとめを行う。	中間発表での意見、指摘などを踏まえ、卒業論文のブラッシュアップを行う。	4時間
第11回	**卒業論文の作成（9）** 中間発表での意見、指摘などを踏まえ、卒業論文のブラッシュアップを行う。 卒業研究論文の最終的なとりまとめを行う。	指摘事項等や点検、確認結果に基づき、修正・加筆を行う論文を完成させる。	4時間
第12回	**発表会資料作成** 卒業研究発表会用資料を作成する。 また、梗概も完成させる。	発表準備を進める	4時間
第13回	**ゼミ内での発表** 発表会資料に基づき、ゼミ内で発表する。 発表資料の見直し等を行う。	発表資料の作成、発表会準備	4時間

発表会資料に基づき、ゼミ内で発表する。 発表資料の見直し等を行う。		

234

授業科目名	専門演習６【スポーツ】				
担当教員名	青野桃子				
学年・コース等	4年	開講期間	後期	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

スポーツマネジメントに関する諸問題について、学術的な知見を持ちながら、各自の研究テーマへのアプローチ法を整理し、研究計画の作成とプレゼンテーションをおこなう。ゼミ内でディスカッションをおこない、多面的に問題をとらえることを目標とする。そして、先行研究を批判的に検討することで、問題関心を深め、オリジナリティのある卒業研究を目指す。また最終的に、卒業研究だけでなく、批判的思考、論理的思考、議論する能力の向上も目指す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.スポーツ産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	文献、先行研究を通して、基礎知識を習得する。	幅広い教養やスキルを身につける。
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	専門的知識、研究手法を学ぶ。	専門的知識を獲得する。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		自ら研究課題を発見する。
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		研究計画を立案する。
3. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		計画に基づいて、実際に研究を進める。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
論文・企画書の評価	50 ％	： テーマ選定が研究課題に対して適切であるかどうか、データや先行研究が参照できているかどうか、論理的構成、文章の体裁を評価する。
研究過程の評価	30 ％	： 研究に取り組む姿勢、自主性、グループでの活動においては協調性を評価する。
研究発表の評価		： 自身の研究について、論理的に、資料にもとづいて発表ができていることを評価する。

20　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業のなかで適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜2限

場所：　西館4階　研究室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション：卒業論文執筆計画立案** ゼミの目的や進め方を確認する。卒業論文執筆の具体的な計画を作成する。	スケジュールの検討	4時間
第2回	**本調査のまとめ** 本調査の結果をまとめ、議論する。	本調査の結果のまとめ・復習	4時間
第3回	**論文構成の検討** 本調査の結果をもとに、論文の構成を作成する。	論文構成の作成	4時間
第4回	**論文構成の修正** 議論をもとに、論文の構成を修正する。	論文構成の作成・修正	4時間
第5回	**卒業論文の作成（先行研究検討）** 先行研究と比較し、自身の卒業研究のオリジナリティを明らかにする。	論文の執筆	4時間
第6回	**卒業論文の作成（研究目的）** 研究の目的を確認し、序論にあたる部分を執筆する。	論文の執筆	4時間
第7回	**中間発表会用の資料作成** ゼミ内での議論をふまえて、中間発表会用の資料を完成させる。	資料の作成	4時間
第8回	**卒業研究中間発表会** 卒業研究中間発表会をおこなう。	発表会の復習	4時間
第9回	**中間発表会の振り返り** 発表会での議論をもとに、論文に修正を加える。	論文の修正	4時間
第10回	**卒業論文の作成（結果・考察）** 研究結果について考察し、執筆する。	論文の執筆	4時間
第11回	**卒業論文の作成（全体のまとめ）** まとめの部分まで執筆し、おおまかに完成させ、主査・副査からコメントをもらう。	形式の確認	4時間
第12回	**卒業論文の作成（修正・確認）** コメントに従い、修正をおこなう。	論文の修正	4時間
第13回	**卒業論文公聴会の準備** 卒業論文公聴会に向けて、発表資料を準備する。	資料の作成	4時間
第14回	**卒業論文公聴会** 卒業論文について、発表する。	質疑応答の準備	4時間

234

授業科目名	専門演習６【スポーツ】				
担当教員名	丸朋子				
学年・コース等	4年	開講期間	後期	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	地方テレビ・ラジオ局においてアナウンサー・スポーツキャスター、番組制作業務のほか、プロ・クラブスポーツのスタジアムDJ・MCを経験した。また、プロスポーツチームにおいて事業企画や試合運営、広報業務等に従事した。（全14回）				

授業概要

スポーツマネジメントに関する諸問題について学術的な知見を持ちながら、各自の研究テーマへのアプローチ法を整理し、卒業論文の執筆、発表を行います。また、研究を進めていく上で先行研究を丁寧に解釈し、研究の個人的意義・学術的意義・社会的意義を検討します。　丸研究室では、スポーツ地域マネジメントおよびスポーツエンターテイメント、メディアを中心とした課題について、卒業論文及び企画書の作成にむけた演習を行い、各自が主体的にデータの収集と分析、考察を行い、卒業論文を完成させます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	スポーツ地域マネジメントおよびスポーツエンターテイメント、メディアの幅広い教養と知識の習得	幅広い知識と教養
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	スポーツ地域マネジメントおよびスポーツエンターテイメント、メディアの専門知識とスキルの習得	専門知識と理解
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		研究データの分析、考察を行う
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		研究課題のインプリケーション、今後の課題を検討する
3. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		発表などの実践力を身に付ける

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
試験（論文・企画書）	： 専門性としてテーマの妥当性、内容の妥当性・論点の明確さ、データと先行研究の参照、独自性・社会的意義 実践力として論理的構成、文章の体裁、表現の推敲、研究の完遂 忠恕として適切な内容

50　%

研究過程の評価　：　取り組む姿勢として意思疎通、自発的行動、協調性（グループ研究のみ）忠恕の心を持ったコメント

40　%

研究発表の評価　：　専門性として内容の妥当性・オリジナリティ、データ・先行研究の参照
実践力として論理的構成、資料の活用、発表技術、発表時間
協調性、質疑応答
忠恕として適切な内容

10　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

論文を完成させるために先行研究、引用参考文献など合わせて10本以上を自ら用意する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
なお、その他に約90時間程度の論文作成に関わる学修が必要になります。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜日　3限

場所：　研究室　西館3F

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	ガイダンス 研究進捗計画の確認を再度行い、各自のスケジュールを一覧化する。	卒業論文の執筆計画と完成イメージを作成する。	4時間
第2回	**卒業論文の作成に向けて** 専門演習５で決定した卒業論文テーマの妥当性、必要性、研究の目的について最終検討する。	先行研究・参考文献の収集、論文執筆を進める。	4時間
第3回	**ゼミ内発表会** 卒業研究の全体像（テーマ、背景、目的、方法、結果）を発表する。	発表準備と発表に対する指摘・コメントをふまえて研究内容を精査する。	4時間
第4回	**調査結果の検証・分析①** 図表等にまとめた結果内容について誤記や誤った記述がないか検討・確認する。	研究ガイドラインに基づいて資料や図表の表記が適切か確認する。	4時間
第5回	**調査結果の検証・分析②** 調査結果を先行研究の結果と比較検討し、共通点・相違点を整理する。	先行研究を踏まえて、結果を考察する。	4時間
第6回	**調査結果執筆** 調査結果を分析し、先行研究との比較等もふまえて執筆する。	研究ガイドラインに基づいた文体を習得する。	4時間
第7回	**卒業研究中間発表会の準備** 発表内容の整理・確認および発表資料を作成し、リハーサルを行う。	スライドの修正や発表時間などを確認する。	4時間
第8回	**卒業研究後期中間発表会** 中間発表を行う。	発表会で得たコメントを整理して研究進捗上の課題を確認する。	4時間
第9回	**論文作成（目次・体裁・緒言）** 卒業論文の全体構成および体裁を再確認し、緒言の章の執筆を進める。	論文の執筆	4時間
第10回	**論文作成（研究目的と結果）** 研究目的・研究方法と結果の章の整合性を確認する。そのうえで、研究目的・方法と結果の章の執筆を進める。	論文の執筆	4時間
第11回	**論文作成（考察）** 研究目的と結果をふまえ、考察の章の執筆を進める。	論文の執筆	4時間
第12回	**論文作成（結論・研究の限界と今後の課題）** 結論・研究の限界と今後の課題の章の執筆を進める。	論文の執筆	4時間
第13回	**論文作成（総仕上げ）** 論文全体を仕上げて内容構成や論旨、体裁等の確認を行う。	誤字脱字、論文形式の最終チェックを行う。	4時間
第14回	**卒業論文発表会** 卒業論文発表会を行う。	卒業論文発表会の準備を行う。	4時間

234

授業科目名	**専門演習６【スポーツ】**				
担当教員名	坂中勇亮				
学年・コース等	4年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	スポーツ協会に勤務し、スポーツ行政に従事（全１４回）				

授業概要

スポーツビジネスに関する諸問題について学術的な知見を持ちながら、各自の研究テーマへのアプローチ法を整理し、研究計画の作成およびプレゼンテーションを行います。また、研究を進めていく上で先行研究の収集・分析、研究の手法について学び、各自の研究テーマに沿って実践していきます。特に、担当教員の専門領域であるスポーツ行政を中心とした課題について、各自の関心や問題意識より、卒業論文及び企画書の作成にむけて演習を進めます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	卒業論文を作成するための技術・能力の習得	研究を遂行する能力
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		研究課題の発見
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		研究課題の計画の立案を行う
3. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		発表などの実践力を身に付ける

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
論文・企画書の評価	50 %	： 専門性としてテーマの妥当性、内容の妥当性・論点の明確さ、データと先行研究の参照、独自性・社会的意義 実践力として論理的構成、文章の体裁、表現の推敲、研究の完遂 忠恕として不適切な内容
研究過程の評価	40 %	： 取り組む姿勢として意思疎通、自発的行動、協調性（グループ研究のみ）忠恕の心を持ったコメント
試験（研究発表の評価）		： 専門性として内容の妥当性・オリジナリティ、データ・先行研究の参照 実践力として論理的構成、資料の活用、発表技術、発表時間 忠恕として不適切な内容

10　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

卒論を完成させるために先行研究、引用参考文献などを自ら準備する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は４単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日　13：00－15：00

場所： 研究室

備考・注意事項： 本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス及び卒論作成の計画について** 専門演習6の計画と諸注意を伝えるとともに、卒業論文執筆の具体的な計画を作成する。	具体的な論文作成スケジュールを検討する	4時間
第2回	**本調査のまとめ** 前期もしくは夏期休暇に行った本調査の結果をまとめ、主査・副査と議論する。	本調査の結果をまとめる	4時間
第3回	**論文構成の検討** 卒業論文の全体構成・章立てを考え、主査と議論する。	卒業論文の目次構成を作成する	4時間
第4回	**論文構成の修正** 前回の主査との議論に基づき、卒業論文の全体構成・章立てを修正する。	卒業論文の目次構成を作成する	4時間
第5回	**卒業論文の作成：先行研究** 先行研究との比較を通じて、各自の研究のオリジナリティを明確にする。	先行研究についてまとめる	4時間
第6回	**卒業論文の作成：研究目的** 研究の目的を確認した上で、緒言にあたる章を執筆する。	卒論本文を執筆する	4時間
第7回	**中間発表会の準備** 中間発表会へ向けて研究の進捗状況をまとめる	中間発表会の準備	4時間
第8回	**卒業研究後期中間発表会** 卒業研究後期中間発表会を行う	中間発表会の振り返り	4時間
第9回	**中間発表会の振り返り** 中間発表会での振り返りを行い、適宜修正を加える。	これまでの研究を振り返り、適宜修正を加える。	4時間
第10回	**卒業論文の作成：研究結果・考察** 研究結果について考察を行ない、その内容を執筆する。	卒論本文を執筆する	4時間
第11回	**卒業論文の作成：全体のまとめ** 卒業論文を大まかに完成させ、主査・副査からコメントをもらう。	卒業論文の形式を最終確認する	4時間
第12回	**卒業論文の作成：修正と再確認** 主査・副査からのコメントに従って卒業論文を修正する	卒業論文を修正する	4時間
第13回	**卒業論文公聴会の準備** 卒業論文公聴会に向けての資料を作成する	自身の論文を熟読し、公聴会に向けての準備をする。	4時間
第14回	**卒業論文公聴会** 卒業論文を発表する	自分の卒論についての理解を深め、質疑応答に対応できるよう準備する。	4時間

234

授業科目名	専門演習６【スポーツ】				
担当教員名	藤森梓				
学年・コース等	4	開講期間	後期	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

４回生の専門演習では、本格的な卒業研究の遂行と、その成果を卒業論文としてまとめる作業が中心となります。みなさんは４回生の前期で、各自で調査・研究を行い、自らが設定した研究テーマについて、ある程度議論が深まっていると思います。４回生の後期は、これまで実施してきた調査・研究の内容をまとめ、本格的に論文を作成する作業が中心となります。専門演習６では、各自の研究の進み具合の確認および指導教員からの助言を中心として組み立てられます。なお、最終的な研究成果は、卒業論文発表会の場で報告することになります。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.スポーツ産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	自身の研究分野に関連した幅広い教養と知識の習得する。	卒業研究のバックグラウンドの知識として役立てる。
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	研究を遂行する技術・能力の習得する。	卒業研究の自分自身で進めることができるようになる。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		研究の課題発見する力を身に付ける。
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		研究課題の計画の立案を行う力を身に付ける。
3. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		研究発表などの実践力を涵養する。
4. DP７.実践の完遂		卒業研究に取り組むことにより、自分自身で課題を実践、完遂する力を身に付ける。
5. DP８.他者とのコミュニケーション		指導教員と適切なコミュニケーションを取りながら、卒業研究を作成する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
卒業論文の評価	： 専門性としてテーマの妥当性、内容の妥当性・論点の明確さ、データと先行研究の参照、独自性・社会的意義 実践力として論理的構成、文章の体裁、表現の推敲、研究の完遂

忠恕として適切な内容

50 %

研究過程の評価 : 取り組む姿勢として意思疎通、自発的行動、協調性（グループ研究のみ）忠恕の心を持ったコメント

40 %

研究発表（卒論公聴会）の評価 : 専門性として内容の妥当性・オリジナリティ、データ・先行研究の参照
実践力として論理的構成、資料の活用、発表技術、発表時間
協調性、質疑応答
忠恕として適切な内容

10 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

論文を完成させるために先行研究、引用参考文献など合わせて10本以上を自ら用意する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。その他、約90時間程度、論文作成のための学修時間が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日3限

場所： 研究室（西館4階）

備考・注意事項： 上記以外の時間帯であっても、できる限り研究指導を行う。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**専門演習6のガイダンス：卒業論文作成の計画策定** 専門演習6の計画と諸注意を伝えるとともに、卒業論文執筆の具体的な計画を作成します。	具体的な論文作成スケジュールを検討する	4時間
第2回	**後期中間発表会の準備** 中間発表会の資料を作成します。	各自の研究の進捗状況に基づいて、中間発表会の資料を作成する	4時間
第3回	**卒業研究後期中間発表会** これまでの研究の進捗状況についてプレゼンテーションを行い、副査教員を中心にコメントをもらいます。	中間発表会の準備を行う	4時間
第4回	**本調査の検証・振り返り** 前期もしくは夏休みに行った本調査の結果についての振り返りを行います。	本調査について自分なりにまとめる	4時間
第5回	**本調査の結果についての考察** 夏休みに行った調査の結果について、考察を深めます。	本調査の内容について、自分なりの考察を行う	4時間
第6回	**卒論の具体的な構成（章立て）を考える** 卒論の全体構成・章立てについて検討します。	卒論本文の作成に取り掛かる	4時間
第7回	**卒論の詳細な構成について考える** 卒論の各章の内容について検討します。	卒論本文の作成に取り掛かる	4時間
第8回	**卒論執筆の準備** 卒論執筆に必要な資料およびデータを整理します。	自身の卒論内容に従って、必要な資料を入手する	4時間
第9回	**卒論ドラフトの作成** 卒論本文の執筆に取り掛かります。	卒論本文を執筆する	4時間
第10回	**卒論ドラフトの修正** 論理矛盾や誤字脱字等を修正し、卒論をブラッシュアップさせます。	卒論本文を執筆する	4時間
第11回	**卒論ドラフトの完成** 卒論を大まかに完成させ、指導教員および副査教員からコメントをもらいます。	卒論本文の作成させる	4時間
第12回	**卒論ドラフトの再検討** 指導教員・副査教員からのコメントに従って卒論を改訂します。	卒論の校正をする	4時間
第13回	**卒論公聴会の準備** 卒論公聴会に向けての資料を作成します。	自身の論文を熟読し、公聴会に向けての準備をする	4時間
第14回	**卒業研究公聴会** 公聴会にて各自の卒業研究を発表します。	自分の卒論について理解を深め、質疑応答に対応できるようにする	4時間

234

授業科目名	専門演習６【スポーツ】				
担当教員名	菅文彦・羽藤文彦				
学年・コース等	4年	開講期間	後期	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

スポーツマネジメントに関する諸問題について学術的な知見を持ちながら、各自の研究テーマを掲げて、研究計画、研究成果の作成および発表を行う。研究テーマの選定においては、研究の個人的意義・学術的意義・社会的意義から検討する。
研究を進めていく上で、リサーチ・クエスションと仮説の明確化に努め、次に、妥当な研究方法を選定し、その手法を体得する。研究方法は文献調査のみとせず、質問紙調査やヒアリング調査などの実施を旨とし、オリジナルデータの収集とその分析を主眼とする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.スポーツ産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	幅広い知識と教養	スポーツを支える観点からの幅広い教養と知識の習得
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	専門知識と理解	スポーツマネジメントの専門知識とスキルの習得
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		研究の課題発見
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		研究計画の立案を行う
3. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		発表などの実践力を身に付ける

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
試験：論文・企画書の評価	50 %	： 専門性としてテーマの妥当性、内容の妥当性・論点の明確さ、データと先行研究の参照、独自性・社会的意義 実践力として論理的構成、文章の体裁、表現の推敲、研究の完遂 忠恕として不適切な内容
研究過程の評価	40 %	： 取り組む姿勢として意思疎通、自発的行動、協調性（グループ研究のみ）忠恕の心を持ったコメント

試験：研究発表の評価 : 専門性として内容の妥当性・オリジナリティ、データ・先行研究の参照
実践力として論理的構成、資料の活用、発表技術、発表時間
協調性、質疑応答
忠恕として不適切な内容

10 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

論文を完成させるために先行研究、引用参考文献など合わせて10本以上を自ら用意する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は平均すると毎回4時間の授業外学習が求められる。その他に約90時間程度の論文作成に関わる学習が求めれらる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日2限

場所： 担当教員の研究室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	ガイダンス 研究進捗計画の確認を再度行い、各自のスケジュールを一覧化する。	卒業論文の完成イメージの作成	6時間
第2回	**卒業論文の作成に向けて** 専門演習５で決定した卒業論文テーマの妥当性、必要性、研究の目的について最終検討する。	先行研究・参考文献の収集、論文執筆の準備	6時間
第3回	**中間発表会** 卒業研究の全体像（テーマ、目的、方法等）を発表する。	発表に対する指摘・コメントをふまえて研究内容を精査する。	6時間
第4回	**調査結果まとめ1** 図表等にまとめた結果内容について誤記や誤った記述がないか検討・確認する。	図表作成スキルの向上	6時間
第5回	**調査結果まとめ2** 調査結果を先行研究の結果と比較検討し、共通点・相違点を整理する。	先行研究・参考文献の調査結果の整理	6時間
第6回	**調査結果執筆** 調査結果を分析し、先行研究との比較等もふまえて執筆する。	論文にふさわしい文体の習得	6時間
第7回	**中間発表会の準備** 発表内容の整理・確認および発表資料を作成する。	パワーポイントの操作確認	6時間
第8回	**卒業研究後期中間発表** 中間発表を行う。	発表会で得たコメントを整理して研究進捗上の課題を確認する。	6時間
第9回	**調査結果の検証** 調査結果の妥当性、信頼性を検討する。必要に応じて追加調査、再調査の実施も検討する。	調査方法、調査対象、その妥当性について検討する。	6時間
第10回	**論文作成（結果と研究目的）** 調査結果と研究目的・研究方法の章の整合性を確認する。そのうえで、結果の章と研究目的・方法の章の執筆をすすめる。	論文の執筆	6時間
第11回	**論文作成（考察）** 研究目的と結果をふまえ、考察の章の執筆をすすめる。	論文の執筆	6時間
第12回	**論文作成（緒言）** 考察の内容をふまえ、緒言の章の執筆をすすめる	論文執筆	6時間
第13回	**論文作成（仕上げ）** 論文全体を仕上げて内容構成や論旨、体裁等の確認を行う。	誤字脱字、論文形式の最終チェック	6時間
第14回	**公聴会** 公聴会（卒業研究期末発表会）を行う。	卒業研究期末発表会を行う	6時間

234

授業科目名	専門演習６【スポーツ】				
担当教員名	古川拓也				
学年・コース等	4年	開講期間	後期	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

スポーツマネジメントに関する諸問題について学術的な知見を持ちながら、各自の研究テーマへのアプローチ法を整理し、研究計画の作成およびプレゼンテーションを行う。また、研究を進めていく上で関連研究の調査、アイデアの出し方について学び、各自の研究へ実践する。また、古川研究室では、スポーツ政策に関連した研究課題について、各自の関心や問題意識より、卒業論文及び企画書の作成にむけて演習をすめる。最終的に、卒業論文のみならず、批判的思考や論理的思考、議論する能力、質疑応答の能力が高まることを目指す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.スポーツ産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	スポーツ政策の幅広い教養と知識の習得	幅広い知識と教養
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	スポーツ政策の専門知識とスキルの習得	専門知識と理解
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		研究の課題発見
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		研究課題の計画の立案を行う
3. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		発表などの実践力を身に付ける

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
試験（論文・企画書の評価） 50 %	： 専門性としてテーマの妥当性、内容の妥当性・論点の明確さ、データと先行研究の参照、独自性・社会的意義 実践力として論理的構成、文章の体裁、表現の推敲、研究の完遂 忠恕として適切な内容

研究過程の評価 : 取り組む姿勢として意思疎通、自発的行動、協調性（グループ研究のみ）忠恕の心を持ったコメント

40 %

研究発表の評価 : 専門性として内容の妥当性・オリジナリティ、データ・先行研究の参照
実践力として論理的構成、資料の活用、発表技術、発表時間
協調性、質疑応答
忠恕として適切な内容

10 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

論文を完成させるために先行研究、引用参考文献など合わせて10本以上を自ら用意する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
なお、その他に約90時間程度の論文作成に関わる学修が必要になります。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日1・2限（9：00〜12：00）

場所： 研究室　西館2F

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**専門演習6のガイダンス** 専門演習6の計画と諸注意を伝える。また、卒業研究を仕上げるポイントについて学ぶ。	研究テーマの決定、先行研究・参考文献の収集、論文構想の作成	4時間
第2回	**先行研究の検索** 先行研究がテーマに沿ったものなのか否か、検討を行う。	研究テーマの決定、先行研究・参考文献の収集、論文構想の作成	4時間
第3回	**先行研究の整理** 先行研究を整理し、明らかになっていること、明らかになっていないことを明確にする	先行研究を探してくること	4時間
第4回	**先行研究のまとめ** 先行研究をまとめ、リサーチクエスチョンを設定する	各自研究を進めてくること。	4時間
第5回	**仮説の設定** 先行研究に基づいて仮説の設定を行う。	仮説の妥当性について検討する。	4時間
第6回	**研究テーマに関する調査資料の検討** 各々の研究計画に則して、調査資料を確認する。	先行研究を読み込んでくること	4時間
第7回	**中間報告に向けた準備** 中間報告に向け、プレゼンテーションの準備を行う。 各々の研究進捗状況を確認する。	発表資料をまとめてくること	4時間
第8回	**中間発表会** 卒業論文の中間報告を発表する。	発表資料をまとめてくること	4時間
第9回	**卒業研究前期中間発表会の振り返り** 中間報告会の振返りを行う。 各々の研究進捗状況を確認する。	中間報告会を振り返り、自身の研究の今後の課題について整理すること	4時間
第10回	**研究テーマに関する調査資料の作成** 調査を実施するための資料を完成させる。	調査を実施するための資料を完成させる。	4時間
第11回	**研究テーマに関する予備調査の実施** 各自の研究に関する予備調査を実施する。	各自の研究に関する予備調査を実施する。	4時間
第12回	**研究テーマに関する予備調査の回収・集計および仮説の検討** 各自の研究に関する予備調査の結果をもとに仮説を立てる。	各自の研究に関する予備調査の結果をもとに仮説を立てる。	4時間
第13回	**研究テーマに関する本調査の検討** 調査方法、調査対象、その妥当性について検討する。	調査方法、調査対象、その妥当性について検討する。	4時間
第14回	**卒業研究発表会** 卒業研究前期期末発表会を行う	卒業研究後期期末発表会の準備を行う	4時間

234

授業科目名	**専門演習６【スポーツ】**				
担当教員名	岡田功				
学年・コース等	4年	開講期間	後期	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	新聞記者として長年、国内外のスポーツビジネスの現場を取材。折に触れて日本のプロスポーツクラブに経営のアドバイスを行ってきた（全14回）				

授業概要

スポーツビジネスなどに関する諸問題について学術的な知見を持ちながら、各自の研究テーマへのアプローチ法を整理し、研究計画の作成およびプレゼンテーションを行う。また、研究を進めていく上で関連研究の調査、事例調査、定量調査、定性調査について学び、各自の研究に活用していきます。岡田研究室では、事例分析や先行研究を通して経営学分野のさまざまな基礎知識を習得し、その中で学生とは個別に卒業研究論文と発表に向けて準備を行います。個別指導が多くなると思われるため、効果的にオンラインによる指導も併行する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.スポーツ産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	スポーツマネジメント分野における卒業研究の完成	卒業研究論文を作成し、プレゼン発表する
2. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	スポーツビジネスの専門知識とスキルの習得	専門知識と理解
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		研究の課題発見
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		研究課題の計画の立案を行う
3. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		発表などの実践力を身に付ける

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
卒業論文 50 %	： 専門性としてテーマの妥当性、内容の妥当性・論点の明確さ、データと先行研究の参照、独自性・社会的意義 実践力として論理的構成、文章の体裁、表現の推敲、研究の完遂 忠恕として適切な内容

研究過程の評価	:	取り組む姿勢として意思疎通、自発的行動、協調性（グループ研究のみ）忠恕の心を持ったコメント
40 %		
試験（研究発表の評価）	:	専門性として内容の妥当性・オリジナリティ、データ・先行研究の参照 実践力として論理的構成、資料の活用、発表技術、発表時間
10 %		

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

論文を完成させるために先行研究、引用参考文献など合わせて10本以上を自ら用意する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は平均すると毎日4時間の授業外学修が求められる。なお、その他に約90時間程度の論文作成に関わる学修が求められている。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜３限

場所： 研究室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**専門演習6のガイダンスと卒業研究仕上げのポイントを学習** 専門演習の計画と諸注意を伝える。また、卒業研究を仕上げるためのポイントについて学ぶ。	研究テーマの決定、先行研究・参考文献の収集、論文構想の作成	4時間
第2回	**抄録の作成** 発表会に向け、各自の研究について抄録を作成する。	発表会に向け、各自の研究について抄録を作成する	4時間
第3回	**研究テーマに関する予備調査の検討** 調査方法、調査対象、その妥当性について検討する。	調査方法、調査対象、その妥当性について検討する	4時間
第4回	**研究テーマに関する調査資料の作成** 調査を実施するための資料を完成させる。	調査を実施するための資料を完成させる	4時間
第5回	**研究テーマに関する予備調査の実施** 各自の研究に関する予備調査を実施する。	各自の研究に関する予備調査を実施する	4時間
第6回	**研究テーマに関する予備調査の回収・集計および仮説の検討** 各自の研究に関する予備調査の結果をもとに仮説を立てる。	各自の研究に関する予備調査の結果をもとに仮説を立てる	4時間
第7回	**研究テーマに関する本調査の検討** 調査方法、調査対象、その妥当性について検討する。	調査方法、調査対象、その妥当性について検討する	4時間
第8回	**卒業研究前期中間発表会** 卒業研究前期中間発表会を行う。	卒業研究前期中間発表の準備を行う	4時間
第9回	**卒業研究前期中間発表会の振り返り** ゼミ内において発表会での振り返りを行い、適宜修正を加えていく。	ゼミ内において発表会での振り返りを行い、適宜修正を加えていく	4時間
第10回	**研究テーマに関する本調査の実施** 各自の研究に関する本調査を実施する。	各自の研究に関する本調査を実施する	4時間
第11回	**研究テーマに関する本調査の回収・集計・分岐** 研究テーマに関する本調査の回収・集計・分析を行う。	研究テーマに関する本調査の回収・集計・分析を行う	4時間
第12回	**研究テーマに関する本調査の考察** 研究テーマに関する本調査の考察を行う。	研究テーマに関する本調査の考察を行う	4時間
第13回	**期末発表会に向けての準備** 期末発表会に向けての準備でパワーポイントを作成する。	期末発表会に向けてパワーポイントを作成する	4時間
第14回	**卒業研究発表会** 卒業研究発表会を実施する。	卒業研究後期期末発表会の準備を行う	4時間

234

授業科目名	専門演習６【スポーツ】				
担当教員名	田村匡				
学年・コース等	4年	開講期間	後期	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	スポーツイベントやスポーツ施設、スポーツマネジメントに係る組織、資金、運営方法等について業務として取り組んできた。（全１４回）				

授業概要

スポーツビジネスに関する諸問題について学術的な知見を持ちながら、各自の研究テーマにあわせて研究を実践していきます。卒業論文にむけて先行研究等を収集し、仮説を設定し、調査を実施していきます。また、田村研究室では、スポーツイベントやスポーツ施設、スポーツ組織等を中心とした課題について、各自の関心や問題意識より、卒業論文及び企画書の作成にむけた演習をすすめます。各自が主体的に情報収集、事例研究、アンケート調査などを行います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	スポーツイベント・施設・組織等の専門知識とスキルの習得	専門知識と理解
2. DP３.環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	スポーツビジネスの環境の変化に適応し、解決方策を立案する	具体的なスポーツビジネスに関する解決策を自分で立案することができる
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		研究の課題発見
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		研究課題の計画の立案を行う
3. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		発表などの実践力を身に付ける

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
論文・企画書の評価	40 ％	： 専門性としてテーマの妥当性、内容の妥当性・論点の明確さ、データと先行研究の参照、独自性・社会的意義 実践力として論理的構成、文章の体裁、表現の推敲、研究の完遂 忠恕として不適切な内容
研究過程の評価	40 ％	： 取り組む姿勢として意思疎通、自発的行動、協調性（グループ研究のみ）忠恕の心を持ったコメント

研究発表の評価 : 専門性として内容の妥当性・オリジナリティ、データ・先行研究の参照 実践力として論理的構成、資料の活用、発表技術、発表時間 協調性、質疑応答 忠恕として不適切な内容

10 %

期末レポート : 授業終了後のレポート

10 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

論文を完成させるために先行研究、引用参考文献など合わせて10本以上を自ら用意する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
なお、その他に約90時間程度の論文作成に関わる学修が必要になります。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日2限目

場所： 個人研究室

備考・注意事項： メールにて質問してください。オフィスにこられる場合、予約ください。tamura-t@osaka-seikei.ac.jp

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス及び卒論記述に向けての案内** 専門演習6の計画と諸注意を伝える。また、卒業研究を仕上げるポイントについて学ぶ。	先行研究・参考文献の収集、調査の実施、論文構想の作成	4時間
第2回	**卒業研究後期中間発表会（発表リハーサル）** 卒業研究後期中間発表会へ向けて、発表資料を基に発表のリハーサルを行う。それ後相互にチェックし、発表方法、内容、仕方を練り上げる。	卒業研究後期中間発表の資料作成、準備を行う	4時間
第3回	**卒業研究後期中間発表会実施** 卒業研究後期中間発表会の実施	卒業研究後期中間発表のプレゼンテーションに向けた準備を行う	4時間
第4回	**研究内容に関する指摘を受けた修正** 卒業研究後期中間発表にて受けた指摘をふまえ、研究内容、目的、方法等を修正する。	研究内容、目的、方法等の修正を行う	4時間
第5回	**論文関係作業の実施（追加の資料収集と調査１）** 仮説の設定等ののち追加の資料収集と調査を実施していく。また研究結果を最終的にまとめる作業を行う。	追加の資料収集等を行う	4時間
第6回	**卒業研究の完成に向けた作業実施（素案）** 卒業研究の関係に向け、記述関連作業を実施する。素案を書き上げる。	一旦、素案をまとめる。	4時間
第7回	**卒業研究の完成に向けた作業実施（素案修正１）** 卒業研究の完成に向け、作業を実施しつつ、素案を修正する。	主査、副査の指摘を受けて、素案を修正する	4時間
第8回	**論文関係作業の実施（追加の資料収集と調査２）** 追加資料収集と調査を引き続き行う。その論文の中の位置付け等について推敲を行う。	追加資料収集と調査の実施	4時間
第9回	**卒業研究の完成に向けた作業実施（素案修正2）** 卒業研究の完成に向け、作業を実施しつつ、素案を修正する。	主査、副査の指摘を受けて、素案を修正する	4時間
第10回	**論文関係作業の実施（追加の資料収集と調査３）** 再度、追加資料収集と調査を引き続き行う。その論文の中の位置付け等について推敲を行う。	追加資料収集と調査の実施	4時間
第11回	**卒業研究の完成に向けた作業実施（卒論1次稿アップ）** 一旦、卒業論文の全体を書き上げてみる。1次稿としてアップし、主査・副査の意見を聞いて修正を加えていく。	卒業論文の記述等、完成に向けた作業実施	4時間
第12回	**卒業研究の完成に向けた作業実施（卒論2次稿アップ）** 主査・副査の意見等を聞きながら修正し、より内容を高度化させた2次稿を書き上げる。	卒業論文の記述等、完成に向けた作業実施	4時間
第13回	**卒業研究最終発表会・公聴会に向けた準備作業** 卒業論文を完成させるとともに、卒業研究最終発表会・公聴会に向けた発表資料作成、プレゼンテーションの練習等の準備作業を行う。	発表会・公聴会に向けた資料作成、プレゼンテーションの練習等	4時間
第14回	**卒業研究最終発表会・公聴会実施**	発表会・公聴会に向けた資料作成、プレゼンテーションの練習等	4時間

卒業研究最終発表会・公聴会にてプレゼンテーションを行う。		

234

授業科目名	専門演習６【スポーツ】				
担当教員名	林悠太				
学年・コース等	4年	開講期間	後期	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

スポーツマネジメントに関する諸問題について、学術的な知見を持ちながら、各自の研究テーマへのアプローチ法を整理し、研究計画の作成とプレゼンテーションを行います。また、研究を進めていく過程で、先行研究を概観し、リサーチギャップを明確化することを重要視します。これによってオリジナリティのある研究を目指します。そのうえで、調査手法の選定、データの取得および分析を行います。
必要に応じてオンラインによる指導も併行する予定です。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.スポーツ産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	文献、先行研究を通して、基礎知識を習得する。	幅広い教養やスキルを身につける。
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	専門的知識、研究手法を学ぶ。	専門的知識を獲得する。
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		自ら研究課題を発見する。
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		自ら研究計画を立案する。
3. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		計画に基づいて、実際に研究を進める。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
論文・企画の評価	50 %	： テーマ選定が研究課題に対して適切であるかどうか、データや先行研究が参照できているかどうか、論理的構成、文章の体裁を評価する。
研究過程の評価	40 %	： 研究に取り組む姿勢、自主性、グループでの活動においては協調性を評価する。
研究発表の評価	10 %	： 自身の研究について、論理的に、資料にもとづいて発表ができていることを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業のなかで適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜２限

場所： 西棟2階　研究室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**オリエンテーション：卒業論文執筆計画立案** ゼミの目的や進め方を確認する。卒業論文執筆の具体的な計画を作成する。	スケジュールの検討	4時間
第２回	**本調査のまとめ** 本調査の結果をまとめ、議論する。	本調査の結果のまとめ・復習	4時間
第３回	**論文構成の検討** 本調査の結果をもとに、論文の構成を作成する。	論文構成の作成	4時間
第４回	**論文構成の修正** 議論をもとに、論文の構成を修正する。	論文構成の作成・修正	4時間
第５回	**卒業論文の作成（結果・考察）** 研究結果について考察し、執筆する。	論文の執筆	4時間
第６回	**卒業論文の作成（先行研究検討）** 先行研究と比較し、自身の卒業研究のオリジナリティを明らかにする。	論文の執筆	4時間
第７回	**中間発表会用の資料作成** ゼミ内での議論をふまえて、中間発表会用の資料を完成させる。	資料の作成	4時間
第８回	**卒業研究中間発表会** 卒業研究中間発表会をおこなう。	発表会の復習	4時間
第９回	**中間発表会の振り返り** 発表会での議論をもとに、論文に修正を加える。	論文の修正	4時間
第１０回	**卒業論文の作成（研究目的）** 研究の目的を確認し、序論にあたる部分を執筆する。	論文の執筆	4時間
第１１回	**卒業論文の作成（全体のまとめ）** まとめの部分まで執筆し、おおまかに完成させ、主査・副査からコメントをもらう。	形式、執筆規定の確認	4時間
第１２回	**卒業論文の作成（修正・確認）** 副査のコメントに従い、修正をおこなう。	論文の修正	4時間
第１３回	**卒業論文公聴会の準備** 卒業論文公聴会に向けて、発表資料を準備する。	資料の作成	4時間
第１４回	**卒業論文公聴会** 卒業論文について、発表する。	プレゼン資料の修正、質疑応答の準備。	4時間

234

授業科目名	専門演習６【スポーツ】				
担当教員名	鳥山稔				
学年・コース等	4年	開講期間	後期	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

スポーツマネジメントに関する諸問題について学術的な知見を持ちながら、各自が3年次に作成した研究計画をもとに、卒業研究の執筆を進める。また、既存の研究にはない独自のアプローチ法を考え、自身の研究アイデアを形にする。加えて、研究を進めていく上で関連研究の調査、アイデアの出し方について学び、各自の研究へ実践する。鳥山研究室では、スポーツが生み出す価値をテーマに、プロスポーツ、eスポーツ、地域スポーツに関連した課題について理解を深めます。独自の観点から問題意識を持ち、卒業研究に取り組む事で、主体性や論理的思考等を身につける事が出来ます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.スポーツ産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	スポーツの価値についての教養を身につける	スポーツについて深い知識を得る
2. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	卒業論文執筆を通して専門知識を習得する	卒業研究を通して深い知識を得る
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		研究の課題発見
2. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		研究課題の計画の立案を行う
3. DP６.課題解決への主体的・積極的な取組み		発表などの実践力を身に付ける

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
試験（論文・企画書）	50 %	： 内容の妥当性、エビデンスの適正性と充実度、独自性・社会的意義、論理的構成、文章の体裁によって評価
研究過程の評価	40 %	： 研究計画を作成する上で十分にコミュニケーションが取れているか、自発的に研究に取り組んだかを評価
研究発表の評価		： スライド資料の見せ方、発表技術を評価

10　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

卒業研究執筆に必要な文献を適宜確認する

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　木曜日　3限

場所：　研究室　西館2階

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	ガイダンス 夏季休暇中での卒業研究の進捗確認と今後のスケジュールを立案する	研究の進捗を報告できるよう自身の研究を整理する	4時間
第2回	ゼミ内発表会の準備 現在までの進捗を整理し、スライドにまとめる	研究の進捗を報告できるよう自身の研究を整理する	4時間
第3回	ゼミ内発表会 学科の中間発表を想定し、ゼミ内で発表会を実施する	研究の進捗を報告できるよう自身の研究を整理する	4時間
第4回	論文の執筆作業（体裁等の確認） 論文の体裁、表記方法、AIの活用方法・禁止事項を共有する	研究ガイドラインを確認し、自身の研究を見直す	4時間
第5回	論文の執筆作業（調査概要の執筆） 前期に作成した調査計画書をもとに論文を執筆する	調査計画書を再確認する	4時間
第6回	論文の執筆作業（結果の執筆） 前期に実施した調査結果をもとに論文を執筆する	調査結果を再確認する	4時間
第7回	論文の執筆作業（先行研究の確認） 授業中に最低2本の先行研究を整理し、論文へ反映させる	先行研究を確認する	4時間
第8回	卒業研究中間発表会の準備 発表内容の整理・確認および発表資料を作成し、リハーサルを行う。	スライドの修正や発表時間などを確認する。	4時間
第9回	卒業研究後期中間発表会 中間発表を行う。	副査の先生から貰ったコメント、指摘について再考する	4時間
第10回	論文の執筆作業（考察①） 結果をもとに考察を作成する	研究目的、研究結果を確認する。	4時間
第11回	論文の執筆作業（考察②） 10回で作成した考察を批判的に確認し、修正を行う	研究目的、研究結果を確認する。	4時間
第12回	論文の執筆作業（結論、研究課題） 結論、研究課題を執筆する	研究結果、先行研究を確認する	4時間
第13回	論文の執筆作業（最終確認） 文字数の規定、誤字脱字、論文の体裁等、確認し、修正を加える	作成した論文の内容を確認する	4時間
第14回	卒業研究期末発表会 公聴会（卒業研究期末発表会）を行う。	卒業研究後期期末発表会の準備を行う。	4時間